

## 目次（保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻）

	ページ
I-1. カリキュラムマップ／ナンバリングコード／教育課程等の概要（理学療法学専攻）	1
I-2. カリキュラムマップ／ナンバリングコード／教育課程等の概要（作業療法学専攻）	9
II-1. 授業科目の概要（理学療法学専攻）	17
II-2. 授業科目の概要（作業療法学専攻）	29
III. 総合教育科目	41
IV. 専門基礎科目・専門科目	93
V. 自由科目	331

授業科目の名称	ページ
コミュニケーション論	43
チーム医療論	44
英語 I	45
英語 II	47
英語 III	49
中国語	51
韓国語	53
文学	55
教育学	57
文化人類学	58
国際関係論	59
国際保健医療論	60
音楽論	61
社会福祉論	63
障害者スポーツ	64
レクリエーションスポーツ	66
情報リテラシー	68
研究法入門	70
公衆衛生学	72
保健行政論	73
法学（含日本国憲法）	74
生物学	76
物理学	78
生化学	80
環境論	81
放射線概論	82
哲学	83
倫理学	84
社会学	85
心理学	87
発達心理学	89
ボランティア学	90
生命倫理学	91
解剖学 I（骨・筋）	95
解剖学 II（神経）	97
解剖学 III（内臓器）	99
解剖学実習	100
生理学 I	103
生理学 II	105
生理学演習	107

授業科目の名称	ページ
基礎運動学	109
運動機能学	111
運動学演習	113
人間発達学	115
運動生理学	117
リハビリテーション栄養学	118
臨床薬理学	120
臨床心理学	122
病理学	124
内科学 I	126
内科学 II	128
整形外科学 I	130
整形外科学 II	132
精神医学 I	134
神経内科学	136
小児科学	138
脳神経外科学	140
リハビリテーション医学	142
一般臨床医学	144
老年医学概論	145
救命救急学概論	147
リハビリテーション概論	148
医療制度と関連法規	150
終末期医療論	151
理学療法教養基礎	152
理学療法概論	154
理学療法概論演習	156
臨床運動学	157
統計学	159
理学療法学研究法	161
理学療法研究法演習	162
理学療法卒業研究	163
理学療法管理学 I	164
理学療法管理学 II	165
検査測定学概論	166
検査測定学演習	168
運動器系検査測定学	170
神経系検査測定学	172
動作解析学	174
クリニカルリーズニング論	176

授業科目の名称	ページ
運動療法学概論	178
運動療法学基礎演習	180
運動器系理学療法学	182
運動器系理学療法学演習	184
神経系理学療法学	186
神経系理学療法学演習	188
発達系理学療法学	190
老年期理学療法学	192
呼吸・循環系理学療法学	193
呼吸・循環系理学療法学演習	195
代謝系理学療法学	197
物理療法学	199
物理療法学演習	201
日常生活活動学	203
日常生活活動学演習	205
義肢装具学 I	207
義肢装具学 II	209
理学療法対象者行動論	211
高次脳障害学	212
理学療法特論 I	214
理学療法特論 II	215
司法精神科作業療法	216
生活支援機器論	217
地域高齢者支援論	219
徒手療法	220
ウーマンズヘルスケア	222
スポーツ理学療法学	223
地域理学療法学	224
地域理学療法学演習	226
バリアフリー	228
リハビリテーション工学	229
見学実習（理学療法）	230
評価学実習	231
地域リハビリテーション実習 （理学療法）	232
総合臨床実習 I（理学療法）	233
総合臨床実習 II（理学療法）	234
障がい者スポーツ概論	333

## 目次 (保健医療学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻)

	ページ
I-1. カリキュラムマップ/ナンバリングコード/教育課程等の概要 (理学療法学専攻)	1
I-2. カリキュラムマップ/ナンバリングコード/教育課程等の概要 (作業療法学専攻)	9
II-1. 授業科目の概要 (理学療法学専攻)	17
II-2. 授業科目の概要 (作業療法学専攻)	29
III. 総合教育科目	41
IV. 専門基礎科目・専門科目	93

授業科目の名称	ページ
コミュニケーション論	43
チーム医療論	44
英語 I	45
英語 II	47
英語 III	49
中国語	51
韓国語	53
文学	55
教育学	57
文化人類学	58
国際関係論	59
国際保健医療論	60
音楽論	61
社会福祉論	63
障害者スポーツ	64
レクリエーションスポーツ	66
情報リテラシー	68
研究法入門	70
公衆衛生学	72
保健行政論	73
法学 (含日本国憲法)	74
生物学	76
物理学	78
生化学	80
環境論	81
放射線概論	82
哲学	83
倫理学	84
社会学	85
心理学	87
発達心理学	89
ボランティア学	90
生命倫理学	91
解剖学 I (骨・筋)	95
解剖学 II (神経)	97
解剖学 III (内臓器)	99
解剖学実習	100
生理学 I	103
生理学 II	105
生理学演習	107
運動学 I	235
運動学 II	237
運動学演習 (応用)	239
人間発達学	115
リハビリテーション栄養学	118
臨床薬理学	120

授業科目の名称	ページ
臨床心理学	122
病理学	124
内科学 I	126
内科学 II	128
整形外科 I	130
整形外科 II	132
精神医学 I	134
精神医学 II	241
神経内科学	136
小児科学	138
脳神経外科学	140
リハビリテーション医学	142
一般臨床医学	144
老年医学概論	145
救命救急学概論	147
リハビリテーション概論	148
医療制度と関連法規	150
終末期医療論	151
作業療法基礎 I A	243
作業療法基礎 I B	244
作業療法基礎 II A	245
作業療法基礎 II B	247
作業療法基礎 III A	249
作業療法基礎 III B	250
作業療法概論	252
作業療法理論	254
基礎作業学	256
作業技術学 I (レクリエーション・革細工)	257
作業技術学 II (陶芸・織物)	259
作業技術学 III (手工芸)	261
作業分析学	263
統計学	265
作業療法研究法	267
作業療法研究法演習	269
作業療法管理・運営 I	271
作業療法管理・運営 II	272
作業療法評価学概論	273
作業療法評価学 (身体 I)	274
作業療法評価学 (身体 II)	276
作業療法評価学 (精神)	278
作業療法評価学総合演習	280
身体障害作業療法学 I (総論・中枢神経系)	282
身体障害作業療法学 II (整形外科系・変性疾患)	284
身体障害作業療法学 III (応用)	286

授業科目の名称	ページ
精神障害作業療法学 I (総論)	288
精神障害作業療法学 II (各論)	290
発達障害作業療法学 I (総論)	292
発達障害作業療法学 II (各論)	294
老年期作業療法学 I (総論)	296
老年期作業療法学 II (各論)	298
高次脳機能障害作業療法学 I (総論)	300
高次脳機能障害作業療法学 II (各論)	302
日常生活支援論 I (総論)	303
日常生活支援論 II (各論)	305
義肢装具学	307
クリニカルリハビリテーション	309
作業療法特論 I (身体障害)	310
作業療法特論 II (精神障害)	311
作業療法特論 III (生涯発達)	312
作業療法特論 IV (がん)	314
作業療法特論 V (高次脳機能障害)	315
作業療法研究	316
作業療法学総合講義	317
司法精神科作業療法	216
生活支援機器論	217
地域高齢者支援論	218
徒手療法	219
ウーマンズヘルスケア	220
スポーツ理学療法学	221
地域作業療法学 I (総論)	318
地域作業療法学 II (老年期障害)	320
地域作業療法学 III (精神障害)	322
地域作業療法学 IV (身体障害・発達障害)	324
見学実習 (作業療法)	326
地域リハビリテーション実習 (作業療法)	327
評価実習	328
総合臨床実習 I (作業療法)	329
総合臨床実習 II (作業療法)	330

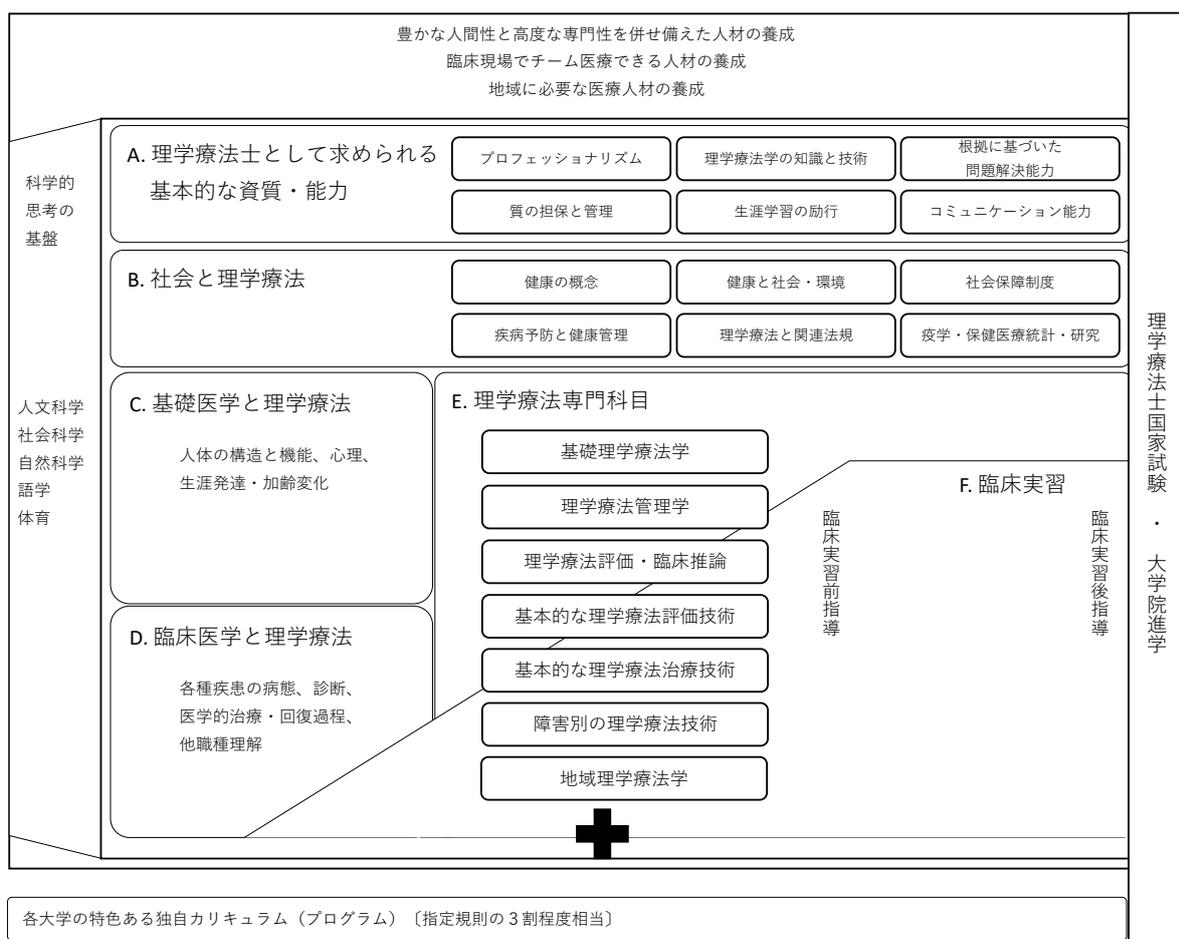
I-1. カリキュラムマップ  
ナンバリングコード  
教育課程等の概要  
(理学療法学専攻)



## 理学療法学教育モデル・コア・カリキュラムに基づく 理学療法学専攻カリキュラム・マップ

保健医療学部 ディプロマポリシー (DP)

- 1) 看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。
- 2) 科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。
- 3) 相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。
- 4) 保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。
- 5) 幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。
- 6) 卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。



1年    ⇒    2年    ⇒    3年    ⇒    4年

保健医療学部 リハビリテーション学科 授業科目ナンバリングコード

理学療法学専攻

部局コード

H	保健医療学部
---	--------

学科コード（教育課程）

NS	看護学科
PT	理学療法学専攻
OT	作業療法学専攻
CO	共通科目

理学コアカリコード

A	理学療法士として求められる基本的な資質・能力
B	社会と理学療法
C	基礎医学と理学療法
D	臨床医学と理学療法
E	理学療法専門科目
F	臨床実習
O	大学独自のカリキュラム

水準コード（新ブルームタキソノミー）

1	記憶（Remembering）、理解（Understanding）
2	応用（Applying）
3	分析（Analyzing）、創造（Creating）

作業療法学専攻

部局コード

H	保健医療学部
---	--------

学科コード（教育課程）

NS	看護学科
PT	理学療法学専攻
OT	作業療法学専攻
CO	共通科目

作業コアカリコード

A	作業療法士として求められる基本的な資質・能力
B	社会と作業療法
C	基礎医学
D	臨床医学
E	作業療法実践の基礎となる専門知識
F	作業療法実践に必要な専門知識
G	臨床実習
H	作業療法学研究
O	大学独自のカリキュラム

水準コード（新ブルームタキソノミー）

1	記憶（Remembering）、理解（Understanding）
2	応用（Applying）
3	分析（Analyzing）、創造（Creating）

教育課程等の概要																						
(保健医療学部リハビリテーション学科理学療法専攻 2020年度以降入学者)																						
科目区分	授業科目の名称	単位数			授業形態			総時間	配当年次・学期・単位								授業科目ナンバリング				卒業要件	
		必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		1年次		2年次		3年次		4年次		前期コード	後期コード	理学療法士コード	理学療法士コード		理学療法士コード
									前	後	前	後	前	後	前	後						
総合教育科目	人間とコミュニケーション	コミュニケーション論	1			○		15	1								H	CO	A	1		
	チーム医療論	1				○		30							1		H	CO	O	2		
	英語 I	1				○		30	1								H	CO	A	1		
	英語 II	1				○		30			1						H	CO	A	1		
	英語 III		1			○		30				1					H	CO	A	2		
	中国語		1			○		30	1								H	CO	A	1		
	韓国語		1			○		30	1								H	CO	A	1		
	人間と文化	文学		1			○		15	1							H	CO	O	1		
	教育学		1				○		15		1						H	CO	O	1		
	文化人類学		1				○		15	1							H	CO	B	1		
	国際関係論		1				○		15	1							H	CO	B	1		
	国際保健医療論		1				○		15		1						H	CO	B	2		
	音楽論		1				○		30	1							H	CO	O	1		
	人間と健康	社会福祉論	1				○		15				1				H	CO	B	1		
	障害者スポーツ			1			○		30	前・後1							H	CO	O	1		
	レクリエーションスポーツ			1			○		30	前・後1							H	CO	O	1		
	人間と情報	情報リテラシー		1			○		30	1							H	CO	B	2		
	研究法入門		2				○		30		2						H	CO	A	1		
	人間と環境	公衆衛生学	1				○		15			1					H	CO	B	1		
	保健行政論		1				○		15			1					H	CO	B	1		
	法学(含日本国憲法)		2				○		30	2							H	CO	B	1		
	生物学		2				○		30	2							H	CO	C	1		
	物理学		2				○		30	2							H	CO	C	1		
	生化学		1				○		15		1						H	CO	C	1		
	環境論		1				○		15	1							H	CO	B	2		
	放射線概論		1				○		15		1						H	CO	C	1		
	人間の本质と尊厳	哲学		1			○		15		1						H	CO	O	1		
	倫理学			1			○		15	1							H	CO	A	1		
	社会学		2				○		30		2						H	CO	B	1		
	心理学		2				○		30	2							H	CO	C	1		
	発達心理学			1			○		15		1						H	CO	C	1		
	ボランティア学		1				○		15	1							H	CO	O	1		
	生命倫理学		1				○		15		1						H	CO	A	1		
小計(33科目)		11	28	0		—																
専門基礎科目	人体の構造と機能および心身の発達	解剖学 I (骨・筋)	1			○		30	1								H	PT	C	1		
	解剖学 II (神経)	1				○		30	1								H	PT	C	1		
	解剖学 III (内臓器)	1				○		15		1							H	PT	C	1		
	解剖学実習	2					○	90			2通						H	PT	C	2		
	生理学 I	1				○		30	1								H	PT	C	1		
	生理学 II	1				○		30		1							H	PT	C	1		
	生理学演習	2					○	60			2						H	PT	C	2		
	基礎運動学	1				○		30		1							H	PT	C	1		
	運動機能学	1				○		30			1						H	PT	C	1		
	運動学演習	1					○	30				1					H	PT	C	2		
	人間発達学	1				○		30		1							H	PT	C	1		
	運動生理学	1				○		15		1							H	PT	C	2		
	小計(12科目)		14	0	0		—															

必修  
11単位  
+  
選択16単位  
以上、  
計27単位  
以上  
取得すること

必修  
34単位  
取得すること

教育課程等の概要

(保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻 2020年度以降入学者)																						
科目区分	授業科目の名称	単位数			授業形態			総時間	配当年次・学期・単位								卒業要件					
		必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		1年次		2年次		3年次		4年次			前期	後期	前期	後期	
									前	後	前	後	前	後	前	後						
専門基礎科目	リハビリテーション栄養学	1			○			30			1							H	PT	C	1	
	臨床薬理学	1			○			30				1						H	PT	C	1	
	臨床心理学	1			○			30			1							H	PT	C	2	
	病理学	1			○			30			1							H	PT	D	2	
	内科学Ⅰ	1			○			30			1							H	PT	D	2	
	内科学Ⅱ	1			○			30				1						H	PT	D	2	
	整形外科Ⅰ	1			○			30			1							H	PT	D	2	
	整形外科Ⅱ	1			○			30				1						H	PT	D	2	
	精神医学Ⅰ	1			○			30			1							H	PT	D	1	
	神経内科学	1			○			30				1						H	PT	D	2	
	小児科学	1			○			30			1							H	PT	D	2	
	脳神経外科学	1			○			30				1						H	PT	D	2	
	リハビリテーション医学	1			○			30	1									H	PT	D	2	
	一般臨床医学	1			○			15				1						H	PT	D	2	
	老年医学概論	1			○			30					1					H	PT	D	1	
	救命救急概論	1			○			15						1				H	PT	C	1	
小計(16科目)		16	0	0																		
シラバス の 更新 と 見直し	リハビリテーション概論	2			○			30	2									H	PT	C	1	
	医療制度と関連法規	1			○			15		1								H	PT	B	1	
	終末期医療論	1			○			15				1						H	PT	C	1	
小計(3科目)		4	0	0																		
専門科目	理学療法教養基礎	2				○		30	2									H	PT	A	1	
	理学療法概論	1			○			30	1									H	PT	E	1	
	理学療法概論演習	1				○		15		1								H	PT	E	2	
	臨床運動学	1			○			30			1							H	PT	E	2	
	統計学	1			○			30	1									H	PT	A	2	
	理学療法学研究法	1			○			15				1						H	PT	E	2	
	理学療法研究法演習	1				○		30					1					H	PT	E	2	
	理学療法卒業研究	4				○		120							4通			H	PT	E	2	
	小計(8科目)		12	0	0																	
	理学療法学	理学療法管理学Ⅰ	1			○			15				1						H	PT	E	2
		理学療法管理学Ⅱ	1			○			15					1					H	PT	E	2
	小計(2科目)		2	0	0																	
	理学療法評価学	検査測定学概論	1			○			30		1								H	PT	E	2
		検査測定学演習	1				○		30			1							H	PT	E	2
		運動器系検査測定学	1			○			30				1						H	PT	E	2
		神経系検査測定学	1			○			30			1							H	PT	E	2
動作解析学		1			○			30					1					H	PT	E	2	
クリニカルリーズニング論		1			○			30						1				H	PT	E	2	
小計(6科目)		6	0	0																		

必修  
34単位  
取得すること

必修  
63単位  
+  
選択3単位  
以上(専門共通  
2単位以上、地  
域理学療法学1  
単位以上)、  
計66単位  
以上  
取得すること

教育課程等の概要																									
(保健医療学部リハビリテーション学科理学療法専攻 2020年度以降入学者)																									
科目区分	授業科目の名称	単位数			授業形態			総時間	配当年次・学期・単位								授業科目ナンバリング				卒業要件				
		必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		1年次		2年次		3年次		4年次		前期	後期	前期	後期		H	PT	E	2
									前	後	前	後	前	後	前	後									
専門科目 理学療法治療学	運動療法学概論	1			○		30		1										H	PT	E	2	必修 63単位 以上(専門共通 2単位以上、地 域理学療法1 単位以上)、  計66単位 以上 取得すること		
	運動療法学基礎演習	1				○	30			1									H	PT	E	2			
	運動器系理学療法	1			○		30					1							H	PT	E	2			
	運動器系理学療法演習	1				○	30						1						H	PT	E	2			
	神経系理学療法	1			○		30					1							H	PT	E	2			
	神経系理学療法演習	1				○	30						1						H	PT	E	2			
	発達系理学療法	1			○		30					1							H	PT	E	2			
	老年期理学療法	1			○		15					1							H	PT	E	2			
	呼吸・循環系理学療法	1			○		30					1							H	PT	E	2			
	呼吸・循環系理学療法演習	1				○	30						1						H	PT	E	2			
	代謝系理学療法	1			○		15					1							H	PT	E	2			
	物理療法学	1			○		30				1								H	PT	E	2			
	物理療法学演習	1				○	30					1							H	PT	E	2			
	日常生活活動学	1			○		30				1								H	PT	E	2			
	日常生活活動学演習	1				○	30					1							H	PT	E	2			
	義肢装具学Ⅰ	1			○		30					1							H	PT	E	2			
	義肢装具学Ⅱ	1				○	30						1						H	PT	E	2			
理学療法対象者行動論	1			○		15					1							H	PT	E	2				
高次脳障害学	1			○		30					1							H	PT	E	2				
理学療法特論Ⅰ	1			○		15						1						H	PT	E	2				
理学療法特論Ⅱ	1			○		15							1					H	PT	E	2				
小計(21科目)		21	0	0		—																			
専門科目 専門共通	司法精神科作業療法		1		○		15						1					H	PT	E	2	計66単位 以上 取得すること			
	生活支援機器論		1		○		15					1						H	PT	E	2				
	地域高齢者支援論		1		○		15					1						H	PT	E	2				
	徒手療法		1		○		15					1						H	PT	E	2				
	ウーマンズヘルスクエア		1		○		15					1						H	PT	E	2				
	スポーツ理学療法		1		○		15						1					H	PT	E	2				
	小計(6科目)		0	6	0		—																		
	専門科目 地域理学療法	地域理学療法	1			○		30			1								H	PT	E		2		
		地域理学療法演習	1				○	30				1							H	PT	E		2		
		バリアフリー		1		○		15					1						H	PT	E		2		
リハビリテーション工学			1		○		15						1					H	PT	E	2				
小計(4科目)		2	2	0		—																			
臨床実習	見学実習(理学療法)	1				○	40	1										H	PT	F	1				
	評価実習	4				○	160					4						H	PT	F	3				
	地域リハビリテーション実習(理学療法)	1				○	40					1						H	PT	F	3				
	総合臨床実習Ⅰ(理学療法)	7				○	280						7					H	PT	F	3				
	総合臨床実習Ⅱ(理学療法)	7				○	280						7					H	PT	F	3				
小計(5科目)		20	0	0		—																			
合計(116科目)		108	36	0		—																			
学位又は称号								保健衛生学関係 (リハビリテーション関係)																	
卒業要件及び履修方法								授業期間等																	
卒業要件は、必修科目108単位、選択科目19単位以上、合計127単位以上を修得していること。選択科目の内訳は、総合教育科目から16単位以上、専門科目の専門共通から2単位以上、専門科目の地域理学療法から1単位以上とする。								1学年の学期区分				2期													
								1学期の授業期間				15週													
								1時限の授業時間				90分													



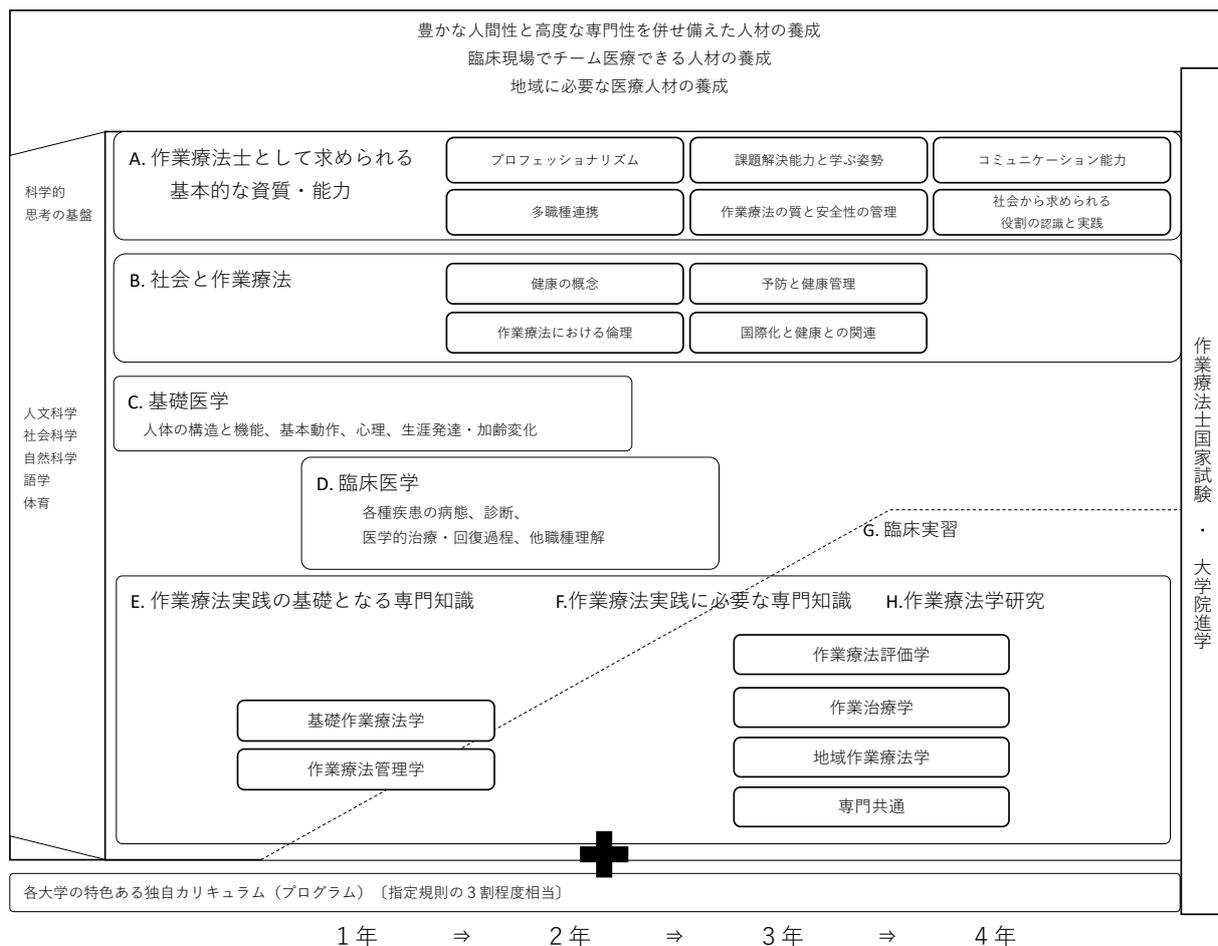
I-2. カリキュラムマップ  
ナンバリングコード  
教育課程等の概要  
(作業療法学専攻)



## 作業療法士養成教育モデル・コア・カリキュラムに基づく 作業療法学専攻カリキュラム・マップ

保健医療学部 ディプロマポリシー (DP)

- 1) 看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。
- 2) 科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。
- 3) 相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。
- 4) 保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。
- 5) 幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。
- 6) 卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。



保健医療学部 リハビリテーション学科 授業科目ナンバリングコード

理学療法学専攻

部局コード

H	保健医療学部
---	--------

学科コード（教育課程）

NS	看護学科
PT	理学療法学専攻
OT	作業療法学専攻
CO	共通科目

理学コアカリコード

A	理学療法士として求められる基本的な資質・能力
B	社会と理学療法
C	基礎医学と理学療法
D	臨床医学と理学療法
E	理学療法専門科目
F	臨床実習
O	大学独自のカリキュラム

水準コード（新ブルームタキソノミー）

1	記憶（Remembering）、理解（Understanding）
2	応用（Applying）
3	分析（Analyzing）、創造（Creating）

作業療法学専攻

部局コード

H	保健医療学部
---	--------

学科コード（教育課程）

NS	看護学科
PT	理学療法学専攻
OT	作業療法学専攻
CO	共通科目

作業コアカリコード

A	作業療法士として求められる基本的な資質・能力
B	社会と作業療法
C	基礎医学
D	臨床医学
E	作業療法実践の基礎となる専門知識
F	作業療法実践に必要な専門知識
G	臨床実習
H	作業療法学研究
O	大学独自のカリキュラム

水準コード（新ブルームタキソノミー）

1	記憶（Remembering）、理解（Understanding）
2	応用（Applying）
3	分析（Analyzing）、創造（Creating）

教育課程等の概要																					
(保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻 2020年度以降入学者)																					
科目 区分	授業科目の名称	単位数			授業形態			総時間	配当年次・学期・単位								授業科目ナンバリング				卒業要件
		必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		1年次		2年次		3年次		4年次		部局 コード	学科 コード	理学 コアカリ コード	(本専 コード)	
									前	後	前	後	前	後	前	後					
総合 教育 科目	人間とコミュニケーション	コミュニケーション論	1			○		15	1							H	CO	A	1		
		チーム医療論	1			○		30						1		H	CO	O	2		
		英語 I	1			○		30	1							H	CO	A	1		
		英語 II	1			○		30			1					H	CO	A	1		
		英語 III		1		○		30				1				H	CO	A	2		
		中国語		1		○		30	1							H	CO	A	1		
		韓国語		1		○		30		1						H	CO	A	1		
	人間と文化		文学		1		○		15	1							H	CO	O	1	
			教育学		1		○		15		1						H	CO	O	1	
			文化人類学		1		○		15	1							H	CO	B	1	
			国際関係論		1		○		15	1							H	CO	B	1	
			国際保健医療論		1		○		15		1						H	CO	B	2	
			音楽論		1		○		30		1						H	CO	O	1	
	人間と健康		社会福祉論	1			○		15				1				H	CO	B	1	
			障害者スポーツ		1		○		30		前・後1						H	CO	O	1	
			レクリエーションスポーツ		1		○		30		前・後1						H	CO	O	1	
	人間と情報		情報リテラシー		1		○		30	1							H	CO	B	2	
			研究法入門	2			○		30		2						H	CO	A	1	
	人間と環境		公衆衛生学	1			○		15			1					H	CO	B	1	
			保健行政論	1			○		15			1					H	CO	B	1	
			法学 (含日本国憲法)		2		○		30	2							H	CO	B	1	
			生物学		2		○		30	2							H	CO	C	1	
			物理学		2		○		30	2							H	CO	C	1	
			生化学		1		○		15		1						H	CO	C	1	
			環境論		1		○		15	1							H	CO	B	2	
			放射線概論		1		○		15		1						H	CO	C	1	
	人間の 本質と 尊厳		哲学		1		○		15		1						H	CO	O	1	
			倫理学		1		○		15	1							H	CO	A	1	
			社会学		2		○		30		2						H	CO	B	1	
			心理学	2			○		30	2							H	CO	C	1	
			発達心理学		1		○		15		1						H	CO	C	1	
			ボランティア学		1		○		15		1						H	CO	O	1	
			生命倫理学		1		○		15		1						H	CO	A	1	
		小計 (33科目)		11	28	0		-													
専門 基礎 科目	人体の 構造と 機能 および 心身の 発 達	解剖学 I (骨・筋)	1			○		30	1							H	OT	C	1		
		解剖学 II (神経)	1			○		30	1							H	OT	C	1		
		解剖学 III (内臓器)	1			○		15		1						H	OT	C	1		
		解剖学実習	2				○	90			2通					H	OT	C	2		
		生理学 I	1			○		30	1							H	OT	C	1		
		生理学 II	1			○		30		1						H	OT	C	1		
		生理学演習	2			○		60			2					H	OT	C	2		
		運動学 I	1			○		30			1					H	OT	C	1		
		運動学 II	1			○		30				1				H	OT	C	1		
		運動学演習 (応用)	1			○		30					1			H	OT	C	2		
		人間発達学	1			○		30		1						H	OT	C	1		
	小計 11科目		13	0	0		-														

必修  
11単位  
+  
選択16単位以  
上、  
計27単位  
以上  
取得すること

必修34単位  
取得すること

教育課程等の概要

(保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻 2020年度以降入学者)

科目区分	授業科目の名称	単位数			授業形態			総時間	配当年次・学期・単位								授業科目ナンバリング				卒業要件
		必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		1年次		2年次		3年次		4年次		部局コード	学科コード	理学コアカリキュラムコード	水単コード	
									前	後	前	後	前	後	前	後					
専門基礎科目	リハビリテーション栄養学	1			○			30			1						H	OT	C	1	必修34単位 取得すること
	臨床薬理学	1			○			30				1					H	OT	D	1	
	臨床心理学	1			○			30			1						H	OT	D	2	
	病理学	1			○			30			1						H	OT	D	2	
	内科学Ⅰ	1			○			30			1						H	OT	D	2	
	内科学Ⅱ	1			○			30				1					H	OT	D	2	
	整形外科Ⅰ	1			○			30			1						H	OT	D	2	
	整形外科Ⅱ	1			○			30				1					H	OT	D	2	
	精神医学Ⅰ	1			○			30			1						H	OT	D	2	
	精神医学Ⅱ	1			○			30				1					H	OT	D	2	
	神経内科学	1			○			30				1					H	OT	D	2	
	小児科学	1			○			30			1						H	OT	D	2	
	脳神経外科学	1			○			30				1					H	OT	D	2	
	リハビリテーション医学	1			○			30		1							H	OT	D	2	
	一般臨床医学	1			○			15				1					H	OT	D	1	
	老年医学概論	1			○			30					1				H	OT	D	1	
	救命救急学概論	1			○			15						1			H	OT	D	1	
小計 (17科目)	17	0	0			—															
保健医療学部 シミュレーションの 理念	リハビリテーション概論	2			○			30	2								H	OT	D	1	
	医療制度と関連法規	1			○			15		1							H	OT	A	1	
	終末期医療論	1			○			15					1				H	OT	D	1	
小計 (3科目)	4	0	0			—															
専門科目	作業療法基礎ⅠA	1			○			15	1								H	OT	A	1	必修61単位 + 選択5単位以上 (作業治療学 から4単位以 上、専門共通 から1単位以 上)、 計66単位 以上 取得すること
	作業療法基礎ⅠB	1			○			15	1								H	OT	G	1	
	作業療法基礎ⅡA		1		○			30	1								H	OT	C	1	
	作業療法基礎ⅡB		1		○			30		1							H	OT	C	1	
	作業療法基礎ⅢA	1			○			15				1					H	OT	D	1	
	作業療法基礎ⅢB	1			○			15				1					H	OT	F	1	
	作業療法概論	1			○			30	1								H	OT	E	1	
	作業療法理論	1			○			30				1					H	OT	E	1	
	基礎作業学	1			○			15	1								H	OT	E	1	
	作業技術学Ⅰ(レクリエーション・革細工)		1			○		30	1								H	OT	E	1	
	作業技術学Ⅱ(陶芸・織物)	1				○		30		1							H	OT	E	1	
	作業技術学Ⅲ(手工芸)		1			○		30			1						H	OT	E	1	
	作業分析学	1				○		30				1					H	OT	E	1	
	統計学	1				○		30		1							H	OT	B	1	
	作業療法研究法	1				○		30				1					H	OT	H	1	
	作業療法研究法演習	1				○		30					1				H	OT	H	2	
小計 (16科目)	12	4	0			—															
法 学 管 業 理 療	作業療法管理・運営Ⅰ	1			○			15					1				H	OT	E	1	
	作業療法管理・運営Ⅱ	1			○			15						1			H	OT	E	1	
小計 (2科目)	2	0	0			—															

教育課程等の概要																					
(保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻 2020年度以降入学者)																					
科目 区分	授業科目の名称	単位数			授業形態			総時間	配当年次・学期・単位								卒業要件				
		必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		1年次		2年次		3年次		4年次			部局コード	学科コード	理学コアカリキュラムコード	（水単）コード
									前	後	前	後	前	後	前	後					
作業療法評価学	作業療法評価学概論	1			○		15		1							H	OT	F	1		
	作業療法評価学(身体Ⅰ)	1				○	30			1						H	OT	F	2		
	作業療法評価学(身体Ⅱ)	1				○	30			1						H	OT	F	2		
	作業療法評価学(精神)	1			○		30			1						H	OT	F	2		
	作業療法評価学総合演習	1				○	15						1			H	OT	F	2		
小計(5科目)		5	0	0		-															
作業治療学	身体障害作業療法Ⅰ(総論・中枢神経系)	1			○		30				1					H	OT	F	1		
	身体障害作業療法Ⅱ(整形外科系・変性疾患)	1			○		30				1					H	OT	F	1		
	身体障害作業療法Ⅲ(応用)	1				○	30					1				H	OT	F	2		
	精神障害作業療法Ⅰ(総論)	1			○		30				1					H	OT	F	1		
	精神障害作業療法Ⅱ(各論)	1				○	30				1					H	OT	F	1		
	発達障害作業療法Ⅰ(総論)	1			○		30					1				H	OT	F	1		
	発達障害作業療法Ⅱ(各論)	1				○	30					1				H	OT	F	1		
	老年期作業療法Ⅰ(総論)	1			○		30				1					H	OT	F	1		
	老年期作業療法Ⅱ(各論)	1				○	30					1				H	OT	F	1		
	高次脳機能障害作業療法Ⅰ(総論)	1			○		30					1				H	OT	F	1		
	高次脳機能障害作業療法Ⅱ(各論)	1				○	15					1				H	OT	F	1		
	日常生活支援Ⅰ(総論)	1				○	30				1					H	OT	F	1		
	日常生活支援Ⅱ(各論)	1				○	30					1				H	OT	F	1		
	義肢装具学	1				○	30						1			H	OT	F	1		
	クリニカルリーズニング	1				○	15						1			H	OT	F	1		
	作業療法特論Ⅰ(身体障害)		1			○	15							1		H	OT	F	2		
	作業療法特論Ⅱ(精神障害)		1			○	15							1		H	OT	F	2		
作業療法特論Ⅲ(生涯発達)		1			○	15							1		H	OT	F	2			
作業療法特論Ⅳ(がん)		1			○	15							1		H	OT	F	2			
作業療法特論Ⅴ(高次脳機能障害)		1			○	15							1		H	OT	F	2			
作業療法研究		4				120							4通		H	OT	H	2			
作業療法学総合講義	1				○	15							1		H	OT	F	2			
小計(22科目)		16	9	0		-															
専門共通	司法精神科作業療法		1		○		15					1				H	OT	F	1		
	生活支援機器論		1		○		15				1					H	OT	F	1		
	地域高齢者支援論		1		○		15				1					H	OT	F	1		
	徒手療法		1		○		15					1				H	OT	F	1		
	ウーマンズヘルスケア		1		○		15					1				H	OT	F	1		
	スポーツ理学療法学		1		○		15						1			H	OT	F	1		
小計(6科目)		0	6	0		-															
地域作業療法学	地域作業療法Ⅰ(総論)	1			○		30					1				H	OT	F	1		
	地域作業療法Ⅱ(老年期障害)	1				○	30				1					H	OT	F	1		
	地域作業療法Ⅲ(精神障害)	1				○	30					1				H	OT	F	1		
	地域作業療法Ⅳ(身体障害・発達障害)	1				○	30					1				H	OT	F	1		
小計(4科目)		4	0	0		-	0														
臨床実習	見学実習(作業療法)	1				○	45		1							H	OT	G	1		
	地域リハビリテーション実習(作業療法)	1				○	45				1					H	OT	G	1		
	評価実習	4				○	180					4				H	OT	G	3		
	総合臨床実習Ⅰ(作業療法)	8				○	360						8			H	OT	G	3		
	総合臨床実習Ⅱ(作業療法)	8				○	360						8			H	OT	G	3		
小計(5科目)		22	0	0		-															
合計(124科目)		106	47	0		-															
学位又は称号	学士(作業療法学)		学位又は学科の分野					保健衛生学関係 (リハビリテーション関係)													
卒業要件及び履修方法							授業期間等														
卒業要件は、必修科目106単位、選択科目21単位以上、合計127単位以上修得していること。選択科目は総合教育科目から16単位以上、専門科目の作業治療学から4単位以上、専門共通から1単位以上とする。							1学年の学期区分				2期										
							1学期の授業期間				15週										
							1時限の授業時間				90分										

必修61単位  
+  
選択5単位以上  
(作業治療学  
から4単位以  
上、専門共通  
から1単位以  
上)、  
計66単位  
以上  
取得すること



## Ⅱ－１． 授業科目の概要 (理学療法学専攻)



## 2020年度以降の入学対象カリキュラム 授業科目の概要

(保健医療学部リハビリテーション学科 理学療法専攻)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	配当年次
人間とコミュニケーション	コミュニケーション論	ケアや社会福祉援助では常に人と人との関係性のあり方が問題となる。人間存在と人間関係、社会的相互作用と社会的役割の理解の上に、医療を受ける人々を一人の人間として、心から大切にしようとする「誠実さ」と、それに支えられた「出会い」によって、対話が成立し、医療を受ける対象およびその家族の理解が充実発展でき、より良い関係を築く基礎を学習する。	1年前期
	チーム医療論	まず、チーム医療に関する総括的な講義と、これから始まる演習の概要を解説する。その後、看護、PT、OT混成のチーム(8~10名)に分かれ、提示された臨床課題(臨床の実症例)に関してまず問題点や疑問点を列挙し、分担して調査の上議論する。その後、各々の専攻分野からのアプローチを提唱し議論する。3、4チームに一人教員が配置されるが、チュートリアル教育様式であるため直接教えるのではなく議論の円滑な進行を促す役割を負う。中間報告・レポート作成の後、最終日にはすべてのチームが体育館に集合し、ポスター形式で当該症例のサービス計画を発表する。この時、学生がチーム相互の評価を行うとともに、全教員も参観しコメントを述べ評価する。	4年後期
	英語Ⅰ	高等学校で学んだ基本的事項を確認しながら、さらに高度な英文の文化に触れるとともに、まとまりのある文章の概念や要点をできるだけ速く、多く読み取るという高度な読解力を養い、目的に応じた読みを可能にすることを目的として学習する。	1年前期
	英語Ⅱ	1)保健・医療・福祉系の英語の文章を読む練習をする。 2)保健・医療・福祉系の英語のリスニングの練習をする。 3)理学療法・作業療法の分野の基本用語を辞書やインターネットを使って調べる。	2年前期
	英語Ⅲ	英語による日常的なコミュニケーション力の向上に加え、医療のさまざまな分野で使用されている特有の専門用語や英語表現を習得し、将来的な仕事の場で使える英語のコミュニケーション力を養う。同時に、医療従事者としての基本的な考え方や態度を養うことやコミュニケーションの基礎となる異文化への理解を深めることも視野に入れて学習する。将来的な職業的ニーズに即して必要となるであろう英語によるコミュニケーションを円滑に行う力を養う。	2年後期
	中国語	中国語の基礎的知識を学習するとともに、中国の文化についても触れながら日常的なコミュニケーションを身につけることを目指す。	1年前期
	韓国語	韓国語の文字と発音および基礎的な文法を学習するとともに、韓国の文化についても触れながら、日常的なコミュニケーションを身につけることを目指す。	1年後期
人間と文化	文学	文学の概念と日本の代表的な韻文を中心に学習する。様々な形態の韻文を味わいながら、文学的価値を学習することを通して、時代背景や個々の文学の特徴をとらえるとともに、そこから日本の伝統美、ことばの美しさ、ことばのリズム、日本人の美意識について理解するとともに文学の基礎的な力、感性を養い、その過程で表現する能力を身につけるよう学習する。	1年前期
	教育学	教育の意義と基本的な事項、課題を理解し、現代社会に生きる子どもと大人の教育環境のあり方を考える。具体的には、公教育と教育環境の理念、学校教育と社会教育の制度、特別支援教育、学校の教育課程、安全教育、学校給食、生涯学習の推進、幼児教育の動向、そして人権教育について、国内外の事例を参照して学習する。	1年後期
	文化人類学	我々人間が無意識のうちに認識し実践している文化は、社会によって極めて多様であり、ある社会にとっての常識が別の社会ではそうではないことがめずらしくない。文化人類学とは、そのような文化の多様性を認識しつつ、共通の理解が可能な普遍性も求めていく学問である。授業では、毎回一定のテーマに沿って様々な文化的事象について解説し、文化人類学の考え方について学ぶ。	1年前期
	国際関係論	国際関係論の学問的背景を理解し、国際的な課題や問題を理解するうえで基本となる諸概念について学習する。国際社会が抱える諸問題のうち、特に私たちが安全・安心、かつ、健康に暮らしていくための諸課題(対立と紛争、人口、食糧、水、貧困と格差、地球環境など)を国際的見地から考察し、国際社会の取組み、国際協力のあり方について学習する。	1年前期
	国際保健医療論	進行するグローバル化の中で、世界の医療分野で活躍できるような人材を育成するために、先進国と新興国における保健医療の実態と主体的関わり方を学ぶ。また、WHOの役割とその実際の成果を学ぶ。ワークショップを通して日本の看護師、理学療法士、作業療法士が特にアジアやアフリカの開発途上国で何が出来るかを考え(援助の方法)、まとめる。	1年後期
	音楽論	芸術領域である音楽を広く理解し、特に人々の健康のために音楽を活用する「音楽療法」の知見を学ぶ。具体的には、音楽が持つ働き(生理的、心理的、社会的働き)を学修し、心身の障害の回復、機能の維持改善、生活の質向上等にむけて音楽を意図的・計画的に用いて支援する具体的な方法の基礎を学修する。	1年後期

人間と健康	社会福祉論	現代社会における社会問題や生活課題を取り上げ、福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係、福祉ニーズと社会資源、社会福祉専門機関や専門職の役割を学ぶ。また様々な福祉領域の制度政策、実践方法にはどのようなものがあるのかなどについて基本的な学びを深める。さらにこれからの福祉のあり方についても考察することで、保健医療福祉分野での自身の専門職としての役割や専門性についても考察する。	2年後期
	障害者スポーツ	この授業は、座学(6週間)実技(7週間)から構成される。座学では、「しょうがい」の表記に関する考え方、障がいの臨床像やパラリンピック、国内で行われている障がい者スポーツの競技を視覚教材などを使用し説明すると共に、障がいの有無に関わらず、すべての人がスポーツ参加に繋がる考え方や工夫についても説明をする。実技では、座学で学習した内容を基にいくつかの障がい者スポーツを体験する。	1年通期
	レクリエーションスポーツ	年代、体力、障害等を考慮した身体運動の必要性及び指導上の注意事項に関する基礎的知識を理解する。高齢者を対象としたQOLを高めるための測定、体操、各種ニュースポーツの基礎的能力を身につける。	1年通期
人間と情報	情報リテラシー	学習においてコンピュータを有効に活用するための能力(コンピュータリテラシー)を身につける。現代社会における情報モラルと情報セキュリティを理解し、ICT(Information and Communication Technology)を利用して、情報を収集・活用していくための方法と技術を修得する事を目的とする。	1年前期
	研究法入門	科学技術の発展に伴い研究手法や治療法は多様化しています。将来、臨床現場、研究機関で働き、より良い医療を患者さんに届けるためには研究に関する視点、知識を養う必要があります。研究立案(クリニカルクエスト)、論文検索、研究デザイン、倫理指針・法律、統計、研究計画書)、研究費獲得から成果公表(学会発表、論文、特許)に至るまでの過程に必要な基礎知識を講義、演習を通じて学びます。また、机上論だけでなく、担当教員の経験に基づいた実際の事例とともに授業を行います。	1年後期
人間と環境	公衆衛生学	公衆衛生の概念及び歴史を踏まえて、健康の指標、人口問題と公衆衛生、衛生統計、疫学、医療・保健・福祉における衛生行政、労働衛生および環境衛生・公害及び公衆衛生の国際協力等について学習する。また、疾病予防と健康管理、地域保健と衛生行政、学校保健、産業保健および健康成立の要因と保健活動、人間を取り巻く環境と公衆衛生活動の意義と役割と組織的な公衆衛生活動について学習する。	2年前期
	保健行政論	保健医療福祉行政の基礎知識、地域における健康問題とその解決に必要な社会資源と保健医療福祉サービスおよびその評価、調整する基礎的な方法について学習する。特に保健医療福祉行政の根拠、保健医療福祉行政の目指すもの、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションを中心に、保健医療福祉における課題と政策の発展について学習する。	2年前期
	法学(含日本国憲法)	我が国の法の核である日本国憲法を中心に我が国の法体系全体と法の仕組みとはたらきを学習する。また、大学生が教養として持つべき基本的な法に関する知識について学習する。その際必要に応じて、現実起こった問題に対して自ら考察できるように、民法、刑法などの重要な法律の概要および裁判員制度などを含めて学習する。	1年前期
	生物学	生物学は、近代科学の方法論と手法により生物そのものにとどまらず、生物が示す様々な生命現象を明らかにすることを旨とする学問である。現代の医学・薬学分野の発展は、生命現象の分子レベルでの理解と遺伝子工学や細胞工学などのバイオテクノロジーの発展によるところが大きい。従って、医学・薬学を理解する上で、生物学の知識は必須のものである。本講義では、生物学(生命科学)の基礎知識を概説し、バイオテクノロジーの原理を理解し、それらがどのように医療分野に応用されているかについて学修する。	1年前期
	物理学	力学、電磁気学、波動の分野について、自然や身の回りの事象を理解するための物理学の基本事項を学ぶ。	1年前期
	生化学	人体の生命現象を化学的方法で解明するために、生体を構成する糖質、脂質、タンパク質等の物質を理解すると共に、それらの生体内の物質代謝とエネルギー獲得、および遺伝情報とその発現について学習する。	1年後期
	環境論	環境保全は21世紀に生きる人類にとって、その存亡をかけた最大の問題である。環境問題とは何か。環境保全の歴史、環境問題が地球全体にかかわる問題であることを学習し、その問題にどう対処するかを現代人として論考できる能力を養う。	1年前期
	放射線概論	臨床現場で必要とされる放射線の知識および放射線治療総論、放射線による障害と防護や放射線の身体への影響について学習する。さらに放射線画像の基礎を学習する。また、発がんへの心理的・社会的問題についても学ぶ。	1年後期

人間の 本質と 尊厳	哲学	文明の発祥から現代に至るまでの東西を問わず先人の哲学思想を通して、人間とは何か、生きるとは何かについて思索する。「哲学を学ぶことの意義、科学と宗教と哲学、私であるということ、物質と生命の神秘、身体と精神、自由、および美しく善く生きること」等の学習内容を通して、「生きること」や「存在の意味」について、主体的に深く思索する姿勢と建設的批判力を身につけ、自己の人間観や世界観を醸成できることを目的とし、幅広く人間を理解する能力を養う。	1年後期
	倫理学	倫理学は私たち人間の「よい（善良な）生き方」および「幸せな生き方」について考える学問である。しかも自分だけの「善良（幸福）な生き方」ではなく、「倫」という語が意味する「秩序ある人間関係」、すなわち社会全体が混乱せず、より「よく（幸福に）なる」ために各人はお互いにごう行動すればよいかについて考える学問である。これらをとりわけ医療分野における問題を例にしながら、医療における善悪の判断の基準や根拠について学習する。	1年前期
	社会学	社会的行為、社会的集団、地位と役割、文化などの社会学の基本概念を理解するとともに身近な社会現象である家族や職場、地域社会、健康問題、福祉、倫理問題など、現実の社会や社会問題がどのように捉えられ、理解されているかを学習する。さらに社会的・文化的な性差である「ジェンダー」が私たちの社会・文化の中でどのように現れているか学ぶ。	1年後期
	心理学	心理学は、人間の行動の法則性に関する科学である。本教科では、知覚、欲求、思考、学習、人格、カウンセリングなどの心理学の基礎から、発達の心理・医療と心理学について学習する。さらに、錯覚、記憶、学習、集団心理、性格検査、知能検査等についても学習する。	1年前期
	発達心理学	人間の一生という全行程を発達のプロセス、すなわち人は発達し続ける存在としてとらえ、人間への深い理解と愛情を育むことができるように、心身の発達および人格の成熟、発達課題と諸問題について学習する。具体的には、社会的存在としての人びとの生涯的な発達過程を主としてライフコース論の視点から整理し、社会の変動と人びとの人生コースとの関連について学習する。	1年後期
	ボランティア学	少子高齢化や地方自治の深化に伴い、市民の自発的な活動（ボランティア活動）に対する期待や関心が高まっている。その領域は、従来の福祉や国際協力だけでなく環境や災害救援、まちづくりなど多岐に渡っており、非営利ではあっても無償ではない事業型NPOやコミュニティ・ビジネスも増えている。本講義では、そのようなボランティアの変化や意義を、時代背景から読みとぎ、受講者自らも行動できるような素養・知識の修得を狙いとす。	1年後期
	生命倫理学	現代医療は生命倫理の土台の上に成り立っている。この講義では、生命倫理学の成立の歴史を含め、医療人として必要な生命倫理学の基礎的知識や倫理綱領について学習する。また、医療技術の進歩に伴い生じる生命倫理上の重要ないくつかの問題を取り上げることにより、その本質や最近の動向を理解するとともに、それらについて医療職が果たすべき役割を学ぶ。	1年後期
	解剖学Ⅰ（骨・筋）	本講義では、まず解剖学を学ぶ上での心構えについて概説する。学生は医療人として必要なヒトのからだに対する畏敬の念を身につける。解剖学のうち、運動器系における受動運動器である骨格について系統的叙述を行う。全身の骨格について骨をどのように観察するか、また全体の中でどんな位置を占めているか、その形・外観・大きさ等の形態的特徴と骨の連結を説明できるように学ぶ。また、関節の構成体である靭帯・腱・筋の基本的構造（形態）および部位ごとの特徴について学ぶ。	1年前期
	解剖学Ⅱ（神経）	本講義では中枢神経系の生成・発達・構造・仕組み・働き等について学ぶ。神経組織学、神経系の発生、脊髄、脳幹、小脳、大脳基底核、間脳、大脳皮質、脳室系、脳と脊髄の血管についてその概要を講義する。さらにまとめとして感覚系の神経回路、運動系の神経回路について講義する。解剖学Ⅰの内容と併せて、ヒトの運動の機序について学ぶ。	1年前期
	解剖学Ⅲ（内臓器）	本講義では、内臓器の構造と配置を理解する。また自律神経系との関連を理解する。解剖学Ⅱの内容と併せて、身体の各器官を調節する神経系と影響する循環器系を中心に、内臓系全般の基本的な成り立ちと構造について学習する。学習する内容は、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系である。内臓系は解剖学のみならず臨床医学とのかわりも深い。したがって、本講義では医療人を目指す上で実施されるさまざまな学習の基盤として必要不可欠な人体解剖学の知識を修得する。	1年後期
	解剖学実習	解剖学Ⅰ～Ⅲで学んだ知識を実際の標本で確認していく。標本としては骨標本、臓器標本、四肢標本、脳神経標本などを活用し、その精巧な形態と多様性について教授する。さらに顕微鏡標本の観察を通して、人体諸器官の微細構造とその基本的な機能を考察する。解剖学Ⅰ～Ⅲで学習した系統解剖学的な知識を深め、人体構造を総合的に理解・習得する。解剖標本を自ら手にとって観察することによって、人体各器官の位置関係や構造を立体的に学習し、それらを局所解剖学的に説明できるようになる。	2年通期

人体の構造と機能および心身の発達

生理学Ⅰ	細胞、組織、器官、個体レベルにおける固有機能、固有機能が統合されたシステムとその調節機構、それらの相互作用により生体の内部環境が一定の範囲内（正常）に維持されるためにどのような制御機構が働いているかを理解する。	1年前期
生理学Ⅱ	生理学Ⅰの内容と併せて、生体の器官系が固有の機能を有することを学ぶと共に、それらの間の調節統合機構を学び、生命現象に関わる専門教育に必要な基礎知識、学力を向上させる。	1年後期
生理学演習	生理学Ⅰ・Ⅱで学んだ内容を実験を行うことで確認し、その知識を深める。生命現象のメカニズムについて実際に観察する機会であり、実習をすることによって科学的な考え方を身につける。実習内容は、味覚、触覚、聴覚等の感覚機能測定、血糖値、乳酸値の生化学的検査、消化液の作用を理解する実験等である。	2年前期
基礎運動学	解剖学・生理学での学習と併せて人間の運動を力学的、生理学的面から総合的に理解するために、運動学の歴史、力学的基礎知識、人間の形態及び生理機能について理解することを目的とする。身体運動に関わる生体の構造と機能を力学的、生理学的に理解し、姿勢、運動動作における身体のメカニズム及び運動能力の発達や加齢化について総合的に学習する。	1年後期
運動機能学	身体を構成する各関節について、関節運動のメカニズムを具体的に学習する。正常な基本動作のメカニズムと動作特性について学習する。講義の内容は関節運動の基礎、股関節、膝関節、足関節、脊椎、肩関節、肘関節の運動法則と運動のメカニズムについてである。本講義は臨床運動学・運動器系理学療法学、義肢装具学Ⅰ・Ⅱ等の理学療法専門分野の学習の基礎となる。	2年前期
運動学演習	基礎運動学・運動機能学で学んだ身体運動のメカニズムについて、筋電計、筋力測定装置、重心動揺計を用いた実習を通じてさらに理解を深める。また、臨床における運動学的評価の手法と解釈の仕方について基礎的知識を学習する。グループに分かれて各課題について計測を行い、計測結果と得られた情報からわかった事をレポートにまとめる。	2年後期
人間発達学	人間発達学は、人間の発達を身体・精神の両面から学ぶ科目である。本講義では主要な発達法則と理論を紹介し、新生児から成人にいたるライフステージごとの精神的発達と身体運動機能の発達について概説する。一連の講義を通じて、胎生期から老年期までの発達について、身体発育、運動発達、認知発達、言語発達、情緒・社会性の発達などの各発達領域における発達過程と、それぞれの発達時期における発達課題等を学習する。	1年後期
運動生理学	運動に伴う身体の機能、構造の変化、呼吸、循環器系が運動により、どのような一過性の変化を示すか、および長期的な運動に適応する能力について学ぶ。理学療法士が臨床現場において検査、トレーニングを実施した際のバイタルサインの意味を理解し、患者に説明できる能力を身につける。本講義は、呼吸・循環器理学療法学、代謝器理学療法学、老年器理学療法学等の基礎となる科目である。	1年後期
リハビリテーション栄養学	五大栄養素の働き、栄養素と食品との関係、食事摂取基準と食生活、食生活と生活習慣病の関係について学び、栄養面からみた健康維持および健康増進、疾病予防についての基礎を学習する。また、障害（児）者や高齢者、若年女性の低栄養、フレイル、サルコペニアの予防・改善のための評価、栄養学的介入について学習する。	2年前期
臨床薬理学	医薬品の基本的な情報を正確に理解するための基礎知識として、薬物の生体内での吸収・分布・代謝・排泄の流れ、薬物の生体内での主作用と副作用、薬物間の相互作用、薬物と食物の相互作用について学ぶ。また、薬物使用時のリスクマネジメントについて学ぶ。	2年後期
臨床心理学	臨床心理学は、個人の行動障害や適応困難を心理学的知識と技法に基づいて測定・分析し、解決することを目的とする応用心理学の一分野である。本講義では障害理解の基礎として主要な人格理論を教授する。また人々の精神的健康の回復・保持・増進について講義する。学生は精神疾患や心身症、精神心理的問題・不適応行動などの病態、原因、診断法について理解する。さらにこれらの患者障害理解の手段としての心理検査や心理療法などの援助技法について教授する。	2年前期
病理学	病理学とは病気の原因、発生機序の解明や病気の診断を確定するのを目的とする、医学の一分野である。本講義では疾病において出現する形態と機能および代謝の異常について教授する。具体的には、退行性病変、循環障害、炎症、腫瘍、感染症、奇形といった基本病変の定義や病態について教授する。本講義を通じて、疾患の原因（病因）や機序（病態）を理解し、それらの形態学的変化（病理形態像）を知ることで、リハビリテーション医学の基礎を身につける。	2年前期
内科学Ⅰ	内科学では、全身の疾患の概念、病態の成立機序について学ぶ。内科Ⅰでは主要兆候・症候、病態、呼吸器疾患、アレルギー、感染症、循環器疾患などの概念について学習する。	2年前期
内科学Ⅱ	内科学では、全身の疾患の概念、病態の成立機序について学ぶ。内科学Ⅱでは、血液疾患、悪性腫瘍、膠原病、消化器疾患、代謝・内分泌疾患、糖尿病、などについて学ぶ。	2年後期

専門基礎科目

疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進	整形外科 I	整形外科における運動器の形態、機能、病態生理と評価、検査、治療方法、および総論的主要疾患等について、リハビリテーションに必要な基礎的知識と概念を獲得する。整形外科 I では、骨の構造・発生と成長・修復と再生・加齢変化、問診・視診・触診、基本的検査（検体検査・画像検査・生体検査）、薬物療法、固定法、装具、牽引療法、骨の手術、関節の手術、切断・離断、末梢神経の手術、軟部組織感染症、急性化膿性骨髄炎、慢性化膿性骨髄炎等について講義する。	2年前期
	整形外科 II	整形外科における運動器の形態、機能、病態生理と評価、検査、治療方法、および総論的主要疾患等について、リハビリテーションに必要な基礎的知識と概念を獲得する。整形外科 II では、骨折の定義、分類、症状、診断、合併症、治療、治癒後の合併症、捻挫と脱臼、挫滅症候群、肩関節部の骨折と脱臼、上腕骨骨折、肘関節部の骨折と脱臼、前腕骨骨折、手の骨折と脱臼、胸郭の外傷、骨盤の骨折、股関節部の骨折と脱臼、大腿骨骨幹部骨折、膝関節の骨折と脱臼、下腿骨骨折、足関節部の骨折、足部の骨折等について講義する。	2年後期
	精神医学 I	精神医学の概念と関連領域（精神科医療の歴史、精神障害の定義・分類、精神機能の障害と精神症状）、精神障害の診断と評価（診断・評価の方法、各種検査法）、統合失調症・気分障害・神経症性障害とストレス関連障害・器質性精神障害・精神作用物質による精神および行動の障害・パーソナリティ障害・てんかん等の病因、病態、臨床経過、治療、転帰等、薬物療法、心理社会的療法等を学ぶ。さらに、精神医療関連の法制度（刑法等）や、リエゾン精神医学とチーム医療等もあわせて学ぶ。	2年前期
	神経内科学	神経内科学では神経症候および代表的な神経・筋疾患（パーキンソン病、パーキンソン症候群、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、脊髄性進行性筋萎縮症、多発性硬化症、脊髄空洞症、ギランバレー症候群、正常圧水頭症、筋ジストロフィー、重症筋無力症、多発筋炎、他）、脳血管障害（定義と分類、疫学、脳血管の解剖と生理、脳出血、くも膜下出血、脳梗塞、一過性脳虚血発作、他）を取り上げ、それらの病態・診断・治療および予後について知識を教授する。	2年後期
	小児科学	小児科学では基本となる小児の正常発達と療育・リハビリテーションの考え方を解説した後、代表的な小児疾患の病態、診断および治療について講義する。特に、リハビリテーション医療の対象となる疾患について重点的に述べる。代表的な疾患として、脳性麻痺、二分脊椎、悪性腫瘍、遺伝子病・系統疾患（骨端症を含む）等について、疫学・予後、病理・症状、評価・検査（画像・生理検査等）・診断、リハビリテーション等、関連する治療学を学ぶ。	2年前期
	脳神経外科学	脳神経外科で扱う疾患の概要を示したうえで、その画像診断法、各種病態と機能、更には主な脳神経外科疾患の各論を教授する。	2年後期
	リハビリテーション医学	リハビリテーション医学では、まず基礎となる学問体系を概説し、次に対象となる疾患や障害に対する診断や治療の進め方を解説する。医学全体における障害者治療の位置づけと意義を理解させる。総論として、リハビリテーション医学の定義と歴史・特徴、リハビリテーション医学における障害の診断と評価、機能障害・活動制限・参加制約の各々の評価とリハビリテーション、各種リハビリテーション治療、廃用症候群（疫学、病理・病態・症候、評価・検査、リハビリテーション、その他の治療）等を学ぶ。	1年後期
	一般臨床医学	医療者に必要な医学的知識を深める。ここでは、臨床医学として習得すべき耳鼻咽喉科学、皮膚科学、泌尿器科学、婦人科学などの疾患を中心に、その特徴と診断・検査（画像・生理検査等）・治療について理解する。総合診療科の役割、泌尿器疾患、めまい、視力・眼科診療、皮膚疾患・皮膚科診療、婦人科疾患、周産期医療等について、テーマ別にオムニバス方式で学習する。	2年後期
	老年医学概論	老化の及ぼす身体の変化と疾患について講義し、老年病を包括的に理解し、その予防と治療およびその社会的な意義を知る。老年症候群、認知症、脳血管障害、うつ、心不全、末梢循環障害、老人性肺炎・誤嚥性肺炎、慢性閉塞性肺疾患、悪性腫瘍、変形性関節症、骨折、骨粗鬆症等の疫学・予後、病理・症候、評価・検査・診断、リハビリテーションとその他の治療について学習する。さらに睡眠障害、摂食・嚥下障害、感覚器障害、終末期のケア等についてあわせて学習する。	3年前期
	救命救急学概論	救命救急医療の概論と基本的な救急処置について講義する。また、一般市民も行える救急蘇生法（救急手当）や救急蘇生法以外の手当（応急手当）を理解、修得する。急変時、救急処置の必要な患者さんの対応を医療従事者として理解、修得する。講義内容は、創傷と出血・ショック、熱中症・偶発低体温、熱傷、薬物中毒、AEDの使用法等である。	3年後期

保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	リハビリテーションの歴史と理念および医学的リハ、社会的リハ、職業的リハ、教育的リハを推進するうえでのICFの視点、多職種連携の意義とその有り様、地域包括ケアシステムとの関連性について教授する。具体的にはノーマライゼーション、障害者の自立を目指す就労支援や自立支援の在り方、さらに地域リハビリテーションではCBRの理念を踏まえた地域包括ケアシステムとの関連性を解説し、リハビリテーションマインドに基づく理学・作業療法の展開を教授する。	1年前期
	医療制度と関連法規	理学療法士または作業療法士としての職責を遂行するための基本的な法規の内容を理解するために、保健医療福祉制度（主としてリハビリテーション専門職に関係する保健医療制度）に関連する主要な法律と保険の基本的枠組みについて講義を行う。	1年後期
	終末期医療論	主にがんと悪性腫瘍に対する終末期を対象とする。日本におけるターミナルケア、緩和医療の進歩と課題を学ぶ。各個人によって異なる「終末期」を支援するために、考慮すべきことは何か、実践すべきことは何かを理解する。また、医療全般にわたる緩和医療・緩和ケアの介入の必要性について理解し、よりよい終末期医療、患者及び患者家族の支援について考える。	3年前期
基礎理学療法学	理学療法教養基礎	学生が円滑に大学生生活に移行できるように、大学のシステムを理解するとともに、大学で学ぶためのスタディ・スキル（基本的な学習技術）を身に付ける。また、理学療法士という医療専門職を目指す学生として守るべき規範ととるべき学習態度を理解する。	1年前期
	理学療法概論	理学療法士としての臨床経験を活かし、理学療法とは何か、理学療法の役割と専門性について概説する。具体的にはリハビリテーションの概要、リハビリテーション医学における位置づけ、業務内容、学問的体系等について論じ、将来、理学療法士となるための動機づけを行うとともに理学療法に関する基本的な知識を教授する。本講義は最初の理学療法専門科目であり、理学療法に対する意欲、興味関心、基礎的価値観を養う。	1年前期
	理学療法概論演習	本講義では、理学療法士としての臨床経験を活かし、障害者体験を行う。学生は障害を疑似体験したうえで、障害を持つ人を支える社会福祉制度や技術を自ら追求し、それに伴う課題についてグループ討論形式で授業を展開する。また、ICFを軸にした多様な支援について演習的に思考し、理学療法概論により形成された価値観をさらに発展させる。	1年後期
	臨床運動学	寝返り・起き上がり、座位でのリーチ動作、立ち上がり、歩行等の基本動作における関節運動や筋活動について学習し、身体運動がどのようなメカニズムで成り立っているのかを理解する。また、学生同士で動作を観察しあうことにより、健常者の動作の多様性について理解する。さらに動画から患者の異常動作がどのような運動学的要素の異常や破たんによって構成されているのかを明らかにし、異常身体運動の出現メカニズムを運動学的に考察する。	2年後期
	統計学	本講義では仮説をデータに基づいて統計的に検証したり、データ解析の結果から、新たな事実を発見したりするときに役立つ統計的手法を身に付ける。講義はデータの整理の仕方、平均、分散等を求める記述統計学より始め、確率、母集団、標本抽出、確率分布を学び、最終的に推定、検定といった推測統計学を解説、演習する。本講義は、理学療法学研究法、作業療法研究法、卒業研究の基礎となる科目である。	1年後期
	理学療法学研究法	理学療法学研究法では、理学療法における研究の必要性について論じ、研究の形態や手順について研究例を提示しながら、研究テーマの設定、文献検索方法、研究目的と方法、結果分析の方法、考察の実際について教授する。	3年前期
	理学療法研究法演習	理学療法研究法演習はゼミ形式で実践する。学生自らが設定した研究テーマについて具体的な方法論、データ解析法、文献収集、考察方法などの一連の研究手法に関して実践し、その流れの中で科学的な背景を明らかにするまで手法を修得する。本講義で決定したテーマを4年次の卒業研究テーマとして継続し、学修を進めるため、プレ実験まで行う。	3年後期
	理学療法卒業研究	学生が自ら研究課題を設定し、指導教員のもと主体的な問題解決の研究過程を経験する。研究上の倫理を尊重したうえで科学的な手法によって研究を実施し、その成果を卒業研究発表会において発表するとともに卒業論文としてまとめる。ゼミ形式で、データ収集からデータ解析、考察、論文作成までを行う。プレゼンテーションの基本、発表資料作成を学び、卒業研究発表会で発表を行う。	4年通
理学療法管理学	理学療法管理学Ⅰ	医療、福祉の現場で理学療法を行う上で必要となる理学療法士としての倫理と管理運営について理解する。理学療法管理学Ⅰでは、患者のリスク管理、リスクマネジメントにおける記録・報告の方法、感染の基礎と予防の実態、職場運営管理、機材管理について学習する。	3年前期
	理学療法管理学Ⅱ	医療、福祉の現場で理学療法を行う上で必要となる理学療法士としての危機管理について理解する。理学療法管理学Ⅱでは、リスクマネジメントとクライシスマネジメントの両面から危機管理の概念について、災害危機管理では、災害リハビリテーション支援の実際から多職種連携と地域連携および予防・保健について学習する。	3年後期

理学療法評価学	検査測定学概論	理学療法を実施するにあたって、理学療法評価は大変重要であり、理学療法士として備えなければならない基本的臨床技能である。その中でも、理学療法評価に関連する諸事項、情報収集、医療面接、一般的な検査測定、バイタルサインの意義や目的、進め方をこの授業において教授する。バイタルサインについて、患者の全身状態を把握するための重要な技能であり、最終講に演習を行う。	1年後期
	検査測定学演習	機能・構造障害を評価する上で、必要な身体指標点の確認および骨関節、筋、腱の触診法を学ぶ。具体的には評価を行う上での接遇面の注意点、身体指標点の確認、バイタルサインの確認、上肢、体幹、下肢の触診法を講義する。本講義では学生同士でペアとなって演習を行い、健常者の多様性についても理解を深める。また、バイタルサインの測定も行う。	2年前期
	運動器系検査測定学	各種運動障害の評価に共通した基本的評価法である形態計測法、関節可動域検査、筋力検査を中心にそれらの理論と実際について講義する。各検査の方法、適応、意義、別法を講義したのち、学生同士でペアとなって演習を行う。演習では、身体部位の固定法、機器の使用法と起こりやすい間違い、代償動作等について詳しく解説する。	2年後期
	神経系検査測定学	本講義では理学療法が必要となる神経系の疾患による病態及び機能障害の理解を基礎として、検査測定を学びその基本手技を習得する。特に、理学療法で重要となる脳卒中の理学療法評価における検査測定項目について、その目的および方法を詳細に学ぶ。また、それらの知識を整理し、臨床で実践できる評価技術を習得することが本講義における最終目標となる。	2年前期
	動作解析学	三次元動作解析装置を用いた運動計測の手法について修得する。床反力や関節モーメントなどの力学パラメータについて説明し、これらの力学パラメータを得るための動作解析手法について実習形式で学習する。運動学、運動力学的知識を応用して、身体運動がどのようなメカニズムで成り立っているのかを考察する。さらに、機器を用いた身体評価、障害評価の実際について教授する。	3年前期
	クリニカルリーズニング論	クリニカルリーズニングとは臨床的な推論や問題解決の過程をさし、対象者に関する直接および間接的情報、理学療法士の知識、経験、技術を駆使して、対象者の問題点を論理的に推理しながら評価、治療を進める方法である。本科目では症例を通して理学療法の基本的な推論過程を学習し、基本的なクリニカルリーズニングを実施できることを目標とする。	3年後期
運動療法学	運動療法学概論	本講義では、運動療法学の基礎理論と技術に関して学ぶ。各種の疾患・障害に対して適切な運動療法ができるよう、運動療法の歴史、定義、目的、対象、禁忌など運動療法の基本概念を理解する。さらに解剖学、生理学、運動学などの科目と関連づけながら運動療法の基礎理論について理解する。また運動療法で使用する機器等についての理解も深める。	1年後期
	運動療法学基礎演習	運動療法学基礎演習では、身体接触の基本と注意点について学ぶ。さらに運動療法学概論で得た知識を土台として、安楽肢位、動作介助、車いす介助といった初歩の技術から、関節可動域練習、各種の筋力増強練習法について演習形式で学ぶ。本講義を通して、身体に接触する際の心構え、相応しい態度を身につける。また、患者はもちろんのこと学生自身の安全確保の基本を学ぶ。	2年前期
	運動器系理学療法学	変形性関節症、骨折、関節リウマチ、腱、靭帯損傷等、について、疾患構造の理解と運動療法の理論を学習する。各疾患における、保存的治療、観血的治療、手術方法の違いなど、整形外科的治療法の相違における運動療法プログラムの建て方についても解説する。また、実際の治療技術論については、近年における運動療法のトピックスも加味し、筋力増強や基本動作などの基本的概略も含め、幅広い運動療法技術の修得を図る。	3年前期
	運動器系理学療法学演習	本講義では、変形性関節症、靭帯損傷、半月板損傷、肩関節周囲炎、腱板損傷や人工関節挿入術後、鏡視下手術後あるいは脊椎疾患、CRPSなどといった代表的な疾患を取り上げ、評価法、治療法など具体的な理学療法の進め方とゴールセッティングについて演習形式で学ぶ。	3年後期
	神経系理学療法学	脳血管障害による中枢神経性の片麻痺や小脳性運動失調症、協調運動障害などに関して、それらの評価法と運動療法の考え方を学習する。具体的には脳血管障害患者、パーキンソン病患者、脊髄小脳変性症患者、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症患者等に対する評価・予後予測・理学療法の実践について講義する。	3年前期
	神経系理学療法学演習	脳血管障害による中枢神経性の片麻痺や小脳性運動失調症、協調運動障害に関する評価及び治療技術を学習する。具体的には、CT、MRIの見方、神経系障害の予後予測、脳血管障害に対する評価の流れ、大脳基底核の機能とその障害、小脳の機能とその障害、パーキンソン病に対する理学療法、運動失調に対する理学療法、その他の神経疾患の理学療法について講義する。	3年後期
	発達系理学療法学	運動発達障害を呈する小児疾患の中の中枢神経疾患である脳性麻痺の障害とその特徴について理解するとともに、その障害の捉え方と評価、運動療法についての知識を習得する。また、脳性麻痺の異常運動発達を理解するために必要な姿勢反射と正常運動発達についての知識を習得する。さらに、脳性麻痺以外の運動発達障害を呈する小児疾患についても学習する。	3年前期
	老年期理学療法学	老化に伴ってみられる身体的変化や精神的変化についての理解を深め、老年期に頻発する特有な疾病や障害（パーキンソン病、骨折など）に対する理学療法の介入方法について学習する。本講義を通じて高齢者に対する理学療法の役割を老年学的視点から捉えられるよう理解を深める。包括的高齢者運動トレーニングを理解する。	3年前期

呼吸・循環系理学療法学	内部障害患者に対する理学療法士の臨床的意義と方法を理解する。呼吸循環機能の評価、問題点抽出、治療到達目標設定、運動処方、理学療法プログラム作成、リスク管理などについて概説する。具体的には、呼吸不全の病態、呼吸理学療法評価法、呼吸理学療法の基本手技、循環器系の構造と機能、心臓リハビリテーションのための患者評価、心筋梗塞・弁膜症・心不全・大血管疾患・末梢動脈疾患等の運動療法について学習する。	3年前期
呼吸・循環系理学療法学演習	内部障害の病態像、急性期ならびに回復期の理学療法評価・介入の流れを具体的に教授する。呼吸介助や非侵襲的陽圧換気の体験、呼気ガス分析装置を用いた運動負荷試験、気管吸引の基礎と適応について体験またはデモンストレーションを通して学習する。循環系では、標準12誘導心電図ならびに心電図モニター実習、心肺運動負荷試験の実施方法と観察点、運動処方とモニタリングの要点について演習形式で学習する。	3年後期
代謝系理学療法学	糖質、タンパク質、脂質などの代謝異常によって生じる多様な疾患について理解するとともに理学療法介入の意義と方法を学ぶ。糖尿病の評価と運動療法、患者教育および腎機能障害に対する運動療法について学習する。がんの理学療法では、緩和医療における理学療法士の役割と病期別理学療法について、がんのリハビリテーションに関する医療保険制度の仕組みを理解する。	3年前期
物理療法学	理学療法の代表的な治療手段である物理療法について学習する。特に各種物理的エネルギーが身体にもたらす生理的作用、各種物理療法機器のエネルギー発生原理、温熱療法・電磁波療法・超音波療法・寒冷療法・光線療法・電気刺激療法・牽引療法ならびに水治療法の適応と禁忌について教授する。	2年後期
物理療法学演習	臨床現場で用いることが多い各種物理療法機器について、その操作方法と効果を演習形式で学習する。具体的にはホットバック、パラフィン、極短波装置、アイスバック、TENS、干渉波発生装置、IVES、NMESの各物理療法を、学生同士を対象として実施し、客観的な指標に基づいて効果検証を行う。	3年前期
日常生活活動学	日常生活で基本として行われる移動、更衣、食事、排泄などの代表的な動作（日常生活活動：ADL）を取り上げ、それらの動作の分析、評価方法と障害を有する患者のトランスファーや歩行補助器の使用など生活自立を目指した指導方法について教授する。また、生活の質についての基本的な考え方についても学ぶ。	2年後期
日常生活活動学演習	起居動作や移乗・移動動作などを実際に行うことによって、動作障害に対するADL動作指導や介助法指導の要点について学習する。日常生活活動学で学んだ生活基本動作の分析、評価および指導方法について演習を通して学ぶ。本講義を通じて、介助者、被介助者、様々な生活環境を推測でき、適切な動作を選択、指導できるように学ぶ。	3年前期
義肢装具学Ⅰ	四肢切断のリハビリテーションに必要な知識と技術を学習する。切断原因、切断手技を理解し、急性期からの理学療法、義肢装着訓練について学び、義手、義足の種類、ソケットの特徴、ソケットの適応判定、さらに切断端の評価から断端訓練、アライメント調整、歩行訓練、応用動作訓練等については実習を取り入れながら学習する。また義肢処方から義肢完成までの過程、義肢給付制度について理解し、切断者の社会復帰までにおける理学療法士の役割と位置づけについて教授する。	2年後期
義肢装具学Ⅱ	下肢、体幹、上肢の装具の目的、適応疾患ならびに身体症状と装具との関連を臨床的に学び、実際の理学療法における装具療法の位置づけと適応判定について必要な知識と技術を修得する。装具療法の代表的な疾患を中心に運動療法との関連を含めて、一部演習形式で装具について学習する。さらに、適応やチェックアウト時の義肢装具士との連携について理解を深める。	3年前期
理学療法対象者行動論	理学療法士としての臨床経験を活かし、理学療法を実施する際の患者教育、患者指導をする上で重要となる応用行動分析学の理論と技法を教授する。	3年前期
高次脳障害学	失語・失行・失認を含む高次脳機能障害の発生機序、神経心理学的検査法、治療法などについて学習する。脳卒中や脳外傷などに起因する高次脳機能障害の症候を理解し、神経心理学検査を用いた評価と障害像に応じたリハビリテーションの実践過程を習得する。また、認知症を有する対象者への理学療法士としての関わり方について学習する。	3年前期
理学療法特論Ⅰ	臨床実習の意義や一連の流れについて学び、これまで学んできたことの統合を図る。3年次までの座学、演習科目を統合し、評価学実習に結びつける。評価学実習を行うにあたり、心得、接遇、医療現場でのマナー、事故予防等についてロールプレイを行って修得する。さらに、3年次までに学んだ各演習科目を統合し、実技の再復習を行う。	3年後期
理学療法特論Ⅱ	これまで学んできた基礎医学分野の知識を、理学療法士国家試験の出題傾向に沿って整理する。基礎医学分野の中でも解剖学・生理学・運動学を中心に知識の整理を行い、理学療法士国家試験合格に必要な知識としての統合を図る。この基礎医学分野の知識の整理と統合は、臨床医学分野や理学療法専門分野の理解に深く関連しており、今後の国家試験受験に向けた学修のための基礎固めを図る。	4年後期
司法精神科作業療法	触法障害者の特性を理解し、対象者への司法特有の高度なアプローチ技術を習得・実践していくなど、新たな分野として司法領域での作業療法の基礎を学ぶ。具体的には、司法特有のアプローチや、対象者が社会に出たときの地域生活を想定した生活技能の獲得や日常生活活動のデザイン、地域生活を円滑に行うための社会資源などの活用、経済的基盤の確保も視野に入れた職業前訓練などの展開など、多面的に学ぶ。これらの学習を通して、対象者の社会復帰の支援や再犯防止に向けた取り組みに寄与できる知識・技能の基礎を修得する。	3年後期

専門共通	生活支援機器論	リハビリテーション分野における生活支援機器について、現状で広く活用されている機器の概要を紹介する。医療・福祉・在宅での自立生活や社会参加を可能にする支援技術の具体的な導入、評価、適応事例についても紹介する。また、コミュニケーション支援、認知機能障害を有する児・者のスケジュール管理支援など、生活支援技術の積極的な活用・応用をするための支援技術論を学ぶ。	3年前期
	地域高齢者支援論	住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるよう、住まい・医療・介護・生活支援の一体的な提供を実現すべく包括的な地域ケアの展開がすすめられている。認知症高齢者への支援システムの構築が重要な課題のひとつである。この授業では、高齢者への包括的地域ケアにおいて作業療法がどのように活かせるか、実践経験を交えて現状とこれからの課題について学ぶ。	3年前期
	徒手療法	筋、関節、軟部組織に対する整形外科徒手療法の理論を理解し、基本的な評価法と治療手技を学習する。四肢の関節モビライゼーション、軟部組織に対する徒手療法の理論と技術を教授し、筋・骨格疾患患者の評価・治療法について説明する。	3年後期
	ウーマンズヘルスケア	思春期以降の女性のライフスタイル、身体の変化によって起こりうる機能不全（月経不全、リンパ浮腫、尿失禁、便秘等）について理解する。さらに女性特有の日常生活活動障害（更衣・整容等）への理学療法アプローチ、女性に多い整形外科疾患（変形性関節症、関節リウマチ、スポーツ障害等）の理学療法アプローチについて一部演習を交えて学習する	3年後期
	スポーツ理学療法学	各スポーツ特有の動作についての特徴と分析のポイントを理解する。各種スポーツ損傷（急性・慢性）の機序と病態を理解し、予防法・治療法・理学療法について学ぶ。具体的には、膝関節スポーツ障害、足関節スポーツ障害、投球障害（肩・肘）、テニス肘、腰痛等について講義する。さらに基礎的なテーピング技術について、演習を交えて講義する。	3年後期
地域理学療法学	地域理学療法学	理学療法士としての実見経験を活かし、地域リハビリテーションにおける理学療法の活動内容を学び、他職種の役割、理学療法の役割を理解する。また、地域で生活するために必要な法制度を学ぶ。生活環境の評価方法と改善のための目標のたて方、改善計画などについて学ぶ。	2年前期
	地域理学療法学演習	理学療法士としての実見経験を活かし、高齢化社会の到来により、地域社会では理学療法士の重要性が増している。この授業では、実例（地域における要介護者の実態、地域で働いている理学療法士の紹介など）を通して地域社会で求められているニーズを把握していく。地域でも働ける理学療法士になるために、学んだ知識を統合して地域における役割・地域において必要となる知識・技術を整理して学んでいくことを目的とする。さらに、国際福祉機器展の見学を通して、最新の福祉機器等の知識を修得する。	2年後期
	バリアフリー	まず高齢者や障害者の生活環境に存在する様々な物理的環境バリアについて理解する。このような物理的環境の制約・障害を改善するために有効な福祉機器、住環境整備、地域の環境整備とそのための法制度や行政・企業との連携の実際について、一部演習を交えて学ぶ。また最新の福祉機器等の知識についても修得する。	3年前期
	リハビリテーション工学	リハビリテーションにおける工学の役割について理解する。特に運動機能障害に対するリハビリテーション支援ロボットについてロボット研究の現状を学ぶ。また理学療法(士)の知識が活かされたロボット研究の実例、神奈川県「さがみロボット産業特区」における生活支援ロボットの実用化・普及を目指した産学連携の事例を通じて、この分野における理学療法士の役割と活躍の可能性について学ぶ。	3年後期
	見学実習（理学療法）	学内で学んだ理学療法の基礎知識を基に、病院、施設での見学実習を通じてリハビリテーション・理学療法の位置づけや各医療スタッフの業務内容、連携、また理学療法士の具体的な業務を学習し、今後の授業に活用できるようにする。本実習を通じて、4年間の学習への動機づけとする。実習終了後には、学内にて反省会と報告会を実施する。	1年前期
臨床実習	評価学実習	各施設における実習指導者の指導・監督の下、実際の症例に対して理学療法評価を行い、その結果の解釈、統合、さらに治療計画の立案までを体験するものとなる。学内においては、実習前にオリエンテーション、実習終了後に学内にて反省会と報告会を実施する。実習は同一の臨床実習施設において、4週間行われる。	3年後期
	地域リハビリテーション実習（理学療法）	通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションの現場を見学を主体として、地域在住の高齢者・障害者の生活支援や環境支援のあり方と制度的課題、地域リハビリテーションにおける理学療法・理学療法士の役割を学ぶ。	3年後期
	総合臨床実習Ⅰ（理学療法）	3年次までの学内および学外学習を通じて得た知識、技術を駆使して、臨床実習指導者のもとで患者を担当し、評価、ゴール設定、プログラム立案、治療の実践までのプロセスを体験する。実習は7週間行い、本実習を通して理学療法士に求められる基礎的な知識、技術を習得する。また、実習終了後には、学内にて反省会と症例報告会を実施する。	4年前期
	総合臨床実習Ⅱ（理学療法）	3年次までの学内および学外学習を通じて得た知識、技術を駆使して、臨床実習指導者のもとで患者を担当し、評価、ゴール設定、プログラム立案、治療の実践までのプロセスを体験する。実習は7週間行い、本実習を通して理学療法士に求められる基礎的な知識、技術を習得する。また、実習終了後には、学内にて反省会と症例報告会を実施する。	4年前期



## Ⅱ-2. 授業科目の概要 (作業療法学専攻)



2020年度以降の入学対象カリキュラム 授業科目の概要

(保健医療学部学部リハビリテーション学科作業療法学専攻)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	配当年次
人間とコミュニケーション	コミュニケーション論	ケアや社会福祉援助では常に人と人との関係性のあり方が問題となる。人間存在と人間関係、社会的相互作用と社会的役割の理解の上に、医療を受ける人々を一人の人間として、心から大切にしようとする「誠実さ」と、それに支えられた「出会い」によって、対話が成立し、医療を受ける対象およびその家族の理解が充実発展でき、より良い関係を築く基礎を学習する。	1年前期
	チーム医療論	まず、チーム医療に関する総括的な講義と、これから始まる演習の概要を解説する。その後、看護、PT、OT混成のチーム(8~10名)に分かれ、提示された臨床課題(臨床の実症例)に関してまず問題点や疑問点を列挙し、分担して調査の上議論する。その後、各々の専攻分野からのアプローチを提唱し議論する。3、4チームに一人教員が配置されるが、チュートリアル教育様式であるため直接教えるのではなく議論の円滑な進行を促す役割を負う。中間報告・レポート作成の後、最終日にはすべてのチームが体育館に集合し、ポスター形式で当該症例のサービス計画を発表する。この時、学生がチーム相互の評価を行うとともに、全教員も参観しコメントを述べ評価する。	4年後期
	英語Ⅰ	高等学校で学んだ基本的事項を確認しながら、さらに高度な英文の文化に触れるとともに、まとまりのある文章の概念や要点をできるだけ速く、多く読み取るという高度な読解力を養い、目的に応じた読みを可能にすることを目的として学習する。	1年前期
	英語Ⅱ	1)保健・医療・福祉系の英語の文章を読む練習をする。 2)保健・医療・福祉系の英語のリスニングの練習をする。 3)理学療法・作業療法の分野の基本用語を辞書やインターネットを使って調べる。	2年前期
	英語Ⅲ	英語による日常的なコミュニケーション力の向上に加え、医療のさまざまな分野で使用されている特有の専門用語や英語表現を習得し、将来的な仕事の場で使える英語のコミュニケーション力を養う。同時に、医療従事者としての基本的な考え方や態度を養うことやコミュニケーションの基礎となる異文化への理解を深めることも視野に入れて学習する。将来的な職業的ニーズに即して必要となるであろう英語によるコミュニケーションを円滑に行う力を養う。	2年後期
	中国語	中国語の基礎的知識を学習するとともに、中国の文化についても触れながら日常的なコミュニケーションを身につけることを目指す。	1年前期
	韓国語	韓国語の文字と発音および基礎的な文法を学習するとともに、韓国の文化についても触れながら、日常的なコミュニケーションを身につけることを目指す。	1年後期
人間と文化	文学	文学の概念と日本の代表的な韻文を中心に学習する。様々な形態の韻文を味わいながら、文学的価値を学習することを通して、時代背景や個々の文学の特徴をとらえるとともに、そこから日本の伝統美、ことばの美しさ、ことばのリズム、日本人の美意識について理解するとともに文学の基礎的な力、感性を養い、その過程で表現する能力を身につけるよう学習する。	1年前期
	教育学	教育の意義と基本的な事項、課題を理解し、現代社会に生きる子どもと大人の教育環境のあり方を考える。具体的には、公教育と教育環境の理念、学校教育と社会教育の制度、特別支援教育、学校の教育課程、安全教育、学校給食、生涯学習の推進、幼児教育の動向、そして人権教育について、国内外の事例を参照して学習する。	1年後期
	文化人類学	我々人間が無意識のうちに認識し実践している文化は、社会によって極めて多様であり、ある社会にとっての常識が別の社会ではそうではないことがめずらしくない。文化人類学とは、そのような文化の多様性を認識しつつ、共通の理解が可能な普遍性も求めていく学問である。授業では、毎回一定のテーマに沿って様々な文化的事象について解説し、文化人類学の考え方について学ぶ。	1年前期
	国際関係論	国際関係論の学問的背景を理解し、国際的な課題や問題を理解するうえで基本となる諸概念について学習する。国際社会が抱える諸問題のうち、特に私たちが安全・安心、かつ、健康に暮らしていくための諸課題(対立と紛争、人口、食糧、水、貧困と格差、地球環境など)を国際的見地から考察し、国際社会の取組み、国際協力のあり方について学習する。	1年前期
	国際保健医療論	進行するグローバル化の中で、世界の医療分野で活躍できるような人材を育成するために、先進国と新興国における保健医療の実態と主体的関わり方を学ぶ。また、WHOの役割とその実際の成果を学ぶ。ワークショップを通して日本の看護師、理学療法士、作業療法士が特にアジアやアフリカの開発途上国で何が出来るかを考え(援助の方法)、まとめる。	1年後期
音楽論	芸術領域である音楽を広く理解し、特に人々の健康のために音楽を活用する「音楽療法」の知見を学ぶ。具体的には、音楽が持つ働き(生理的、心理的、社会的働き)を学修し、心身の障害の回復、機能の維持改善、生活の質向上等にむけて音楽を意図的・計画的に用いて支援する具体的な方法の基礎を学修する。	1年後期	

人間と健康	社会福祉論	現代社会における社会問題や生活課題を取り上げ、福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係、福祉ニーズと社会資源、社会福祉専門機関や専門職の役割を学ぶ。また様々な福祉領域の制度政策、実践方法にはどのようなものがあるのかなどについて基本的な学びを深める。さらにこれからの福祉のあり方についても考察することで、保健医療福祉分野での自身の専門職としての役割や専門性についても考察する。	2年後期
	障害者スポーツ	この授業は、座学(6週間)実技(7週間)から構成される。座学では、「しょうがい」の表記に関する考え方、障がいの臨床像やパラリンピック、国内で行われている障がい者スポーツの競技を視覚教材などを使用して説明すると共に、障がいの有無に関わらず、すべての人がスポーツ参画に繋がる考え方や工夫についても説明をする。実技では、座学で学習した内容を基にいくつかの障がい者スポーツを体験する。	1年通期
	レクリエーションスポーツ	年代、体力、障害等を考慮した身体運動の必要性及び指導上の注意事項に関する基礎的知識を理解する。高齢者を対象としたQOLを高めるための測定、体操、各種ニュースポーツの基礎的能力を身につける。	1年通期
人間と情報	情報リテラシー	学習においてコンピュータを有効に活用するための能力(コンピュータリテラシー)を身につける。現代社会における情報モラルと情報セキュリティを理解し、ICT(Information and Communication Technology)を利用して、情報を収集・活用していくための方法と技術を修得する事を目的とする。	1年前期
	研究法入門	科学技術の発展に伴い研究手法や治療法は多様化しています。将来、臨床現場、研究機関で働き、より良い医療を患者さんに届けるためには研究に関する視点、知識を養う必要があります。研究立案(クリニカルクエスト)、論文検索、研究デザイン、倫理指針・法律、統計、研究計画書)、研究費獲得から成果公表(学会発表、論文、特許)に至るまでの過程に必要な基礎知識を講義、演習を通じて学びます。また、机上論だけでなく、担当教員の経験に基づいた実際の事例とともに授業を行います。	1年後期
人間と環境	公衆衛生学	公衆衛生の概念及び歴史を踏まえて、健康の指標、人口問題と公衆衛生、衛生統計、疫学、医療・保健・福祉における衛生行政、労働衛生および環境衛生・公害及び公衆衛生の国際協力等について学習する。また、疾病予防と健康管理、地域保健と衛生行政、学校保健、産業保健および健康成立の要因と保健活動、人間を取り巻く環境と公衆衛生活動の意義と役割と組織的な公衆衛生活動について学習する。	2年前期
	保健行政論	保健医療福祉行政の基礎知識、地域における健康問題とその解決に必要な社会資源と保健医療福祉サービスおよびその評価・調整する基礎的な方法について学習する。特に保健医療福祉行政の根拠、保健医療福祉行政の目指すもの、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションを中心に、保健医療福祉における課題と政策の発展について学習する。	2年前期
	法学(含日本国憲法)	我が国の法の核である日本国憲法を中心に我が国の法体系全体と法の仕組みとはたらきを学習する。また、大学生が教養として持つべき基本的な法に関する知識について学習する。その際必要に応じて、現実起こった問題に対して自ら考察できるように、民法、刑法などの重要な法律の概要および裁判員制度などを含めて学習する。	1年前期
	生物学	生物学は、近代科学の方法論と手法により生物そのものにとどまらず、生物が示す様々な生命現象を明らかにすることを旨とする学問である。現代の医学・薬学分野の発展は、生命現象の分子レベルでの理解と遺伝子工学や細胞工学などのバイオテクノロジーの発展によるところが大きい。従って、医学・薬学を理解する上で、生物学の知識は必須のものである。本講義では、生物学(生命科学)の基礎知識を概説し、バイオテクノロジーの原理を理解し、それらがどのように医療分野に応用されているかについて学修する。	1年前期
	物理学	力学、電磁気学、波動の分野について、自然や身の回りの事象を理解するための物理学の基本事項を学ぶ。	1年前期
	生化学	人体の生命現象を化学的方法で解明するために、生体を構成する糖質、脂質、タンパク質等の物質を理解すると共に、それらの生体内の物質代謝とエネルギー獲得、および遺伝情報とその発現について学習する。	1年後期
	環境論	環境保全は21世紀に生きる人類にとって、その存亡をかけた最大の問題である。環境問題とは何か。環境保全の歴史、環境問題が地球全体にかかわる問題であることを学習し、その問題にどう対処するかを現代人として論考できる能力を養う。	1年前期
	放射線概念	臨床現場で必要とされる放射線の知識および放射線治療総論、放射線による障害と防護や放射線の身体への影響について学習する。さらに放射線画像の基礎を学習する。また、発がんへの心理的・社会的問題についても学ぶ。	1年後期

人間の 本質と 尊厳	哲学	文明の発祥から現代に至るまでの東西を問わず先人の哲学思想を通して、人間とは何か、生きるとは何かについて思索する。「哲学を学ぶことの意義、科学と宗教と哲学、私であるということ、物質と生命の神秘、身体と精神、自由、および美しく善く生きること」等の学習内容を通して、「生きること」や「存在の意味」について、主体的に深く思索する姿勢と建設的批判力を身につけ、自己の人間観や世界観を醸成できることを目的とし、幅広く人間を理解する能力を養う。	1年後期
	倫理学	倫理学は私たち人間の「よい（善良な）生き方」および「幸せな生き方」について考える学問である。しかも自分だけの「善良（幸福）な生き方」ではなく、「倫」という語が意味する「秩序ある人間関係」、すなわち社会全体が混乱せず、より「よく（幸福に）なる」ために各人はお互いにごう行動すればよいかについて考える学問である。これらをとりわけ医療分野における問題を例にしながら、医療における善悪の判断の基準や根拠について学習する。	1年前期
	社会学	社会的行為、社会的集団、地位と役割、文化などの社会学の基本概念を理解するとともに身近な社会現象である家族や職場、地域社会、健康問題、福祉、倫理問題など、現実の社会や社会問題がどのように捉えられ、理解されているかを学習する。さらに社会的・文化的な性差である「ジェンダー」が私たちの社会・文化の中でどのように現れているか学ぶ。	1年後期
	心理学	心理学は、人間の行動の法則性に関する科学である。本教科では、知覚、欲求、思考、学習、人格、カウンセリングなどの心理学の基礎から、発達の心理・医療と心理学について学習する。さらに、錯覚、記憶、学習、集団心理、性格検査、知能検査等についても学習する。	1年前期
	発達心理学	人間の一生という全行程を発達のプロセス、すなわち人は発達し続ける存在としてとらえ、人間への深い理解と愛情を育むことができるように、心身の発達および人格の成熟、発達課題と諸問題について学習する。具体的には、社会的存在としての人びとの生涯的な発達過程を主としてライフコース論の視点から整理し、社会の変動と人びとの人生コースとの関連について学習する。	1年後期
	ボランティア学	少子高齢化や地方自治の深化に伴い、市民の自発的な活動（ボランティア活動）に対する期待や関心が高まっている。その領域は、従来の福祉や国際協力だけでなく環境や災害救援、まちづくりなど多岐に渡っており、非営利ではあっても無償ではない事業型NPOやコミュニティ・ビジネスも増えている。本講義では、そのようなボランティアの変化や意義を、時代背景から読みとぎ、受講者自らも行動できるような素養・知識の修得を狙いとする。	1年後期
	生命倫理学	現代医療は生命倫理の土台の上に成り立っている。この講義では、生命倫理学の成立の歴史を含め、医療人として必要な生命倫理学の基礎的知識や倫理綱領について学習する。また、医療技術の進歩に伴い生じる生命倫理上の重要ないくつかの問題を取り上げることにより、その本質や最近の動向を理解するとともに、それらについて医療職が果たすべき役割を学ぶ。	1年後期
人体の 構造と 機能 および 心身の 発達	解剖学Ⅰ（骨・筋）	本講義では、まず解剖学を学ぶ上で心構えについて概説する。学生は医療人として必要なヒトのからだに対する畏敬の念を身につける。解剖学のうち、運動器系における受動運動器である骨格について系統的叙述を行う。全身の骨格について骨をどのように観察するか、また全体の中でどんな位置を占めているか、その形・外観・大きさ等の形態的な特徴と骨の連結を説明できるように学ぶ。また、関節の構成体である靭帯・腱・筋の基本的構造（形態）および部位ごとの特徴について学ぶ。	1年前期
	解剖学Ⅱ（神経）	本講義では中枢神経系の生成・発達・構造・仕組み・働き等について学ぶ。神経組織学、神経系の発生、脊髄、脳幹、小脳、大脳基底核、間脳、大脳皮質、脳室系、脳と脊髄の血管についてその概要を講義する。さらにまとめとして感覚系の神経回路、運動系の神経回路について講義する。解剖学Ⅰの内容と併せて、ヒトの運動の機序について学ぶ。	1年前期
	解剖学Ⅲ（内臓器）	本講義では、内臓器の構造と配置を理解する。また自律神経系との関連を理解する。解剖学Ⅱの内容と併せて、身体の各器官を調節する神経系と影響する循環器系を中心に、内臓系全般の基本的な成り立ちと構造について学習する。学習する内容は、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系である。内臓系は解剖学のみならず臨床医学とのかわりも深い。したがって、本講義では医療人を目指す上で実施されるさまざまな学習の基盤として必要不可欠な人体解剖学の知識を修得する。	1年後期
	解剖学実習	解剖学Ⅰ～Ⅲで学んだ知識を実際の標本で確認していく。標本としては骨標本、臓器標本、四肢標本、脳神経標本などを活用し、その精巧な形態と多様性について教授する。さらに顕微鏡標本の観察を通して、人体諸器官の微細構造とその基本的な機能を考察する。解剖学Ⅰ～Ⅲで学習した系統解剖学的な知識を深め、人体構造を総合的に理解・習得する。解剖標本を自ら手にとり観察することによって、人体各器官の位置関係や構造を立体的に学習し、それらを局所解剖学的に説明できるようになる。	2年通期

生理学Ⅰ	細胞、組織、器官、個体レベルにおける固有機能、固有機能が統合されたシステムとその調節機構、それらの相互作用により生体の内部環境が一定の範囲内（正常）に維持されるためにどのような制御機構が働いているかを理解する。	1年前期
生理学Ⅱ	生理学Ⅰの内容と併せて、生体の器官系が固有の機能を有することを学ぶと共に、それらの間の調節統合機構を学び、生命現象に関わる専門教育に必要な基礎知識、学力を向上させる。	1年後期
生理学演習	生理学Ⅰ・Ⅱで学んだ内容を実験を行うことで確認し、その知識を深める。生命現象のメカニズムについて実際に観察する機会であり、実習をすることによって科学的な考え方を身につける。実習内容は、味覚、触覚、聴覚等の感覚機能測定、血糖値、乳酸値の生化学的検査、消化液の作用を理解する実験等である。	2年前期
運動学Ⅰ	人間の運動を力学的、解剖・生理学的面から総合的に理解するために、運動学の歴史、力学的基礎、人間の身体構造や生理機能について理解する。身体運動に関わる生体の構造や機能を力学的視点で捉え、重力や負荷に対して各関節の動きを、関与する筋がどのように働いて実現するかを理解し、日常生活での基本的姿勢や動作について考察できるようにする。	2年前期
運動学Ⅱ	呼吸・循環、エネルギー代謝、運動処方などの運動生理学や、神経系による運動学習・運動制御機構について学習する。また、ひとの日常生活に深く関わる上肢・手の運動学について学習する。さらに、寝返り・起き上がり・立ち上がりなどの基本動作を含め、ひとの運動を発達の側面からも捉えることを目指す。	2年後期
運動学演習（応用）	筋骨格系（四肢・体幹）と中枢神経系（脳・脊髄）の運動学を統合し、基本動作および日常生活活動における身体運動メカニズムと運動制御機構を学習する。また、脳卒中や脊髄損傷患者を想定して演習を行い、臨床運動学の視点を培う。	3年前期
人間発達学	人間発達学は、人間の発達を身体・精神の両面から学ぶ科目である。本講義では主要な発達の法則と理論を紹介し、新生児から成人にいたるライフステージごとの精神的発達と身体運動機能の発達について概説する。一連の講義を通じて、胎生期から老年期までの発達について、身体発育、運動発達、認知発達、言語発達、情緒・社会性の発達などの各発達領域における発達過程と、それぞれの発達時期における発達課題等を学習する。	1年後期
リハビリテーション栄養学	五大栄養素の働き、栄養素と食品との関係、食事摂取基準と食生活、食生活と生活習慣病の関係について学び、栄養面からみた健康維持および健康増進、疾病予防についての基礎を学習する。また、障害（児）者や高齢者、若年女性の低栄養、フレイル、サルコペニアの予防・改善のための評価、栄養学的介入について学習する。	2年前期
臨床薬理学	医薬品の基本的な情報を正確に理解するための基礎知識として、薬物の生体内での吸収・分布・代謝・排泄の流れ、薬物の生体内での主作用と副作用、薬物間の相互作用、薬物と食物の相互作用について学ぶ。また、薬物使用時のリスクマネジメントについて学ぶ。	2年後期
臨床心理学	臨床心理学は、個人の行動障害や適応困難を心理学的知識と技法に基づいて測定・分析し、解決することを目的とする応用心理学の一分野である。本講義では障害理解の基礎として主要な人格理論を教授する。また人々の精神的健康の回復・保持・増進について講義する。学生は精神疾患や心身症、精神心理的問題・不適応行動などの病態、原因、診断法について理解する。さらにこれらの患者障害理解の手段としての心理検査や心理療法などの援助技法について教授する。	2年前期
病理学	病理学とは病気の原因、発生機序の解明や病気の診断を確定するのを目的とする、医学の一分野である。本講義では疾病において出現する形態と機能および代謝の異常について教授する。具体的には、退行性病変、循環障害、炎症、腫瘍、感染症、奇形といった基本病変の定義や病態について教授する。本講義を通じて、疾患の原因（病因）や機序（病態）を理解し、それらの形態学的変化（病理形態像）を知ることで、リハビリテーション医学の基礎を身につける。	2年前期
内科学Ⅰ	内科学では、全身の疾患の概念、病態の成立機序について学ぶ。内科Ⅰでは主要兆候・症候、病態、呼吸器疾患、アレルギー、感染症、循環器疾患などの概念について学習する。	2年前期
内科学Ⅱ	内科学では、全身の疾患の概念、病態の成立機序について学ぶ。内科学Ⅱでは、血液疾患、悪性腫瘍、膠原病、消化器疾患、代謝・内分泌疾患、糖尿病、などについて学ぶ。	2年後期
整形外科Ⅰ	整形外科における運動器の形態、機能、病態生理と評価、検査、治療方法、および総論的主要疾患等について、リハビリテーションに必要な基礎的知識と概念を獲得する。整形外科Ⅰでは、骨の構造・発生と成長・修復と再生・加齢変化、問診・視診・触診、基本的検査（検体検査・画像検査・生体検査）、薬物療法、固定法、装具、牽引療法、骨の手術、関節の手術、切断・離断、末梢神経の手術、軟部組織感染症、急性化膿性骨髄炎、慢性化膿性骨髄炎等について講義する。	2年前期
整形外科Ⅱ	整形外科における運動器の形態、機能、病態生理と評価、検査、治療方法、および総論的主要疾患等について、リハビリテーションに必要な基礎的知識と概念を獲得する。整形外科Ⅱでは、骨折の定義、分類、症状、診断、合併症、治癒、治癒後の合併症、捻挫と脱臼、挫滅症候群、肩関節部の骨折と脱臼、上腕骨骨折、肘関節部の骨折と脱臼、前腕骨骨折、手の骨折と脱臼、胸郭の外傷、骨盤の骨折、股関節部の骨折と脱臼、大腿骨骨幹部骨折、膝関節の骨折と脱臼、下腿骨骨折、足関節部の骨折、足部の骨折等について講義する。	2年後期

疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進	精神医学Ⅰ	精神医学の概念と関連領域（精神科医療の歴史、精神障害の定義・分類、精神機能の障害と精神症状）、精神障害の診断と評価（診断・評価の方法、各種検査法）、統合失調症・気分障害・神経症性障害とストレス関連障害・器質性精神障害・精神作用物質による精神および行動の障害・パーソナリティ障害・てんかん等の病因、病態、臨床経過、治療、転帰等、薬物療法、心理社会的療法等を学ぶ。さらに、精神医療関連の法制度（刑法等）や、リエゾン精神医学とチーム医療等もあわせて学ぶ。	2年前期
	精神医学Ⅱ	精神医学Ⅰに引き続き、各種の精神障害を概説すると共に、統合失調症・うつ病・認知症等の代表的な精神疾患を有する事例を通して、多様な発病過程と臨床経過の理解を促す。また、精神障害者の地域生活の実態を知り、地域精神保健活動のあるべき姿を理解する。さらに、精神障害者の処遇と医療の歴史、精神保健福祉法、障害者自立支援法に規定される保健医療福祉、精神障害者の就労支援施策等もあわせて学習する。	2年後期
	神経内科学	神経内科学では神経症候および代表的な神経・筋疾患（パーキンソン病、パーキンソン症候群、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、脊髄性進行性筋萎縮症、多発性硬化症、脊髄空洞症、ギランバレー症候群、正常圧水頭症、筋ジストロフィー、重症筋無力症、多発筋炎、他）、脳血管障害（定義と分類、疫学、脳血管の解剖と生理、脳出血、くも膜下出血、脳梗塞、一過性脳虚血発作、他）を取り上げ、それらの病態・診断・治療および予後について知識を教授する。	2年後期
	小児科学	小児科学では基本となる小児の正常発達と療育・リハビリテーションの考え方を解説した後、代表的な小児疾患の病態、診断および治療について講義する。特に、リハビリテーション医療の対象となる疾患について重点的に述べる。代表的な疾患として、脳性麻痺、二分脊椎、悪性腫瘍、遺伝子病・系統疾患（骨端症を含む）等について、疫学・予後、病理・症状、評価・検査（画像・生理検査等）・診断、リハビリテーション等、関連する治療学を学ぶ。	2年前期
	脳神経外科学	脳神経外科で扱う疾患の概要を示したうえで、その画像診断法、各種病態と機能、更には主な脳神経外科疾患の各論を教授する。	2年後期
	リハビリテーション医学	リハビリテーション医学では、まず基礎となる学問体系を概説し、次に対象となる疾患や障害に対する診断や治療の進め方を解説する。医学全体における障害者治療の位置づけと意義を理解させる。総論として、リハビリテーション医学の定義と歴史・特徴、リハビリテーション医学における障害の診断と評価、機能障害・活動制限・参加制約の各々の評価とリハビリテーション、各種リハビリテーション治療、廃用症候群（疫学、病理・病態・症候、評価・検査、リハビリテーション、その他の治療）等を学ぶ。	1年後期
	一般臨床医学	医療者に必要な医学的知識を深める。ここでは、臨床医学として習得すべき耳鼻咽喉科学、皮膚科学、泌尿器科学、婦人科学などの疾患を中心に、その特徴と診断・検査（画像・生理検査等）・治療について理解する。総合診療科の役割、泌尿器疾患、めまい、視力・眼科診療、皮膚疾患・皮膚科診療、婦人科疾患、周産期医療等について、テーマ別にオムニバス方式で学習する。	2年後期
	老年医学概論	老化の及ぼす身体の変化と疾患について講義し、老年病を包括的に理解し、その予防と治療およびその社会的な意義を知る。老年症候群、認知症、脳血管障害、うつ、心不全、末梢循環障害、老人性肺炎・誤嚥性肺炎、慢性閉塞性肺疾患、悪性腫瘍、変形性関節症、骨折、骨粗鬆症等の疫学・予後、病理・症候、評価・検査・診断、リハビリテーションとその他の治療について学習する。さらに睡眠障害、摂食・嚥下障害、感覚器障害、終末期のケア等についてあわせて学習する。	3年前期
	救命救急学概論	救命救急医療の概論と基本的な救急処置について講義する。また、一般市民も行える救急蘇生法（救急手当）や救急蘇生法以外の手当（応急手当）を理解、修得する。急変時、救急処置の必要な患者さんの対応を医療従事者として理解、修得する。	3年後期
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	リハビリテーションの歴史と理念および医学的リハ、社会的リハ、職業的リハ、教育的リハを推進するうえでのICFの視点、多職種連携の意義とその有り様、地域包括ケアシステムとの関連性について教授する。具体的にはノーマライゼーション、障害者の自立を目指す就労支援や自立支援の在り方、さらに地域リハビリテーションではCBRの理念を踏まえた地域包括ケアシステムとの関連性を解説し、リハビリテーションマインドに基づく理学・作業療法の展開を教授する。	1年前期
	医療制度と関連法規	理学療法士または作業療法士としての職責を遂行するための基本的な法規の内容を理解するために、保健医療福祉制度（主としてリハビリテーション専門職に関係する保健医療制度）に関連する主要な法律と保険の基本的枠組みについて講義を行う。	1年後期
	終末期医療論	主にがんと悪性腫瘍に対する終末期を対象とする。日本におけるターミナルケア、緩和医療の進歩と課題を学ぶ。各個人によって異なる「終末期」を支援するために、考慮すべきことは何か、実践すべきことは何かを理解する。また、医療全般にわたる緩和医療・緩和ケアの介入の必要性について理解し、よりよい終末期医療、患者及び患者家族の支援について考える。	3年前期

基礎作業療法学	作業療法基礎ⅠA	大学で学ぶために必要なスタディスキル、アカデミックスキルを習得する。大学生の現状や諸問題を取り上げ、求められる学士力と学習方法について検討し、学習が円滑に進むようにする。	1年前期
	作業療法基礎ⅠB	臨床実習における事前演習を通して初年次に行われる見学実習（作業療法）の目的や概要、健康管理、身だしなみ、態度や倫理綱領、記録の仕方などを学ぶ。	1年前期
	作業療法基礎ⅡA	評価実習や臨床実習、国家試験対策の基礎となる、解剖学・生理学の予習・復習となるように、知識の整理および知識を結びつけることにより、覚えるだけでなく臨床に活かした知識の習得を促す。また、これらの科目の重要性を理解できるよう、他の臨床医学とのつながりも示しつつ、自ら興味を持って学習するように授業展開する。	1年前期
	作業療法基礎ⅡB	評価実習や臨床実習、国家試験対策の基礎となる、解剖学・生理学の予習・復習として知識の整理および知識を結びつけることにより、覚えるだけでなく臨床に活かした知識の理解を促す。また、これらの科目の重要性を理解できるよう、他の臨床医学とのつながりも示しつつ、自ら学習するように授業展開する。また、触診や国家試験の過去問の解答作成など学生の学習力を上げる。	1年後期
	作業療法基礎ⅢA	作業療法基礎ⅢAでは国家試験を題材にし、基礎医学の解剖学・生理学・運動学に加え、臨床医学の総復習を行う。内科学、整形外科学、神経学、病理学、リハビリテーション概論・リハビリテーション医学、精神医学、心理学について、各科目の知識を総合的に関係づけて活用できるようにする。	3年前期
	作業療法基礎ⅢB	作業療法基礎ⅢBでは作業療法の専門科目について、各専門領域の知識を総合的に関係づけて活用できるようにする。	3年前期
	作業療法概論	作業療法とは何か（定義）、作業療法の歴史の変遷、実践の目的、方法、社会の変化に対応した対象・領域、専門職としての役割について学ぶ。また、国際的な作業療法の潮流も学習し、より国際的な視点も育む。講義の中では視覚的メディアを介した具体的な作業療法の実践場面を示すと共に、対象者の捉え方の視点や障害を抱える方に対する職業人としての責任や倫理観の重要性を学習する。	1年前期
	作業療法理論	作業療法に関わる理論を理解することは、臨床実践での治療的妥当性とその手引きとなる。これまでの様々な作業療法理論の歴史の変遷を探求し、作業療法実践での思考過程とその妥当性・再現性について理解する。いくつかの理論の成り立ちと根拠について、臨床実践との相互関係を検討しながら各種理論の関連性について総合的に学ぶ。作業療法の医学的根拠に基づいた新たな理論構築へ向け、基礎となる臨床研究法と統計学的分析過程についても理解する。	3年前期
	基礎作業学	作業療法士が介入手段として用いている作業活動が、人の生活とどのような関わりと治療的意味をもつのか、また、どのように治療的利用が実践されていくのかを学習する。さらに、治療的実践に活かす作業活動の重要性を学習する。この授業を通して、作業療法の対象となる多種多様な背景をもった人々に対して、より適切かつ効果的な作業活動を提供するための基本的な視点や考え方を学ぶ。	1年前期
	作業技術学Ⅰ（レクリエーション・革細工）	作業活動として実践場面で活用されている革細工を安全に行うための一連の作業工程を実際に経験し、講義及び作品を通して技法の基本を学ぶ。また、集団で行うレクリエーションの企画・運営を行うことで、コミュニケーション、集団の働きや役割、他者との協働を経験し、その役割を学ぶ。	1年前期
	作業技術学Ⅱ（陶芸・織物）	作業活動としての実践場面において頻りに活用されている陶芸・織物の技法について一連の工程を実際に経験する。作業課題による治療的技法の基本（手順と道具の使用方法・各種技法、安全管理等）を修得すると共に、対象者のスキルに則した作業活動の選択と治療的利用の仕方、基本的活動分析、指導方法を実技学習を通して学ぶ。また、異なる作業課題を経験することで、各種作業の共通性と相違性の理解を深め、より効果的な治療的利用に結びつけるための基礎知識を得る機会とする。	1年後期
	作業技術学Ⅲ（手工芸）	作業活動としての実践場面において頻りに活用されている各種手工芸の技法について一連の工程を実際に経験する。作業課題による治療的技法の基本（手順と道具の使用方法・各種技法、安全管理等）を修得すると共に、対象者のスキルに則した作業活動の選択と治療的利用の仕方、基本的活動分析、指導方法を実技学習を通して学ぶ。また、異なる作業課題を経験することで、各種作業の共通性と相違性の理解を深め、より効果的な治療的利用に結びつけるための基礎知識を得る機会とする。	2年前期
	作業分析学	作業の仕方は、同じ作業活動を行う場合でも動作や行動が変化し、その変化が身体・運動学的に与える影響・効果と心理・精神的に与える影響・効果を分析し理解することで、どのような作業活動をどのように行っていくかを設定することで、目的とする効果を確実に達成させる技術の基本を学習し理解し応用できるようになる。	3年前期
	統計学	本講義では仮説をデータに基づいて統計的に検証したり、データ解析の結果から、新たな事実を発見したりするときに役立つ統計的手法を身に付ける。講義はデータの整理の仕方、平均、分散等を求める記述統計学より始め、確率、母集団、標本抽出、確率分布を学び、最終的に推定、検定といった推測統計学を解説、演習する。本講義は、理学療法学研究法、作業療法研究法、卒業研究の基礎となる科目である。	1年後期
作業療法研究法	研究の定義、研究の倫理・管理、研究の種類、基本的な流れとデータの処理・解釈の手法等、作業療法領域での研究法の基本を学ぶ。この科目を通して、科学的根拠や臨床的な裏づけの重要性を理解しつつ、実践現場での問題解決の手法として研究法を用いることができるよう、基本的な知識・技術を修得する。また、研究発表の種類や具体的な方法についても学び、研究発表会に向けて必要な知識・技術・コミュニケーション能力の向上を図る。	3年前期	

	作業療法研究法演習	作業療法研究法での学びを基に、実際の研究がどのように計画され実行されていくか、その基本的な流れについて演習を通して学習する。具体的には、文献検索、研究テーマの整理、論文の読み方、研究疑問の設定、研究計画書の作成、介入研究に関連する倫理的配慮の重要性等を演習により学習する。一連の演習を通して、研究に必要な考え方や実施方法についての理解を深め、作業療法研究を円滑に進めるために必要な知識や技術を身につける。	3年後期
作業療法管理学	作業療法管理・運営Ⅰ	作業療法技術の向上だけでなく、より質の高い作業療法を提供するため、保健、医療、福祉に関する制度の理解を深め活用できるようにする。この科目では、作業療法に関する、関連法規（医療保険、介護保険制度）など作業療法部門を管理運営するための基本的な知識とその活用を学習する。	3年後期
	作業療法管理・運営Ⅱ	作業療法士に求められる職業倫理について学習し、人事を含む作業療法等の組織運営に関するマネジメント能力を養うとともに学生・作業療法士の教育を含む職場管理についての理解を深める。	4年後期
作業療法評価学	作業療法評価学概論	作業療法における評価の目的や意義、評価の役割について理解するため、カルテなどからの医療情報収集（画像評価を含む）、観察、面接方法、検査測定の結果の読み方について講義する。	1年後期
	作業療法評価学（身体Ⅰ）	作業療法評価の中で、身体障害領域に関連した一般的な評価法について、評価目的と適用対象を明らかにして、実技演習を通じた各種評価の手技を演習して学ぶ。学習対象とする評価手技には、バイタルサイン、循環・呼吸、関節可動域計測（ROM）、脳神経・脊髄反射、筋緊張等の他、身体障害領域で重要な身体各部位のX線、CT、MRIなど画像評価を含む評価技法を、想定される臨床の場で適切に実践・実施できるよう学習する。	2年前期
	作業療法評価学（身体Ⅱ）	感覚、姿勢・バランス、協調性、上肢機能などに関する基本的な評価法について、その目的や適用対象、課題や目標への思考・判断過程を演習して学ぶ。さらに、姿勢や動作を観察・分析し、筋の活動や関節の運動を、脳脊髄を含む身体各部位のX線、CT、MRIなど画像評価と関連付けて推測する技術を学ぶ。	2年前期
	作業療法評価学（精神）	作業療法における精神面に焦点をあてた一般的な評価について学ぶ。具体的には、自己概念・対人関係、社会的問題解決能力、感情・性格、コミュニケーション等の評価や、集団の評価、精神科疾患系の評価等が含まれる。また、評価技法としての面接・観察法を用いた評価演習を行い、その技能を身につける。さらに、日常生活技能評価、興味チェックリスト、投影法、交流分析、箱づくり法、職業関連評価、社会機能評価等についても学ぶ。	2年前期
	作業療法評価学総合演習	臨床実践で安全かつ効果的な臨床実習を行うため、臨床実習における対象者への接遇態度、安全管理・感染症対策等、臨床実践で求められる実習生としての基本的姿勢や基本的評価技術について総合的に修得する。この科目を通して、基本的姿勢や各種の観察、面接、検査・測定などについて、各々が習得状況を確認することで、臨床実習に備えて自らに必要な課題を明確にする機会とする。	3年後期
	身体障害作業療法学Ⅰ（総論・中枢神経系）	作業療法の対象となる身体障害のある者の範囲、作業療法の役割、障害とその介入・治療方法の基本を理解する。その上で、代表的な作業療法の対象疾患である脳血管障害などの中枢神経系疾患や、複雑な病態や障害を示す頭部外傷を中心に、評価から介入への一連の作業療法実践過程の基本を学ぶ。また、医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進を円滑に進めるための呼吸や嚥下に伴うリスク管理としての喀痰等の吸引の技術等を理解する。	2年後期
	身体障害作業療法学Ⅱ（整形外科系・変性疾患）	これまでに学んだ身体障害領域の作業療法の基本をもとに、整形外科系疾患、脊髄損傷、呼吸器疾患、心疾患、神経変性疾患・がん（ターミナルを含む）等、評価から介入への一連の作業療法実践過程の基本を学ぶ。各種疾患への具体的な実践技能の基本が修得できるよう演習も積極的に行う。一連の経験を通じ、整形外科系の各種疾患や変性疾患を対象とした具体的な訓練方法や種々の介入方法に関する理解を深める。	3年前期
	身体障害作業療法学Ⅲ（応用）	主に中枢神経系に疾患や障害のある対象者への基本的な身体障害作業療法プログラム（関節可動域訓練・筋力増強訓練・バランス訓練・上肢機能訓練など）と、エビデンスに基づいたリハビリテーションの適用過程について、実践的に学習する。さらに、医学的リハビリテーションの立場からICFを解釈し、「活動と参加」の拡大を目指した目標（課題）指向型の作業療法戦略（基本方針・目標設定・プログラム）を立案・計画するための演習を行う。	3年後期
	精神障害作業療法学Ⅰ（総論）	精神障害に対する保健医療福祉の歴史的変遷や障害の捉え方、この領域におけるリハビリテーションの発展と作業療法が果たす機能・役割、治療構造などを踏まえた評価から治療・援助へ至る一連の作業療法の流れを体系的に学習する。また、代表的な理論・モデル・技法の基礎知識を修得すると共に、主たる対象疾患の臨床像を理解する。さらに各疾患における適切な作業療法の評価法や治療、指導、援助内容、実践領域や場について理解を深め、作業療法の役割を学ぶ。	2年後期
	精神障害作業療法学Ⅱ（各論）	精神障害作業療法学Ⅰ（総論）で学んだ知識をもとに、対象者に対する疾患別・障害別の評価や治療技法について演習や実技を通して、その知識・技能を深める。評価では、情報収集や記録・報告、観察、面接、質問紙を用いた評価法の実践技能を修得する。治療技法については作業活動や集団療法、心理教育や家族支援、SST（生活技能訓練）等について、目的や方法を理解し治療プログラムの立案が出来るように学習をすすめる。	3年前期

発達障害作業療法Ⅰ（総論）	発達障害における対象と障害像を理解し、作業療法士に求められる役割について学習する。対象者をより深く理解するために、発達理論、発達過程と発達課題、代表的な評価・検査法、運動・反射・反応の発達、学習の発達、などを学ぶ。また、ライフステージに沿った支援のあり方、遊びの発達を学習し、発達障害における遊びの役割について考え、治療に应用するための基本的知識を身につける。さらにプログラム立案から実施までの流れの理解や、子どもを対象とする上での治療的関わり方の基本を学習する。	3年前期
発達障害作業療法Ⅱ（各論）	発達障害の作業療法における治療理論と実際の支援方法について学習する。とくに遊びの治療的応用とその効果について理解を深め、代表的な疾患・障害（脳性麻痺、神経筋疾患、学習障害、注意欠陥多動性障害、広汎性発達障害、知的障害等）について、その臨床像における治療的視点、治療計画の立案、介入の実際を学習し、治療の基本的技術について演習を通して修得する。また、発達段階とその段階における発達課題を理解し、玩具や遊具を用いた多角的な治療的介入の仕方について、実際の体験を通して理解を深める。	3年後期
老年期作業療法Ⅰ（総論）	急速な高齢化への対応が、社会全体での重要な課題の一つとなっている。この講義では、老年期障害の対象者を理解するため、人生のまとめの段階としての老年期の捉え方や、急速な高齢化の進展と高齢者・諸制度や家族の状況、老年期に特徴的な疾患、評価法と治療過程・介入方法とその理論、リスク管理などを通して、老年期作業療法の臨床実践で用いられる基本的知識や技術を修得する	3年前期
老年期作業療法Ⅱ（各論）	老年期障害の作業療法を対象別・病期別（高齢期に特徴的な疾患、認知症、うつ症状などの精神障害をもつ高齢者等）に学習する。特に認知症高齢者への効果的な支援方針に主軸を置いた、障害構造・行動特性等を含めた具体的な作業療法の臨床実践を実症例情報を介して学ぶ。症例検討はグループ別で実施し、症例についての検討内容を共有して情報交換することで、老年期障害への作業療法の視点や考え方についての理解を深める	3年後期
高次脳機能障害作業療法Ⅰ（総論）	脳血管障害や頭部外傷、認知症など、脳の病変や損傷によって引き起こされる認知障害は、さまざまな生活障害の原因となるため、作業療法目標の設定や治療計画立案時に考慮すべき重要な要素の一つである。作業療法士として臨床に必要な知識である高次脳機能障害の定義、症状と発現メカニズム、画像診断・症状・障害の見方とその評価、治療理論と具体的な治療方法等の基本を学ぶ。	3年前期
高次脳機能障害作業療法Ⅱ（各論）	臨床場面で実践できる高次脳機能障害に関わる各種検査の具体的な方法を学ぶと共に、評価や結果の解釈とその思考の流れ等を学ぶ。具体的な高次脳機能障害の症例を題材に検討し、評価・介入方法の立案や実践についてまとめる。得られた結果を基に、グループごとに発表・討論を通して実用的な着眼点を明確にする。一連の学習を通して、高次脳機能障害のある人々への理解を深めると共に、効果的な介入に向けた作業療法士の役割について理解を深める。	3年後期
日常生活支援論Ⅰ（総論）	日常生活活動（ADL）の基本的な概念と範囲、種々の動作と日常生活との関係、対象者を取り巻く環境と日常生活との関係について学ぶ。また、身辺処理、家庭生活・生活関連活動、社会活動へと広がりをもった視点で対象者の生活を捉えられるようその知識を習得する。さらに、各種のADL評価法や関連活動の評価法について学ぶ。また、起居動作について観察評価し、介助技法を習得する。	2年前期
日常生活支援論Ⅱ（各論）	日常生活支援論Ⅰ（総論）やこれまでの履修してきた他科目で学んだ内容を踏まえ、様々な生活障害を抱えながら暮らす人々に応じた支援が検討できるよう、Problem based learningの方法で事例から問題解決に向けて検討することで実践的に知識・技術を習得する。また、摂食・嚥下の理解を深め、吸引・吸痰の技術を具体的に演習する。	2年後期
義肢装具学	義肢装具の概念と作業療法士の役割、義肢に関する知識（評価を含む）、適用・訓練（上肢切断者への義手の適用・訓練）の基本を修得する。また、装具に関する知識（評価を含む）とその作成・適合技術の基本を修得する。さらに、各種補装具の支給に関わる諸制度について学ぶ。上肢の解剖・運動学的な基礎理論を確認しながら、具体的な手指・上肢の機能障害に対する装具治療学を学ぶ。総合して、義肢・装具の活用目的や導入の基本原則を理解し、装具の製作の実症例を通して作製技術と装着確認法を理解する。	3年後期
クリニカルリーズニング	クリニカルリーズニングとは、対象者の臨床的な問題を明確にしてその問題を解決するために、情報を収集、評価・分析しこれを統合・解釈し、より安全で効果的な臨床実践の根拠、筋道を考える思考と意思決定の過程である。実践事例を通して作業療法の基本的な臨床推論の過程を学び、治療計画作成や症例検討のなかで、「なぜその問題に注目したか」、「なぜその治療方法を考えたのか」、「なぜ他の方法を選択せずその方法を使用したのか」、「その根拠はなにか」といった視点で、対象者に最も適した介入を決定していく一連の過程を思考する力を修得する。	3年後期

作業療法特論Ⅰ（身体障害）	身体障害領域の作業療法における最近の知見、実践上注目されている課題や治療・支援方法など、現状での作業療法実践が注目するテーマを紹介して知見を広げ、報告や検討の中で明らかとした課題について授業討論し、現実的な課題解決の方法について考察する。一連の学習を通して、現況に即応したより実践的な知識・技術を学ぶ機会とし、身体障害領域への効果的な作業療法実践への理解を深める。	4年後期	
作業療法特論Ⅱ（精神障害）	精神疾患について、精神医学や評価から治療にかけての作業療法士に関わりについて復習を行う。また、作業療法における最近の知見、実践上注目されている課題や治療・支援方法等、現状での作業療法実践が注目するテーマを紹介して知見を広げる。一連の学習を通して、現況に即応したより実践的な知識・技術を学ぶ機会とし、精神障害領域への効果的な作業療法実践への理解を深める。	4年後期	
作業療法特論Ⅲ（生涯発達）	小児期から老年期までのライフステージを通じた作業療法実践で注目されている課題や治療・支援方法、作業療法の最新のテーマを紹介し知見を広げる。また、一連の学習を通して、現況に即応したより実践的な知識・技術を学ぶ機会とし、生涯を通じた効果的な作業療法実践への理解を深める。	4年後期	
作業療法特論Ⅳ（がん）	がん領域の作業療法における最近の知見、実践上注目されている課題や治療・支援方法等、現状での作業療法実践が注目するテーマを紹介して知見を広げ、報告や検討の中で明らかとした課題について授業討論し、現実的な課題解決の方法について考察する。一連の学習を通して、現況に即応したより実践的な知識・技術を学ぶ機会とし、がんのリハビリテーション領域への効果的な作業療法実践への理解を深める。	4年後期	
作業療法特論Ⅴ（高次脳機能障害）	高次脳機能障害領域の作業療法における最近の知見、実践上注目されている課題や治療・支援方法等、現状での作業療法実践が注目するテーマを紹介して知見を広げ、報告や検討の中で明らかとした課題について授業討論し、現実的な課題解決の方法について考察する。一連の学習を通して、現況に即応したより実践的な知識・技術を学ぶ機会とし、高次脳機能障害領域への効果的な作業療法実践への理解を深める。	4年後期	
作業療法研究	3年次の作業療法研究法・演習を基に、倫理審査申請書の指導と作成、研究計画の指導と作成、手順に沿った研究実施を担当教員指導の下で実施する。各学生は研究課題をまとめ、報告する。	4年通期	
作業療法学総合講義	これまでの学習の総まとめとして作業療法およびリハビリテーションに関する知識と技術を整理し、統合的な能力を培う機会とする。医学系領域と作業療法の専門領域を統合し、実践場面で活用できる知識及び技術として定着できるように、グループワークも交えて確実なものにしてゆく。一連の学習を通して、国家試験受験に向けた情報・知識の整理についての意識を高める。	4年後期	
専門共通	司法精神科作業療法	触法障害者の特性を理解し、対象者への司法特有の高度なアプローチ技術を習得・実践していくなど、新たな分野として司法領域での作業療法の基礎を学ぶ。具体的には、司法特有のアプローチや、対象者が社会に出たときの地域生活を想定した生活技能の獲得や日常生活活動のデザイン、地域生活を円滑に行うための社会資源などの活用、経済的基盤の確保も視野に入れた職業前訓練などの展開など、多面的に学ぶ。これらの学習を通して、対象者の社会復帰の支援や再犯防止に向けた取り組みに寄与できる知識・技能の基礎を修得する。	3年後期
	生活支援機器論	リハビリテーション分野における生活支援機器について、現状で広く活用されている機器の概要を紹介する。医療・福祉・在宅での自立生活や社会参加を可能にする支援技術の具体的な導入、評価、適応事例についても紹介する。また、コミュニケーション支援、認知機能障害を有する児・者のスケジュール管理支援など、生活支援技術の積極的な活用・応用をするための支援技術論を学ぶ。	3年前期
	地域高齢者支援論	住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるよう、住まい・医療・介護・生活支援の一体的な提供を実現すべく包括的な地域ケアの展開がすすめられている。認知症高齢者への支援システムの構築が重要な課題のひとつである。この授業では、高齢者への包括的地域ケアにおいて作業療法がどのように活かせるか、実践経験を交えて現状とこれからの課題について学ぶ。	3年前期
	徒手療法	筋、関節、軟部組織に対する整形外科徒手療法の理論を理解し、基本的な評価法と治療手技を学習する。四肢の関節モビライゼーション、軟部組織に対する徒手療法の理論と技術を教授し、筋・骨格疾患患者の評価・治療法について説明する。	3年後期
	ウーマンズヘルスケア	思春期以降の女性のライフスタイル、身体の変化によって起こりうる機能不全（月経不全、リンパ浮腫、尿失禁、便秘等）について理解する。さらに女性特有の日常生活活動障害（更衣・整容等）への理学療法アプローチ、女性に多い整形外科疾患（変形性関節症、関節リウマチ、スポーツ障害等）の理学療法アプローチについて一部演習を交えて学習する	3年後期
	スポーツ理学療法学	各スポーツ特有の動作についての特徴と分析のポイントを理解する。各種スポーツ損傷（急性・慢性）の機序と病態を理解し、予防法・治療法・理学療法について学ぶ。具体的には、膝関節スポーツ障害、足関節スポーツ障害、投球障害（肩・肘）、テニス肘、腰痛等について講義する。さらに基礎的なテーピング技術について、演習を交えて講義する。	3年後期

地域作業療法学	地域作業療法学Ⅰ（総論）	地域の捉え方、地域におけるリハビリテーション及び作業療法と背景にある理念を学ぶ。また、地域作業療法に関わる社会保障制度の歴史的変遷と現行制度の概要、地域作業療法の対象と評価及び支援内容に関する入門的な内容を学ぶ。地域での実践にあたっては、多職種連携・協働が非常に重要であり、保健医療職に留まらず副指職と協働する他職種チームにおいて作業療法士に求められる役割を理解する。	3年前期
	地域作業療法学Ⅱ（老年期障害）	高齢期の地域作業療法について具体的に学習する。高齢の方の地域生活自立を目指して、（一部健康高齢者含む）高齢障害者の地域支援のあり方やケア・ケースマネジメントのあり方について理解する。また、身近な地域に焦点をあてた特定テーマの演習に取り組み、地域生活者である学生自身の視点も交えて高齢期地域作業療法の望ましい姿を考える。一連の検討の中で、医療職の立場から他職種協働でどのような課題があるかも検討する。さらに、在宅生活支援のための福祉機器の適用と関連法規、住環境整備を理解する。	3年前期
	地域作業療法学Ⅲ（精神障害）	精神科領域における地域リハビリテーションを学び、他職種との連携、作業療法の役割を理解する。	3年後期
	地域作業療法学Ⅳ（身体障害・発達障害）	小児期から成人期の身体障害と発達障害に対する、各病期・領域別の地域作業療法について学習する。ライフステージに応じた生活者としての当事者の立場を踏まえた地域支援のあり方、よりよい地域生活を送るために、他職種との協働についてマネジメントなどの視点や、どのような課題があるかを演習を通して理解する。	3年後期
臨床実習	見学実習（作業療法）	作業療法士の行う治療や支援の内容を理解するとともに、施設の概要、作業療法（士）と他職種との連携について理解する。実習前に記録の方法や接遇などのオリエンテーション、実習後には実習報告会を行い2年次の授業に活用できるようにする。実習期間中は、実習時間外に行う学修として、1時間程度の記録・準備を行う。	1年後期
	地域リハビリテーション実習（作業療法）	通所や訪問リハビリテーション等の地域リハビリテーションの実践現場を見学することにより、地域在住の障害者・高齢者の生活支援や環境支援のあり方、制度的課題等について理解するとともに、地域リハビリテーションにおける作業療法（士）の役割を学ぶ。さらに、各施設における関連職種・部門との連携について、見学を通して学ぶ。	3年前期
	評価実習	実習指導者の指導・監督の下、対象者に応じた情報の収集、評価法の選択、検査・測定の実施、結果の記録、統合と解釈、課題の抽出、初歩的な作業療法プログラムの作成までの一連の作業療法評価過程を体験する。	3年後期
	総合臨床実習Ⅰ（作業療法）	3年次までの学びを通じて得た知識、技術、態度を用いて実習指導者の指導・監督の下、診療に参加し、対象者に応じた作業療法評価、目標設定、プログラム立案、治療・介入、効果判定といった一連の実践過程を体験する。この実習を通して、各種疾患の障害像や生活機能を理解するとともに背景因子を考慮した作業療法の実践力を養う。総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ（作業療法）のいずれかにおいて認知症事例への介入を経験し、我が国での包括ケアシステムの現状・課題を理解し、より積極的に認知症高齢者支援の展開ができるよう学習する。	4年前期
	総合臨床実習Ⅱ（作業療法）	総合臨床実習Ⅰと異なる領域で、実習指導者の指導・監督の下、診療に参加し、対象者に応じた作業療法評価、目標設定、プログラム立案、治療・介入、効果判定といった一連の実践過程を体験する。この実習を通して、各種疾患の障害像や生活機能を理解するとともに背景因子を考慮した作業療法の実践力を養う。この実習を通して、専門職としての知識や技術をさらに高め、資質の向上を目指し、異なる領域での作業療法の共通性と相違性への理解を深める。	4年前期

### Ⅲ. 総合教育科目



授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
コミュニケーション論 Communication	必修	講義	1単位 (15時間)	1年前期	長澤 里絵	—
ナンバリングコード	HCOA1	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
総合教育科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。					
人間とコミュニケーション						

授業概要	ケアや社会福祉援助では常に人と人との関係性のあり方が問題となる。人間存在と人間関係、社会的相互作用と社会的役割の理解の上に、医療を受ける人々を一人の人間として、心から大切にしようとする「誠実さ」と、それに支えられた「出会い」によって、対話が成立し、医療を受ける対象およびその家族の理解が充実発展でき、より良い関係を築く基礎を学習する。		
到達目標	人間関係の基礎となるコミュニケーションを理論的側面と実践的側面から理解できる。		
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）	担当教員
1	コミュニケーションとは	コミュニケーションとは。その語源や重要性の説明 コミュニケーションの種類 事前学習(0分):特になし 事後学習(60分):授業全体について復習する。	長澤 里絵
2	バーバルコミュニケーション ・コミュニケーション実習(1)	コミュニケーションの構図・コミュニケーションの特徴・バーバルコミュニケーション(語彙理解と文章理解) コミュニケーショントレーニング話①【グループワーク】 事前学習(0分):特になし 事後学習(60分):授業全体について復習する。	長澤 里絵
3	ノンバーバルコミュニケーション ・コミュニケーション実習(2)	ノンバーバル(非言語的)コミュニケーションの分類 他 コミュニケーショントレーニング話②【グループワーク】 事前学習(0分):特になし 事後学習(60分):授業全体について復習する。	長澤 里絵
4	ノンバーバルコミュニケーション ・コミュニケーション実習(3)	表情・アイコンタクト・近接学 他 耳をすます(エクササイズ)【グループワーク】 事前学習(0分):特になし 事後学習(60分):授業全体について復習する。	長澤 里絵
5	きくこと・話すこと ・コミュニケーション実習(4)	「聴く」と「聞く」・コミュニケーションにおける「話す」とは 触れて知る(エクササイズ)【グループワーク】 事前学習(0分):特になし 事後学習(60分):授業全体について復習する。	長澤 里絵
6	コミュニケーション実習(5)	伝達①図形をことばで伝える【グループワーク】 事前学習(0分):特になし 事後学習(60分):授業全体について復習し、ワークシートを仕上げる。	長澤 里絵
7	コミュニケーション実習(6)	伝達②指定した文章をいくつかの感情で言ってみる【グループワーク】 事前学習(0分):特になし 事後学習(60分):授業全体について復習し、ワークシートを仕上げる。	長澤 里絵
8	コミュニケーション実習(7)	伝達③指定した文章を相手に分かりやすい言い方で伝えてみる【グループワーク】 まとめ 事前学習(30分):全体の復習をし、不明な点は質問できるようにしておく。 事後学習(60分):授業全体について復習する。	長澤 里絵

評価	定期試験(60%)、提出物(20%)、グループワークへの取り組み(20%)で評価する。
課題に対する フィードバックの方法	課題については、授業内で全体の講評をする。
教科書	こころの行動と発達・臨床心理/軽部幸浩編/福村出版/2023/ISBN:978-4571230677
参考図書など	適宜紹介します。
アクティブ・ラーニング	エクササイズ等のグループワークを行う。
実務経験のある 教員による授業	該当なし。
留意事項	授業時の私語は授業妨害となるので厳禁とします。 ※必ず事後学習を行うこと。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
チーム医療論 Interprofessional Education	必修	演習	1単位 (30時間)	4年後期	寺本 明、全教員	○
ナンバリングコード	HC002	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
総合教育科目	DP2) 科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3) 相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4) 保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。					
人間とコミュニケーション						
授業概要	まず、チーム医療に関する総括的な講義と、これから始まる演習の概要を解説する。その後、看護、PT、OT混成のチーム(8~10名)に分かれ、提示された臨床課題(臨床の実症例)に関してまず問題点や疑問点を列挙し、分担して調査の上議論する。その後、各々の専攻分野からのアプローチを提唱し議論する。3、4チームに一人教員が配置されるが、チュートリアル教育様式であるため直接教えるのではなく議論の円滑な進行を促す役割を負う。中間報告・レポート作成の後、最終日にはすべてのチームが体育館に集合し、ポスター形式で当該症例のサービス計画を発表する。この時、学生がチーム相互の評価を行うとともに、全教員も参観しコメントを述べ評価する。					
到達目標	1) チーム医療の定義や意義を述べることができる。 2) チーム医療に影響する課題を列挙できる。 3) チーム医療に携わる多職種の役割を述べることができる。 4) 事例について、患者中心の視点で検討することができる。 5) 事例について、多職種が捉える保健・医療・福祉の視点から検討することができる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習 (予習・復習・課題等)				担当教員
1	授業の進め方	<ol style="list-style-type: none"> <li>最初の授業で、チーム医療の概論を講義し、本演習の方法を解説する。</li> <li>看護学科とリハビリ学科の学生を混合して、8~10名のグループを作り、チュートリアル方式で演習を行う。</li> <li>具体的な臨床事例(シナリオ)が提示され、その症例の問題点の抽出と調査、議論を行う。</li> <li>各自の専攻の視点から、当該症例に関するアプローチを考え、意見交換をする。</li> <li>各自レポートの作成、および事例発表会に向けて、パワーポイント作成などの準備を行う。</li> <li>全てのグループが事例検討のまとめを発表し、それを出席した全ての学生と教員が評価する。</li> </ol>				寺本 明 全教員
		事前学習(15分): チーム医療とはどういうものかを確認してくる。 事後学習(30分): 演習で得られたチーム医療の意義や問題点を整理する。				
評価	事例検討と討論参加での積極性60%、個人レポート30%、グループレポート10%					
課題に対する フィードバックの方法	チームとしての発表とそのレポート、および個人としてのレポート。それぞれ同僚および教員からの評価を受ける。					
教科書	必要に応じて資料の配布・紹介を行う。					
参考図書など	・新しいチーム医療ー看護とインタープロフェッショナルワーク入門(改訂版)/田村由美/看護の科学社/2018年/ISBN: 978-4878041082 ・「チーム医療」とは何かー医療ケアに生かす社会学からのアプローチ/細田満和子/2012年/ISBN: 978-4818016583 事例に関する参考書は、事例提示の際に教示する。					
アクティブ・ラーニング	チュートリアル方式の演習であるので、少人数チーム内討論とそのプロダクトの発表が主体である。					
実務経験のある 教員による授業	期間はそれぞれであるが、全教員とも臨床経験を有する。					
留意事項	特に無し。					

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
英語 I English I	必修	演習	1単位 (30時間)	1年前期	宮本 和恵	—
ナンバリングコード	HCOA1	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
総合教育科目	DP3) 相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。					
人間とコミュニケーション						
授業概要	高等学校で学んだ基本的事項を確認しながら、さらに高度な英文の文化に触れるとともに、まとまりのある文章の概念や要点をできるだけ速く、多く読み取るという高度な読解力を養い、目的に応じた読みを可能にすることを目的として学習する。					
到達目標	1) 医療関係を中心にした日常の基本語彙の修得。 2) 学習した表現を使用して、自分の考えを英語で表現する力をつける。 3) 学習した文法を使用して、まとまった英文を読みこなす力をつける。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習 (予習・復習・課題等)			担当教員	
1	導入	テキストその他の教材を使用した授業の進め方と英語学習法の紹介 事前学習:(20分)教科書を一読しておく 事後学習:(20分)参考表現をまとめて、発音練習する			宮本 和恵	
2	名詞・冠詞	エクササイズをやって、名詞・冠詞を学習する。p.56 事前学習:(30分)単語の意味を調べて発音練習する 事後学習:(30分)授業で学んだ表現や文を書いて発音練習をする			宮本 和恵	
3	代名詞(1)(2)	エクササイズをやって、代名詞について学習する。p.57 事前学習:(30分)単語の意味を調べて発音練習する。 事後学習:(30分)授業で学んだ表現や文を書いて発音練習をする。			宮本 和恵	
4	時制・進行形	エクササイズをやって、時制・進行形について学習する。p.58 事前学習:(30分)単語の意味を調べて発音練習する。 事後学習:(30分)授業で学んだ表現や文を書いて発音練習をする。			宮本 和恵	
5	完了形(1)(2)	エクササイズをやって、完了形について学習する。p.59 事前学習:(30分)単語の意味を調べて発音練習する。 事後学習:(30分)授業で学んだ表現や文を書いて発音練習をする。			宮本 和恵	
6	助動詞(1)(2)	エクササイズをやって、助動詞について学習する。p.60 事前学習:(30分)単語の意味を調べて発音練習する。 事後学習:(30分)授業で学んだ表現や文を書いて発音練習をする。			宮本 和恵	
7	能動態・受動態(1)(2)	エクササイズをやって、能動態・受動態について学習する。p.61 事前学習:(30分)単語の意味を調べて発音練習する。 事後学習:(30分)授業で学んだ表現や文を書いて発音練習をする。			宮本 和恵	
8	不定詞(1)(2)	エクササイズをやって、不定詞について学習する。p.62 事前学習:(30分)単語の意味を調べて発音練習する。 事後学習:(30分)授業で学んだ表現や文を書いて発音練習をする。			宮本 和恵	
9	分詞(1)(2)	エクササイズをやって、現在分詞・過去分詞について学習する。P.63 事前学習:(30分)単語の意味を調べて発音練習する。 事後学習:(30分)授業で学んだ表現や文を書いて発音練習をする。			宮本 和恵	
10	動名詞(1)(2)	エクササイズをやって、動名詞について学習する。p.64 事前学習:(30分)単語の意味を調べて発音練習する 事後学習:(30分)授業で学んだ表現や文を書いて発音練習をする。			宮本 和恵	
11	形容詞・副詞・比較(1)	エクササイズをやって、形容詞・副詞について学習する。p.65 事前学習:(30分)単語の意味を調べて発音練習する。 事後学習:(30分)授業で学んだ表現や文を書いて発音練習をする。			宮本 和恵	
12	比較(2)・前置詞	エクササイズをやって、比較級・前置詞について学習する。p.66 事前学習:(30分)単語の意味を調べて発音練習する。 事後学習:(30分)授業で学んだ表現や文を書いて発音練習をする。			宮本 和恵	

13	関係詞(1)(2)	エクササイズをやって、関係詞について学習する。P.67 事前学習:(30分)単語の意味を調べて発音練習する。 事後学習:(30分)授業で学んだ表現や文を書いて発音練習をする。	宮本 和恵
14	仮定法(1)(2)	エクササイズをやって、仮定法について学習する。p.68 事前学習:(30分)単語の意味を調べて発音練習する。 事後学習:(30分)授業で学んだ表現や文を書いて発音練習をする。	宮本 和恵
15	まとめ	本講義で指導した内容を振り返り、重要点の解説をする。 事前学習:(30分)これまでの学習での疑問点を確認する。 事後学習:(30分)これまでの学習内容を振り返る。	宮本 和恵

評価	試験60%、授業参加度20%、小テスト20%
課題に対する フィードバックの方法	次の回の授業で解説を行う。
教科書	福井慶一郎、山中マーガレット、北山長貴『読解力につなげるコア英文法』朝日出版社 ISBN:978-4255156385
参考図書など	尾崎哲夫『新 病気になっても困らない英会話』南雲堂 ISBN:987-4523422891
アクティブ・ラーニング	グループワーク
実務経験のある 教員による授業	該当なし
留意事項	無断欠席、無断遅刻は厳禁とする。授業前にはテキストを一読して問題演習を行い、疑問点をまとめる。授業後は、問題演習で理解したことを確認する。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
英語Ⅱ English II	必修	演習	1単位 (30時間)	2年前期	須田 篤也	—
ナンバリングコード	HCOA1		オフィスアワー			
本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける						
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
総合教育科目	DP3) 相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。					
人間とコミュニケーション						
授業概要	1)保健・医療・福祉系の英語の文章を読む練習をする。 2)保健・医療・福祉系の英語のリスニングの練習をする。 3)理学療法・作業療法の分野の基本用語を辞書やインターネットを使って調べる。					
到達目標	1)理学療法・作業療法の専門分野に関する基本的な英語の文章を理解できる英語力を修得する。 2)医療現場でのコミュニケーションに必要なリスニング力を向上させる。 3)理学療法・作業療法に関する用語の英語表現を覚える。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）			担当教員	
1	導入(ガイダンス)	教科書の内容と授業の進め方の確認。 事前学習(30分):教科書を手入手して、内容を確認する。 事後学習(30分):ガイダンスに従い、授業の準備を行う。			須田 篤也	
2	Chapter 1 高次脳機能障害 High Brain Dysfunction	教科書 Chapter1 の練習問題を解き、「高次脳機能障害」に関する英語表現を学ぶ。 事前学習(30分):教科書の指定範囲を予習。単語の意味を調べて練習問題を解く。 事後学習(30分):授業内容を復習して英語表現を覚える。			須田 篤也	
3	Chapter 2 パーキンソン病 Parkinson's Disease	教科書 Chapter2 の練習問題を解き、「パーキンソン病」に関する英語表現を学ぶ。 事前学習(30分):教科書の指定範囲を予習。単語の意味を調べて練習問題を解く。 事後学習(30分):授業内容を復習して英語表現を覚える。			須田 篤也	
4	Chapter 3 骨粗しょう症 Osteoporosis	教科書 Chapter3 の練習問題を解き、「骨粗しょう症」に関する英語表現を学ぶ。 事前学習(30分):教科書の指定範囲を予習。単語の意味を調べて練習問題を解く。 事後学習(30分):授業内容を復習して英語表現を覚える。			須田 篤也	
5	Chapter 4 脳卒中 Cerebral Apoplexy (Stroke)	教科書 Chapter4 の練習問題を解き、「脳卒中」に関する英語表現を学ぶ。 事前学習(30分):教科書の指定範囲を予習。単語の意味を調べて練習問題を解く。 事後学習(30分):授業内容を復習して英語表現を覚える。			須田 篤也	
6	Chapter 5 循環器疾患 Cardiovascular Disease	教科書 Chapter5 の練習問題を解き、「循環器疾患」に関する英語表現を学ぶ。 事前学習(30分):教科書の指定範囲を予習。単語の意味を調べて練習問題を解く。 事後学習(30分):授業内容を復習して英語表現を覚える。			須田 篤也	
7	Chapter 6 糖尿病 Diabetes Mellitus	教科書 Chapter6 の練習問題を解き、「糖尿病」に関する英語表現を学ぶ。 事前学習(30分):教科書の指定範囲を予習。単語の意味を調べて練習問題を解く。 事後学習(30分):授業内容を復習して英語表現を覚える。			須田 篤也	
8	Chapter 7 呼吸器疾患 Respiratory Disease	教科書 Chapter7 の練習問題を解き、「呼吸器疾患」に関する英語表現を学ぶ。 事前学習(30分):教科書の指定範囲を予習。単語の意味を調べて練習問題を解く。 事後学習(30分):授業内容を復習して英語表現を覚える。			須田 篤也	
9	Chapter 8 慢性関節リウマチ Chronic Rhuematoid Arthritis	教科書 Chapter8 の練習問題を解き、「慢性関節リウマチ」に関する英語表現を学ぶ。 事前学習(30分):教科書の指定範囲を予習。単語の意味を調べて練習問題を解く。 事後学習(30分):授業内容を復習して英語表現を覚える。			須田 篤也	
10	Chapter 9 大腿骨頸部骨折 Femoral Neck Fracture	教科書 Chapter9 の練習問題を解き、「大腿骨頸部骨折」に関する英語表現を学ぶ。 事前学習(30分):教科書の指定範囲を予習。単語の意味を調べて練習問題を解く。 事後学習(30分):授業内容を復習して英語表現を覚える。			須田 篤也	
11	Chapter 10 脊髄損傷 Spinal Cord Injury	教科書 Chapter10 の練習問題を解き、「脊髄損傷」に関する英語表現を学ぶ。 事前学習(30分):教科書の指定範囲を予習。単語の意味を調べて練習問題を解く。 事後学習(30分):授業内容を復習して英語表現を覚える。			須田 篤也	
12	Chapter 11 脳性麻痺 Cerebral Palsy	教科書 Chapter11 の練習問題を解き、「脳性麻痺」に関する英語表現を学ぶ。 事前学習(30分):教科書の指定範囲を予習。単語の意味を調べて練習問題を解く。 事後学習(30分):授業内容を復習して英語表現を覚える。			須田 篤也	

13	Chapter 12 事例研究 Case Study	教科書 Chapter12 の練習問題を解き、「事例研究」に関する英語表現を学ぶ。 事前学習(30分):教科書の指定範囲を予習。単語の意味を調べて練習問題を解く。 事後学習(30分):授業内容を復習して英語表現を覚える。	須田 篤也
14	Chapter 12 事例研究 Case Study	前回到続き、教科書 Chapter12 の練習問題を解き、「事例研究」に関する知識を深める。 事前学習(30分):教科書の指定範囲を予習。単語の意味を調べて練習問題を解く。 事後学習(30分):授業内容を復習して英語表現を覚える。	須田 篤也
15	前期のまとめを行い、学習内容への理解を深める	今までの学習内容を復習しながら、医療に関する英語表現の理解を深める。 事前学習(30分):教科書の指定範囲を予習。単語の意味を調べて練習問題を解く。 事後学習(30分):授業内容を復習して英語表現を覚える。	須田 篤也

評価	定期試験80%、授業時の課題20%
課題に対する フィードバックの方法	授業に関する小テスト・課題で理解度を確認する。小テスト・課題に関して、次回授業で解答・解説を行う。
教科書	医療・リハビリテーションを学ぶ学生のための総合英語 The Art of Healing / 荒金房子ほか編著 / 南雲堂 / ISBN:978-4-523-17707-4
参考図書など	必要に応じて紹介します。
アクティブ・ラーニング	課題解決学習を求める。演習・グループワークを行う。
実務経験のある 教員による授業	該当なし
留意事項	無断欠席・無断遅刻・無断退出は厳禁。 必ず自分の答えを準備して授業に参加すること。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
英語Ⅲ English III	選択	演習	1単位 (30時間)	2年後期	小山田 幸永	—
ナンバリングコード	HCOA2	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
総合教育科目	DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
人間とコミュニケーション						

授業概要	英語による日常的なコミュニケーション力の向上に加え、医療のさまざまな分野で使用されている特有の専門用語や英語表現を習得し、将来的な仕事の場で使える英語のコミュニケーション力を養う。
------	--

到達目標	1) 医療の場を中心に、日常的なコミュニケーションで必要とされる英語表現を理解できる。 2) 専門領域の事柄を英語表現で説明できる。
------	---

回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）	担当教員
1	導入	テキストの概観と学習の進め方を確認する。 事前学習(30分):テキストに出て来る単語の構成要素を確認する。 事後学習(30分):単語の読み方を確認し、発音練習する。	小山田 幸永
2	あいさつ、基本的な医学用語	あいさつに関する表現と基本的な医学用語の解説する(Lesson 1、資料)。 事前学習(30分):単語の意味を調べ、発音練習する。 事後学習(30分):授業で出来なかった問題をやり直し、発音練習をする。	小山田 幸永
3	問診	問診に関する表現を解説する(Lesson 2, 3, 4)。 事前学習(30分):単語の意味を調べ、発音練習する。 事後学習(30分):授業で出来なかった問題をやり直し、発音練習をする。	小山田 幸永
4	肢位設定	肢位設定に関する表現を解説する(Lesson5, 6)。 事前学習(30分):単語の意味を調べ、発音練習する。 事後学習(30分):授業で出来なかった問題をやり直し、発音練習をする。	小山田 幸永
5	バイタルサイン、筋骨格系	バイタルサインに関する表現と筋骨格系の用語を解説する(Lesson 7、資料) 事前学習(30分):単語の意味を調べ、発音練習する。 事後学習(30分):授業で出来なかった問題をやり直し、発音練習をする。	小山田 幸永
6	自動及び他動可動域	自動及び他動可動域に関する表現を解説をする(Lesson 8, 9)。 事前学習(30分):単語の意味を調べ、発音練習する。 事後学習(30分):授業で出来なかった問題をやり直し、発音練習をする。	小山田 幸永
7	体幹及び頸部の可動域	体幹及び頸部の可動域に関する表現を解説をする(Lesson 10, 11)。 事前学習(30分):単語の意味を調べ、発音練習する。 事後学習(30分):授業で出来なかった問題をやり直し、発音練習をする。	小山田 幸永
8	筋力測定、循環器系	筋力測定に関する表現と循環器系の用語を解説をする(Lesson 12、資料)。 事前学習(30分):単語の意味を調べ、発音練習する。 事後学習(30分):授業で出来なかった問題をやり直し、発音練習をする。	小山田 幸永
9	触覚及びバランス検査	触覚及びバランス検査に関する表現を解説をする(Lesson 13, 14)。 事前学習(30分):単語の意味を調べ、発音練習する。 事後学習(30分):授業で出来なかった問題をやり直し、発音練習をする。	小山田 幸永
10	歩行評価、呼吸器系	歩行評価に関する表現を解説をする(Lesson 15、資料)。 事前学習(30分):単語の意味を調べ、発音練習する。 事後学習(30分):授業で出来なかった問題をやり直し、発音練習をする。	小山田 幸永
11	治療	治療に関する表現を解説をする(Lesson 16, 17)。 事前学習(30分):単語の意味を調べ、発音練習する。 事後学習(30分):授業で出来なかった問題をやり直し、発音練習をする。	小山田 幸永
12	ADL	ADLに関する表現の解説をする(Lesson 18, 19)。 事前学習(30分):単語の意味を調べ、発音練習する。 事後学習(30分):授業で出来なかった問題をやり直し、発音練習をする。	小山田 幸永

13	環境調整	環境調整に関する表現の解説をする(Lesson 20, 21)。 事前学習(30分):単語の意味を調べ、発音練習する。 事後学習(30分):授業で出来なかった問題をやり直し、発音練習をする。	小山田 幸永
14	退院後の生活指導	退院後の生活指導に関する表現の解説をする(Lesson 22)。 事前学習(30分):単語の意味を調べ、発音練習する。 事後学習(30分):授業で出来なかった問題をやり直し、発音練習をする。	小山田 幸永
15	まとめ	本講義で学習した内容を振り返り、重要点の解説をする。 事前学習(30分):これまでの学習での疑問点を確認する。 事後学習(30分):事後学習:学習内容を振り返り、試験に備える。	小山田 幸永

評価	試験60%、授業参加度20%、課題提出20%で評価する。
課題に対する フィードバックの方法	次の回で解答確認。
教科書	PT・OTが書いたリハビリテーション英会話/三木 貴弘ほか/メジカルビュー社/ISBN:978-4758309653
参考図書など	最新医学用語演習<改定新版>/岡田 聚、名木田 恵理子/南雲堂/ISBN:978-4523178699 現場ですぐ引ける 医学・看護略語辞典/飯田恭子/ナツメ社/ISBN:978-4816365270 語源図解 からだと健康の英単語/清水建二/講談社/ISBN:978-4065184431
アクティブ・ラーニング	講義の中で会話練習などグループワークを行う。
実務経験のある 教員による授業	該当なし。
留意事項	無断欠席、無断遅刻は厳禁とする。授業前は、テキストを一読して発音練習を行う。授業後は、学習した実践的な英語表現が使えるようになるまで、何度も音声を聴いて発音練習をくり返す。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
中国語 Chinese	選択	演習	1単位 (30時間)	1年前期	魯 大鳴	○
ナンバリングコード	HCOA1	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
総合教育科目	DP3) 相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。					
人間とコミュニケーション						
授業概要	中国語の基礎的知識を学習するとともに、中国の文化についても触れながら日常的なコミュニケーションを身につけることを目指す。					
到達目標	1) 中国語のピンイン(ローマ字による発音表記)に基づいて正確に発音できる。 2) 中国語で自己紹介ができる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)				担当教員
1	中国語の基本知識	中国と中国語の基本知識などについて説明する。自己紹介の説明 事前学習(0分): とくに無し 事後学習(30分): 自己紹介を練習する				魯 大鳴
2	ピンインを覚えよう	ピンインを覚えよう(教科書 p.6~9)、知って便利な呼び方、ことば(p.10, 11) 事前学習(30分): テキスト10, 11ページの内容を予習する。 事後学習(30分): 授業で習ったピンインを復習する。				魯 大鳴
3	人称代名詞	第一課 本文 文法(p.12, 13) 事前学習(30分): 教科書12ページの新しい単語を予習する。 事後学習(30分): 第一課 本文の内容を復習する。				魯 大鳴
4	人称代名詞・ リスニングトレーニング	リスニングトレーニング(p.14, 15) 事前学習(30分): CD音声の24, 25, 26番を予習する。 事後学習(30分): 授業での内容を復習する。				魯 大鳴
5	指示代名詞	第二課 本文 文法(p.16, 17) 事前学習(30分): 教科書16ページの新しい単語を予習する。 事後学習(30分): 第二課 本文の内容を復習する。				魯 大鳴
6	指示代名詞・ リスニングトレーニング	リスニングトレーニング(p.18, 19) 事前学習(30分): CD音声の29, 30, 31番を予習する。 事後学習(30分): 授業での内容を復習する。				魯 大鳴
7	場所代名詞	第三課 本文 文法(p.20, 21) 事前学習(30分): 教科書20ページの新しい単語を予習する。 事後学習(30分): 第三課 本文の内容を復習する。				魯 大鳴
8	場所代名詞・ リスニングトレーニング	リスニングトレーニング(p.22, 23) 事前学習(30分): CD音声の34, 35, 36番を予習する。 事後学習(30分): 授業での内容を復習する。				魯 大鳴
9	助動詞	第四課 本文 文法(p.24, 25) 事前学習(30分): 教科書24ページの新しい単語を予習する。 事後学習(30分): 第四課 本文の内容を復習する。				魯 大鳴
10	助動詞・ リスニングトレーニング	リスニングトレーニング(p.26, 27) 事前学習(30分): CD音声の39, 40, 41番を予習する。 事後学習(30分): 授業での内容を復習する。				魯 大鳴
11	数詞	第五課 本文 文法(p.28, 29) 事前学習(30分): 教科書28ページの新しい単語を予習する。 事後学習(30分): 第五課 本文の内容を復習する。				魯 大鳴
12	数詞・ リスニングトレーニング	リスニングトレーニング(p.30, 31) 事前学習(30分): CD音声の44, 45, 46番を予習する。 事後学習(30分): 授業での内容を復習する。				魯 大鳴

13	動詞	第六課 本文 文法 (p.32, 33) 事前学習(30分):教科書32ページの新しい単語を予習する。 事後学習(30分):第六課 本文の内容を復習する。	魯 大鳴
14	動詞・ リスニングトレーニング	リスニングトレーニング (p.34, 35) 事前学習(30分):CD音声の49, 50, 51番を予習する。 事後学習(30分):授業での内容を復習する。	魯 大鳴
15	まとめ	第一課から第六課の復習とレポートについての説明 事前学習(30分):第六課までの本文の内容を復習する。 事後学習:レポートの作成	魯 大鳴

評価	小テスト30%、学習態度(積極的に朗読、発言など)20%、試験(或いはレポート)50%で評価する。
課題に対する フィードバックの方法	実施予定なし
教科書	一冊めの中国語 会話クラス/劉 穎、喜多山 幸子、松田 かの子 著/白水社/ISBN:9784560069189
参考図書など	中国語発音マスター CD付き/高田裕子/大修館書店/ISBN:978-4469232738
アクティブ・ラーニング	講義の中で、グループに分けて日常会話練習を行う。
実務経験のある 教員による授業	京劇役者の歌、セリフの基本訓練した発音や経験を活かして講義する。
留意事項	予習、復習を繰り返すことが語学上達のカギである。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
韓国語 Korean Language	選択	演習	1単位 (30時間)	1年後期	金 美玟	—
ナンバリングコード	HCOA1		オフィスアワー			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
総合教育科目	DP3) 相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。					
人間とコミュニケーション						

授業概要	韓国語の文字と発音および基礎的な文法を学習するとともに、韓国の文化についても触れながら、日常的なコミュニケーションを身につけることを目指す。					
到達目標	韓国語の文字の習得と正確な文字の発音を身に付け、基礎的な文法と語彙を習得する。挨拶、自己紹介といった簡単な日常会話を習得する。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）				担当教員
1	韓国語の全体像	序章 韓国語は、どんなことば？ 事前学習(15分): 序章を読む。 事後学習(10分): ハングルの構造を理解する。				金 美玟
2	第1課: 母音: 単母音、半母音	文字と発音(1) 8つの単母音とヤ行の半母音 事前学習(5分): 前回の復習 事後学習(10分): 母音の復習				金 美玟
3	第1課: 母音: 半母音、二重母音	文字と発音(1) ㄱ行の半母音、二重母音 事前学習(5分): 前回の復習 事後学習(10分): 母音の発音を覚える。				金 美玟
4	第2課: 子音: 鼻音と平音	文字と発音(2) 初声: 鼻音と平音 事前学習(15分): 母音字母の単語学習 事後学習(10分): 第2課(鼻音・平音)の復習				金 美玟
5	第2課: 子音: 激音と濃音、流音	文字と発音(2) 初声: 激音と濃音、流音 事前学習(15分): 初声の鼻音、平音を用いた単語学習 事後学習(10分): 第2課(激音と濃音、流音)の復習				金 美玟
6	第3課: 子音: 終声	文字と発音(3) 子音(終声): 終声(7つの音)の確認と、ハングルで自分の名前を書く 事前学習(20分): 初声の激音、濃音、流音を用いた単語学習 事後学習(10分): 終声の復習				金 美玟
7	第3課: 終声規則と終声字母	文字と発音(3) 子音(終声): 応用 事前学習(10分): 第3課の復習 pp.22-26 事後学習(20分): 第1課～第3課までの発音復習と確認				金 美玟
8	文字の復習と確認	K-pop 音楽の歌詞を読む。 事前学習(20分): 第1課～第3課の単語学習 事後学習(20分): 母音、子音を覚える。				金 美玟
9	第4課: こんにちは、さようなら	挨拶、口音の鼻音化、2つの文体 합니다体と해요体 事前学習(10分): 第4課の会話を予習 pp.30-33 事後学習(10分): 第4課の会話を日本語訳だけみて韓国語で言う。				金 美玟
10	第4課: 発音規則	濃音化、終声の初声化 事前学習(15分): 口音の鼻音化について学習 事後学習(20分): 終声の初声化を用いて正しく発音する。				金 美玟
11	第5課: 韓国の方でいらっしゃいますか？	「体言+です」の해요体を作る 事前学習(10分): 5課の文法と表現①を予習 事後学習(10分): 5課の本文音読				金 美玟
12	第5課: 韓国の方でいらっしゃいますか？	「体言+でいらっしゃいます(か?)」の해요体を作る、AのB、聞き返し 事前学習(10分): 5課の文法と表現②を予習 事後学習(10分): 体言+指定詞이/다의해요体(尊敬形含む): を柔軟に作れるようにする。				金 美玟

13	第6課:私はキム・ソグと申します。	助詞の「は」、体言+です(か?) 事前学習(20分):5課本文学習、6課の文法と表現①②を予習 事後学習(15分):6課の本文音読	金 美玟
14	第6課:私はキム・ソグと申します。	指定詞이다の「이」の脱落、…と申します。 事前学習(15分):6課の文法と表現③④を予習 事後学習(15分):6課の本文音読	金 美玟
15	総まとめ	1課～6課までの文法と表現を振り返り、音読テスト 事前学習(20分):今までの文法を理解する。 事後学習(20分):総まとめ	金 美玟

評価	小テスト(40%)、レポート・課題(40%)、音読テスト(20%)で評価する。
課題に対する フィードバックの方法	授業内で直接、学生に返却する。
教科書	はばたけ！韓国語/野間秀樹、村田寛、金珍娥/朝日出版社/ISBN:978-4-255-55604-8
参考図書など	日本語とハングル/野間秀樹/2014/文春新書/ISBN:978-4166609734
アクティブ・ラーニング	適宜、ペア練習を行う。
実務経験のある 教員による授業	該当なし。
留意事項	予習・復習の際には教科書のCDを活用して、声を出して練習する。積極的に授業に参加していただきたい。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
文学 Literature	選択	講義	1単位 (15時間)	1年前期	近藤 正臣	—
ナンバリングコード	HCO01		オフィスアワー			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
総合教育科目	DP3) 相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。					
人間と文化						
授業概要	文学の概念と日本の代表的な韻文を中心に学習する。様々な形態の韻文を味わいながら、文学的価値を学習することを通して、時代背景や個々の文学の特徴をとらえるとともに、そこから日本の伝統美、ことばの美しさ、ことばのリズム、日本人の美意識について理解するとともに文学の基礎的な力、感性を養い、その過程で表現する能力を身につけるよう学習する。					
到達目標	1) 文学とは何か・韻文とは何かの定義づけができる。 2) 古典学習の意義を理解し、説明することができる。 3) 文学の発生について説明することができる。 4) 韻文の中における和歌・短歌、俳諧・俳句、川柳・狂歌等の形態・特徴を作品を通して説明することができる。 5) 短歌・俳句の実作を通して、言葉のリズム・ものに対する見方・捉え方等を説明することができる。 また、創作をすることの難しさ・楽しさ・喜びを説明することができる。 6) 古典文学での韻文の大まかな流れを理解し、説明できる。					
授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）				担当教員	
1 ガイダンス 「文学」とは何か	1) 卯・卯年について理解する。 2) 文学の科目を選んだ理由を説明する。 3) 「文学とは何か」を発表する。 4) 文学に対する自分の思いを発表する。 事前学習(60分): 配布プリントを読み、設問を解き、理解を深める。また、別紙プリントに「文学の科目を選んだ理由」「文学とは何か」「文学に対する自分の思い」をそれぞれ100字程度にまとめる。 事後学習(20分): 設問の解答の確認・整理。発表内容の確認・整理。				近藤 正臣	
2 文学の概念 「韻文」とは何か	1) 文学の概念(定義) 2) 「韻文とは何か」「韻文に対する自分の思い」を発表する。 事前学習(40分): 文学に関する配布資料を読み、整理する(10分)。別紙プリントに「韻文とは何か」「韻文に対する自分の思い」をそれぞれ100字程度にまとめる(30分)。 事後学習(25分): 「文学の定義」の整理。発表内容の確認・整理。				近藤 正臣	
3 韻文の概念 古典学修の意義・文学の発生	1) 韻文の概念(定義) 2) 古典学習の意義 3) 文学の発生 事前学習(40分): 韻文に関する配布資料を読み、整理する(10分)。別紙プリントに「古典学習の意義」「文学の発生」について自分の考えをまとめる(30分)。 事後学習(30分): 配布資料等に基づき、韻文の概念(定義)を確認する(10分)。「古典学習の意義」「文学の発生」についての整理。まとめの確認・整理(20分)。				近藤 正臣	
4 和歌・短歌	1) 和歌・短歌の形式・特徴 2) 『万葉集』・『新古今和歌集』・『金槐和歌集』中、神奈川県に関連する和歌作品を読解・鑑賞する。 事前学習(50分): 1) 和歌・短歌の配布資料を読み、形式・特徴の相違を整理する。 2) 各歌集中の設問の解答を考え、鑑賞する。 事後学習(20分): 配布資料を読み、和歌・短歌の形式・特徴をまとめ、各作品の読解・鑑賞をする。				近藤 正臣	
5 俳諧・俳句	1) 俳諧・俳句の形式・特徴 2) 近世三大俳人(芭蕉・蕪村・一茶)の神奈川県に関連する作品を読解・鑑賞する。 事前学習(50分): 1) 配布資料を読み、俳諧・俳句の形式・特徴の相違を整理する。 2) 各俳人作品での設問の解答を考え、鑑賞する。 事後学習(30分): 配布資料を読み、俳諧・俳句の形式・特徴をまとめ、各作品の読解・鑑賞をする。				近藤 正臣	
6 俳句と短歌の創作 近代の俳句・短歌作品の読解・鑑賞	1) 俳句と短歌の作り方を理解し、実作・発表・合評をする。 2) 近代の俳句・短歌作品の何篇かを読解・鑑賞する。 事前学習(40分): 1) 事前の配布資料を読み、それぞれの作り方を理解し、「俳句・短歌の創作シート」に作品を記入する。 2) 近代の俳句・短歌の何篇かの設問の解答を考え、鑑賞する。 事後学習(15分): 配布資料を読み、近代の俳句・短歌の何篇かについて読解・鑑賞をする。				近藤 正臣	
7 川柳と狂歌	1) 川柳・狂歌の起こり・形式・特徴 2) 各ジャンルにおける作品を読解・鑑賞する。 事前学習(40分): 1) 配布資料を読み、川柳・狂歌の形式・特徴を理解する。 2) 各ジャンル作品での設問の解答を考え、鑑賞する。 事後学習(25分): 配布資料を読み、川柳・狂歌の面白さを再確認し、各ジャンルにおける作品の読解・鑑賞をする。				近藤 正臣	
8 創作俳句と短歌の鑑賞 古典文学史における韻文の展開 まとめ	1) 提出された俳句・短歌の鑑賞。2) 古典文学史における韻文の大まかな流れを理解する。 3) 全体の講義内容のまとめ。 事前学習(30分): 古典文学史における韻文の流れに関する配布資料を読み、整理する。 事後学習(25分): 俳句・短歌の配布プリント及び古典文学史における「韻文の展開」に関する配布資料等に基づき、本科目全体の講義内容を総括する。				近藤 正臣	

評価	定期試験85%、提出物15%として評価する。
課題に対する フィードバックの方法	提出物については、基本的に次回の講義で返却し、口頭説明・板書などでフィードバックを行う。
教科書	プリントによる教材を配付する。
参考図書など	神奈川の古典文学/尚文出版。川柳・狂歌(教育社歴史新書<日本史>82)/浜田義一郎 著/ISBN:978-4315402094 その他必要に応じて、適宜紹介する。
アクティブ・ラーニング	講義の中で適宜グループワークやディスカッションを行う。
実務経験のある 教員による授業	該当なし
留意事項	①各回の授業に関する課題や資料は、基本的に前以て配布しますので、必ず、目を通し、問題を解いたり課題をまとめたりして 予習を行い、授業に臨むようにしてください。 ②毎回の資料は、きちんとファイルするようにしてください。 ③講義中、適宜指名し、読みの依頼・発言を求めます。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
教育学 Education	選択	講義	1単位 (15時間)	1年後期	梨本 加菜	—
ナンバリングコード	H0001	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
総合教育科目	DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。					
人間と文化						

授業概要	教育の意義と基本的な事項、課題を理解し、現代社会に生きる子どもと大人の教育環境のあり方を考える。具体的には義務教育段階を中心とした公教育と教育環境の理念、特別支援教育、中等教育以後と就学前の学校制度、生涯学習の原理と教育方法、そして地域連携にもとづく人権教育について、国内外の事例を参照して学習する。		
到達目標	1)教育に関する基本的な事項を、歴史と現状、また現代的課題の理解をふまえて説明できる。 2)現代日本の学校教育について、特別支援教育を含めた諸制度を理解し、課題を考察できる。 3)社会教育・生涯学習振興行政、人権教育の理解をふまえ、地域の教育環境を幅広い視野から考察できる。		
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）	担当教員
1	公教育と教育環境の意義と構成	公教育と教育環境の理念と基本的な構成を理解する。 事前学習(30分):これまでの自分の教育環境をふり返り、言語化する。 事後学習(60分):配付資料と教科書を参照し、授業全体を復習する。	梨本 加菜
2	学校教育と義務教育の制度	日本と海外の学校教育の制度を、義務教育段階を中心に理解する。 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読む。 事後学習(60分):配付資料と教科書を参照し、授業全体を復習する。	梨本 加菜
3	特別支援教育とさまざまな教育の すがた	障害のある子どもや外国につながる子どもの教育、学校外の教育について理解を広げる。 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読む。 事後学習(60分):配付資料と教科書を参照し、授業全体を復習する。	梨本 加菜
4	後期中等教育・高等教育	義務教育段階後の学校制度とキャリア教育の理解を深める。[ディスカッション] 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読む。 事後学習(60分):配付資料と教科書を参照し、授業全体を復習する。	梨本 加菜
5	幼児教育の意義と制度	幼児教育施設(幼稚園、認定こども園など)の役割と現状を理解する。[グループワーク] 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読む。 事後学習(60分):配付資料と教科書を参照し、授業全体を復習する。	梨本 加菜
6	社会教育・生涯学習振興行政	社会教育施設(公民館、図書館など)や関係団体の役割と現状を理解する。[グループワーク] 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読む。 事後学習(60分):配付資料と教科書を参照し、授業全体を復習する。	梨本 加菜
7	生涯学習の原理と教育方法	成人教育・地域学習の原理と教育方法を理解し、プログラムを考案する。[グループワーク] 事前学習(30分):基礎自治体の社会教育・生涯学習関連施設の種類のプログラム例を調べておく。 事後学習(60分):調べ学習、グループワークをふまえて学習活動プログラム案をまとめておく。	梨本 加菜
8	地域の連携と人権教育	地域の連携にもとづく人権教育の取り組みを理解する。授業全体を総括する。[ディスカッション] 事前学習(30分):教科書と資料を参照し、第1-7回の授業を復習しておく。 事後学習(60分):地域の教育環境の中で自分ができることを展望する。	梨本 加菜

評価	リアクションペーパー提出30%、レポート提出70%
課題に対する フィードバックの方法	リアクションペーパーの記載内容は可能な限り授業内で講評・紹介し、質問に対して回答する。
教科書	生涯学習時代の教育制度/梨本加菜/樹村房/ISBN:978-4883672813
参考図書など	教育小六法/学陽書房/2024年版/ISBN:9784313012004、文部科学白書/文部科学省/日経印刷/令和5年度 など。
アクティブ・ラーニング	グループワーク(調べた内容の情報交換、意見集約)、ディスカッション(調べた内容に基づく議論)を行う。
実務経験のある 教員による授業	該当なし
留意事項	グループワークやリアクションペーパーで自分の考えを積極的に述べ、他の学生の意見をよく聴いてほしい。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
文化人類学 Cultural anthropology	選択	講義	1単位 (15時間)	1年前期	澁谷 俊樹	—
ナンバリングコード	HC0B1	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
総合教育科目	DP3) 相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4) 保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5) 幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6) 卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
人間と文化						

授業概要	我々人間が無意識のうちに認識し実践している文化は、社会によって極めて多様であり、ある社会にとつての常識が別の社会ではそうではないことがめづらしくない。文化人類学とは、そのような文化の多様性を認識しつつ、共通の理解が可能な普遍性も求めていく学問である。授業では、毎回一定のテーマに沿って様々な文化的事象について解説し、文化人類学の考え方について学ぶ。
------	--

到達目標	1) 文化人類学の基本姿勢としての文化相対主義の考え方と、その問題点を知る。 2) 「私たちの思考やライフスタイル」を少し離れた視点から捉え直すことができるようになる。
------	---

回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）	担当教員
1	授業の全貌と文化人類学の図書紹介	授業の全体像を説明し、文化人類学の図書を紹介する。加えて、生涯を見据えて、日本の大学図書館・公共図書館の基本的な仕組みを理解してもらう。 事前学習(30分): シラバスをよく読み、授業全体の流れを確認する。 事後学習(30分): 配布資料を確認し、授業全体を復習する。	澁谷 俊樹
2	文化人類学のフィールドワーク	担当者のインドでの下宿生活を紹介します。文化人類学がどのような学問なのか、おおまかな輪郭をつかむ。 事前学習(30分): フィールドワークと聞いて想像することをメモする。 事後学習(30分): 配布資料を確認し、授業全体を復習する。	澁谷 俊樹
3	自然と文化—人類学という「文化」とは？	文化人類学という「文化」という概念はどのようなものなのかを理解する。 事前学習(30分): ウェブ上の事典などを利用し、「文化」という概念について調べてメモする。 事後学習(30分): 配布資料を確認し、授業全体を復習する。	澁谷 俊樹
4	インド・コルカタの路上の生活	路上が生活の場として使われるインドのライフスタイルを紹介する。 事前学習(30分): 身近な路上が交通とは異なる生活の場として使われることがあるかを考えてメモする。 事後学習(30分): 配布資料を確認し、授業全体を復習する。	澁谷 俊樹
5	インド・コルカタの市場の生活	コルカタのスラムの市場(いちば)の生活から、身近な貧困や仕事、生活について考えなおす。 事前学習(30分): 「スラムに暮らす人々」がどのような生活をしているか、想像するか、webで調べてメモする。 事後学習(30分): 配布資料を確認し、授業全体を復習する。	澁谷 俊樹
6	文化と進化—社会進化論時代の人類学	人間社会は「遅れた」段階から白人社会のような「進んだ」段階へと進化する、という社会進化論の考え方とその問題点を理解する。 事前学習(30分): 「人間社会の進化発展」と「多文化共生」は矛盾するのか両立するのかを考えてみる。 事後学習(30分): 配布資料を確認し、授業全体を復習する。	澁谷 俊樹
7	文化相対主義	社会進化論と人種主義の思想に対抗して現れた「文化相対主義」の考え方と、その問題点について考える。 事前学習(30分): 「社会は遅れたものから進んだものへと発展する」という考え方と、「開発」との関係を考える。 事後学習(30分): 配布資料を確認し、授業全体を復習する。	澁谷 俊樹
8	まとめ および近年の文化人類学の動向	全体を振り返ったうえで、受講者の今後に関わり得る人類学の近年の動向を紹介する。 事前学習(30分): これまで学んだ授業の要点を確認する。 事後学習(30分): 「個人の自由と幸福」と「文化や社会の持続可能性」が相容れるかどうかを考える。	澁谷 俊樹

評価	コメントシート(20%)、中間レポート(30%)、最終レポート(50%)で評価する。
課題に対するフィードバックの方法	次回の授業冒頭10分ほどで、受講者からの質問やコメントの一部を匿名にして紹介し、応答する。
教科書	指定しない。
参考図書など	指定しない。参考文献は配布資料に掲載する。
アクティブ・ラーニング	講義の途中、適宜黙読の時間や、ディスカッション時間を設ける。
実務経験のある教員による授業	該当なし。
留意事項	該当なし。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
国際関係論 The Study of International Relations	選択	講義	1単位 (15時間)	1年前期	輪湖 史子	○
ナンバリングコード	HC0B1	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
総合教育科目	DP3) 相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP5) 幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。					
人間と文化						

授業概要	国際関係論の学問的背景を理解し、国際的な課題や問題を理解するうえで基本となる諸概念について学習する。国際社会が抱える諸問題のうち、特に私たちが安全・安心、かつ、健康に暮らしていくための諸課題(対立と紛争、人口、食糧、水、貧困と格差、地球環境など)を国際的見地から考察し、国際社会の取組み、国際協力のあり方について学習する。
------	---

到達目標	1) 国際社会の仕組みと役割を理解する。 2) 世界が抱える重要課題について理解する。 3) 国連など国際機関の役割と活動、日本のODAの活動状況と役割を理解する。
------	--

回	授業項目	授業内容 事前・事後学習 (予習・復習・課題等)	担当教員
1	国際関係論概要	国際社会の成立、現代国際社会の構成、国際社会を支える理念 事前学習(30分): 自身が関心をもつ昨今の国際的課題を挙げる。 事後学習(60分): 国際社会に関する主要概念について復習・整理する。	輪湖 史子
2	国際社会における主要課題Ⅰ (政治的対立と戦争・国際紛争の概況)	戦争・国際紛争の歴史的概況、平和の達成に向けた国際社会の取組み、国際連合の役割 事前学習(30分): 代表的な国連機関について、その活動内容を調べる。 事後学習(60分): 国連の活動と国連ファミリーについて復習・整理する。	輪湖 史子
3	国際社会における主要課題Ⅱ (現代の国際紛争とその課題)	現代の紛争の特徴、テロ、難民問題、国際社会・日本の対応 事前学習(30分): 現在、世界各地で発生している紛争について調べる。 事後学習(60分): 国際紛争から派生する諸課題について復習・整理する。	輪湖 史子
4	国際社会における主要課題Ⅲ (貧困と格差)	世界における貧困と格差の状況、絶対的貧困と相対的貧困、貧困が人々に及ぼす影響 事前学習(30分): 「貧困」とはどのような状態を指すか、調べる。 事後学習(60分): 「貧困の構造」について復習・整理する。	輪湖 史子
5	国際社会における主要課題Ⅳ (人口問題、食糧問題)	世界における人口推移と今後の動向、人口増と食糧問題、人口高齢化、少子化地域 事前学習(30分): 世界人口の動向(増減)について調べる。 事後学習(60分): 世界人口の変動がもたらす影響について復習・整理する。	輪湖 史子
6	国際社会における主要課題Ⅴ (人の移動)	世界的な人の移動とグローバル化、グローバル化の影響 事前学習(30分): 「人の移動」とはどのようなことを指すのか調べる。 事後学習(60分): 人の移動がもたらす影響について復習・整理する。	輪湖 史子
7	国際社会における主要課題Ⅵ (地球環境問題)	地球温暖化、環境汚染、生態系の変化、水問題、等 事前学習(30分): 地球温暖化の現状について調べる。 事後学習(60分): 地球温暖化がもたらす影響について復習・整理する。	輪湖 史子
8	国際社会における主要課題Ⅰ～Ⅵに対する国際社会と日本の取組み	世界の開発に向けた取組み、様々な将来予測 事前学習(30分): 「持続可能な開発目標(SDGs)」について調べる。 事後学習(60分): SDGsにおける健康関連ゴールについて復習・整理する。	輪湖 史子

評価	レポート 100%
課題に対する フィードバックの方法	適宜、口頭発表またはリアクション・ペーパー提出を求め(成績評価対象外)、必要に応じて講義時にフィードバックを行う。
教科書	地図とデータで見るグローバリゼーションの世界ハンドブック/ロラン・カルルエ著、土居佳代子訳/原書房/2022/ISBN: 978-4562059409 その他、適宜プリント配布
参考図書など	(1) Next 教科書シリーズ 国際関係論 第3版(2018)/(編)佐渡友哲、信夫隆司、柑本英雄/弘文堂/ISBN: 978-4-335-00233-5 (2) プライマリー国際関係学(2021)/(編)足立研幾・坂木正彦・白戸圭一、他/ミネルバ書房/ISBN: 978-4-623-09126-3 (3) 中谷和弘、植木俊哉、河野真理子、他/国際関係論 第4版(2021)/有斐閣アルマ/ISBN: 978-4-641-22173-4
アクティブ・ラーニング	1) 事後学習・事前学習の内容に基づき、講義中に口頭発表の機会を設け、意見交換・フィードバックを行う。 2) 上記1)を発展させて、グループワークを行う(クラス規模による)。
実務経験のある 教員による授業	看護師として看護専門職団体等の国際活動に従事した経験を活かし、基本的・実践的内容を講義する。
留意事項	1) 事前学習・事後学習の内容は、上記記載に加えて、都度、講義中に提示します。 2) 講義や自己学習の際に分らなかつたことや疑問に思ったことを言語化し、適切なリソース(資料、人、等)を活用し、自ら答えを見出す姿勢を身につけましょう。 3) 参考図書等は、改訂版が出版されることがあります。その時点での最新版を参照してください。

授業科目の名称	必修・選択の別	授業形態	単位数(時間数)	配当年次	科目担当教員	実務経験のある教員による科目
国際保健医療論 Introduction to Global Health	選択	講義	1単位 (15時間)	1年後期	輪湖 史子	○
ナンバリングコード	HCOB2	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
総合教育科目	DP1) 看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2) 科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3) 相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4) 保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5) 幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6) 卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
人間と文化						
授業概要	進行するグローバル化の中で、世界の医療分野で活躍できるような人材を育成するために、先進国と開発途上国における保健医療の実態と主体的関わり方を学ぶ。また、WHOの役割とその実際の成果を学ぶ。日本の看護師、理学療法士、作業療法士が特にアジアやアフリカの開発途上国で何ができるかを考え(援助の方法)、まとめる。					
到達目標	1) 国際保健医療に関する基本的な概念及び用語が理解できる。 2) 国際保健医療の現状と課題、及びそれらが発生する背景が理解できる。 3) 国際保健医療における課題解決への取組み(関係機関、手法、具体的プロジェクト等)が理解できる。 4) 保健医療領域における国際協力の現状と課題が理解できる。 5) 国際保健医療に関する事柄やテーマについて、自身で情報収集ができる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)			担当教員	
1	グローバル化と健康	①グローバル化と健康、②健康の定義、③人権としての健康 事前学習(30分): グローバル化とは、どのようなことを考える。 事後学習(60分): 自身の身近にある「グローバル化の影響」を考える。			輪湖 史子	
2	世界の健康状況	①世界の健康を表す指標、②健康格差、③健康及び健康格差の要因 事前学習(30分): 日本人の死亡因上位10疾患を調べる。 事後学習(60分): 世界の健康格差について復習・整理する。			輪湖 史子	
3	健康に影響を及ぼす要因	①貧困と健康、②疾病構造と疫学転換、③世界の開発目標と健康 事前学習(30分): 貧困が健康に及ぼす影響について、調べる。 事後学習(60分): 貧困の測定指標について復習・整理する。			輪湖 史子	
4	世界の健康課題	①感染性疾患と非感染性疾患、②感染症対策における国際協力 事前学習(30分): 代表的な感染性疾患と非感染性疾患を調べる。 事後学習(60分): 感染症対策における国際協力について復習・整理する。			輪湖 史子	
5	世界の健康向上に向けた取組み	①プライマリ・ヘルス・ケア(PHC)、②ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)、③国際保健医療の担い手 事前学習(30分): 健康関連の国際協力組織について調べる。 事後学習(60分): PHCとUHCについて復習・整理する。			輪湖 史子	
6	国際保健医療領域における日本の取組み	①訪日・在留外国人の健康課題、②日本における国際保健医療協力、③保健医療の場における異文化理解 事前学習(30分): 訪日・在留外国人の人数を調べる。 事後学習(60分): 日本の国際保健医療協力について復習・整理する。			輪湖 史子	
7	国際的取組みが必要な保健医療領域の課題Ⅰ(人の移動、他)	①人の移動と健康課題、②難民の健康、③災害対策 事前学習(30分): 災害の種類を調べる。 事後学習(60分): 上記①～③に対する国際協力について復習・整理する。			輪湖 史子	
8	国際的取組みが必要な保健医療領域の課題Ⅱ(地球環境問題、他)	①地球環境問題と健康、②医薬品等の規制、③社会の安定と健康 事前学習(30分): 地球温暖化の現状について調べる。 事後学習(30分): 社会の安定と健康の関連性について復習・整理する。			輪湖 史子	
評価	レポート 100%					
課題に対するフィードバックの方法	適宜、口頭発表またはリアクション・ペーパー提出を求め(成績評価対象外)、必要に応じて講義時にフィードバックを行う。					
教科書	実践グローバルヘルス ―現場における実践力向上をめざして―/ 日本国際保健医療学会編/杏林書院/2022/ISBN: 978-4764405417 その他、適宜プリント配付					
参考図書など	講義時に紹介する。					
アクティブ・ラーニング	事後学習・事前学習の内容に基づき、講義中に口頭発表の機会を設け、意見交換・フィードバックを行う。					
実務経験のある教員による授業	看護師として看護専門職団体等の国際活動に従事した経験を活かし、基本的・実践的内容を講義する。					
留意事項	1) 事前学習・事後学習の課題は、上記記載に加えて、都度、講義中に提示します。 2) 講義や自己学習の際に分からなかったことや疑問に思ったことを言語化し、適切なリソース(資料、人、等)を活用し、自ら答えを見出す姿勢を身につけましょう。 3) 参考図書等は、改訂版が出版されることがあります。その時点での最新版を参照してください。					

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
音楽論 Introduction to Music Theory and Music Therapy	選択	演習	1単位 (30時間)	1年後期	三浦 優佳	○
ナンバリングコード	HC001	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
総合教育科目	DP3) 相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4) 保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5) 幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。					
人間と文化						
授業概要	芸術領域である音楽を広く理解し、特に人々の健康のために音楽を活用する「音楽療法」の知見を学ぶ。具体的には、音楽が持つ働き(生理的、心理的、社会的働き)を学修し、心身の障害の回復、機能の維持改善、生活の質向上等にむけて音楽を意図的・計画的に用いて支援する具体的な方法の基礎を学修する。					
到達目標	1) 音楽の持つ働きを広い観点から考えることができる。 2) 音楽療法の基本的な原理と考え方を説明できる。 3) 対象者のニーズに合わせてどのように音楽の持つ働きを活用するのか説明できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習 (予習・復習・課題等)			担当教員	
1	イントロダクション: 人間の発達と音楽	乳幼児から高齢者まで、人の発達と音楽のかかわりについて考える／音楽とは何か?について考える 事前学習(15分): 自分自身と音楽との出会いやかかわりについて考える／過去を振り返り、自分自身の人生の中での音楽について考える 事後学習(20分): 自分自身と音楽との出会いやかかわりや、人生の中での音楽について考えたことを配付プリントにまとめる／授業内でディスカッションした内容を配付プリントにまとめる			三浦 優佳	
2	音楽とは	人間の生涯と音楽、「音楽とは何か?」について考える 事前学習(20分): 過去を振り返り、自分自身の人生の中での音楽について考える 事後学習(20分): 授業内で扱ったキーワードを復習し、考えたことを配付プリントにまとめる			三浦 優佳	
3	音楽を使ったアクティビティ	グループワーク 事前学習(20分): 自分自身が体験したことがある音楽を用いた活動を思い出しておく 事後学習(20分): 演習での体験を配付プリントにまとめておく			三浦 優佳	
4	音楽療法概説	音楽療法の定義、対象者、目的・目標、方法などについて学ぶ 事前学習(20分): 音楽療法に対する自分自身のイメージを考える 事後学習(20分): 配付資料、授業内容の復習			三浦 優佳	
5	音楽療法における様々な音楽経験と多様な楽器の使用	フォーマルな音楽療法における様々な音楽経験と使用する楽器について学ぶ 事前学習(20分): 音楽はどのような方法で体験できるか(聞く、歌うなど)考えておく。 事後学習(20分): 授業内容の復習、参考映像等の視聴			三浦 優佳	
6	人の健康と音楽に関する歴史的視点	世界の童話や逸話にみられる「心身の健康と音楽」／音楽療法の歴史と現状を知る 事前学習(20分): 音楽がもつ人の健康に対する影響をしめしている童話や逸話を考えてみる(テキストを事前に読んでおくのも良い) 事後学習(20分): 自分自身や家族等身近な人の心身の健康と音楽に関するエピソードを考える／心身の健康と科学について自分自身の考察を深める			三浦 優佳	
7	音楽の持つ機能(1)- 生理的働き、心理的働き	音楽の持つ3つの働き(生理的・心理的・社会的働き)について、映像資料や事例、グループワークから学ぶ 事前学習(20分): 音楽の働きが人間の心身の状態に影響している具体的な例について広く考察する 事後学習(20分): テキストや配付プリントで復習する／音楽の働きが活かされている社会の事例や健康に対する支援の事例を考える			三浦 優佳	
8	音楽の持つ機能(2)- 社会的働き	音楽の持つ様々な働きの活用方法について映像資料および事例、グループワークから学ぶ 事前学習(20分): 自分自身にとっての音楽の存在意義について考えてみる 事後学習(20分): テキストや配付プリント、映像資料、演習を振り返り、内容をまとめる			三浦 優佳	
9	音楽療法実践の流れの例(1)- 子ども、高齢者領域	発達初期段階の子どもと療育現場、高齢者福祉施設でのそれぞれの音楽療法の実践を知る／対象児・者に合わせた楽器や音楽の活用 事前学習(20分): 子どもにとって「楽しい音楽活動」とは? について考えてみる 事後学習(20分): 配布資料や授業であつた映像資料の内容を配付プリントにまとめ、考察する			三浦 優佳	
10	音楽療法実践の流れの例(2)- リハビリテーションほか	医療現場・高齢者福祉の現場での目的・目標に合わせた音楽や楽器の活用について知る 事前学習(20分): 訓練や治療とモチベーションについて考える 事後学習(20分): 配布資料や授業であつた映像資料の内容を配付プリントにまとめ、考察する			三浦 優佳	
11	音楽を活用した多様な事例- 認知症高齢者、終末期医療ほか	介護現場や長期療養の現場での音楽療法の実践を知る／対象者に寄り添う音楽の活用について考える 事前学習(20分): 身近な高齢者と音楽のかかわりについて考える／人生の締めくくりについて、「その人らしさ」、「尊厳」、「終末期医療」、「喪失」等のキーワードから考えてみる 事後学習(20分): 配布資料や授業であつた映像資料の内容を配付プリントにまとめ、考察する／「生活の質」や「人に寄り添うこと」について自分自身の意見をまとめる			三浦 優佳	

12	音楽活動の創作(1)ープログラムビルディング	対象者に合わせた音楽の創作について、目的設定、活動案の作成について学ぶ 事前学習(20分): 音楽活動を作成するにあたっての、関心のある対象領域を考えてみる 事後学習(20分): テキストや配付プリントを振り返り、学修内容をまとめる	三浦 優佳
13	音楽活動の創作(2)ー対象者像と活動の検討	対象者と課題、目標等を検討し、活動を立案する/グループワーク 事前学習(20分): 対象者像と目標について具体的に考え、使用音楽等を考えておく 事後学習(20分): テキストや配付プリントを振り返り、学習内容をまとめる	三浦 優佳
14	音楽活動の創作(3)ープレゼンテーションに向けての演習	立案した音楽活動のデモンストレーションと修正/グループワーク 事前学習(20分): 立案した音楽活動をおこなうための準備をすすめる 事後学習(20分): デモンストレーションをもとに修正し、プレゼンテーションの準備をする	三浦 優佳
15	音楽活動の発表(プレゼンテーション)	これまでの学修内容をもとに、対象領域を設定し、そのニーズを踏まえた音楽や楽器の活用を具体的に考える/考えた事柄について、プレゼンテーション(課題発表)をおこなう 事前学習(60分): 学修内容をもとに対象者のニーズに合わせた音楽活動を考えまとめる/グループワークとプレゼンテーション(課題発表)の準備をする 事後学習(20分): グループワークやプレゼンテーションを通して考えたことをまとめる	三浦 優佳

評価	期末テスト50%(基礎的な知識の獲得状態と、それをもとに自分の考えをまとめる力をみる) プレゼンテーション50%(学修成果をもとに自分の考えやアイデアをまとめ、表現する力をみる。プレゼンテーションのための資料は事前に提出を求める場合がある。提出の目安は第13回の予定。)
課題に対するフィードバックの方法	提出した課題は後日返却する。返却の際(授業中)にフィードバックをおこなうと共に、必要に応じて課題に個別にコメントを記入して返却する。授業中に学生同士でピアレビューをおこなう機会を設ける。
教科書	宮本啓子、二俣泉編著(2014)「音楽療法を知るーその理論と技法」杏林書院 ISBN:978-4764405325 その他、資料は配付プリントとして適宜配付する。
参考図書など	二俣泉、白川ゆう子、三浦優佳著(2019)「音楽療法をまなぶ」新訂増補版 アカデミアミュージック株式会社 ISBN: 978-4870170995、佐藤 由美子著(2014)「ラスト・ソングー人生の最期に聴く音楽」ポプラ社 ISBN:978-4-591-14215-8
アクティブ・ラーニング	【ディスカッション】は、シラバス欄への記載はないが毎テーマでおこなう。【グループワーク】ではロールプレイ等もおこなう。【プレゼンテーション】はグループワークも含み、自身やグループでの意見や考えをまとめてクラスで発表し、質疑応答をする。
実務経験のある教員による授業	日本音楽療法学会認定音楽療法士の資格を有し、音楽を用いた健康への支援について臨床例を提示しながら実践的な授業をおこなう。
留意事項	履修にあたり、音楽の得意不得意、経験の有無、好み等は一切問いません。また、本授業ではピアラーニングの視点を大切にします。ディスカッションや各種ワーク、プレゼンテーションと質疑応答には真摯な姿勢で臨みましょう。

授業科目の名称	必修・選択の別	授業形態	単位数(時間数)	配当年次	科目担当教員	実務経験のある教員による科目
社会福祉論 Social Welfare(Introduction to Social Welfare)	必修	講義	1単位 (15時間)	2年後期	久次 奈美	○
ナンバリングコード	HC0B1	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
総合教育科目	DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。					
人間と健康						

**授業概要**  
現代社会における社会問題や生活課題を取り上げ、福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係、福祉ニーズと社会資源、社会福祉専門機関や専門職の役割を学ぶ。また様々な福祉領域の制度政策、実践方法にはどのようなものがあるのかなどについて基本的な学びを深める。さらにこれからの福祉のあり方についても考察することで、保健医療福祉分野での自身の専門職としての役割や専門性についても考察する。

- 到達目標**
- 1) 保健医療福祉における社会福祉の位置づけを理解し説明できる。
  - 2) 現代社会の課題と地域社会の中での社会福祉の役割を説明できる。
  - 3) 社会福祉を担う人々の専門性と多職種連携について理解し、多職種連携に基づくチームアプローチの大切さを実感できる。
  - 4) 社会福祉の相談援助技術とソーシャルワークの展開過程について理解し、説明できる。
  - 5) 保健福祉医療分野での自身の専門職としての役割、社会福祉との関わり方について考察し、将来の専門職像に役立てる。

回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)	担当教員
1	社会福祉とは何か 社会福祉を取り巻く環境	社会福祉の理念、思想、概要・社会福祉の動向・対象課題・現代社会の現状 事前学習(30分):現時点で自身が思う「社会福祉像」と「現代社会の課題」を考える。 事後学習(30分):社会福祉とは、社会福祉を取り巻く環境についての学びと感想をmanabaにて提出する。	久次 奈美
2	社会福祉の歴史	古代から近代までの日本と欧米の社会福祉の歴史と発展 事前学習(30分):教科書 第1部2 日本と欧米の社会福祉の歴史を読む。 事後学習(30分):歴史からの学びと感想をmanabaにて提出する。	久次 奈美
3	社会保障制度	社会保障の理念、目的、機能と構成、現状と動向、社会保険制度(医療・年金・労働保険) 事前学習(30分):教科書 第1部3 P32 図3.2の中から自身や家族が利用したことがある社会保障制度を書き出す。 事後学習(30分):社会保障制度についての考察と感想をmanabaにて提出する。	久次 奈美
4	社会福祉を展開する組織 社会福祉を担う人々 相談援助・ソーシャルワークの展開	社会福祉を展開する組織、社会福祉従事者の職種、資格制度、専門性、活動範囲、多職種連携・チームアプローチ 事前学習(30分):厚生労働省ホームページと自分が住む市区町村のホームページを閲覧する。 事後学習(30分):①自分が住む地域を担当する社会福祉の専門機関と施設を調べる(リサーチ)②社会福祉専門職と援助展開についての事例考察と感想をmanabaにて提出する。	久次 奈美
5	子ども家庭福祉	子どもと家庭を取り巻く現状と少子化対策、児童福祉施設、母子保健、児童虐待、子育て支援事業 事前学習(30分):教科書 第1部4 子ども家庭福祉 を読み、日本における子ども家庭福祉の課題を考える。 事後学習(30分):子ども家庭福祉についての考察と感想をmanabaにて提出する。	久次 奈美
6	高齢者福祉と介護保険制度	高齢者を取り巻く状況、高齢者福祉、介護保険制度 事前学習(30分):教科書 第1部6高齢者福祉 7介護福祉と介護保険制度 を読み、日本における高齢者福祉の課題を考える。 事後学習(30分):高齢者福祉と介護保険制度についての考察と感想をmanabaにて提出する。	久次 奈美
7	障害者福祉	障害者のとらえ方、定義と現状の理解、障害者福祉に関する法と施策、障害者雇用と就労支援 事前学習(30分):教科書 第1部5 障害者福祉 を読み、障害の概念・定義について考える。 事後学習(30分):障害者福祉についての考察と感想をmanabaにて提出する。	久次 奈美
8	低所得者福祉と地域福祉・まとめ	低所得と貧困の定義と現状及び、低所得者への支援制度 地域における社会福祉活動と地域福祉の推進 事前学習(30分):教科書 第1部7 低所得者福祉 9 地域福祉とその推進方法を読み 地域の福祉課題を考える。 事後学習(30分):低所得者福祉・地域福祉についての考察と感想をmanabaにて提出する。	久次 奈美

評価	定期試験(70%) 事前事後課題・小テスト・授業中ワーク(30%)で評価する。
課題に対するフィードバックの方法	教員より評価点とコメントをつけて授業後に返却または授業中に口頭でフィードバックを行う。
教科書	コメディカルのための社会福祉概論 第5版/鬼崎信好・本郷秀和編/講談社/2023年/ISBN:978-4065301937
参考図書など	よくわかる社会福祉/第11版/山縣文治・岡田忠克編/ミネルヴァ書房/2019年/ISBN:9784623076765 ソーシャルワーク実践の基礎理論(改訂版)/北島英治・副田あけみ・高橋重宏・渡部律子編/有斐閣/2010年/ISBN:978-4-641-05549-0 その他 講義の中で適宜紹介する。
アクティブ・ラーニング	①各講義のテーマについてペアまたはグループワークによるディスカッションを実施・代表者による発表を行う。 ②授業中及び事後学習を通して教員との意見交換を行う。
実務経験のある教員による授業	社会福祉士及び精神保健福祉士資格を有しソーシャルワーカーとしての実務経験に基づく実践的な授業を行う。
留意事項	広範な内容を8回の講義で学習するため事前学習・事後学習は必ず取り組むこと。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
障害者スポーツ Universal Sports for People with Disability	選択	演習	1単位 (30時間)	1年前期 または 後期	泉 敏郎	○
ナンバリングコード	HC001	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
総合教育科目	DP2) 科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3) 相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。					
人間と健康						
授業概要	この授業は、座学(6週間)実技(7週間)から構成される。座学では、「しょうがい」の表記に関する考え方、障がいの臨床像やパラリンピック、国内で行われている障がい者スポーツの競技を視覚教材などを使用し説明すると共に、障がいの有無に関わらず、すべての人がスポーツ参画に繋がる考え方や工夫についても説明をする。実技では、座学で学習した内容を基にいくつかの障がい者スポーツを体験する。					
到達目標	1) 「しょうがい」表記の考え方を説明できる。 2) 障がいの臨床像(3障がい:身体/知的/精神)を理解し、説明できる。 3) 障がい者スポーツの歴史を把握し、説明できる。 4) パラリンピックや国内で行われている障がい者スポーツの競技の把握とルールを理解し、説明できる。 5) 障がい者スポーツと共生社会を理解し、説明できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)			担当教員	
1	ガイダンス	授業内容、進め方などの説明を行う。 事前学習なし。 事後学習なし。			泉 敏郎	
2	障がいとは【座学】	「しょうがい」の定義とは。表記の考え方、臨床像を理解する。 事前学習(30分):自身がいつも使用する「しょうがい」表記と、他にはどのような表記方法があるのかを調べる。 事後学習(60分):自身が「しょうがい」と表記する際に、どのような表記が自身にとって良いのか理由と共に考える。			泉 敏郎	
3	身体障がい(1)【座学】	肢体不自由・脳性まひ・脊髄損傷 事前学習(30分):身体障がいとはどのような「しょうがい」なのかを学習する。 事後学習(60分):学習した内容を基に身体障がいの方がスポーツを行う際の留意点を学習する。			泉 敏郎	
4	身体障がい(2)【座学】	視覚障がい・聴覚障がい 事前学習(30分):視覚障がい、聴覚障がいは、体のどこの部位に障がいがあるかを学習する。 事後学習(60分):障がいのある方が実際にスポーツを行う際に留意する点とは。			泉 敏郎	
5	知的障がい【座学】	知的障がい(ダウン症など) 事前学習(30分):知的障がいの定義を調べる。 事後学習(60分):スポーツに参加をする際、注意する点は何かを調べる。			泉 敏郎	
6	精神障がい【座学】	統合失調症(鬱病、発達障害など) 事前学習(30分):精神障がいとはどのような障がいで、統合失調症とはどのような症状があるかを調べる。 事後学習(60分):スポーツを行う際の留意点を調べる。			泉 敏郎	
7	障がい者スポーツの歴史【座学】	障がい者スポーツの成り立ち(パラリンピック大会の実際) 事前学習(30分):障がい者スポーツはいつ、どこで、だれが始めたスポーツかを調べる。 事後学習(60分):日本及び諸外国における障がい者スポーツの普及状況を学習する。			泉 敏郎	
8	肢体不自由に応じた競技①【実技】	陸上競技(肢体不自由及び視覚障がい) 事前学習(30分):障がい者スポーツの競技を調べて、興味のある競技をインターネットで閲覧する。 事後学習(60分):授業を通して学習した内容を確認しながら、興味のある競技をインターネットで閲覧する。			泉 敏郎	
9	肢体不自由に応じた競技②【実技】	ブラインドサッカー(視覚障がい) 事前学習(30分):ブラインドサッカーのルールを調べる。 事後学習(30分):ブラインドサッカーにおける公式試合の動画を探して閲覧する。			泉 敏郎	
10	肢体不自由に応じた競技③【実技】	ゴールボール(視覚障がい) 事前学習(30分):ゴールボールのルールを調べる。 事後学習(30分):実技で体験したことをイメージし、シュートをより上達するための方法を調べる。			泉 敏郎	

11	肢体不自由に応じた競技④ 【実技】	シッティングバレーボール（ゲームを含む） 事前学習(30分):シッティングバレーボールのルールを調べる。 事後学習(30分):実技で行いたいプレーができたかを確認し、さらに上達するための方法を調べる。	泉 敏郎
12	肢体不自由に応じた競技⑤ 【実技】	車いすバスケットボール（ゲームを含む） 事前学習(30分):車いすバスケットボールのルールを調べる。 事後学習(30分):車いすバスケットボールにおける怪我防止(転倒など)への配慮点を調べる。	泉 敏郎
13	脳性まひに応じた競技① 【実技】	ポッチャ(ゲームを含む) 事前学習(30分):ポッチャのルールを調べる。 事後学習(30分):勝つための戦略を自身で組み立てる。	泉 敏郎
14	脳性まひに応じた競技② 視覚障がいに応じた競技 【実技】	ポッチャ(ゲームを含む) 事前学習(30分):ポッチャにおける実際の試合動画を探して閲覧する。 事後学習(30分):見え方の体験から、実際に「できること」と「困難であること」を整理する。	泉 敏郎
15	まとめ	14週までのまとめを行う 事前学習なし 事後学習なし。	泉 敏郎

評価	レポート課題(50%)、リアクションペーパー(50%)から評価する。
課題に対する フィードバックの方法	授業内に適宜フィードバックをする。
教科書	改訂版 障がいのある人のスポーツ指導教本<初級・中級> 2020年改訂カリキュラム(公財)日本パラスポーツ協会/編 ISBN:978-4-324-11250-2
参考図書など	参考図書、参考WEBがあった際は、授業内にて説明をします。
アクティブ・ラーニング	障がいの体験を行い、障がいのある方の生活圏やスポーツを行う際の「できること」、「困難であること」を把握する。
実務経験のある 教員による授業	①上級 障がい者スポーツ指導員の資格を有し、大会運営や障がいのある方の指導の経験から、実践的な授業を行う。②精神保健福祉士、公認心理師、米国公認 レクリエーション療法士(CTRS)としての臨床経験を活かして、身体、知的、精神障がいの臨床像を説明する。
留意事項	実技は相応しい格好で行う。不備があると講師が判断した場合、リスクマネジメントの観点から見学扱いとなるので注意をする。(詳細はガイダンス時に説明をします。) 【授業進行時の注意点】上記の授業計画を基に授業を進めますが、履修者数、授業の進行状況などにより変更する場合があります。ご了承ください。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
レクリエーションスポーツ Recreation Sports	選択	演習	1単位 (30時間)	1年前期 または 後期	加藤 広大	○
ナンバリングコード	HC001	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
総合教育科目	DP3) 相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。					
人間と健康						
授業概要	年代、体力、障害等を考慮した身体運動の必要性及び指導上の注意事項に関する基礎的知識を理解する。高齢者を対象としたQOLを高めるための測定、体操、各種ニュースポーツの基礎的能力を身につける。					
到達目標	1) 身体運動の必要性及び重要性について理解し、説明できる。 2) 対象者の状態に合わせたレクリエーションの計画立案と安全を留意した運動指導ができる。 3) 対象者が楽しく参加できる身体運動を支援するためのコミュニケーションを実践できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）			担当教員	
1	オリエンテーション・健康学について	授業の内容についての説明及びQOL、身体運動の必要性についての解説 事前学習(30分): 自分にとって健康とどのような状態か考える。 事後学習(30分): 学生生活において健康のために何が出来るかとまとめる。			加藤 広大	
2	健康学概論「運動」	身体運動の重要性についての解説及び実践 事前学習(30分): 運動方法について幅広く予習する。 事後学習(30分): 運動方法についてまとめる。			加藤 広大	
3	健康学概論「栄養」	栄養についての解説及び実例提示 事前学習(30分): 五大栄養素について予習する。 事後学習(30分): 五大栄養素についてまとめる。			加藤 広大	
4	健康学概論「休養」	休養についての解説及び実践 事前学習(30分): 休養方法について予習する。 事後学習(30分): 休養方法についてまとめる。			加藤 広大	
5	健康学概論「健康への害」	アルコール、喫煙および薬物がQOLに及ぼす影響 事前学習(30分): アルコールや喫煙の害を調べる。 事後学習(30分): アルコールや喫煙について自分の考えをまとめる。			加藤 広大	
6	体力測定実習「柔軟性と筋力」	高齢者を対象とした体力測定の実践方法と評価について実施及び解説 事前学習(30分): 体力測定の方法について予習する。 事後学習(30分): 測定結果についてまとめる。			加藤 広大	
7	体力評価「評価法解説」	体力測定の実践方法と評価について実施及び解説 事前学習(30分): 体力要素について予習する。 事後学習(30分): 授業内容を踏まえ身体活動における留意点についてまとめる。			加藤 広大	
8	前半のまとめ(第1回～7回)	到達目標に対する理解度を測る 事前学習(30分): 前回までの内容について予習する。 事後学習(30分): 健康と運動について考察する。			加藤 広大	
9	ヨガ「ポーズ解説」	QOL向上を目的としたヨガの解説及び実践 事前学習(30分): ヨガについて予習する。 事後学習(30分): 実践を通じて、ヨガについてまとめる。			加藤 広大	
10	ヨガ「軽減法」	高齢者に対するヨガの実践方法及び注意点の解説 事前学習(30分): 高齢者の身体活動状況について予習する。 事後学習(30分): 高齢者に対するヨガの有効性についてまとめる。			加藤 広大	
11	ヨガ「レイヤリング法」	ボディラインを整えるヨガの解説及び実践 事前学習(30分): 理想のボディラインについて考える。 事後学習(30分): ボディラインを整えることの有用性についてまとめる。			加藤 広大	
12	健康学概論「ストレスマネジメント」	ストレスの解説及び、解消方法の提案 事前学習(30分): ストレスについて考える。 事後学習(30分): ストレスについて自分の考えをまとめる。			加藤 広大	

13	健康学概論「心理学」	<p>心理的健康についての解説</p> <p>事前学習(30分):心理的健康について考える。</p> <p>事後学習(30分):心理的健康について自分の考えをまとめる。</p>	加藤 広大
14	健康学概論「持続可能性」	<p>SDGs、エシカル、メディアリテラシーについての解説</p> <p>事前学習(30分):SDGsを調べる。</p> <p>事後学習(30分):SDGsについて自分の考えをまとめる。</p>	加藤 広大
15	全授業内容のまとめ	<p>前回までの内容の振り返りとまとめ、健康に関するグループディスカッション</p> <p>事前学習(30分):総合的に健康について考える。</p> <p>事後学習(30分):総合的に健康について自分の考えをまとめる。</p>	加藤 広大

評価	思考力、判断力をルーブリック評価(60%)し、更に意欲、表現力をレポート(40%)で評価する。
課題に対するフィードバックの方法	レポートを実施した際は翌週解説を行う。
教科書	障がいのある人のスポーツ指導教本(初級・中級)/(公財)日本パラスポーツ協会編/ISBN:978-4-324-108031
参考図書など	適宜紹介する。
アクティブ・ラーニング	ディスカッション及び各種ワークを通じ、主体的な学び、対話的な学び、深い学びを促す。
実務経験のある教員による授業	ヨガ指導者としての資格(RYT200等)を有し、年間500時間程度のヨガ、健康学指導経験を活かした包括的、実践的授業を行う。
留意事項	授業の内容は、施設・用具の状況や授業の進行状況によって変更することがあります。身体的接触のない授業内容、換気の徹底など、感染症対策を講じながら授業を進めていきます。学生側もマスク着用、咳エチケットなど各自感染症対策の徹底をお願いします。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
情報リテラシー Information Literacy	選択	演習	1単位 (30時間)	1年前期	橋本 規子	○
ナンバリングコード	HC0B2	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
総合教育科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
人間と情報						
授業概要	学習においてコンピュータを有効に活用するための能力(コンピュータリテラシー)を身につける。現代社会における情報モラルと情報セキュリティを理解し、ICT(Information and Communication Technology)を利用して、情報を収集・活用していくための方法と技術を修得する事を目的とする。					
到達目標	1)情報モラルと情報セキュリティを理解し、ICTを活用方法について説明する。 2)コンピュータ(Windows)の基本的な使い方を理解し、実務に活用する重要性を認識する。 3)WordやExcelを理解し、実務に活用する重要性を認識する。 4)PowerPointを使った研究発表を行い、創造的思考を深める。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)				担当教員
1	情報リテラシーとは	コンピューターの基礎、インターネットの基礎、ネット社会と著作権、SNSの安全な利用 事前学習(30分):教科書の序章を読む。 事後学習(30分):授業で行った内容を確認して自分のものとする。				橋本 規子
2	Windowsの基礎知識	フォルダーの作成、アクセサリの使用 事前学習(30分):教科書の1章を読む。 事後学習(30分):授業で行った内容・課題を確認して自分のものとする。				橋本 規子
3	Wordの基礎知識	文書の作成、ページ設定と文書の印刷、表の作成 事前学習(30分):教科書の2章-1~4を読む。 事後学習(30分):授業で行った内容・課題を確認して自分のものとする。				橋本 規子
4	文書の編集(基礎)	いろいろな書式を設定する 事前学習(30分):教科書の2章-5を読む。 事後学習(30分):授業で行った内容・課題を確認して自分のものとする。				橋本 規子
5	文書の編集(応用)	表現力をアップする 事前学習(30分):教科書の2章-6を読む。 事後学習(30分):授業で行った内容・課題を確認して自分のものとする。				橋本 規子
6	長文の編集	長文作成をサポートする 事前学習(30分):教科書の2章-7を読む。 事後学習(30分):授業で行った内容・課題を確認して自分のものとする。				橋本 規子
7	Excelの基礎知識	データの入力・編集、表の作成 事前学習(30分):教科書の3章-1~4を読む。 事後学習(30分):授業で行った内容・課題を確認して自分のものとする。				橋本 規子
8	基本的な関数	相対参照と絶対参照、関数の入力方法 事前学習(30分):教科書の3章-5-1~2-③を読む。 事後学習(30分):授業で行った内容・課題を確認して自分のものとする。				橋本 規子
9	知っておくと便利な関数	条件によって集計する、文字列操作関数、日付/時刻関数 事前学習(30分):教科書の3章-5-2-④、5-2-⑧、⑨を読む。 事後学習(30分):授業で行った内容・課題を確認して自分のものとする。				橋本 規子
10	関数のネスト	論理関数、検索/行列関数 事前学習(30分):教科書の3章-5-2-⑤~⑦を読む。 事後学習(30分):授業で行った内容・課題を確認して自分のものとする。				橋本 規子
11	グラフと図形	いろいろなグラフの作成と編集、ExcelデータをWord文書に利用する 事前学習(30分):教科書の3章-6、2章-8を読む。 事後学習(30分):授業で行った内容・課題を確認して自分のものとする。				橋本 規子
12	データベースの利用	データの並べ替え、抽出、ピボットテーブル、操作の自動化 事前学習(30分):教科書の3章-7~9を読む。 事後学習(30分):授業で行った内容・課題を確認して自分のものとする。				橋本 規子

13	PowerPointの基礎知識	プレゼンテーションの作成、図やオブジェクトの挿入と編集 事前学習(30分):教科書の4章-1~3を読む。 事後学習(30分):授業で行った内容・課題を確認して自分のものとする。	橋本 規子
14	PowerPointの応用知識	図表・グラフ・表の挿入と編集、特殊効果の設定、印刷関係の機能、スライドショーをサポートする機能 事前学習(30分):教科書の4章-4~7を読む。 事後学習(30分):授業で行った内容・課題を確認して自分のものとする。	橋本 規子
15	総合演習(期末演習)	Office全体の演習を行う 事前学習(120分):前回までの全講義内容を復習し理解を深める。 事後学習(60分):総合演習(期末演習)の内容を確認して自分のものとする。	橋本 規子

評価	段階別演習(50%)と定期試験(50%)で評価する。なお、段階別演習は第6、12、15回にそれぞれ実施する。
課題に対するフィードバックの方法	授業での課題演習は、教科書またはスクリーン投影で模範解答を提示する。期末演習は、模範解答を掲示する。
教科書	30時間アカデミック Office2021/杉本くみこ・大澤栄子/実教出版/ISBN:978-4-407-35943-5
参考図書など	適宜紹介する。
アクティブ・ラーニング	課題演習を行う。
実務経験のある教員による授業	情報処理の資格を有しソフトウェア開発の経験から、情報を整理して、活用できる実践的な授業を行う。
留意事項	情報処理の資格を有しソフトウェア開発の経験から、情報を整理して、活用できる実践的な授業を行う。 manabaを使用する。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
研究法入門 Introduction to Research Methods	必修	講義	2単位 (30時間)	1年後期	内田 健太郎	○
ナンバリングコード	HCOA1	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
総合教育科目	DP2) 科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP5) 幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。					
人間と情報						
授業概要	科学技術の発展に伴い研究手法や治療法は多様化している。将来、臨床現場、研究機関で働き、より良い医療を患者さんに届けるためには研究に関する視点、知識を養う必要がある。研究立案(クリニカルクエスション、論文検索、研究デザイン、倫理指針・法律、統計、研究計画書)、研究費獲得から成果公表(学会発表、論文、特許)に至るまでの過程に必要な基礎知識を講義、演習を通じて学ぶ。また、机上論だけでなく、担当教員の経験に基づいた実際の事例とともに授業を行う。					
到達目標	1) 論文が検索できるようになる。論文の構造を理解する。 2) 研究デザインの特徴を理解し、適切な研究デザインを選択できる。 3) 倫理指針・法律に関する適切な知識を説明できる。 4) 統計に関する一般的な用語を理解できる。 5) 研究計画書に必要な事項を挙げることができる。 6) 成果公表の流れについて説明できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習 (予習・復習・課題等)				担当教員
1	研究に必要なものは何か？疑問、クリニカルクエスションの重要性	研究のスタート地点である「疑問」をもつことの重要性をノーベル賞受賞者の事例をもとに学ぶ 事前学習(0分): 特になし 事後学習(0分): 特になし				内田 健太郎
2	疑問を構造化する。 PICO/PECOとは？	「疑問」から研究を立案するために、研究の対象、方法、目的を明確化するための方法を学ぶ 事前学習(0分): 特になし 事後学習(0分): 特になし				内田 健太郎
3	情報収集(論文検索)法の習得および論文の構造	論文検索サイト(Pubmed)の使い方や文献の取り寄せ方、論文の構造について学ぶ 事前学習(0分): 特になし 事後学習(0分): 特になし				内田 健太郎
4	研究デザインの決定	研究デザインの種類および各デザインの長所、短所を学ぶ 事前学習(0分): 特になし 事後学習(60分): PICO/PECOの復習				内田 健太郎
5	研究デザイン別の論文検索方法	研究デザイン別の論文の絞り込み方法について学び、実践する 事前学習(0分): 特になし 事後学習(60分): 論文検索法の復習				内田 健太郎
6	倫理指針・法律	研究を行う上で不可欠な倫理・法律を学ぶ 事前学習(0分): 特になし 事後学習(60分): 検索論文を読む				内田 健太郎
7	統計分析	事例、データをもとに一般的な統計用語、手法について学ぶ 事前学習(0分): 特になし 事後学習(60分): 論文の絞り込みについての復習				内田 健太郎
8	研究計画書の作製に必要なものは？	研究計画書の作製に必要な項目を学ぶ 事前学習(0分): 特になし 事後学習(60分): 前回の復習				内田 健太郎
9	研究計画書の作製	実際の研究計画書の作製を行う 事前学習(0分): 特になし 事後学習(60分): 研究デザインについての復習				内田 健太郎
10	研究計画書の発表・質疑①	作製した研究計画書について発表を行う。また、質疑・応答を行う 事前学習(0分): 特になし 事後学習(60分): 研究倫理の復習				内田 健太郎
11	研究計画書の発表・質疑②	作製した研究計画書について発表を行う。また、質疑・応答を行う 事前学習(0分): 特になし 事後学習(60分): 研究計画書の作製				内田 健太郎
12	成果公表(学会発表、論文、特許)	論文の投稿から受理、特許申請から取得までの流れを事例とともに学ぶ 事前学習(0分): 特になし 事後学習(60分): 研究計画書の見直し				内田 健太郎

13	研究費の取得方法について	事例をもとに研究費の取得方法や申請書の書き方(論文との違い)について学ぶ 事前学習(0分):特になし 事後学習(60分):研究計画書の見直し	内田 健太郎
14	学際的研究、実用化研究について学ぶ	広い視点を持ち、多職種、異分野、企業の研究者と連携することの重要性を事例をもとに学ぶ 事前学習(0分):特になし 事後学習(60分):論文投稿方法、特許取得までの流れについての復習	内田 健太郎
15	まとめ	第1～14回で学習したことのまとめ 事前学習(0分):特になし 事後学習(60分):第1～14回で学習したことの復習	内田 健太郎

評価	レポート(20%)、授業内理解度テスト(20%)および定期テスト(60%)で評価する。
課題に対するフィードバックの方法	提出物に対して講評を記載し、学生へ返却する。また、授業内で全体の講評を伝える。
教科書	なし
参考図書など	臨床研究の教科書:研究デザインとデータ処理のポイント/川村孝/第1版/医学書院/ISBN:978-4260024976、 現場で使える臨床研究法/藤原康弘/南江堂/ISBN:978-4525060114
アクティブ・ラーニング	授業毎のリアクションペーパーに対する応答、発表に対するコメントを通じてフィードバックする。
実務経験のある教員による授業	基礎研究、臨床研究に従事した経験を活かして、研究の立案に必要な知識や論文作成、特許出願、研究資金獲得など研究成果の公表や研究の遂行に必要な知識について講義する。
留意事項	基礎研究、臨床研究に従事した経験を活かして、研究の立案に必要な知識や論文作成、特許出願、研究資金獲得など研究成果の公表や研究の遂行に必要な知識について講義する。事前学習は必ずしも必要としないが、事後学習に努める。

授業科目の名称	必修・選択の別	授業形態	単位数(時間数)	配当年次	科目担当教員	実務経験のある教員による科目
公衆衛生学 Public Health	必修	講義	1単位 (15時間)	2年前期	松木 秀明	—
ナンバリングコード	HC0B1	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
総合教育科目	DP2) 科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP4) 保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。					
人間と環境						

授業概要	公衆衛生の概念及び歴史を踏まえて、健康の指標、人口問題と公衆衛生、衛生統計、疫学、医療・保健・福祉における衛生行政、労働衛生および環境衛生・公害及び公衆衛生の国際協力等について学習する。また、疾病予防と健康管理、地域保健と衛生行政、学校保健、産業保健および健康成立の要因と保健活動、人間を取り巻く環境と公衆衛生活動の意義と役割と組織的な公衆衛生活動について学習する。		
到達目標	各領域の健康指標・疾病予防の実態を理解することにより、現在の公衆衛生・社会医学の課題を説明できる。		
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）	担当教員
1	公衆衛生学の目的、予防医学	健康の概念、予防医学、公衆衛生の歴史 事前学習(15分):教科書の第1章を読んでおく。 事後学習(15分):ポイントの整理	松木 秀明
2	人口統計・保健統計	人口静態統計、人口動態統計、保健統計 事前学習(15分):教科書の第2章を読んでおく。 事後学習(15分):ポイントの整理	松木 秀明
3	地域保健・母子保健	衛生行政と地域保健、母子保健と地域活動 事前学習(15分):教科書の第3章、第5章を読んでおく。 事後学習(15分):ポイントの整理	松木 秀明
4	学校保健、成人保健	学校保健行政と学校保健の実態、生活習慣病、健康日本21 事前学習(15分):教科書の第6章、第7章を読んでおく。 事後学習(15分):ポイントの整理	松木 秀明
5	高齢者保健、精神・障害者保健	認知症、フレイル、精神保健行政と障害者保健 事前学習(15分):教科書の第8章、第14章を読んでおく。 事後学習(15分):ポイントの整理	松木 秀明
6	感染症、食品衛生、国民栄養	感染症の疫学、感染症法、食中毒、国民健康栄養調査 事前学習(15分):教科書の第9章、第10章、第11章を読んでおく。 事後学習(15分):ポイントの整理	松木 秀明
7	環境保健	生活環境、地域環境、地球環境と健康 事前学習(15分):教科書の第12章を読んでおく。 事後学習(15分):ポイントの整理	松木 秀明
8	産業保健、国際保健	産業衛生、職業病、国際保健協力 事前学習(15分):教科書の第15章、第16章を読んでおく。 事後学習(15分):ポイントの整理	松木 秀明

評価	定期試験100%で評価する。
課題に対するフィードバックの方法	次の授業時間の最初で解説
教科書	よくわかる専門基礎講座 公衆衛生 第15版, 2024年, 松木秀明 編, 金原出版, ISBN: 978-4-307-70246-1
参考図書など	授業において説明する。
アクティブ・ラーニング	実施予定なし。
実務経験のある教員による授業	該当なし。
留意事項	特になし。

授業科目の名称	必修・選択の別	授業形態	単位数(時間数)	配当年次	科目担当教員	実務経験のある教員による科目
保健行政論 Health and medical administration	必修	講義	1単位 (15時間)	2年前期	川本 利恵子 松月 みどり	○
ナンバリングコード	HC0B1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
総合教育科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。					
人間と環境	DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。					

授業概要	保健医療福祉行政の基礎知識、地域における健康問題とその解決に必要な社会資源と保健医療福祉サービスおよびその評価・調整する基礎的な方法について学修する。特に保健医療福祉行政の根拠、保健医療福祉行政の目指すもの、保健医療福祉における課題と政策の発展について学修する
------	--

到達目標	1)保健医療行政の管理・運営について理解することができる 2)行政運営に必要な財政の仕組みについて理解することができる 3)社会保障制度の現状と課題について理解することができる 4)地域保健施策を理解することができる 5)医療提供体制と関連法令について理解することができる
------	--

回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)	担当教員
1	保健行政概論	ガイダンス 日本の保健医療行政の仕組みと保健衛生行政機構 事前学習(30分):指定されたテーマについて事前に学習しておく。 事後学習(30分):授業内容を振り、ノートや資料等を用いて復習する。	川本利恵子
2	保健行政概論2	日本の保健医療行政の仕組みと保健衛生行政機構 事前学習(30分):指定されたテーマについて事前に学習しておく。 事後学習(30分):授業内容を振り、ノートや資料等を用いて復習する。	川本利恵子
3	社会保障制度概論1	社会保障としての社会福祉、公的扶助 事前学習(30分):指定されたテーマについて事前に学習しておく。 事後学習(30分):授業内容を振り、ノートや資料等を用いて復習する。	川本利恵子
4	社会保障制度概論2	社会保障の課題(保健衛生行政の財政)、年金、雇用、労災保険 事前学習(30分):指定されたテーマについて事前に学習しておく。 事後学習(30分):授業内容を振り、ノートや資料等を用いて復習する。	松月みどり
5	医療制度概論1	医療提供体制(医療法の理解)、医療政策 事前学習(30分):指定されたテーマについて事前に学習しておく。 事後学習(30分):授業内容を振り、ノートや資料等を用いて復習する。	川本利恵子
6	医療制度概論2	診療報酬、公的医療保険、確認テスト 事前学習(30分):指定されたテーマについて事前に学習しておく。 事後学習(30分):授業内容を振り、ノートや資料等を用いて復習する。	松月みどり
7	保健行政の限界と今後1	保健医療行政の課題と解決方法の探索(法と税の一体改革) 事前学習(30分):指定されたテーマについて事前に学習しておく。 事後学習(30分):授業内容を振り、ノートや資料等を用いて復習する。	川本利恵子
8	保健行政の限界と今後2	保健医療行政の課題と解決方法の探索(まとめ) 事前学習(30分):指定されたテーマについて事前に学習しておく。 事後学習(30分):授業内容を振り、ノートや資料等を用いて復習する。	松月みどり

評価	課題レポート(40%)、授業への参加度・GWへの貢献度をルーブリック評価(20%)、試験(確認テスト含む)40%
課題に対するフィードバックの方法	授業の中で解説する。
教科書	特に指定しない。
参考図書など	衛生行政大要(ISBN:978-4-8192-0247-3)、国民衛生の動向(ISBN:978-4-87511-907-4)
アクティブ・ラーニング	講義の中で、適宜グループワークやディスカッションを行う。
実務経験のある教員による授業	行政や職能団体での実務経験がある教員による講義を行う。
留意事項	職能団体の元常任理事として、国政に法案の提出や政策決定に関与した教員による授業である。 保健医療情報学と関連させて知識を習得し構造化する。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
法学(含日本国憲法) Jurisprudence(including constitution)	選択	講義	2単位 (30時間)	1年前期	真島 信英	—
ナンバリングコード	HC0B1	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
総合教育科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
人間と環境						
授業概要	我が国の法の核である日本国憲法を中心に我が国の法体系全体と法の仕組みとはたらきを学習する。また、大学生が教養として持つべき基本的な法に関する知識について学習する。その際必要に応じて、現実起こった問題に対して自ら考察できるように、民法、刑法などの重要な法律の概要および裁判員制度などを含めて学習する。					
到達目標	1)憲法を筆頭に医療に従事する者として、その環境に関する法律の存在とその内容について概観し、法の存在を認識する。 2)講義において用いる判例及び事例問題を考えることで、実際の法の適用であったり、解釈について理解を深める。 3)日常生活において法が担う役割や機能について深く理解する。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)			担当教員	
1	ガイダンス	講義における全体像、「法学六法」の使い方・「法律基礎用語例」について【ケースメソッド】 事前学習(30分):「医療と法」のかかわりについて考える。 事後学習(30分):配布したプリントをよく読み理解する。			真島 信英	
2	法と道徳	法の概念、法的責任の種類(～民事責任、刑事責任、行政上の責任～)、法と道徳の違い 事前学習(30分):六法で民法の不法行為や刑法の殺人罪に目を通しておく。 事後学習(30分):配布プリントで「法と道徳」について復習する。			真島 信英	
3	法の種類	法と法律、公法と私法、実体法(＝実定法)と手続法、成文法と不文法、一般法と特別法、任意規定と強行規定 事前学習(30分):「基本六法」とは何か、調べる。 事後学習(30分):配布プリントをよく読み、理解を深める。			真島 信英	
4	法の解釈・適用	文理解釈・拡張(＝拡大)解釈・縮小解釈・類推解釈・反対解釈・目的論的解釈、裁判制度など 事前学習(30分):法解釈とはどのようなものか、について調べる。 事後学習(30分):配布プリントをよく読み理解を深める。			真島 信英	
5	権利と義務	権利・義務概念、権利の濫用、権利の得喪 事前学習(30分):「権利」と「義務」について調べる。 事後学習(30分):配布プリントをよく復習する。			真島 信英	
6	憲法(1)	基本的人権、法の下での平等(～男女の定年年齢による差別、刑法200条尊属殺人事件など～)、直接適用・間接適用、日産自動車事件 事前学習(30分):中学・高校で学んだことを振り返る。 事後学習(30分):配布プリントを復習し、各自整理する。			真島 信英	
7	憲法(2)	統治機構(～三権分立、二院制など～) 事前学習(30分):中学・高校で学んだことを復習する。 事後学習(30分):配布プリントをよく読み理解を深める。			真島 信英	
8	民法(1)	契約法(～契約に関する法規を学ぶ～)契約はどのように成立するのか、契約の「無効」と「取り消し」の違いとは何か 事前学習(30分):日常生活にある「契約」を考える。 事後学習(30分):配布プリントをよく復習する。			真島 信英	
9	民法(2)	インターネットと法(～インターネットと契約法、著作権法、犯罪など～)ネット社会における法的問題について言及する 事前学習(30分):ネットショッピングに関する法律について考える。 事後学習(30分):配布プリントについてよく復習する。			真島 信英	
10	民法(3)	不法行為(～不倫や交通事故に伴って加害者が被害者へ支払う慰謝料・損害賠償など～) 事前学習(30分):不倫は離婚事由になるのか、考える。 事後学習(30分):配布プリントを熟読し、理解する。			真島 信英	
11	民法(4)	家族法(～親族の範囲、内縁と同棲、婚約と婚姻、離婚など～) 事前学習(30分):夫婦別姓に関する判決を取り上げた新聞記事に目を通す。 事後学習(30分):配布プリントをきちんと理解する。			真島 信英	
12	民法(5)	相続と法(～相続人は誰か、相続財産の限定承認・単純承認・放棄など～) 事前学習(30分):相続人が相続するのはプラスの財産だけか、調べる。 事後学習(30分):配布プリントを読み返し、きちんと理解する。			真島 信英	

13	刑事法と裁判員制度	犯罪の成立要件、裁判員法に基づいて裁判員の参加する仕事とはどのようなものか 事前学習(30分):なぜ裁判員制度が導入されたのか、その背景を考える。 事後学習(30分):裁判員制度の仕事内容について理解し、まとめる。	真島 信英
14	医事法(1)	尊厳死と安楽死(～東海大学安楽死事件などを素材として～) 事前学習(30分):医療と法に関する新聞記事に目を通す。 事後学習(30分):配布プリントを読み返し、理解する。	真島 信英
15	医事法(2)	脳死と臓器移植(～脳死判定基準、臓器移植法をめぐる法的問題など～) 事前学習(30分):臓器移植法が施行されたのはいつか、調べる。 事後学習(30分):配布プリントを読み返し、理解する。	真島 信英

評価	定期試験(100%)で評価する。
課題に対するフィードバックの方法	担当教員が課した課題を質問・感想用紙に記入してもらい、次週に同担当者が解説する。
教科書	法学六法'24/池田真朗、宮島司他編/信山社/ISBN:978-4-7972-5754-0 その他、適宜プリント配布
参考図書など	適宜紹介する。
アクティブ・ラーニング	実施予定なし。
実務経験のある教員による授業	該当なし。
留意事項	新聞等を通じて法にかかわる記事に触れることを心がけてください。

授業科目の名称		必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
生物学 Biology		選択	講義	2単位 (30時間)	1年前期	殿山 泰弘、須藤 遥	—
ナンバリングコード	HCOC1	オフィスアワー		本科目に関する質問は、授業の前後、休休み及び別途公開するオフィスアワー 一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連						
総合教育科目	DP2)エビデンスに基づく実践力						
人間と環境							
授業概要	生物学は、近代科学の方法論と手法により生物そのものにとどまらず、生物が示す様々な生命現象を明らかにすることを目指す学問である。現代の医学・薬学分野の発展は、生命現象の分子レベルでの理解と遺伝子工学や細胞工学などのバイオテクノロジーの発展によるところが大きい。従って、医学・薬学を理解する上で、生物学の知識は必須のものである。本講義では、生物学(生命科学)の基礎知識を概説し、バイオテクノロジーの原理を理解し、それらがどのように医療分野に応用されているかについて学修する。						
到達目標	1) 生命科学の基礎知識を理解し、他人に説明できる。 2) 医療の進歩について生命科学の発展と関連付けて考察できる。						
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習 (予習・復習・課題等)				担当教員	
1	生物学の基本	科学・生物学の方法、生物学の歴史・成り立ち(分類・進化・遺伝) 事前学習(30分):教科書の該当箇所(序章および第1章:p.20-48)を読む。 事後学習(30分):教科書や配布資料等をもとに講義内容を振り返り、提示された課題に取り組む。				須藤 遥	
2	細胞のプロフィール	細胞と細胞小器官の構造・機能 事前学習(30分):教科書の該当箇所(第2章:p.49-77)を読む。 事後学習(30分):教科書や配布資料等をもとに講義内容を振り返り、提示された課題に取り組む。				須藤 遥	
3	演習とまとめ(1)	第1~2回目の講義内容の復習およびグループワーク 事前学習(30分)第1~2回目の講義内容を復習する。 事後学習(30分)教科書や配布資料等をもとに講義内容を振り返り、提示された課題に取り組む。				須藤 遥 殿山 泰弘	
4	何が細胞の形や機能を決めているか(1)	核酸(DNA、RNA)の構造、DNAの複製、突然変異とDNA修復機構 事前学習(30分):教科書の該当箇所(第3章:p.78-87、第7章:p.169-174、p.178-183)を読む。 事後学習(30分):教科書や配布資料等をもとに講義内容を振り返り、小テストを解き直す。				須藤 遥	
5	何が細胞の形や機能を決めているか(2)	転写機構、翻訳機構、分子シャペロン、タンパク質の構造と機能 事前学習(30分):教科書の該当箇所(第3章:p.87-102、第5章:p.126-145)を読む。 事後学習(30分):教科書や配布資料等をもとに講義内容を振り返り、提示された課題に取り組む。				須藤 遥	
6	演習とまとめ(2)	第4~5回目の講義内容の復習およびグループワーク 事前学習(30分):第4~5回目の講義内容を復習する。 事後学習(30分):教科書や配布資料等をもとに講義内容を振り返り、小テストを解き直す。				須藤 遥 殿山 泰弘	
7	多細胞生物への道(1) 細胞間の情報交換、細胞の数を増やす	細胞接着とシグナル伝達のしくみ、細胞周期と体細胞分裂 事前学習(30分):教科書の該当箇所(第6章:p.146-168、第7章:p.175-178)を読む。 事後学習(30分):教科書や配布資料等をもとに講義内容を振り返り、提示された課題に取り組む。				殿山 泰弘	
8	多細胞生物への道(2) 個体の数を増やす・発生と分化	減数分裂と受精、個体の発生のしくみ 事前学習(30分):教科書の該当箇所(第8章:p.186-213)を読む。 事後学習(30分):教科書や配布資料等をもとに講義内容を振り返り、提示された課題に取り組む。				殿山 泰弘	
9	演習とまとめ(3)	第7~8回目の講義内容の復習およびグループワーク 事前学習(30分):第7~8回目の講義内容を復習する。 事後学習(30分):教科書や配布資料等をもとに講義内容を振り返り、小テストを解き直す。				殿山 泰弘 須藤 遥	
10	生きること、死ぬこと(1) 細胞の再生と死	細胞の再生、ネクローシスとアポトーシス 事前学習(30分):教科書の該当箇所(第10章:p.256-264)を読む。 事後学習(30分):教科書や配布資料等をもとに講義内容を振り返り、提示された課題に取り組む。				殿山 泰弘	
11	生きること、死ぬこと(2) 個体の死	老化やがんなどの病気と遺伝子の関係 事前学習(30分):教科書の該当箇所(第10章:p.264-274)を読む。 事後学習(30分):教科書や配布資料等をもとに講義内容を振り返り、提示された課題に取り組む。				殿山 泰弘	
12	演習とまとめ(4)	第10~11回目の講義内容の復習およびグループワーク 事前学習(30分):第10~11回目の講義内容を復習する。 事後学習(30分):教科書や配布資料等をもとに講義内容を振り返り、小テストを解き直す。				殿山 泰弘 須藤 遥	

13	バイオテクノロジーが拓く最先端医療(1)	遺伝子工学の基礎 事前学習(30分):教科書の該当箇所(Column:p.253-255)を読む。 事後学習(30分):教科書や配布資料等をもとに講義内容を振り返り、提示された課題に取り組む。	殿山 泰弘
14	バイオテクノロジーが拓く最先端医療(2)	遺伝子工学や細胞工学技術を用いた再生医療、遺伝子治療、細胞治療 事前学習(30分):教科書の該当箇所(Column:p.212, 243)を読む。 事後学習(30分):教科書や配布資料等をもとに講義内容を振り返り、提示された課題に取り組む。	殿山 泰弘
15	演習とまとめ(5)	第13~14回目の講義内容の復習およびグループワーク 事前学習(30分):第13~14回目の講義内容を復習する。 事後学習(30分):教科書や配布資料等をもとに講義内容を振り返り、小テストを解き直す。	殿山 泰弘 須藤 遥

評価	定期試験(60%)、小テスト(20%)、および課題(グループワークおよびピア評価含む)(20%)で評価する。
課題に対するフィードバックの方法	課題に対して、講義の中で適宜フィードバックする。 小テスト実施後に解答を提示し、質問に対応する。
教科書	基礎から学ぶ生物学・細胞生物学/和田 勝/羊土社/第4版/ISBN:978-4-7581-2108-8
参考図書など	Essential細胞生物学/中村桂子・松原謙一・榎佳之・水島昇[監訳]/南江堂/原書第5版/ISBN:978-4-524-22682-5
アクティブ・ラーニング	グループワークおよびピア評価を行う。
実務経験のある教員による授業	該当なし
留意事項	本講義は、生物学全般の基礎知識の習得に重点を置いているため、高校で「生物」を選択していない方は是非受講して下さい。毎回の講義で学習した内容を理解し、記憶に定着させるために事後学習を必ず行って下さい。疑問点は、講義前後の時間やメールを利用して早めに解決することをお勧めします。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
物理学 Physics	選択	講義	2単位 (30時間)	1年前期	古谷 実	—
ナンバリングコード	HC0C1	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
総合教育科目	DP2) 科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。					
人間と環境						
授業概要	力学、電磁気学、波動の分野について、自然や身の回りの事象を理解するための物理学の基本事項を学ぶ。					
到達目標	1) 物理量の表し方、物理量の次元、国際単位系について説明できる。 2) 運動の表し方について説明できる。 3) 力、運動の法則、運動方程式について説明できる。 4) 仕事とエネルギーについて説明できる。 5) クーロンの法則、誘電分極、電場、電位について説明できる。 6) 電流(直流と交流)、ジュール熱、オームの法則などを説明できる。 7) 電流と磁場、電磁誘導について説明できる。 8) 波の表し方と特性(屈折、回折など)を説明できる。 9) 光(電磁波)について説明できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)				担当教員
1	序論	物理量の表し方、物理量の次元、国際単位系、大きな量と小さな量の表し方、スカラー量とベクトル量 事前学習(15分):教科書のまえがきを読み、目次に目を通し、全体を概観しておく。 事後学習(30分):授業内容について復習する。				古谷 実
2	力学(1)	力の表し方、いろいろな力、力のつりあい 事前学習(30分):教科書の該当箇所を読む。 事後学習(60分):授業内容や小テストなど、授業全体について復習する。				古谷 実
3	力学(2)	変位、速さ、速度、加速度、等加速度運動 事前学習(30分):教科書の該当箇所を読む。 事後学習(60分):授業内容や小テストなど、授業全体について復習する。				古谷 実
4	力学(3)	運動の法則、運動方程式、自由落下、等速円運動 事前学習(30分):教科書の該当箇所を読む。 事後学習(60分):授業内容や小テストなど、授業全体について復習する。				古谷 実
5	力学(4)	仕事、エネルギー、運動エネルギー、位置エネルギー 事前学習(30分):教科書の該当箇所を読む。 事後学習(60分):授業内容や小テストなど、授業全体について復習する。				古谷 実
6	演習	問題演習による第1～5回の復習 事前学習(60分):演習問題(事前に配布)を解く。 事後学習(60分):演習問題を通した復習。				古谷 実
7	電磁気学(1)	クーロンの法則、電場、電位 事前学習(30分):教科書の該当箇所を読む。 事後学習(60分):授業内容や小テストなど、授業全体について復習する。				古谷 実
8	電磁気学(2)	電流、ジュール熱、電力、オームの法則 事前学習(30分):教科書の該当箇所を読む。 事後学習(60分):授業内容や小テストなど、授業全体について復習する。				古谷 実
9	電磁気学(3)	磁気力、電流と磁場、電磁誘導 事前学習(30分):教科書の該当箇所を読む。 事後学習(60分):授業内容や小テストなど、授業全体について復習する。				古谷 実
10	電磁気学(4)	回路、直流と交流、コンデンサー、誘電体 事前学習(30分):教科書の該当箇所を読む。 事後学習(60分):授業内容や小テストなど、授業全体について復習する。				古谷 実
11	演習	問題演習による第7～10回の復習 事前学習(60分):演習問題(事前に配布)を解く。 事後学習(60分):演習問題を通した復習。				古谷 実

12	波動(1)	波の表し方(波長、波数、周期、振動数)、横波と縦波 事前学習(30分):教科書の該当箇所を読む。 事後学習(60分):授業内容や小テストなど、授業全体について復習する。	古谷 実
13	波動(2)	光、電磁波、身の回りの電磁波 事前学習(30分):教科書の該当箇所を読む。 事後学習(60分):授業内容や小テストなど、授業全体について復習する。	古谷 実
14	波動(3)	ホイヘンスの原理、波の特性(反射、屈折、回折、干渉) 事前学習(30分):教科書の該当箇所を読む。 事後学習(60分):授業内容や小テストなど、授業全体について復習する。	古谷 実
15	演習	問題演習による第12~14回の復習 事前学習(60分):演習問題(事前に配布)を解く。 事後学習(60分):演習問題を通した復習。	古谷 実

評価	定期試験(100%)で評価する。
課題に対する フィードバックの方法	授業開始時に前回の授業内容に関する小テストとその解説、講評を行う。
教科書	「大学新入生のための物理入門(第2版)」、廣岡秀明 著、共立出版、ISBN:978-4-320-03493-8
参考図書など	必要に応じて紹介する。
アクティブ・ラーニング	実施予定なし。
実務経験のある 教員による授業	該当なし。
留意事項	ベクトルと三角比(sin, cos, tan)の基礎知識を必要とする。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
生化学 Biochemistry	選択	講義	1単位 (15時間)	1年後期	汾陽 光盛	—
ナンバリングコード	HCOC1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
総合教育科目	DPI)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。					
人間と環境						

授業概要	人体の生命現象を化学的方法で解明するために、生体を構成する糖質、脂質、タンパク質等の物質を理解すると共に、それらの生体内の物質代謝とエネルギー獲得、および遺伝情報とその発現について学習する。		
到達目標	1) 遺伝情報の流れと遺伝性疾患が生じる仕組みについて説明できる。 2) タンパク質の構造と機能の観点から、認知症(アルツハイマー病とプリオン病)の発症原因について説明できる。 3) 糖の構造と代謝、血糖を維持する仕組み、および糖尿病の発症原因について説明できる。 4) 糖の構造と代謝の観点から糖尿病の合併症が生じる仕組みを説明できる。 5) 脂質の構造とリポタンパク質について説明できる。 6) 脂質の体内輸送を理解し、動脈硬化症の発症原理を説明できる。		
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)	担当教員
1	遺伝情報の流れ(セントラルドグマ)と遺伝病、タンパク質のアミノ酸置換と疾患	遺伝子(DNA)からタンパク質が合成される機構(セントラルドグマ)と遺伝の仕組みについて復習し、アミノ酸置換を伴う遺伝子変異によって発生する疾患について、鎌状赤血球貧血症を例にして理解する。 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 講義ノートや配布資料、教科書を元に、講義内容と関連事項をノートにまとめ直し、内容の理解に努める。	汾陽 光盛
2	タンパク質の機能異常と認知症、アルツハイマー病とプリオン病の発症機構	タンパク質の配列と機能の多様性について理解し、機能異常によって発生する疾患について、近年大きな社会問題となっている認知症を例にして学修する。 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 講義ノートや配布資料、教科書を元に、講義内容と関連事項をノートにまとめ直し、内容の理解に努める。	汾陽 光盛
3	代謝概説、糖の構造	細胞が生きるためのエネルギーを得るとはどのようなことかについて理解し、三大栄養素の一つ糖に着目して、糖質の主成分であるグルコースの構造と代謝経路について学修する。 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 講義ノートや配布資料、教科書を元に、講義内容と関連事項をノートにまとめ直し、内容の理解に努める。	汾陽 光盛
4	細胞レベルでの糖代謝～解糖、クエン酸回路、電子伝達系	細胞がどのような仕組みで糖を分解し、エネルギーに変換するのかについて学修する。 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 講義ノートや配布資料、教科書を元に、講義内容と関連事項をノートにまとめ直し、内容の理解に努める。	汾陽 光盛
5	個体レベルでの糖代謝 糖尿病	糖質がどのような仕組みで利用されているのか、血中のグルコース濃度を一定に保つ仕組みに着目し、臨床的に非常に重要な糖尿病に焦点を当て、生化学的な視点から学修する。 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 講義ノートや配布資料、教科書を元に、講義内容と関連事項をノートにまとめ直し、内容の理解に努める。	汾陽 光盛
6	内分泌機構とホルモン分子	恒常性維持に関わる神経系と内分泌系について理解し、情報分子について物質の側面から学修する。 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 講義ノートや配布資料、教科書を元に、講義内容と関連事項をノートにまとめ直し、内容の理解に努める。	汾陽 光盛
7	脂質の構造と代謝	脂質の構造と生体内での代謝について学修する。 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 講義ノートや配布資料、教科書を元に、講義内容と関連事項をノートにまとめ直し、内容の理解に努める。	汾陽 光盛
8	脂質代謝異常症と動脈硬化症	脂質代謝の異常によって生じる疾患として、臨床的に非常に重要な動脈硬化症に焦点を当て、その発症原因や病態について生化学的な視点から学修する。 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 講義ノートや配布資料、教科書を元に、講義内容と関連事項をノートにまとめ直し、内容の理解に努める。	汾陽 光盛

評価	定期試験で評価する(100%)。
課題に対するフィードバックの方法	必要に応じてmanaba等を利用してフィードバックを行う。
教科書	系統看護学講座-専門基礎分野 生化学 (第14版、医学書院、ISBN: 978-4-260-03556-9)
参考図書など	病気を理解するための病態生化学 (第2版、丸善出版、ISBN: 978-4-621-07692-7) 基礎からしっかり学ぶ生化学 (羊土社、ISBN: 978-4-7581-2050-0)
アクティブ・ラーニング	実施予定なし。
実務経験のある教員による授業	該当なし。
留意事項	初回講義時に説明する。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
環境論 Environmentalism	選択	講義	1単位 (15時間)	1年前期	池田 威秀	○
ナンバリングコード	HCOB2		オフィスアワー 授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
総合教育科目	DP2) 科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP4) 保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。					
人間と環境						

**授業概要** 持続可能な社会を未来に向けて構築していくためには、地球を構成する海や陸や大気についてと生物間の関わりを正しく理解したうえで、人間の生存基盤としての食料やエネルギーの見方を身に付け、過去の環境破壊の原因をとらえる必要がある。そこで本科目では、地球史の概要と水圏・陸圏・気圏の仕組みおよび生物間関係の基礎を理解し、人間が食料やエネルギーを得ている原理を学ぶ。次いで、それら自然の仕組みを人間が崩した環境問題の例を紹介する。そして、環境問題や環境教育に関する世界や国内の動向を学び、持続可能な社会づくりに向けた取り組みを考える。

**到達目標**

- 1) 地球システムの水圏・陸圏・気圏の物理的な構成を理解し説明できる。
- 2) 地球史と生物進化の基礎的な仕組みを理解し、生物多様性の重要性を理解し説明できる。
- 3) 植物の生存原理と、人間にとっての食料やエネルギーとしての価値を理解し説明できる。
- 4) これまでの環境破壊の事例から、環境問題の生じる原因を説明できる。
- 5) 持続可能な社会を構築するための取り組みを考えることができる。

回	授業項目	授業内容 事前・事後学習 (予習・復習・課題等)	担当教員
1	環境とは何か	環境とは何か？物理的環境と生物的環境 事前学習(20分):「環境」の定義について予習する。 事後学習(40分): 授業スライドを再度確認する。	池田 威秀
2	大気と海洋の循環	太陽放射と大気・海洋の循環、それに伴う物質循環 事前学習(20分): キーワードについての予習 (下記、教科書項目参照) 事後学習(40分): 授業スライドを再度確認する。	池田 威秀
3	生物進化と適応	生物はどのように生まれ、進化してきたのか 事前学習(20分): キーワードについての予習 (下記、教科書項目参照) 事後学習(40分): 授業スライドを再度確認する。	池田 威秀
4	生物と環境	生物同士のつながりと循環 事前学習(20分): キーワードについての予習 (下記、教科書項目参照) 事後学習(40分): 授業スライドを再度確認する。	池田 威秀
5	ヒトと環境／エネルギー	ヒトの繁栄と農工業 事前学習(20分): キーワードについての予習 (下記、教科書項目参照) 事後学習(40分): 授業スライドを再度確認する。	池田 威秀
6	環境問題	様々な環境問題と取り組み 事前学習(20分): キーワードについての予習 (下記、教科書項目参照) 事後学習(40分): 授業スライドを再度確認する。	池田 威秀
7	生物多様性	生物多様性の消失とその保全 事前学習(20分): キーワードについての予習 (下記、教科書項目参照) 事後学習(40分): 授業スライドを再度確認する。	池田 威秀
8	持続可能な社会にむけて	近年の環境問題と持続可能社会 事前学習(20分): キーワードについての予習 (下記、教科書項目参照) 事後学習(40分): 授業スライドを再度確認する。	池田 威秀

評価	レポート(80%)、授業内課題(20%)で評価する。
課題に対する フィードバックの方法	全体の講評を提示、公開する。授業内課題に関しては実施後にコメントする。
教科書	特になし。講義内で次回講義におけるキーワードを挙げるので、事前にある程度調べておくこと。 また授業に用いた資料は実施後にアップロードする予定である。
参考図書など	特になし・適宜講義中に紹介する。
アクティブ・ラーニング	実施予定なし
実務経験のある 教員による授業	JICA専門家として生物多様性保全プロジェクトに従事した経験を基に、アマゾン熱帯雨林における現況を紹介する。
留意事項	特になし。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
放射線概論 Radiology	選択	講義	1単位 (15時間)	1年後期	星川 嘉一	○
ナンバリングコード	HC0C1	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
総合教育科目	DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。					
人間と環境						

授業概要	臨床現場で必要とされる放射線の知識および放射線治療総論、放射線による障害と防護や放射線の身体への影響について学習する。さらに放射線画像の基礎を学習する。また、発がんへの心理的・社会的問題についても学ぶ。					
到達目標	1) 医療における放射線医療の役割について説明でき、放射線による障害とその防護方法を説明する。 2) 画像診断の概要、放射線治療における医療者の役割、Interventional Radiology (IVR)について概要を説明する。 3) 日常生活において法が担う役割や機能について認識する。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）				担当教員
1	医療における放射線医学の役割	医療における放射線医療の役割および歴史 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の序章を読む。 事後学習(60分): 授業全体を復習する。				星川 嘉一
2	放射線被ばく	放射線による障害と防護。放射線被ばくの心理的・社会的問題 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の第11章を読む。 事後学習(60分): 授業全体を復習する。				星川 嘉一
3	画像診断概論	医療現場における画像診断の有用性。画像診断における安全性の確保とセーフティーマネジメント 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の第1章を読む。 事後学習(60分): 授業全体を復習する。				星川 嘉一
4	X線診断・CT・MRI	X線診断・CT・MRIの実際 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の第2章～第4章を読む。 事後学習(60分): 授業全体を復習する。				星川 嘉一
5	超音波検査・核医学	超音波検査・核医学、原理と実際 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の第5章～第6章を読む。 事後学習(60分): 授業全体を復習する。				星川 嘉一
6	IVR(Interventional Radiology)	IVR(Interventional Radiology)の概念。実際と有用性 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の第7章を読む。 事後学習(60分): 授業全体を復習する。				星川 嘉一
7	放射線治療総論	放射線治療における原理と基礎及び医療者の役割 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の第8章を読む。 事後学習(60分): 授業全体を復習する。				星川 嘉一
8	放射線治療各論	各種腫瘍に対する放射線治療の概要。治療効果と早期反応 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の第9章を読む。 事後学習(60分): 授業全体を復習する。				星川 嘉一

評価	定期試験(100%)で評価する。
課題に対する フィードバックの方法	講評を掲示をして、学生に公開する。
教科書	臨床放射線医学(系統看護学講座 別巻)/尾尻博也/医学書院/10版、2021年/ISBN-13:978-4260042178
参考図書など	適宜紹介する。
アクティブ・ラーニング	特に行う予定なし。
実務経験のある 教員による授業	放射線科専門医としての臨床経験を活かして放射線医学の基本的な知識と手法とその考え方について講義する。
留意事項	放射線科専門医の資格を有し多数の臨床経験から、放射線診療全般について実践的な授業を行う。 授業中、毎回発言を求める。事前学習を忘れても真摯な態度で授業に臨んでください。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
哲学 Philosophy	選択	講義	1単位 (15時間)	1年後期	米田 祐介	○
ナンバリングコード	HCO01		オフィスアワー			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
総合教育科目	DP3) 相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP5) 幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6) 卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
人間の本質と尊厳						

**授業概要**  
文明の発祥から現代に至るまでの東西を問わず先人の哲学思想を通して、人間とは何か、生きるとは何かについて思索する。「哲学を学ぶことの意義、科学と宗教と哲学、私であるということ、物質と生命の神秘、身体と精神、自由、および美しく善く生きること」等の学習内容を通して、「生きること」や「存在の意味」について、主体的に深く思索する姿勢と建設的批判力を身につけ、自己の人間観や世界観を醸成できることを目的とし、幅広く人間を理解する能力を養う。

**到達目標**  
1) 人間存在のヴァルネラビリティ(傷つきやすさ)を理解したうえで、障害学の視点を活かし他者への寄り添いを考えることができる  
2) ナラティブ・アプローチを理解したうえで、実践することができる  
3) 具体的な社会事象に対し哲学の基礎的概念を用いて考察することができる

回	授業項目	授業内容 事前・事後学習 (予習・復習・課題等)	担当教員
1	①オリエンテーション ②哲学と医療	①授業の目標、評価基準、シラバスの説明 ②哲学とは何か、医療とは何か、について明らかにしたうえで、両者の関わりについて述べる 事前学習:(30分):「哲学」ときいて関心のある諸問題について検討しておく 事後学習:(60分): 当事者意識をもって配布資料を読み、授業全体について復習する	米田 祐介
2	時代の生きづらさに向き合う1 —(まなざし)による支配と癒しの空間: 身体感覚のリアリティー—	視覚(まなざし)は、近代社会の成立とともに他の身体感覚に対して特権的な位置を占めるようになった。とくに視覚が権力と結びつく場面に注目し、その支配のメカニズムを解明する 事前学習:(30分): (に)おいと(まなざし)の役割を事前にノートに書く 事後学習:(60分): 当事者意識をもって配布資料を読み、授業全体について復習する	米田 祐介
3	時代の生きづらさに向き合う2 — いじめを生み出す「優しい関係」—	人間存在のヴァルネラビリティ(傷つきやすさ)に光をあて、いじめという具体的事例を検討することを通じて、「いのち」とは何か、「生きる」ことの意味について考察する 事前学習:(30分): 新聞やインターネットなどでいじめの事例について調べておく 事後学習:(60分): 当事者意識をもって配布資料を読み、授業全体について復習する	米田 祐介
4	ナラティブ・アプローチ基礎編1 — 言葉・物語・ケア—	哲学、心理学、社会学の最前線で議論されているナラティブ・アプローチの考え方を紹介し、それがケア学に一つの理論的基礎を与えるものであることを示し、新たな世界観との出会いを促す 事前学習:(30分): これまでの経験から「語る」ことの意味について検討しておく 事後学習:(60分): 当事者意識をもって配布資料を読み、授業全体について復習する	米田 祐介
5	ナラティブ・アプローチ基礎編2 — 物語としての自己—	自己をめぐる哲学史を概観したうえで、「自己は物語の形式で存在する」と捉える社会構成主義の立場に光をあて、それが他者への寄り添いを考えるうえで一つの手がかりとなることを解説する 事前学習:(30分): 基礎編1の要点を理解しておく 事後学習:(60分): 当事者意識をもって配布資料を読み、授業全体について復習する	米田 祐介
6	ナラティブ・アプローチ応用編1 — 外在化とオルタナティブ・ストーリー—	M.ホワイトの外在化という考え方を具体的事例の検討を通じて解説し、「人が問題なのではなく、問題が問題なのである」ということの意味を考察する 事前学習:(30分): 基礎編1・2の要点を理解しておく 事後学習:(60分): 当事者意識をもって配布資料を読み、授業全体について復習する	米田 祐介
7	ナラティブ・アプローチ応用編2 — 「無知」の姿勢—	H.グーリヤンとH.アンダーソンの「無知」の姿勢という考え方を解説し、理解の途上にとどまり続けることによって「いまだ語られなかった物語」が語られる余地がひらけてくることの意味について考察を加える 事前学習:(30分): 基礎編1・2の要点を理解しておく 事後学習:(60分): レポート課題を期日までに提出する	米田 祐介
8	まとめ—自己を肯定するということ	まとめとしてこれまでの授業をふりかえり、「自己を肯定するということ」について考察する。 事前学習:(60分): これまでの配布資料を全て読み、要点を理解しておくこと 事後学習:(60分): 当事者意識をもって配布資料を読み、授業全体について復習する	米田 祐介

評価	毎回のリアクションペーパー40%、レポート60%
課題に対する フィードバックの方法	毎回、リアクションペーパーを書いていただき、授業冒頭にて紹介コメントを行います。
教科書	物語としてのケア/野口裕二/医学書院/2002年/ISBN: 978-4260332095 なお、毎回授業時にプリントを配布します。
参考図書など	なぜ生命倫理なのか/朝倉輝一編/大学教育出版/2024年/ISBN2024: 978-4-86692-294-2 私とは何か/平野啓一郎/講談社/2012年/ISBN: 9784062881722、ほか適宜紹介します。
アクティブ・ラーニング	リアクションペーパーへのフィードバックはもとより授業内での質問・意見を積極的に取り上げます。
実務経験のある 教員による授業	障がい者サポートセンターでの勤務を通じ障がいをもつ方たちの地域活動支援・生活支援、そしてなによりも、日常という時間を共に過ごしてきました。本講のテーマとなる他者に寄り添うこととは、とりもなおさずその人が置かれている状況・環境・価値観を含めた人生物語に寄り添うということだと考えます。こうした視点を活かし、みなさんと一緒に考えていきたいと思います。
留意事項	本講では、「語り・物語」が一つのキーワードになりますが、ぜひ、自らを語り、表現することの喜びを感じてください。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
倫理学 Ethics	選択	講義	1単位 (15時間)	1年前期	小館 貴幸	○
ナンバリングコード	HCOA1	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
総合教育科目	DP2) 科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3) 相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。					
人間の本质と尊厳	DP5) 幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。					

授業概要	倫理学とは、私たちの「よい(善良な)生き方」および「幸せな生き方」について考える学問である。しかしそれは、自分だけの「善良(幸福)な生き方」に留まるのではなく、共に存在する人間どうしの「善良(幸福)な生き方」を対象とするのである。なぜなら、人間は社会的存在だからである。秩序ある人間関係を築くためには、いかなるルールに従うべきであるのか。また、どのように振る舞うことが善い／悪いといえるのであろうか。本講義では、倫理とは何かについて明らかにした上で、「善悪」についてのいくつかの倫理学の主要理論について扱い、様々な臨床現場で対応できる多角的な視点を養っていく。これらを医療分野における事例を用いながら、「いのち」の尊厳についてもじっくり向き合っていく。					
到達目標	1) 倫理とは何かを説明する。 2) 倫理学の各主要学説について理解し、その概要や利点／欠点について説明する。 3) 倫理的観点から、具体的事例について判断し、自分の意見を明確に表現する。 4) 「いのち」の尊厳ににおいて配慮すべき事項を説明する。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）				担当教員
1	「いのち」とは何か	倫理学の基盤となる「いのち」とは何か 「いのち」の尊厳について 事前学習: 特になし 事後学習(90分): 提示された課題に取り組む。				小館 貴幸
2	倫理的判断の基準と根拠	倫理的判断(善悪の判断)の基準と根拠がどこにあるか 各倫理学説の位置づけ 事前学習(30分): 前回の配布プリントを読み返し、授業内容を再確認する。 事後学習(60分): 提示された課題に取り組む。				小館 貴幸
3	主要学説1 [人格の倫理: 義務論]	カントの人格の倫理(義務論)の長所と短所 この学説を用いた臨床現場での具体的事例の考察 事前学習(30分): 前回の配布プリントを読み返し、授業内容を再確認する。 事後学習(60分): 内容を復習し、リアクションペーパーに整理しまとめる。				小館 貴幸
4	主要学説2[功利主義]	功利主義の長所と短所 この学説を用いた臨床現場での具体的事例の考察 事前学習(30分): 前回の配布プリントを読み返し、授業内容を再確認する。 事後学習(60分): 内容を復習し、リアクションペーパーに整理しまとめる。				小館 貴幸
5	主要学説3[プラグマティズム]	プラグマティズムの長所と短所 この学説を用いた臨床現場での具体的事例の考察 事前学習(30分): 前回の配布プリントを読み返し、授業内容を再確認する。 事後学習(60分): 内容を復習し、リアクションペーパーに整理しまとめる。				小館 貴幸
6	主要学説4[徳倫理学]	徳倫理学の短所と長所 この学説を用いた臨床現場での具体的事例の考察 事前学習(30分): 前回の配布プリントを読み返し、授業内容を再確認する。 事後学習(60分): 内容を復習し、リアクションペーパーに整理しまとめる。				小館 貴幸
7	主要学説5[ケアの倫理]	ケアの倫理の短所と長所 この学説を用いた臨床現場での具体的事例の考察 事前学習(30分): 前回の配布プリントを読み返し、授業内容を再確認する。 事後学習(60分): 内容を復習し、リアクションペーパーに整理しまとめる。				小館 貴幸
8	現代における倫理的問題	現代における具体的問題における、倫理学の観点からの考察 事前学習(45分): 前回の配布プリントを読み返し、授業内容を再確認する。 事後学習(45分): 内容を復習し、リアクションペーパーに整理しまとめる。				小館 貴幸

評価	定期試験(60%)、課題・リアクションペーパー(40%)で評価する。
課題に対する フィードバックの方法	定期試験に関して、試験後に全体の講評をHPもしくは掲示にて受講生に公開する。 また、課題の一部は集計結果と簡単な解説を講義で行う。
教科書	特になし(授業時にプリントを配布する)。
参考図書など	適宜紹介する。
アクティブ・ラーニング	実施予定なし。
実務経験のある 教員による授業	介護福祉士の資格を持ち、実際に難病患者や終末期患者の在宅介護に携わっている教員が、臨床現場での当事者や家族の声を紹介しながら、講義を行う。
留意事項	「自ら考える」という意識を持ち、主体的に授業に参加して下さい。医療者になるという自覚を持って、授業で学んだことを臨床の現場や日常で生かせるように、普段から倫理的な視点で物事を考えるように心がけて下さい。

授業科目の名称	必修・選択の別	授業形態	単位数(時間数)	配当年次	科目担当教員	実務経験のある教員による科目
社会学 Sociology	選択	講義	2単位 (30時間)	1年後期	門林 道子	—
ナンバリングコード	HC0B1	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
総合教育科目	DP3) 相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4) 保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5) 幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6) 卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
人間の本質と尊厳						

**授業概要**  
 社会的行為、社会的集団、地位と役割、文化などの社会学の基本概念を理解するとともに身近な社会現象である家族や職場、地域社会、健康問題、福祉、倫理問題など、現実の社会や社会問題がどのように捉えられ、理解されているかを学習する。さらに社会的・文化的な性差である「ジェンダー」が私たちの社会・文化の中でどのように現れているか学ぶ。

- 到達目標**
- 1) 「人間とはなにか、社会とはなにか」を考え、「現代」という時代の全体をとらえ、私たちが生きる現代社会が、どのような社会なのかを社会学的見方を通して理解し、説明する。
  - 2) 人が、社会の中の関係性の中で生きていることを認識し、幅広い視野で人間と社会における問題点について説明する。
  - 3) 社会生活を営むひとりの人間として、社会を理解し考える力を涵養するとともに、現代社会で起きている諸問題を把握し、客観的論理的な思考に基づき評価する。
  - 4) 医療人として、また実生活に応用できる社会学的知見を習得し活用する。

回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）	担当教員
1	社会学とはなにか	「社会学」がどのような学問であるか、「社会」とはなにか、人間が「社会的存在」であることを理解するとともに、医療において社会学を学ぶ意義を考えてみる。 事前学習(30分): 「社会」とはなにか、「人間」とはなにかを考えてくる 事後学習(60分): 「社会」や「人間」「社会学とはなにか」についての復習	門林 道子
2	現代社会論Ⅰ	人口動態統計等を用いて「少子高齢社会」や「家族の小規模化」が進む現代社会を理解する。 事前学習(30分): 厚生労働省発表の人口動態統計などを事前に目を通してくる 事後学習(60分): 「高齢化率」「高齢化社会」「高齢社会」など用語を理解する	門林 道子
3	現代社会論Ⅱ	昨今の社会問題から現代社会を考え、社会保障制度との関係等についてもみていく。「孤独死」や「孤立死」「葬送儀礼の変容」等を取り上げる予定である。 事前学習(60分): 人口動態統計からみる現代社会について小テストを実施・予習 事後学習(60分): 取り上げた社会問題についての復習	門林 道子
4	現代家族論Ⅰ	「家族」とはなにか。基礎概念を理解したうえで、近現代における家族形態や機能の変化をみていく。 事前学習(30分): 「家族」とはなにかを考えてくる 事後学習(60分): 「家族」の基礎概念と、近現代における変化を復習する	門林 道子
5	現代家族論Ⅱ	「家族」に何が起きているのか。介護や虐待などの諸問題をとりあげ、現状を理解するとともに要因などを考える。 事前学習(30分): 新聞やテレビなどで「家族」に起きている問題を調べておく 事後学習(60分): 社会現象の背後にある要因を把握・理解するように努力する	門林 道子
6	現代家族論Ⅲ	「高齢者」をめぐる「老年期」というライフステージを考える。 事前学習(30分): 「高齢者」観について自分の考えをまとめる 事後学習(60分): 「高齢者」と高齢者をめぐるさまざまな問題について理解する	門林 道子
7	行為と欲求	人間の「行為」がどのように成り立つのか。行為の原動力となる「欲求」や行為の構造・類型について解説する。 事前学習(30分): 「行為」とは、また「欲求」がどのように行為となるのか考える 事後学習(60分): 「行為」の成り立ちや学習した用語などを復習する	門林 道子
8	集団論	「集団」とはなにか。個人と社会集団、組織・職業と社会について解説する。 事前学習(30分): 「集団」と「集まり」の違いを考えてくる 事後学習(60分): 個人にとって社会にとっての集団の存在意義を理解する	門林 道子
9	社会調査の方法	社会学での調査方法を取り上げる。ここではとくに終末期医療に関するグラウンデッドセオリーに具体的に触れる。 事前学習(30分): 量的調査・質的調査のそれぞれの意義を考えてくる 事後学習(60分): 質的調査やグラウンデッドセオリーの復習・理解	門林 道子
10	闘病記の社会学的研究	門林「がん闘病記の社会学」よりがん闘病記の変遷や闘病記の社会的意義、書くことの意味について解説する。 事前学習(60分): 門林の著書に関するプリントを配布・読んでくること 事後学習(120分): 課題レポートを書く	門林 道子
11	ホスピス・緩和ケアの比較社会学	日本と海外の終末期ケアをめぐる状況を門林の調査研究に基づいて解説する。 事前学習(30分): ホスピスケア・緩和ケアについて基本情報を知っておく 事後学習(60分): 日本と海外との比較など、要点を整理する	門林 道子
12	ハンセン病—差別と人権	ハンセン病を取り上げ、日本社会が生み出した「差別」と「人権」問題にふれることで「差別」がどのように形成されていくのか、また人間の尊厳を考える機会とする。 事前学習(30分): ハンセン病やハンセン病問題について知識を得る 事後学習(60分): 問題の整理とこれからの課題について考える	門林 道子

13	“「人間」をみつめる —ホロコーストとアウシュヴィッツ 強制収容所—”	DVD SHOAH等を観て、ホロコースト体験者の話に触れることから始める。「人間」を見つめ、現代社会で「負の遺産」を保存し、残していくことの意味を共に考える機会とする。 事前学習(30分): 第2次世界大戦やホロコーストについて基本知識を得ておく 事後学習(60分): 現代社会に残存する「負の遺産」の意味について考える	門林 道子
14	ジェンダー論 I	社会のなかで形成される「男らしさ」「女らしさ」、ジェンダー論の基本について解説する。 事前学習(30分): 「ジェンダー」とはなにか、事前に調べてくる 事後学習(60分): 日常生活における「男らしさ」「女らしさ」を考えてみる	門林 道子
15	ジェンダー論 II	教育や労働のなかにみられるジェンダーについて、男女参画社会を標榜する現代においてもなお残される問題とは何かを考える。 事前学習(30分): 教育でみられた社会的文化的性差(ジェンダー)を考えてみる 事後学習(60分): ジェンダー問題の整理と学期全体を通してのまとめ	門林 道子
評価	定期試験(70%)、課題レポート・授業時の小レポート・リアクションペーパー・小テスト(30%)で総合評価する。小テストは、第2回「人口動態統計からみる現代社会」終了後、その内容について第3回から第5回の授業冒頭のうち1回を選んで行う予定である。		
課題に対する フィードバックの方法	授業終了時には、毎回のように、授業時に指定した課題についての小レポートやリアクションペーパーの提出を求め、次回の授業の冒頭でそれらの内容について紹介、コメントする。		
教科書	特になし(毎回レジュメや資料を配布)。		
参考図書など	生きる力の源に: がん闘病記の社会学/門林道子/2011/青海社/ISBN: 978-4902249576、孤立の社会学/石田光規/2011/勁草書房/ISBN: 978-4326653683、「病いの経験」を聞き取る/蘭由岐子/新版/生活書院/ISBN: 978-4865000641、ほか適宜授業で紹介する。		
アクティブ・ラーニング	講義の中で適宜少人数で話し合うグループワークやディスカッションを実施予定		
実務経験のある 教員による授業	該当なし。		
留意事項	現代社会がどのような状況にあるのか、つねにマスコミの報道などに関心をもってほしい。授業中には意見を聞いたり、リアクションペーパーなどの提出を求め、学習意欲を重視する。欠席が続くと授業についていけなくなるため、毎回必ず主体的積極的に出席することを期待している。		

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
心理学 Psychology	必修	講義	2単位 (30時間)	1年前期	長澤 里絵	—
ナンバリングコード	HC0C1	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
総合教育科目	DP3) 相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。					
人間の本質と尊厳						

授業概要	心理学は、人間の行動の法則性に関する科学である。本教科では、知覚、欲求、思考、学習、人格、カウンセリングなどの心理学の基礎から、発達心理学・医療心理学について学習する。さらに、錯覚、記憶、学習、集団心理、性格検査、知能検査等についても学習する。					
到達目標	1) 学の見解が医療場面にどのように関わり、役立っているかを認識する。 2) 学んだ心理学的基礎知識の具体的な応用例について説明する。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）				担当教員
1	心理学とは	心理学とはどのような学問か・心理学の歴史・心理学の研究法 事前学習(10分): シラバスを読み、不明な点を質問できるようにしておく。 事後学習(30分): 授業全体について復習する。				長澤 里絵
2	知覚と認知の心理 ①	感覚器官・知覚特性①(図と地対比的知覚ゲシュタルト的知覚、知覚の恒常性) 事前学習(30分): 教科書第1章1節から3節を読む。 事後学習(30分): 授業全体について復習する。				長澤 里絵
3	知覚と認知の心理 ②	知覚特性②(運動知覚空間知覚)・錯視・認知プロセス 事前学習(30分): 教科書第1章3節から5節を読む。 事後学習(30分): 授業全体について復習する。				長澤 里絵
4	感情と情緒の心理	情緒形成の3要素・情緒生起のメカニズム 事前学習(30分): 教科書第2章を読む。 事後学習(30分): 授業全体について復習する。				長澤 里絵
5	欲求と動機の心理	生理的欲求と心理(社会的)欲求・外発的動機づけと内発的動機づけ 事前学習(30分): 教科書第3章を読む。 事後学習(30分): 授業全体について復習する。				長澤 里絵
6	適応心理	心の適応と不適応・葛藤とストレス・適応機制 事前学習(30分): 教科書第3章を読む。 事後学習(30分): 授業全体について復習する。				長澤 里絵
7	臨床心理	こころの病・主な心理療法の種類・カウンセリングと危機介入 事前学習(30分): 教科書第6章4節と5節を読む。 事後学習(30分): 授業全体について復習する。				長澤 里絵
8	性格の心理 ①	性格とは・類型論と特性論 事前学習(30分): 教科書第5章を読む。 事後学習(30分): 授業全体について復習する。				長澤 里絵
9	性格の心理 ②	性格検査 事前学習(30分): 教科書第5章を読む。 事後学習(30分): 授業全体について復習する。				長澤 里絵
10	学習と記憶の心理	学習のメカニズム・古典的学習とオペラント学習・効果的学習法・記憶のプロセス 事前学習(30分): 教科書第4章を読む。 事後学習(30分): 授業全体について復習する。				長澤 里絵
11	発達と成長の心理 ①	発達とは・乳幼児の発達 事前学習(30分): 教科書第7章1節と2節を読む。 事後学習(30分): 授業全体について復習する。				長澤 里絵
12	発達と成長の心理 ②	児童期から高齢期の発達と心理 事前学習(30分): 教科書第7章3節を読む。 事後学習(30分): 授業全体について復習する。				長澤 里絵

13	自己と対人の心理	自己について・対人知覚の誤り・対人的好意の心理 事前学習(30分):教科書第8章1節と2節を読む。 事後学習(30分):授業全体について復習する。	長澤 里絵
14	社会と組織の心理	集団の特性と個人との関係・リーダーシップ・群集心理・社会的影響 事前学習(30分):教科書第8章3節から5節を読む。 事後学習(30分):授業全体について復習する。	長澤 里絵
15	医療と心理 まとめ	患者の心理と心理的反応・末期患者の心理 事前学習(30分):全体の復習をし、不明な点は質問できるようにしておく。 事後学習(30分):授業全体について復習する。	長澤 里絵

評価	定期試験(100%)で評価する。
課題に対する フィードバックの方法	課題については、授業内で全体の講評をする。
教科書	こころの行動と発達・臨床心理. 軽部幸浩(編). 福村出版, 東京. 2023. ISBN:978-4571230677
参考図書など	適宜紹介する。
アクティブ・ラーニング	授業で扱った性格検査を実習として体験する。
実務経験のある 教員による授業	該当なし。
留意事項	授業時の私語は授業妨害となるので厳禁とする。 ※必ず事後学習を行うこと。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
発達心理学 Developmental Psychology	選択	講義	1単位 (15時間)	1年後期	長澤 里絵	—
ナンバリングコード	HC0C1	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
総合教育科目	DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。					
人間の本質と尊厳						

授業概要	人間の一生という全行程を発達のプロセス、すなわち人は発達し続ける存在としてとらえ、人間への深い理解と愛情を育むことができるように、心身の発達および人格の成熟、発達課題と諸問題について学習する。具体的には、社会的存在としての人びとの生涯的な発達過程を主としてライフコース論の視点から整理し、社会の変動と人びとの人生コースとの関連について学習する。		
到達目標	人間の発達過程を理解し、医療現場にどのように応用できるかを説明する。		
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）	担当教員
1	発達とは	発達とはなにか 事前学習(10分):シラバスを読み、不明な点を質問できるようにしておく。教科書1章1節を読む。 事後学習(30分):授業全体について復習する。	長澤 里絵
2	発達の特徴	発達区分・身体発達の原理・発達曲線 事前学習(30分):教科書1章2節と5節を読む。 事後学習(30分):授業全体について復習する。	長澤 里絵
3	遺伝と環境	生得説・経験説・両極説・環境閾値説 事前学習(30分):教科書1章3節を読む。 事後学習(30分):授業全体について復習する。	長澤 里絵
4	遺伝と環境に関連した事例	刷り込み・オオカミに育てられた子 事前学習(30分):教科書1章4節を読む。 事後学習(30分):授業全体について復習する。	長澤 里絵
5	発達段階の特徴 ①	乳幼児期① 事前学習(30分):教科書1章6節を読む。 事後学習(30分):授業全体について復習する。	長澤 里絵
6	発達段階の特徴 ②	乳幼児期②・児童期 事前学習(30分):教科書1章6節を読む。 事後学習(30分):授業全体について復習する。	長澤 里絵
7	発達段階の特徴 ③	青年期・高齢期 事前学習(30分):教科書1章6節を読む。 事後学習(30分):授業全体について復習する。	長澤 里絵
8	愛着 まとめ	愛着理論・内的作業モデル 事前学習(30分):全体の復習をし、不明な点は質問できるようにしておく。 事後学習(30分):授業全体について復習する。	長澤 里絵

評価	定期試験(100%)で評価する。
課題に対する フィードバックの方法	課題については、授業内で全体の講評をする。
教科書	こころの行動と発達・臨床心理/軽部幸浩(編)/福村出版/2023/ISBN:978-4571230677
参考図書など	適宜紹介する。
アクティブ・ラーニング	実施予定なし。
実務経験のある 教員による授業	該当なし。
留意事項	授業時の私語は授業妨害となるので厳禁とする。 ※必ず事後学習を行うこと。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
ボランティア学 Studies of Voluntary Activities	選択	講義	1単位 (15時間)	1年後期	原田 勝広	○
ナンバリングコード	HC001	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
総合教育科目	DP3) 相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。					
人間の本質と尊厳						

授業概要	少子高齢化や地方自治の深化に伴い、市民の自発的な活動(ボランティア活動)に対する期待や関心が高まっている。その領域は、従来の福祉や国際協力だけでなく環境や災害救援、まちづくりなど多岐に渡っており、非営利ではあっても無償ではない事業型NPOやコミュニティ・ビジネスも増えている。本講義では、そのようなボランティアの変化や意義を、時代背景から読みとぎ、受講者自らも行動できるような素養・知識の修得を狙いとする。					
到達目標	ボランティアの歴史と意味、社会における役割を理解すること、さらにボランティアの発展形であるNPO、NGO、社会起業家についても学び、今日課題である国連SDGsについても自らの人生との関りで考察できるようにする。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習 (予習・復習・課題等)	担当教員			
1	ボランティアとは何か	講義全体の概要を説明し、ボランティア及びボランティア精神が社会課題解決に果たす役割を理解する。 事前学習(30分): シラバスをチェックして全体の流れを把握しておくこと。事前アップの資料を読む。 事後学習(30分): 配布資料等で事業内容の復習をする。	原田 勝広			
2	ボランティア精神の系譜—民間公益活動の歴史	ボランティアの歴史、活動分野を概説し、社会を変革していく大きな力があることを説明する。 事前学習(30分): 事前にアップするパワーポイントを見て準備する。 事後学習(30分): 配布資料等で事業内容の復習をする。	原田 勝広			
3	ボランティアを組織する—NPOの理論と現状	ボランティアを組織化したNPOが市民社会で大きな役割を果たしていることを理解する。 事前学習(30分): 事前にアップするパワーポイントを見て準備する。 事後学習(30分): 配布資料等で事業内容の復習をする。	原田 勝広			
4	国際NGOの誕生	世界で問題になっている紛争難民や自然災害被災者を支援するNGOの誕生と活動を紹介する。 事前学習(30分): 事前にアップするパワーポイントを見て準備する。 事後学習(30分): 配布資料等で事業内容の復習をする。	原田 勝広			
5	日本のNGO	日本でも市民社会の台頭とともにNGO活動が活発化していることを学ぶ。 事前学習(30分): 事前にアップするパワーポイントを見て準備する。 事後学習(30分): 配布資料等で事業内容の復習をする。	原田 勝広			
6	社会起業家が社会を変える	善意ではなく、ビジネスを通して社会の課題を解決する社会起業家が世界で活躍していることを学ぶ。 事前学習(30分): 事前にアップするパワーポイントを見て準備する。 事後学習(30分): 配布資料等で事業内容の復習をする。	原田 勝広			
7	NPOと企業、非営利と非営利の壁を越えて	政府や非営利組織だけではなく、ビジネスセクターも公益に関心を寄せ始めていることを勉強する。 事前学習(30分): 事前にアップするパワーポイントを見て準備する。 事後学習(30分): 配布資料等で事業内容の復習をする。	原田 勝広			
8	国連SDGsという時代の潮流	今最もホットな話題である国連SDGs、ESGが実はボランティア精神とつながっていることを理解する。 事前学習(30分): 最終講義にはボランティアと自分のかかわりについて課題レポートを作成する。 事後学習(30分): 講義全体の振り返り。	原田 勝広			

評価	授業中に実施するアクションペーパーまたはレポート(40%)、定期試験(60%)
課題に対する フィードバックの方法	授業の前後、メールを通して個別指導を実施する。
教科書	なし
参考図書など	贈与論/ちくま学芸文庫/マルセル・モース/筑摩書房/ISBN: 978-4480091994、NPO実践マネジメント入門/パブリックリソースセンター編/東信堂/ISBN: 978-4798900964、SDGsが問いかける経営の未来/モニターデロイト編/日本経済新聞出版/ISBN: 978-4532322366
アクティブ・ラーニング	アクション・ペーパーの執筆、発表、議論などを通して授業に主体的に参加する工夫を行う。
実務経験のある 教員による授業	NGOの支援組織「ジャパン・プラットフォーム」共同創設者、副代表理事の経験を生かし、NPO、NGOの考え方、活動実態、政府、企業との連携、その際の問題点などについて実践的に授業を行う。
留意事項	NGOの支援組織「ジャパン・プラットフォーム」共同創設者、副代表理事の経験を生かし、NGOの考え方、活動実態について詳しく解説する。 単にボランティアについて学ぶのではなく、NPO、NGO、さらには企業CSR、国連のSDGsまでを視野に入れた授業である。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
生命倫理学 Bioethics	選択	講義	1単位 (15時間)	1年後期	小館 貴幸	○
ナンバリングコード	HCOA1	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
総合教育科目	DP2) 科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3) 相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP5) 幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。					
人間の本質と尊厳						

授業概要	現代医療は生命倫理の土台の上に成り立っている。この講義では、生命倫理学の成立の歴史を含め、医療人として必要な生命倫理学の基礎的知識や倫理綱領について学習する。また、医療技術の進歩に伴い生じる生命倫理上の重要ないくつかの問題を取り上げることにより、その本質や最近の動向を理解するとともに、それらについて医療職が果たすべき役割を学ぶ。
------	---

到達目標	1) 「医の倫理」と「生命倫理」の違いを指摘でき、生命倫理とは何かを説明することができる。 2) 生命倫理の四原則を列挙することができ、インフォームド・コンセントについて具体的に述べることができる。 3) 人工妊娠中絶、脳死や臓器移植など、生命倫理の諸問題について述べるることができる。
------	---

回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）	担当教員
1	医の倫理	『ヒポクラテスの誓い』について解説する。 「医の倫理」における倫理原則やその意義、パターナリズムなどについて解説する。 事前学習(60分): 事前課題に取り組む。 事後学習(30分): プリントを見返して内容を復習し、整理する。	小館 貴幸
2	医の倫理から生命倫理へ	「生命倫理」へと至るプロセスを解説し、生命倫理学の歴史や意義を解説する。 事前学習(60分): テキストをしっかりと読んでおく。 事後学習(30分): プリントを見返して内容を復習し、整理する。	小館 貴幸
3	生命倫理の四原則 1 〔自律尊重の原則〕	インフォームド・コンセントを取り上げ、自律尊重の原則の意義について解説する。 事前学習(30分): テキストを熟読しておく。 事後学習(60分): 内容を復習し、疑問点などをまとめておく。	小館 貴幸
4	生命倫理の四原則 2 〔善行・無危害・公正の原則〕	善行の原則、無危害の原則、公正の原則について解説し、まとめを行う。 事前学習(30分): テキストを熟読し、前回のプリントを復習しておく。 事後学習(60分): 提示された課題に取り組む。	小館 貴幸
5	個人情報の保護	守秘義務と個人情報の相違や法律について概説していく。 事前学習(60分): 事前課題に取組み、テキストを熟読しておく。 事後学習(30分): 内容を復習し、疑問点などをまとめておく。	小館 貴幸
6	生命の始まりをめぐる諸問題 〔人工受精〕	人工受精や不妊治療について、当事者の声に耳を傾けながら、問題点を探求していく。 事前学習(30分): テキストを熟読しておく。 事後学習(60分): 課題に取り組む。	小館 貴幸
7	生命の終わりをめぐる諸問題 1 〔安楽死〕	安楽死についての基本的諸事項を解説し、その是非について諸学説を取り上げながら考察する。 事前学習(60分): テキストを熟読しておく。 事後学習(30分): 内容を復習し、疑問点などをまとめておく。	小館 貴幸
8	生命の終わりをめぐる諸問題 2 〔尊厳死〕	尊厳死に関する基本的諸事項を解説し、各当事者の立場を踏まえて多角的に考察する。 事前学習(60分): テキストを熟読しておく。 事後学習(30分): 内容を復習し、疑問点などをまとめておく。	小館 貴幸

評価	定期試験60%、中間レポート15%、授業への取り組み(課題)25%、という総合評価。
課題に対する フィードバックの方法	中間レポートに関しては、授業内で模範解答例とやり方を解説する。 定期試験に関しては、試験後に全体の講評をHPもしくは掲示にて受講生に公開する。
教科書	なぜ生命倫理なのか／朝倉輝一編／大学教育出版／2024年 ※4月公刊のため、ISBNは未定。
参考図書など	適宜紹介する。
アクティブ・ラーニング	実施予定なし
実務経験のある 教員による授業	介護福祉士の資格を持ち、実際に難病患者や終末期患者の在宅介護に携わっている教員が、臨床現場での当事者や家族の声を紹介しながら、講義を行う。
留意事項	生命の始まりや終わりにまつわる諸問題について、日常の中で取り上げられるニュースに敏感になり、生命倫理を普段から身近に感じるように心がけて下さい。授業では、すべて自分の問題と置き換えて、「脳に汗をかき」ほど考え、「心が燃える」ほど感じてもらいたいと思います。



## IV. 專門基礎科目・專門科目



授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
解剖学 I (骨・筋) Anatomy I	必修	講義	1単位 (30時間)	1年前期	柴田 昌和	○
ナンバリングコード	HPTC1/HOTC1		オフィスアワー			
本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける						
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門基礎科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
人体の構造と機能および心身の発達						

**授業概要** 本講義では、まず解剖学を学ぶ上で心構えについて概説する。学生は医療人として必要なヒトのからだに対する畏敬の念を身につける。解剖学のうち、運動器系における受動運動器である骨格について系統的叙述を行う。全身の骨格について骨をどのように観察するか、また全体の中でどんな位置を占めているか、その形・外観・大きさ等の形態的な特徴と骨の連結を説明できるように学ぶ。また、関節の構成体である靭帯・腱・筋の基本的構造(形態)および部位ごとの特徴について学ぶ。

**到達目標**

- 1)人体を構成する基本的な構造とそれらの立体的な構成および機能の調節機構を説明でき、記述できる。
- 2)骨格とその連結を理解し、骨格筋の起始・停止の位置および機能を説明および記述できる。
- 3)上肢・下肢についてはそれぞれの筋の起始・停止の位置を図に描け、機能を説明できる。
- 4)靭帯については名称と特徴を説明できる。

回	授業項目	授業内容 事前・事後学習 (予習・復習・課題等)	担当教員
1	人体の構成	人体の構成要素にはどのようなものがあるかを解説。 事前学習(45分):人体を構成する要素にはどのようなものがあるか予習 事後学習(45分):小試験の内容の復習とノート作成	柴田 昌和
2	解剖学的用語と体の方向用語	臨床においても使用する解剖学用語を説明。骨の構造と機能について解説。 事前学習(45分):レジユメを参考に解剖学用語に関する英語名を調べる 事後学習(45分):小試験の内容の復習とノート作成	柴田 昌和
3	骨の構造と機能および成長	骨の組織学的構造と機能を解説する。骨はどのように成長し維持されるかを解説。 事前学習(45分):骨の構造の図を描き名称を調べる 事後学習(45分):小試験の内容の復習とノート作成	柴田 昌和
4	関節の構造と働き。靭帯の働き	基本的な関節の構造を解説し、その働きを考える。また、基本的な靭帯の機能を解説。 事前学習(45分):それぞれの関節に対応する動きと靭帯について調べる 事後学習(45分):小試験の内容の復習とノート作成	柴田 昌和
5	頭蓋骨の構造と名称	頭蓋骨を構成する15種23個について名称および特徴を解説。 事前学習(45分):それぞれの頭蓋骨の特徴について調べる 事後学習(45分):小試験の内容の復習とノート作成	柴田 昌和
6	脊柱と胸郭の構造と名称	脊柱を構成する各椎骨の部位における特徴を説明し、胸郭の構造と機能を解説。 事前学習(45分)各椎骨にはどのような特徴があるかを調べる 事後学習(45分)小試験の内容の復習とノート作成	柴田 昌和
7	上肢帯の骨と自由上肢の構造と名称及び機能	上肢を構成する骨の種類と名称を解説する。また、肘関節の特徴を解説。 事前学習(45分):胸鎖関節～指節間関節までどのような関節があるか調べる 事後学習(45分):小試験の内容の復習とノート作成	柴田 昌和
8	下肢帯の骨と自由下肢の構造と名称	下肢を構成する骨の種類と名称を解説する。骨盤の構成と機能についても解説。 事前学習(45分):骨盤を構成する骨と性差について調べる 事後学習(45分):小試験の内容の復習とノート作成	柴田 昌和
9	骨格筋・心筋・平滑筋の構造と機能	骨格筋・心筋・平滑筋の基本的な構造の違いを説明し、それぞれの筋の働きを解説。 事前学習(30分):3種類の筋組織についての違いを調べる 事後学習(45分):小試験の内容の復習とノート作成	柴田 昌和
10	筋の形態、起始と停止および筋の作用	筋の起始と停止を説明し、それにおける作用を解説する。体の運動についての用語を解説。 事前学習(45分):筋の起始・停止、それに伴う作用について調べる 事後学習(45分):小試験の内容の復習とノート作成	柴田 昌和
11	表情筋、咀嚼筋の名称と機能	頭蓋の筋は表情筋、咀嚼筋に分けられ、それぞれの特徴的な働きについて解説。 事前学習(45分):表情筋、咀嚼筋にはどのようなものがあるか調べる 事後学習(45分):小試験の内容の復習とノート作成	柴田 昌和
12	頸部、脊柱起立筋の名称と機能	頸部、脊柱に付着している筋にはどのようなものがあり、どのような機能があるかを解説。 事前学習(45分):固有背筋にはどのようなものがあるかを調べる 事後学習(45分):小試験の内容の復習とノート作成	柴田 昌和

IV 専門基礎科目

13	浅・深胸筋、側腹筋などの名称と機能	腹側、背側にはどのような筋があり、どのような機能があるかを解説。 事前学習(45分): 上肢の筋を体幹側から順にどのような筋があるか調べる 事後学習(45分): 小試験の内容の復習とノート作成	柴田 昌和
14	上肢帯筋・上腕筋・前腕筋・手筋の名称と機能	上肢の筋および靭帯について説明、その機能的な働きを解説。 事前学習(45分): 上肢の筋を体幹側から順にどのような筋があるか調べる 事後学習(45分): 小試験の内容の復習とノート作成	柴田 昌和
15	下肢帯筋・大腿筋・下腿筋・足筋の名称と機能	寛骨外・内筋の名称と機能および大腿、下肢、足の筋の名称と機能について解説。 事前学習(45分): 下肢の筋を骨盤側から順にどのような筋があるか調べる 事後学習(45分): 小試験の内容の復習とノート作成	柴田 昌和

評価	各回ごとの小テスト10%、課題提出10%および期末試験80%として評価する。
課題に対するフィードバックの方法	小試験は採点し、次回講義に返却・解説をする。課題に関しては学生個々に講評し返却する。
教科書	藤田恒太郎著「人体解剖学」改訂第42版 南江堂 2003年 ISBN: 978-4524222469
参考図書など	伊藤隆著「解剖学講義 第3版」南山堂 2014年 ISBN: 978-4525100537、金子丑之助著「日本人体解剖学 上巻」南山堂 2020年 ISBN: 978-4525101008
アクティブ・ラーニング	該当なし
実務経験のある教員による授業	死体解剖資格を有し、肉眼解剖の経験を通して、人体の構造と機能について分かりやすい講義を行う。
留意事項	上記の参考図書の他、中村隆一著「基礎運動学」医歯薬出版、野村巖編「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学」医学書院などを参考に各回の単元ごとの予習をする。また、各講義終了後にノートを作成する。期末試験終了後ノート提出あり。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
解剖学Ⅱ(神経) AnatomyⅡ	必修	講義	1単位 (30時間)	1年前期	柴田 昌和	○
ナンバリングコード	HPTC1/HOTC1		オフィスアワー			
本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける						
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門基礎科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
人体の構造と機能および心身の発達						

**授業概要**  
本講義では中枢神経系の生成・発達・構造・仕組み・働き等について学ぶ。神経組織学、神経系の発生、脊髄、脳幹、小脳、大脳基底核、間脳、大脳皮質、脳室系、脳と脊髄の血管についてその概要を講義する。さらにまとめとして感覚系の神経回路、運動系の神経回路について講義する。解剖学Ⅰの内容と併せて、ヒトの運動の機序について学ぶ。

**到達目標**  
1)中枢神経では、脳の各部位の構造と機能を説明でき、脊髄では基本的な構造を名称とともに図を描くことができ、各関節についての名称も説明できる。  
2)末梢神経では、12脳神経の名称と機能を説明でき、脊髄神経ではそれぞれの神経叢の走行と支配筋を説明できる。  
3)下行性伝導路では、錐体路と錐体外路の説明ができる。  
4)自律神経系では交感神経と副交感神経の違いと機能を説明できる。

回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)	担当教員
1	神経の区分・構成	神経系の基本的な区分と神経細胞の構造について解説。 事前学習(45分): 神経にはどのような種類があるか調べる 事後学習(45分): 小試験の内容の復習とノート作成	柴田 昌和
2	神経の発生	外胚葉から発生する神経の各部の名称と神経細胞や神経膠細胞の分化を解説。 事前学習(45分): 神経発生の胚葉について調べる 事後学習(45分): 小試験の内容の復習とノート作成	柴田 昌和
3	脳室と髄膜	脳室と中心管の意味と脳髄膜の構造を解説。 事前学習(45分): 脳髄膜の構造を図に描き名称を入れる 事後学習(45分): 小試験の内容の復習とノート作成	柴田 昌和
4	脊髄の構造と機能	脊髄の基本的構造と各部位の違い、ベル・マジャンディーの法則を解説。 事前学習(45分): 脊髄神経の横断面図を描き名称を入れる 事後学習(45分): 小試験の内容の復習とノート作成	柴田 昌和
5	脳幹(中脳、橋、延髄)の位置と機能	脳幹の意味、中脳・橋・延髄の構造と機能を解説。 事前学習(45分): 脳幹の位置とそれぞれの機能を調べる 事後学習(45分): 小試験の内容の復習とノート作成	柴田 昌和
6	間脳(視床・視床下部)の位置と機能	視床下部、下垂体、松果体の位置と機能を解説。 事前学習(45分): 小脳構造を図に描き名称を入れる 事後学習(45分): 小試験の内容の復習とノート作成	柴田 昌和
7	小脳の構造と機能	小脳の構造である皮質部、髄質部の構造と機能を解説。 事前学習(45分): 小脳構造を図に描き名称を入れる 事後学習(45分): 小試験の内容の復習とノート作成	柴田 昌和
8	大脳の概要および構造と機能	大脳皮質の機能局在について解説。 事前学習(45分): 大脳皮質に関して構造と機能を調べる 事後学習(45分): 小試験の内容の復習とノート作成	柴田 昌和
9	大脳の構造と機能	大脳基底核の構造と機能や髄質の走行の違いを解説する。また、脳の血管についても解説。 事前学習(45分): 大脳基底核にはどのようなものがあるかを調べる 事後学習(45分): 小試験の内容の復習とノート作成	柴田 昌和
10	脳神経の名称と機能	12対の脳神経の名称と位置および機能について解説する。 事前学習(45分): 脳神経12対の名称と英語名を調べる 事後学習(45分): 小試験の内容の復習とノート作成	柴田 昌和
11	頸神経叢の走行と支配筋	頸神経叢の枝と機能、頸神経ワナの構造と機能および支配筋を解説。 事前学習(45分): 頸神経叢の図を描きそれぞれの名称を入れる 事後学習(45分): 小試験の内容の復習とノート作成	柴田 昌和
12	腕神経叢・胸神経の走行と支配筋	腕神経叢の走行と支配筋の関連と運動を合わせて解説する。肋間神経の形態を解説。 事前学習(45分): 腕神経叢の根・幹・束の図を描きそれぞれの名称を書く 事後学習(45分): 小試験の内容の復習とノート作成	柴田 昌和

Ⅳ 専門基礎科目

13	腰仙骨神経の走行と支配筋	腰神経叢と仙骨神経叢の走行と支配筋の関連、下肢の運動を解説。 事前学習(45分): 腰神経叢の図を描きそれぞれの名称を入れる 事後学習(45分): 小試験の内容の復習とノート作成	柴田 昌和
14	上行性神経と下行性神経	下行性の通路の錐体路、錐体外路の違いを解説する。 事前学習(45分): 腰神経叢の図を描きそれぞれの名称を入れる 事後学習(45分): 小試験の内容の復習とノート作成	柴田 昌和
15	自律神経系の構造と機能	下行性の通路の錐体路、錐体外路の違いを解説する。 事前学習(45分): 錐体路と錐体外路の違いを調べる 事後学習(45分): 小試験の内容の復習とノート作成	柴田 昌和

評価	各回ごとの小テスト10%、課題提出10%および期末試験80%として評価する。
課題に対するフィードバックの方法	小試験は採点し、次回講義に返却・解説をする。課題に関しては学生個々に講評し返却する。
教科書	藤田恒太郎著「人体解剖学」改訂第42版 南江堂 2003年 ISBN: 978-4524222469
参考図書など	伊藤隆著「解剖学講義 第3版」南山堂 2014年 ISBN: 978-4525100537、金子丑之助著「日本人体解剖学 上巻」南山堂 2020年 ISBN: 978-4525101008
アクティブ・ラーニング	該当なし
実務経験のある教員による授業	死体解剖資格を有し、肉眼解剖の経験を通して、人体の構造と機能について分かりやすい講義を行う。
留意事項	上記の参考図書の他、中村隆一著「基礎運動学」医歯薬出版、野村巖編「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学」医学書院などを参考に各回の単元ごとの予習をする。また、各講義終了後にノートを作成する。期末試験終了後ノート提出あり。

授業科目の名称	必修・選択の別	授業形態	単位数(時間数)	配当年次	科目担当教員	実務経験のある教員による科目
解剖学Ⅲ(内臓器) Anatomy Ⅲ	必修	講義	1単位 (15時間)	1年後期	柴田 昌和	○
ナンバリングコード	HPTC1/HOTC1		オフィスアワー 本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門基礎科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
人体の構造と機能および心身の発達						

**授業概要** 本講義では、内臓器の構造と配置を理解する。また自律神経系との関連を理解する。解剖学Ⅱの内容と併せて、身体の各器官を調節する神経系と影響する循環器系を中心に、内臓系全般の基本的な成り立ちと構造について学習する。学習する内容は、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系である。内臓系は解剖学のみならず臨床医学とのかわりも深い。したがって、本講義では医療人を目指す上で実施されるさまざまな学習の基盤として必要不可欠な人体解剖学の知識を修得する。

**到達目標**

- 1) 脈管系では心臓の構造と機能を理解し、動脈の走行と支配器官を説明できる。
- 2) 呼吸器系では肺の構造と機能を理解し、どのようにガス交換を行っているかを説明できる。
- 3) 消化器系では口腔から直腸までのマイクロからマクロレベルまでの構造と機能を説明できる。肝臓、胆嚢、膵臓の位置と構造および機能を説明できる。
- 4) 泌尿器系では腎臓で血液を濾過し尿を生成するメカニズムを生殖器系では男性、女性の生殖器の発生と違いを説明できる。
- 5) 内分泌系ではホルモンの基本的な働きと下垂体、甲状腺、副腎などの器官の構造と機能を説明できる。

回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)	担当教員
1	脈管系Ⅰ(心臓、動脈)	心臓の構造と機能および動脈の走行について解説。 事前学習(45分): 右心房から右心室に血液が戻るまでの流れを調べる 事後学習(45分): 小試験の内容の復習とノート作成	柴田 昌和
2	脈管系Ⅱ(静脈、リンパ)	静脈の走行と特徴およびリンパの走行や機能を解説。 事前学習(45分): 静脈にはどのような特徴があるかを調べる 事後学習(45分): 小試験の内容の復習とノート作成	柴田 昌和
3	呼吸器系	肺の構造と機能、気管、気管支の構造と機能について解説。 事前学習(45分): 外呼吸・内呼吸とはどのようなものなのか調べる 事後学習(45分): 小試験の内容の復習とノート作成	柴田 昌和
4	消化器系Ⅰ(口腔、食道、胃)	口腔、食道、胃までのマイクロからマクロまでの構造と機能について解説する。 事前学習(45分): 口腔・食道・胃の構造や機能の違いを調べる 事後学習(45分): 小試験の内容の復習とノート作成	柴田 昌和
5	消化器系Ⅱ(小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓)	小腸、大腸のマイクロからマクロまでの構造の解説と肝臓、胆嚢、膵臓の構造と機能について解説する。 事前学習(45分): 肝臓の内部構造(マイクロ)はどのようなものかを調べる 事後学習(45分): 小試験の内容の復習とノート作成	柴田 昌和
6	泌尿器系	腎臓、尿管、膀胱の構造と機能について解説する。 事前学習(45分): 尿を作るメカニズムについて調べる 事後学習(45分): 小試験の内容の復習とノート作成	柴田 昌和
7	生殖器系	腎臓、尿管、膀胱の構造と機能について解説する。 事前学習(45分): 尿を作るメカニズムについて調べる 事後学習(45分): 小試験の内容の復習とノート作成	柴田 昌和
8	内分泌系	内分泌系の器官の下垂体、甲状腺、副腎などの形態と機能および特徴を解説する。 事前学習(45分): 内分泌にはどのようなものがあるかを調べる 事後学習(45分): 小試験の内容の復習とノート作成	柴田 昌和

評価	各回ごと的小テスト10%、課題提出10%および期末試験80%として評価する。
課題に対するフィードバックの方法	小試験は採点し、次回講義に返却・解説をする。課題に関しては学生個々に講評し返却する。
教科書	藤田恒太郎著「人体解剖学」改訂第42版 南江堂 ISBN:978-4524222469
参考図書など	伊藤隆著「解剖学講義 第3版」南山堂 2014、金子丑之助著「日本人体解剖学 下巻」南山堂 2020年 ISBN:978-4525101107
アクティブ・ラーニング	該当なし
実務経験のある教員による授業	死体解剖資格を有し、肉眼解剖の経験を通して、人体の構造と機能について分かりやすい講義を行う。
留意事項	上記の参考図書の他、中村隆一著「基礎運動学」医歯薬出版、野村巖編「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学」医学書院などを参考に各回の単元ごとの予習をする。また、各講義終了後にノートを作成する。期末試験終了後ノート提出あり。

Ⅳ 専門基礎科目

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
解剖学実習 Anatomy practice	必修	実験・実習	2単位 (90時間)	2年通期	柴田 昌和、土田 将之	○
ナンバリングコード	HPTC2/HOTC2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門基礎科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。					
人体の構造と機能および心身の発達	DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
授業概要	解剖学Ⅰ～Ⅲで学んだ知識を実際の標本で確認していく。標本としては骨標本、臓器標本、四肢標本、脳神経標本などを活用し、その精巧な形態と多様性について教授する。さらに顕微鏡標本の観察を通して、人体諸器官の微細構造とその基本的な機能を考察する。解剖学Ⅰ～Ⅲで学習した系統解剖学的な知識を深め、人体構造を総合的に理解・習得する。解剖標本を自ら手にとって観察することによって、人体各器官の位置関係や構造を立体的に学習し、それらを局所解剖学的に説明できるようになる。					
到達目標	1)骨格と筋の相互の関連を立体的に理解し、図示および説明できる。 2)神経・血管の走行や相互の関連を立体的に理解し、図示および説明できる。 3)運動器についての総合的な説明ができる。 4)臓器の位置関係を立体的に理解し、図示および説明ができる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）			担当教員	
1	骨学実習 ペーパークラフト作成	人体の骨がどのようにつながりがあるかペーパークラフトのボニーを作成。 事前学習(30分): 頭蓋骨のそれぞれの名称の英語名を調べる 事後学習(30分): 頭蓋のそれぞれの骨の特徴をノートにまとめる			柴田 昌和 土田 将之	
2	骨学実習 ペーパークラフト作成	人体の骨がどのようにつながりがあるかペーパークラフトのボニーを作成。 事前学習(30分): 頭蓋骨のそれぞれの名称の英語名を調べる 事後学習(30分): 頭蓋のそれぞれの骨の特徴をノートにまとめる			柴田 昌和 土田 将之	
3	骨学実習 ペーパークラフト作成	人体の骨がどのようにつながりがあるかペーパークラフトのボニーを作成。 事前学習(30分): 頭蓋骨のそれぞれの名称の英語名を調べる 事後学習(30分): 頭蓋のそれぞれの骨の特徴をノートにまとめる			柴田 昌和 土田 将之	
4	骨学実習 ペーパークラフト作成	人体の骨がどのようにつながりがあるかペーパークラフトのボニーを作成。 事前学習(30分): 頭蓋骨のそれぞれの名称の英語名を調べる 事後学習(30分): 頭蓋のそれぞれの骨の特徴をノートにまとめる			柴田 昌和 土田 将之	
5	骨学実習 ペーパークラフト作成	人体の骨がどのようにつながりがあるかペーパークラフトのボニーを作成。 事前学習(30分): 頭蓋骨のそれぞれの名称の英語名を調べる 事後学習(30分): 頭蓋のそれぞれの骨の特徴をノートにまとめる			柴田 昌和 土田 将之	
6	骨学実習 ペーパークラフト作成	人体の骨がどのようにつながりがあるかペーパークラフトのボニーを作成。 事前学習(30分): 頭蓋骨のそれぞれの名称の英語名を調べる 事後学習(30分): 頭蓋のそれぞれの骨の特徴をノートにまとめる			柴田 昌和 土田 将之	
7	骨学実習Ⅰ(頭蓋骨)	頭部の分解骨の内頭蓋底・外頭蓋底の観察およびスケッチを行う。 事前学習(30分): 人体解剖学教科書p42～p68まで読む 事後学習(30分): 内頭蓋底・外頭蓋底の孔に通るものをノートにまとめる			柴田 昌和 土田 将之	
8	骨学実習Ⅰ(頭蓋骨)	頭部の分解骨の内頭蓋底・外頭蓋底の観察およびスケッチを行う。 事前学習(30分): 人体解剖学教科書p42～p68まで読む 事後学習(30分): 咀嚼筋の起始・停止部を図を描きノートにまとめる			柴田 昌和 土田 将之	
9	骨学実習Ⅱ(脊柱・胸郭)	脊柱および胸郭を分解骨で組み立、観察およびスケッチを行う。 事前学習(30分): 人体解剖学教科書p68～p82まで読む 事後学習(30分): 脊柱・肋骨の関節とその作用についてノートにまとめる			柴田 昌和 土田 将之	
10	骨学実習Ⅱ(脊柱・胸郭)	脊柱および胸郭を分解骨で組み立、観察およびスケッチを行う。 事前学習(30分): 人体解剖学教科書p68～p90まで読む 事後学習(30分): 脊柱・肋骨の関節とその作用についてノートにまとめる			柴田 昌和 土田 将之	
11	骨学実習Ⅲ(上肢骨)	上肢帯・自由上肢骨の観察とスケッチを行う。 事前学習(30分): 人体解剖学教科書p82～p90まで読む 事後学習(30分): 肩関節についてノートにまとめる			柴田 昌和 土田 将之	
12	骨学実習Ⅲ(上肢骨)	上肢帯・自由上肢骨の観察とスケッチを行う。 事前学習(30分): 人体解剖学教科書p82～p90まで読む 事後学習(30分): 肘関節についてノートにまとめる			柴田 昌和 土田 将之	

13	骨学実習Ⅳ(下肢骨)	<p>下肢帯・自由下肢骨の観察とスケッチを行う。</p> <p>事前学習(30分):人体解剖学教科書p90~p103まで読む</p> <p>事後学習(30分):骨盤を構成する骨についてノートにまとめる</p>	柴田 昌和 土田 将之
14	骨学実習Ⅳ(下肢骨)	<p>下肢帯・自由下肢骨の観察とスケッチを行う。</p> <p>事前学習(30分):人体解剖学教科書p90~p103まで読む</p> <p>事後学習(30分):股関節と膝関節についてノートにまとめる</p>	柴田 昌和 土田 将之
15	骨学実習(手・足の骨)	<p>身体各部の骨・関節の観察および作用について観察およびスケッチを行う。</p> <p>事前学習(30分):手の骨と関節について調べる</p> <p>事後学習(30分):手と足の関節のまとめ</p>	柴田 昌和 土田 将之
16	骨学実習(手・足の骨)	<p>身体各部の骨・関節の観察および作用について観察およびスケッチを行う。</p> <p>事前学習(30分):手の骨と関節について調べる</p> <p>事後学習(30分):手の骨と関節について調べる</p>	柴田 昌和 土田 将之
17	筋・靭帯学Ⅰ(前頸部・胸部・腹部)	<p>前頸部・胸部・腹部の筋の起始・停止および支配神経の位置確認を行う。</p> <p>事前学習(45分):人体解剖学p90~139、解剖学実習アトラスp72-109読む</p> <p>事後学習(45分):前頸部の筋を深層から順にノートにまとめる</p>	柴田 昌和 土田 将之
18	筋・靭帯学Ⅰ(前頸部・胸部・腹部)	<p>前頸部・胸部・腹部の筋の起始・停止および支配神経の位置確認を行う。</p> <p>事前学習(30分):人体解剖学p128~132、解剖学実習アトラスp120-124読む</p> <p>事後学習(45分):胸部にある筋を深層から順にノートにまとめる</p>	柴田 昌和 土田 将之
19	筋・靭帯学Ⅱ(背側・腹側・骨盤周囲筋)	<p>背側・腹側・骨盤周囲筋の起始・停止および支配神経の位置確認を行う。</p> <p>事前学習(30分):解剖学実習アトラスp225-233読む</p> <p>事後学習(45分):固有背筋についてノートに図を描きまとめる</p>	柴田 昌和 土田 将之
20	筋・靭帯学Ⅱ(背側・腹側・骨盤周囲筋)	<p>背側・腹側・骨盤周囲筋の起始・停止および支配神経の位置確認を行う。</p> <p>事前学習(30分):解剖学実習アトラスp225-233読む</p> <p>事後学習(45分):側腹筋の位置関係を理解し、その特徴をノートにまとめる</p>	柴田 昌和 土田 将之
21	筋・靭帯学Ⅲ(上肢の筋)	<p>上肢の筋の起始・停止および支配神経の位置確認を行う。</p> <p>事前学習(45分):人体解剖学p139-151、解剖学実習アトラスp124-168読む</p> <p>事後学習(45分):上肢の屈筋群の起始・停止、支配神経をノートにまとめる</p>	柴田 昌和 土田 将之
22	筋・靭帯学Ⅲ(上肢の筋)	<p>上肢の筋の起始・停止および支配神経の位置確認を行う。</p> <p>事前学習(45分):人体解剖学p139-151、解剖学実習アトラスp124-168読む</p> <p>事後学習(45分):上肢の屈筋群の起始・停止、支配神経をノートにまとめる</p>	柴田 昌和 土田 将之
23	筋・靭帯学Ⅲ(上肢の筋)	<p>肩関節、肘関節の靭帯の位置確認を行う。</p> <p>事前学習(45分):解剖学実習アトラスp160-163を読む</p> <p>事後学習(45分):上肢の靭帯についてノートにまとめる</p>	柴田 昌和 土田 将之
24	筋・靭帯学Ⅳ(下肢の筋)	<p>下肢の筋の起始・停止および支配神経の位置確認を行う。</p> <p>事前学習(45分):人体解剖学p151-164、解剖学実習アトラスp11-70を読む</p> <p>事後学習(45分):下肢の伸筋群について起始・停止、支配神経をまとめる</p>	柴田 昌和 土田 将之
25	筋・靭帯学Ⅳ(下肢の筋)	<p>下肢の筋の起始・停止および支配神経の位置確認を行う。</p> <p>事前学習(45分):人体解剖学p151-164、解剖学実習アトラスp11-70を読む</p> <p>事後学習(45分):下肢の伸筋群について起始・停止、支配神経をまとめる</p>	柴田 昌和 土田 将之
26	筋・靭帯学Ⅳ(下肢の筋)	<p>下肢の筋の起始・停止および支配神経の位置確認を行う。</p> <p>事前学習(45分):人体解剖学p151-164、解剖学実習アトラスp11-70を読む</p> <p>事後学習(45分):下肢の伸筋群について起始・停止、支配神経をまとめる</p>	柴田 昌和 土田 将之
27	筋・靭帯学Ⅳ(下肢の靭帯)	<p>股関節、膝関節の靭帯の位置や半月板の位置を確認する。</p> <p>事前学習(45分):解剖学実習アトラスp25-30を読む</p> <p>事後学習(45分):骨盤周囲の靭帯・筋、股関節、膝関節の靭帯のまとめ</p>	柴田 昌和 土田 将之
28	筋・靭帯学Ⅴ(手・足の靭帯および筋)	<p>股関節、膝関節の靭帯の位置や半月板の位置を確認する。</p> <p>事前学習(45分):解剖学実習アトラスp57-63、p129-141を読む</p> <p>事後学習(45分):手・足の靭帯・筋のまとめ</p>	柴田 昌和 土田 将之
29	骨・筋・靭帯学グループ発表	<p>骨・筋・靭帯の内容をグループ単位で発表・質疑応答を行う。【プレゼンテーション】</p> <p>事前学習(45分):スケッチブック・ノート・教科書の読み直し</p> <p>事後学習(30分):理解不足の部分をノートに補足、加筆する</p>	柴田 昌和 土田 将之
30	骨・筋・靭帯学グループ発表	<p>骨・筋・靭帯の内容をグループ単位で発表・質疑応答を行う。【プレゼンテーション】</p> <p>事前学習(45分):スケッチブック・ノート・教科書の読み直し</p> <p>事後学習(30分):理解不足の部分をノートに補足、加筆する</p>	柴田 昌和 土田 将之
31	解剖学見学実習Ⅰ	<p>神奈川歯科大学で解剖実習見学を行う。臓器等の標本見学。</p> <p>事前学習(45分):人体解剖学p182-293までを読む</p> <p>事後学習(30分):当日学習した内容をノートに整理し、まとめる</p>	柴田 昌和 土田 将之

32	解剖学見学実習Ⅰ(背側浅層筋)	神奈川歯科大学で解剖実習見学を行う。臓器等の標本見学。 事前学習(45分):人体解剖学p182-293までを読む 事後学習(30分):当日学習した内容をノートに整理し、まとめる	柴田 昌和 土田 将之
33	解剖学見学実習Ⅰ(背側浅層筋)	神奈川歯科大学で解剖実習見学を行う。臓器等の標本見学。 事前学習(45分):人体解剖学p182-293までを読む 事後学習(30分):当日学習した内容をノートに整理し、まとめる	柴田 昌和 土田 将之
34	解剖学見学実習Ⅱ(腹側浅層筋)	体幹・四肢、浅層の前面および後面の皮膚・筋・神経・血管の観察。 事前学習(45分):解剖学実習アトラスp11-68, p71-163を一読する 事後学習(45分):実習内容を解剖学実習アトラスと教科書を参考にノートにまとめる	柴田 昌和 土田 将之
35	解剖学見学実習Ⅱ(腹側浅層筋)	体幹・四肢、浅層の前面および後面の皮膚・筋・神経・血管の観察。 事前学習(45分):解剖学実習アトラスp11-68, p71-163を一読する 事後学習(45分):実習内容を解剖学実習アトラスと教科書を参考にノートにまとめる	柴田 昌和 土田 将之
36	解剖学見学実習Ⅱ(腹側浅層筋)	体幹・四肢、浅層の前面および後面の皮膚・筋・神経・血管の観察。 事前学習(45分):解剖学実習アトラスp11-68, p71-163を一読する 事後学習(45分):実習内容を解剖学実習アトラスと教科書を参考にノートにまとめる	柴田 昌和 土田 将之
37	解剖学見学実習Ⅱ(腹側浅層筋)	体幹・四肢、浅層の前面および後面の皮膚・筋・神経・血管の観察。 事前学習(45分):解剖学実習アトラスp11-68, p71-163を一読する 事後学習(45分):実習内容を解剖学実習アトラスと教科書を参考にノートにまとめる	柴田 昌和 土田 将之
38	解剖学見学実習Ⅲ(深部筋・内臓)	体幹・四肢、浅層の前面および後面の皮膚・筋・神経・血管の観察。 事前学習(45分):解剖学実習アトラスp11-68, p71-163を一読する 事後学習(45分):実習内容を解剖学実習アトラスと教科書を参考にノートにまとめる	柴田 昌和 土田 将之
39	解剖学見学実習Ⅲ(深部筋・内臓)	体幹・四肢、浅層の前面および後面の皮膚・筋・神経・血管の観察。 事前学習(45分):解剖学実習アトラスp11-68, p71-163を一読する 事後学習(45分):実習内容を解剖学実習アトラスと教科書を参考にノートにまとめる	柴田 昌和 土田 将之
40	解剖学見学実習Ⅲ(深部筋・内臓)	体幹・四肢、浅層の前面および後面の皮膚・筋・神経・血管の観察。 事前学習(45分):解剖学実習アトラスp11-68, p71-163を一読する 事後学習(45分):実習内容を解剖学実習アトラスと教科書を参考にノートにまとめる	柴田 昌和 土田 将之
41	解剖学見学実習Ⅲ(深部筋・内臓)	体幹・四肢、浅層の前面および後面の皮膚・筋・神経・血管の観察。 事前学習(45分):解剖学実習アトラスp11-68, p71-163を一読する 事後学習(45分):実習内容を解剖学実習アトラスと教科書を参考にノートにまとめる	柴田 昌和 土田 将之
42	解剖学見学実習Ⅳ(関節・脳)	脳・脊髄および胸腔内・腹腔内の臓器の観察。 事前学習(45分):解剖学実習アトラスp169-264, p269-280を一読する 事後学習(45分):実習内容を解剖学実習アトラスと教科書を参考にノートにまとめる	柴田 昌和 土田 将之
43	解剖学見学実習Ⅳ(関節・脳)	脳・脊髄および胸腔内・腹腔内の臓器の観察。 事前学習(45分):解剖学実習アトラスp169-264, p269-280を一読する 事後学習(45分):実習内容を解剖学実習アトラスと教科書を参考にノートにまとめる	柴田 昌和 土田 将之
44	解剖学見学実習Ⅳ(関節・脳)	脳・脊髄および胸腔内・腹腔内の臓器の観察。 事前学習(45分):解剖学実習アトラスp169-264, p269-280を一読する 事後学習(45分):実習内容を解剖学実習アトラスと教科書を参考にノートにまとめる	柴田 昌和 土田 将之
45	解剖学見学実習Ⅳ(関節・脳)	脳・脊髄および胸腔内・腹腔内の臓器の観察。 事前学習(45分):解剖学実習アトラスp169-264, p269-280を一読する 事後学習(45分):実習内容を解剖学実習アトラスと教科書を参考にノートにまとめる	柴田 昌和 土田 将之

評価	課題20%、項目別試験と中間試験および総合試験80%として評価する。
課題に対するフィードバックの方法	項目別試験は採点し、次回の実習時に返却・解説をする。課題に関しては学生個々に講評し返却する。
教科書	解剖学実習アトラス(南江堂)河西達夫著 1993年 ISBN:978-4524211746
参考図書など	解剖学カラーアトラス 第9版(医学書院)2023年 ISBN:978-4260050487、ネッター解剖学アトラス(南江堂)2016年 ISBN:978-4524259670
アクティブ・ラーニング	これまでに学んだ骨・筋・靭帯の内容をグループ単位で質疑・応答形式でプレゼンテーション・ディスカッションを行う。
実務経験のある教員による授業	死体解剖資格を有し、これまでの肉眼解剖の経験を通して、人体の構造と機能について分かりやすい実習を行う。
留意事項	実習時にオリジナルの実習も配布します。実習室・見学実習では白衣着用、実習前の予習必須。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
生理学 I Physiology I	必修	講義	1単位 (30時間)	1年前期	竹居 光太郎	—
ナンバリングコード	HPTC1/HOTC1	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門基礎科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。					
人体の構造と機能および心身の発達						

授業概要	細胞、組織、器官、個体レベルにおける固有機能、固有機能が統合されたシステムとその調節機構、それらの相互作用により生体の内部環境が一定の範囲内(正常)に維持されるためにどのような制御機構が働いているかを理解する。					
到達目標	ヒトの生命維持の基礎である生理学について理解し、専門職者として必要な時に知識を利用することができるようになる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)				担当教員
1	ガイダンス・生体の恒常性機構	生理学の重要性、生体の恒常性機構、細胞の構造と機能 事前学習(20分):授業内容に関する該当箇所を予習する。 事後学習(30分):配布資料や授業全体について復習し、課題をまとめる。				竹居 光太郎
2	神経系①	細胞膜の構造と膜電位、活動電位、興奮の伝導 事前学習(20分):授業内容に関する該当箇所を予習する。 事後学習(30分):配布資料や授業全体について復習し、再確認する。				竹居 光太郎
3	神経系②	神経伝達とシナプス、神経線維、末梢神経 事前学習(20分):授業内容に関する該当箇所を予習する。 事後学習(30分):配布資料や授業全体について復習し、課題をまとめる。				竹居 光太郎
4	神経系③	脊髄、脳幹、間脳、小脳 事前学習(20分):授業内容に関する該当箇所を予習する。 事後学習(30分):配布資料や授業全体について復習し、課題をまとめる。				竹居 光太郎
5	神経系④	大脳基底核・辺縁系 事前学習(20分):授業内容に関する該当箇所を予習する。 事後学習(30分):配布資料や授業全体について復習し、課題をまとめる。				竹居 光太郎
6	神経系⑤	大脳新皮質、脳波 事前学習(20分):授業内容に関する該当箇所を予習する。 事後学習(30分):配布資料や授業全体について復習し、課題をまとめる。				竹居 光太郎
7	筋系①	筋収縮のメカニズム 事前学習(20分):授業内容に関する該当箇所を予習する。 事後学習(30分):配布資料や授業全体について復習し、課題をまとめる。				竹居 光太郎
8	筋系②	筋肉の収縮、筋紡錘、Golgi腱器官、様々な筋肉の特徴 事前学習(20分):授業内容に関する該当箇所を予習する。 事後学習(30分):配布資料や授業全体について復習し、課題をまとめる。				竹居 光太郎
9	感覚	体性感覚、内臓感覚、特殊感覚 事前学習(20分):授業内容に関する該当箇所を予習する。 事後学習(30分):配布資料や授業全体について復習し、課題をまとめる。				竹居 光太郎
10	内分泌①	分泌機能とホルモン、ホルモンの種類と作用 事前学習(20分):授業内容に関する該当箇所を予習する。 事後学習(30分):配布資料や授業全体について復習し、課題をまとめる。				竹居 光太郎
11	内分泌②	視床下部・下垂体から分泌されるホルモンの種類と作用 事前学習(20分):授業内容に関する該当箇所を予習する。 事後学習(30分):配布資料や授業全体について復習し、課題をまとめる。				竹居 光太郎
12	内分泌③	各内分泌腺から分泌されるホルモンの種類と作用① 甲状腺・副腎 事前学習(20分):授業内容に関する該当箇所を予習する。 事後学習(30分):配布資料や授業全体について復習し、課題をまとめる。				竹居 光太郎

13	内分泌④	各内分泌腺から分泌されるホルモンの種類と作用② 膵臓・性腺 事前学習(20分): 授業内容に関する該当箇所を予習する。 事後学習(30分): 配布資料や授業全体について復習し、課題をまとめる。	竹居 光太郎
14	生殖と発生	男性・女性の生殖機能、発生 事前学習(20分): 授業内容に関する該当箇所を予習する。 事後学習(30分): 配布資料や授業全体について復習し、課題をまとめる。	竹居 光太郎
15	まとめ	全体のまとめ 事前学習(20分): 前回までの授業内容プリントを見直しする。 事後学習(30分): 期末試験に備え、これまでの学習内容を振り返る。	竹居 光太郎

評価	定期試験(80%)、復習用ミニテスト(20%)。
課題に対する フィードバックの方法	実施予定なし
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野・生理学 / 岡田隆夫、鈴木敦子、長岡正範/医学書院/第5版/ISBN:978-4260036443□
参考図書など	シンプル生理学(南江堂)ISBN:978-4-524-22655-9、 標準生理学(医学書院)ISBN:978-4-260-03429-6
アクティブ・ラーニング	実施予定なし
実務経験のある 教員による授業	該当なし
留意事項	最も基礎的な学問のひとつなのでむらなくしっかり学習すること。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
生理学Ⅱ Physiology I I	必修	講義	1単位 (30時間)	1年後期	竹居 光太郎	—
ナンバリングコード	HPTC1/HOTC1	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門基礎科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。					
人体の構造と機能および心身の発達						

授業概要	生理学Ⅰの内容と併せて、生体の器官系が固有の機能を有することを学ぶと共に、それらの間の調節統合機構を学び、生命現象に関わる専門教育に必要な基礎知識、学力を向上させる。					
到達目標	ヒトの生命維持に必要な生理学を理解することに加えて、健康の維持増進に必要な知識を獲得する。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）				担当教員
1	代謝と体温	栄養素、エネルギー代謝、体温 事前学習(20分): 授業内容に関する該当箇所を予習する。 事後学習(30分): 配布資料や授業全体について復習し、課題をまとめる。				竹居 光太郎
2	呼吸①	呼吸器の構造、ガス交換、呼吸運動 事前学習(20分): 授業内容に関する該当箇所を予習する。 事後学習(30分): 配布資料や授業全体について復習し、再確認する。				竹居 光太郎
3	呼吸②	呼吸の調節、呼吸の異常、呼吸量の測定 事前学習(20分): 授業内容に関する該当箇所を予習する。 事後学習(30分): 配布資料や授業全体について復習し、課題をまとめる。				竹居 光太郎
4	尿の生成と排泄①	腎臓の構造とネフロン、尿の生成 事前学習(20分): 授業内容に関する該当箇所を予習する。 事後学習(30分): 配布資料や授業全体について復習し、課題をまとめる。				竹居 光太郎
5	尿の生成と排泄②	クリアランス、排尿、尿の異常 事前学習(20分): 授業内容に関する該当箇所を予習する。 事後学習(30分): 配布資料や授業全体について復習し、課題をまとめる。				竹居 光太郎
6	酸塩基平衡	体内の酸塩基平衡、酸塩基平衡の異常 事前学習(20分): 授業内容に関する該当箇所を予習する。 事後学習(30分): 配布資料や授業全体について復習し、課題をまとめる。				竹居 光太郎
7	消化と吸収①	消化器の構造と役割、口腔と嚥下、食道 事前学習(20分): 授業内容に関する該当箇所を予習する。 事後学習(30分): 配布資料や授業全体について復習し、課題をまとめる。				竹居 光太郎
8	消化と吸収②	胃、十二指腸、膵臓 事前学習(20分): 授業内容に関する該当箇所を予習する。 事後学習(30分): 配布資料や授業全体について復習し、課題をまとめる。				竹居 光太郎
9	消化と吸収③	空腸／回腸、大腸、肝臓 事前学習(20分): 授業内容に関する該当箇所を予習する。 事後学習(30分): 配布資料や授業全体について復習し、課題をまとめる。				竹居 光太郎
10	血液	血液の組成と機能、血液型 事前学習(20分): 授業内容に関する該当箇所を予習する。 事後学習(30分): 配布資料や授業全体について復習し、課題をまとめる。				竹居 光太郎
11	心臓と循環①	心筋細胞と心臓、刺激伝導系、心電図 事前学習(20分): 授業内容に関する該当箇所を予習する。 事後学習(30分): 配布資料や授業全体について復習し、課題をまとめる。				竹居 光太郎
12	心臓と循環②	伝導異常、血液の拍出と血圧、血圧測定、心機能曲線 事前学習(20分): 授業内容に関する該当箇所を予習する。 事後学習(30分): 配布資料や授業全体について復習し、課題をまとめる。				竹居 光太郎

13	心臓と循環③	心周期、心拍出量を決定する要素、血圧の調節 事前学習(20分): 授業内容に関する該当箇所を予習する。 事後学習(30分): 配布資料や授業全体について復習し、課題をまとめる。	竹居 光太郎
14	心臓と循環④	血液の循環、微小循環、リンパ循環 事前学習(20分): 授業内容に関する該当箇所を予習する。 事後学習(30分): 配布資料や授業全体について復習し、課題をまとめる。	竹居 光太郎
15	まとめ	総括、確認 事前学習(20分): 前回までの授業内容プリントを見直しする。 事後学習(30分): 期末試験に備え、これまでの学習内容を振り返る。	竹居 光太郎

評価	定期試験(80%)、復習用ミニテスト(20%)。
課題に対する フィードバックの方法	実施予定なし
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野・生理学 / 岡田隆夫、鈴木敦子、長岡正範/医学書院/第5版/ISBN:978-4260036443
参考図書など	シンプル生理学(南江堂)ISBN:978-4-524-22655-9、 標準生理学(医学書院)ISBN:978-4-260-03429-6
アクティブ・ラーニング	実施予定なし
実務経験のある 教員による授業	該当なし
留意事項	本科目は今後履修する専門科目の基礎となる重要な科目であり、国家試験にも頻出する分野でもある。生理学 I を復習しながら事前事後学習を徹底することを推奨する。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
生理学演習 Practice of Physiology	必修	演習	2単位 (60時間)	2年前期	平林 敬浩、塩田 清二、山崎 泰広	—
ナンバリングコード	HPTC2/HOTC2	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門基礎科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
人体の構造と機能および心身の発達						

授業概要	生理学Ⅱで学んだ内容を実験を行うことで確認し、その知識を深める。生命現象のメカニズムについて実際に観察する機会であり、実習をすることによって科学的な考え方を身につける。実習内容は、味覚、触覚、聴覚等の感覚機能測定、血糖値、乳酸値の生化学的検査、消化液の作用を理解する実験等である。
------	--

到達目標	1)参考書および配布した実習の手引きを参考とし、各実習項目の目的を理解する。 2)実習器具および機材の使用方法を理解し、また実習の手引きにおいて指示された手順に従い、各実習項目を正しく、かつ安全に遂行することができる。 3)各実習において得られた結果を観察、記録、分析し、論理的な結論を導くことができる。 4)各実習の目的、方法、結果、考察をレポートにまとめることができる。
------	--

回	授業項目	授業内容 事前・事後学習 (予習・復習・課題等)	担当教員
1 ・ 2 ・ 3	ガイダンス	生理学実習を実施する意義について理解する。実習実施上の留意点、レポートの書き方について理解する。生理学に関連する特別講義を実施する。 事前学習: (60分)教科書「医療系学生のための生理学実習書」を概読する。 事後学習: (30分)学習のまとめ方、レポートの書き方について復習する。実習の流れを確認しておく。	平林敬浩
4 ・ 5 ・ 6	皮膚感覚・重量感覚	皮膚感覚(触圧覚)、重量感覚を測定し、感覚の種類、感覚の成立機序、体性感覚の種類と受容器などについて理解する。 事前学習: (60分)実習の手引き、教科書を読み、実習内容を理解する。 事後学習: (120分)実習の復習・まとめを行い、レポートを作成する。	平林敬浩
7 ・ 8 ・ 9	聴覚・平衡感覚	聴力を測定し、聴覚伝導路を理解する。また、平衡感覚における視覚機能の影響を理解する。 事前学習: (60分)実習の手引き、教科書を読み、実習内容を理解する。 事後学習: (120分)実習の復習・まとめを行い、レポートを作成する。	平林敬浩
10 ・ 11 ・ 12	血圧・心拍数	体位や運動負荷による血圧・心拍数の変化を観察し、これらの神経性調節の仕組みを理解する。 事前学習: (60分)実習の手引き、教科書を読み、実習内容を理解する。 事後学習: (120分)実習の復習・まとめを行い、レポートを作成する。	平林敬浩
13 ・ 14 ・ 15	口腔感覚(味覚)	舌の各部位における味物質の感受性を測定し、味覚弁別機能を理解する。 事前学習: (60分)実習の手引き、教科書を読み、実習内容を理解する。 事後学習: (120分)実習の復習・まとめを行い、レポートを作成する。	平林敬浩
16 ・ 17 ・ 18	血糖値	空腹時及び糖負荷後の血糖値測定を行い、採血・測定方法を習得する。また、ホルモンや自律神経による糖代謝調節機構を理解する。 事前学習: (60分)実習の手引き、教科書を読み、実習内容を理解する。 事後学習: (120分)実習の復習・まとめを行い、レポートを作成する。	平林敬浩
19 ・ 20 ・ 21	乳酸値	種々の運動負荷後の乳酸値測定を行い、採血・測定方法を習得する。また、各負荷による乳酸代謝調節機構と疲労のメカニズムを理解する。 事前学習: (60分)実習の手引き、教科書を読み、実習内容を理解する。 事後学習: (120分)実習の復習・まとめを行い、レポートを作成する。	平林敬浩
22 ・ 23 ・ 24	消化酵素の作用	唾液アミラーゼによるデンプン分解、ペプシンによるタンパク質分解の観察を行い、消化酵素の働きを理解する。 事前学習: (60分)実習の手引き、教科書を読み、実習内容を理解する。 事後学習: (120分)実習の復習・まとめを行い、レポートを作成する。	平林敬浩
25 ・ 26 ・ 27	呼吸機能・心電図・筋電図	スパイロメーターによる測定法を習得し、呼吸機能を理解する。また、心電図、筋電図について理解する。 事前学習: (60分)実習の手引き、教科書を読み、実習内容を理解する。 事後学習: (120分)実習の復習・まとめを行う	平林敬浩

28. 29. 30	まとめ (小テスト・発表会)	生理学演習のまとめとして、小テスト、および班別のプレゼンテーションを行う。 事前学習:(60分)プレゼンテーションの準備を行う 事後学習:(120分)プレゼンテーションの振り返りを行う	平林敬浩
評価	ルーブリック評価(20%)、各回のレポート(40%)、小テスト(30%)、プレゼンテーション(10%)で評価を行う。		
課題に対する フィードバックの方法	レポートの内容は提出後の演習時間内に講評をする。また、プレゼンテーションはその場で講評を行う。		
教科書	医療系学生のための生理学実習書/斉藤琴子 實木-高橋葵 實木亨 須鎌康介 /丸善雄松堂/ ISBN:978-4-8419-4031-2		
参考図書など	生理学 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 第4版/奈良勲 鎌倉矩子/医学書院 /ISBN:978-4-260-01652-0		
アクティブ・ラーニング	各演習で得られた結果について班内でディスカッションを行う。		
実務経験のある 教員による授業	該当なし		
留意事項	各自が実験者、被験者として人体を使用して身体の生理学的変化の観察や計測を体験するため、事前に実習内容について十分に理解をし、実習中は事故が起こらないように細心の注意を払うことを求める。		

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
基礎運動学 Kinematics	必修	講義	1単位 (30時間)	1年後期	櫻井好美、鈴木 智高	○
ナンバリングコード	HPTC1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門基礎科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。					
人体の構造と機能および心身の発達						

授業概要	解剖学・生理学での学習と併せて人間の運動を力学的、生理学的面から総合的に理解するために、運動学の歴史、力学的基礎知識、人間の形態及び生理機能について理解することを目的とする。身体運動に関わる生体の構造と機能を力学的、生理学的に理解し、姿勢、運動動作における身体のメカニズム及び運動能力の発達や加齢化について総合的に学習する。					
到達目標	1)運動学用語を理解し、使用できる 2)運動器の構造と機能を説明できる 3)随意運動の神経機構を説明できる 4)運動力学の基礎を理解し、基礎的な問題が解ける 5)姿勢保持機構を説明できる 6)歩行分析における量的指標を列挙できる					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）				担当教員
1	運動学の定義	運動学の基礎(運動軸・運動方向) 理学療法(士)にとっての運動学の重要性 事前学習(30分):教科書1)pp.3-6を読んでおく 事後学習(60分):配布資料と教科書で復習する				櫻井 好美
2	運動器の構造と機能	骨の構造・関節の構造と機能 事前学習(30分):教科書1)pp.40-52を読んでおく 事後学習(60分):配布資料と教科書で復習する				櫻井 好美
3	運動の中枢神経機構 総論	神経系の基本構造 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分):配布資料と教科書で復習する				鈴木 智高
4	運動の中枢神経機構 反射と姿勢保持	反射・姿勢保持・随意運動の神経機構① 事前学習(30分):教科書2)pp.117-153を読んでおく 事後学習(60分):配布資料と教科書で復習する				鈴木 智高
5	運動の中枢神経機構 随意運動のメカニズム	反射・姿勢保持・随意運動の神経機構② 事前学習(30分):教科書2)pp.117-153を読んでおく 事後学習(60分):配布資料と教科書で復習する				鈴木 智高
6	感覚器の構造と機能	体性感覚、平衡感覚、視覚 事前学習(30分):教科書2)pp.154-166を読んでおく 事後学習(60分):配布資料と教科書で復習する				鈴木 智高
7	姿勢制御とバランス	姿勢制御と感覚、転倒 事前学習(30分):教科書2)pp.347-377を読んでおく 事後学習(60分):配布資料と教科書で復習する				鈴木 智高
8	運動学習	運動学習の諸理論、学習と記憶 事前学習(30分):教科書2)pp.467-499を読んでおく 事後学習(60分):配布資料と教科書で復習する				鈴木 智高
9	運動の概念と表現	速度と加速度、並進運動と回転運動、角速度と角加速度 事前学習(30分):教科書1)pp.7-38を読んでおく 事後学習(60分):配布資料と教科書で復習する				櫻井 好美
10	力の概念・運動と力	力の合成と分解 事前学習(30分):教科書1)pp.7-38を読んでおく 事後学習(60分):配布資料と教科書で復習する				櫻井 好美
11	回転運動	身体とてこ、関節運動とてこ モーメント 事前学習(30分):教科書1)pp.7-38を読んでおく 事後学習(60分):配布資料と教科書で復習する				櫻井 好美
12	姿勢	姿勢の種類と名称、姿勢の分析、重心と床反力作用点 事前学習(30分):教科書1)pp.183-205を読んでおく 事後学習(60分):配布資料と教科書で復習する				櫻井 好美

13	歩行の基本的事項	歩行周期と時間距離因子 事前学習(30分):教科書1)pp.208-229を読んでおく 事後学習(60分):配布資料と教科書で復習する	櫻井 好美
14	歩行のキネマティクス	歩行中の関節運動と筋活動 事前学習(30分):教科書1)pp.208-229を読んでおく 事後学習(60分):配布資料と教科書で復習する	櫻井 好美
15	運動の発達	運動発達の指標 事前学習(30分):教科書1)pp.3-6を読んでおく 事後学習(60分):配布資料と教科書で復習する	櫻井 好美

評価	小テスト20% 定期試験80%
課題に対するフィードバックの方法	小テストは原則として実施後1週間以内に返却する 定期試験については、終了後に講評ならびに模範解答の説明会を行う
教科書	基礎運動学第6版補訂/中村隆一/医歯薬出版/2003年/ISBN:978-4263211533 標準理学療法学・作業療法学専門基礎「運動学」/伊東 元/2012年/ISBN-:978-4260000208
参考図書など	筋骨格系のキネシオロジー/Donald A.Neumann/医歯薬出版/2012年/ISBN:978-4-263-21395-7
アクティブ・ラーニング	第12回、13回、15回では学生同士で観察演習を行う
実務経験のある教員による授業	講師は理学療法士としての臨床経験を活かして、理学療法実践の基礎となる神経生理学、力学について講義する
留意事項	簡単な実技を行うことがあるのでスカートでの受講は不可とします

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
運動機能学 Kinesiology	必修	講義	1単位 (30時間)	2年前期	櫻井 好美、下田 栄次、中村 壽志	○
ナンバリングコード	HPTC1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門基礎科目	DP1) 看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2) 科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。					
人体の構造と機能および心身の発達						

授業概要	身体を構成する各関節について、関節運動のメカニズムを具体的に学習する。正常な基本動作のメカニズムと動作特性について学習する。講義の内容は関節運動の基礎、股関節、膝関節、足関節、脊椎、肩関節、肘関節の運動法則と運動のメカニズムについてである。本講義は臨床運動学・運動器系理学療法学、義肢装具学Ⅰ・Ⅱ等の理学療法専門分野の学習の基礎となる。					
到達目標	1) 正常な関節運動における運動の法則を説明できる 2) 関節構成体、筋の役割について説明できる					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）				担当教員
1	関節運動学概論	関節運動学の基礎 事前学習(30分): 1年次基礎運動学の資料で復習しておく 事後学習(60分): 配布資料と教科書で復習する				櫻井 好美
2	肩関節・肩甲帯の構造	肩関節・肩甲帯の運動法則、構造について 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分): 配布資料と教科書で復習する				下田 栄次
3	肩関節・肩甲帯の運動メカニズム	肩関節・肩甲帯の運動のメカニズムについて 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分): 配布資料と教科書で復習する				下田 栄次
4	肘関節・前腕の構造	肘関節・前腕の運動法則、構造について 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分): 配布資料と教科書で復習する				櫻井 好美
5	肘関節・前腕の運動メカニズム	肘関節・前腕の運動のメカニズムについて 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分): 配布資料と教科書で復習する				櫻井 好美
6	手関節・手の運動	手関節・手の運動法則、構造について 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分): 配布資料と教科書で復習する				櫻井 好美
7	脊柱の運動の構造	脊柱の運動法則、構造について 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分): 配布資料と教科書で復習する				櫻井 好美
8	脊柱の運動メカニズム	脊柱の運動のメカニズムについて 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分): 配布資料と教科書で復習する				櫻井 好美
9	股関節の運動の構造	股関節の運動法則、構造について 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分): 配布資料と教科書で復習する				櫻井 好美
10	股関節の運動メカニズム	股関節の運動のメカニズムについて 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分): 配布資料と教科書で復習する				櫻井 好美
11	膝関節の運動の構造	膝関節の運動法則、構造について 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分): 配布資料と教科書で復習する				櫻井 好美
12	膝関節の運動メカニズム	膝関節の運動のメカニズムについて 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分): 配布資料と教科書で復習する				櫻井 好美

13	足関節・足部の運動の構造	足関節・足部の運動法則、構造について 事前学習(30分): 足部を構成する骨と足関節の運動に関与する筋の名称を確認する 事後学習(60分): 足部の骨の構造的特徴と運動方向について復習する	中村 壽志
14	足関節・足部の運動メカニズム	足関節・足部の運動のメカニズムについて 事前学習(30分): 距腿関節と距骨下関節の運動と三面複合運動について確認する 事後学習(60分): 歩行などの動作の際の足関節の機能的な特徴について復習する	中村 壽志
15	咀嚼運動	咀嚼運動における筋と関節の相互作用 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分): 配布資料と教科書で復習する	櫻井 好美

評価	小テスト20% 定期試験80%
課題に対する フィードバックの方法	小テストは原則として実施後1週間以内に返却する 定期試験については、終了後に講評ならびに模範解答の説明会を行う
教科書	1) 筋骨格系のキネシオロジー 原書第3版/Donald A. Neumann/医歯薬出版/2018年/ISBN: 978-4263265819 2) 基礎運動学 第6版/中村隆一・斉藤宏/医歯薬出版/2015年/ISBN: 978-4263211533
参考図書など	カバンディー関節の生理学 I～III、I. A. Kapandji 著、医歯薬出版/ISBN: 978-4263211830、978-4263211816、978-4263211830 図解 関節・運動器の機能解剖「上肢・脊柱編」「下肢編」Castaing J et al 著(協同医書)/ISBN: 978-4763910066、978-4763910059、 身体運動学 関節の制御機構と筋機能、市橋則明編、メジカルビュー社/ISBN: 978-4758317122
アクティブ・ラーニング	各講義中に骨運動の確認、個体差の確認、評価の視点の確認を行う
実務経験のある 教員による授業	講師は、理学療法士としての臨床経験をもとに理学療法実践の基礎となる関節運動のメカニズムを解説する
留意事項	単元の部位を触察できる服装(Tシャツ・スパッツ等)で受講すること。スカートでの受講は認めない

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
運動学演習 Laboratory in Kinesiology	必修	演習	1単位 (30時間)	2年後期	斉藤 琴子、大村優慈、中村 壽志	○
ナンバリングコード	HPTC2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門基礎科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。					
人体の構造と機能および心身の発達						
授業概要	基礎運動学・運動機能学で学んだ身体運動のメカニズムについて、筋電計、筋力測定装置、重心動揺計を用いた実習を通じてさらに理解を深める。また、臨床における運動学的評価の手法と解釈の仕方について基礎的知識を学習する。グループに分かれて各課題について計測を行い、計測結果と得られた情報からわかった事をレポートにまとめる。					
到達目標	運動学演習を通じて、身体運動を客観的に把握し解析方法を理解し習得する。 1)等速性筋力測定装置の計測、筋電図計測、重心動揺計測の原理と方法を理解する。 2)実際の身体運動を運動学の知識を基に、観察、計測、分析ができる。 3)分析結果を論理的に考察し、記述および説明ができる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）				担当教員
1	オリエンテーション、レポートの書き方、神経筋機能概論	オリエンテーション(レポートの書き方および演習方法)、神経筋機能概論を学ぶ。教科書pp72-87(生体の構造と機能、骨格筋～筋肥大と筋萎縮)、pp134～137(生体の構造と機能、運動の中枢神経機構) pp297～305(運動と動作の分析)参照。 事前学習(20分):解剖学、生理学、運動学、統計学、運動療法学概論、生理学実習、解剖学実習を復習しておく。 事後学習(60分):授業で学んだ内容を理解し、計測準備のイメージを持ち、まとめておく。				斉藤 琴子
2	筋力測定概論	筋力測定概論を学ぶ。教科書pp.28-33(円運動、筋力と重力、剛体と回転運動、モーメント)、pp.42,43(力の作用する角度)、pp.84-89(筋張力と筋長および荷重と短縮速度、筋収縮の様態、筋肥大と筋萎縮)参照。 事前学習(20分):解剖学、生理学、運動学、統計学、運動療法学概論、生理学実習、解剖学実習を復習しておく。 事後学習(60分):授業で学んだ内容を理解し、計測準備のイメージを持ち、まとめておく。				大村 優慈
3	姿勢・運動機能概論	姿勢・運動機能概論を学ぶ。教科書のpp347～376(姿勢)を参照。 事前学習(20分):解剖学、生理学、運動学、統計学、運動療法学概論、生理学実習、解剖学実習を復習しておく。 事後学習(60分):授業で学んだ内容を理解し、計測準備のイメージを持ち、まとめておく。				中村 壽志
4	実習1-1: 筋電計、筋力測定装置、重心動揺計の計測準備	実習1-1: 筋電計、筋力測定装置、重心動揺計のグループに分かれて、それぞれの課題の元で計測準備を行う。 事前学習(20分):講義1～3回で配布されたレジュメ、資料などの内容について復習しておく。 事後学習(60分):与えられた課題について、各グループで十分なディスカッションを行う。				斉藤 琴子 大村 優慈 中村 壽志
5	実習1-2: 筋電計、筋力測定装置、重心動揺計の計測	実習1-2: 筋電計、筋力測定装置、重心動揺計のグループに分かれて、それぞれの課題の元で計測を行う。 事前学習(20分):与えられた課題の手順や役割分担について、各グループで話し合っておく。 事後学習(60分):与えられた課題について、各グループで十分なディスカッションを行う。				斉藤 琴子 大村 優慈 中村 壽志
6	実習1-3: 筋電計、筋力測定装置、重心動揺計の計測、解析準備	実習1-3: 実習1-2に引き続き、筋電計、筋力測定装置、重心動揺計のグループに分かれて、それぞれの課題の元で計測、解析準備を行う。 事前学習(20分):与えられた課題の手順や役割分担について確認しておく。 事後学習(60分):与えられた課題について、各グループで十分なディスカッションを行う。				斉藤 琴子 大村 優慈 中村 壽志
7	実習1-4: 筋電計、筋力測定装置、重心動揺計の計測後の解析	実習1-4: 計測後のデータ解析・統計解析を行い、レポート作成の準備を行う。 事前学習(20分):引用文献、参考文献を調べる。配布されたレジュメや資料を読み直しておく。 事後学習(60分):与えられた課題について、各グループで十分なディスカッションを行う。授業で測定した内容を理解し、各自まとめる。				斉藤 琴子 大村 優慈 中村 壽志
8	実習2-1: 筋力測定装置、重心動揺計、筋電計の計測準備	実習2-1: 筋力測定装置、重心動揺計、筋電計のグループに分かれて、それぞれの課題の元で計測準備を行う。 事前学習(20分):講義1～3回で配布されたレジュメ、資料などの内容について復習しておく。 事後学習(60分):与えられた課題について、各グループで十分なディスカッションを行う。				斉藤 琴子 大村 優慈 中村 壽志
9	実習2-2: 筋力測定装置、重心動揺計、筋電計の計測	実習2-2: 筋力測定装置、重心動揺計、筋電計のグループに分かれて、それぞれの課題の元で計測を行う。 事前学習(20分):与えられた課題の手順や役割分担について、各グループで話し合っておく。 事後学習(60分):与えられた課題の結果について、各グループで十分なディスカッションを行う。				斉藤 琴子 大村 優慈 中村 壽志
10	実習2-3: 筋力測定装置、重心動揺計、筋電計の計測、解析準備	実習2-3: 実習2-2に引き続き、筋力測定装置、重心動揺計、筋電計のグループに分かれて、それぞれの課題の元で計測、解析準備を行う。 事前学習(20分):与えられた課題の手順や役割分担について確認しておく。 事後学習(60分):与えられた課題の結果について、各グループで十分なディスカッションを行う。				斉藤 琴子 大村 優慈 中村 壽志
11	実習2-4: 筋力測定装置、重心動揺計、筋電計の計測後の解析	実習2-4: 計測後のデータ解析・統計解析を行い、レポート作成の準備を行う。 事前学習(20分):引用文献、参考文献を調べる。資料を読み直しておく。 事後学習(60分):与えられた課題について、各グループで十分なディスカッションを行う。授業で測定した内容を理解し、各自まとめる。				斉藤 琴子 大村 優慈 中村 壽志

12	実習3-1: 重心動揺計、筋電計、筋力測定装置の計測準備	実習3-1: 重心動揺計、筋電計、筋力測定装置のグループに分かれて、それぞれの課題の元で計測準備を行う。 事前学習(20分): 講義1~3回で配布されたレジュメ、資料、内容などについて復習しておく。 事後学習(60分): 与えられた課題について、各グループで十分なディスカッションを行う。	齊藤 琴子 大村 優慈 中村 壽志
13	実習3-2: 重心動揺計、筋電計、筋力測定装置の計測	実習3-2: 重心動揺計、筋電計、筋力測定装置のグループに分かれて、それぞれの課題の元で計測を行う。 事前学習(20分): 与えられた課題の手順や役割分担について、各グループで話し合っておく。 事後学習(60分): 与えられた課題について、各グループで十分なディスカッションを行う。	齊藤 琴子 大村 優慈 中村 壽志
14	実習3-3: 重心動揺計、筋電計、筋力測定装置の計測、解析準備	実習3-3: 実習3-2に引き続き、重心動揺計、筋電計、筋力測定装置のグループに分かれて、それぞれの課題の元で計測、解析準備を行う。 事前学習(20分): 与えられた課題の手順や役割分担について確認しておく。 事後学習(60分): 与えられた課題の結果について、各グループで十分なディスカッションを行う。	齊藤 琴子 大村 優慈 中村 壽志
15	実習3-4: 重心動揺計、筋電計、筋力測定装置の計測後の解析	実習3-4: 計測後のデータ解析・統計解析を行い、レポート作成の準備を行う。 事前学習(20分): 引用文献、参考文献を調べる。資料を読み直しておく。 事後学習(60分): 与えられた課題について、各グループで十分なディスカッションを行う。授業で測定した内容を理解し、各自まとめる。	齊藤 琴子 大村 優慈 中村 壽志
評価	課題レポート75% 実習態度15%で評価します。小テスト10%で評価します。再試験は筆記試験のみとします。実習態度は、各演習への参加程度を評価します。各講義の課題レポートの評価は、レポート内容と提出期限の遵守を評価します。		
課題に対するフィードバックの方法	課題を添削し、Web上でフィードバックを行います。		
教科書	・基礎運動学第6版/中村隆一・齊藤宏/医歯薬出版/2015年/ISBN:978-4263211533		
参考図書など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法研究法/対馬栄輝/医歯薬出版/2020/ISBN:978-4563267356</li> <li>・初めての研究法/第2版/九州神陵文庫/2011/ISBN:978-4915814303</li> <li>・運動学実習(15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト)/石川 朗(編集)、種村留美(編集)、小島 悟(編集)、小林麻衣(編集)/中山書店/2016/ISBN:978-4521736662</li> <li>・リハビリテーション統計学(15レクチャーシリーズ リハビリテーションテキスト/対馬栄輝(編集)、木村雅彦(編集)、石川 朗(編集)、種村留美(編集)/中山書店/2014年/ISBN:978-4521736679</li> <li>・臨床にいかす表面筋電図 [Web動画付]セラピストのための動作分析手法/勝平 純司、田中 惣治、井川 達也、中谷 知生、加藤 浩(監修)、山本 澄子(監修)/2020/ISBN:978-4260042567</li> <li>・医療系学生のための生理学実習書(電子版/PDF)/齊藤琴子、實木-高橋葵、實木亨、須鎌康介/丸善雄松堂/2020/ISBN:978-4841940312</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング	【グループワーク 学生を少人数のグループに分け、課題に協同で取り組み、十分なディスカッションを重ねる。】		
実務経験のある教員による授業	理学療法士として病院に勤務していた教員が、筋電計、筋力測定装置、重心動揺計の知識や計測方法などについて講義・実習を行います。		
留意事項	筋力計測装置、筋電計、重心動揺計を用いた演習をグループに分かれて行います。本科目実施にあたっての予習内容としては、筋力発揮や筋収縮、バランス能力を可視化し、機器の操作や計測値の処理を行います。そのため、1・2年生の科目(解剖学・生理学・基礎運動学・統計学・運動療法学概論・生理学実習)の復習をしておいて下さい。		

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
人間発達学 Human Development	必修	講義	1単位 (30時間)	1年後期	黒住 享弘	○
ナンバリングコード	HPTC1/HOTC1	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門基礎科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。					
人体の構造と機能および心身の発達						

授業概要	人間発達学は、人間の発達を身体・精神の両面から学ぶ科目である。本講義では主要な発達の法則と理論を紹介し、新生児から成人にいたるライフステージごとの精神的発達と身体運動機能の発達について概説する。一連の講義を通じて、胎生期から老年期までの発達について、身体発育、運動発達、認知発達、言語発達、情緒・社会性の発達などの各発達領域における発達過程と、それぞれの発達時期における発達課題等を学習する。					
到達目標	人間の発達について理解し、さまざまな身体的・精神的変化の全体像を理解する。乳幼児から高齢者まで幅広い対象者に対して、人間発達の視点から理解しかわることができるようになる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）				担当教員
1	生涯発達 概念	発達心理学の成立およびその過去について 事前学習(15分):教科書および参考図書の該当箇所に目を通す 事後学習(30分):配布資料、および教科書、参考図書の読み直し				黒住 享弘
2	胎生期	胎生期(前胚芽期～胚芽期～胎児期)の発達について プラス動画 事前学習(15分):教科書および参考図書の該当箇所に目を通す 事後学習(30分):配布資料、および教科書、参考図書の読み直し				黒住 享弘
3	胎生期	胎生期(前胚芽期～胚芽期～胎児期)の発達について 身体機能に関して 事前学習(15分):教科書および参考図書の該当箇所に目を通す 事後学習(30分):配布資料、および教科書、参考図書の読み直し				黒住 享弘
4	乳児期	乳児期の身体機能の発達 事前学習(15分):教科書および参考図書の該当箇所に目を通す 事後学習(30分):配布資料、および教科書、参考図書の読み直し				黒住 享弘
5	乳児期	乳児期の感情面、コミュニケーション面の発達 アタッチメント 事前学習(15分):教科書および参考図書の該当箇所に目を通す 事後学習(30分):配布資料、および教科書、参考図書の読み直し				黒住 享弘
6	幼児期	幼児期の運動、認知、社会性の発達 心の理論 事前学習(15分):教科書および参考図書の該当箇所に目を通す 事後学習(30分):配布資料、および教科書、参考図書の読み直し				黒住 享弘
7	幼児期	幼児期の心理的側面の発達 エリクソン発達課題 事前学習(15分):教科書および参考図書の該当箇所に目を通す 事後学習(30分):配布資料、および教科書、参考図書の読み直し				黒住 享弘
8	児童期	児童期の身体面、思考面、学習面、道徳面、社会性の発達 事前学習(15分):教科書および参考図書の該当箇所に目を通す 事後学習(30分):配布資料、および教科書、参考図書の読み直し				黒住 享弘
9	青年期	青年期の発達 エゴグラムを通じて自分を知る 事前学習(15分):教科書および参考図書の該当箇所に目を通す 事後学習(30分):配布資料、および教科書、参考図書の読み直し				黒住 享弘
10	青年期	青年期の発達 アイデンティティステイタス他 事前学習(15分):教科書および参考図書の該当箇所に目を通す 事後学習(30分):配布資料、および教科書、参考図書の読み直し				黒住 享弘
11	成人期	成人前期の発達の諸側面 キャリア形成、結婚 事前学習(15分):教科書および参考図書の該当箇所に目を通す 事後学習(30分):配布資料、および教科書、参考図書の読み直し				黒住 享弘
12	成人期	成人後期 子育て 介護 事前学習(15分):教科書および参考図書の該当箇所に目を通す 事後学習(30分):配布資料、および教科書、参考図書の読み直し				黒住 享弘

13	老年期	身体的変化 フレイルティ サルコペニア 事前学習(15分):教科書および参考図書の該当箇所に目を通す 事後学習(30分):配布資料、および教科書、参考図書の読み直し	黒住 享弘
14	老年期	心理面の変化 死をどう受け入れるか？ 事前学習(15分):教科書および参考図書の該当箇所に目を通す 事後学習(30分):配布資料、および教科書、参考図書の読み直し	黒住 享弘
15	振り返り	人間発達学 振り返り 事前学習(30分):教科書および参考図書の該当箇所に目を通す 事後学習(30分):テストに向けた復習	黒住 享弘

評価	筆記試験100%
課題に対する フィードバックの方法	実施予定なし。
教科書	(標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野) 人間発達学 第2版 奈良 勲・鎌倉 矩子 医学書院 ISBN:978-4-260-03264-3 他に随時紹介する。
参考図書など	こころの行動と発達・臨床心理. 軽部幸浩(編). 福村出版, 東京. 2023. ISBN:978-4571230677
アクティブ・ラーニング	机上にて個人的に行えるごく簡単な体験学習を行う。
実務経験のある 教員による授業	臨床心理士の資格を有し、臨床経験から実践的な授業を行う。
留意事項	適宜提示する。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
運動生理学 Exercise Physiology	必修	講義	1単位 (15時間)	1年後期	森尾 裕志	○
ナンバリングコード	HPTC2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門基礎科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。					
人体の構造と機能および心身の発達						

授業概要	運動に伴う身体の機能、構造の変化、呼吸、循環器系が運動により、どのような一過性の変化を示すか、および長期的な運動に適応する能力について学ぶ。理学療法士が臨床現場において検査、トレーニングを実施した際のバイタルサインの意味を理解し、患者に説明できる能力を身につける。本講義は、呼吸・循環系理学療法学、代謝系理学療法学、老年器理学療法学等の基礎となる科目である。
------	---

到達目標	運動に伴う身体の機能、構造の変化、呼吸、循環器系が運動により、どのような一過性の変化を示すか、および長期的な運動に適応する能力について学ぶ。理学療法士が臨床現場において検査、トレーニングを実施した際のバイタルサインの意味を理解し、患者に説明できる能力を身につける。本講義は、呼吸・循環系理学療法学、老年器理学療法学等の基礎となる科目である。1)運動時における呼吸・循環機能の変化、2)運動トレーニングの原理・原則、基本的な運動処方、3)健康を維持・増進するためには、どのような運動が必要か、4)加齢に伴う体力の変化とその特徴、についてそれぞれ理解できることを到達目標とする。
------	---

回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）	担当教員
1	体力の概念	体力の概念を理解することを主題とし、心肺運動負荷試験の結果をもとに、最高酸素摂取量の構成要素について教授する(教科書第12章) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分):配付資料など、授業全体について復習する。	森尾 裕志
2	運動処方	運動処方の基本コンポーネントと、筋収縮や身体のエネルギー供給系について教授する(教科書第1章) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分):配付資料など、授業全体について復習する。	森尾 裕志
3	運動と呼吸	運動に伴う呼吸機能の変化について教授する(教科書第6章) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分):配付資料など、授業全体について復習する。	森尾 裕志
4	運動と循環	運動に伴う循環機能の変化について教授する(教科書第5章) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分):配付資料など、授業全体について復習する。	森尾 裕志
5	運動と体温調節	運動と体温調節、身体組成と肥満について教授する(教科書第9章) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分):配付資料など、授業全体について復習する。	森尾 裕志
6	運動と生活習慣病	生活習慣病に対する運動の関わりについて教授する(教科書第11章、第13章) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分):配付資料など、授業全体について復習する。	森尾 裕志
7	加齢に伴う身体機能の変化	加齢に伴う身体機能の変化について教授する(教科書第14章) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分):配付資料など、授業全体について復習する。	森尾 裕志
8	運動とサルコペニア	サルコペニアの概念、および運動との関わりについて教授する(教科書第14章) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分):配付資料など、授業全体について復習する。	森尾 裕志

評価	定期試験 65%、小テスト 35%
課題に対する フィードバックの方法	毎回の授業中での対応と、随時E-mailでの対応を行う。小テストは原則、実施後1週間以内に返却する。
教科書	入門運動生理学/勝田茂/杏林書院/第4版/ISBN:978-4764411593
参考図書など	リハビリテーション運動生理学/玉木彰/メジカルビュー/ISBN:978-4758317191
アクティブ・ラーニング	授業時にはその場で考えて頂き、一部発表を課す。積極的な参加を期待する
実務経験のある 教員による授業	内部障害専門理学療法士の資格を有し、18年間の臨床経験から、運動生理学について実践的な授業を行う
留意事項	講義中、毎回発言を求める。必ず、事前学習を行って授業に臨んでいただきたい。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
リハビリテーション栄養学 Nutrition	必修	講義	1単位 (30時間)	2年前期	福岡 梨紗	○
ナンバリングコード	HPTC1/HOTC1		オフィスアワー			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門基礎科目	DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。					
疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進						

授業概要	低栄養や脳卒中等の主な病態の栄養療法の基礎を学習し、リハビリテーションにおける栄養管理の基礎知識を習得する。また、五大栄養素の働きや、ライフステージに応じた栄養学を学び、栄養学からみた健康維持および健康増進、疾病予防について学習する。					
到達目標	1) 傷病者や要介護者の栄養管理とリハビリテーションを関連づけて述べる。 2) 生命維持に必要な五大栄養素の代謝を理解する。 3) 健康の保持・増進や疾病の予防に栄養・食事がどのように関わっているか理解する。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）				担当教員
1	リハビリテーションと栄養学	ガイダンス、リハビリテーションの専門職が栄養学を学ぶ必要性・多職種連携 事前学習(15分):リハ専門職が栄養学を学ぶこと、多職種連携の必要性を考えてくる 事後学習(15分):授業内容を復習する				福岡 梨紗
2	栄養素の種類と働き①	タンパク質・脂質の働き・消化・吸収・代謝 事前学習(15分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読み、不明なところは調べる 事後学習(15分):授業内容を復習する				福岡 梨紗
3	栄養素の種類と働き②	炭水化物の働き、働き・消化・吸収・代謝、異化と同化 事前学習(15分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読み、不明なところは調べる 事後学習(15分):授業内容を復習する				福岡 梨紗
4	栄養素の種類と働き③	ビタミン・ミネラル・水の働き・消化・吸収・代謝 事前学習(15分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読み、不明なところは調べる 事後学習(15分):授業内容を復習する				福岡 梨紗
5	ライフステージと栄養①	妊娠期・授乳期、発育期、思春期、青年期、成人期 事前学習(15分):妊娠期・授乳期、発育期、思春期、青年期、成人期の生理的特徴を調べる 事後学習(15分):授業内容を復習する				福岡 梨紗
6	ライフステージと栄養②	高齢期 事前学習(15分):高齢期の生理的特徴を調べる 事後学習(15分):授業内容を復習する				福岡 梨紗
7	エネルギー代謝	エネルギー消費量、運動と栄養 事前学習(15分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読み、不明なところは調べる 事後学習(15分):授業内容を復習する				福岡 梨紗
8	疾患と栄養	侵襲時・悪液質の栄養療法 事前学習(15分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読み、不明なところは調べる 事後学習(15分):授業内容を復習する				福岡 梨紗
9	栄養評価	栄養スクリーニング、臨床検査値 事前学習(15分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読み、不明なところは調べる 事後学習(15分):授業内容を復習する				福岡 梨紗
10	栄養補給法	経腸栄養法、静脈栄養法 事前学習(15分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読み、不明なところは調べる 事後学習(15分):授業内容を復習する				福岡 梨紗
11	主な病態の栄養療法①	低栄養、サルコペニア・フレイルの栄養療法と実際 事前学習(15分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読み、不明なところは調べる 事後学習(15分):授業内容を復習する				福岡 梨紗
12	主な病態の栄養療法②	糖尿病、慢性腎臓病の栄養療法と実際 事前学習(15分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読み、不明なところは調べる 事後学習(15分):授業内容を復習する				福岡 梨紗

13	主な病態の栄養療法③	脳卒中、摂食嚥下の栄養療法と実際 事前学習(15分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読み、不明なところは調べる 事後学習(15分): 授業内容を復習する	福岡 梨紗
14	主な病態の栄養療法④	COPD、要介護者の栄養・食事ケアの実際 事前学習(15分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読み、不明なところは調べる 事後学習(15分): 授業内容を復習する	福岡 梨紗
15	主な病態の栄養療法⑤	脊髄損傷、神経・筋疾患の栄養療法 事前学習(15分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読み、不明なところは調べる 事後学習(15分): 授業内容を復習する	福岡 梨紗

評価	定期試験50%(基本的な知識の獲得状態と、自分の考えをまとめ、表現する力をみる) 与えられたテーマに関する小レポートなどの作成と発表50%
課題に対する フィードバックの方法	フィードバックは授業中または返却時に実施する
教科書	Crosslink basic リハビリテーションテキスト 栄養学・生化学/吉村芳弘/メジカルビュー社/ISBN:978-4-7583-2090-0
参考図書など	日本人の食事摂取基準2020年版 第一出版 ISBN:9784804114088 楽しくわかる栄養学 羊土社 ISBN:978-4-7581-0899-7
アクティブ・ラーニング	事前学習の内容を踏まえ、講義のテーマ等についてグループワークやディスカッションを実施し、代表者による発表を行う
実務経験のある 教員による授業	管理栄養士の資格を有し、病院、在宅での栄養ケアの経験から、栄養学について実践的な授業を行う
留意事項	講義形式の授業だけでなく、グループワークやグループ発表を行います。主体的に参加してください

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
臨床薬理学 Clinical pharmacology	必修	講義	1単位 (30時間)	2年後期	加藤 裕久	○
ナンバリングコード	HPTC1/HOTD1		オフィスアワー 本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門基礎科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進						
授業概要	医薬品の基本的な情報を正確に理解するための基礎知識として、薬物の生体内での吸収・分布・代謝・排泄の流れ、薬物の生体内での主作用と副作用、薬物間の相互作用、薬物と食物の相互作用について学ぶ。また、薬物使用時のリスクマネジメントについて学ぶ。					
到達目標	薬が人体に対してどのように作用するか、薬が人体内でどのような挙動をするかなどを理解できる。人体における薬物の効果に関する科学的根拠(有効性と安全性、作用機序、薬物の体内動態、有効性の評価・臨床的応用面など)を理解できる。薬物治療を患者ケアの視点から、薬の応用範囲、効果、正しい使用法や投与方法などを理解し、適正な薬物の管理や取り扱い方法を理解できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)				担当教員
1	総論(1)薬理学を学ぶにあたって	薬理学とはなにか、薬物療法の目的、薬理作用と作用機序、薬物動態、副作用と有害作用、薬物相互作用、薬物療法に影響を与える因子、新薬の開発 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):板書内容等を中心に授業全般について復習をする。				加藤 裕久
2	総論(2)医薬品の管理	小児、妊婦、高齢者の薬物療法、【医薬品の管理】医薬品と法規、医薬品の安全な使用と管理、処方箋と調剤、医薬品添付文書 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):板書内容等を中心に授業全般について復習をする。				加藤 裕久
3	末梢神経作用薬	自律神経作用薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):板書内容等を中心に授業全般について復習をする。				加藤 裕久
4	中枢神経作用薬	麻酔、疼痛、不眠症、神経症、気分障害、統合失調症、てんかん、パーキンソン病、認知症、アルツハイマー病、その他 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):板書内容等を中心に授業全般について復習をする。				加藤 裕久
5	心臓・血管作用薬(1)	【抗高血圧薬】、【心臓作用薬】心不全、狭心症、不整脈、脂質異常症 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):板書内容等を中心に授業全般について復習をする。				加藤 裕久
6	心臓・血管作用薬(2)	【輸液・腎臓作用薬】、【血液、造血器系作用薬】貧血、出血性と血栓性疾患 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):板書内容等を中心に授業全般について復習をする。				加藤 裕久
7	抗炎症薬	【抗炎症薬】【免疫関連薬】、関節リウマチ、痛風 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):板書内容等を中心に授業全般について復習をする。				加藤 裕久
8	呼吸器系作用薬	気管支喘息、呼吸器感染症等による激しい咳、痰、慢性呼吸不全、睡眠時無呼吸症候群、びまん性汎細気管支炎 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):板書内容等を中心に授業全般について復習をする。				加藤 裕久
9	消化器系作用薬	胃炎、胃・十二指腸潰瘍、食欲不振、消化不良、嘔吐、便秘、下痢 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):板書内容等を中心に授業全般について復習をする。				加藤 裕久
10	ホルモン系作用薬	【ホルモン系作用薬】糖尿病、甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、骨粗鬆症 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):板書内容等を中心に授業全般について復習をする。				加藤 裕久
11	生殖器系作用薬	【生殖器系作用薬】前立腺肥大症、陣痛誘発、不妊症、受胎調節 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):板書内容等を中心に授業全般について復習をする。				加藤 裕久
12	抗感染症薬	【感染症治療薬】感染症とは、治療方針、【抗感染症薬】各種抗生物質、抗真菌薬、抗ウイルス薬、抗結核薬、【抗寄生虫薬・抗原虫薬】、【消毒薬】 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):板書内容等を中心に授業全般について復習をする。				加藤 裕久

13	抗悪性腫瘍薬	【抗腫瘍薬】アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗生物質、トポイソメラーゼ阻害薬、白金製剤、ビンカアルカロイド、タキソイド系、ホルモン薬、【分子標的薬】、【免疫療法薬】 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 板書内容等を中心に授業全般について復習をする。	加藤 裕久
14	救命・救急時に使用する薬	【ショック治療薬】【解毒薬】【麻酔薬】【筋弛緩薬】【輸液】【血液製剤】 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 板書内容等を中心に授業全般について復習をする。	加藤 裕久
15	漢方医療・総まとめ	【漢方医学】【漢方治療薬】【総まとめ】重要項目の再確認、補足事項のまとめ 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 板書内容等を中心に授業全般について復習をする。	加藤 裕久

評価	定期試験100%
課題に対するフィードバックの方法	特になし
教科書	わかりやすい薬理学 第4版 ニューヴェルヒロカワ ISBN:978-4861740770
参考図書など	適宜紹介する
アクティブ・ラーニング	予定なし
実務経験のある教員による授業	薬剤師の資格を有し病院薬剤師の経験から、臨床薬理学について実践的な講義を行う
留意事項	特になし

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
臨床心理学 Clinical Psychology	必修	講義	1単位 (30時間)	2年前期	黒住 享弘	○
ナンバリングコード	HPTC2/HOTD2		オフィスアワー			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門基礎科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。					
疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進						
授業概要	臨床心理学は、個人の行動障害や適応困難を心理学的知識と技法に基づいて測定・分析し、解決することを目的とする応用心理学の一分野である。本講義では障害理解の基礎として主要な人格理論を学修する。また人々の精神的健康の回復・保持・増進について学ぶことで、精神疾患や心身症、精神的問題・不適応行動などの病態、原因、診断法について理解する。さらにこれらの患者理解の手段としての心理検査や心理療法などの援助技法について学修する。					
到達目標	生涯発達の視点から人の成長過程(心身全般)について学ぶ。また、臨床心理学的な視点で人と関わるには、どのような配慮をして、どう関わるのかを知ることで、今後の対人援助に活かす基礎を学ぶ					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)				担当教員
1	臨床心理学概論	臨床心理学の歴史と現状 および人間の心理学的理解について 事前学習(20分):教科書上の該当箇所の通し読み 事後学習(20分):資料および上記箇所の振り返り				黒住 享弘
2	ライフサイクル1	生涯発達論について、乳幼児期～青年期 事前学習(20分):教科書上の該当箇所の通し読み 事後学習(20分):資料および上記箇所の振り返り				黒住 享弘
3	ライフサイクル2	成人期～老年期、発達課題と年代別の精神的な諸問題 事前学習(20分):教科書上の該当箇所の通し読み 事後学習(20分):資料および上記箇所の振り返り				黒住 享弘
4	臨床心理学と精神医学1	正常と異常、ストレスと心身の連関 事前学習(20分):教科書上の該当箇所の通し読み 事後学習(20分):資料および上記箇所の振り返り				黒住 享弘
5	臨床心理学と精神医学2	正常と異常、ストレスと心身の連関 事前学習(20分):教科書上の該当箇所の通し読み 事後学習(20分):資料および上記箇所の振り返り				黒住 享弘
6	パーソナリティ理論	パーソナリティの分類と障害 事前学習(20分):教科書上の該当箇所の通し読み 事後学習(20分):資料および上記箇所の振り返り				黒住 享弘
7	心理アセスメント	心理査定とは および心理査定のとおり方 事前学習(20分):教科書上の該当箇所の通し読み 事後学習(20分):資料および上記箇所の振り返り				黒住 享弘
8	心理検査1	知能検査 事前学習(20分):教科書上の該当箇所の通し読み 事後学習(20分):資料および上記箇所の振り返り				黒住 享弘
9	心理検査2	人格検査概論①(質問紙法) 事前学習(20分):教科書上の該当箇所の通し読み 事後学習(20分):資料および上記箇所の振り返り				黒住 享弘
10	心理検査3	人格検査概論②(投影法、描画法) 事前学習(20分):教科書上の該当箇所の通し読み 事後学習(20分):資料および上記箇所の振り返り				黒住 享弘
11	心理療法とは	心理療法の定義 および基本的態度 事前学習(20分):教科書上の該当箇所の通し読み 事後学習(20分):資料および上記箇所の振り返り				黒住 享弘
12	心理療法のプロセス および精神分析的な心理療法について	精神分析的な心理療法 事前学習(20分):教科書上の該当箇所の通し読み 事後学習(20分):資料および上記箇所の振り返り				黒住 享弘

13	心理療法の種類1	来談者中心療法 事前学習(20分):教科書上の該当箇所の通し読み 事後学習(20分):資料および上記箇所の振り返り	黒住 享弘
14	心理療法の種類2	その他の療法 および体験学習 事前学習(20分):教科書上の該当箇所の通し読み 事後学習(20分):資料および上記箇所の振り返り	黒住 享弘
15	臨床心理士の仕事	臨床心理士の職域 および他職種との共同 事前学習(20分):教科書上の該当箇所の通し読み 事後学習(20分):資料および上記箇所の振り返り	黒住 享弘

評価	授業態度(10%程度)およびテストの成績(90%程度)にて評価する。このため、欠席した授業があった場合には担当教員に相談すること。
課題に対するフィードバックの方法	実施予定なし。
教科書	こころの行動と発達・臨床心理。 軽部幸浩(編)。 福村出版, 東京。 2023。 ISBN:978-4571230677
参考図書など	「はじめての臨床心理学」 森谷寛之・竹松志乃 編著 出版社:北樹出版 ISBN:978-4893845504 随時紹介する。
アクティブ・ラーニング	机上にて個人的に行えるごく簡単な体験学習を行う。
実務経験のある教員による授業	臨床心理士の資格を有し、臨床経験から実践的な授業を行う。
留意事項	適宜提示する。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
病理学 Pathology	必修	講義	1単位 (30時間)	2年前期	代田 欣二	—
ナンバリングコード	HPTD2/HOTD2	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門基礎科目	DP1) 看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2) 科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP6) 卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進						
授業概要	病理学とは病気の原因、発生機序の解明や病気の診断を確定するのを目的とする、医学の一分野である。本講義では疾病において出現する形態と機能および代謝の異常について教授する。具体的には、退行性病変、循環障害、炎症、腫瘍、感染症、奇形といった基本病変の定義や病態について教授する。本講義を通じて、疾患の原因(病因)や機序(病態)を理解し、それらの形態学的変化(病理形態像)を知ること、リハビリテーション医学の基礎を身につける。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 病気の原因、疾病の分類を説明できる。</li> <li>2) 細胞組織の退行性及び進行性変化の病理を説明できる。</li> <li>3) おもな代謝障害の病理を説明することができる。</li> <li>4) 循環障害の病理を説明することができる。</li> <li>5) 免疫の概要と、おもな自己免疫疾患の病理を説明することができる。</li> <li>6) 炎症の定義とおもな感染症の病原体の病理を説明できる。</li> <li>7) 腫瘍の定義と分類を説明できる。</li> <li>8) 老化について病理学的見地から説明できる。</li> <li>9) おもな先天異常と遺伝子異常の病理を説明できる。</li> <li>10) 主な臓器(循環器、呼吸器、消化器、神経系・運動器、泌尿器・生殖器、内分泌、造血系、皮膚・感覚器)の疾患の病理について説明できる。</li> </ol>					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)				担当教員
1	総論第1章 病理学の概要 総論第2章 病因論	病理学の定義・病理学の分野(第1章)、病気の原因(第2章) 事前学習(20分):教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学習(40分):と講義資料で復習しておく				代田 欣二
2	総論第3章 退行性病変および進行性病変	細胞・組織の退行性病変、進行性病変 事前学習(20分):教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学習(40分):教科書と講義資料で復習しておく				代田 欣二
3	総論第4章 代謝障害	蛋白質・アミノ酸、核酸、脂質、糖質、無機物質、色素代謝異常 事前学習(20分):教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学習(40分):教科書と講義資料で復習しておく				代田 欣二
4	総論第5章 循環障害	体液循環機構、局所循環障害、全身循環障害 事前学習(20分):教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学習(40分):教科書と講義資料で復習しておく				代田 欣二
5	総論第6章 免疫	免疫の概念、免疫の成立、免疫反応による傷害・炎症、移植免疫 事前学習(20分):教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学習(40分):教科書と講義資料で復習しておく				代田 欣二
6	総論第7章 炎症、感染症	炎症の概要、感染症 事前学習(20分):教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学習(40分):教科書と講義資料で復習しておく				代田 欣二
7	総論第8章 腫瘍	腫瘍の定義・分類、形態、悪性腫瘍の進展形式、腫瘍発生の原因、発がんメカニズム 事前学習(20分):教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学習(40分):教科書と講義資料で復習しておく				代田 欣二
8	総論第9章 老化 総論第10章 先天異常・奇形	生理的老化・寿命、生理的老化、加齢と疾患、先天異常・奇形の概念、遺伝子異常と遺伝性疾患、染色体異常、奇形 事前学習(20分):教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学習(40分):教科書と講義資料で復習しておく				代田 欣二
9	各論第1章 循環器	主な循環器疾患 事前学習(20分):教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学習(40分):教科書と講義資料で復習しておく				代田 欣二
10	各論第2章 呼吸器	主な呼吸器疾患 事前学習(20分):教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学習(40分):教科書と講義資料で復習しておく				代田 欣二
11	各論第3章 消化器	主な消化器疾患 事前学習(20分):教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学習(40分):教科書と講義資料で復習しておく				代田 欣二

12	各論第4章 神経系	主な神経系疾患 事前学習(20分):教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学習(40分):教科書と講義資料で復習しておく	代田 欣二
13	各論第5章 運動器	主な運動器疾患 事前学習(20分):教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学習(40分):教科書と講義資料で復習しておく	代田 欣二
14	各論第6章 泌尿・生殖器 各論第7章 造血器	主な泌尿・生殖器および造血器疾患 事前学習(20分):教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学習(40分):教科書と講義資料で復習しておく	代田 欣二
15	各論第8章 内分泌臓器 各論第9章 皮膚、感覚器	主な内分泌臓器および皮膚、感覚器疾患 事前学習(20分):教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学習(40分):教科書と講義資料で復習しておく	代田 欣二

評価	定期試験:90%、平常点:10%
課題に対する フィードバックの方法	小テストを実施した際には、次の講義にて解説を行う。
教科書	横井豊治・村雲芳樹 編、標準理学療法学・作業療法学、専門基礎分野、病理学、第4版(医学書院) 2017年 ISBN:978-4260028714
参考図書など	深山正久 編、はじめの一步のイラスト病理学、第2版(羊土社) ISBN:978-4758120364
アクティブ・ラーニング	実施予定なし。
実務経験のある 教員による授業	該当なし。
留意事項	適宜提示する

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
内科学 I Internal Medicine I	必修	講義	1単位 (30時間)	2年前期	定本 清美、東館 雅文、浦 裕之	○
ナンバリングコード	HPTD2/HOTD2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門基礎科目	DP1) 看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2) 科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP5) 幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6) 卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進						
授業概要	内科学では、全身の疾患の概念、病態の成立機序について学ぶ。内科では主要兆候・症候、病態、呼吸器疾患、アレルギー、感染症、循環器疾患などの概念について学習する。					
到達目標	1) アレルギー疾患・感染症・膠原病・血管疾患・循環器の自然経過を説明できる。 2) アレルギー疾患・感染症・膠原病・血管疾患・循環器と具体的症状・身体徴候と検査所見を結び付けることができる。 3) アレルギー疾患・感染症・膠原病・血管疾患・循環器について主な治療法とその効果を教文で概説できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）			担当教員	
1	内科学	内科学とは、診療録について 事前学習(20分): 教科書の該当箇所を読んでおく 事後学習(30分): 配布資料と教科書で復習しておく			定本 清美	
2	診察の実際	診察方法、検査項目、薬物治療 事前学習(20分): 教科書の該当箇所を読んでおく 事後学習(30分): 配布資料と教科書で復習しておく			定本 清美	
3	症候学 I	身体所見とその見方① 事前学習(20分): 教科書の該当箇所を読んでおく 事後学習(30分): 配布資料と教科書で復習しておく			定本 清美	
4	症候学 II	身体所見とその見方② 事前学習(20分): 教科書の該当箇所を読んでおく 事後学習(30分): 配布資料と教科書で復習しておく			定本 清美	
5	アレルギー性疾患 I	アレルギーの分類と特徴 事前学習(20分): 教科書の該当箇所を読んでおく 事後学習(30分): 配布資料と教科書で復習しておく			定本 清美	
6	アレルギー性疾患 II	アレルギー性疾患、アレルギーマーチ 事前学習(20分): 教科書の該当箇所を読んでおく 事後学習(30分): 配布資料と教科書で復習しておく			定本 清美	
7	自己免疫疾患	主要な自己免疫疾患 事前学習(20分): 教科書の該当箇所を読んでおく 事後学習(30分): 配布資料と教科書で復習しておく			定本 清美	
8	感染症 I	標準予防策と感染経路別予防策 事前学習(20分): 教科書の該当箇所を読んでおく 事後学習(30分): 配布資料と教科書で復習しておく			浦 裕之	
9	感染症 II	病原体と感染経路、感染症の分類(細菌、ウイルス) 事前学習(20分): 教科書の該当箇所を読んでおく 事後学習(30分): 配布資料と教科書で復習しておく			浦 裕之	
10	症例検討	アレルギー、感染疾患の症例検討 事前学習(20分): 教科書の該当箇所を読んでおく 事後学習(30分): 配布資料と教科書で復習しておく			定本 清美	

11	循環器疾患I	循環器の構造、循環器疾患の症状・身体所見・検査 事前学習(20分):教科書の該当箇所を読んでおく 事後学習(30分):配布資料と教科書で復習しておく	東館 雅文
12	循環器疾患II	不整脈、虚血性心疾患、心不全、先天性心疾患 事前学習(20分):教科書の該当箇所を読んでおく 事後学習(30分):配布資料と教科書で復習しておく	東館 雅文
13	循環器疾患III	不整脈、虚血性心疾患、心不全、先天性心疾患 事前学習(20分):教科書の該当箇所を読んでおく 事後学習(30分):配布資料と教科書で復習しておく	東館 雅文
14	循環器疾患症例検討	循環器疾患の症例提示と検討 事前学習(20分):教科書の該当箇所を読んでおく 事後学習(30分):配布資料と教科書で復習しておく	東館 雅文
15	内科学総括I	内科疾患の診察、アレルギー疾患、感染症、循環器疾患 事前学習(20分):教科書の該当箇所を読んでおく 事後学習(30分):配布資料と教科書で復習しておく	定本 清美

評価	授業中の小テスト20%、定期テスト80%
課題に対するフィードバックの方法	小テストを実施し、終了後に模範解答を解説する。
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第4版、奈良 勲 著、医学書院、2020年、ISBN:978-4260042901
参考図書など	プリンシパル ファーマコセラピー (ISBN:978-4904634165)、病気がみえる vol.2 循環器 (ISBN:978-4-89632-830-1)、病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症 (ISBN:978-4-89632-720-5)、その他
アクティブ・ラーニング	症例検討において、課題を与えて行う
実務経験のある教員による授業	[定本 清美] 内科医師として、アレルギー、リウマチ、感染症に関する臨床経験をもとに、実務に活かせる講義を行います。 [浦 裕之] ICT(感染対策チーム)担当薬剤師としての経験を活かし、感染症の講義を行う。 [東館 雅文] 担当者は心臓血管外科、循環器内科、循環器小児科の経験をもとに、臨床に役立つ講義を行います。
留意事項	適宜提示する

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
内科学Ⅱ Internal Medicine Ⅱ	必修	講義	1単位 (30時間)	2年後期	織本 健司、中山 祐次郎、辻 正富、 坂本 芳雄、大川 伸一	○
ナンバリングコード	HPTD2/HOTD2	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門基礎科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。					
疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進						
授業概要	内科学では、全身の疾患の概念、病態の成立機序について学ぶ。内科学Ⅱでは、血液疾患、悪性腫瘍、膠原病、消化器疾患、代謝・内分泌疾患、糖尿病、などについて学ぶ。					
到達目標	血液疾患、悪性腫瘍、消化器疾患、代謝・内分泌疾患、糖尿病、呼吸器疾患について 1) 自然経過を説明できる。 2) 具体的症状・身体徴候と検査所見を結び付けることができる。 3) 主な治療法とその効果を数文で概説できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）				担当教員
1	血液疾患Ⅰ	血液疾患；造血障害（貧血；造血期悪性腫瘍など） 事前学習（20分）：教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学習（40分）：配布資料と教科書で復習しておく。				織本 健司
2	血液疾患Ⅱ	血液疾患；血栓・止血血疾患（出血傾向・血栓症；血小板減少症など） 事前学習（20分）：教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学習（40分）：配布資料と教科書で復習しておく。				織本 健司
3	血液疾患症例検討	血液疾患の症例提示と検討、リハビリテーションとの関連、国家試験対策演習 事前学習（20分）：教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学習（40分）：配布資料と教科書で復習しておく。				織本 健司
4	消化器疾患Ⅰ	消化器疾患；胃・十二指腸潰瘍、潰瘍性大腸炎など 事前学習：不要 事後学習（10分）：配布資料で復習しておく。				中山 祐次郎
5	消化器疾患Ⅱ	消化器疾患；肝臓、胆道疾患、膵臓疾患 事前学習：不要 事後学習（10分）：配布資料で復習しておく。				中山 祐次郎
6	消化器疾患症例検討	消化器疾患の症例提示と検討 事前学習：不要 事後学習（120分）：配布資料で復習しておく。				中山 祐次郎
7	腎疾患	腎疾患；腎炎、ネフローゼ症候群、血管炎など 事前学習（20分）：教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学習（40分）：配布資料と教科書で復習しておく。				辻 正富
8	代謝・糖尿病	代謝・糖尿病 事前学習（20分）：教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学習（40分）：配布資料と教科書で復習しておく。				辻 正富
9	内分泌疾患	甲状腺疾患、副腎疾患、脳下垂体疾患など 事前学習（20分）：教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学習（40分）：配布資料と教科書で復習しておく。				辻 正富
10	腎疾患・代謝・糖尿病・内分泌疾患症例検討	糖尿病・腎疾患・内分泌疾患の症例提示と検討 事前学習（20分）：教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学習（40分）：配布資料と教科書で復習しておく。				辻 正富
11	呼吸器疾患Ⅰ	1. 構造と機能 2. 症状と身体所見 3. 呼吸不全 事前学習（20分）：教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学習（40分）：配布資料と教科書で復習しておく。				坂本 芳雄
12	呼吸器疾患Ⅱ	1. 閉塞性障害 2. 拘束性障害 3. 肺循環障害 4. 呼吸リハビリテーション 事前学習（20分）：教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学習（40分）：配布資料と教科書で復習しておく。				坂本 芳雄

13	呼吸器疾患Ⅲ	1. 胸膜縦隔の疾患 2. 感染症 3. 腫瘍 事前学習(20分):教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学習(40分):配布資料と教科書で復習しておく。	坂本 芳雄
14	悪性腫瘍	悪性腫瘍の概念と治療の基本 事前学習(20分):教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学習(40分):配布資料と教科書で復習しておく。	大川 伸一
15	肝胆膵がん	肝胆膵がんの症例提示と検討 事前学習(20分):教科書の該当箇所を読んでおく。 事後学習(40分):配布資料と教科書で復習しておく。	大川 伸一

評価	定期テスト100%
課題に対するフィードバックの方法	講義終了30分前から15分程度で回答できる小テストを実施し、終了後に模範解答を解説する。
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第4版/前田真治、上月正博 著/医学書院/2020年/ISBN:978-4-260-04290-1
参考図書など	随時紹介する。
アクティブ・ラーニング	ディスカッションを通して、理解を深める。
実務経験のある教員による授業	講師は全員、その専門分野で診療経験豊富な医師であり、実際の臨床現場に沿った具体的な内容の講義を行う。
留意事項	適宜提示する。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
整形外科学 I Orthopaedics I	必修	講義	1単位 (30時間)	2年前期	遠藤 太刀男	○
ナンバリングコード HPTD2/HOTD2	オフィスアワー		授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門基礎科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進						
授業概要	整形外科学における運動器の形態、機能、病態生理と評価、検査、治療方法、および総論的主要疾患等について、リハビリテーションに必要な基礎的知識と概念を獲得する。整形外科学 I では、骨の構造・発生と成長・修復と再生・加齢変化、問診・視診・触診、基本的検査(検体検査・画像検査・生体検査)、薬物療法、固定法、装具、牽引療法、骨の手術、関節の手術、切断・離断、末梢神経の手術、軟部組織感染症、急性化膿性骨髄炎、慢性化膿性骨髄炎等について講義する。					
到達目標	整形外科医療の一翼を担うに足る基礎的な医学知識を獲得し、「自ら考えて理解し実践するリハビリテーション学」を構築する。疑問を疑問のまま終わらせず、病態を理解する中で新たな発見や新しい治療学を見出す基礎力を身に付ける。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)			担当教員	
1	総論 I 整形外科の基礎	発生と骨化、骨の構造と骨関連細胞、骨軟骨代謝 事前学習(30分):軟水と硬水の違いについて調べてください 事後学習(30分):“軟骨形成不全症”について調べてください			遠藤 太刀男	
2	総論 II 整形外科の基礎	骨代謝、骨粗鬆症と骨軟化症、関節潤滑 事前学習(30分):映画「ノートルダムの鐘」を鑑賞してください 事後学習(30分):“くる病”について調べてください			遠藤 太刀男	
3	総論 III 運動器の評価および検査法	問診・視診・触診、徒手検査法、補助診断(画像・採血・電気生理学的検査) 事前学習(30分):魚群探知機について調べてください 事後学習(60分):配布された資料を十分読み込んでください			遠藤 太刀男	
4	総論 IV 骨折学	骨折・脱臼の基本的概念、骨癒合の生理学 事前学習(30分):骨折や脱臼の経験がある人の話を聞いてきてください 事後学習(60分):配布された資料を十分読み込んでください			遠藤 太刀男	
5	総論 V 治療学①	外科的処置、骨折治療、関節鏡視下手術、物理療法、薬物療法 事前学習(30分):物理療法と民間療法について情報収集してきてください 事後学習(30分):関節の種類をしっかりと記憶してください			遠藤 太刀男	
6	総論 VI 治療学②	精神・心理学、東洋医学、鍼治療の実際、【鍼実習】 事前学習(30分):薬膳について情報収集してください 事後学習(30分):東洋医学の簡単な本を読んでみてください			遠藤 太刀男	
7	整形外科疾病論 炎症性疾患①	免疫システム概論、リウマチ(総論) 事前学習(30分):風邪やインフルエンザにかかる仕組みを調べてください 事後学習(30分):免疫の配布資料を読み込んでください			遠藤 太刀男	
8	整形外科疾病論 炎症性疾患②	リウマチ・膠原病(各論) 事前学習(30分):リウマチについて調べてください 事後学習(60分):授業で解いた国家試験問題の復習			遠藤 太刀男	
9	整形外科疾病論 炎症性疾患③	骨・関節感染症の病態と治療、痛風性関節炎、結核性関節炎 事前学習(30分):結核について調べてください 事後学習(60分):授業で解いた国家試験問題の復習			遠藤 太刀男	
10	整形外科疾病論 変形性膝関節症	変形性関節症 事前学習(30分):変形性関節症とは何でしょうか 事後学習(60分):配布資料の再読、授業で解いた試験問題の復習			遠藤 太刀男	
11	整形外科疾病論 脊椎・脊髄病学①	腰椎椎間板ヘルニア 病態と治療 事前学習(30分):「ぎっくり腰」って何でしょう? 事後学習(60分):配布された資料を十分読み込んでください			遠藤 太刀男	
12	整形外科疾病論 脊椎・脊髄病学②	腰部脊柱管狭窄症、腰椎分離症、頸椎椎間板ヘルニア 事前学習(30分):腰椎の解剖について 事後学習(60分):配布資料の再読、授業で解いた試験問題の復習			遠藤 太刀男	

13	整形外科疾病論 脊椎・脊髄病学③	脊髄・脊椎にかかる神経学的診察(実習) 事前学習(30分):一次ニューロンと二次ニューロンを確実にしておいて下さい 事後学習(30分):診察方法と理論を復習して下さい	遠藤 太刀男
14	整形外科疾病論 脊髄損傷	脊髄損傷(横断神経損傷)Brown Sequard【ワークシート作成(実習)】 事前学習(30分):脊髄神経の解剖について調べてきて下さい 事後学習(60分):配布資料の再読、授業で解いた試験問題の復習	遠藤 太刀男
15	整形外科疾病論 末梢神経障害	末梢神経障害(尺骨神経麻痺・正中神経麻痺・橈骨神経麻痺) 事前学習(30分):中枢神経・末梢神経に関する予習 事後学習(30分):授業で解いた試験問題を復習して下さい	遠藤 太刀男

評価	定期試験(80%), 実習提出レポート(20%)
課題に対する フィードバックの方法	各授業でスライドデータはWEBで配布します。授業中の疑問や質問、評価はWEBで受け付けます。それぞれWEBでフィードバックします。
教科書	全部見えるスーパービジュアル整形外科疾患(成美堂出版) ISBN:978-4415319216 標準整形外科学 第15版(医学書院) ISBN:978-4-260-04936-8
参考図書など	プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論運動器系 第2版(医学書院) ISBN:978-4-260-01068-9 ブルンストローム臨床運動学(医歯薬出版) ISBN:978-4-263-21437-4
アクティブ・ラーニング	東洋医学講座において鍼治療の実習を行う。脊髄神経所見のとり方について実習。ワークシート提出。
実務経験のある 教員による授業	整形外科専門医としての経験を活かして基礎分野から臨床まで、幅広い知識と診断能力、病態の理解から治療の組み立てについて講義する。
留意事項	授業でラインアプリを使用しますので、スマホかPDAで参加してください。授業で寝ない工夫をして下さい。ノートはレポート用紙など片面のみ記載するものを使用し、自室の壁に貼れるような工夫をして下さい。絶対に休まないように(特に脊損の講義は必須)。実習では打鍵器・角度計・メジャーを使用します。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
整形外科学Ⅱ Orthopaedics II	必修	講義	1単位 (30時間)	2年後期	遠藤 太刀男	○
ナンバリングコード	HPTD2/HOTD2	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門基礎科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。					
疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進	DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
授業概要	整形外科学における運動器の形態、機能、病態生理と評価、検査、治療方法、および総論的主要疾患等について、リハビリテーションに必要な基礎的知識と概念を獲得する。整形外科Ⅱでは、骨折の定義、分類、症状、診断、合併症、治癒、治癒後の合併症、捻挫と脱臼、挫滅症候群、肩関節部の骨折と脱臼、上腕骨骨折、肘関節部の骨折と脱臼、前腕骨骨折、手の骨折と脱臼、胸郭の外傷、骨盤の骨折、股関節部の骨折と脱臼、大腿骨骨幹部骨折、膝関節部の骨折と脱臼、下腿骨骨折、足関節部の骨折、足部の骨折等について講義する。					
到達目標	国家試験合格後、実社会に出て即戦力となり得る基礎力・応用力を身に付ける。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）				担当教員
1	整形外科疾病論 股関節の構造と疾患①	股関節疾患（ペルテス病・大腿骨頭すべり症他）外傷 事前学習(120分):トムハンクス主演フォレストガンブを鑑賞 事後学習(60分):授業で配布された資料の再読、国家試験問題の復習				遠藤 太刀男
2	整形外科疾病論 股関節の構造と疾患②	人工股関節手術、脱臼肢位 事前学習(60分):前回の授業の復習 事後学習(60分):授業で配布された資料の再読、国家試験問題の復習				遠藤 太刀男
3	整形外科疾病論 膝靭帯損傷①	膝関節の疾患と診察、膝の靭帯損傷・靭帯再建術の種類・特性 事前学習(60分):膝関節の解剖 事後学習(60分):診察法の理解				遠藤 太刀男
4	整形外科疾病論 膝靭帯損傷②	膝靭帯損傷・膝スポーツ損傷の診断、【ワークシート作成(実習)】 事前学習(60分):前回の授業の復習 事後学習(60分):ワークシート作成				遠藤 太刀男
5	整形外科疾病論 肩関節の基礎	肩関節の基礎 事前学習(60分):肩関節の解剖 事後学習(60分):配布資料の再読、診察法の理解				遠藤 太刀男
6	整形外科疾病論 肩関節疾患と診察①	肩関節疾患各論、診察法、肩関節拘縮の理論 事前学習(60分):前回授業の復習 事後学習(60分):診察法の理解				遠藤 太刀男
7	整形外科疾病論 肩関節疾患と診察②	肩関節疾患各論、診察法、【ワークシート作成(実習)】 事前学習(60分):前回授業の復習 事後学習(60分):ワークシート作成				遠藤 太刀男
8	手外科疾患①	手根骨骨折、手根骨配列異常(DISI・VISI) 事前学習(60分):手根骨の解剖 事後学習(60分):配布資料の再読				遠藤 太刀男
9	手外科疾患②	TFCC損傷、母指CM関節症、CRPS 事前学習(60分):前回授業の復習 事後学習(60分):授業で配布された資料の再読、国家試験問題の復習				遠藤 太刀男
10	肘関節疾患	肘関節周囲骨折、靭帯損傷 事前学習(60分):肘周囲の解剖の復習 事後学習(60分):授業で配布された資料の再読、国家試験問題の復習				遠藤 太刀男
11	人工膝関節とDVT	人工膝関節の構造、種類、特性、術後可動域低下の理由と回避方法 事前学習(30分):深部静脈の解剖 事後学習(60分):授業で配布された資料の再読、国家試験問題の復習				遠藤 太刀男
12	国家試験対策	過去の国家試験の解答解説 事前学習(60分):前期・後期講義の復習 事後学習(60分):授業で配布された資料の再読、国家試験問題の復習				遠藤 太刀男

13	国家試験対策	過去の国家試験の解答解説 事前学習(60分):前期・後期講義の復習 事後学習(60分):配布資料の再読	遠藤 太刀男
14	国家試験対策	過去の国家試験の解答解説 事前学習(60分):前期・後期講義の復習 事後学習(60分):配布資料の再読	遠藤 太刀男
15	国家試験対策	最新国家試験対策 事前学習(60分):前期・後期講義の復習 事後学習(60分):試験対策	遠藤 太刀男

評価	定期試験(80%), 実習提出レポート(20%)
課題に対するフィードバックの方法	各授業でスライドデータはWEBで配布します。授業中の疑問や質問、評価はWEBで受け付けます。それぞれWEBでフィードバックします。
教科書	全部見えるスーパービジュアル整形外科疾患(成美堂出版) ISBN:978-4415319216 標準整形外科学 第15版(医学書院) ISBN:978-4-260-04936-8
参考図書など	ブルンストローム臨床運動学(医歯薬出版) ISMN:978-4-263-21437-4、カバンジー機能解剖学(医歯薬出版)第7版 ISBN:978-4-263-26595-6、他随時紹介
アクティブ・ラーニング	下肢の診察方法(実習)上肢の診察方法(実習)それぞれワークシート提出
実務経験のある教員による授業	整形外科専門医としての経験を活かして基礎分野から臨床まで、幅広い知識と診断能力、病態の理解から治療の組み立てについて講義する。
留意事項	講義は整形外科専攻医レベルです。理解すれば実社会で整形外科医との論戦が可能です。前期と同じくラインアプリを使用します。試験は前期後期全ての範囲から国試レベルの出題です。実習では角度計・メジャーを使用します。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
精神医学 I Psychiatry I	必修	講義	1単位 (30時間)	2年前期	内山 彰	○
ナンバリングコード	HPTD1/HOTD2	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門基礎科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進						
授業概要	精神医学の概念と関連領域(精神科医療の歴史、精神障害の定義・分類、精神機能の障害と精神症状)、精神障害の診断と評価(診断・評価の方法、各種検査法)、統合失調症・気分障害・神経症性障害とストレス関連障害・器質性精神障害・精神作用物質による精神および行動の障害・パーソナリティ障害・てんかん等の病因、病態、臨床経過、治療、転帰等、薬物療法、心理社会的療法等を学ぶ。さらに、精神医療関連の法制度(刑法等)や、リエゾン精神医学とチーム医療等もあわせて学ぶ。					
到達目標	精神疾患の基本を学習し、豊富な症例を通じての具体的理解を図り、来たるべき臨床実践に備える。時間があれば最近の精神医学のトピックスにも触れることにより精神科医療の今後の方向性について俯瞰していく。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)				担当教員
1	総論	精神医学とは、ニューロンと神経伝達物質、成因と疾患分類、精神症状 事前学習(0分):事前学習は要さない。 事後学習(60分):授業全体を復習し、余力があれば教科書の該当単元を熟読する。				内山 彰
2	検査法	脳波検査、神経画像検査、光トポグラフィ、心理検査 事前学習(30分):前回の授業を再度確認しておく。 事後学習(60分):授業全体を復習し、余力があれば教科書の該当単元を熟読する。				内山 彰
3	統合失調症(1)	疫学、臨床症状(陽性症状、陰性症状、認知機能障害)、病型、経過 事前学習(30分):前回の授業全体を再度確認しておく。 事後学習(60分):授業全体を復習し、余力があれば教科書の該当単元を熟読する。				内山 彰
4	統合失調症(2)	検査、成因、治療、再発予防、統合失調症関連障害 事前学習(30分):前回の授業を再度確認しておく。 事後学習(60分):授業全体を復習し、余力があれば教科書の該当単元を熟読する。				内山 彰
5	気分障害(1)	疫学、臨床症状、うつ病および双極性障害の諸類型 事前学習(30分):前回の授業を再度確認しておく。 事後学習(60分):授業全体を復習し、余力があれば教科書の該当単元を熟読する。				内山 彰
6	気分障害(2)	検査、成因、社会的背景、治療、自殺 事前学習(30分):前回の授業を再度確認しておく。 事後学習(60分):授業全体を復習し、余力があれば教科書の該当単元を熟読する。				内山 彰
7	器質性精神障害(1)	認知症(臨床症状、鑑別疾患、疾患分類、代表的疾患、軽度認知障害) 事前学習(30分):前回の授業を再度確認しておく。 事後学習(60分):授業全体を復習し、余力があれば教科書の該当単元を熟読する。				内山 彰
8	器質性精神障害(2)	その他の器質性精神障害、てんかん、症状精神病 事前学習(30分):前回の授業を再度確認しておく。 事後学習(60分):授業全体を復習し、余力があれば教科書の該当単元を熟読する。				内山 彰
9	神経症性障害	パニック障害、社交不安障害、強迫性障害、PTSD、身体表現性障害、解離性障害など 事前学習(30分):前回の授業を再度確認しておく。 事後学習(60分):授業全体を復習し、余力があれば教科書の該当単元を熟読する。				内山 彰
10	生理的障害	睡眠障害(睡眠のメカニズム、不眠の種類、睡眠障害各論、治療)、摂食障害 事前学習(30分):前回の授業を再度確認しておく。 事後学習(60分):授業全体を復習し、余力があれば教科書の該当単元を熟読する。				内山 彰
11	物質関連障害など	物質関連障害(アルコール関連障害、薬物関連障害)、パーソナリティ障害、行動嗜癖 事前学習(30分):前回の授業を再度確認しておく。 事後学習(60分):授業全体を復習し、余力があれば教科書の該当単元を熟読する。				内山 彰
12	児童期精神障害	知的障害、発達障害(自閉症スペクトラム障害、ADHD など)、その他の児童期精神障害 事前学習(30分):前回の授業を再度確認しておく。 事後学習(60分):授業全体を復習し、余力があれば教科書の該当単元を熟読する。				内山 彰

13	薬物療法など	薬物療法(抗精神病薬、抗うつ薬、抗不安薬など)、電気けいれん療法、うつ病の新しい治療法 事前学習(30分): 前回の授業を再度確認しておく。 事後学習(60分): 授業全体を復習し、余力があれば教科書の該当単元を熟読する。	内山 彰
14	精神療法	来談者中心療法、精神分析療法、内観療法、認知療法、行動療法、森田療法 など 事前学習(30分): 前回の授業を再度確認しておく。 事後学習(60分): 授業全体を復習し、余力があれば教科書の該当単元を熟読する。	内山 彰
15	精神科法規など	精神保健福祉制度、精神科リハビリテーション、精神科法規 事前学習(30分): 前回の授業を再度確認しておく。 事後学習(60分): 授業全体を復習し、余力があれば教科書の該当単元を熟読する。	内山 彰

評価	定期試験100%
課題に対する フィードバックの方法	実施予定なし
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版増補版 (医学書院) ISBN:978-4260044769
参考図書など	特になし
アクティブ・ラーニング	実施予定なし
実務経験のある 教員による授業	精神科医として長年入院診療および外来診療に携わってきた経験から豊富な自験症例を提示して各精神疾患についての具体的理解の浸透に努める。
留意事項	特になし

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
神経内科学 Neurology	必修	講義	1単位 (30時間)	2年後期	杉山 誠、菊池 雷太、中野渡 雅樹	○
ナンバリングコード	HPTD2/HOTD2	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門基礎科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。					
疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進	DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
授業概要	神経内科学では神経症候および代表的な神経・筋疾患(パーキンソン病、パーキンソン症候群、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、脊髄性進行性筋萎縮症、多発性硬化症、脊髄空洞症、ギランバレー症候群、正常圧水頭症、筋ジストロフィー、重症筋無力症、多発筋炎、他)、脳血管障害(定義と分類、疫学、脳血管の解剖と生理、脳出血、くも膜下出血、脳梗塞、一過性脳虚血発作、他)を取り上げ、それらの病態・診断・治療および予後について知識を教授する。					
到達目標	1)神経疾患の病態、診断、治療、予後について理解できる。 2)神経疾患の看護の概要について理解できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)				担当教員
1	総論 意識障害	神経内科疾患の概要 意識障害・神経のみかた① 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する				杉山 誠
2	脳神経の障害	神経のみかた② 複視 嚥下障害 構語障害 球麻痺 仮性球麻痺 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する				杉山 誠
3	脳血管障害①	閉塞性脳血管障害の病態と対応 アテローム血栓性梗塞・ラクナ梗塞・心原性脳塞栓 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する				杉山 誠
4	脳血管障害②	出血性脳血管障害の病態と対応 脳出血・くも膜下出血 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する				杉山 誠
5	頭部外傷	外傷性脳損傷 脳振盪 急性硬膜下血腫 慢性硬膜下血腫 急性硬膜外血腫 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する				杉山 誠
6	認知症	アルツハイマー型認知症 脳血管性認知症 Pick病 Levy小体型認知症 正常圧水頭症 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する				杉山 誠
7	脳腫瘍	原発性脳腫瘍 転移性脳腫瘍 定位放射線治療 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する				杉山 誠
8	錐体外路疾患	パーキンソン病 ハンチントン舞蹈病 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する				中野渡 雅樹
9	高次脳機能障害	高次機能障害 認知障害 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する				中野渡 雅樹
10	変性疾患	運動ニューロン疾患 筋萎縮性側索硬化症 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する				中野渡 雅樹
11	変性疾患	脊髄小脳変性症 多系統萎縮症(オリブ橋小脳変性症) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する				中野渡 雅樹
12	脱髄疾患	多発性硬化症 急性散在性脳脊髄炎 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する				菊池 雷太

13	末梢神経障害	ギランバレー症候群 慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチー 多発ニューロパチー 絞扼ニューロパチー 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分): 配布資料など、授業全体について復習する	菊池 雷太
14	筋疾患・神経筋接合部疾患	進行性筋ジストロフィー 多発性筋炎 周期性四肢麻痺 筋強直性ジストロフィー 重症筋無力症 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分): 配布資料など、授業全体について復習する	菊池 雷太
15	感染性疾患	髄膜炎 脳炎 脳膿瘍 プリオン病(クロイツフェルトヤコブ病) 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分): 配布資料など、授業全体について復習する	菊池 雷太

評価	定期試験100%
課題に対するフィードバックの方法	[1～7回目] 20分程度で回答できる小テストを実施し、解説を行い、国家試験に備える。
教科書	①標準理学療法学・作業療法学<専門基礎分野> 神経内科学 第5版 川平和美 医学書院 ISBN:978-4-260-03817-1 ②病気がみえる7 脳・神経 尾上尚志他監修 MEDIC MEDIA ISBN:978-4-89632-686-4
参考図書など	適宜紹介する。
アクティブ・ラーニング	ディスカッションを通して、理解を深める。
実務経験のある教員による授業	[杉山 誠] ・実際の臨床の現場に沿った具体的な内容の解説をする。 [中野渡 雅樹] ・神経内科医としての臨床経験を活かし、実際の症例を多く取り上げた講義を実施する。 [菊池 雷太] ・担当者は神経内科臨床に多く携わった経験から、診療の実態にもとづいて講義する。
留意事項	必ず、事前学習を行って授業に臨んでいただきたい。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
小児科学 Pediatrics	必修	講義	1単位 (30時間)	2年前期	石井 卓・伊藤 一之・伊良部 仁・ 鹿島田 健一・金田 朋也・神谷 尚宏・ 高澤 啓・水野 朋子	○
ナンバリングコード	HPTD2/HOTD2	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門基礎科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進						
授業概要	小児科学では基本となる小児の正常発達と療育・リハビリテーションの考え方を解説した後、代表的な小児疾患の病態、診断および治療について講義する。特に、リハビリテーション医療の対象となる疾患について重点的に述べる。代表的な疾患として、脳性麻痺、二分脊椎、悪性腫瘍、遺伝子病・系統疾患(骨端症を含む)等について、疫学・予後、病理・症状、評価・検査(画像・生理検査等)・診断、リハビリテーション等、関連する治療学を学ぶ。					
到達目標	1)代表的な小児疾患の成因について理解する。 2)臨床的に遭遇する可能性の高い代表的な小児疾患の症候、病態像、診断、治療、臨床像、予後、予防の基本的な知識を習得する。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)	担当教員			
1	先天異常	染色体異常、出生前診断 事前学習(60分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):配布資料など授業全体について復習する。	伊藤 一之			
2	新生児・未熟児	低出生体重児、新生児疾患 事前学習(60分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):配布資料など授業全体について復習する。	伊藤 一之			
3	代謝・内分泌疾患	先天代謝異常、糖尿病、下垂体疾患、性分化疾患 事前学習(60分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):配布資料など授業全体について復習する。	高澤 啓			
4	虐待	虐待 事前学習(60分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):配布資料など授業全体について復習する。	高澤 啓			
5	呼吸器疾患	上気道炎、下気道炎、予防接種 事前学習(60分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):配布資料など授業全体について復習する。	石井 卓			
6	循環器疾患	先天性心疾患、川崎病、突然死 事前学習(60分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):配布資料など授業全体について復習する。	石井 卓			
7	消化器疾患	消化器症状と疾患、先天性消化器疾患、先天性肝疾患 事前学習(60分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):配布資料など授業全体について復習する。	金田 朋也			
8	腎・泌尿器疾患	腎臓の機能と検尿異常、腎糸球体疾患、先天性腎尿路奇形、慢性腎臓病 事前学習(60分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):配布資料など授業全体について復習する。	金田 朋也			
9	事故・外傷	事故、誤飲、誤嚥、溺水、熱傷、熱中症 事前学習(60分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):配布資料など授業全体について復習する。	伊良部 仁			
10	皮膚・眼・耳鼻咽喉科	アトピー性皮膚炎、眼科疾患(屈折異常、斜視)耳鼻咽喉科疾患(中耳炎、アデノイド、鼻出血) 事前学習(60分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):配布資料など授業全体について復習する。	伊良部 仁			
11	血液疾患、悪性新生物	白血病、腫瘍、貧血、出血性疾患 事前学習(60分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):配布資料など授業全体について復習する。	神谷 尚宏			
12	免疫アレルギー疾患	気管支喘息、食物アレルギー、免疫不全、リウマチ性疾患 事前学習(60分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):配布資料など授業全体について復習する。	神谷 尚宏			

13	感染症	ウイルス感染症、細菌感染症 事前学習(60分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 配布資料など授業全体について復習する。	鹿島田 健一
14	神経・運動器疾患	神経疾患、痙攣性疾患、運動器疾患 事前学習(60分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 配布資料など授業全体について復習する。	水野 朋子
15	精神疾患	発達障害、チック、不登校、摂食障害 事前学習(60分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 配布資料など授業全体について復習する。	水野 朋子

評価	定期試験100%により評価する。
課題に対するフィードバックの方法	実施予定なし。
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版 富田豊 ISBN:978-4-260-03434-0
参考図書など	随時紹介する。
アクティブ・ラーニング	実施予定なし。
実務経験のある教員による授業	担当者は全員小児科の該当分野の臨床経験が豊富であり、その経験を生かして臨床の場で必要な知識と考え方について講義を行う。
留意事項	適宜提示する。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
脳神経外科学 Neurosurgery	必修	講義	1単位 (30時間)	2年後期	寺本 明、石井 映幸	○
ナンバリングコード	HPTD2/HOTD2		オフィスアワー 本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門基礎科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。					
疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進						
授業概要	脳神経外科で扱う疾患の概要を示したうえで、その画像診断法、各種病態と機能、更には主な脳神経外科疾患の各論を教授する。					
到達目標	1)脳神経外科疾患の主な病態の基礎を説明できる。 2)脳神経外科疾患の主な画像診断の意義と所見を説明できる。 3)主たる脳神経外科疾患に関する診断法や治療法を説明できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）				担当教員
1	脳神経外科総論	脳神経外科で扱う主な疾患 事前学習(30分):脳神経外科とはどのような診療科なのかを調べてくる 事後学習(30分):脳神経外科の主な疾患の概略をまとめる。				寺本 明
2	神経画像診断(1)	X線撮影、CTの読影 事前学習(30分):小脳テントとは何かを調べてくる。 事後学習(30分):CTで大脳、小脳、脳幹の位置関係をまとめる。				石井 映幸
3	神経画像診断(2)	脳脊髄の形態:MRI、MRAなどの読影 事前学習(30分):視床とは何かを調べてくる。 事後学習(30分):MRIで運動野、内包、大脳脚などの位置関係をまとめる。				石井 映幸
4	脳と脊髄の病態(1)	頭蓋内圧亢進、水頭症 事前学習(30分):腰椎穿刺とは何かを調べてくる。 事後学習(30分):脳血流量、頭蓋内圧、血圧の関係をまとめる。				石井 映幸
5	脳と脊髄の病態(2)	脳虚血、脳浮腫、脳腫脹、脳ヘルニア 事前学習(30分):Naポンプとは何かを調べてくる。 事後学習(30分):脳浮腫・腫脹のメカニズムをまとめる。				石井 映幸
6	脳と脊髄の機能(1)	意識障害、植物状態、脳死 事前学習(30分):覚醒のメカニズムを調べてくる。 事後学習(30分):意識の成り立ちについて考えてみる。				石井 映幸
7	脳と脊髄の機能(2)	運動麻痺、痙縮、固縮 事前学習(30分):痙縮とは何かを調べてくる。 事後学習(30分):痙縮の治療についてまとめる。				石井 映幸
8	脳と脊髄の機能(3)	失語症、高次脳機能障害 事前学習(30分):失語症とは何かを調べてくる。 事後学習(30分):高次脳機能障害の問題点をまとめる。				石井 映幸
9	脳と脊髄の機能(4)	痙攣、てんかん 事前学習(30分):てんかんとは何かを調べてくる。 事後学習(30分):てんかんにはどのような種類があるかをまとめる。				石井 映幸
10	疾患(1)	脳血管障害1(総論と出血性病変) 事前学習(30分):脳卒中とは何かを調べてくる。 事後学習(30分):脳卒中・脳血管障害の種類と診断法をまとめる。				寺本 明
11	疾患(2)	脳血管障害2(1の続きと閉塞性病変) 事前学習(30分):閉塞性病変とは何かを調べてくる。 事後学習(30分):脳卒中・脳血管障害の病態をまとめる。				寺本 明
12	疾患(3)	頭部外傷 事前学習(30分):頭部外傷の種類を調べてくる。 事後学習(30分):頭部外傷の病態をまとめる。				寺本 明

13	疾患(4)	脳腫瘍1(総論と悪性腫瘍) 事前学習(30分):脳腫瘍の種類を調べてくる。 事後学習(30分):悪性脳腫瘍の病態をまとめる。	寺本 明
14	疾患(5)	脳腫瘍2(良性脳腫瘍) 事前学習(30分):主な良性脳腫瘍の症候を調べてくる。 事後学習(30分):良性脳腫瘍の病態をまとめる。	寺本 明
15	疾患(6)	脊髄・脊椎疾患、先天性疾患および機能的外科疾患 事前学習(30分):脊椎・脊髄疾患、先天性疾患および機能的外科疾患とは何かを調べてくる。 事後学習(30分):これらの疾患の病態をまとめる。	寺本 明

評価	定期試験(100%)
課題に対する フィードバックの方法	講義内容の理解を深めるために、講義の最後の時間を利用して小テストを行う場合がある。
教科書	病気がみえる(7)脳・神経 尾上尚志他監修 MEDIC MEDIA ISBN:978-4896326864
参考図書など	絵でみる脳と神経(第4版) 馬場元毅 医学書院 ISBN:978-4260027830
アクティブ・ラーニング	該当なし
実務経験のある 教員による授業	講師は両名とも脳神経外科医としての永年の経験を有しており、脳神経外科診療の実態に基づいて講義する。
留意事項	特になし

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
リハビリテーション医学 Rehabilitation Medicine	必修	講義	1単位 (30時間)	1年後期	山田拓実・展広智	○
ナンバリングコード	HPTD2/HOTD2	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門基礎科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進						
授業概要	リハビリテーション医学では、まず基礎となる学問体系を概説し、次に対象となる疾患や障害に対する診断や治療の進め方を解説する。医学全体における障害者治療の位置づけと意義を理解させる。総論として、リハビリテーション医学の定義と歴史・特徴、リハビリテーション医学における障害の診断と評価、機能障害・活動制限・参加制約の各々の評価とリハビリテーション、各種リハビリテーション治療、廃用症候群(疫学、病理・病態・症候、評価・検査、リハビリテーション、その他の治療)等を学ぶ。					
到達目標	1) 各疾患の概要とそれによって生じる症状、障害の概要を理解する。 2) 障害に応じたリハビリテーションの概要を理解する。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)				担当教員
1	リハビリテーション医学総論	リハビリテーション医学の総論、リハビリテーション支援など 事前学習(45分):教科書の該当ページ(P.3~22、55~65、118~127)を予習する 事後学習(45分):配布資料の復習、テーマの勉強				山田拓実
2	リハビリテーションにおける評価と診断	リハビリテーションにおける評価、診断について、評価法、補助診断法など 事前学習(45分):教科書の該当ページ(P.66~91)を予習する 事後学習(45分):配布資料の復習、テーマの勉強				山田拓実
3	脳血管障害と頭部外傷(1)	脳血管障害、頭部外傷の病態、障害像、リハビリテーションなど(前半) 事前学習(45分):教科書の該当ページ(P.131~145)を予習する 事後学習(45分):配布資料の復習、テーマの勉強				展広智
4	脳血管障害と頭部外傷(2)	脳血管障害、頭部外傷の病態、障害像、リハビリテーションなど(後半) 事前学習(45分):教科書のP.131~145を復習する。脳血管障害と頭部外傷(1)の資料を復習する。 事後学習(45分):配布資料の復習、テーマの勉強				展広智
5	高次脳機能障害	脳血管障害や頭部外傷による高次脳機能障害の概要(評価、責任病巣など) 事前学習(45分):教科書の該当ページ(P.145~152)を予習する 事後学習(45分):配布資料の復習、テーマの勉強				展広智
6	運動器疾患(股関節疾患等) 末梢神経障害	運動器疾患(股関節疾患等)、末梢神経障害の概要とリハビリテーションなど 事前学習(45分):教科書の該当ページ(P.155~193) 事後学習(45分):配布資料の復習、テーマの勉強				展広智
7	脊髄脊髄障害(1)	脊髄損傷の概要、脊髄脊髄の解剖、障害の評価、合併症など 事前学習(45分):教科書の該当ページ(P.193~213)を予習する 事後学習(45分):配布資料の復習、テーマの勉強				展広智
8	脊髄脊髄障害(2)	脊髄損傷による合併症の対応とリハビリテーションなど 事前学習(45分):教科書のP.193~213を復習する。脊髄脊髄障害(1)の資料を復習する。 事後学習(45分):配布資料の復習、テーマの勉強				展広智
9	神経疾患、筋ジストロフィー	パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多発性硬化症、ALS、PPSの概要とリハビリテーション 筋ジストロフィーの概要・リハビリテーション 事前学習(45分):教科書の該当ページ(P.214~231)を予習する 事後学習(45分):配布資料の復習、テーマの勉強				展広智
10	切断と義肢	下肢切断と義足療法、上肢切断と義手療法など 事前学習(45分):教科書の該当ページ(P.232~241)を予習する 事後学習(45分):配布資料の復習、テーマの勉強				山田拓実
11	脳性麻痺、発達障害	脳性麻痺の概要・評価・障害像・リハビリテーション、発達障害など 事前学習(45分):教科書の該当ページ(P.242~251)を予習する 事後学習(45分):配布資料の復習、テーマの勉強				展広智
12	リウマチ性疾患	関節リウマチ、多発性筋炎、ギランバレー症候群、重症筋無力症の概要とリハビリテーションなど 事前学習(45分):教科書の該当ページ(P.252~256)を予習する 事後学習(45分):配布資料の復習、テーマの勉強				山田拓実

13	循環器疾患、腎疾患、糖尿病等	循環器疾患の病態生理とリハビリテーションなど、腎疾患と糖尿病等について 事前学習(45分):教科書の該当ページ(P.257~268、276~279、280~285)を予習する 事後学習(45分):配布資料の復習、テーマの勉強	山田拓実
14	呼吸器疾患、摂食嚥下障害	呼吸器疾患の病態生理とリハビリテーション、摂食嚥下障害について 事前学習(45分):教科書の該当ページ(P.269~275、299~304)を予習する 事後学習(45分):配布資料の復習、テーマの勉強	山田拓実
15	サルコペニア、フレイル、その他(骨粗鬆症、認知症、精神疾患)	サルコペニア、フレイルその他(骨粗鬆症、認知症、精神疾患等)について 事前学習(45分):教科書の該当ページ(P.313~324)を予習する 事後学習(45分):配布資料の復習、テーマの勉強	展広智

評価	基本的には選択式試験、場合によっては記述式試験もある。定期試験を中心に評価する。
課題に対するフィードバックの方法	レポート提出を実施した際には、必要に応じて概要を解説する
教科書	リハビリテーション医学・医療コアテキスト/久保 俊一/医学書院/第2版/ISBN:978-4-260-04959-7
参考図書など	神経局在診断第6版(花井順哉訳、文光堂)ISBN:978-4-8306-1544-3 ベッドサイドの神経の診かた第18版(田崎義昭、南山堂)ISBN:978-4-525-24798-0 リハビリテーションのための画像の読み方(本間光信、メディカルビュー社)ISBN:978-4-7583-1686-6
アクティブ・ラーニング	実施予定なし
実務経験のある教員による授業	脳神経外科医としての臨床経験、リハビリテーション科理学療法士としての臨床経験を活かして講義を行う
留意事項	解剖学、生理学などが基礎になる。教科書以外に、スライド配布資料を中心に授業を進める。特に、脳血管障害と頭部外傷、脊髄脊椎障害等は、配布資料が中心になる。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
一般臨床医学 Clinical Topics	必修	講義	1単位 (15時間)	2年後期	寺本明、石田克紀、金田英蘭、山崎圭子 織本健司、星川嘉一、下平憲治、櫻井嘉彦	○
ナンバリングコード	HPTD2/HOTD1		オフィスアワー 本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門基礎科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。					
疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進						

授業概要	医療者に必要な医学的知識を深める。ここでは、臨床医学として習得すべき耳鼻咽喉科学、眼科学、外科学、泌尿器科学、産婦人科学などの疾患を中心に、その特徴と診断・検査(画像・生理検査等)・治療について理解する。総合診療科の役割、泌尿器疾患、めまい、視力・眼科診療、婦人科疾患、周産期医療等について、テーマ別にオムニバス方式で学習する。更に、いくつかの臨床分野のトピックスを学ぶ。		
到達目標	1)医療のトピックスについて述べる ことができる 2)それぞれの分野の疾患の症状・病態を述べる ことができる 3)疾患の症状・病態とADL・QOLの影響について述べる ことができる		
回		授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)	担当教員
1	耳鼻咽喉科学	耳の構造と生理及び関連する疾患、特に、めまいの症状・病態と、それに伴うADL・QOLの影響について講義する。 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する	石田 克紀
2	眼科学	眼の構造と生理及び関連する疾患、特に、眼疾患の症状・病態と、それに伴うADL・QOLの影響について講義する。 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。	金田 英蘭
3	外科学	医学における外科学の位置づけ、主要な胸部・消化器系などの疾患に対する外科治療法について講義する 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。	櫻井 嘉彦
4	産婦人科学	受精・着床から妊娠・分娩・産褥について講義する。 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。	山崎 圭子
5	腎臓内科学 人工透析とリハビリテーション	腎代替療法の原理、管理指標、薬物療法の理論について講義する。特に腎・心・貧血連関について理解を深める。腎臓リハビリテーションについても総論的講義を行う。 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。	織本 健司
6	がんと放射線医学	がんの診断から治療にかかわる放射線診療について講義する 事前学習(30分):がんの画像診断、放射線治療、カテーテル治療について調べてくる。 事後学習(30分):配布資料など、授業全体について復習する。	星川 嘉一
7	泌尿器科学	泌尿器の構造と生理及び関連する疾患、特に下部尿路症状(畜尿・排尿障害)について解説する。 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。	下平 憲治
8	脳神経外科手術法と神経解剖学	脳神経外科で用いられる各種手術アプローチの根拠を、頭蓋や脳の解剖や機能から解説する。 事前学習(30分):頭蓋や脳の大きな解剖を調べてくる。 事後学習(30分):主な脳神経外科手術法の種類と根拠を整理する。	寺本 明

評価	定期試験100%
課題に対する フィードバックの方法	講義内容の理解を深めるために、講義の最後の時間を利用して小テストを行う場合がある。
教科書	PT・OT・STのための 一般臨床医学 第3版, 医歯薬出版, 2014年, ISBN:978-4263219324
参考図書など	必要に応じ、講義中で紹介する。
アクティブ・ラーニング	該当せず。
実務経験のある 教員による授業	講師は全員、その専門分野に関して豊富な経験をもつ。
留意事項	特になし。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
老年医学概論 Geriatrics outline	必修	講義	1単位 (30時間)	3年前期	平野 克治	○
ナンバリングコード	HPTD1/HOTD1	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門基礎科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進						

授業概要  
老化の及ぼす身体の変化と疾患について講義し、老年病を包括的に理解し、その予防と治療およびその社会的な意義を知る。老年症候群、認知症、脳血管障害、うつ、心不全、末梢循環障害、老人性肺炎・誤嚥性肺炎、慢性閉塞性肺炎患者、悪性腫瘍、変形性関節症、骨折、骨粗鬆症等の疫学・予後、病理・症候、評価・検査・診断、リハビリテーションとその他の治療について学習する。さらに睡眠障害、摂食・嚥下障害、感覚器障害、終末期のケア等についてあわせて学習する。

到達目標  
1) 老年期にある人の身体的・心理的・社会的特徴について理解できる。  
2) 老年期にある人に特有な健康問題およびリハビリについて理解できる。  
3) 老年期にある人をリハビリする上で基盤となる概念や理論を理解できる。

回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）	担当教員
1	老化と老年病の考え方	老化の概念と機序、加齢による生理機能の変化と老年病の発症の関連、高齢者の機能評価(教科書第1章) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 配布資料で、授業全体について復習する。	平野 克治
2	加齢に伴う身体・精神変化	生理機能の加齢変化とそれにかかわる形態変化、安静時、負荷時の生理機能の加齢変化(教科書第2章) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 配布資料で、授業全体について復習する。	平野 克治
3	加齢に伴う身体・精神変化	加齢に伴う運動機能の変化、加齢に伴う精神心理面の変化(教科書第3・4章) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 配布資料で、授業全体について復習する。	平野 克治
4	高齢者に多い症候と老年症候群	老年症候群とADLのかかわり、リハビリテーションにおける注意点(教科書第12章) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 提示された課題を行い、期限までに提出する。	平野 克治
5	循環器疾患	高齢者における循環器疾患の特徴(教科書第13章) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 配布資料で、授業全体について復習する。	平野 克治
6	呼吸器疾患	高齢者における呼吸器疾患の特徴(教科書第14章) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 配布資料で、授業全体について復習する。	平野 克治
7	運動器疾患	高齢者における運動器疾患の特徴(教科書第22章) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 提示された課題を行い、期限までに提出する。	平野 克治
8	精神疾患・内分泌代謝疾患	高齢者における精神疾患の特徴(教科書第17章)内分泌代謝疾患の特徴(教科書第18章) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 配布資料で、授業全体について復習する。	平野 克治
9	消化器・腎	高齢者における消化器疾患の特徴(教科書第15章)・腎疾患の特徴(第20章) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 配布資料で、授業全体について復習する。	平野 克治
10	血液・免疫	高齢者における血液・免疫疾患の特徴(教科書第19章) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 配布資料で、授業全体について復習する。	平野 克治
11	感染症	高齢者における感染症の特徴(教科書第24章) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 配布資料で、授業全体について復習する。	平野 克治
12	耳鼻咽喉科疾患・眼科疾患	高齢者における耳鼻咽喉科疾患の特徴(教科書第25章)・眼科疾患の特徴(第26章) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 配布資料で、授業全体について復習する。	平野 克治

IV 専門基礎科目

13	神経疾患	高齢者における神経疾患の特徴(教科書第16章) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分):配布資料で、授業全体について復習する。	平野 克治
14	高齢者福祉と社会資源	高齢者をとりまく環境 事前学習(60分):グループワークの課題に関し、シートに沿ってまとめる。 事後学習(60分):グループワーク等での話し合いの内容など、復習する。	平野 克治
15	高齢者のリハビリテーション	高齢者のリハビリテーション(教科書第33章) 事前学習(60分):グループワークの課題に関し、シートに沿ってまとめる。 事後学習(60分):グループワーク等での話し合いの内容など、復習する。	平野 克治

評価	定期試験80%、提出物12%、授業参加態度8%として評価する。
課題に対するフィードバックの方法	老年症候群についてのレポートに対してコメントする。
教科書	大内尉義/奈良勲 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学 第5版 医学書院 ISBN:978-4260039475
参考図書など	「老年症候群」の診察室 朝日選書 ISBN:978-4022630056
アクティブ・ラーニング	高齢者のとりまく環境について、他職種の立場になり意見を出し合うグループワークを行う。
実務経験のある教員による授業	内科医としての臨床経験を活かして、老年期疾患の特異性について講義する。
留意事項	適宜提示する

授業科目の名称	必修・選択の別	授業形態	単位数(時間数)	配当年次	科目担当教員	実務経験のある教員による科目
救命救急学概論 Introduction to Emergency and Critical Care	必修	講義	1単位 (15時間)	3年後期	杉山 誠	○
ナンバリングコード	HPTC1/HOTD1	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門基礎科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進						

授業概要	救命救急医療の概論と基本的な救急処置について講義する。また、一般市民も行える救急蘇生法(救急手当)や救急蘇生法以外の手当(応急手当)を理解、修得する。急変時、救急処置の必要な患者さんの対応を医療従事者として理解、修得する。講義内容は、創傷と出血・ショック、熱中症・偶発低体温、熱傷、薬物中毒、AEDの使用法等である。					
到達目標	救急のシステムを述べることができる。 一次救命処置に関し概略を説明し実行ができる。 創傷や熱傷、ショックに関し説明ができる。 急性期の体温管理や栄養管理に関し概説できる。 薬物中毒や自殺者に関し概略を理解できる。 医療安全・医療倫理に関し理解し簡単に説明できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)				担当教員
1	心肺停止状態への対応	一次救命処置、二次救命処置、小児の心肺蘇生 事前学習:特になし 事後学習(40分):講義内容をよく復習する				杉山 誠
2	意識障害への対応 呼吸障害への対応	意識障害とは、意識障害時の救急処置と検査 呼吸障害とは、呼吸障害時の救急処置と検査 事前学習:特になし 事後学習(40分):講義内容をよく復習する				杉山 誠
3	ショック、循環障害への対応 急性腹症への対応	ショックとは、ショック・循環障害時の救急処置と検査 急性腹症とは、急性腹症の救急処置と検査 事前学習:特になし 事後学習(40分):講義内容をよく復習する				杉山 誠
4	泌尿器・生殖器障害への対応 体液・代謝異常への対応	腰背部痛、尿閉、血尿、不正性器出欠、各症状の救急処置と検査 脱水症、浮腫、高カリウム血症、低血糖、各症状の救急処置と検査 事前学習:特になし 事後学習(40分):講義内容をよく復習する				杉山 誠
5	体温異常への対応 外傷への対応	熱中症、悪性高熱症、悪性症候群、低温症状とは、各症状の救急処置と検査 脱水症、浮腫、高カリウム血症、低血糖とは、各症状救急処置と検査 事前学習:特になし 事後学習(40分):講義内容をよく復習する				杉山 誠
6	熱傷への対応 中毒への対応	熱症とは、熱症時の救急処置と検査 中毒とは、中毒時の救急処置と検査 事前学習:特になし 事後学習(40分):講義内容をよく復習する				杉山 誠
7	溺水への対応 刺咬症への対応	溺水とは、溺水時の救急処置と検査 刺咬とは、刺咬症時の救急処置と検査 事前学習:特になし 事後学習(40分):講義内容をよく復習する				杉山 誠
8	精神症状への対応	救急でよくみられる精神症状とは、精神症状時の救急処置と検査 事前学習:特になし 事後学習(40分):講義内容をよく復習する				杉山 誠

評価	定期試験100%
課題に対するフィードバックの方法	医療関連ニュースの解説(例)新型コロナウイルス感染
教科書	系統看護学講座 第6版 別巻3 救急看護学、山勢博彰著、2018年、ISBN:978-4260032544
参考図書など	救急診療指針 改訂第5版/日本救急医学会専門医認定委員会、日本救急医学会/へるす出版/2018年 ISBN:978-4892699450
アクティブ・ラーニング	心肺蘇生トレーニングの実習と見学
実務経験のある教員による授業	実際の臨床の現場に沿った具体的な内容の解説をする。
留意事項	特になし

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
リハビリテーション概論 Introduction to rehabilitation	必修	講義	2単位 (30時間)	1年前期	鶴見隆正	○
ナンバリングコード	HOTD1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門基礎科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
保健医療福祉とリハビリテーションの理念						
授業概要	リハビリテーションの歴史と理念および医学的リハ、社会的リハ、職業的リハ、教育的リハを推進するうえでのICFの視点、多職種連携の意義とその有り様、地域包括ケアシステムとの関連性について教授する。具体的にはノーマライゼーション、障害者の自立を目指す就労支援や自立支援の在り方、さらに地域リハビリテーションではCBRの理念を踏まえた地域包括ケアシステムとの関連性を解説し、リハビリテーションマインドに基づく理学・作業療法の展開を教授する。					
到達目標	1)リハビリテーションの定義、理念と原則を理解し、障害分類との位置づけを理解できる。 2)患者・障害者の心理・社会的側面を理解し、ILやノーマライゼーションの背景と意味を理解できる。 3)リハビリテーション医療におけるチーム医療について理解できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）			担当教員	
1	リハビリテーション総論①オリエンテーションと医療の原点	リハビリテーション専門職を目指した原点を想起しながらリハビリテーションの位置づけを理解する 事前学習(10分):教科書(専攻分野)の第1章を通読しリハビリテーションの語彙を理解する 事後学習(10分):リハの語源の意味合い、定義の背景を復習する			鶴見隆正	
2	リハビリテーション総論②リハビリテーションとは	リハビリテーションの定義、語源とその背景を理解する 事前学習(10分):医療や福祉の時事問題等からリハビリテーションを考える 事後学習(10分):リハビリテーションの定義を復習する			鶴見隆正	
3	リハビリテーション総論③ノーマライゼーションとIL運動	ノーマライゼーションとIL運動の発祥とその背景を理解する 事前学習(10分):身近な生活場面でのノーマライゼーションを思考する 事後学習(15分):ノーマライゼーションとIL運動を復習する			鶴見隆正	
4	リハビリテーション総論④我が国のノーマライゼーション	国内のノーマライゼーションの現状と課題を理解する 事前学習(10分):身近な生活場面でのノーマライゼーションを思考する 事後学習(10分):ノーマライゼーションの課題を考える			鶴見隆正	
5	リハビリテーション総論⑤ADL (activities of daily living)とQOL (quality of life)	ADLとQOLの定義・特性と分類について理解する 事前学習(10分):自身の1日のADLを振り返りどのような動作・意義があるかを思考する 事後学習(10分):資料を基にADLとQOLの定義・特性を復習する			鶴見隆正	
6	健康と医学的リハビリテーションの対象	健康と障害との関連を学ぶ医学的リハ対象を理解する 事前学習(10分):健康の定義を考え医学的リハの対象・障害を思考する 事後学習(15分):資料を基に健康や医学的リハの対象・障害を復習する			鶴見隆正	
7	脳血管障害事例からリハビリテーションを考える	事例の発症から社会復帰までの過程の課題を考える 事前学習(5分):脳の解剖を概観する 事後学習(15分):中枢神経メカニズムを復習する			鶴見隆正	
8	リハビリテーションの領域	リハビリテーションの四領域とその背景について理解する 事前学習(10分):医学的リハの対象疾患から派生する諸課題を思考する 事後学習(15分):リハの各領域の目標、課題等について資料を基に復習する			鶴見隆正	
9	障害の概念とICF	障害分類の変遷とICFの意義についてリハビリテーション立場から理解する 事前学習(10分):障害について思考し、国際的な障害分類について学習する 事後学習(15分):資料を参考にして障害分類、ICFの意義を復習する			鶴見隆正	
10	リハビリテーション関連職種とチームアプローチ	リハビリテーションに関連する各専門職の役割とチーム医療について理解する 事前学習(10分):人の身体機能の計測や機能評価について思考する 事後学習(10分):資料を参考にリハ関連職種・役割・位置づけを復習する			鶴見隆正	
11	リハビリテーション評価	リハビリテーション領域での身体的評価法、社会的評価表などの目的方法を理解する 事前学習(10分):人の身体機能の計測や機能評価について思考する 事後学習(10分):資料を基に身体機能の計測法、機能評価法などについて復習する			鶴見隆正	
12	地域リハビリテーション	地域リハビリテーションの変遷、地域包括ケア等について理解する 事前学習(10分):地域リハビリテーションを思考し、目指す専門職との関連性を考える 事後学習(10分):資料を基に地域リハビリテーションの意義、展開を復習する			鶴見隆正	

13	リハビリテーションにおけるチーム医療	チーム医療の目的、組織、アプローチについて理解する 事前学習(10分):医療現場、福祉行政現場における専門職の役割を思考する 事後学習(15分):資料を基にチーム医療を概観し各専門職間の連携を復習する	鶴見隆正
14	事例のチーム医療の発表 I	模擬事例に対するリハアプローチをチーム医療の観点でプレゼンテーションする 事前学習(20分):プレゼンテーションに向けてパワーポイントにて準備する 事後学習(20分):プレゼンテーションの内容を再確認する	鶴見隆正
15	事例のチーム医療の発表 II	各事例に関するチーム医療をGWにてプレゼンテーションをする 事前学習(20分):プレゼンテーションに向けてパワーポイントにて準備する 事後学習(20分):発表後の質疑を振り返り学習をする	鶴見隆正

評価	筆記試験(70%)と小テスト(30%)で評価
課題に対するフィードバックの方法	定義、各種アプローチ等については、事例等の経緯、ICFによる現状から多面的にフィードバックする
教科書	PT学生:加藤宗規編集(2018):PTスタートガイド 基礎理学療法概論 メジカルビュー社 第1版 ISBN:9784758319218 OT学生:「作業療法概論」(改訂第3版 2011)日本作業療法士協会監修 協同医書出版 ISBN:978-4-7639-2118-5
参考図書など	中村隆一編著(2009):入門リハビリテーション概論、医歯薬出版(ISBN:978-4-263-21326-1) 中山孝(編):ビジュアルレクチャー理学療法基礎治療学 I 運動療法 医歯薬出版(ISBN:978-4-263-21806-8)
アクティブ・ラーニング	模擬事例の演習を通してリハ対応についてALを促す。13・14・15コマ
実務経験のある教員による授業	大学病院で24年間の臨床経験を基に、リハビリテーションを臨床的に講義する
留意事項	初回講義時に説明する

授業科目の名称	必修・選択の別	授業形態	単位数(時間数)	配当年次	科目担当教員	実務経験のある教員による科目
医療制度と関連法規 Medical system, nursing insurance and the other laws	必修	講義	1単位 (15時間)	1年後期	中本 久之	○
ナンバリングコード	HPTB1/HOTA1	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門基礎科目	DP3) 相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4) 保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5) 幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。					
保健医療福祉とリハビリテーションの理念						

授業概要	理学療法士または作業療法士としての職責を遂行するための基本的な法規の内容を理解するために、保健医療福祉制度(主としてリハビリテーション専門職に関係する保健医療制度)に関連する主要な法律と保険の基本的枠組みについて講義を行う。		
到達目標	1) 法規(医療保険, 介護保険, 障害者総合支援法)の理解と理学療法士・作業療法士の置かれた立場について理解し、それぞれの領域での役割を説明することができる 2) 地域包括ケアシステムの中での理学療法士・作業療法士の役割を理解し、説明できる。 3) 社会のニーズを捉え、理学療法士・作業療法士としての将来像を形成できる。		
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)	担当教員
1	理学療法と作業療法の専門性	職種の専門性について相互理解をする 事前学習:(30分) 理学療法概論、作業療法概論の復習と志望理由の振り返りを行う 事後学習:(30分) 授業内容を振り返る。日本理学療法士協会、日本作業療法士協会のHPを閲覧する	中本 久之
2	医療制度と理学療法士・作業療法士 I	医療制度における理学療法士・作業療法士の役割について(概論) 事前学習:(20分) 理学療法概論、作業療法概論の復習をする 事後学習:(30分) 講義内容を確認する	中本 久之
3	医療制度と理学療法士・作業療法士 II	医療関連施設における理学療法士・作業療法士の役割について(各論) 事前学習:(20分) 前回講義内容の復習をする 事後学習:(20分) 講義内容を確認する	中本 久之
4	介護保険制度の中の理学療法士・作業療法士 I	介護保険法における理学療法士・作業療法士の役割について(概論) 事前学習:(20分) レジユメの介護保険部分を予読する 事後学習:(20分) 講義内容を確認する	中本 久之
5	介護保険制度の中の理学療法士・作業療法士 II	介護保険法関連施設における理学療法士・作業療法士の役割について(各論) 事前学習:(30分) 前回講義内容の復習をする 事後学習:(20分) 講義内容を確認する	中本 久之
6	地域包括ケアシステム	今、地域で理学療法士・作業療法士に求められていることは? 事前学習:(30分) 地域包括ケアシステムについてインターネット記事を調べる 事後学習:(20分) 講義内容を確認する	中本 久之
7	総合支援法の中の理学療法士・作業療法士	総合支援法における理学療法士・作業療法士の役割を解説する 事前学習:(30分) レジユメの総合支援法部分を予読する 事後学習:(20分) 講義内容を確認する	中本 久之
8	これからの理学療法士・作業療法士像と職業倫理/制度改定の概要	世の中の様々なニーズと職業倫理のバランスについて/制度改定の変遷と今年のトピックス 事前学習:(30分) 前回講義内容の復習をする 事後学習:(40分) 本講義全体の内容を改めて復習する	中本 久之

評価	定期試験76%、授業時の提出課題24%で評定を行う ※授業後に授業の振り返りとしてmanabaにアンケートを毎回オープンします。「授業で学んだこと」「質問」をそれぞれ記入することを事後課題とします。期日に入力し、よく書けている場合は3点、記入があまりない場合は2点、期日から遅れて提出の場合は1点、未提出は0点とする。
課題に対するフィードバックの方法	manabaにおけるフィードバック及び授業内での補足説明を行う
教科書	指定なし(本講義用に関連法規についてまとめた資料を使用)
参考図書など	厚生労働省など関連省庁のHPの該当ページについて講義内で紹介をする
アクティブ・ラーニング	講義の中で適宜グループワークやディスカッションを行う
実務経験のある教員による授業	作業療法士としての回復期リハビリテーション病棟、外来、訪問看護ステーションでの臨床経験を活かして、臨床において遵守すべき法律と倫理観についての考え方を講義する
留意事項	特になし

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
終末期医療論 Terminal care theory	必修	講義	1単位 (15時間)	3年前期	平野 克治	○
ナンバリングコード	HPTC1/HOTD1	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門基礎科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
保健医療福祉とリハビリテーションの理念						

授業概要	主にがんと悪性腫瘍に対する終末期を対象とする。日本におけるターミナルケア、緩和医療の進歩と課題を学ぶ。各個人によって異なる「終末期」を支援するために、考慮すべきことは何か、実践すべきことは何かを理解する。また、医療全般にわたる緩和医療・緩和ケアの介入の必要性について理解し、よりよい終末期医療、患者及び患者家族の支援について考える。
------	--

到達目標	1)がんの進行期・終末期の患者にみられる代表的な身体症状と治療について説明できる 2)がんの進行期・終末期の患者の精神・心理的問題について説明できる 3)緩和ケアチームの役割について説明できる 4)緩和ケアにおけるリハビリテーションの役割について説明できる
------	---

回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）	担当教員
1	終末期医療の概念	終末期医療とは。終末期医療の現状と課題 事前学習(20分):「終末(期)医療」でネット検索し該当したHPを読む 事後学習(40分):配布資料と教科書で復習する	平野 克治
2	患者の抱える痛みや苦しみ 1	がん患者の身体症状と緩和ケア ① 事前学習(20分):教科書 P26-41を読む 事後学習(40分):配布資料と教科書で復習する	平野 克治
3	患者の抱える痛みや苦しみ 2	がん患者の身体症状と緩和ケア ② 事前学習(20分):教科書P68-132を読む 事後学習(40分):配布資料と教科書で復習する	平野 克治
4	患者の抱える痛みや苦しみ 3	がん患者の精神症状と緩和ケア 事前学習(20分):教科書P42-47を読む 事後学習(40分):配布資料と教科書で復習する	平野 克治
5	“緩和ケア病棟とは 緩和ケアチームの役割と活動”	緩和ケアチームが行う支援 事前学習(20分):教科書 教科書P14-17とP168-178を読む 事後学習(40分):配布資料と教科書で復習する	平野 克治
6	緩和ケアにおけるリハビリテーションの意義	終末期の患者のリハビリテーション。医師としてOT/PTに求めるもの。 事前学習(20分):教科書P60-66を読む 事後学習(40分):配布資料と教科書で復習する	平野 克治
7	家族支援のあり方	家族支援の意義とあり方 事前学習(20分):教科書 P192-210 を読む 事後学習(40分):配布資料と教科書で復習する	平野 克治
8	医療者のストレスマネジメント	自分自身のためのストレスマネジメント 事前学習(20分):教科書P264-269を読む 事後学習(40分):配布資料と教科書で復習する	平野 克治

評価	定期試験80%、提出物12%、授業参加態度8%として評価する。
課題に対する フィードバックの方法	DNRのレポートに対してコメントする。
教科書	緩和ケアが主体となる時期のがんのリハビリテーション 中山書店 ISBN:978-4521737171
参考図書など	終末期リハビリテーションの臨床アプローチ(メジカルビュー ISBN:978-4-7583-1718-4) がんのリハビリテーションマニュアル(ISBN:978-4-260-04643-5)
アクティブ・ラーニング	リハスタッフとして終末期の患者に何が出来るかグループワークを通じて学習する。
実務経験のある 教員による授業	内科医の診療経験を活かして、終末期に必要な医療について講義する。
留意事項	適宜提示する

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
理学療法教養基礎 Liberal Arts and Foundation for Physical Therapy	必修	演習	2単位 (30時間)	1年前期	坂上 昇・大森圭貢・小林和彦・柴田昌和・鶴見隆正 森尾裕志・山田拓実・齊藤琴子・櫻井好美・中尾陽光 大村優慈・下田栄次・中村壽志・土田将之	○
ナンバリングコード	HPTA1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
基礎理学療法学						
授業概要	学生が円滑に大学生活に移行できるように、大学のシステムを理解するとともに、大学で学ぶためのスタディ・スキル(基本的な学習技術)を身に付ける。また、理学療法士という医療専門職を目指す学生として守るべき規範やとるべき学習態度を理解する。					
到達目標	1)大学という場とそこでの学びとはどういうものなのかを理解する。 2)大学で学ぶためのスタディ・スキルを理解する。 3)医療専門職に求められる素養を理解する。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習 (予習・復習・課題等)			担当教員	
1	大学での学び(履修登録・成績評価ほか)	大学生活を円滑に送るための教務的な取り決め、DPやCPを教授する。 事前学習:学生便覧を読み、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを確認してくる。 事後学習(30分):講義資料と学修内容をノートにまとめる。			大森 圭貢	
2	医療専門職を目指す大学生の礼節について	社会生活の基礎となる礼儀・礼節の意義と重要性について教授する。 事前学習:礼儀や礼節がなぜ必要か考えてくる。 事後学習(30分):講義資料と学修内容をノートにまとめる。			小林 和彦	
3	SNSの利用とその注意点	SNSなどインターネット利用についてとその注意点、また、情報の伝達の仕方(ビジネスメールの書き方)について教授する。 事前学習:なし 事後学習(30分):講義資料と学修内容をノートにまとめる。			中尾 陽光	
4	大学で学ぶとは?	大学で学ぶことの意義や目的について、演習形式で考える。 事前学習:なし 事後学習(30分):講義資料と学修内容をノートにまとめる。			坂上 昇	
5	医学を学ぶ心構え	医学の登竜門となる解剖学や生理学などの基礎医学の重要性について教授する。 事前学習:病気とは何かを調べ、説明できるようにする。 事後学習(30分):講義資料と学修内容をノートにまとめる。			柴田 昌和	
6	ノートの取り方(授業の理解に向けて)	授業の理解を深め、疑問点を発見できるようなノート・テイクを教授する。 事前学習:事前に配布する資料を熟読してくる。 事後学習(30分):講義資料と学修内容をノートにまとめる。			櫻井 好美	
7	ノートの取り方(定期試験やレポートに向けて)	定期試験やレポート作成時に有用なノート・テイクを教授する。 事前学習:事前に配布する資料を熟読してくる。 事後学習(30分):講義資料と学修内容をノートにまとめる。			櫻井 好美	
8	情報の探し方(図書館の利用方法)	大学において学修や研究を進めるための情報を得る手段として、図書館の利用方法を教授する。 事前学習:なし 事後学習(30分):講義資料と学修内容をノートにまとめる。			下田 栄次	
9	情報の探し方(インターネットの利用方法)	大学において学修や研究を進めるための情報を得る手段として、インターネットの利用方法を教授する。 事前学習:なし 事後学習(30分):講義資料と学修内容をノートにまとめる。			中村 壽志	
10	本・文献の読み方	大学の学習において重要である本・文献の読み方について教授する。 事前学習:なし 事後学習(30分):講義資料と学修内容をノートにまとめる。			鶴見 隆正	
11	レポートの書き方(基本的なルール)	基本的な文書の書き方やルール、レポートの形式について教授する。 事前学習:なし 事後学習(30分):講義資料と学修内容をノートにまとめる。			山田 拓実	
12	レポートの書き方(PCソフトの使用 方法)	レポートを作成するための Word、Excel、Power Point の基本的な使い方について教授する。 事前学習:なし 事後学習(30分):講義資料と学修内容をノートにまとめる。			森尾 裕志	

13	医学用語	医学、特に理学療法領域において用いられる専門用語(日本語)について教授する。 事前学習:なし 事後学習(30分):講義資料と学修内容をノートにまとめる。	大村 優慈
14	理学療法士の臨床	大学において理学療法を学ぶための動機付けとして、理学療法士の実際の臨床業務を紹介する。 事前学習:なし 事後学習(30分):講義資料と学修内容をノートにまとめる。	土田 将之
15	自己分析	本授業、あるいは前期全体を振り返って、これまでの自分、またこれからの医療人としての自分について考える。 事前学習:なし 事後学習(30分):講義資料と学修内容をノートにまとめる。	斉藤 琴子

評価	レポート(100%)にて評価する。
課題に対するフィードバックの方法	試験結果についてフィードバックを希望する学生に対しては、教員が適宜、直接説明する。
教科書	網本和(監)、加藤宗規(編)(2023):PTスタートガイド 基礎理学療法概論改訂第2版、メジカルビュー社(ISBN:978-4-7583-2256-0)
参考図書など	①佐藤望 編著(2019):アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門、慶應義塾大学出版会(ISBN:978-4-7664-1960-3) ②石井一成(2011):ゼロからわかる 大学生のためのレポート・論文の書き方、ナツメ社(ISBN:978-4-8163-5057-3)
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション・プレゼンテーション
実務経験のある教員による授業	理学療法士としての臨床現場での学生指導の経験を活かして、理学療法士という医療専門職を目指す学生として守るべき規範やとるべき学習態度について講義する。
留意事項	特になし

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
理学療法概論 Principles of Physical Therapy	必修	講義	1単位 (30時間)	1年前期	小林 和彦	○
ナンバリングコード	HPTE1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
基礎理学療法学						
授業概要	理学療法士としての臨床経験を活かし、理学療法とは何か、理学療法の役割と専門性について概説する。具体的にはリハビリテーションの概要、リハビリテーション医学における位置づけ、業務内容、学問的体系等について論じ、将来、理学療法士となるための動機づけを行うとともに理学療法に関する基本的な知識を教授する。本講義は最初の理学療法専門科目であり、理学療法に対する意欲、興味関心、基礎的価値観を養う。					
到達目標	1)リハビリテーションにおける理学療法の位置付けについて習得し、その基本的事項を説明できる。 2)理学療法・理学療法士について習得し、その基本的事項を説明できる。 3)理学療法の具体的な流れについて習得し、その基本的事項を説明できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）				担当教員
1	理学療法士の仕事と対象及び現状	理学療法士の業務、理学療法の対象、理学療法士の現状について概説する。 事前学習(30分):テキストp.2～p.7を読んでくる。 事後学習(60分):授業にて重要であると指摘した、専門用語の理解と記憶に務める。				小林 和彦
2	理学療法士の定義と意義及び仕事の間	理学療法士の定義と意義、理学療法士の職場について概説する。 事前学習(30分):テキストp.8～p.13を読んでくる。 事後学習(60分):授業にて重要であると指摘した、専門用語の理解と記憶に務める。				小林 和彦
3	理学療法士への過程と関連職種	理学療法士なるまでの過程と関連する職種について概説する。 事前学習(30分):テキストp.14～p.19を読んでくる。 事後学習(60分):バランスとは、バランスの難易度、評価のための考え方について復習する。				小林 和彦
4	筋力トレーニングと麻痺の回復促進	筋力と増強トレーニング及び麻痺と回復促進法について概説する。 事前学習(30分):テキストp.20～p.23を読んでくる。 事後学習(60分):授業にて重要であると指摘した、専門用語の理解と記憶に務める。				小林 和彦
5	関節可動域訓練と物理療法	関節可動域とその訓練法および物理療法について概説する。 事前学習(30分):テキストp.24～p.29を読んでくる。 事後学習(60分):授業にて重要であると指摘した、専門用語の理解と記憶に務める。				小林 和彦
6	バランス訓練と義肢・装具・車椅子・杖・歩行器	バランスとその訓練法及び義肢・装具・車椅子・杖・歩行器に関する基礎的事項について概説する。 事前学習(30分):テキストp.30～p.31、p.36～p.39を読んでくる。 事後学習(60分):授業にて重要であると指摘した、専門用語の理解と記憶に務める。				小林 和彦
7	日常生活活動と廃用症候群	日常生活活動とその練習法及び廃用症候群について概説する。 事前学習(30分):テキストp.40～p.43、p.44～p.45を読んでくる。 事後学習(60分):授業にて重要であると指摘した、専門用語の理解と記憶に務める。				小林 和彦
8	脳卒中、パーキンソン病	脳卒中、パーキンソン病に関する基礎的事項について概説する。 事前学習(30分):テキストp.46～p.49を読んでくる。 事後学習(60分):授業にて重要であると指摘した、専門用語の理解と記憶に務める。				小林 和彦
9	脊髄損傷、変形性関節症、スポーツ外傷、膝の靭帯損傷	脊髄損傷、変形性関節症、スポーツ外傷、膝の靭帯損傷に関する基礎的事項について概説する。 事前学習(30分):テキストp.50～p.55を読んでくる。 事後学習(60分):授業にて重要であると指摘した、専門用語の理解と記憶に務める。				小林 和彦
10	呼吸器疾患と循環器疾患、糖尿病	呼吸器疾患と循環器疾患、糖尿病に関する基礎的事項について概説する。 事前学習(30分):テキストp.58～p.61を読んでくる。 事後学習(60分):授業にて重要であると指摘した、専門用語の理解と記憶に務める。				小林 和彦
11	緩和ケア、フィットネス・介護予防、リラクゼーション・痛みの治療	がんなどの緩和ケア、フィットネス・介護予防、リラクゼーション・痛みの治療に関する基礎的事項について概説する。 事前学習(30分):テキストp.62～p.67を読んでくる。 事後学習(60分):授業にて重要であると指摘した、専門用語の理解と記憶に務める。				小林 和彦
12	理学療法の基本となる考え方	ICF、ADL、QOL、IL運動、ノーマライゼーション、について概説する。 事前学習(30分):テキストp.74～p.79を読んでくる。 事後学習(60分):バランスとは、バランスの難易度、評価のための考え方について復習する。				小林 和彦

13	理学療法の基本となる用語	バリアフリー、ユニバーサルデザイン、疾病予防、職業倫理 事前学習(30分):テキストp.80~p.83を読んでくる。 事後学習(60分):授業にて重要であると指摘した、専門用語の理解と記憶に務める。	小林 和彦
14	接患・接遇	接遇、医療面接、インフォームドコンセントについて概説する。 事前学習(30分):テキストp.84~p.91を読んでくる。 事後学習(60分):授業にて重要であると指摘した、専門用語の理解と記憶に務める。	小林 和彦
15	一般的な理学療法の流れ	理学療法士及び作業療法士法について概説する。 事前学習(30分):情報収集・検査測定、問題点の抽出、ゴール設定、治療計画等を調べてくる。 事後学習(60分):授業にて重要であると指摘した、専門用語の理解と記憶に務める。	小林 和彦

評価	小テスト15% 筆記試験85%。
課題に対する フィードバックの方法	授業時に口頭説明にて行う。
教科書	①加藤宗規編集(2024):PTスタートガイド 基礎理学療法概論 メジカルビュー社 第2版(ISBN:9784758319218) ②授業用資料を授業時に配布
参考図書など	①内山靖編集(2014):標準理学療法学 理学療法学概説、医学書院(ISBN:978-4-7583-2256-0) ②石川朗総編集(2017):15レクチャー理学療法テキスト 理学療法概論、中山書店(ISBN:978-4-521-73233-6) ③庄本康治編集(2017):PT・OTビジュアルテキスト 理学療法概論(2017)、羊土社(ISBN:978-4-7581-0224-7)
アクティブ・ラーニング	アクティブラーニングとして、授業内に適宜ディスカッションを取り入れる。
実務経験のある 教員による授業	理学療法士の資格を有し病院・施設における臨床活動の経験から、理学療法の基本的な内容について実践的な授業を行う。
留意事項	主に専門用語の意味を自学自習し、理解することが重要である。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
理学療法概論演習 Practice of Physical Therapy	必修	演習	1単位 (15時間)	1年後期	小林 和彦、中尾 陽光	○
ナンバリングコード	HPTE2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。					
基礎理学療法学						
授業概要	本講義では、理学療法士としての臨床経験を活かし、臨床上、理学療法士が体験しておくべき重要課題について体験実習を行う。各課題についてグループディスカッションを行う中で、なぜそのようなことを学ぶ必要があるのか、理学療法士として知っておく必要があるのか、等に関する気づきや学びを得る。そして、学びの成果をレポートにまとめ提出する。					
到達目標	1)障害のある人を理解できる。 2)患者とのコミュニケーションの取り方を理解できる。 3)理学療法における主なアプローチの方法を体験し、理学療法士の業務内容を具体的にイメージできるようになる。 4)理学療法士が対象とする障害のある人の心理面を理解し、その人の悩みや苦しみを想像することができる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）				担当教員
1	障害のある人(脳性麻痺者)を理解する	脳性まひの病態・障害、脳性まひ者の生活について概説する。1人の脳性まひ青年の生き方を知り、レポートにまとめる。 事前学習(20分): 授業内容に関連する資料・参考図書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 授業で実施した内容を理解し、全体的に復習する。				小林 和彦
2	患者様とコミュニケーションを取る	コミュニケーションの基礎、望ましい非言語行動について概説する。患者役と理学療法士役に分かれてロールプレイングを行い、レポートにまとめる。 事前学習(20分): 授業内容に関連する資料・参考図書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 授業で実施した内容を理解し、全体的に復習する。				小林 和彦
3	障害のある方の車椅子操作を体験する	車椅子の各部分の名称とその役割について概説する。片麻痺者の車椅子操作を体験、グループディスカッションを行い、レポートにまとめる。 事前学習(20分): 授業内容に関連する資料・参考図書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 授業で実施した内容を理解し、全体的に復習する。				小林 和彦
4	障害のある方の車椅子移動を体験する	車椅子介助の方法について概説する。歩道を自力走行し、不整路や坂道、段差などを体験する。グループディスカッションを行い、レポートにまとめる。 事前学習(20分): 授業内容に関連する資料・参考図書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 授業で実施した課題に対してグループでまとめる。				小林 和彦
5	障害のある方の起居動作を体験する	脊髄損傷と頸髄損傷の基本事項について概説する。頸髄損傷者の寝返り・起き上がりを実践し、グループディスカッションの後、レポートにまとめる。 事前学習(20分): 授業内容に関連する資料・参考図書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 授業で実施した内容を理解し、全体的に復習する。				小林 和彦
6	障害のある方の歩行を体験する	脳卒中片麻痺の病態、後遺症および歩行の問題点について概説する。脳卒中片麻痺者の杖歩行を体験後、グループディスカッションを行い、レポートにまとめる。 事前学習(20分): 授業内容に関連する資料・参考図書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 授業で実施した内容を理解し、全体的に復習する。				小林 和彦
7	認知症予防エクササイズを体験する	認知症および軽度認知機能障害の病態、主な症状について概説する。認知症予防エクササイズを体験後、グループディスカッションを行い、レポートにまとめる。 事前学習(20分): 授業内容に関連する資料・参考図書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 授業で実施した内容を理解し、全体的に復習する。				小林 和彦
8	理学療法士によるスポーツ支援について学ぶ	スポーツ理学療法について概説し、その意義・課題等についてグループディスカッションを行い、レポートにまとめる。 事前学習(20分): 授業内容に関連する資料・参考図書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 授業で実施した内容を理解し、全体的に復習する。				中尾 陽光
評価	レポート80%、小テスト20%					
課題に対するフィードバックの方法	授業時に口頭説明にて行う。					
教科書	①加藤宗規編集(2024):PTスタートガイド 基礎理学療法概論 メジカルビュー社 第2版(ISBN:9784758319218) ②授業用資料を授業時に配布					
参考図書など	①山崎靖編集(2014):標準理学療法学 理学療法概説、医学書院(ISBN:978-4-260-01336-9) ②石川朗総編集(2017):15レクチャー-理学療法テキスト 理学療法概論、中山書店(ISBN:978-4-521-73233-6) ③庄本康治編集(2017):PT・OTビジュアルテキスト 理学療法概論(2017)、羊土社(ISBN:978-4-7581-0224-7)					
アクティブ・ラーニング	講義の中で適宜グループワークやディスカッションを行う。					
実務経験のある教員による授業	担当教員は、理学療法士の資格を有し病院・施設等での臨床経験から、各授業内容について実践的な授業を行う。					
留意事項	演習授業であるため、動きやすい服装で参加する。					

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
臨床運動学 Clinical Kinesiology	必修	講義	1単位 (30時間)	2年後期	櫻井 好美	○
ナンバリングコード	HPTE2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。					
基礎理学療法学						

授業概要	寝返り・起き上がり、座位でのリーチ動作、立ち上がり、歩行等の基本動作における関節運動や筋活動について学習し、身体運動がどのようなメカニズムで成り立っているのかを理解する。また、学生同士で動作を観察しあうことにより、健康者の動作の多様性について理解する。さらに動画から患者の異常動作がどのような運動学的要素の異常や破たんによって構成されているのかを明らかにし、異常身体運動の出現メカニズムを運動学的に考察する。					
到達目標	1)寝返り動作のメカニズムを説明できる 2)起き上がり動作のメカニズムを説明できる 3)立ち上がり動作のメカニズムを説明できる 4)着座動作のメカニズムを説明できる 5)歩行のメカニズムを説明できる					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）				担当教員
1	姿勢制御のバイオメカニクス	姿勢制御の基礎的事項 事前学習(30分):1年次基礎運動学の資料で復習しておく 事後学習(60分):配布資料と教科書で復習する				櫻井 好美
2	動作分析の基礎	動作異常に関与する機能障害・代償運動 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分):配布資料と教科書で復習する				櫻井 好美
3	歩行のバイオメカニクス1 歩行の基礎力学	歩行の力学的エネルギー 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分):配布資料と教科書で復習する				櫻井 好美
4	歩行のバイオメカニクス2 立脚期	立脚期の各相の概要・3つのロッカーファンクション 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分):配布資料と教科書で復習する				櫻井 好美
5	歩行のバイオメカニクス3 遊脚期・重心制御と股関節の両側性活動	遊脚期の各相の概要・重心制御と股関節の両側性活動 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分):配布資料と教科書で復習する				櫻井 好美
6	歩行のバイオメカニクス4 歩行中の筋活動	歩行中の筋活動と関節モーメント 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分):配布資料と教科書で復習する				櫻井 好美
7	歩行のバイオメカニクス5 歩行の神経機構 異常歩行	歩行の神経機構 異常歩行 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分):配布資料と教科書で復習する				櫻井 好美
8	歩行の分析	歩行分析のポイントを動画を用いて解説する。【グループワーク】歩行分析を行う。 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分):配布資料と教科書で復習する				櫻井 好美
9	寝返り動作のバイオメカニクス1	寝返り動作の運動パターンとメカニズム 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分):配布資料と教科書で復習する				櫻井 好美
10	寝返り動作のバイオメカニクス2	寝返り動作の分析 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分):配布資料と教科書で復習する				櫻井 好美
11	起き上がり動作のバイオメカニクス1	起き上がり動作の運動パターンとメカニズム 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分):配布資料と教科書で復習する				櫻井 好美
12	起き上がり動作のバイオメカニクス2	起き上がり動作の分析 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分):配布資料と教科書で復習する				櫻井 好美

13	立ち上がり動作のバイオメカニクス	立ち上がり動作の運動パターンとメカニズム 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分): 配布資料と教科書で復習する	櫻井 好美
14	着座動作のバイオメカニクス2	着座動作の運動パターンとメカニズム 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分): 配布資料と教科書で復習する	櫻井 好美
15	立ち上がり・着座動作の分析	観察による立ち上がり・着座動作の分析【グループワーク】動作分析を行う。 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(60分): 配布資料と教科書で復習する	櫻井 好美

評価	小テスト20% 定期試験80%
課題に対するフィードバックの方法	小テストは原則として実施後1週間以内に返却する。 定期試験については、終了後に講評ならびに模範解答の説明会を行う。
教科書	1) 動作分析 臨床活用講座/石井慎一郎著/メジカルビュー/2013/ISBN:978-4758314749 2) 15レクチャーシリーズ 臨床運動学/石川 朗 編集/中山書店/2015/ISBN:978-4521736655
参考図書など	臨床に役立つ歩行運動学、島中泰彦著、運動と医学の出版社/ISBN:978-4904862551 身体運動学 関節の制御機構と筋機能、市橋則明編、メジカルビュー社/ISBN:978-4758317122
アクティブ・ラーニング	各講義中に動作理解のための演習を行う。第8回と15回では観察による動作分析のグループワークを行う。
実務経験のある教員による授業	講師は理学療法士としての臨床経験ならびに各種動作分析研究の実績から、基本動作のバイオメカニクスと評価の基礎を解説する。
留意事項	単元の部位を触察できる服装(Tシャツ・スパッツ等)で受講すること。スカートでの受講は認めない。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
統計学 Statistics	必修	講義	1単位 (30時間)	1年後期	五嶋 裕子	○
ナンバリングコード	HPTA2	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP2) 科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP5) 幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6) 卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
基礎理学療法学						

**授業概要**  
本講義では仮説をデータに基づいて統計的に検証したり、データ解析の結果から、新たな事実を発見したりするときに役立つ統計的手法を身に付ける。講義はデータの整理の仕方、平均、分散等を求める記述統計学より始め、確率、母集団、標本抽出、確率分布を学び、最終的に推定、検定といった推測統計学を解説、演習する。本講義は、理学療法学研究法、作業療法学研究法、卒業研究の基礎となる科目である。

**到達目標**  
1) データ解析の基礎を学び、データの管理を行える。  
2) 得られたデータの要約を行うことができる。  
3) データから母集団の推定、検定を行うことができる。  
4) 理学療法を行う上で、統計学がどのように用いられているのか理解できる。

回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）	担当教員
1	統計学の基礎	統計学の概略を理解する。統計学の必要性を理解する。 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 用語の確認など、授業全体について復習する。	五嶋 裕子
2	データの尺度・特性値・グラフ	データの尺度分類や特性値を理解する。グラフの特徴・意味を理解する。 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 用語の確認など、授業全体について復習する。	五嶋 裕子
3	推定と検定の基礎	推定の仕組みを理解する。統計的仮説検定の仕組みを理解する。 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 用語の確認など、授業全体について復習する。	五嶋 裕子
4	Rコマンドの操作方法、2標本の差の検定 パラメトリック法	Rコマンドの使用方法、2標本の差の検定の概要と検定結果の読み方、適用の注意点を理解する。 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 用語の確認・実際の使用方法について復習する。	五嶋 裕子
5	1標本の差の検定 パラメトリック法	1標本の差の検定の概要と検定結果の読み方、適用の注意点を理解する。 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 用語の確認・実際の使用方法について復習する。	五嶋 裕子
6	差の検定 ノンパラメトリック法、差の検定演習	差の検定のパラメトリック法とノンパラメトリック法を理解し、差の検定の全体を整理し、演習を行う。 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 用語の確認・実際の使用方法について復習する。	五嶋 裕子
7	相関・回帰分析	相関・回帰分析の概要と検定結果の読み方、適用の注意点を理解する。 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 用語の確認・実際の使用方法について復習する。	五嶋 裕子
8	相関・回帰分析 演習	相関・回帰分析の全体を整理し、演習を行う。 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 用語の確認・実際の使用方法について復習する。	五嶋 裕子
9	分割表の検定	分割表の検定の概要と結果の読み方、適用の注意点を理解し、演習を行う。 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 用語の確認・実際の使用方法について復習する。	五嶋 裕子
10	診断の指標、信頼性係数	診断の指標、信頼性係数の概要と結果の読み方、適用の注意点を理解し、演習を行う。 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 用語の確認・実際の使用方法について復習する。	五嶋 裕子
11	一元配置分散分析	一元配置分散分析の概要と結果の読み方、適用の注意点を理解し、演習を行う。 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 用語の確認・実際の使用方法について復習する。	五嶋 裕子
12	反復測定	反復測定の概要と結果の読み方、適用の注意点を理解し、演習を行う。 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 用語の確認・実際の使用方法について復習する。	五嶋 裕子

13	重回帰分析	重回帰分析の概要と結果の読み方、適用の注意点を理解し、演習を行う。 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 用語の確認・実際の使用方法について復習する。	五嶋 裕子
14	多重ロジスティック回帰分析	多重ロジスティック回帰分析の概要と結果の読み方、適用の注意点を理解し、演習を行う。 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 用語の確認・実際の使用方法について復習する。	五嶋 裕子
15	総復習、演習	これまでのデータの整理と提出、実際の研究の活用法を紹介する。 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 用語の確認・実際の使用方法について復習する。	五嶋 裕子

評価	レポート 100%
課題に対するフィードバックの方法	講義内演習
教科書	リハビリテーション統計学(15レクチャーシリーズ リハビリテーションテキスト)、中山書店、ISBN-13:978-4521736679
参考図書など	1) 対馬栄輝 SPSSで学ぶ医療系データ解析 東京図書 ISBN-13:978-4489022586 2) 対馬栄輝 医療統計改易使いこなし実践ガイド 羊土社 ISBN-13:978-4758102483 他講義中に提示する
アクティブ・ラーニング	講義内で類似問題の演習を実施
実務経験のある教員による授業	理学療法士と理学(数学)学士の資格を有しており、臨床研究の経験を活かして、データ解析について実践的な授業を行う。
留意事項	レポートや演習で使用するデータ保存用のUSBを準備すること。データの管理には十分気を付けること。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
理学療法学研究法 Theory and Application in Physical Therapy Research	必修	講義	1単位 (15時間)	3年前期	山田拓実	○
ナンバリングコード	HPTE2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。					
基礎理学療法学						

授業概要	理学療法学研究法では、理学療法における研究の必要性について論じ、研究の形態や手順について研究例を提示しながら、研究テーマの設定、文献検索方法、研究目的と方法、結果分析の方法、考察の実際について教授する。		
到達目標	1) 理学療法士が行う研究の意味やその必要性を理解し、説明できる。 2) 研究テーマ・研究モデルの設定、仮説の設定、研究計画立案を理解し、説明できる。 3) 研究の手順、統計処理方法、結果のまとめ方、論文作成の仕方を理解し、説明できる。 4) 1)～3)により4年次の卒業課題研究へと展開し、実践できる。		
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）	担当教員
1	研究の必要性と研究テーマの見つけ方	研究の必要性、重要性、分類、研究テーマの見つけ方、リサーチアクションについて教授する(pp6-pp10)。 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 講義内容・資料をまとめ、ノートを整理する。	山田拓実
2	文献検索の方法	文献検索の方法について教授する。 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 講義内容・資料を参考にして、文献検索をする。	山田拓実
3	研究デザイン1(シングルケース法)	研究テーマとリサーチアクションをプレゼンテーションする。研究デザインの概要とシングルケース法について教授する(pp15-57) 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 研究テーマを見つけ、リサーチアクションを再考する。	山田拓実
4	研究デザイン2(観察研究, アンケート調査, 介入・実験研究)	観察研究, アンケート調査, 介入(実験)研究について教授する(pp15-57) 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): リサーチアクションを明らかにする研究デザインを考える。	山田拓実
5	測定尺度・測定指標	測定尺度の特徴を知り、機器を使用した測定の注意点について教授する。 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 講義内容・資料をまとめ、ノートを整理する。	山田拓実
6	統計手法	統計手法の選択方法について教授する(pp57-pp137)。 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 講義内容・資料をまとめ、ノートを整理する。	山田拓実
7	論文化、図・表の書き方	論文化と図・表の特徴、書き方、ポスター発表の準備や手順について教授する。 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 講義内容・資料をまとめ、ノートを整理する。	山田拓実
8	研究倫理と研究計画、まとめ	研究倫理と研究計画の立案、研究計画書の作成について教授する(pp139-168)。 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 講義内容・資料をまとめ、ノートを整理する。	山田拓実

評価	小テスト20% 定期試験80%
課題に対する フィードバックの方法	小テストは、後の講義の際に解答を示し、学生の質問を受け回答する。定期試験結果には講評を作成し、掲示によって学生に公開する。
教科書	臨床研究の道標 第2版<下巻> 福原俊一(著) ISBN-13:978-4903803272
参考図書など	臨床研究の道標 第2版<上巻> 福原俊一(著) ISBN-13:978-4903803265
アクティブ・ラーニング	研究テーマとリサーチアクションをプレゼンテーションする。
実務経験のある 教員による授業	大学病院で臨床・研究、および大学院で院生の臨床研究の指導に従事していたことを授業に反映させる。
留意事項	1年次で学んだ「研究法入門」、「統計学」の授業を復習しておくこと、授業の理解度が高まります。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
理学療法研究法演習 Theory and Application in Physical Therapy Research	必修	演習	1単位 (30時間)	3年後期	坂上 昇・大森圭貢・小林和彦・鶴見隆正 森尾裕志・山田拓実・斉藤琴子・櫻井好美・中尾陽光 大村優慈・下田栄次・中村壽志・土田将之	○
ナンバリングコード	HPTE2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1) 看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2) 科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3) 相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4) 保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5) 幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6) 卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
基礎理学療法学						
授業概要	理学療法研究法演習はゼミ形式で実践する。学生自らが設定した研究テーマについて具体的な方法論、データ解析法、文献収集、考察方法などの一連の研究手法に関して実践し、その流れの中で科学的な背景を明らかにするまで手法を修得する。本講義で決定したテーマを4年次の卒業研究テーマとして継続し、学修を進めるため、プレ実験まで行う。					
到達目標	1) 研究課題を見つけ出すために文献検索ができる。 2) 研究テーマを設定し、研究計画を立案できる。 3) プレ実験、データ解析を行うことができる。 4) 研究計画の発表を行うことができる。 5) 4年次の卒業研究に繋げる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）			担当教員	
1 ～ 13	講義1回目～講義13回目	「講義1回目～講義13回目」  指導教員の指導の下、以下の内容を遂行する。 1) 研究テーマの探索(文献検索、ディスカッション) 2) 文献クリティーク 3) 研究テーマの設定 4) 研究計画の立案 5) プレ実験 6) プレ実験データの解析 7) 研究計画書の作成と発表プレゼンテーションの作成			坂上 昇 大森 圭貢 小林 和彦 鶴見 隆正 森尾 裕志 山田 拓実 斉藤 琴子 櫻井 好美 中尾 陽光 大村 優慈 下田 栄次 中村 壽志 土田 将之	
14 ～ 15	講義14回目～講義15回目	「講義14回目～講義15回目」 8) 学会形式での研究計画の口述発表			坂上 昇 大森 圭貢 小林 和彦 鶴見 隆正 森尾 裕志 山田 拓実 斉藤 琴子 櫻井 好美 中尾 陽光 大村 優慈 下田 栄次 中村 壽志 土田 将之	
評価	研究計画書(40%)、発表(40%)、研究遂行能力(10%)、参加度(10%)で評価する。					
課題に対する フィードバックの方法	成績評価についてフィードバックを希望する学生に対しては、教員が適宜、直接説明する。					
教科書	網本和、高倉保幸(2017):臨床研究first stage、医学書院(ISBN:978-4-260-03227-8)					
参考図書など	①山田実 編著(2016):PT・OTのための臨床研究はじめの一步、羊土社(ISBN:978-4-7581-0216-2) ②内山靖、島田裕之(2014):標準理学療法学 専門分野 理学療法研究法 第3版、医学書院(ISBN:978-4-260-01547-9) ③千住秀明、玉利光太郎(2014):初めての研究法 第2版、神陵文庫(ISBN:978-4-915814-30-3) ④石川朗、種村留美(2015):15レクチャーシリーズ リハビリテーションテキストリハビリテーション統計学、中山書店(INBS:978-4-521-73667-9)					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション					
実務経験のある 教員による授業	理学療法士としての臨床経験と研究活動経験を活かして、研究の方法論、データ解析法、文献収集、考察方法などについて教授する。					
留意事項	ゼミ形式の授業であり、教員1人に対して数名の学生がつくこととなる。学生の振り分けについては授業開講前に別途行う。授業開講の曜日、時間は担当となった教員によって異なるので指示に従うこと。					

授業科目の名称	必修・選択の別	授業形態	単位数(時間数)	配当年次	科目担当教員	実務経験のある教員による科目
理学療法卒業研究 Graduation Research of Physical therapy	必修	演習	4単位 (120時間)	4年通期	坂上 昇・大森圭貢・小林和彦・鶴見隆正 森尾裕志・山田拓実・斉藤琴子・櫻井好美・中尾陽光 大村優慈・下田栄次・中村壽志・土田将之	○
ナンバリングコード	HPTE2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。					
基礎理学療法学	DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					

**授業概要**  
 学生が自ら研究課題を設定し、指導教員のもと主体的な問題解決の研究過程を経験する。研究上の倫理を尊重したうえで科学的な手法によって研究を実施し、その成果を卒業研究発表会において発表するとともに卒業論文としてまとめる。  
 ゼミ形式で、データ収集からデータ解析、考察、論文作成までを行う。プレゼンテーションの基本、発表資料作成を学び、卒業研究発表会で発表を行う。

**到達目標**  
 1)理学療法学に関するテーマに基づいて、研究論文を作成する。  
 2)研究内容の主旨を学会形式で発表できる。

回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)	担当教員
1 ～ 26	講義1回目 ～ 講義26回目	「講義1回目～講義26回目」 理学療法研究法演習で作成した研究計画書に基いた内容を自分の研究テーマとする。 指導教員の指導の下、以下の内容を遂行する。 1)研究テーマに関連した文献調査 2)実験研究手法の学習、実験装置を用いたデータを収集と分析 3)調査研究手法の学習、フィールド調査とデータ分析 4)研究論文の作成	坂上 昇 大森 圭貢 小林 和彦 鶴見 隆正 森尾 裕志 山田 拓実 斉藤 琴子 櫻井 好美 中尾 陽光 大村 優慈 下田 栄次 中村 壽志 土田 将之
27 ～ 30	講義27回目 ～ 講義30回目	「講義27回目～講義30回目」 5)学会形式での卒業論文の口述発表	坂上 昇 大森 圭貢 小林 和彦 鶴見 隆正 森尾 裕志 山田 拓実 斉藤 琴子 櫻井 好美 中尾 陽光 大村 優慈 下田 栄次 中村 壽志 土田 将之

評価	卒業研究の内容(80%)、発表(20%)で評価する。
課題に対するフィードバックの方法	成績評価についてフィードバックを希望する学生に対しては、教員が適宜、直接説明する。
教科書	網本和、高倉保幸(2017):臨床研究first stage、医学書院(ISBN:978-4-260-03227-8)
参考図書など	①山田実 編著(2016):PT・OTのための臨床研究ははじめの一步、羊土社(ISBN:978-4-7581-0216-2) ②内山靖、島田裕之(2014):標準理学療法学 専門分野 理学療法研究法 第3版、医学書院(ISBN:978-4-260-01547-9) ③千住秀明、玉利光太郎(2014):初めての研究法 第2版、神陵文庫(ISBN:978-4-915814-30-3) ④石川朗、種村留美(2015):15レクチャーシリーズ リハビリテーションテキスト リハビリテーション統計学、中山書店(INBS:978-4-521-73667-9)
アクティブ・ラーニング	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション
実務経験のある教員による授業	理学療法士としての臨床経験と研究活動経験を活かして、一連の研究過程を教授する。
留意事項	授業開講の曜日、時間は担当となった教員によって異なるので指示に従うこと。指導教員と研究内容について十分に討論すること。倫理的配慮の点から、研究プロトコルは倫理審査委員会の審査を受けること。

IV 専門基礎科目  
専門科目

授業科目の名称	必修・選択の別	授業形態	単位数(時間数)	配当年次	科目担当教員	実務経験のある教員による科目
理学療法管理学 I Administration for Physical Therapy	必修	講義	1単位 (15時間)	3年前期	大森 圭貢	○
ナンバリングコード	HPTE2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。					
理学療法管理学						

授業概要	医療、福祉の現場で理学療法を行う上で必要となる理学療法士としての倫理と管理運営について理解する。 理学療法管理学 I では、患者のリスク管理、リスクマネジメントにおける記録・報告の方法、感染の基礎と予防の実態、職場運営管理、機材管理について学習する。
------	--

到達目標	1) 理学療法士としての倫理、職場の管理運営の必要性を理解できる。 2) 起こりうるリスクの管理方法を理解できる。 3) 理学療法管理で求められる記録・報告ができる。
------	---

回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)	担当教員
1	理学療法士の倫理と職場の管理運営	理学療法士の倫理と職場の管理運営について教授する(資料配付)。 事前学習(30分): 倫理について調べてくる。 事後学習(60分): 配付資料をもとにして、授業全体について復習する。	大森 圭貢
2	運動療法に伴うリスクとその管理	運動療法に伴うリスクと、その原因およびマネジメントについて教授する(pp1-9)。 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 配付資料と教科書をもとにして、授業全体について復習する。	大森 圭貢
3	リスク管理に必要な検査データ	理学療法を行ううえで把握すべき検査データについて教授する(資料配布)。 事前学習(30分): 貧血、栄養の指標となる検査データを調べてくる。 事後学習(60分): 理学療法を行ううえで把握すべき検査データを覚える。	大森 圭貢
4	感染および凝固異常に対するリスク管理	感染および凝固異常によって生じるリスクと、その把握および対応方法について教授する(資料配付、pp149-151)。 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 感染および凝固異常によって生じるリスクと、その把握および対応方法を覚える。	大森 圭貢
5	循環器疾患に対するリスク管理	虚血性心疾患および心不全者の理学療法時に考えるべきリスクと、その把握方法および対応方法について教授する(資料配付、pp11-20、pp31-37)。 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 虚血性心疾患および心不全者の理学療法時のリスクと対応方法を覚える。	大森 圭貢
6	脳血管障害患者に対するリスク管理	虚血性脳血管障害者および出血性脳血管障害者の理学療法時に考えるべきリスクと、その把握方法および対応方法について教授する(資料配付)。 事前学習(30分): 脳神経外科学を復習してくる。 事後学習(60分): 脳血管障害者の理学療法時のリスクと対応方法を覚える。	大森 圭貢
7	理学療法記録の方法	理学療法実施記録の方法について教授する(資料配付)。 事前学習(30分): 倫理を復習し、理学療法の記録について調べてくる。 事後学習(60分): 理学療法実施記録の方法を覚える。	大森 圭貢
8	理学療法記録の実践	提示事例の理学療法実施の際のリスクマネジメントと、理学療法記録について演習し、ディスカッションを行う(資料配付)。 事前学習(30分): 前回の授業までの配付資料を読んでくる。 事後学習(60分): 理学療法実施記録ができる。	大森 圭貢

評価	定期試験 70%、小テスト 30% として評価する。
課題に対するフィードバックの方法	小テストは、後の講義の際に解答を示し、学生の質問を受け、回答する。定期試験結果には講評を作成し、掲示によって学生へ公開する。
教科書	内部障害理学療法学テキスト/山崎裕司・川俣幹雄・丸岡弘(編集)/南江堂/改訂第4版/ISBN: 978-4-524-23117-1
参考図書など	疾患別リハビリテーション リスク管理マニュアル. 聖マリアノ医療大学リハ部(編)、ヒューマンプレス(ISBN: 978-4908933110)
アクティブ・ラーニング	理学療法実施の際のリスクマネジメントと理学療法記録についての演習、ディスカッション
実務経験のある教員による授業	大学病院と地域において急性期と生活期の理学療法に従事した理学療法士が講義する。
留意事項	この講義で学習する内容は、「理学療法概論」「神経系理学療法学」「運動器系理学療法学」「呼吸・循環系理学療法学」「代謝系理学療法学」「老年期理学療法学」「評価学実習」での学習に関連する。講義中、毎回発言を求める。必ず、事前学習を行って授業に臨んでいただきたい。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
理学療法管理学Ⅱ Administration for Physical Therapy Ⅱ	必修	講義	1単位 (15時間)	3年後期	下田 栄次	○
ナンバリングコード	HPTE2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
理学療法管理学						
授業概要	保健医療、福祉の現場で理学療法を行う上で必要となる理学療法士としての危機管理について理解する。 理学療法管理学Ⅱでは、リスクマネジメントとクライシスマネジメントの両面から危機管理の概念について、災害危機管理では、災害リハビリテーション支援の実際から多職種連携と地域連携および予防・保健について学習する。					
到達目標	1) 理学療法士として必要な危機管理について理解できる。 2) 災害危機管理で起こりうるリスクの管理方法と事後対応について理解できる。 3) 災害リハビリテーション支援におけるマネジメントの方法を理解できる。 4) 災害時の多職種連携および予防・保健について理解できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）			担当教員	
1	危機管理とは	理学療法士に関連する危機管理について教授する(教科書pp80-99) 事前学習(30分):リスク、クライシス、ハザードについて調べる。 事後学習(60分):配付資料など、授業全体について復習する。			下田 栄次	
2	「リスクマネジメント」と 「リスクコミュニケーション」	危機管理に関する概念として「リスクマネジメント」と「リスクコミュニケーション」について教授する(資料配付)(教科書pp158-173) 事前学習(30分):リスクマネジメントとリスクコミュニケーションについて調べる。 事後学習(60分):配付資料など、授業全体について復習する。			下田 栄次	
3	「クライシスマネジメント」と 「クライシスコミュニケーション」	危機が発生した後の事後対応として「クライシスマネジメント」と「クライシスコミュニケーション」について教授する 事前学習(30分):クライシスマネジメントとクライシスコミュニケーションについて調べる。 事後学習(60分):配付資料など、授業全体について復習する。			下田 栄次	
4	災害危機管理① 総論	災害の定義と分類、災害対策としての「防災」と「減災」について教授する 事前学習(30分):災害の分類、防災と減災について調べる。 事後学習(60分):配付資料など、授業全体について復習する。			下田 栄次	
5	災害危機管理② 災害リハビリテーション支援	災害時におけるリハビリテーション支援について教授する 事前学習(30分):災害リハビリテーションについて調べる。 事後学習(60分):配付資料など、授業全体について復習する。			下田 栄次	
6	災害危機管理③ 避難所等における生活環境支援	災害時に防災拠点となる避難所等の分類と避難所生活環境支援について教授する 事前学習(30分):避難所の分類について調べる。 事後学習(60分):配付資料など、授業全体について復習する。			下田 栄次	
7	災害危機管理④ 多職種連携と地域連携	平時・災害時における多職種連携・地域連携について教授する(教科書pp121-156) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を熟読する。 事後学習(60分):配付資料など、授業全体について復習する。			下田 栄次	
8	災害危機管理⑤ 予防・保健 まとめ	平時・災害時における予防活動・地域保健活動について教授する(教科書pp56-63) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を熟読する。 事後学習(60分):配付資料など、授業全体について復習する。			下田 栄次	
評価	定期試験 70%、小テスト 30%として評価する。					
課題に対する フィードバックの方法	小テストは、後の講義の際に解答を示し、学生の質問を受け、回答する。定期試験結果には講評を作成し、掲示によって学生へ公開する。					
教科書	斉藤秀之、能登真一：標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 リハビリテーション管理学。医学書院。(ISBN:978-4-260-04312-0)					
参考図書など	鶴見隆正、陸島研吾 編：標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学第6版。医学書院。(ISBN:978-4-260-04751-7) 日本災害リハビリテーション支援協会 編：災害リハビリテーション標準テキスト第2版。医歯薬出版。(ISBN:978-4-263-21885-3) 陸島研吾、田中康之 編：ビルドアップ地域理学療法。医歯薬出版。(ISBN:978-4-263-26644-1)					
アクティブ・ラーニング	各講義のまとめとして、危機管理や生活環境支援に関するグループワークおよびディスカッションを行う。					
実務経験のある 教員による授業	理学療法部門管理者としての実務経験と、豊富な災害支援経験に基づき、適宜、対応事例を提示し、理解を深める。					
留意事項	この講義で学習する内容は「理学療法概論」「老年期理学療法学」「地域理学療法学」での学習に関連する。講義中、毎回発言を求め、必ず、事前学習を行って授業に臨んでいただきたい。					

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
検査測定学概論 Introduction to Tests and Measurements of Physical Therapy	必修	講義	1単位 (30時間)	1年後期	坂上 昇	○
ナンバリングコード	HPT2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
理学療法評価学						
授業概要	理学療法を実施するにあたって、理学療法評価は大変重要であり、理学療法士として備えなければならない基本的臨床技能である。その中でも、理学療法評価に関連する諸事項、情報収集、医療面接、一般的な検査測定、バイタルサインの意義や目的、進め方をこの授業において教授する。バイタルサインについて、患者の全身状態を把握するための重要な技能であり、最終講に演習を行う。					
到達目標	1)理学療法評価について説明できる。 2)障害モデルについて説明できる。 3)理学療法評価に必要な医療情報とそれを収集するための医療面接について説明できる。 4)理学療法評価において比較的、一般的に実施される検査・測定の意義・目的、検査手順を説明できる。 5)2年次の科目である「検査測定学演習」、「神経系検査測定学」、「運動器系検査測定学」の履修につなげる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）				担当教員
1	理学療法評価の総論(理学療法評価の意義・目的など)	理学療法評価の意義・目的、過程、および障害モデルについて教授する。(教科書 第1章) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 教科書、配付資料に目を通し、授業全体について復習する。				坂上 昇
2	理学療法評価の総論(理学療法評価の種類、記録方法など)	理学療法評価の種類、実施時期とその目的、記録方法について教授する。(教科書 第1章) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 教科書、配付資料に目を通し、授業全体について復習する。				坂上 昇
3	評価の基本 一般的情報収集	医療情報の種類、収集の仕方、その内容の解釈について教授する。(教科書 第2章) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 教科書、配付資料に目を通し、授業全体について復習する。				坂上 昇
4	評価の基本 医療面接	医療情報を収集するために必要な医療面接について、その進め方や配慮点について教授する。(教科書 第3章) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 教科書、配付資料に目を通し、授業全体について復習する。				坂上 昇
5	形態測定	形態測定の意義・目的、その種類、測定の手順、および測定結果の解釈について教授する。(教科書 第5章) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 教科書、配付資料に目を通し、授業全体について復習する。				坂上 昇
6	関節可動域測定	関節可動域測定の意義・目的、その種類、測定の手順、および測定結果の解釈について教授する。(教科書 第6章) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 教科書、配付資料に目を通し、授業全体について復習する。				坂上 昇
7	筋力検査	筋力検査の意義・目的、その種類、検査の手順、および測定結果の解釈について教授する。(教科書 第7章) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 教科書、配付資料に目を通し、授業全体について復習する。				坂上 昇
8	痛みの評価	痛み評価の意義・目的、その種類、評価の手順、および測定結果の解釈について教授する。(教科書 第8章) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 教科書、配付資料に目を通し、授業全体について復習する。				坂上 昇
9	感覚(知覚)検査	感覚検査の意義・目的、その種類、検査の手順、および測定結果の解釈について教授する。(教科書 第8章) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 教科書、配付資料に目を通し、授業全体について復習する。				坂上 昇
10	反射検査	反射検査の意義・目的、その種類、検査の手順、および測定結果の解釈について教授する。(教科書 第9章) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 教科書、配付資料に目を通し、授業全体について復習する。				坂上 昇
11	筋緊張検査	筋緊張検査の意義・目的、その種類、検査の手順、および測定結果の解釈について教授する。(教科書 第9章) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 教科書、配付資料に目を通し、授業全体について復習する。				坂上 昇
12	協調性検査	協調性検査の意義・目的、その種類、検査の手順、および測定結果の解釈について教授する。(教科書 第11章) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 教科書、配付資料に目を通し、授業全体について復習する。				坂上 昇

13	バランス検査	バランス検査の意義・目的、その種類、検査の手順、および測定結果の解釈について教授する。 (教科書 第12章) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 教科書、配付資料に目を通し、授業全体について復習する。	坂上 昇
14	バイタルサイン(種類、測定方法など)	バイタルサインの種類、測定方法、測定結果の捉え方について教授する。(教科書 第4章) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 教科書、配付資料に目を通し、授業全体について復習する。	坂上 昇
15	バイタルサイン(演習)	実際にバイタルサインを測定し、その測定方法を習得する。(教科書 第4章) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 教科書、配付資料に目を通し、授業全体について復習する。	坂上 昇

評価	定期試験(100%)で評価する。
課題に対するフィードバックの方法	試験結果についてフィードバックを希望する学生に対しては、教員が適宜、直接説明する。
教科書	臼田 滋(2014): 理学療法基礎評価学、医歯薬出版(ISBN: 978-4-263-21810-5)
参考図書など	①松澤正(2022): 理学療法評価学 第6版補訂版、金原出版(ISBN: 978-4-307-75068-4) ②石川朗(2013): 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 理学療法評価学 I、中山書店 (ISBN: 978-4-521-73668-6) ③中山恭秀(2022): CrossLink 理学療法テキスト 理学療法評価学、メジカルビュー (ISBN: 978-4-7583-2000-9) ④Dale Avers, Marybeth Brown (2020): 新・徒手筋力検査法原著第10版、協同医書(ISBN: 978-4763900418) ⑤細田多穂・柳澤健(2010): 理学療法ハンドブック(改訂第4版) 第1巻 理学療法の基礎と評価、協同医書 (ISBN: 978-4-7639-1060-8)
アクティブ・ラーニング	これまで講義と見学実習で学んできた基礎知識との関連性の確認のために質疑応答を適宜行う。15回目講義は学生同士による演習を行う。
実務経験のある教員による授業	理学療法士としての臨床経験を活かして、理学療法評価の重要性とその基本的な内容について講義する。
留意事項	教科書と配付資料を併用して授業を行います。各授業に対応する教科書の章を予習して臨むと理解が深まるでしょう。授業を集中して受講し、毎回の復習を欠かさないことが肝要です。授業に関する諸注意については別途説明する。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
検査測定学演習 Practice in Tests and Measurements of Physical Therapy	必修	演習	1単位 (30時間)	2年前期	坂上 昇、中尾 陽光	○
ナンバリングコード	HPTE2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
理学療法評価学						
授業概要	機能・構造障害を評価する上で、必要な身体指標点の確認および骨関節、筋、腱の触診法を学ぶ。具体的には評価を行う上での接遇面の注意点、身体指標点の確認、バイタルサインの確認、上肢、体幹、下肢の触診法を講義する。本講義では学生同士でペアとなって演習を行い、健常者の多様性についても理解を深める。また、バイタルサインの測定も行う。					
到達目標	1)バイタルサイン、痛みの評価、感覚検査、反射・筋緊張検査、協調性検査、バランス検査の意義と目的を理解し、測定を実施することができる。 2)身体指標点および骨・関節、筋、腱などを触診することができる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）			担当教員	
1	バイタルサイン	バイタルサインの種類とその測定方法を教授する。(教科書① 第4章)【実技】 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分):この授業で実施した測定方法を全体的に復習する。			坂上 昇 中尾 陽光	
2	触診(肩甲骨)	肩甲骨の骨指標と筋肉の触診方法を教授する。(教科書② II-1・2、IV-2)【実技】 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分):この授業で実施した測定方法を全体的に復習する。			坂上 昇 中尾 陽光	
3	触診(肩関節・上腕)	肩関節・上腕の骨指標と筋肉の触診方法を教授する。(教科書② II-3、III-1、IV-1・3)【実技】 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分):この授業で実施した測定方法を全体的に復習する。			坂上 昇 中尾 陽光	
4	触診(肘関節・前腕)	肘関節・前腕の骨指標と筋肉の触診方法を教授する。(教科書② II-4・5、III-2、IV-3)【実技】 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分):この授業で実施した測定方法を全体的に復習する。			坂上 昇 中尾 陽光	
5	触診(手関節・手部)	手関節・手部の骨指標と筋肉の触診方法を教授する。(教科書② II-6、III-3、IV-4)【実技】 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分):この授業で実施した測定方法を全体的に復習する。			坂上 昇 中尾 陽光	
6	触診(体幹)	体幹の骨指標と筋肉の触診方法を教授する。(教科書③ IV-1・2)【実技】 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分):この授業で実施した測定方法を全体的に復習する。			坂上 昇 中尾 陽光	
7	触診(骨盤)	骨盤の骨指標と筋肉の触診方法を教授する。(教科書③ I-1、II-1、III-1)【実技】 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分):この授業で実施した測定方法を全体的に復習する。			坂上 昇 中尾 陽光	
8	触診(股関節・大腿)	股関節・大腿の骨指標と筋肉の触診方法を教授する。(教科書③ I-2、II-1、III-1・2)【実技】 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分):この授業で実施した測定方法を全体的に復習する。			坂上 昇 中尾 陽光	
9	触診(膝関節・下腿)	膝関節・下腿の骨指標と筋肉の触診方法を教授する。(教科書③ I-3、II-2、III-3)【実技】 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分):この授業で実施した測定方法を全体的に復習する。			坂上 昇 中尾 陽光	
10	触診(足関節・足部)	足関節・足部の骨指標と筋肉の触診方法を教授する。(教科書③ I-4、II-3、III-2)【実技】 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分):この授業で実施した測定方法を全体的に復習する。			坂上 昇 中尾 陽光	
11	痛みの評価	痛みの評価の種類とその評価方法を教授する。(教科書① 第8章および配付資料)【実技】 事前学習(30分):授業内容に関する教科書および1年の検査測定学概論で配布した資料の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分):この授業で実施した評価方法を全体的に復習する。			坂上 昇 中尾 陽光	

12	感覚検査	感覚検査の種類とその検査方法を教授する。(教科書① 第8章)(教科書④ 5)【実技】 事前学習(30分):授業内容に関する教科書および1年の検査測定学概論で配布した資料の該当箇所を読む。 事後学習(40分):この授業で実施した測定方法を全体的に復習する。	坂上 昇 中尾 陽光
13	反射・筋緊張検査	反射・筋緊張検査の種類とその検査方法を教授する。(教科書① 第9章)(教科書④ 4)【実技】 事前学習(30分):授業内容に関する教科書および1年の検査測定学概論で配布した資料の該当箇所を読む。 事後学習(40分):この授業で実施した測定方法を全体的に復習する。	坂上 昇 中尾 陽光
14	協調性検査	協調性検査の種類とその検査方法を教授する。(教科書① 第11章)(教科書④ 8)【実技】 事前学習(30分):授業内容に関する教科書および1年の検査測定学概論で配布した資料の該当箇所を読む。 事後学習(40分):この授業で実施した測定方法を全体的に復習する。	坂上 昇 中尾 陽光
15	バランス検査	バランス検査の種類とその検査方法を教授する。(教科書① 第12章)【実技】 事前学習(30分):授業内容に関する教科書および1年の検査測定学概論で配布した資料の該当箇所を読む。 事後学習(40分):この授業で実施した評価方法を全体的に復習する。	坂上 昇 中尾 陽光

評価	筆記試験(40%)、実技試験(60%)で評価する。 ただし、一方の試験の得点が配点の50%未満の場合は、合算で60%に達していても合格とはしない。
課題に対する フィードバックの方法	試験結果についてフィードバックを希望する学生に対しては、教員が適宜、直接説明する。
教科書	①白田 滋(2014):理学療法基礎評価学、医歯薬出版(ISBN:978-4-263-21810-5) ②林 典雄(2022):運動療法のための機能解剖学的触診技術<上肢> 改訂第2版 動画+,メジカルビュー社(ISBN:978-4-7583-2093-1) ③林 典雄(2022):運動療法のための機能解剖学的触診技術<下肢・体幹> 改訂第2版 動画+,メジカルビュー社(ISBN:978-4-7583-2094-8)
参考図書など	①松澤正(2022):理学療法評価学 第6版補訂版、金原出版(ISBN:978-4-307-75068-4) ②石川朗(2013):15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 理学療法評価学1、中山書店(ISBN:978-4-521-73668-6) ③中山恭秀(2022):CrossLink 理学療法テキスト 理学療法評価学、メジカルビュー社(ISBN:978-4-7583-2000-9) ④河上敬介・磯貝香(2015):改訂第2版 骨格筋の形と触察法、大峰閣(ISBN:978-4-9980686-2-4) ⑤野島元雄(1996):図解 四肢と脊椎の診かた、医歯薬出版(ISBN:4-263-20368-2)
アクティブ・ラーニング	学生同士がペアとなり、主体的に理学療法評価に必要な検査・測定を演習形式で学ぶ。
実務経験のある 教員による授業	理学療法士としての臨床経験を活かして、授業項目に挙げている検査・測定、触診について演習を通じて教授する。
留意事項	授業は主に教科書の範囲ですが、単元によっては1年の科目である解剖学、生理学、検査測定学概論などの知識が求められます。予習をして臨むと理解が深まります。また、学修量が多くなるので、授業を集中して受講し、毎回の復習を欠かさないことが肝要です。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
運動器系検査測定学 Practice in Tests and Measurements of Musculoskeletal conditions	必修	演習	1単位 (30時間)	2年後期	坂上 昇、中尾 陽光	○
ナンバリングコード	HPTE2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
理学療法評価学						
授業概要	各種運動障害の評価に共通した基本的評価法である形態計測法、関節可動域検査、筋力検査を中心にそれらの理論と実際について講義する。各検査の方法、適応、意義、別法を講義したのち、学生同士でペアとなって演習を行う。演習では、身体部位の固定法、機器の使用法と起こりやすい間違い、代償動作等について詳しく解説する。					
到達目標	1)形態測定の意味と目的を理解し、測定を実施することができる。 2)関節可動域測定の意味と目的を理解し、測定を実施することができる。 3)徒手筋力検査の意味と目的を理解し、検査を実施することができる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）			担当教員	
1	形態測定(四肢長・肢節長)	四肢長・肢節長の種類、その測定方法を教授する。(教科書① 第5章)【実技】 事前学習(30分):授業内容に関する教科書および1年の検査測定学概論で配布した資料の該当箇所を読む。 事後学習(40分):この授業で実施した測定方法を全体的に復習する。			中尾 陽光 坂上 昇	
2	形態測定(周径)	身体の周径の種類、その測定方法を教授する。(教科書① 第5章)【実技】 事前学習(30分):授業内容に関する教科書および1年の検査測定学概論で配布した資料の該当箇所を読む。 事後学習(40分):この授業で実施した測定方法を全体的に復習する。			中尾 陽光 坂上 昇	
3	関節可動域測定(股関節)	股関節の関節可動域測定の種類とその測定方法を教授する。(教科書① 第6章)【実技】 事前学習(40分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読む。配布した予習課題に取り組み提出する。 事後学習(40分):この授業で実施した測定方法を全体的に復習する。			中尾 陽光 坂上 昇	
4	関節可動域測定(膝関節・足関節・足部)	膝関節・足関節・足趾の関節可動域測定の種類とその測定方法を教授する。(教科書① 第6章)【実技】 事前学習(40分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読む。配布した予習課題に取り組み提出する。 事後学習(40分):この授業で実施した測定方法を全体的に復習する。			中尾 陽光 坂上 昇	
5	関節可動域測定(肩甲帯・肩関節)	肩甲帯・肩関節の関節可動域測定の種類とその測定方法を教授する。(教科書① 第6章)【実技】 事前学習(40分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読む。配布した予習課題に取り組み提出する。 事後学習(40分):この授業で実施した測定方法を全体的に復習する。			中尾 陽光 坂上 昇	
6	関節可動域測定(肩関節・肘関節・前腕)	肩関節・肘関節・前腕の関節可動域測定の種類とその測定方法を教授する。(教科書① 第6章)【実技】 事前学習(40分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読む。配布した予習課題に取り組み提出する。 事後学習(40分):この授業で実施した測定方法を全体的に復習する。			中尾 陽光 坂上 昇	
7	関節可動域測定(手関節・手指)	手関節・手指の関節可動域測定の種類とその測定方法を教授する。(教科書① 第6章)【実技】 事前学習(40分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読む。配布した予習課題に取り組み提出する。 事後学習(40分):この授業で実施した測定方法を全体的に復習する。			中尾 陽光 坂上 昇	
8	関節可動域測定(頸部・体幹)	頸部・体幹の関節可動域測定の種類とその測定方法を教授する。(教科書① 第6章)【実技】 事前学習(40分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読む。配布した予習課題に取り組み提出する。 事後学習(40分):この授業で実施した測定方法を全体的に復習する。			中尾 陽光 坂上 昇	
9	徒手筋力測定(股関節)	股関節の徒手筋力検査の種類とその検査方法を教授する。(教科書② 第6章)【実技】 事前学習(40分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読む。配布した予習課題に取り組み提出する。 事後学習(40分):この授業で実施した測定方法を全体的に復習する。			中尾 陽光 坂上 昇	
10	徒手筋力測定(膝関節・足関節・足趾)	膝関節・足関節・足趾の徒手筋力検査の種類とその検査方法を教授する。(教科書② 第6章)【実技】 事前学習(40分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読む。配布した予習課題に取り組み提出する。 事後学習(40分):この授業で実施した測定方法を全体的に復習する。			中尾 陽光 坂上 昇	

11	徒手筋力測定(肩甲帯)	肩甲帯の徒手筋力検査の種類とその検査方法を教授する。(教科書② 第5章)【実技】 事前学習(40分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。配布した予習課題に取り組み提出する。 事後学習(40分):この授業で実施した測定方法を全体的に復習する。	中尾 陽光 坂上 昇
12	徒手筋力測定(肩関節)	肩関節の徒手筋力検査の種類とその検査方法を教授する。(教科書② 第5章)【実技】 事前学習(40分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。配布した予習課題に取り組み提出する。 事後学習(40分):この授業で実施した測定方法を全体的に復習する。	中尾 陽光 坂上 昇
13	徒手筋力測定(肘関節・前腕)	肘関節・前腕の徒手筋力検査の種類とその検査方法を教授する。(教科書② 第5章)【実技】 事前学習(40分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。配布した予習課題に取り組み提出する。 事後学習(40分):この授業で実施した測定方法を全体的に復習する。	中尾 陽光 坂上 昇
14	徒手筋力測定(手関節・手指)	手関節・手指の徒手筋力検査の種類とその検査方法を教授する。(教科書② 第5章)【実技】 事前学習(40分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。配布した予習課題に取り組み提出する。 事後学習(40分):この授業で実施した測定方法を全体的に復習する。	中尾 陽光 坂上 昇
15	徒手筋力測定(頸部・体幹)	頸部・体幹の徒手筋力検査の種類とその検査方法を教授する。(教科書② 第3・4章)【実技】 事前学習(40分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。配布した予習課題に取り組み提出する。 事後学習(40分):この授業で実施した測定方法を全体的に復習する。	中尾 陽光 坂上 昇
評価	筆記試験(40%)、実技試験(60%) ただし、一方の試験の得点が配点の50%未満の場合は、合算で60%に達していても合格とはしない。		
課題に対する フィードバックの方法	試験結果についてフィードバックを希望する学生に対しては、教員が適宜、直接説明する。		
教科書	①白田 滋(2014):理学療法基礎評価学、医歯薬出版(ISBN:978-4263218105) ②Dale Avers, Marybeth Brown(2020):新・徒手筋力検査法原著第10版、協同医書(ISBN:978-4-7639-0041-8)		
参考図書など	①松澤正(2022):理学療法評価学 第6版補訂版、金原出版(ISBN:978-4-307-75068-4) ②石川朗(2013):15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 理学療法評価学Ⅰ、中山書店(ISBN:978-4-521-73668-6) ③中山恭秀(2022):CrossLink 理学療法学テキスト 理学療法評価学、メジカルビュー(ISBN:978-4-7583-2000-9) ④齋藤慶一郎(2016):ROM測定法 代償運動の捉え方と制動法の理解と実践、メジカルビュー(ISBN:978-4-7583-1694-1) ⑤細田多穂・柳澤健(2010):理学療法ハンドブック(改訂第4版) 第1巻 理学療法の基礎と評価、協同医書(ISBN:978-4-7639-1060-8)		
アクティブ・ラーニング	学生同士がペアとなり、主体的に理学療法評価に必要な検査・測定を演習形式で学ぶ。		
実務経験のある 教員による授業	理学療法士としての臨床経験を活かして、授業項目に挙げている検査・測定について演習を通じて教授する。		
留意事項	授業は主に教科書の範囲ですが、単元によっては1年の科目である解剖学、生理学、検査測定学概論などの知識が求められます。予習をして臨むと理解が深まります。また、学修量が多くなるので、授業を集中して受講し、毎回の復習を欠かさないことが肝要です。		

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
神経系検査測定学 Physical Therapy of Evaluation Neurological conditions	必修	演習	1単位 (30時間)	2年前期	斉藤 琴子	○
ナンバリングコード	HPTE2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。					
理学療法評価学						
授業概要	本講義では理学療法で必要となる神経系の疾患による病態及び機能障害の理解を基礎として、検査測定を学びその基本手技を習得する。特に、理学療法で重要となる脳卒中の理学療法評価における検査測定項目について、その目的および方法を詳細に学ぶ。また、それらの知識を整理し、臨床で実践できる評価技術を習得することが本講義における最終目標となる。					
到達目標	1)中枢神経疾患の機能障害のメカニズムを説明できる。 2)中枢神経疾患に関する評価内容を理解し、オリエンテーションから実際の検査まで正しく実施することができる。 3)中枢神経疾患患者に対して適した評価項目を選択し、問題点を明らかにすることができる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）				担当教員
1	中枢神経理学療法の概要	中枢神経理学療法の概要の復習を行う。：教科書①pp148-163、②pp12-43、配布プリント参照 事前学習(20分)：「運動療法学概論」の中核概要を復習しておく。 事後学習(60分)：授業で学んだ内容を理解し、授業全体の復習を行う。理解できなかったことはオフィスアワー等を活用し、質問する。				斉藤 琴子
2	神経機能解剖・画像と病態①	神経機能解剖・画像と病態について学ぶ。教科書①pp560-565、②pp12-31、③pp12-19、118-154、158-176配布プリント参照 事前学習(20分)：「運動療法学概論」の中核概要を復習しておく。 事後学習(60分)：授業で学んだ内容を理解し、授業全体の復習を行う。理解できなかったことはオフィスアワー等を活用し、質問する。				斉藤 琴子
3	基礎医学知識と臨床症状	中枢神経疾患の基礎となる医学的知識を理解し、リスク管理に繋げて考えていく。①p332-338、340-353、②p50-63、配布プリント参照 事前学習(20分)：「運動療法学概論」の中核概要を復習しておく。 事後学習(60分)：授業で学んだ内容を理解し、授業全体の復習を行う。理解できなかったことはオフィスアワー等を活用し、質問する。				斉藤 琴子
4	中枢神経系の理学療法に対する評価	神経系の理学療法に対する評価の知識について、評価の項目全体の概要を学び、3回目以降の基礎とする。教科書①pp198-206、②pp12-43、配布プリント参照 事前学習(20分)：中枢神経系の解剖を復習しておく。 事後学習(60分)：授業で学んだ内容を理解し、授業全体の復習を行う。理解できなかったことはオフィスアワー等を活用し、質問する。				斉藤 琴子
5	リスクマネジメントの知識	中枢疾患に対する、意識レベル、血圧、心拍数、呼吸数について、理解及び評価を学ぶ。教科書②p64-78、配布プリント参照 事前学習(20分)：「運動療法学概論」を復習しておく。 事後学習(60分)：授業で学んだ内容を理解し、授業全体の復習を行う。理解できなかったことはオフィスアワー等を活用し、質問する。				斉藤 琴子
6	筋緊張異常の病態と評価	筋緊張異常の病態を理解し評価を行えるようにする。教科書、②pp25-27、pp70、配布プリント参照 事前学習(20分)：「検査測定学概論」を復習しておく。②pp102、244、335 事後学習(60分)：筋緊張評価スケールMASを実際に行えるように復習する。				斉藤 琴子
7	Brunnstrom stage、連合運動、共同運動について	Brunnstromstageの概念、連合運動、共同運動について学ぶ。教科書②p100~11、配布プリント参照 事前学習(20分)：「運動療法学概論」の中核について復習しておく。 事後学習(60分)：実際に動作を行って、連合運動と共同運動の違いについて復習する。				斉藤 琴子
8	片麻痺運動検査実技Brunnstrom stage 上肢、手指について	Brunnstromstagetest:上肢、手指について学ぶ。教科書②pp100~111、配布プリント参照 事前学習(20分)：Brunnstromstageの概念について復習しておく。 事後学習(60分)：授業で学んだ内容を理解し、授業全体の復習を行う。理解できなかったことはオフィスアワー等を活用し、質問する。				斉藤 琴子

9	片麻痺運動検査実技 Brunnstrom stage 手指、下肢について	Brunnstromstagetest: 手指、下肢について学ぶ②pp100～111, 配布資料参照 事前学習(20分): 与えられた課題の手順や役割分担について確認しておく。教科書②p100～111 事後学習(60分): 実際にBrunnstromstagetestを実施できるように復習する。	斉藤 琴子
10	脳神経検査 1	脳神経検査の意義、適応、注意点、嗅神経、視神経、動眼神経、滑車神経、三叉神経、外転神経を学ぶ: 教科書①pp242-279参照②pp32-37、③pp59配布プリント参照。 事前学習(20分): 脳神経系外科学を復習しておく。 事後学習(60分): 脳神経について復習しておく。	斉藤 琴子
11	脳神経検査 2	顔面神経、内耳神、舌咽神経、迷走神経、副神経、舌下神経を学ぶ。教科書①p242-279②p32-37、配布プリント参照 事前学習(20分): 脳神経の嗅神経、視神経、動眼神経、滑車神経、三叉神経、外転神経の特徴を復習しておく: 教科書①242-279参照 事後学習(60分): 授業で学んだ内容を理解し、授業全体の復習を行う。理解できなかったことはオフィスアワー等を活用し、質問する。	斉藤 琴子
12	協調性検査	協調性検査の意義、適応、注意点、四肢の運動失調検査、測定障害、反復障害を学ぶ: 教科書①p212-217、364-371、②p243-251、配布プリント参照 事前学習(20分): 協調性検査の項目を確認しておく。 事後学習(60分): 授業で学んだ内容を理解し、授業全体の復習を行う。理解できなかったことはオフィスアワー等を活用し、質問する。	斉藤 琴子
13	中枢疾患の理学療法 病態・臨床症状と評価	中枢神経疾患の疼痛、姿勢バランス障害、歩行障害を学ぶ: 教科書①p212-217②p107-111、配布プリント参照 事前学習(20分): 事前に片足立ちで立つ、立位で前後左右にどれくらい身体を移動できるかを行う。 事後学習(60分): 片麻痺者の寝返り、起き上がりを口頭指示および実技を行えるように復習する。	斉藤 琴子
14	問題点抽出、予後予測、その後の ゴール	評価から問題点抽出を行い、予後予測、ゴールについてしっかり考えを繋げられるようにする: 教科書②p131-139、配布プリント参照 事前学習(20分): 講義1回～13回までを復習しておく。 事後学習(60分): 与えられた課題について、各グループで十分なディスカッションを行う。授業で測定した内容を理解し、自分なりにまとめる。	斉藤 琴子
15	提示された症例に対する評価	提示された症例に必要な評価を挙げ、予後予測を検討する: 教科書②p150-158、③158-176、配布プリント参照 事前学習(20分): 1～14回までを復習して、症例に適した評価項目を挙げられるようにしておく。 事後学習(60分): 神経系理学療法学(3年前期)へ知識を繋げられるように内容を理解し、自分なりにまとめる。	斉藤 琴子

評価	試験60%、小テスト40%とする。
課題に対する フィードバックの方法	定期試験結果について、講評をWeb上で掲示する。
教科書	①病気がみえる〈vol.7〉脳・神経(第2版)/医療情報科学研究所(編集)/メディックメディア社/ISBN:978-4-89632-686-4 ②最新理学療法学講座 中枢神経系理学療法学/山口 智史、山田 実/医歯薬出版株式会社/ISBN:978-4263267417 ③改訂版第2版 リハに役立つ脳画像/メジカルビュー社/酒向正春(監修)、大村優慈/ISBN:978-4-7583-2013-9
参考図書など	・臨床実習生・若手PTのための理学療法実践ナビ 脳血管疾患編/園部俊晴(編集)、加藤 渉(編集)、土屋元明(編集)/運動と医学の出版社/ISBN:978-4904862568 ・脳卒中片麻痺の基本動作分析-バイオメカニクスから考える動作パターン分類と治療法の選択/長田悠路/メジカルビュー社/ISBN:978-4758320153 ・動画で学ぶ嚙下内視鏡検査(VE): スコア評価と活用法/兵頭政光/金原出版/ISBN:978-4307371278 ・絵でみる脳と神経 第4版: しくみと障害のメカニズム(第4版)/馬場元毅/医学書院/ISBN:978-4260027830 ・改訂版 もっとよくわかる! 脳神経科学～やっぱり脳はとってもスゴイのだ!/工藤佳久/羊土社; 改訂版(2021/9/2)/ISBN:978-4758122108
アクティブ・ラーニング	学生を少人数のグループに分け、十分なディスカッションを重ねる。
実務経験のある 教員による授業	急性期・回復期・維持期の病院・施設に勤務し、神経障害の理学療法を経験した教員が、中枢神経疾患患者に対して適した評価について講義・実技を行う科目である。
留意事項	運動のできる服装で出席すること。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
動作解析学 Biomechanics	必修	演習	1単位 (30時間)	3年前期	櫻井 好美	○
ナンバリングコード	HPTE2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
理学療法評価学						
授業概要	三次元動作解析装置を用いた運動計測の手法について修得する。床反力や関節モーメントなどの力学パラメータについて説明し、これらの力学パラメータを得るための動作解析手法について実習形式で学習する。運動学、運動力学的知識を応用して、身体運動がどのようなメカニズムで成り立っているのかを考察する。さらに、機器を用いた身体評価、障害評価の実際について教授する。					
到達目標	1) 運動力学的パラメータについて説明できる 2) 三次元動作解析を用いた動作計測の手順を理解する 3) 基本動作のメカニズムについて、運動学的、運動力学的に説明できる 4) 分析したデータの持つ意味を解釈し、説明することができる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）				担当教員
1	動作解析学概論	動作解析の概略と臨床的意義 重心と床反力 事前学習(30分):臨床運動学の講義資料を読み復習しておくこと 事後学習(60分):配布資料の内容を復習する				櫻井 好美
2	基礎バイオメカニクス	関節モーメントとパワー 事前学習(30分):基礎運動学の当該分野について復習しておくこと 事後学習(60分):配布資料の内容を復習する				櫻井 好美
3	動作解析演習 1	【演習・実験】三次元動作解析装置を使用した身体運動の計測 事前学習:特になし 事後学習:特になし				櫻井 好美
4	動作解析演習 2	【演習・実験】三次元動作解析装置を使用した身体運動の計測 事前学習:特になし 事後学習:特になし				櫻井 好美
5	動作解析演習 3	【グループワーク】 データ解析 重心と床反力作用点 起立動作・歩き始め・歩行・階段昇降・着座 グループごとに解析を行う 事前学習(30分):事前課題を読んでおくこと 事後学習(60分):事後課題に取り組む				櫻井 好美
6	動作解析演習 4	【グループワーク】 データ解析 重心と床反力作用点 起立動作・歩き始め・歩行・階段昇降・着座 グループごとに解析を行う 事前学習(30分):事前課題を読んでおくこと 事後学習(60分):事後課題に取り組む				櫻井 好美
7	動作解析演習 5	【グループワーク】 データ解析 重心と床反力作用点 起立動作・歩き始め・歩行・階段昇降・着座 グループごとに解析を行う 事前学習(30分):事前課題を読んでおくこと 事後学習(60分):事後課題に取り組む				櫻井 好美
8	動作解析演習 6	【グループワーク】 データ解析 重心と床反力作用点 起立動作・歩き始め・歩行・階段昇降・着座 グループごとに解析を行う 事前学習(30分):事前課題を読んでおくこと 事後学習(60分):事後課題に取り組む				櫻井 好美
9	動作解析演習 7	【グループワーク】 データ解析 重心と床反力作用点 起立動作・歩き始め・歩行・階段昇降・着座 グループごとに解析を行う 事前学習(30分):事前課題を読んでおくこと 事後学習(60分):事後課題に取り組む				櫻井 好美
10	動作解析演習 8	【グループワーク】 データ解析 重心と床反力作用点 起立動作・歩き始め・歩行・階段昇降・着座 グループごとに解析を行う 事前学習(30分):事前課題を読んでおくこと 事後学習(60分):事後課題に取り組む				櫻井 好美
11	動作解析演習 9	【グループワーク】 データ解析 重心と床反力作用点 起立動作・歩き始め・歩行・階段昇降・着座 グループごとに解析を行う 事前学習(30分):事前課題を読んでおくこと 事後学習(60分):事後課題に取り組む				櫻井 好美
12	動作解析演習 10	【グループワーク】 データ解析 重心と床反力作用点 起立動作・歩き始め・歩行・階段昇降・着座 グループごとに解析を行う 事前学習(30分):事前課題を読んでおくこと 事後学習(60分):事後課題に取り組む				櫻井 好美

13	動作解析演習 11	【グループワーク】課題発表会の準備 事前学習:特になし 事後学習(60分):発表に備えた準備	櫻井 好美
14	課題発表会	課題発表会 事前学習(90分):発表に備えて準備をしておく 事後学習:特になし	櫻井 好美
15	課題発表会	課題発表会 事前学習(90分):発表に備えて準備をしておく 事後学習:特になし	櫻井 好美

評価	進捗状況シート(講義中配布)20% 発表プレゼンテーション 40% レポート40%
課題に対する フィードバックの方法	進捗状況シートは次回の講義で返却する。発表プレゼンテーションについては、発表終了後に講評を述べる。レポートは講評を専攻掲示板に掲示する。
教科書	1)動作分析 臨床活用講座/石井慎一郎著/メジカルビュー/2013/ISBN:978-4758314749 2)15レクチャーシリーズ 臨床運動学/石川 朗 編集/中山書店/2015/ISBN:978-4521736655
参考図書など	臨床に役立つ歩行運動学、島中泰彦著、運動と医学の出版社/ISBN:978-4904862551 身体運動学 関節の制御機構と筋機能、市橋則明編、メジカルビュー社/ISBN:978-4758317122
アクティブ・ラーニング	3次元動作計測の一連の流れを体験する。グループでデータの解析行う。 課題発表の準備を通じて、解析結果の効果的な提示・説明方法について学ぶ。課題発表会では、建設的な質問、質疑応答について学ぶ。
実務経験のある 教員による授業	講師は理学療法士としての臨床経験ならびに三次元動作解析装置を用いた動作分析研究実績をもとに、基本動作の動作分析の基本的手法と解釈の方法について教授する。
留意事項	個人PCの持ち込みを可とする。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
クリニカルリーズニング論 Clinical Reasoning	必修	講義	1単位 (30時間)	3年後期	櫻井 好美・山田 拓実・森尾 裕志 斉藤 琴子・土田 将之・大村 優慈	○
ナンバリングコード	HPTE2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。					
理学療法評価学						
授業概要	クリニカルリーズニングとは臨床的な推論や問題解決の過程をさし、対象者に関する直接および間接の情報、理学療法士の知識、経験、技術を駆使して、対象者の問題点を論理的に推理しながら評価、治療を進める方法である。本科目では症例を通して理学療法の基本的な推論過程を学習し、基本的なクリニカルリーズニングを実施できることを目標とする。					
到達目標	1)クリニカルリーズニングを実施する意義と目的を理解する 2)各種疾患の対象者の問題点を論理的に推理しながら評価する方法を理解する 3)各種疾患の対象者の問題点を論理的に解決するための治療方法について学ぶ					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）				担当教員
1	クリニカルリーズニングの定義	クリニカルリーズニングの定義について教授する 事前学習(30分):検査測定項目について復習しておく 事後学習(60分):配布資料などで復習する				櫻井 好美
2	変形性膝関節症を既往にもつ人工膝関節置換術後患者に対する理学療法の基本的事項	変形性膝関節症に対する理学療法の基本的・一般的事項を教授する 事前学習(30分):変形性膝関節症についての資料・教科書を読んでくる 事後学習(60分):配布資料などで復習する				土田 将之
3	変形性膝関節症を既往にもつ人工膝関節置換術後患者に対するクリニカルリーズニング	人工膝関節置換術後患者に対するクリニカルリーズニングを実例を提示しながら教授する 事前学習(30分):基礎運動学の当該分野について復習しておくこと 事後学習(60分):配布資料などで復習する				土田 将之
4	急性期脳卒中患者に対する理学療法の基本的事項	急性期脳卒中患者に対する理学療法の基本的・一般的事項を教授する 事前学習(30分):事前課題を読んでくること 事後学習(60分):配布資料などで復習する				大村 優慈
5	急性期脳卒中患者に対するクリニカルリーズニング	急性期脳卒中患者に対するクリニカルリーズニングを実例を提示しながら教授する 事前学習(30分):事前課題を読んでくること 事後学習(60分):配布資料などで復習する				大村 優慈
6	回復期脳卒中患者に対する理学療法の基本的事項	回復期脳卒中患者に対する理学療法の基本的・一般的事項を教授する 事前学習(30分):事前課題を読んでくること 事後学習(60分):配布資料などで復習する				斉藤 琴子
7	回復期脳卒中患者に対するクリニカルリーズニング	回復期脳卒中患者に対するクリニカルリーズニングを実例を提示しながら教授する 事前学習(30分):事前課題を読んでくること 事後学習(60分):配布資料などで復習する				斉藤 琴子
8	循環器疾患に対する理学療法の基本的事項	循環器疾患に対する理学療法の基本的・一般的事項を教授する 事前学習(30分):事前課題を読んでくること 事後学習(60分):配布資料などで復習する				森尾 裕志
9	循環器疾患に対するクリニカルリーズニング	循環器疾患に対するクリニカルリーズニングを実例を提示しながら教授する 事前学習(30分):事前課題を読んでくること 事後学習(60分):配布資料などで復習する				森尾 裕志
10	地域在住高齢者に対する理学療法の基本的事項	地域在住高齢者に対する理学療法の基本的・一般的事項を教授する 事前学習(30分):事前課題を読んでくること 事後学習(60分):配布資料などで復習する				山田 拓実
11	地域在住高齢者に対するクリニカルリーズニング	地域在住高齢者に対するクリニカルリーズニングを実例を提示しながら教授する 事前学習(30分):事前課題を読んでくること 事後学習(60分):配布資料などで復習する				山田 拓実
12	腰痛に対する理学療法の基本的事項	腰痛に対する理学療法の基本的・一般的事項を教授する 事前学習(30分):事前課題を読んでくること 事後学習(60分):配布資料などで復習する				櫻井 好美

13	腰痛に対するクリニカルリーズニング	腰痛に対するクリニカルリーズニングを実例を提示しながら教授する 事前学習(90分):発表に備えて準備をしておく 事後学習:特になし	櫻井 好美
14	動作障害に対するクリニカルリーズニング 総論	各種動作障害の原因となる機能障害について教授する 事前学習(30分):事前課題を読んでもくること 事後学習(60分):配布資料などで復習する	櫻井 好美
15	動作障害に対するクリニカルリーズニング 事例検証	各種動作障害の原因となる機能障害の分析について実例を提示しながら教授する 事前学習(30分):事前課題を読んでもくること 事後学習(60分):配布資料などで復習する	櫻井 好美

評価	各教員から課される小テストもしくは課題10% 定期試験90%
課題に対するフィードバックの方法	小テストは原則として実施後1週間以内に返却する。 定期試験については、終了後に講評ならびに模範解答の説明会を行う。
教科書	臼田 滋(2014):理学療法基礎評価学、医歯薬出版(ISBN:978-4263218105)
参考図書など	新人理学療法士のためのスキルアップガイド、佐藤房郎編、医歯薬出版(ISBN:978-4-263-26623-6) 症状・経過観察に役立つ脳卒中の画像のみかた、市川 博雄著、医学書院(ISBN:978-4260019484) 運動器障害理学療法、寒川美奈編、メジカルビュー(ISBN:978-4-7583-2001-6)
アクティブ・ラーニング	評価の実践方法についての演習を行う
実務経験のある教員による授業	講師は理学療法士としての臨床経験を活かして、各種疾患や障害の基本的な知識と手法、評価と臨床推論についての考え方について講義する。
留意事項	演習を取り入れるため、動きやすい服装で受講すること

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
運動療法学概論 Concepts in Therapeutic Exercise	必修	講義	1単位 (30時間)	1年後期	下田 栄次、中村 壽志	○
ナンバリングコード	HPTE2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
理学療法治療学						
授業概要	本講義では、運動療法学の基礎理論と技術に関して学ぶ。各種の疾患・障害に対して適切な運動療法ができるよう、運動療法の歴史、定義、目的、対象、禁忌など運動療法の基本概念を理解する。さらに解剖学、生理学、運動学などの科目と関連づけながら運動療法の基礎理論について理解する。また運動療法で使用する機器等についての理解も深める。					
到達目標	1)運動療法の意義、目的、対象、禁忌など運動療法の基本概念を理解できる。 2)運動療法の基礎理論について理解できる。 3)運動療法で使用する機器等について理解できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）			担当教員	
1	理学療法基礎治療学とは 筋力と運動	運動療法の総論、意義と目的などを教授する。(教科書pp2-7) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を熟読する。 事後学習(30分):配付資料など、授業全体について復習する。			下田 栄次	
2	運動学習	運動学習の定義、運動制御と運動学習、具体的な運動学習方法について教授する。 (教科書pp10-17) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を熟読する。 事後学習(30分):配付資料など、授業全体について復習する。			中村 壽志	
3	関節可動域制限に対する運動療法 1(総論)	基本的な関節運動と制限因子について教授する。(教科書pp20-27) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を熟読する。 事後学習(30分):配付資料など、授業全体について復習する。			中村 壽志	
4	関節可動域制限に対する運動療法 2(各論)	関節可動域運動およびストレッチングについて、具体的な症例を通して教授する。(教科書pp28-42) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を熟読する。 事後学習(30分):配付資料など、授業全体について復習する。			中村 壽志	
5	筋力低下に対する評価方法・運動療法 1(総論)	運動と筋力に関する力学的要因を理解する。筋力増強運動の原理を教授する。 (教科書pp44-53) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を熟読する。 事後学習(30分):配付資料など、授業全体について復習する。			下田 栄次	
6	筋力低下に対する運動療法 2(各論)	運動と筋力に関する力学的要因と筋力増強運動について、具体的な症例を通して教授する。 (教科書pp44-53) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を熟読する。 事後学習(30分):配付資料など、授業全体について復習する。			下田 栄次	
7	運動耐容能増大に対する運動療法 1(総論)	運動耐容能の改善を目的とした運動療法の理論と基本技術について教授する。 (教科書pp59-68) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を熟読する。 事後学習(30分):配付資料など、授業全体について復習する。			下田 栄次	
8	運動耐容能増大に対する運動療法 2(各論)	運動耐容能の改善を目的とした運動療法の理論と基本技術について、具体的な症例を通して教授する。 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を熟読する。 事後学習(30分):配付資料など、授業全体について復習する。			下田 栄次	
9	姿勢保持の改善に対する運動療法	姿勢保持の改善を目的とした運動療法の理論と基本技術、および注意点について教授する。(教科書pp86-94) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を熟読する。 事後学習(30分):配付資料など、授業全体について復習する。			中村 壽志	
10	起居動作の獲得・改善に対する運動療法 1(総論)	起居動作の基礎知識について教授する。(教科書pp70-76) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を熟読する。 事後学習(30分):配付資料など、授業全体について復習する。			中村 壽志	
11	起居動作の獲得・改善に対する運動療法 2(各論)	起居動作の練習方法について、具体的な症例を通して教授する。(教科書pp77-84) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を熟読する。 事後学習(30分):配付資料など、授業全体について復習する。			中村 壽志	
12	移乗動作の獲得・改善に対する運動療法 1(総論)	移乗動作練習の理論と方法について教授する。(教科書pp108-116) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を熟読する。 事後学習(30分):配付資料など、授業全体について復習する。			下田 栄次	

13	移乗動作の獲得・改善に対する運動療法 2(各論)	移乗動作練習の理論と方法について、具体的な症例を通して教授する。(教科書pp108-116) 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を熟読する。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。	下田 栄次
14	歩行の獲得・改善に対する運動療法	歩行能力の改善を目的とした運動療法の理論と基本技術、および注意点について教授する。(教科書pp95-108) 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を熟読する。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。	中村 壽志
15	患者指導とADL指導	患者指導とADL指導の理論と方法について教授する。(教科書pp118-129) 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を熟読する。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。	下田 栄次

評価	定期試験 60%、小テスト 40%で評価する。
課題に対するフィードバックの方法	①小テスト: 小テスト実施の次回以降の授業時間内に、解説を行う。 ②定期試験: 個々に対し、試験結果と間違えた箇所の説明を行う。
教科書	中山孝(編): ビジュアルレクチャー理学療法基礎治療学 I 運動療法. 医歯薬出版. (ISBN: 978-4-263-21806-8)
参考図書など	吉尾雅春、横田一彦 編: 標準理学療法学 運動療法学 総論第5版. 医学書院. (ISBN: 9784260052924) 吉尾雅春: 標準理学療法学 運動療法学 各論第5版. 医学書院. (ISBN: 9784260052931) 高柳清美、中川法一 編: 運動器障害理学療法学テキスト 改訂第3版. 南江堂. (ISBN: 978-4-524-24983-1)
アクティブ・ラーニング	講義中、適宜実技を行う。各講義のまとめとして、運動療法に関する理論や方法について、グループワークおよび演習を行う。
実務経験のある教員による授業	講師は、運動器認定理学療法士の資格を有し、病院やクリニックにおいて該当疾患を担当していた。運動器、骨関節疾患等の専門分野における経験、知識・技術が豊富であり、実践的な授業を行う。
留意事項	講義中、実技を行うことがあるので、動ける服装で臨むこと。 本概論で学習する内容は、「運動療法学基礎演習」「老年期理学療法学」「呼吸・循環系理学療法学」「運動器系理学療法学」「神経系理学療法学」での学習に関連する。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
運動療法学基礎演習 Concepts in Therapeutic Exercise	必修	演習	1単位 (30時間)	2年前期	中尾 陽光、下田 栄次	○
ナンバリングコード	HPTE2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。					
理学療法治療学						
授業概要	運動療法学基礎演習では、身体接触の基本と注意点について学ぶ。さらに運動療法学概論で得た知識を土台として、安楽肢位、動作介助、車いす介助といった初歩の技術から、関節可動域練習、各種の筋力増強練習法について演習形式で学ぶ。本講義を通して、身体に接触する際の心構え、相応しい態度を身につける。また、患者はもちろんのこと学生自身の安全確保の基本を学ぶ。					
到達目標	1) 身体に接触する際の心構え、および相応しい態度について理解できる。 2) 関節可動域練習、筋力増強練習の際の注意点、および基本的なアプローチ方法について理解できる。 3) 基本動作に関わる介助方法、およびその注意点について理解できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）			担当教員	
1	運動療法の理論	運動療法の理論について、演習形式で教授し、その後グループワークで深める。 (教科書pp2-7) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を熟読する。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。			中尾 陽光	
2	関節可動域運動 ストレッチングの基本(上肢)	上肢の基本的な関節可動域運動、ストレッチングについて、その理論と基本的な技術を演習形式で教授し、その後グループワークで深める。(教科書pp20-42) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を熟読する。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。			中尾 陽光	
3	関節可動域運動 ストレッチングの基本(下肢)	下肢の基本的な関節可動域運動、ストレッチングについて、その理論と基本的な技術を演習形式で教授し、その後グループワークで深める。(教科書pp20-42) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を熟読する。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。			中尾 陽光	
4	テーピングの基本	足関節のテーピング方法の基本について演習形式で教授し、その後グループワークで深める。 事前学習(20分): 授業内容に関する資料を熟読する。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。			中尾 陽光	
5	筋力増強運動	徒手、および動作での基本的な各種筋力増強運動について、演習形式で教授し、その後グループワークで深める。(教科書pp44-56) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を熟読する。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。			中尾 陽光	
6	持久カトレーニング	基本的な持久カトレーニング方法について、演習形式で教授し、その後グループワークで深める。 (教科書pp58-68) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を熟読する。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。			中尾 陽光	
7	バランス改善運動	基本的なバランス能力の改善トレーニング方法について、演習形式で教授し、その後グループワークで深める。(教科書pp86-94) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を熟読する。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。			中尾 陽光	
8	身体に接触する際の心構え	身体接触(環境設定、接遇)の基本について、演習形式で教授し、その後グループワークで深める。(教科書pp2-7) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を熟読する。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。			下田 栄次	
9	基本的なポジショニング	基本的なポジショニングについて、演習形式で教授し、その後グループワークで深める。(教科書pp70-84,108-116) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を熟読する。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。			下田 栄次	
10	基本動作	基本動作の概念、および介助方法について、演習形式で教授し、その後グループワークで深める。(教科書pp70-84,108-116) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を熟読する。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。			下田 栄次	
11	歩行の介助方法	歩行の介助方法、および歩行補助具の理論と基本技術について、演習形式で教授し、その後グループワークで深める。(教科書pp96-106) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を熟読する。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。			下田 栄次	
12	日常生活動作練習	日常生活動作練習の理論と基本技術について、演習形式で教授し、その後グループワークで深める。(教科書pp118-128) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を熟読する。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。			下田 栄次	

13	車いすの介助方法	整形外科疾患、中枢神経疾患を想定した基本的な車いすの介助方法について、演習形式で教授し、その後グループワークで深める。(教科書pp110-116) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を熟読する。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。	下田 栄次
14	痛みに対する運動療法	運動療法による疼痛緩和の理論と機器について、演習形式で教授し、その後グループワークで深める。 事前学習(20分): 授業内容に関する資料を熟読する。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。	下田 栄次
15	整形外科疾患に対する運動療法	整形外科疾患を想定した基本的な運動療法について、演習形式で教授し、その後グループワークで深める。 事前学習(20分): 授業内容に関する資料を熟読する。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。	中尾 陽光

評価	小テスト40%、実技試験60%
課題に対するフィードバックの方法	①小テストについて: 小テストを実施した次の授業において、テスト返却とともに、解説する。 ②実技試験について: 実技試験実施後に、学生個々へ試験結果の解説と今後の課題について説明する。
教科書	中山孝(編著): ビジュアルレクチャー理学療法基礎治療学 I 運動療. 医歯薬出版. (ISBN: 784263218068)
参考図書など	高橋哲也(編): 「臨床思考」が身につく運動療法Q&A. 医学書院. (ISBN: 9784260027953) 吉尾雅春, 福井勉(編): 標準理学療法学 運動療法学 総論第5版. 医学書院. (ISBN: 9784260052924) 吉尾雅春(監修): 標準理学療法学 運動療法学 各論第5版. 医学書院. (ISBN: 9784260052931) 中山孝(編著): ビジュアルレクチャー理学療法基礎治療学 I 運動療法. 医歯薬出版. (ISBN: 9784263218068) 井樋栄二(著): 標準整形外科学 第14版. 医学書院. (ISBN: 9784260038805)
アクティブ・ラーニング	実技を中心に、グループワークや演習形式を採用し、授業を展開していく。
実務経験のある教員による授業	講師陣は、病院やクリニックにおいて様々な患者様に対して、運動療法実践してきた。その専門分野の経験が豊富であり、実践的な授業を行う。
留意事項	1年時で学んだ「解剖学」、「生理学」、「運動生理学」、「基礎運動学」、「検査測定学概論」、「運動療法学概論」について復習しておくこと。また、講義では実技を行うため、動きやすい服装で授業に臨むこと。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
運動器系理学療法学 Physical Therapy Management of Orthopedic Conditions 1	必修	講義	1単位 (30時間)	3年前期	大森 圭貢・鶴見 隆正・櫻井 好美	○
ナンバリングコード	HPT2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DPI)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。					
理学療法治療学						

授業概要	変形性関節症、骨折、関節リウマチ、腱・靭帯損傷等について、疾患構造の理解と運動療法の理論を学習する。各疾患における、保存的治療、観血的治療、手術方法の違いなど、整形外科的治療法の相違における運動療法プログラムの建て方についても解説する。また、実際の治療技術論については、近年における運動療法のトピックスも加味し、筋力増強や基本動作などの基本的概略も含め、幅広い運動療法技術の修得を図る。		
到達目標	1) 骨折・脱臼、関節リウマチ、腱・靭帯損傷、変形性関節症などの運動器疾患の基本的事柄を説明できる。 2) 骨折・脱臼、関節リウマチ、腱・靭帯損傷、変形性関節症などの運動器疾患に対する基本的な運動療法を説明できる。 3) 骨折・脱臼、関節リウマチ、腱・靭帯損傷、変形性関節症などの運動器疾患に対する運動療法の留意点を説明できる。		
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）	担当教員
1	総論 運動器障害とは	運動器疾患全般に生じやすい症状、運動器の治癒過程と一般的理学療法など運動器疾患に対する理学療法の基本的事項を教授する。(pp1-16) 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 運動器疾患全般に生じる症状と運動器の治癒過程を覚える。	大森 圭貢
2	変形性関節症と変形性脊椎症の理学療法	変形性関節症の概略、変形性脊椎症の理学療法を教授する。(pp17-36) 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 変形性関節症と変形性脊椎症の概略と特徴、理学療法を覚える。	大森 圭貢
3	変形性膝関節症の理学療法	変形性膝関節症の理学療法を教授する。(pp37-65) 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 変形性膝関節症の概略と特徴、理学療法を覚える。	大森 圭貢
4	変形性股関節症の理学療法	変形性股関節症者の理学療法を教授する。(pp67-86) 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 変形性股関節症の概略と特徴、理学療法を覚える。	大森 圭貢
5	関節軟部組織性障害の理学療法	膝靭帯損傷・半月板損傷の理学療法の概略を教授する。(pp87-116) 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 膝靭帯損傷・半月板損傷の概略と特徴、理学療法を覚える。	大森 圭貢
6	関節リウマチの理学療法	関節リウマチの理学療法を教授する。(pp277-292) 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 関節リウマチの概略と特徴、理学療法を覚える。	櫻井 好美
7	肩腱板損傷の理学療法	肩腱板損傷の概略と特徴を教授する。(pp227-236) 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 肩腱板損傷の概略と特徴、これら疾患に対する理学療法を覚える。	大森 圭貢
8	末梢神経障害の理学療法	末梢神経障害の理学療法を教授する。(pp237-245) 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 末梢神経障害の概略と特徴、理学療法を覚える。	大森 圭貢
9	頸椎ヘルニア、頸部脊椎症、後縦靭帯骨化症の理学療法	頸椎ヘルニア、頸部脊椎症、後縦靭帯骨化症の理学療法を教授する。(pp247-256) 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 頸椎疾患の概略と特徴、理学療法を覚える。	大森 圭貢
10	腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症の理学療法	腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症の理学療法を教授する。(pp257-266) 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症の概略と特徴、理学療法を覚える。	大森 圭貢
11	側弯症の理学療法	側弯症の理学療法を教授する。(資料配布) 事前学習(30分): 授業内容に関して調べる。 事後学習(60分): 側弯症で生じる障害を覚える。	鶴見 隆正

12	大腿骨頭部骨折・大腿骨転子部骨折の理学療法	大腿骨頭部骨折・大腿骨転子部骨折の理学療法を教授する。(pp147-176) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):大腿骨頭部骨折の概略と特徴、理学療法を覚える。	大森 圭貢
13	下肢骨折の理学療法	下肢骨折の理学療法を教授する。(pp177-186) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):下肢骨折の概略と特徴、理学療法を覚える。	大森 圭貢
14	上肢骨折の理学療法	上肢骨折の理学療法を教授する。(pp187-195) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):上肢骨折の概略と特徴、これら疾患に対する理学療法を覚える。	大森 圭貢
15	脊椎の骨折、脊髄損傷の理学療法および運動器系理学療法学のまとめ	脊椎の骨折、脊髄損傷者の理学療法の教授と運動器系理学療法のまとめを行い、ディスカッションを行う。(pp197-206、資料配布) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(90分):脊椎の骨折、脊髄損傷者の概略と特徴、理学療法を覚える。運動器系理学療法全体を復習し、曖昧な点をなくす。	大森 圭貢

評価	小テスト30% 定期試験70%
課題に対するフィードバックの方法	小テストは、後の講義の際に解答を示し、学生の質問を受け回答する。定期試験結果には講評を作成し、掲示によって学生に公開する。
教科書	シンプル理学療法学シリーズ 運動器系理学療法学テキスト/高柳清美、中川法一、木藤伸宏、森山英樹(編集)/南江堂/ 改訂第3版/ISBN:978-4-524-24983-1
参考図書など	標準理学療法学 運動療法学 各論 第4版 医学書院(ISBN:978-4-260-02791-5)
アクティブ・ラーニング	授業中には発言を求め、まとめとして運動器系理学療法学についてのディスカッションを行う。
実務経験のある教員による授業	大学病院や地域リハビリテーションにおいて整形外科疾患患者の理学療法に従事した理学療法士が、講義する。
留意事項	運動器系疾患に対する理学療法の基礎であり、国家試験でも頻出する領域です。事前事後の学習は必ず行い、不明な点を残さないように進めてください。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
運動器系理学療法学演習 Physical Therapy Management of Orthopedic Conditions 2	必修	演習	1単位 (30時間)	3年後期	中尾 陽光、下田 栄次	○
ナンバリングコード	HPTE2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。					
理学療法治療学						
授業概要	本講義では、変形性関節症、靭帯損傷、半月板損傷、肩関節周囲炎、腱板損傷や人工関節挿入術後、鏡視下手術後あるいは脊椎疾患、CRPSなどといった代表的な疾患を取り上げ、評価法、治療法など具体的な理学療法法の進め方とゴールセッティングについて演習形式で学ぶ。					
到達目標	1)代表的な運動器系疾患の病態について説明ができる。 2)代表的な運動器系疾患に対する評価法、治療法を選択し、適切なゴールセッティングができる。 3)代表的な運動器系疾患に対する具体的な治療技術を体験する。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）				担当教員
1	関節軟部組織障害(靭帯損傷、半月板損傷)に対する理学療法1	靭帯損傷や半月板損傷および鏡視下術後等の理学療法について、演習形式で教授する。(pp.87-116) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):授業内容の疾患の患者に対する理学療法を確認する。				中尾 陽光
2	関節軟部組織障害(靭帯損傷、半月板損傷)に対する理学療法2	靭帯損傷や半月板損傷および鏡視下術後等の理学療法について、演習形式で教授する。(pp.87-116) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):授業内容の疾患の患者に対する理学療法を確認する。				中尾 陽光
3	骨・軟骨障害(変形性関節症、人工関節挿入術)に対する理学療法1	変形性関節症および人工関節挿入術後の理学療法について、演習形式で教授する。(pp.37-86) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):授業内容の疾患の患者に対する理学療法を確認する。				中尾 陽光
4	骨・軟骨障害(変形性関節症、人工関節挿入術)に対する理学療法2	変形性関節症および人工関節挿入術後の理学療法について、演習形式で教授する。(pp.37-86) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):授業内容の疾患の患者に対する理学療法を確認する。				中尾 陽光
5	骨性障害(大腿骨頸部骨折・転子部骨折の術前後)に対する理学療法1	大腿骨頸部骨折や転子部骨折の術前後の理学療法について、演習形式で教授する。(pp.149-176) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):授業内容の疾患の患者に対する理学療法を確認する。				中尾 陽光
6	骨性障害2(疲労骨折)、関節構造に由来する障害1(動揺関節、関節不安定症)に対する理学療法	疲労骨折や関節不安定症の理学療法について、演習形式で教授する。(pp.127-148) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):授業内容の疾患の患者に対する理学療法を確認する。				中尾 陽光
7	筋・軟部組織性障害(肩関節周囲炎・肩腱板損傷)に対する理学療法1	肩関節周囲炎、肩腱板損傷の理学療法について、演習形式で教授する。(pp.217-235) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):授業内容の疾患の患者に対する理学療法を確認する。				下田 栄次
8	関節構造に由来する障害(脱臼)に対する理学療法2	脱臼の理学療法について、演習形式で教授する。(pp.117-126) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):授業内容の疾患の患者に対する理学療法を確認する。				下田 栄次
9	脊椎性障害(腰椎椎間板ヘルニア、慢性腰痛症等)に対する理学療法1	腰椎椎間板ヘルニア、慢性腰痛の理学療法について、演習形式で教授する。(pp.257-276) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):授業内容の疾患の患者に対する理学療法を確認する。				下田 栄次
10	脊椎性障害(脊髄損傷)に対する理学療法2	脊椎の骨折、脊髄損傷の理学療法について、演習形式で教授する。(pp.197-206、資料配布) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):授業内容の疾患の患者に対する理学療法を確認する。				下田 栄次
11	CRPS(複合性局所疼痛症候群)に対する理学療法	CRPS(複合性局所疼痛症候群)の理学療法について、演習形式で教授する。 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):授業内容の疾患の患者に対する理学療法を確認する。				下田 栄次
12	下肢荷重練習	大腿骨頸部骨折などの運動器障害の下肢荷重練習について、演習形式で教授する。(pp.311-312、資料配布) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):授業内容の疾患の患者に対する理学療法を確認する。				下田 栄次

13	Motor unit 性障害に対する理学療法1	Motor unit性障害の理学療法について、演習形式で教授する。 (pp.237-246) 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 授業内容の疾患の患者に対する理学療法を確認する。	中尾 陽光
14	Motor unit 性障害に対する理学療法2	Motor unit性障害の理学療法について、演習形式で教授する。 (pp.237-246) 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 授業内容の疾患の患者に対する理学療法を確認する。	中尾 陽光
15	筋・軟部組織性障害(テニス肘・野球肘・アキレス腱断裂等)に対する理学療法2	テニス肘・野球肘・アキレス腱断裂などの術前後の理学療法について、演習形式で教授する (pp.149-176)。運動器系理学療法のまとめを行い、ディスカッションを行う。 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 授業内容の疾患の患者に対する理学療法を確認する。	中尾 陽光

評価	定期試験70%、小テスト30%
課題に対するフィードバックの方法	小テストは後の講義の際に解答を示し、学生の質問を受け回答する。定期試験結果には講評を作成し、掲示によって学生に公開する。
教科書	細田多穂(監修): シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト 改訂第3版. 南江堂. (ISBN:9784524249831)
参考図書など	高橋哲也(編): “臨床思考”が身につく運動療法Q&A. 医学書院. (ISBN:9784260027953) 吉尾雅春, 横田一彦(編): 標準理学療法学 運動療法学 総論第5版. 医学書院. (ISBN:9784260052924) 吉尾雅春(監修): 標準理学療法学 運動療法学 各論第5版. 医学書院. (ISBN:9784260052931) 中山孝(編著): ビジュアルレクチャー理学療法基礎治療学 I 運動療法. 医歯薬出版. (ISBN:9784263218068) 井樋栄二(著): 標準整形外科学 第14版. 医学書院. (ISBN:9784260038805)
アクティブ・ラーニング	各疾患において、具体的な症例紹介を行い、その症例における評価方法や治療方法などをグループワーク・演習形式で自ら考え理解していく。また各疾患のまとめとして運動器系の理学療法についてのディスカッションを行う。
実務経験のある教員による授業	講師は、運動器認定理学療法士の資格を有し、病院やクリニックにおいて該当疾患を担当していた。その専門分野を活かした実践的な授業を行う。
留意事項	実技を中心に行う授業です。授業参加は、実技ができる服装で参加することを条件とします。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
神経生理学療法学 Physical Therapy of Evaluation Neurological conditions	必修	講義	1単位 (30時間)	3年前期	斉藤 琴子	○
ナンバリングコード	HPTE2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。					
理学療法治療学						
授業概要	脳血管障害による中枢神経性の片麻痺や小脳性運動失調症、協調運動障害などに関して、それらの評価法と運動療法の考え方を学習する。具体的には脳血管障害患者、パーキンソン病患者、脊髄小脳変性症患者、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症患者等に対する評価・予後予測・理学療法の実践について講義する。					
到達目標	2年次前期に学んだ神経系検査測定学を基に、中枢神経系障害(脳血管障害、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多発性硬化症その他)に対する運動療法の知識および技術に関する基本を習得する。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)			担当教員	
1	脳血管障害の理学療法 1:評価	神経系疾患の各種評価表について:教科書②pp100-127、その他配布資料参照 事前学習(20分):神経系検査測定学で学んだ評価を復習しておく。 事後学習(60分):授業で学んだ内容を理解し、授業全体の復習を行う。理解できなかったことはオフィスアワー等を活用し、質問する。			斉藤 琴子	
2	脳血管障害の理学療法 2:評価と画像	神経系疾患の各種評価表と画像情報の見方:教科書②pp2-44、その他配布資料参照 事前学習(20分):神経系検査測定学で学んだ評価・画像情報を復習しておく。 事後学習(60分):授業で学んだ内容を理解し、授業全体の復習を行う。理解できなかったことはオフィスアワー等を活用し、質問する。			斉藤 琴子	
3	脳血管障害の理学療法 3:急性期	急性期における理学療法:リスク管理その他:教科書②pp159-168、その他配布資料参照 事前学習(20分):該当するテキストを読んでおき、わからない単語の意味を調べておく。 事後学習(60分):授業で学んだ内容を理解し、授業全体の復習を行う。理解できなかったことはオフィスアワー等を活用し、質問する。			斉藤 琴子	
4	脳血管障害の理学療法 4:回復期	回復期の理学療法:教科書②pp169-177、その他配布資料参照 事前学習(20分):該当する箇所を読んでおく。 事後学習(60分):授業で学んだ内容を理解し、授業全体の復習を行う。理解できなかったことはオフィスアワー等を活用し、質問する。			斉藤 琴子	
5	脳血管障害の理学療法 5:生活期	生活期における理学療法の実践:教科書 P177-189、その他配布資料参照 事前学習(20分):該当する箇所を読み予習しておく。 事後学習(60分):授業で学んだ内容を理解し、授業全体の復習を行う。理解できなかったことはオフィスアワー等を活用し、質問する。			斉藤 琴子	
6	脳血管障害の運動療法 6:症例の提示	症例を提示するので、グループに分かれその症例の問題点抽出、ゴールとプログラム設定について話し合う:教科書②pp202-217 事前学習(20分):該当する箇所を読み予習しておく。 事後学習(60分):授業で学んだ内容を理解し、授業全体の復習を行う。理解できなかったことはオフィスアワー等を活用し、質問する。			斉藤 琴子	
7	神経筋疾患の理学療法 パーキンソン病 1:検査項目	パーキンソン病に対する症状・各種検査項目を学ぶ:教科書②pp218-230、その他配布資料参照 事前学習(20分):該当する箇所を読み予習しておく。 事後学習(60分):授業で学んだ内容を理解し、授業全体の復習を行う。理解できなかったことはオフィスアワー等を活用し、質問する。			斉藤 琴子	
8	神経筋疾患の理学療法 パーキンソン病 2:評価項目から プログラム立案	パーキンソン病に対する症状・各種検査項目から、疾患特性を考慮したプログラム立案を学ぶ:教科書②pp218-230、その他配布資料参照 事前学習(20分):該当する箇所を読み予習しておく。 事後学習(60分):授業で学んだ内容を理解し、授業全体の復習を行う。理解できなかったことはオフィスアワー等を活用し、質問する。			斉藤 琴子	
9	神経疾患の運動療法 脊髄小脳変性症:評価項目から プログラム立案	脊髄小脳変性症に対する症状・各種検査項目から、疾患特性を考慮したプログラム立案を学ぶ:教科書P240-258、その他配布資料参照 事前学習(20分):該当する箇所を読み予習しておく。 事後学習(60分):授業で学んだ内容を理解し、授業全体の復習を行う。理解できなかったことはオフィスアワー等を活用し、質問する。			斉藤 琴子	

10	神経筋疾患の運動療法 筋萎縮性側索硬化症:評価項目から プログラム立案	筋萎縮性側索硬化症に対する症状・各種検査項目から、疾患特性を考慮したプログラム立案を学ぶ:教科書P①330-339、その他配布資料参照 事前学習(20分):該当する箇所を読み予習しておく。 事後学習(60分):授業で学んだ内容を理解し、授業全体の復習を行う。理解できなかったことはオフィスアワー等を活用し、質問する。	斉藤 琴子
11	神経筋疾患の理学療法 多発性硬化症:評価項目からプログラム立案	多発性硬化症に対する症状・各種検査項目から、疾患特性を考慮したプログラム立案を学ぶ:教科書pp320-325、その他配布資料参照 事前学習(20分):該当する箇所を読み予習しておく。 事後学習(60分):授業で学んだ内容を理解し、授業全体の復習を行う。理解できなかったことはオフィスアワー等を活用し、質問する。	斉藤 琴子
12	神経筋疾患の理学療法 進行性筋ジストロフィー:評価項目からプログラム立案	進行性筋ジストロフィーに対する症状・各種検査項目から、疾患特性を考慮したプログラム立案を学ぶ:教科書①374-381、その他配布資料参照 事前学習(20分):該当する箇所を読み予習しておく。 事後学習(60分):授業で学んだ内容を理解し、授業全体の復習を行う。理解できなかったことはオフィスアワー等を活用し、質問する。	斉藤 琴子
13	神経筋疾患の理学療法 多発性 筋炎・皮膚筋炎の理学療法:評価 項目からプログラム立案	多発性筋炎・皮膚筋炎に対する症状・各種検査項目から、疾患特性を考慮したプログラム立案を学ぶ:教科書pp①372、その他配布資料参照 事前学習(20分):該当する箇所を読み予習しておく。 事後学習(60分):授業で学んだ内容を理解し、授業全体の復習を行う。理解できなかったことはオフィスアワー等を活用し、質問する。	斉藤 琴子
14	神経筋疾患の理学療法 重症筋無力症・多発神経炎:評価 項目からプログラム立案	重症筋無力症・多発神経炎に対する症状・各種検査項目から、疾患特性を考慮したプログラム立案を学ぶ:教科書pp①390-395、その他配布資料参照 事前学習(20分):該当する箇所を読み予習しておく。 事後学習(60分):神経系理学療法学(3年前期)へ知識を繋げられるように内容を理解し、自分なりにまとめる。	斉藤 琴子
15	症例に対してのグループディス カッション	提示された症例に対して、ゴール設定に向けてのプログラム立案についてグループディスカッションを行う:配布資料参照 事前学習(20分):該当する箇所を読み予習しておく。 事後学習(60分):神経系理学療法学演習(3年後期)へ知識を繋げられるように内容を理解し、自分なりにまとめる。	斉藤 琴子

評価	試験70%、小テスト30%とする。
課題に対する フィードバックの方法	定期試験結果について、講評をWeb上で掲示する。
教科書	1. 病気がみえる〈vol.7〉脳・神経(第2版)/医療情報科学研究所(編集)/メディックメディア社/ISBN:978-4896326864 2. 最新理学療法学講座 中枢神経系理学療法学 /山口 智史、山田 実/医歯薬出版株式会社/ISBN:978-4263267417
参考図書など	○脳卒中治療ガイドライン2021/日本脳卒中学会 脳卒中ガイドライン委員会/協和企画/ISBN-13:978-4877942229 ○症状・経過観察に役立つ 脳卒中の画像のみかた/医学書院/ISBN:978-4260019484 ○運動学・神経学エビデンスと結ぶ脳卒中理学療法 発声発語・摂食嚥下の解剖・生理学[Web動画付]/益田 慎(監修)、福岡 達之(編集)/メジカルビュー社/ISBN:978-4758320696 ○脳卒中機能評価・予後予測マニュアル /道免和久/医学書院/ISBN:978-4260017596
アクティブ・ラーニング	学生を少人数のグループに分け、十分なディスカッションを重ねる。
実務経験のある 教員による授業	急性期・回復期・維持期の病院・施設に勤務し、神経障害の理学療法を経験した教員が、中枢神経系障害(脳血管障害、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多発性硬化症その他)に対する運動療法の知識および技術について授業を行う。
留意事項	運動のできる服装で出席すること。下駄きを持ってくること。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
神経系理学療法学演習 Physical Therapy management of Neurological conditions	必修	演習	1単位 (30時間)	3年後期	大村 優慈	○
ナンバリングコード	HPTE2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
理学療法治療学						
授業概要	脳血管障害による中枢神経性の片麻痺や小脳性運動失調症、協調運動障害に関する評価及び治療技術を学習する。具体的には、CT、MRIの見方、神経系障害の予後予測、脳血管障害に対する評価の流れ、大脳基底核の機能とその障害、小脳の機能とその障害、パーキンソン病に対する理学療法、運動失調に対する理学療法、その他の神経疾患の理学療法について講義する。					
到達目標	1) 中枢神経障害の脳画像から脳の損傷領域を同定し、臨床症状を推測し、必要な評価項目を挙げることができる。 2) 課題指向型アプローチをはじめとした中枢神経障害に対する理学療法アプローチを模擬症例の病態に合わせて立案し、実践できる。 3) 事例検討、グループ学習、発表、討議を通じ、医療人としてふさわしい主体性、倫理観、コミュニケーション能力、探究心、問題解決能力を修得する。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）			担当教員	
1	脳画像総論、小テスト	脳画像を読む目的、各種脳画像の特徴、画像所見の経時的変化、断層画像の基準線について学ぶ。また、脳の機能解剖学についての小テストを行う。(教科書①pp.2-26) 事前学習(30分): 神経内科学、脳神経外科学の脳血管障害(脳卒中)の内容を復習する。 事後学習(30分): 脳画像の概要について復習する。			大村 優慈	
2	脳の機能解剖と画像解剖	脳の機能解剖と画像解剖について学ぶ。(教科書①pp.27-99) 事前学習(60分): 解剖学Ⅱ(神経)の脳解剖の内容を復習する。 事後学習(60分): 脳の機能解剖と画像解剖について復習する。			大村 優慈	
3	脳画像読影による臨床症状推測	脳血管障害の脳画像読影による臨床症状推測について学ぶ。(教科書①pp.101-185) 事前学習(60分): 神経系検査測定学、高次脳障害学で学んだ各種評価法を復習する。 事後学習(60分): 脳血管障害の脳画像の特徴、脳の損傷領域と症状の対応関係について復習する。			大村 優慈	
4	脳血管障害事例の脳画像読影と臨床症状の検討	脳血管障害事例の脳画像から脳の損傷領域と臨床症状について検討する。(教科書①pp.2-185) 事前学習(60分): 1-3回目の授業内容について復習する。 事後学習(30分): 授業内で理解できなかった内容について調べ学習をする。			大村 優慈	
5	グループ学習(脳画像)	脳血管障害事例の脳画像から脳の損傷領域と臨床症状についてグループ内で検討する。(教科書①pp.2-185) 事前学習(30分): 前回の授業の事後学習の内容が本授業の事前学習に相当する。 事後学習(30分): 授業内で理解できなかった内容について調べ学習をする。			大村 優慈	
6	課題発表(脳画像)	脳血管障害事例の脳画像から脳の損傷領域と臨床症状についてグループ内で検討した内容を発表する。(教科書①pp.2-185) 事前学習(30分): 前回の授業の事後学習の内容が本授業の事前学習に相当する。 事後学習(30分): 各グループの発表内容について復習し、疑問点の調べ学習をする。			大村 優慈	
7	課題指向型アプローチ	中枢神経障害者に対する課題指向型アプローチについて学ぶ。(教科書②pp.202-217) 事前学習(30分): 神経系理学療法学で学んだ理学療法アプローチについて復習する。 事後学習(30分): 課題指向型アプローチの概要について復習する。			大村 優慈	
8	脳血管障害に対する理学療法アプローチ	脳血管障害に対する理学療法アプローチについて実技を交えて学ぶ。(教科書②pp.258-270, 304-328) 事前学習(30分): 神経系理学療法学で学んだ脳血管障害に対する理学療法の内容を復習する。 事後学習(30分): 脳血管障害に対する理学療法アプローチの内容について復習する。			大村 優慈	
9	パーキンソン病に対する理学療法アプローチ	パーキンソン病に対する理学療法アプローチについて実技を交えて学ぶ。(教科書②pp.218-239) 事前学習(30分): 神経系理学療法学で学んだパーキンソン病に対する理学療法の内容を復習する。 事後学習(30分): パーキンソン病に対する理学療法アプローチの内容について復習する。			大村 優慈	
10	失調症に対する理学療法アプローチ	失調症に対する理学療法アプローチについて実技を交えて学ぶ。(教科書②pp.240-257) 事前学習(30分): 神経系理学療法学で学んだ失調症に対する理学療法の内容を復習する。 事後学習(30分): 失調症に対する理学療法アプローチの内容について復習する。			大村 優慈	
11	脳血管障害事例に対する理学療法アプローチの検討	脳血管障害事例に対する理学療法アプローチについて検討する。(教科書②pp.258-270, 304-328) 事前学習(60分): 7.8回目の授業内容について復習する。 事後学習(30分): 授業内で理解できなかった内容について調べ学習をする。			大村 優慈	
12	神経難病事例に対する理学療法アプローチの検討	神経難病事例に対する理学療法アプローチについて検討する。(教科書②pp.218-257) 事前学習(60分): 9.10回目の授業内容について復習する。 事後学習(30分): 授業内で理解できなかった内容について調べ学習をする。			大村 優慈	

13	グループ学習(理学療法アプローチ)	中枢神経障害事例に対する理学療法アプローチについてグループ内で検討する。(教科書② pp.202-270, 304-328) 事前学習(30分): 11・12回目の授業の事後学習の内容が本授業の事前学習に相当する。 事後学習(30分): 授業内で理解できなかった内容について調べ学習をする。	大村 優慈
14	課題発表(理学療法アプローチ)	中枢神経障害事例に対する理学療法アプローチについてグループ内で検討した内容を発表する。(教科書② pp.202-270, 304-328) 事前学習(30分): 前回の授業の事後学習の内容が本授業の事前学習に相当する。 事後学習(30分): 各グループの発表内容について復習し、疑問点の調べ学習をする。	大村 優慈
15	まとめ	授業の総括を行うとともに、実際の臨床場面への展開について学ぶ。 事前学習(30分): 14回目の授業内容を一通り復習する。 事後学習(30分): 配布プリントの見直しを行う。	大村 優慈

評価	定期試験(筆記)45%、小テスト10%、課題発表(脳画像)15%、課題発表(理学療法アプローチ)15%、授業への参加度15%
課題に対するフィードバックの方法	小テストは実施後に解答解説を行う。事例検討では学生からの積極的な質問を求め、都度フィードバックする。6回目、14回目の課題発表後に各グループの発表内容に対して口頭でフィードバックを行う。
教科書	① 大村優慈/リハに役立つ脳画像/第2版/メジカルビュー/ISBN:978-4758320139(第1~6回、15回の授業で使用) ② 山口 智史、山田 実/最新理学療法学講座 中枢神経系理学療法学 /医歯薬出版株式会社/ISBN:978-4263267417(第7~15回の授業で使用)
参考図書など	・ 大村優慈/脳卒中リハの落とし穴100/ヒューマンプレス/ISBN:978-4908933042 ・ 高橋志志・他(編集)/脳卒中リハビリテーション治療・支援のFirst STEP/メジカルビュー/ISBN:978-4758320917 ・ 潮見泰藏(編集)/神経障害理学療法学/第2版/羊土社/ISBN:978-4758114370 ・ 石合純夫/高次脳機能障害学/第3版/医歯薬出版/ISBN:978-4263266519 ・ 道免和久(編集)/脳卒中機能評価・予後予測マニュアル/医学書院/ISBN:978-4260017596 ・ 千野直一・他(編集)/脳卒中の機能評価—SIASとFIM[基礎編]/金原出版/ISBN:978-4307750332 ・ 森田秋子・後藤伸介(編集)/理学療法士が知っておきたい認知能力の Assessment とアプローチ —高次脳機能障害を行動から分析する—/三輪書店/ISBN:978-4895907194
アクティブ・ラーニング	4~6回目および11-14回目に事例検討とプレゼンテーションを課し、学生が能動的に、事例の症状の推測や、病態を踏まえた理学療法アプローチを検討・実践することを求める。
実務経験のある教員による授業	脳卒中認定理学療法士、補装具認定理学療法士の資格を有する教員が、リハビリテーション病院や介護老人保健施設における中枢神経障害の理学療法法の豊富な臨床経験に基づき、具体的な事例を提示しながら授業を行うことで、臨床実践力を養う。
留意事項	1~6回目の授業では脳画像が印刷されたプリントに描きこみを行う演習を行うため、8色の水性カラーマーカーを持参すること。7~14回目の授業では実技を行うため、動きやすい服装で出席すること。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
発達系理学療法学 Physical Therapy of Pediatric Conditions	必修	講義	1単位 (30時間)	3年前期	坂上 昇	○
ナンバリングコード	HPTE2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
理学療法治療学						
授業概要	運動発達障害を呈する小児疾患の中の中脳神経疾患である脳性麻痺の障害とその特徴について理解するとともに、その障害の捉え方と評価、運動療法についての知識を習得する。また、脳性麻痺の異常運動発達を理解するために必要な姿勢反射と正常運動発達についての知識を習得する。さらに、脳性麻痺以外の運動発達障害を呈する小児疾患についても学習する。					
到達目標	1) 脳性麻痺の定義、原因、病型分類、病型分類別の運動の特徴、理学療法評価、運動療法を理解し、説明することができる。 2) 姿勢反射、正常運動発達を理解し、説明することができる。 3) 脳性麻痺以外の運動発達障害を呈する小児疾患を理解し、説明できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）				担当教員
1	オリエンテーション 脳性麻痺総論	授業概要を説明する。脳性麻痺の定義・原因等について教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 教科書、配付資料に目を通し、授業全体について復習する。				坂上 昇
2	姿勢反射(原始反射)	姿勢反射のうち、原始反射について教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 教科書、配付資料に目を通し、授業全体について復習する。				坂上 昇
3	姿勢反射(立ち直り反応、平衡反応)	姿勢反射のうち、立ち直り反応、平衡反応について教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 教科書、配付資料に目を通し、授業全体について復習する。				坂上 昇
4	正常運動発達(0か月～6か月)	0～6か月の正常運動発達について講義をする。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 教科書、配付資料に目を通し、授業全体について復習する。				坂上 昇
5	正常運動発達(7か月～12か月)	7～12か月の正常運動発達について教授をする。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 教科書、配付資料に目を通し、授業全体について復習する。				坂上 昇
6	脳性麻痺総論	脳性麻痺の分類、症状、理学療法評価、理学療法(治療)について教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 教科書、配付資料に目を通し、授業全体について復習する。				坂上 昇
7	脳性麻痺 痙直型四肢麻痺	痙直型四肢麻痺児の運動の特徴について教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 教科書、配付資料に目を通し、授業全体について復習する。				坂上 昇
8	脳性麻痺 痙直型両麻痺	痙直型両麻痺児の運動の特徴について教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 教科書、配付資料に目を通し、授業全体について復習する。				坂上 昇
9	脳性麻痺 痙直型片麻痺	痙直型片麻痺児の運動の特徴について教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 教科書、配付資料に目を通し、授業全体について復習する。				坂上 昇
10	脳性麻痺 アトーゼ型四肢麻痺	アトーゼ型四肢麻痺児の運動の特徴について教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 教科書、配付資料に目を通し、授業全体について復習する。				坂上 昇
11	運動・運動発達、ADLの評価法	乳幼児の発達および運動発達、ADLの評価法について教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 教科書、配付資料に目を通し、授業全体について復習する。				坂上 昇
12	脳性麻痺の評価と治療	脳性麻痺の病態を捉えるための理学療法評価と治療原則について教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 教科書、配付資料に目を通し、授業全体について復習する。				坂上 昇

13	脳性麻痺以外の運動発達障害を呈する小児疾患について	二分脊椎、ダウン症候群の原因、症状、障害、理学療法について教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 教科書、配付資料に目を通し、授業全体について復習する。	坂上 昇
14	脳性麻痺以外の運動発達障害を呈する小児疾患について	筋ジストロフィー症の原因、症状、障害、理学療法について教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 教科書、配付資料に目を通し、授業全体について復習する。	坂上 昇
15	重症心身障害児について	重症心身障害児の原因、症状、障害、理学療法について教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(40分): 教科書、配付資料に目を通し、授業全体について復習する。	坂上 昇

評価	定期試験(100%)で評価する。
課題に対するフィードバックの方法	試験結果についてフィードバックを希望する学生に対しては、教員が適宜、直接説明する。
教科書	細田多穂・監修(2018):小児理学療法学テキスト改訂第3版、南江堂 (ISBN:978-4524255337)
参考図書など	①千住秀明(2010):こどもの理学療法 第2版、神陵文庫 (ISBN:978-4-915814-20-4) ②藪中良彦・他(2020):CrossLink 理学療法学テキスト 小児理学療法学、メジカルビュー (ISBN:978-4-7583-2007-8) ③石川朗(2022):15レクチャーシリーズ 理学療法学テキスト 小児理学療法学、中山書店 (ISBN:978-4-521-74816-0) ④真野行生 監訳(1983):運動発達と反射-反射検査の手技と評価一、医歯薬出版 (ISBN:978-4-263-21072-7) ⑤小池文英(2004):脳性麻痺の反射検査 早期診断と治療の手がかり 第2版、医歯薬出版 (ISBN:978-4-263-21037-9)
アクティブ・ラーニング	これまで学んできた基礎知識との関連性の確認のために質疑応答を適宜行う。
実務経験のある教員による授業	理学療法士としての臨床経験を活かして、脳性麻痺と脳性麻痺以外の運動発達障害の小児疾患についての基本的な知識について講義する。
留意事項	教科書と配付資料を併用して授業を行います。各授業に対応する教科書の章を予習して臨むと理解が深まるでしょう。授業を集中して受講し、毎回の復習を欠かさないことが肝要です。授業に関する諸注意については別途説明する。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
老年期理学療法学 Physical Therapy in Gerontology	必修	講義	1単位 (15時間)	3年前期	森尾 裕志、長谷川 由理	○
ナンバリングコード	HPTE2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。					
理学療法治療学						
授業概要	老化に伴ってみられる身体的変化や精神的変化についての理解を深め、老年期に頻発する特有な疾病や障害(パーキンソン病、骨折など)に対する理学療法の介入方法について学習する。本講義を通じて高齢者に対する理学療法の役割を老年学的視点から捉えられるよう理解を深める。包括的高齢者運動トレーニングを理解する。					
到達目標	老化に伴ってみられる身体的変化や精神的変化についての理解を深め、老年期に頻発する特有な疾病や障害(パーキンソン病、骨折など)に対する理学療法の介入方法について学習する。本講義を通じて高齢者に対する理学療法の役割を老年学的視点から捉えられるよう理解を深める。包括的高齢者運動トレーニングを理解する。 1) 加齢変化、高齢者の暮らしと健康を身近なものとして実感できる。 2) 老年期に頻発する特有な疾患や障害に対する理学療法の介入方法 3) 地域リハビリテーションの実際と高齢社会の課題 4) 多職種連携で支える高齢者の健康と生活、についてそれぞれ説明できることを到達目標とする。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)				担当教員
1	加齢に伴う心身機能の変化	理学療法の対象となる高齢者の身体的特徴について教授する。(教科書pp1-37) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。				森尾 裕志
2	高齢者の生活機能評価	高齢者の生活機能評価に必要な認知・精神機能の評価、日常生活動作の評価、生活環境の評価について教授する。(教科書pp39-50) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。				森尾 裕志
3	高齢者の身体運動機能評価	高齢者に特徴的な健康障害に関連した病態、治療、予防に関する身体運動機能評価について教授する。(教科書pp53-165) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。				森尾 裕志
4	高齢者疑似体験1	高齢者疑似体験、およびグループ別による体験を行い、高齢者の生活について演習形式で教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。				森尾 裕志
5	高齢者疑似体験2	高齢者疑似体験、およびグループ別による体験の振り返りを行い、高齢者の生活について演習形式で相互に意見を出し合う。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。				森尾 裕志
6	地域高齢者と理学療法1	理学療法士が関わる地域リハビリテーションの高齢社会の実際について教授する。(教科書pp169-182) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。				長谷川 由理
7	地域高齢者と理学療法2	理学療法士が関わる地域リハビリテーションと高齢社会の課題について教授し、学生からの意見を組み込みながら、総括する。(教科書pp169-182) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。				長谷川 由理
8	老年期理学療法のまとめ	高齢者疑似体験の振り返りを行うとともに、理学療法士としての高齢社会への展望について教授する。(教科書pp186-221) 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。				森尾 裕志
評価	レポート90%(機能評価30、地域高齢者30、疑似体験30)、小テスト10%として評価する。					
課題に対する フィードバックの方法	毎回の授業中での対応と、随時E-mailでの対応を行う。個別面談を希望する場合には応じる。					
教科書	シンプル理学療法学シリーズ 高齢者理学療法学テキスト/細田多穂/南江堂/改訂第2版/ISBN: 978-4524228249					
参考図書など	厚生労働白書/厚生労働省/令和5年度版/ISBN: 978-4865793840					
アクティブ・ラーニング	授業時にはその場で考えて頂き、一部発表を課す。積極的な参加を期待する。					
実務経験のある 教員による授業	内部障害専門理学療法士の資格を有し、地域リハビリテーションや介護予防に関する臨床経験、および訪問リハビリテーションの経験から、実例を紹介しながら高齢者の抱える課題や課題解決方法の考え方について講義する。					
留意事項	講義中、毎回発言を求める。必ず、事前学習を行って授業に臨んでいただきたい。					

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
呼吸・循環系理学療法学 Physical Therapy Management of Cardiopulmonary Conditions	必修	講義	1単位 (30時間)	3年前期	森尾 裕志、横山 仁志	○
ナンバリングコード	HPTE2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
理学療法治療学						

授業概要	内部障害患者に対する理学療法の臨床的意義と方法を理解する。呼吸循環機能の評価、問題点抽出、治療到達目標設定、運動処方、理学療法プログラム作成、リスク管理などについて概説する。具体的には、呼吸不全の病態、呼吸理学療法評価法、呼吸理学療法の基本手技、循環器系の構造と機能、心臓リハビリテーションのための患者評価、心筋梗塞・弁膜症・心不全・大血管疾患・末梢動脈疾患等の運動療法について学習する。
------	--

到達目標	内部障害患者に対する理学療法の臨床的意義と方法を理解する。呼吸循環機能の評価、問題点抽出、治療到達目標設定、運動処方、理学療法プログラム作成、リスク管理などについて概説する。具体的には、呼吸不全の病態、呼吸理学療法評価法、呼吸理学療法の基本手技、循環器系の構造と機能、心臓リハビリテーションのための患者評価、心筋梗塞・弁膜症・心不全・大血管疾患・末梢動脈疾患等の運動療法について講義する。1)運動負荷に伴う循環、呼吸の生理的反応、2)循環器疾患、呼吸器疾患の病態、3)内部障害の理学療法における評価、および理学療法プログラム、をそれぞれ理解することを到達目標とする。
------	---

回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）	担当教員
1	虚血性心疾患の病態	虚血性心疾患の病態・症状・検査所見・治療について教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。	森尾 裕志
2	心電図でわかること	12誘導心電図のみかた、解釈について教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。	森尾 裕志
3	不整脈と理学療法	モニター心電図のみかた、虚血の判定、不整脈での運動の中止基準について教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。	森尾 裕志
4	心筋虚血と理学療法	モニター心電図での虚血の判定方法、および心筋虚血に対する理学療法管理について教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。	森尾 裕志
5	心筋梗塞の理学療法評価	虚血性心疾患の理学療法で用いられる評価指標について教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。	森尾 裕志
6	心筋梗塞に対する理学療法プログラム	虚血性心疾患の一般的なリハビリテーションプログラムについて教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。	森尾 裕志
7	心臓リハビリテーションの実際	急性期～回復期における心臓リハビリテーションプログラムについて教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。	森尾 裕志
8	心肺運動負荷試験の実際	心肺運動負荷試験の実演を通して、心大血管疾患患者の重症度判定、理学療法の介入方法について教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。	森尾 裕志
9	呼吸リハビリテーションの概念	呼吸器の解剖学・生理学・運動学・病理学的な基礎知識、基本的治療について教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。	横山 仁志
10	呼吸リハビリテーションの基本	呼吸器の解剖学・生理学・運動学・病理学的な基礎知識、基本的治療について教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。	横山 仁志
11	呼吸リハビリテーションの目的	呼吸器疾患患者の目的、適応、禁忌について知り、実際の呼吸器官者のリハビリテーションについて教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。	横山 仁志
12	呼吸リハビリテーションの適応	呼吸器疾患患者の目的、適応、禁忌について知り、実際の呼吸器官者のリハビリテーションについて教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。	横山 仁志

13	呼吸リハビリテーションにおける画像評価	呼吸器疾患患者を診るにあたっての診療記録(知るべき画像所見、検査所見、薬物療法など)、スタッフ・家族からの情報収集による評価について教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。	横山 仁志
14	呼吸リハビリテーションにおける理学療法評価	呼吸器疾患患者を診るにあたっての診療記録(知るべき画像所見、検査所見、薬物療法など)、スタッフ・家族からの情報収集による評価について教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。	横山 仁志
15	呼吸リハビリテーションにおける理学療法プログラム	呼吸器疾患患者を診るにあたっての診療記録(知るべき画像所見、検査所見、薬物療法など)、スタッフ・家族からの情報収集による評価について教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。	横山 仁志

評価	定期試験 65%(循環分野40、呼吸分野 25)、小テスト 35%とする。
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業中での対応と、随時E-mailでの対応を行う。個別面談を希望する場合には応じる。
教科書	内部障害理学療法学テキスト/山崎裕司・川俣幹雄・丸岡弘(編集)/南江堂/改訂第4版/ISBN:978-4-524-23117-1
参考図書など	イラストでわかる内部障害/上杉雅之/医歯薬出版/ISBN:978-4263266113. 疾患別リハビリテーションリスク管理マニュアル/聖マリアンナ医科大学病院リハビリテーション部(編集)/ヒューマン・プレス/ISBN:978-4-908933-11-0
アクティブ・ラーニング	授業時にはその場で考えて頂き、一部発表を課す。積極的な参加を期待する。
実務経験のある教員による授業	心臓リハビリテーション指導士の資格を有し、大学病院での18年間の臨床経験から、呼吸循環系理学療法学について実践的な授業を行う。
留意事項	講義中、毎回発言を求める。必ず、事前学習を行って授業に臨んでいただきたい。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
呼吸・循環系理学療法学演習 Physical Therapy Management of Cardiopulmonary Conditions 2	必修	演習	1単位 (30時間)	3年後期	森尾 裕志、横山 仁志	○
ナンバリングコード	HPTE2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
理学療法治療学						
授業概要	内部障害の病態像、急性期ならびに回復期の理学療法評価・介入の流れを具体的に教授する。呼吸介助や非侵襲的陽圧換気の体験、呼気ガス分析装置を用いての運動負荷試験、気管吸引の基礎と適応について体験またはデモンストレーションを通して学習する。循環系では、標準12誘導心電図ならびに心電図モニター実習、心肺運動負荷試験の実施方法と観察点、運動処方とモニタリングの要点について演習形式で学習する。					
到達目標	内部障害の病態像、急性期ならびに回復期の理学療法評価・介入の流れを具体的に教授する。呼吸介助や非侵襲的陽圧換気の体験、呼気ガス分析装置を用いての運動負荷試験、気管吸引の基礎と適応について体験またはデモンストレーションを通して学習する。循環系では、標準12誘導心電図ならびに心電図モニター実習、心肺運動負荷試験の実施方法と観察点、運動処方とモニタリングの要点について演習形式で講義する。1) 運動負荷に伴う循環、呼吸の生理的応答、2) 循環器疾患、呼吸器疾患の病態、3) 内部障害の理学療法における評価、および理学療法プログラム、をそれぞれ演習を通して理解することを到達目標とする。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）			担当教員	
1	心臓リハビリテーションの実際	急性期～回復期における心臓リハビリテーションについて、演習形式で教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。			森尾 裕志	
2	心肺運動負荷試験の実際	呼気ガス分析装置を用いた最高酸素摂取量、および嫌気性代謝閾値の測定方法について、演習形式で教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。			森尾 裕志	
3	循環器リハビリテーションで用いられるフィールドテスト	循環器リハビリテーションで用いられるフィールドテストについて、演習形式で教授し、運動に伴う心拍血圧反応の変化を確認する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): レポート課題「心肺運動負荷試験」を提出する。			森尾 裕志	
4	6分間歩行テストの実際	フィールドテストのテーマを与え、運動に伴う生体反応の変化について、演習形式で教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): レポート課題「6分間歩行テスト」を提出する。			森尾 裕志	
5	モニタリングの要点	運動処方の内容と、運動時の生体反応から処方内容の検証方法を教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): レポート課題「30秒椅子立ち上がりテスト」を提出する。			森尾 裕志	
6	心臓血管術後の理学療法の実際	心臓血管術後の理学療法と、その実際について演習形式で教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。			森尾 裕志	
7	循環系理学療法学演習課題発表(前半)	循環系理学療法学演習で実際に行ってきたフィールドテストについて、テーマを選び、そのテストの問題点と理学療法場面での活用方法について、意見をまとめて発表する。 事前学習(15分): 自身で作成したレポートを振り返り、口頭発表の予演を行う。 事後学習(30分): 会場から出された質疑に対して、再考する。			森尾 裕志	
8	循環系理学療法学演習課題発表(後半)	循環系理学療法学演習で実際に行ってきたフィールドテストについて、テーマを選び、そのテストの問題点と理学療法場面での活用方法について、意見をまとめて発表する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。			森尾 裕志	
9	呼吸リハビリテーション演習(排痰法)	呼吸リハビリテーションの重要な項目である排痰について、基本的な知識の学習と臨床場面での活用する排痰手技・咳嗽介助などの実践的な方法を教授する。 事前学習(15分): 自身で作成したレポートを振り返り、口頭発表の予演を行う。 事後学習(30分): 会場から出された質疑に対して、再考する。			横山 仁志	
10	呼吸リハビリテーション演習(排痰介助)	呼吸リハビリテーションの重要な項目である排痰について、基本的な知識の学習と臨床場面での活用する排痰手技・咳嗽介助などの実践的な方法を教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。			横山 仁志	
11	呼吸リハビリテーション演習(評価法)	呼吸リハビリテーションの重要な項目である排痰について、基本的な知識の学習と臨床場面での活用する排痰手技・咳嗽介助などの実践的な方法を教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。			横山 仁志	
12	呼吸リハビリテーションの適応	急性呼吸不全患者、各周術期患者やICUにおける人工呼吸患者などの呼吸リハビリテーションについて教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。			横山 仁志	

13	急性呼吸不全患者に対する呼吸リハビリテーション	急性呼吸不全患者、各周術期患者やICUにおける人工呼吸患者などの呼吸リハビリテーションについて教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。	横山 仁志
14	慢性呼吸不全患者に対する呼吸リハビリテーション	臨床で遭遇しやすい慢性閉塞性肺疾患を中心とする慢性呼吸不全患者に対する呼吸リハビリテーションについて教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。	横山 仁志
15	呼吸リハビリテーションにおける理学療法プログラム	臨床で遭遇しやすい慢性閉塞性肺疾患を中心とする慢性呼吸不全患者に対する呼吸リハビリテーションについて教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。	横山 仁志

評価	定期試験 30%(呼吸分野)、レポート+課題発表 70%(循環分野)として評価する。
課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業中での対応と、随時E-mailでの対応を行う。個別面談を希望する場合には応じる。
教科書	内部障害理学療法学テキスト/山崎裕司・川俣幹雄・丸岡弘(編集)/南江堂/改訂第4版/ISBN:978-4-524-23117-1
参考図書など	イラストでわかる内部障害/上杉雅之/医歯薬出版/ISBN:978-4263266113. 疾患別リハビリテーションリスク管理マニュアル/聖マリアンナ医科大学病院リハビリテーション部(編集)/ヒューマン・プレス/ISBN:978-4-908933-11-0
アクティブ・ラーニング	グループディスカッション、プレゼンテーション
実務経験のある教員による授業	内部障害専門理学療法士、および心臓リハビリテーション指導士の資格を有し、18年間の臨床経験から、呼吸循環系理学療法について実践的な授業を行う。
留意事項	講義中、毎回発言を求める。必ず、事前学習を行って授業に臨んでいただきたい。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
代謝系理学療法学 Physical Therapy in Internal Medicine	必修	講義	1単位 (15時間)	3年前期	中村 壽志	○
ナンバリングコード	HPTE2	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1) 看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2) 科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP5) 幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6) 卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
理学療法治療学						
授業概要	糖質、タンパク質、脂質などの代謝異常によって生じる多様な疾患について理解するとともに理学療法介入の意義と方法を学ぶ。糖尿病の評価と運動療法、患者教育および腎機能障害に対する運動療法について学習する。がんの理学療法では、緩和医療における理学療法士の役割と病期別理学療法について、がんのリハビリテーションに関する医療保険制度の仕組みを理解する。					
到達目標	糖尿病に対する理学療法の実践で、既往歴に糖尿病がある症例を担当している理学療法が多い。糖尿病の合併症が背景となり、整形外科疾患・中枢疾患・循環器疾患を発症するためである。このため、糖尿病に対する理解を深めることは、他の疾患が主要となる症例を担当した場合も重要になる。この点をふまえて、以下の3つを本講義の到達目標とする。 1) 糖尿病の理学療法について、既往に糖尿病がある症例を担当した際に必要な情報を収集し理学療法実施に必要な評価項目を列挙することができる。また、運動療法やリスク管理に関しても配慮が必要な項目を確認することができる。糖尿病の病態の背景から主要疾患との関連性について理解できる。 2) 腎疾患の理学療法について、透析患者を担当した際に必要な情報を収集し理学療法実施に必要な評価項目を列挙することができる。 3) がんの理学療法について、がん患者を担当した際に必要な情報を収集し理学療法実施に必要な評価項目を列挙することができる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）			担当教員	
1	代謝系の正常な機能	代謝の基本構造について、糖質代謝・脂質代謝を中心について運動との関連を強調した視点で教授する。(教科書pp335-344) 事前学習(30分): 糖質代謝について復習し、授業内容に関する教科書を読む。 事後学習(30分): 他者より教示された部分を復習し、授業全体について内容の理解度を確認する。			中村壽志	
2	糖尿病の医学的診断と治療介入	糖尿病の病態と診断基準およびその治療介入について教授する。(教科書pp345-358) 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書を読む。該当範囲の動画を視聴する。 事後学習(30分): 他者より教示された部分を復習し、授業全体について内容の理解度を確認する。			中村壽志	
3	糖尿病の合併症に対する理学療法	糖尿病の急性合併症と慢性合併症の臨床症状および評価結果の解釈とリスク管理について教授する。(教科書pp359-374) 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書を読む。該当範囲の動画を視聴する。 事後学習(30分): 他者より教示された部分を復習し、授業全体について内容の理解度を確認する。			中村壽志	
4	糖尿病患者の理学療法: 軽症例	糖尿病患者(軽症例)に対する理学(運動)療法の効果とそのメカニズムについて教授する。(教科書pp375-393) 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書を読む。該当範囲の動画を視聴する。 事後学習(30分): 他者より教示された部分を復習し、授業全体について内容の理解度を確認する。			中村壽志	
5	糖尿病患者の理学療法: 重症例	糖尿病患者(重症例)に対する理学(運動)療法の効果とそのメカニズムについて教授する。(教科書pp394-406) 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書を読む。該当範囲の動画を視聴する。 事後学習(30分): 他者より教示された部分を復習し、授業全体について内容の理解度を確認する。			中村壽志	
6	腎疾患と理学療法	腎臓の機能と慢性腎不全の病態、および運動療法について教授する。(教科書pp165-178) 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書を読む。該当範囲の動画を視聴する。 事後学習(30分): 他者より教示された部分を復習し、授業全体について内容の理解度を確認する。			中村壽志	
7	がん患者の理学療法	がん患者の理学療法とリスク管理について教授する。(教科書pp407-437) 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書を読む。該当範囲の動画を視聴する。 事後学習(30分): 他者より教示された部分を復習し、授業全体について内容の理解度を確認する。			中村壽志	
8	ケーススタディ: 腎機能障害を合併した重症糖尿病症例	症例情報からアセスメントした理学療法の実践について教授する。(教科書pp467-471) 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書を読む。該当範囲の動画を視聴する。 事後学習(30分): 他者より教示された部分を復習し、授業全体について内容の理解度を確認する。			中村壽志	
評価	定期試験: 60%、小テスト: 40%					
課題に対する フィードバックの方法	聴衆応答システムを活用してフィードバックしながら小テストを行う。また、ピア評価の結果をmanabaで開示する。					
教科書	シンプル理学療法学シリーズ内部障害理学療法学テキスト/細田多穂/南江堂/ISBN: 978-4-524-23117-1					

参考図書など	病気が見える 糖尿病・代謝・内分泌/医療情報科学研究所/メディックメディア/第3版/ISBN:978-4-89632-415-0
アクティブ・ラーニング	本講義は反転授業の形態をとっており、講義内ではジグソー法と聴衆応答システムを活用する。また、毎回の講義でピア評価を実施する。最終講義ではケースメソッドも実施する。
実務経験のある 教員による授業	認定理学療法士(代謝)と糖尿病療養指導士の資格を有し、糖尿病理学療法の基礎から日本フットケア・足病医学会でトピックになっている話題まで症例を提示しながら臨床的活用度の高い授業を行う。
留意事項	講義中に学生同士で教え合う場面がありますので、提示された事前学習を行ってきてください。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
物理療法学 Physical Modalities	必修	講義	1単位 (30時間)	2年後期	土田 将之	○
ナンバリングコード	オフィスアワー		本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1) 看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2) 科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3) 相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4) 保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5) 幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6) 卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
理学療法治療学						
授業概要	理学療法の代表的な治療手段である物理療法について学習する。特に各種物理的エネルギーが身体にもたらす生理的作用、各種物理療法機器のエネルギー発生原理、温熱療法・電磁波療法・超音波療法・寒冷療法・光線療法・電気刺激療法・牽引療法ならびに水治療法の適応と禁忌について教授する。					
到達目標	1) 各物理的刺激が生体にどのような反応を与えているかを理解する。 2) 対象者の病態を把握し、適切な物理的刺激方法を選択し、適切な刺激量で実施するための方法を理解する。 3) 治療リスクを理解する。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）				担当教員
1	物理療法の意義と目的	理学療法の中での物理療法の位置づけ、物理療法の分類について、講義形式で教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する配布資料の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配布資料など、授業全体について復習する。				土田 将之
2	炎症反応	炎症反応の意義、徴候、プロセスについて、講義形式で教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する配布資料の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配布資料など、授業全体について復習する。				土田 将之
3	組織修復	組織修復のプロセスについて、講義形式で教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する配布資料の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配布資料など、授業全体について復習する。				土田 将之
4	疼痛1(総論)	痛みのメカニズムについて、講義形式で教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する配布資料の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配布資料など、授業全体について復習する。				土田 将之
5	疼痛2(各論)	痛みの種類、痛みの評価について、講義形式で教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する配布資料の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配布資料など、授業全体について復習する。				土田 将之
6	温熱療法1(総論)	温熱療法の原理と生理的作用について、講義形式で教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する配布資料の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配布資料など、授業全体について復習する。				土田 将之
7	温熱療法2(表在温熱)	ホットパック、パラフィンについて、講義形式で教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する配布資料の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配布資料など、授業全体について復習する。				土田 将之
8	温熱療法3(深部温熱)	超短波療法、極超短波療法、超音波療法について、講義形式で教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する配布資料の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配布資料など、授業全体について復習する。				土田 将之
9	寒冷療法	アイスマッサージ、アイシングについて、講義形式で教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する配布資料の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配布資料など、授業全体について復習する。				土田 将之
10	光線療法	レーザー療法、赤外線療法、紫外線療法について、講義形式で教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する配布資料の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配布資料など、授業全体について復習する。				土田 将之
11	電気刺激療法1(総論)	電気療法の原理と生理的作用について、講義形式で教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する配布資料の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配布資料など、授業全体について復習する。				土田 将之
12	電気刺激療法2(各論1)	経皮的電気神経刺激療法、神経・筋電気刺激療法について、講義形式で教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する配布資料の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配布資料など、授業全体について復習する。				土田 将之

13	電気刺激療法3(各論2)	機能的電気刺激療法、微弱電流刺激療法、干渉電流療法、高電圧パルス電流刺激療法について、講義形式で教授する。 事前学習(20分):授業内容に関する配布資料の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分):配付資料など、授業全体について復習する。	土田 将之
14	牽引療法	頸椎・腰椎牽引療法について、講義形式で教授する。 事前学習(20分):授業内容に関する配布資料の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分):配付資料など、授業全体について復習する。	土田 将之
15	水治療法	渦流浴、ハーバードタンク、気泡浴について、講義形式で教授する。 事前学習(20分):授業内容に関する配布資料の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分):配付資料など、授業全体について復習する。	土田 将之
評価		小テスト(40%)、定期試験(60%)	
課題に対するフィードバックの方法		①小テスト:小テスト実施の次回以降の授業時間内に、解説を行う。 ②定期試験:個々に対し、試験結果と間違えた箇所の説明を行う。	
教科書		庄本康治編:エビデンスから身につける物理療法(PT・OTビジュアルテキスト)第二版、羊土社 ISBN:978-4758102629	
参考図書など		Michele H. Cameron 編著、渡部一郎監訳:EBM物理療法 原著第4版、医歯薬出版 ISBN:978-4263219423 烏野大、川村博文編著:最新理学療法学講座 物理療法学、医歯薬出版 ISBN:978-4263267370 望月久、棚橋信雄編著:PT・OTゼロからの物理学、羊土社 ISBN:978-4758107983 細田多穂監修:物理療法学テキスト、南江堂 ISBN:978-4524251797 松澤正著:物理療法学、金原出版 ISBN:978-4307750639	
アクティブ・ラーニング		各講義ごとにグループワークの時間を設け、物理療法の生理学的作用、適応と禁忌についてディスカッションを行う。	
実務経験のある教員による授業		温熱療法、電気刺激療法を中心とした物理療法の臨床経験を活かして、物理療法の基本的な知識と手法について講義する。	
留意事項		授業中に配布した資料および紹介する参考書や関連する書籍をなるべく多く読み、復習すること。	

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
物理療法学演習 Laboratory in Physical Modalities	必修	演習	1単位 (30時間)	3年前期	土田 将之、下田 栄次	○
ナンバリングコード	HPTE2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
理学療法治療学						

授業概要	臨床現場で用いることが多い各種物理療法機器について、その操作方法と効果を演習形式で学習する。具体的にはホットパック、パラフィン、極超短波装置、アイスパック、TENS、干渉波発生装置、IVES、NMESの各物理療法を、学生同士を対象として実施し、客観的な指標に基づいて効果検証を行う。
------	---

到達目標	1)各物理療法機器の操作を修得する。 2)各物理療法機器を実際に体験し、生体に対する物理的刺激の影響について理解する。 3)各種臨床症状を呈する疾患に対し適切な物理療法の選択および刺激量で治療を行うことができる。
------	--

回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）	担当教員
1	オリエンテーション	実習準備、機器の確認、演習、グループワークについて、講義形式で教授する。 事前学習(20分):授業内容に関する配布資料の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分):配付資料など、授業全体について復習する。	土田 将之 下田 栄次
2	温熱療法1(表在温熱)	ホットパック、パラフィンなどの温熱療法について、温度計、血圧計などを用いて演習形式で教授する。 事前学習(20分):授業内容に関する配布資料の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分):配付資料など、授業全体について復習する。	土田 将之 下田 栄次
3	温熱療法2(深部温熱1)	極超短波療法による温熱療法について、温度計、血圧計などを用いて演習形式で教授する。 事前学習(20分):授業内容に関する配布資料の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分):配付資料など、授業全体について復習する。	土田 将之 下田 栄次
4	温熱療法3(深部温熱2)	超音波療法による温熱療法について、温度計、血圧計などを用いて演習形式で教授する。 事前学習(20分):授業内容に関する配布資料の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分):配付資料など、授業全体について復習する。	土田 将之 下田 栄次
5	講義1(疼痛)	物理療法の臨床応用について、疼痛との関連の観点から講義形式で教授する。 事前学習(20分):授業内容に関する配布資料の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分):配付資料など、授業全体について復習する。	土田 将之 下田 栄次
6	水治療法	過流浴について、温度計、角度計などを用いて演習形式で教授する。 事前学習(20分):授業内容に関する配布資料の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分):配付資料など、授業全体について復習する。	土田 将之 下田 栄次
7	寒冷療法	アイスマッサージ、アイシングについて、温度計、血圧計などを用いて演習形式で教授する。 事前学習(20分):授業内容に関する配布資料の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分):配付資料など、授業全体について復習する。	土田 将之 下田 栄次
8	電気刺激療法1(TENS)	経皮的電気神経刺激療法について、痛覚計などを用いて演習形式で教授する。 事前学習(20分):授業内容に関する配布資料の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分):配付資料など、授業全体について復習する。	土田 将之 下田 栄次
9	講義2(スポーツとの関連)	物理療法の臨床応用についてスポーツとの関連の観点から講義形式で教授する。 事前学習(20分):授業内容に関する配布資料の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分):配付資料など、授業全体について復習する。	土田 将之 下田 栄次
10	電気刺激療法2(TES)	治療的電気刺激について、痛覚計などを用いて演習形式で教授する。 事前学習(20分):授業内容に関する配布資料の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分):配付資料など、授業全体について復習する。	土田 将之 下田 栄次
11	電気刺激療法3(FES)	機能的電気刺激について、痛覚計などを用いて演習形式で教授する。 事前学習(20分):授業内容に関する配布資料の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分):配付資料など、授業全体について復習する。	土田 将之 下田 栄次
12	電気刺激療法4(NMES)	神経筋電気刺激療法について、痛覚計などを用いて演習形式で教授する。 事前学習(20分):授業内容に関する配布資料の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分):配付資料など、授業全体について復習する。	土田 将之 下田 栄次

13	牽引療法	腰椎牽引療法などについて、角度計などを用いて演習形式で教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する配布資料の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。	土田 将之 下田 栄次
14	講義3(超音波)	物理療法の臨床応用について、超音波の観点から講義形式で教授する。 事前学習(20分): 授業内容に関する配布資料の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。	土田 将之 下田 栄次
15	まとめ	物理療法で用いる機器の特徴と生理学的意義を総括し、臨床で活用する際の適応と禁忌、注意点を整理する。 事前学習(20分): 授業内容に関する配布資料の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。	土田 将之 下田 栄次
評価	定期試験(50%)、レポート課題(50%)		
課題に対する フィードバックの方法	レポートと定期試験のいずれも、フィードバックを希望する学生に対しては教員が適宜、個別に説明する。		
教科書	庄本康治編:PT・OTビジュアルテキスト エビデンスから身につける物理療法、羊土社 ISBN:978-4758102216 上記に加え補足資料を適宜配布する。		
参考図書など	Michele H, Cameron 編著, 渡部一郎監訳:EBM物理療法 原著第4版、医歯薬出版 ISBN:978-4263219423 烏野大、川村博文編著:最新理学療法学講座 物理療法学、医歯薬出版 ISBN:978-4263267370 望月久、棚橋信雄編著:PT・OTゼロからの物理学、羊土社 ISBN:978-4758107983 細田多穂監修:物理療法学テキスト、南江堂 ISBN:978-4524251797 松澤正著:物理療法学、金原出版 ISBN:978-4307750639		
アクティブ・ラーニング	各種物理療法機器を演習形式で実際に使用し、効果検証を行う。これにより物理療法機器の効果と使用方法について体験的に学習する。		
実務経験のある 教員による授業	温熱療法、電気刺激療法を中心とした物理療法の臨床経験を活かして、物理療法の基本的な知識と手法について演習形式で講義する。		
留意事項	安全確保のため、必ず事前に物理療法学の講義資料と教科書を熟読し、予習をしてから演習に臨むこと。 実技のできる服装で出席すること。		

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
日常生活活動学 Activities of Daily Living	必修	講義	1単位 (30時間)	2年後期	大森 圭貢	○
ナンバリングコード	HPTE2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DPI)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。					
理学療法治療学						

授業概要	日常生活で基本として行われる移動、更衣、食事、排泄などの代表的な動作(日常生活活動:ADL)を取り上げ、それらの動作の分析、評価方法と障害を有する患者のトランスファーや歩行補助器の使用など生活自立を目指した指導方法について教授する。また、生活の質についての基本的な考え方についても学ぶ。
------	---

到達目標	1)日常生活活動の概念と理学療法における重要性を理解し、障害と日常生活活動の関連が説明できる。 2)代表的な日常生活活動の評価、支援機器を説明できる。 3)運動学的な視点で日常生活活動の支援方法を理解する。 4)代表的な障害・疾患者に対する日常生活活動の指導方法を説明できる。
------	---

回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)	担当教員
1	日常生活活動(Activities of Daily Living:ADL)の概念	日常生活活動の概念と範囲、重要性について教授する。(教科書pp4-12) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):日常生活活動の概念と範囲を覚え、理学療法における重要性を確認する。	大森 圭貢
2	日常生活活動と障害	ICFを復習し、障害と日常生活活動の関連について教授する。(教科書pp13-22) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):障害と障害モデル、障害と日常生活活動の関連を覚える。	大森 圭貢
3	日常生活活動と生活の質(Quality of Life:QOL)	生活の質と日常生活活動の関連について教授する。(教科書pp23-31) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):生活の質の評価方法、生活の質と日常生活活動との関連を覚える。	大森 圭貢
4	日常生活活動の運動学的分析	運動学の基礎を復習し、運動学的な視点から見た効果的な介助方法について教授する。介助者、非介助者がともに楽と感じる介助方法をディスカッションする。(教科書pp32-45) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):脳卒中片麻痺者に対する介助方法を考える。	大森 圭貢
5	日常生活活動の評価	日常生活活動評価の目的と意義、代表的な日常生活活動の評価方法を教授する。(教科書pp46-76) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):日常生活活動の評価の目的と意義、代表的な評価方法を覚える。	大森 圭貢
6	日常生活活動を支援する機器(1) 自助具・日常生活用具	日常生活活動を支援する機器として、自助具・日常生活用具の役割と使用時の留意事項を教授する。(教科書pp77-85) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):自助具・日常生活用具の役割と留意事項を覚える。	大森 圭貢
7	日常生活活動を支援する機器(2) 歩行補助具	日常生活活動を支援する機器として、歩行補助具の役割と使用時の留意事項を教授する。(教科書pp85-89) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):歩行補助具の役割と留意事項を覚える。	大森 圭貢
8	日常生活活動を支援する機器(3) 車いす	日常生活活動を支援する機器として、車いすの採寸と車椅子駆動の介助方法について教授する。(教科書pp90-103) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):車いすの役割と作製時の留意事項を覚える。	大森 圭貢
9	片麻痺者の日常生活活動(1)心身機能・身体構造の変化	片麻痺者に生じる心身機能・身体構造および活動に生じる障害を教授する。(教科書pp106-123) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):片麻痺者に生じる障害を覚える。	大森 圭貢
10	片麻痺者の日常生活活動(2)日常生活活動の再獲得に向けた介入	片麻痺者の日常生活活動の再獲得に向けた介入方法を教授する。(教科書pp106-123) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):片麻痺者の日常生活活動の再獲得に向けた介入方法を覚える。	大森 圭貢
11	脊髄損傷者の日常生活活動	脊髄損傷者に生じる身体機能および活動の障害と日常生活活動への影響、日常生活活動の再獲得に向けた介入の方法を教授する。(教科書pp124-141) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):脊髄損傷高位と日常生活活動の関連を覚える。	大森 圭貢
12	脳性麻痺者の日常生活活動	脳性麻痺者に生じる身体機能および活動の障害、日常生活活動の支援方法を教授する。(教科書pp142-155) 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):脳性麻痺者の障害を覚える。	大森 圭貢

13	関節リウマチ者・人工股関節術後者・下肢切断者の日常生活活動	関節リウマチ者・人工股関節術後者・下肢切断者に生じる身体機能および活動の障害と日常生活活動の指導方法を教授する。(教科書pp156-165) 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 授業で紹介した疾患の障害および日常生活活動指導を覚える。	大森 圭貢
14	呼吸器疾患患者・循環器疾患患者の日常生活活動	呼吸器疾患患者・循環器疾患患者に生じる身体機能および活動の障害、日常生活活動の指導方法を教授する。(教科書pp184-194) 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 呼吸器疾患患者・循環器疾患患者に対する日常生活活動指導を覚える。	大森 圭貢
15	神経筋疾患患者、視覚障害者に対する支援方法と在宅生活に向けた日常生活活動指導	神経筋疾患患者に生じる身体機能および活動の障害、日常生活活動の支援方法、視覚障害者に対する支援方法を教授する。(教科書pp195-212、pp213-224) 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 神経筋疾患患者に対する日常生活活動指導、視覚障害者への支援方法を覚える。	大森 圭貢

評価	小テスト30% 定期試験70%
課題に対するフィードバックの方法	小テストは、後の講義の際に解答を示し、学生の質問を受ける。定期試験結果には講評を作成し、掲示によって学生へ公開する。
教科書	日常生活活動学・生活環境学/鶴見隆正(編)/医学書院/第6版/ISBN:978-4-260-04751-7
参考図書など	山崎裕司・山本淳一 編集(2019):リハビリテーション効果を最大限に引き出すコツ 応用行動分析学で運動療法とADL訓練は変わる 第3版、三輪書店ISBN:978-4-89590-663-0
アクティブ・ラーニング	日常生活活動と生活の質の関連、介助者、非介助者がともに楽に感じる介助方法などについてディスカッションの機会を設け、臨床現場で活用できる考え方を身につけてもらう。
実務経験のある教員による授業	片麻痺患者、整形外科疾患患者、認知機能低下のある患者、脊髄損傷患者など様々な疾患および患者に対する理学療法に従事していた教員が講義する。
留意事項	理学療法における重要な内容です。事前事後の学習は必ず行い、事後は不明な点を残さないように臨んで下さい。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
日常生活活動学演習 Practice of Activities of Daily Living	必修	演習	1単位 (30時間)	3年前期	大森 圭貢	
ナンバリングコード	HPTE2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。					
理学療法治療学						

授業概要	起居動作や移乗・移動動作などを実際に行うことによって、動作障害に対するADL動作指導や介助法指導の要点について学習する。日常生活活動学で学んだ生活基本動作の分析、評価および指導方法について演習を通して学ぶ。本講義を通じて、介助者、被介助者、様々な生活環境を推測でき、適切な動作を選択、指導できるように学ぶ。
------	---

到達目標	1)疾患や動作障害に応じた日常生活活動の方法を説明・選択できる。 2)疾患や動作障害に合わせた日常生活活動の指導、動作介助が行える。 3)疾患や動作障害に応じた福祉用具の選定、使用方法を理解する。
------	--

回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）	担当教員
1	片麻痺者の片手動作練習（箸操作）	脳卒中片麻痺者の片手動作をグループワーク形式で演習し、練習方法の工夫すべき点をディスカッションする。（資料配布） 事前学習(45分):非利き手で箸を操作して、食事をする。 事後学習(60分):脳卒中者の片手動作の指導方法を覚える。	大森 圭貢
2	片麻痺者の立位・歩行練習	脳卒中片麻痺者の立位・歩行練習について教授し、グループワーク形式で演習する。（教科書pp112-115） 事前学習(45分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):脳卒中者の立位・歩行の介助方法を覚える。	大森 圭貢
3	片麻痺者の更衣動作練習	脳卒中片麻痺者の更衣動作をグループワーク形式で演習し、練習方法の工夫すべき点をディスカッションする。（資料配布） 事前学習(45分):脳卒中片麻痺者の更衣動作の方法を読んでくる。 事後学習(60分):脳卒中者片麻痺者の更衣動作の指導方法を覚える。	大森 圭貢
4	車椅子によるキャスター上げと片麻痺者の起き上がり・移乗介助と車いす操作-1:指導・操作方法の理解と評価	車いすでのキャスター上げ、片麻痺者の起き上がり・移乗介助と車いす操作の方法の実技をグループワーク形式で実践する。（教科書pp130、資料配布） 事前学習(45分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):演習内容を確認する。	大森 圭貢
5	車椅子によるキャスター上げと片麻痺者の起き上がり・移乗介助と車いす操作-2:操作の練習	車いすでのキャスター上げ、片麻痺者の起き上がり・移乗の介助と車いす操作の実技をグループワーク形式で実践する。変化を評価する。（教科書pp130、資料配布） 事前学習(45分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):演習内容を確認する。	大森 圭貢
6	車椅子によるキャスター上げと片麻痺者の起き上がり・移乗介助と車いす操作-3:指導・操作の再評価	車いすでのキャスター上げ、片麻痺者の起き上がり・移乗の介助と車いす操作の実技をグループワーク形式で実践する。変化した点を明らかにする。（教科書pp130、資料配布） 事前学習(45分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):演習内容を確認する。	大森 圭貢
7	整形外科疾患者の日常生活活動練習	部分荷重練習方法指導をグループワーク形式で実践する。（資料配布） 事前学習(45分):授業内容に関して調べてくる。 事後学習(60分):部分荷重練習の方法を覚える。	大森 圭貢
8	認知機能低下者に対する日常生活活動の練習と支援	認知機能低下者の行動と対処の動画を視聴し、医療サービスの提供者として不適切な対応と適切な対応について、グループディスカッションする。（資料配布） 事前学習(45分):認知機能低下によって生じる障害を調べてくる。 事後学習(60分):認知機能低下者に対する適切な対応を覚える。	大森 圭貢
9	日常生活活動練習における無誤学習過程と日常生活活動制限の原因分析に活用できる基準値	日常生活活動、起居移動動作の練習方法として用いる無誤学習の理論的背景を教授する。日常生活活動に必要とされる身体機能の基準値とその活用方法を教授する。（資料配布） 事前学習(45分):無誤学習について調べてくる。 事後学習(60分):無誤学習に配慮した脳卒中片麻痺者の日常生活活動の支援方法を考える。代表的な基準値を覚える。	大森 圭貢
10	模擬症例の日常生活活動制限に対する練習方法の創出	模擬症例の日常生活活動制限に対する介入をグループで考え、パワーポイントにまとめる。（資料配布） 事前学習(45分):日常生活活動制限に対する介入を復習して（日常生活活動学）。 事後学習(90分):パワーポイントを用いたプレゼンテーションを準備する。	大森 圭貢
11	模擬症例の日常生活活動制限に対する練習方法の創出とプレゼンテーション	グループごとに模擬症例の日常生活活動制限に対する介入をプレゼンテーションする。（資料配布） 事前学習(60分):プレゼンテーションに対する質問を予想し、回答を考える。 事後学習(60分):質問に対する回答を調べて、まとめる。	大森 圭貢
12	脊髄損傷者の起居移動動作の介助・指導方法-1:起居動作	脊髄損傷者に対する起居動作の指導方法を教授し、グループワーク形式で演習する。（教科書pp124-141） 事前学習(45分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分):脊髄損傷者に対する起居動作の指導方法を覚える。	大森 圭貢

13	脊髄損傷者の起居移動動作の介助・指導方法―2: 移乗動作	脊髄損傷者に対する移乗動作の指導方法を教授し、グループワーク形式で演習する。(教科書 pp124-141) 事前学習(45分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 脊髄損傷者に対する移動動作の指導方法を覚える。	大森 圭貢
14	脊髄損傷者の起居移動動作の介助・指導方法―3: 除圧動作	脊髄損傷者に対する除圧動作の指導方法を教授し、グループワーク形式で演習する。(教科書 pp124-141) 事前学習(45分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 脊髄損傷者に対する除圧動作の指導方法を覚える。	大森 圭貢
15	脊髄損傷者の起居移動動作の介助・指導方法―4: 車椅子操作	脊髄損傷者に対する車椅子操作の指導方法を教授し、グループワーク形式で演習する。(教科書 pp124-141) 事前学習(45分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる。 事後学習(60分): 脊髄損傷者に対する車椅子駆動の指導・支援方法を覚える。	大森 圭貢

評価	実技テスト40% 定期試験60%
課題に対するフィードバックの方法	定期試験結果には講評を作成し、掲示によって学生へ公開する。
教科書	日常生活活動学・生活環境学(第6版)/鶴見隆正(編)/医学書院/ISBN:978-4-260-04751-7
参考図書など	山崎裕司・山本淳一 編集(2019):リハビリテーション効果を最大限に引き出すコツ 応用行動分析学で運動療法とADL訓練は変わる 第3版、三輪書店(ISBN:978-4-89590-663-0)
アクティブ・ラーニング	開講回数15回のうち14回にグループワークを設け、そのうち1回はプレゼンテーションとする。
実務経験のある教員による授業	大学病院および地域において、片麻痺患者、整形外科疾患患者、認知機能低下のある患者、脊髄損傷患者に対する急性期と生活期の理学療法に従事していた教員が演習を行う。
留意事項	理学療法における重要な内容です。事前事後の学習は必ず行い、不明な点を残さないように臨んで下さい。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
義肢装具学 I prosthetics/orthotics I	必修	講義	1単位 (30時間)	2年後期	鶴見隆正	○
ナンバリングコード	HPTE2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DPI)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。					
理学療法治療学						

授業概要	四肢切断のリハビリテーションに必要な知識と技術を学習する。切断原因、切断手技を理解し、急性期からの理学療法、義肢装着訓練について学び、義手、義足の種類、ソケットの特徴、ソケットの適応判定、さらに切断端の評価から断端訓練、アライメント調整、歩行訓練、応用動作訓練等については実習を取り入れながら学習する。また義肢処方から義肢完成までの過程、義肢給付制度について理解し、切断者の社会復帰までにおける理学療法士の役割と位置づけについて教授する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 四肢切断・欠損の原因と切断術を理解する。</li> <li>2) 義足・ソケットの種類と特徴を理解する。</li> <li>3) 切断のリハビリテーションにおける理学療法士の役割を理解する。</li> </ol>					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）				担当教員
1	切断のオリエンテーション	切断のリハビリテーションにおける理学療法士の位置づけと役割を学ぶ 事前学習(10分):事前学習:リハビリテーションの理念、構造について再確認をする 事後学習(20分):切断のリハビリテーション過程と理学療法の関連を確認する				鶴見隆正
2	切断と義肢の歴史・実態	切断・義肢の歴史と実態を学ぶ(pp1-2) 事前学習(10分):切断・義肢の歴史と実態を確認する 事後学習(15分):切断・義肢の歴史・実態の背景を確認する				鶴見隆正
3	切断原因	切断原因の変遷について学ぶ(pp2-4) 事前学習(15分):切断原因を確認する 事後学習(15分):切断原因と疾病構造の変遷を確認する				鶴見隆正
4	切断術と断端管理	切断術と断端管理を学ぶ(pp4-8) 事前学習(15分):切断術の術式、断端管理について学ぶ 事後学習(20分):弾性包帯・ギブス包帯での断端管理の意義を確認する				鶴見隆正
5	大腿義足ソケット	大腿義足のソケット形状を学ぶ(pp22-26) 事前学習(10分):大腿義足ソケットの各種を再確認する 事後学習(15分):常用式、吸着式四辺形ソケット、TCなどを確認する				鶴見隆正
6	大腿義足のアライメント	大腿義足のアライメント調整と力学的関連性を学ぶ(33-39) 事前学習(10分):ベンチアライメント、静的アライメントを確認する 事後学習(15分):ベンチからダイナミックアライメントの意義を確認する				鶴見隆正
7	大腿義足の異常歩行	大腿切断者の異常歩行の原因と歩行指導の在り方を学ぶ(pp39-42) 事前学習(10分):異常歩行の様式を確認する 事後学習(15分):異常歩行の様式と原因の関連性を確認する				鶴見隆正
8	膝継手・足継手	膝継手・足継手の構造と機能について学ぶ(26-32) 事前学習(15分):各種の膝継手・足継手のタイプの機能を確認する 事後学習(15分):各種の膝継手・足継手のタイプの機能を確認する				鶴見隆正
9	大腿義足の演習	大腿義足のソケット形状、アライメント、膝継手の操作、異常歩行の原因と様式との関連性を演習する(pp12-42) 事前学習(15分):ソケット、各種継手を事前学習する 事後学習(15分):ソケット機能、継手機能と異常歩行の関連性を確認する				鶴見隆正
10	下腿切断と下腿義足	各種の下腿ソケットの形状と機能特性、歩行について学ぶ(pp43-49)(pp54-58) 事前学習(10分):教科書から下腿義足各タイプを確認する 事後学習(15分):ソケットの形状と荷重部位との関連性、特徴を確認する				鶴見隆正
11	膝関節離断・サイム切断と股離断	膝・サイム切断と股離断の切断原因、ソケットの関連性を学ぶ(pp49-50)(pp64-68) 事前学習(10分):股・膝、足関節の解剖学的機能を確認する 事後学習(10分):股離断・膝関節離断、サイム切断の術式と特徴、ソケット機能を理解する				鶴見隆正
12	両側下肢切断	両側下肢切断の原因とソケット・継手、歩行指導について学ぶ(pp34-42) 事前学習(10分):両下肢切断の原因を確認する(pp) 事後学習(15分):両側大腿切断の義肢装着過程と指導法を確認する				鶴見隆正

13	下肢切断者の理学療法評価	模擬大腿切断者の理学療法評価を演習的にグループ学習で学ぶ(pp73-82) 事前学習(5分):理学療法の評価法を確認する 事後学習(15分):下肢切断者の評価プロセスと実際を確認する	鶴見隆正
14	演習:下肢切断者の理学療法過程	模擬下肢切断事例についての理学療法評価をプレゼンテーションする(pp103-107) 事前学習(15分):下肢切断の理学療法評価を確認する 事後学習(20分):プレゼンテーションの内容を再確認する	鶴見隆正
15	下肢切断・義肢のまとめ	大腿切断者の義肢装着から歩行指導、ADLを学ぶ 事前学習(10分):大腿切断の断端訓練、理学療法を確認する(pp108-112) 事後学習(20分):義肢装着・ADL、断端訓練を復習する	鶴見隆正

評価	筆記試験(70%)と小テスト(30%)で評価
課題に対するフィードバックの方法	義足のアライメント調整の理論やプレゼンテーション等のフィードバックはデモンストレーションを織り交ぜ教員が適宜実施する
教科書	石川朗編集:理学療法テキスト:義肢学 第2版、中山書店(ISBN:978-4-521-74490-2)
参考図書など	澤村誠志著(2007):切断と義肢、医歯薬出版(ISBN:978-4-263-21300-1)
アクティブ・ラーニング	13回の切断者評価をグループ演習でアクティブ・ラーニングを促す
実務経験のある教員による授業	大学病院で24年間の臨床経験を基に、切断のリハビリテーションのハード・ソフト面について臨床的に講義する
留意事項	義足を手にして、形状や機能などを体感することが大切です

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
義肢装具学Ⅱ Prosthetics and Orthotics Ⅱ	必修	演習	1単位 (30時間)	3年前期	大村 優慈	○
ナンバリングコード	HPTE2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。					
理学療法治療学						
授業概要	下肢、体幹、上肢の装具の目的、適応疾患ならびに身体症状と装具との関連を臨床的に学び、実際の理学療法における装具療法的位置づけと適合判定について必要な知識と技術を修得する。装具療法の代表的な疾患を中心に運動療法との関連を含めて、一部演習形式で装具について学習する。さらに、適応やチェックアウト時の義肢装具士との連携について理解を深める。					
到達目標	1) 装具療法の目的を理解する。 2) 各種装具の名称・構造・機能を理解し説明できる。 3) 身体機能障害別に装具の適応を理解する。 4) 装具装着と適合判定、理学療法との組合せで患者指導が演習できる。 5) 装具療法におけるチームアプローチを理解する。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）			担当教員	
1	装具学総論、下肢装具の部品とその機能	装具の概要、下肢装具の部品とその機能について学ぶ。(教科書①pp.1-20) 事前学習(30分):教科書の該当箇所を読む 事後学習(30分):授業内容を復習する			大村 優慈	
2	短下肢装具・長下肢装具	短下肢装具と長下肢装具の構造・機能と使い方について学ぶ。(教科書①pp.21-35) 事前学習(30分):教科書の該当箇所を読む 事後学習(30分):授業内容を復習する			大村 優慈	
3	靴型装具・膝装具・股装具	靴型装具・膝装具・股装具の構造・機能と使い方について学ぶ。(教科書①pp.35-52) 事前学習(30分):教科書の該当箇所を読む 事後学習(30分):授業内容を復習する			大村 優慈	
4	1-3回の授業内容のまとめ	1-3回の授業内容について的小テストを行い、試験後に問題の解答・解説等を行いながら授業内容の理解を深める。 事前学習(90分):1-3回目の授業内容の総復習 事後学習(30分):小テストの復習			大村 優慈	
5	下肢装具のチェックアウト	下肢装具のチェックアウトについて学ぶ。(教科書①pp.53-62) 事前学習(30分):教科書の該当箇所を読む 事後学習(30分):第6回授業の演習で使用するチェックアウトシートを作成			大村 優慈	
6	下肢装具のチェックアウト演習	下肢装具のチェックアウトの演習を行う。(教科書①pp.63-72) 事前学習(30分):教科書の該当箇所を読む 事後学習(90分):レポートを作成する			大村 優慈	
7	体幹装具・上肢装具	体幹装具と上肢装具の構造・機能と使い方について学ぶ。(教科書①pp.72-94) 事前学習(30分):教科書の該当箇所を読む 事後学習(30分):授業内容を復習する			大村 優慈	
8	車椅子・歩行補助具	車椅子と歩行補助具について、主にその調整方法を演習を中心に学ぶ。(教科書①pp.95-108) 事前学習(30分):教科書の該当箇所を読む 事後学習(30分):授業内容を復習する			大村 優慈	
9	整形外科疾患・対麻痺・小児の装具療法	整形外科疾患・対麻痺・小児の装具療法の実際について学ぶ。(教科書①pp.123-152) 事前学習(30分):教科書の該当箇所を読む 事後学習(30分):授業内容を復習する			大村 優慈	
10	5-9回の授業内容のまとめ	5-9回の授業内容について的小テストを行い、試験後に問題の解答・解説等を行いながら授業内容の理解を深める。 事前学習(90分):5-9回目の授業内容の総復習 事後学習(30分):小テストの復習			大村 優慈	
11	装具の着脱、包帯や三角巾による装具の代用	装具の着脱、包帯や三角巾による装具の代用について演習を中心に学ぶ。(教科書②pp.110-131) 事前学習(30分):教科書の該当箇所を読む 事後学習(30分):授業内容を復習する			大村 優慈	
12	脳卒中の装具療法	脳卒中の装具療法の実際について学ぶ。(教科書②pp.16-109) 事前学習(90分):教科書の該当箇所を読む 事後学習(30分):授業内容を復習する			大村 優慈	

13	生活期の装具	装具の支給制度、装具難民、装具の不適合、外観の問題について学ぶ。(教科書②pp.132-175) 事前学習(60分):教科書の該当箇所を読む 事後学習(30分):授業内容を復習する	大村 優慈
14	最新の装具とロボットリハビリテーション	最新の装具とロボットリハビリテーションについて学ぶ。(教科書②pp.176-221) 事前学習(60分):教科書の該当箇所を読む 事後学習(30分):授業内容を復習する	大村 優慈
15	1-14回の授業内容のまとめ	授業内容全体の総括を行う。 事前学習(60分):14回目までの授業内容の総復習 事後学習(60分):15回目までの授業内容の総復習	大村 優慈
評価	定期試験(筆記)45%、小テスト30%(15×2回)、装具の適合判定についてのレポート5%、生活期の装具についてのレポート5%、授業への参加度15%		
課題に対するフィードバックの方法	小テストは実施後に解答解説を行う。提出されたレポートにはコメントを記載して返却する。		
教科書	① 石川朗(総編集)/装具学(15レクチャーシリーズ理学療法テキスト)/第2版/中山書店/ISBN:978-4521744919(第1～10回、15回の授業で使用) ② 大村優慈(編集)/脳卒中リハ 装具活用実践レクチャー/メジカルビュー/ISBN:978-4758319287(第11～15回の授業で使用)		
参考図書など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大村優慈/脳卒中リハの落とし穴100/ヒューマンプレス/ISBN:978-4908933042</li> <li>・ 日本整形外科学会・日本リハビリテーション医学会(監修)/義肢装具のチェックポイント/第9版/医学書院/ISBN:978-4260045896</li> <li>・ 松田雅弘・遠藤正英(編集)/脳卒中の装具のミカタ/医学書院/ISBN:978-4260043236</li> <li>・ 渡邊英夫・平山史朗・藤崎拓憲/脳卒中の下肢装具/第4版/医学書院/ISBN:978-4260050333</li> <li>・ 阿部浩明(編集)/歩行再建を目指す下肢装具を用いた理学療法/文光堂/ISBN:978-4830645730</li> </ul>		
アクティブ・ラーニング	装具を装着したり調整したりすることで動作がどのように変化するかを実際に体験したり観察したりする機会を設け、装具が動作に与える影響について学生自身で考える機会を設ける。また、装具の適合演習を行う中で、正確に手早く適合判定を行うためにはどうしたら良いのか学生自身が考えることを求める。また、義肢装具ユーザーのファッションショーの動画閲覧を通し、義肢装具ユーザーのQOLについて考察することを求める。		
実務経験のある教員による授業	脳卒中認定理学療法士、補装具認定理学療法士の資格を有する教員が、リハビリテーション病院や介護老人保健施設での装具療法に関する豊富な臨床経験を背景として、装具の実物を用い、装具の装着、適合判定、調整の演習を行い、また、義肢装具士や看護師など他職種との連携のあり方まで含めて実践的な授業を行う。		
留意事項	装具に触れる機会を多く設けるため、授業開始前の手洗いをお願いします。また、装具を実際に装着した状態で運動を行うことがありますので、スカートでの参加は避けていただくようお願いいたします。		

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
理学療法対象者行動論 Behavior Theory for Objects of Physical Therapy	必修	講義	1単位 (15時間)	3年前期	小林 和彦	○
ナンバリングコード	HPTE2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
理学療法治療学						

授業概要	理学療法士としての臨床経験を活かし、理学療法を実施する際の患者教育、患者指導をする上で重要となる応用行動分析学の理論と技法を教授する。
------	---

到達目標	1)ヒトが動きにくくなったり、動けなくなる理由を説明できる。 2)行動分析学の基本的概念について説明できる。 3)行動の法則(原理)について説明できる。 4)行動分析学の枠組みに基づく問題行動のとらえ方と解決のための基本的な考え方を説明できる。
------	---

回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)	担当教員
1	行動分析学とは何か	行動分析学の概念、目的、方法。医学モデルと行動モデル 事前学習(30分):行動分析学とはどのような学問か、その概要を調べておく。 事後学習(60分):授業内容について復習し、理解を深めておく。	小林 和彦
2	行動の原因について考える	循環論、ラベリング、行動随伴性、オペラント条件付け、オペラント行動 事前学習(30分):行動モデルの視点での行動の原因について考えてくる 事後学習(60分):授業内容について復習し、理解を深めておく。	小林 和彦
3	なぜ人は行動するようになるのか	好子とは、嫌子とは、好子出現による強化、嫌子消失による強化 事前学習(30分):好子出現による強化、嫌子消失による強化について調べておく。 事後学習(60分):授業内容について復習し、理解を深めておく。	小林 和彦
4	なぜ人は行動しなくなるのか	嫌子出現による弱化、好子消失による弱化、消去 事前学習(30分):嫌子出現・好子消失による弱化、消去(復帰)について調べておく。 事後学習(60分):授業内容について復習し、理解を深めておく。	小林 和彦
5	行動が復活するのはなぜか。人がその場に相応しい行動がとれるようになるのはなぜか。	復帰、刺激性制御(先行刺激による行動の制御) 事前学習(30分):復帰、刺激性制御(先行刺激による行動の制御)について調べておく。 事後学習(60分):授業内容について復習し、理解を深めておく。	小林 和彦
6	人の行動に影響を与える要因について考える	確立操作(状況要因) 事前学習(30分):確立操作(状況要因)について調べておく。 事後学習(60分):授業内容について復習し、理解を深めておく。	小林 和彦
7	行動を変えるための基本的な考え方について考える	応用行動分析学に基づく行動改善のための考え方、介入方法、行動改善事例 事前学習(30分):行動分析学に基づくアプローチの基本的な考え方について調べておく。 事後学習(60分):授業内容について復習し、理解を深めておく。	小林 和彦
8	機能分析とは	機能分析の考え方、機能分析の実践 事前学習(30分):ABC分析の考え方と応用方法について調べておく。 事後学習(60分):授業内容について復習し、理解を深めておく。	小林 和彦

評価	定期試験90%、小テスト10%として評価する。
課題に対するフィードバックの方法	小試験など、その後の授業において時間がとれる場合は、受講生全員にフィードバックを行う。期末試験もしくはレポート等においては、希望者がいれば個別に對する。
教科書	①杉山尚子著(2005):行動分析学入門(第1版)、集英社(ISBN:978-4-08-720307-3) ②授業用資料を随時配布
参考図書など	①ポール・A. アルバート著(2004):はじめての応用行動分析 日本語版(第2版)、二瓶社(ISBN:9784861080159) ②杉山 尚子著(1998):行動分析学入門(第2版)、産業図書(ISBN-10:4782890354) ③島宗宗著(2019):応用行動分析学—ヒューマンサービスを改善する行動科学(第1版)、新曜社(ISBN:9784788516229)
アクティブ・ラーニング	アクティブラーニングとして、授業内に適宜ディスカッションを取り入れる。
実務経験のある教員による授業	理学療法士としての臨床経験を活かし、応用行動分析の基本的な知識と手法、行動変容についての基本的な考え方について講義する。
留意事項	本授業で学習する内容は、「日常生活活動学及び実習」「臨床実習」等に関連する。

IV 専門基礎科目  
専門科目

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
高次脳障害学 Cognitive disorders	必修	講義	1単位 (30時間)	3年前期	増田 雄亮	○
ナンバリングコード	HPTE2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。					
理学療法治療学						
授業概要	失語・失行・失認を含む高次脳機能障害の発生機序、神経心理学的検査法、治療法などについて学習する。脳卒中や脳外傷などに起因する高次脳機能障害の症候を理解し、神経心理学検査を用いた評価と障害像に応じたリハビリテーションの実践過程を習得する。また、認知症を有する対象者への理学療法士としての関わり方について学習する。					
到達目標	(1)高次脳機能障害の発生機序や症候に応じた神経心理学的検査法の選択と実施方法について理解できる。 (2)神経心理学的検査結果の解釈と障害像に応じたリハビリテーションの実践過程について理解できる。 (3)認知症の種類、行動心理症状について理解できる。 (4)認知症を有する対象者への理学療法士としての関わり方について説明できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）			担当教員	
1	高次脳機能障害総論	大脳の機能局在、神経心理学的検査の概要など高次脳機能障害の基礎知識について 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読む 事後学習(30分):配布資料など、授業全体について復習する			増田 雄亮	
2	高次脳機能障害各論1 (失語・失読・失書)	失語・失読・失書の症候・神経心理学的検査法・リハビリテーション 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読む 事後学習(30分):配布資料など、授業全体について復習する			増田 雄亮	
3	高次脳機能障害各論2 (失行、行為・行動の障害)	失行、行為・行動の障害などの症候・神経心理学的検査法・リハビリテーション 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読む 事後学習(30分):配布資料など、授業全体について復習する			増田 雄亮	
4	高次脳機能障害各論3 (失認と関連症状)	失認と関連症状の症候・神経心理学的検査法・リハビリテーション 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読む 事後学習(30分):配布資料など、授業全体について復習する			増田 雄亮	
5	高次脳機能障害各論4 (無視症候群・外界と身体 の処理に関わる空間性障害)	無視症候群・空間性障害の症候・神経心理学的検査法・リハビリテーション 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読む 事後学習(30分):配布資料など、授業全体について復習する			増田 雄亮	
6	高次脳機能障害各論5 (意識障害と注意障害)	意識障害・注意障害の症候・神経心理学的検査法・リハビリテーション 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読む 事後学習(30分):配布資料など、授業全体について復習する			増田 雄亮	
7	高次脳機能障害各論6 (記憶障害)	記憶障害の症候・神経心理学的検査法・リハビリテーション 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読む 事後学習(30分):配布資料など、授業全体について復習する			増田 雄亮	
8	高次脳機能障害各論7 (遂行機能障害・その他の前頭葉 症状)	遂行機能障害・その他の前頭葉症状の症候・神経心理学的検査法・リハビリテーション 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読む 事後学習(30分):配布資料など、授業全体について復習する			増田 雄亮	
9	高次脳機能障害各論8 (外傷性脳損傷)	外傷性脳損傷の症候・神経心理学的検査法・リハビリテーション 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読む 事後学習(30分):配布資料など、授業全体について復習する			増田 雄亮	
10	脳画像と高次脳機能障害	脳画像をみる際のポイントと高次脳機能障害の予測について 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読む 事後学習(30分):配布資料など、授業全体について復習する			増田 雄亮	
11	認知症総論	認知症の症候・神経心理学的検査法・リハビリテーション 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読む 事後学習(30分):配布資料など、授業全体について復習する			増田 雄亮	
12	認知症各論1 (アルツハイマー型・脳血管性・ レビー小体型認知症)	アルツハイマー型認知症・脳血管性認知症・レビー小体型認知症の症候とリハビリテーション 事前学習(30分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読む 事後学習(30分):配布資料など、授業全体について復習する			増田 雄亮	

13	認知症各論2 (前頭側頭型認知症・若年性認知症)	前頭側頭型認知症・若年性認知症の症候とリハビリテーション 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読む 事後学習(30分): 配布資料など、授業全体について復習する	増田 雄亮
14	認知症各論3 (軽度認知障害への対応: 認知症の予防)	軽度認知障害の症候とリハビリテーション 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読む 事後学習(30分): 配布資料など、授業全体について復習する	増田 雄亮
15	まとめ (高次脳機能とニューロリハビリテーション)	高次脳機能の神経ネットワークとニューロリハビリテーションへの応用について 事前学習(30分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読む 事後学習(30分): 配布資料など、授業全体について復習する	増田 雄亮

評価	定期試験70%、レポート10%、プレゼンテーション20%、
課題に対するフィードバックの方法	定期試験とレポート・プレゼンテーションの得点を公開する。
教科書	森田秋子、後藤伸介(編集): 理学療法士が知っておきたい 認知能力のアセスメントとアプローチ —高次脳機能障害を行動から分析する—、三輪書店、2021、ISBN: 978-4895907194 島田裕之(監修)、牧迫飛雄馬(編集): 理学療法士のための知っておきたい! 認知症知識Q & A、医歯薬出版、2018、ISBN: 978-4263265635
参考図書など	石合純夫: 高次脳機能障害学 第3版、医歯薬出版、2022、ISBN: 978-4263266519 森岡周: 高次脳機能の神経科学とニューロリハビリテーション、協同医書出版社、2020、ISBN: 978-4763910899
アクティブ・ラーニング	神経心理学検査を学生同士で演習する。神経心理学検査の結果や画像所見を解釈し、リハビリテーション戦略に役立てるプロセスについて、グループ演習を行う。また、認知症についてジグソー法によるプレゼンテーション学習を実施する。
実務経験のある教員による授業	リハビリテーション医療の現場における作業療法士としての臨床経験と公認心理師としての心理学の知見を活用し、神経心理学・認知心理学を基盤とした高次脳機能障害の基本的な知識と考え方について講義する。
留意事項	「解剖学」「生理学」「脳神経外科学」「神経内科学」「リハビリテーション医学」「老年医学概論」など専門基礎科目での学習に関連する。事前学習を行って授業に臨むこと。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
理学療法特論Ⅰ Selected Topics on Physical Therapy I	必修	講義	1単位 (15時間)	3年後期	森尾裕志、大森圭貢、中尾陽光、大村優慈、 下田栄次、中村壽志、土田将之	○
ナンバリングコード	HPTE2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
理学療法治療学						
授業概要	臨床実習の意義や一連の流れについて学び、これまで学んできたことの統合を図る。3年次までの座学、演習科目を統合し、評価学実習に結びつける。評価学実習を行うにあたり、心得、接遇、医療現場でのマナー、事故予防等についてロールプレイを行って修得する。さらに、3年次までに学んだ各演習科目を統合し、実技の再復習を行う。					
到達目標	臨床実習の意義や一連の流れについて学び、これまで学んできたことの統合を図る。3年次までの座学、演習科目を統合し、評価学実習に結びつける。評価学実習を行うにあたり、心得、接遇、医療現場でのマナー、事故予防等についてロールプレイを行って修得する。さらに、3年次までに学んだ各演習科目を統合し、実技の再復習を行う。1)臨床現場での理学療法士としての心得、接遇、医療現場でのマナー、事故予防、2)各種検査・測定を患者へのオリエンテーションから実際の検査・測定、3)臨床実習の準備としての基本的な手技と一連の流れ、についてそれぞれ理解、実践することができることを到達目標とする。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）				担当教員
1	臨床現場での心得、接遇、医療現場でのマナーについて	臨床現場での理学療法士としての心得、待遇、医療現場でのマナー、事故予防について演習する。 事前学習(20分): 授業内容に関する3年次までの学修内容を復習しておく。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。				森尾 裕志
2	脳卒中患者を想定した臨床実習前演習	脳卒中患者を想定した臨床実習前演習を実施する。 事前学習(20分): 授業内容に関する3年次までの学修内容を復習しておく。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。				大森 圭貢
3	片麻痺患者を想定した臨床実習前演習	脳卒中片麻痺患者を想定した臨床実習前演習を実施する。 事前学習(20分): 授業内容に関する3年次までの学修内容を復習しておく。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。				大村 優慈
4	脊髄損傷患者を想定した臨床実習前演習	脊髄損傷患者を想定した臨床実習前演習を実施する。 事前学習(20分): 授業内容に関する3年次までの学修内容を復習しておく。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。				森尾 裕志
5	腰椎椎間板ヘルニア患者を想定した臨床実習前演習	腰椎椎間板ヘルニア患者を想定した臨床実習前演習を実施する。 事前学習(20分): 授業内容に関する3年次までの学修内容を復習しておく。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。				中尾 陽光
6	全人工股関節置換術後患者を想定した臨床実習前演習	全人工股関節置換術後患者を想定した臨床実習前演習を実施する。 事前学習(20分): 授業内容に関する3年次までの学修内容を復習しておく。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。				下田 栄次
7	肩関節周囲炎患者を想定した臨床実習前演習	肩関節周囲炎患者を想定した臨床実習前演習を実施する。 事前学習(20分): 授業内容に関する3年次までの学修内容を復習しておく。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。				土田 将之
8	全人工膝関節置換術後患者を想定した臨床実習前演習	全人工膝関節置換術後患者を想定した臨床実習前演習を実施する。 事前学習(20分): 授業内容に関する3年次までの学修内容を復習しておく。 事後学習(30分): 配付資料など、授業全体について復習する。				中村 壽志
評価	CBT (Computer Based Testing: 80%以上の得点率)をOSCEの受験条件とする、OSCE (Objective Structured Clinical Examination: 80%以上の得点率)100%、として評価する。					
課題に対する フィードバックの方法	毎回の授業中での対応と、随時E-mailでの対応を行う。個別面談を希望する場合には応じる。					
教科書	なし(講義の中で適宜プリントを配布する)					
参考図書など	臨床技能とOSCE/才藤栄一/コミュニケーションと介助・検査測定編/金原出版/ISBN: 978-4307750455 臨床技能とOSCE/才藤栄一/機能障害・能力低下への介入編/金原出版/ISBN: 978-4307750516					
アクティブ・ラーニング	学生同士でグループを組ませる。教員が臨床を想定したシナリオを作成し、受講学生は模擬患者、模擬セラピストに別れ、実技を通して、より適切な接遇、身体測定法の手順や手技、応答を学生自身で考えてもらう。					
実務経験のある 教員による授業	理学療法士の資格を有した教員がそれぞれ対応する。またそれぞれが豊富な臨床経験を有しており、臨床場面を想定した授業を展開する。					
留意事項	臨床実習を想定した服装、髪型で講義に臨むこと。3年次までに学修した臨床医学、評価学について復習しておくこと。臨床実習に赴く上でのハードル科目である。					

授業科目の名称	必修・選択の別	授業形態	単位数(時間数)	配当年次	科目担当教員	実務経験のある教員による科目
理学療法特論Ⅱ Selected Topics on Physical Therapy Ⅱ	必修	講義	1単位 (15時間)	4年後期	坂上 昇・大森圭貢・森尾裕志・斉藤琴子 櫻井好美・中尾陽光・下田栄次・中村壽志	○
ナンバリングコード	HPTE2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
理学療法治療学						

**授業概要**  
 これまで学んできた基礎医学分野の知識を、理学療法士国家試験の出題傾向に沿って整理する。基礎医学分野の中でも解剖学・生理学・運動学を中心に知識の整理を行い、理学療法士国家試験合格に必要な知識としての統合を図る。この基礎医学分野の知識の整理と統合は、臨床医学分野や理学療法専門分野の理解に深く関連しており、今後の国家試験受験に向けた学修のための基礎固めを図る。

**到達目標**  
 1)基礎医学分野に関する知識を整理し、その分野での国家試験問題が理解できるようになる。  
 2)基礎医学分野に関する知識の整理を基に、それと関連する臨床医学分野の国家試験問題が理解できるようになる。

回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)	担当教員
1	骨・関節・靭帯	国試の達人(運動解剖生理学編)のp1-33についての内容を教授する。 事前学習(30分): 該当ページの内容を事前に確認しておく。 事後学習(40分): 授業内容および付録の問題集を活用して復習する。	坂上 昇
2	消化と吸収・泌尿器と生殖器	国試の達人(運動解剖生理学編)のp251-274についての内容を教授する。 事前学習(30分): 該当ページの内容を事前に確認しておく。 事後学習(40分): 授業内容および付録の問題集を活用して復習する。	中村 壽志
3	中枢神経	国試の達人(運動解剖生理学編)のp153-186についての内容を教授する。 事前学習(30分): 該当ページの内容を事前に確認しておく。 事後学習(40分): 授業内容および付録の問題集を活用して復習する。	斉藤 琴子
4	末梢神経	国試の達人(運動解剖生理学編)のp187-197についての内容を教授する。 事前学習(30分): 該当ページの内容を事前に確認しておく。 事後学習(40分): 授業内容および付録の問題集を活用して復習する。	下田 栄次
5	顔面と体幹・姿勢・歩行・バイオメカニクス・運動学習	国試の達人(運動解剖生理学編)のp117-148についての内容を教授する。 事前学習(30分): 該当ページの内容を事前に確認しておく。 事後学習(40分): 授業内容および付録の問題集を活用して復習する。	櫻井 好美
6	生理学 呼吸器系	国試の達人(運動解剖生理学編)のp239-250についての内容を教授する。 事前学習(30分): 該当ページの内容を事前に確認しておく。 事後学習(40分): 授業内容および付録の問題集を活用して復習する。	大森 圭貢
7	筋・上肢の運動学・下肢の運動学	国試の達人(運動解剖生理学編)のp83-116についての内容を教授する。 事前学習(30分): 該当ページの内容を事前に確認しておく。 事後学習(40分): 授業内容および付録の問題集を活用して復習する。	中尾 陽光
8	循環系・運動エネルギー	国試の達人(運動解剖生理学編)のp213-238, 275-290についての内容を教授する。 事前学習(30分): 該当ページの内容を事前に確認しておく。 事後学習(40分): 授業内容および付録の問題集を活用して復習する。	森尾 裕志

評価	筆記試験(100%)で合格点に達することを単位認定の条件とする。
課題に対するフィードバックの方法	試験結果についてフィードバックを希望する学生に対しては、教員が適宜、直接説明する。
教科書	国試の達人 PT・OTシリーズ2025年 運動解剖生理学編 第30版 アイベック(ISBN:6月頃刊行のため未定)
参考図書など	①藤田恒太郎著(2003):人体解剖学 改定第42版、南江堂(ISBN:978-4-524-22246-9) ②岡田隆夫、鈴木敦子、長岡正範(2018):標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第5版、医学書院(ISBN:978-4-260-03644-3) ③中村隆一、齋藤宏、長崎浩(2015):基礎運動学 第6版 補訂、医歯薬出版(ISBN:978-4-263-21153-3) ④医歯薬出版 編(2024):理学療法士・作業療法士国家試験 必修ポイント 障害別PT治療学、医歯薬出版(ISBN:978-4-263-27013-4) ⑤医歯薬出版 編(2024):理学療法士・作業療法士国家試験 必修ポイント 基礎PT学、医歯薬出版(ISBN:978-4-263-27012-7)
アクティブ・ラーニング	講義後にグループ学習に取り組ませる。
実務経験のある教員による授業	理学療法士としての臨床経験を活かして、理学療法士に求められる基礎的知識を理学療法士国家試験の出題傾向に沿って教授する。
留意事項	これまで培ってきた知識を整理し、国家試験に向けての準備を進める授業です。授業を受けるにあたっては、関連部分の復習を必ず実施しておいてください。

Ⅳ 専門基礎科目  
専門科目

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
司法精神科作業療法 Forensic Occupational Therapy	選択	講義	1単位 (15時間)	3年後期	作業療法学専攻教員	○
ナンバリングコード	HPTE2/HOTF1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP3) 相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP5) 幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。					
専門共通						
授業概要	触法障害者の特性を理解し、対象者への司法特有の高度なアプローチ技術を習得・実践していくなど、新たな分野として司法領域での作業療法の基礎を学ぶ。具体的には、司法特有のアプローチや、対象者が社会に出たときの地域生活を想定した生活技能の獲得や日常生活活動のデザイン、地域生活を円滑に行うための社会資源などの活用、経済的基盤の確保も視野に入れた職業前訓練などの展開など、多面的に学ぶ。これらの学習を通して、対象者の社会復帰の支援や再犯防止に向けた取り組みに寄与できる知識・技能の基礎を修得する。					
到達目標	1) 司法精神科作業療法の領域と歴史、及び、我が国の心神喪失者等医療観察制度の経緯について説明できる。 2) 心神喪失者等医療観察制度の処遇の流れと司法特有の高度なアプローチを説明できる。 3) 司法精神科作業療法の流れと役割について説明できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）			担当教員	
1	司法精神医療の歴史と触法精神障害者	司法精神医療の歴史と触法精神障害者についてグループワークを行い、障害者の罪についてのディベート含むディスカッションと講義する。 事前学習(30分): 精神障害者の歴史とは 事後学習(30分): 触法精神障害者とは			作業療法学専攻教員	
2	触法後の司法の流れと刑事施設の触法障害者・触法高齢者	触法障害者の触法後の司法の流れ、その後の刑務所の障害者の処遇・作業療法について講義及びグループワークを行いディスカッションする。 事前学習(30分): 刑事司法制度とは 事後学習(30分): 触法障害者・触法高齢者とは			作業療法学専攻教員	
3	司法精神科作業療法の概要と領域	司法精神科作業療法の概要と領域について講義・学習する。 事前学習(20分): 司法精神科作業療法の領域とは 事後学習(40分): 司法精神科作業療法の意義とは			作業療法学専攻教員	
4	医療観察制度の概要1	医療観察制度の概要(経緯、処遇の流れ、特徴)について講義・学習する。 事前学習(20分): 医療観察制度の成り立ちとは 事後学習(40分): 医療観察制度の流れ			作業療法学専攻教員	
5	医療観察制度の概要2	医療観察制度の概要(医療、保護観察所)について講義する。事例について、グループワークを行い検討する。 事前学習(30分): 医療観察制度での医療の役割とは 事後学習(30分): 保護観察所の役割とは			作業療法学専攻教員	
6	指定入院医療機関の作業療法	司法病棟(医療観察病棟)の作業療法の実際を講義する。その事例について、グループワークを行い検討する。 事前学習(20分): 司法病棟での入院治療とは 事後学習(40分): 司法病棟での作業療法の役割とは			作業療法学専攻教員	
7	指定通院医療機関の作業療法	指定通院医療機関の治療と作業療法の実際を講義する。事例について、グループワークを行い検討する。 事前学習(30分): 通院の治療とは 事後学習(30分): 通院での作業療法とは			作業療法学専攻教員	
8	保護観察所の社会復帰調整官とまとめ	社会復帰調整官の処遇の実際について講義し、司法精神科作業療法全体の振り返りをグループワークを行い学習を深める。 事前学習(20分): 社会復帰調整官とは 事後学習(40分): 司法精神科作業療法とは			作業療法学専攻教員	
評価	課題レポート100%					
課題に対するフィードバックの方法	レポートを講評し、学生に公開する。また授業内での課題については、毎授業内で講評し、再学習を促す。					
教科書	PT学生: 加藤宗規編集(2018): PTスタートガイド 基礎理学療法概論 メジカルビュー社 第1版 ISBN: 9784758319218 OT学生: 「作業療法概論」(改訂第3版 2011) 日本作業療法士協会監修 協同医書出版 ISBN: 978-4-7639-2118-5					
参考図書など	「司法精神科作業療法」 鶴見隆彦, 井坂真規 監訳 三輪書店, 2011 ISBN: 978-4-7639-2118-5					
アクティブ・ラーニング	毎回、事例等を提議し、グループワークを実施する。特に刑務所での作業療法や事例についてはグループでのプレゼンテーションも実施する。					
実務経験のある教員による授業	精神医療センター、就労支援、保護観察所において精神障害者のリハビリテーションに従事経験を生かし講義する。また厚生労働省・法務省勤務において障害者支援制度の構築の従事経験の立場からも講義する。					
留意事項	グループワークを多く行うが、主体的、積極的に自己の意見を言うなど、参加する。					

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
生活支援機器論 usufull tools and machines for life	選択	講義	1単位 (15時間)	3年前期	増田雄亮 西野由希子	○
ナンバリングコード	HPTE2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1) 看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2) 科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3) 相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4) 保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。					
専門共通						
授業概要	リハビリテーション分野における生活支援機器について、現状で広く活用されている機器の概要を紹介する。医療・福祉・在宅での自立生活や社会参加を可能にする支援技術の具体的な導入、評価、適応事例についても紹介する。また、コミュニケーション支援、認知機能障害を有する児・者のスケジュール管理支援など、生活支援技術の積極的な活用・応用をするための支援技術論を学ぶ					
到達目標	1) リハビリテーション分野における生活支援機器について、その概要を理解できる。 2) 自立生活や社会参加を可能にする支援技術の具体的な導入、評価、適応事例について理解できる。 3) コミュニケーション障害、認知機能障害を有する児・者に対する支援技術の具体的な導入、評価、適応事例について理解できる。 4) 支援目的に応じた生活支援機器について、そのいくつかを調べ、説明できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）			担当教員	
1	生活支援機器の概要	オリエンテーション。利用者が望む「より良い生活」を支援するための生活支援機器の概要と、導入における評価、制度について講義する。第4回に行う支援機器・自助具の製作と発表について説明する。 事前学習(30分): 日常生活や社会参加の障害について復習しておく 事後学習(60分): 講義内容を復習する			西野 由希子	
2	生活支援機器の実際	障害のある人の生活やその介助者を支える多種多様な生活支援機器を紹介する。一部は実際に体験する機会を設ける。【グループワーク】 事前学習(30分): 日常生活や社会参加の障害について復習しておく 事後学習(60分): 講義内容を復習する			西野 由希子	
3	重度障害者の支援機器	重度の運動障害によって他者とのコミュニケーションさえも困難になる重度障害者の生活世界を広げる支援機器を紹介し、実際に体験する機会を設ける。【グループワーク】 事前学習(30分): 重度障害者の日常生活や社会参加の障害について復習しておく 事後学習(120分): 支援機器・自助具の作成と発表準備			西野 由希子	
4	支援機器・自助具の製作と発表	具体的な生活障害を想定し、それを補う支援機器・自助具を開発し、身近な材料・道具で製作し、発表する。【プレゼンテーション】 事前学習(120分): 支援機器・自助具の作成と発表準備 事後学習(60分): 講義内容を復習する			西野 由希子	
5	認知科学・情報科学と生活支援機器	人工知能(AI)の発展に大きく貢献した認知科学・情報科学分野の概要と生活支援機器との関連について講義する。 事前学習(30分): 日常生活や社会参加の障害について復習しておく 事後学習(60分): 講義内容を復習する			増田 雄亮	
6	高次脳機能障害、感覚機能障害と生活支援機器	高次脳機能や感覚機能(主に視覚・聴覚)に障害のある人の生活を豊かにする支援機器について講義する。 事前学習(30分): 日常生活や社会参加の障害について復習しておく 事後学習(60分): 講義内容を復習する			増田 雄亮	
7	ICT、ロボットなどテクノロジーを活用した生活支援① (グループワーク)	ICTやロボット技術を活用した生活支援機器について、グループによるプレゼンテーションの準備を行う。【グループワーク】 事前学習(30分): 日常生活や社会参加の障害について復習しておく 事後学習(120分): ICTやロボットを用いた生活支援について発表準備を行う			増田 雄亮	
8	ICT、ロボットなどテクノロジーを活用した生活支援② (プレゼンテーション)	ICTやロボット技術を活用した生活支援機器について、グループによるプレゼンテーションを実施する。【プレゼンテーション】 事前学習(60分): ICTやロボットを用いた生活支援について発表準備を行う 事後学習(30分): 講義内容を復習する			増田 雄亮	

評価	プレゼンテーション100%
課題に対する フィードバックの方法	授業内もしくは必要に応じて授業外にて学生に対してフィードバックを行う。
教科書	必要に応じて資料を配布する
参考図書など	大橋謙策監修:ICFの視点に基づく自立生活支援の福祉用具: その人らしい生活のための利活用、三輪書店、2021、ISBN: 978-4805882290
アクティブ・ラーニング	グループ演習により生活支援機器について調べ、プレゼンテーションを実施する。
実務経験のある 教員による授業	リハビリテーション医療における作業療法実践の経験を活かし、テクノロジーや福祉機器を活用した生活支援の方法論について講義する。
留意事項	特になし

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
地域高齢者支援論 Regional Elderly Support Theory	選択	講義	1単位 (15時間)	3年前期	岡本 絵里加	○
ナンバリングコード	HPTE2/HOTF1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。					
専門共通	DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。					

授業概要	住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるよう、住まい・医療・介護・生活支援の一体的な提供を実現すべく包括的な地域ケアの展開がすすめられている。認知症高齢者への支援システムの構築が重要な課題のひとつである。この授業では、高齢者への包括的地域ケアにおいて作業療法がどのように活かせるか、実践経験を交えて現状とこれからの課題について学ぶ。
------	--

到達目標	1)地域在住高齢者の健康増進におけるリハビリテーション職の役割を説明できる。 2)高齢者健康増進における評価を理解し、代表的な検査・測定を経験する。 3)地域包括ケアシステムの概要を理解し、多職種連携支援の在り方について演習を通して理解する。 4)地域リハビリテーションにおける介護予防の実際について、事例検討を通して理解する。 5)人として、また専門職として、身近な地域と高齢者の生活との関係をどう捉えるか、どんな課題があるかを検討する。
------	--

回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）	担当教員
1	ヘルスプロモーション総論	オリエンテーション、「高齢期をどう過ごすか、よりよく生きる・暮らすとは？」 ヘルスプロモーション概論、加齢に伴う変化（高齢者の強み・活躍、老化・虚弱） 事前学習(30分): 過去の授業を振り返り、加齢変化を確認 事後学習(30分): 授業内容の復習、manabaレポート作成	岡本 絵里加
2	高齢者の評価 使用頻度の高い評価や検査は？	高齢者に対する各種評価・検査 事前学習(30分): いままでの授業を振り返り、加齢に伴う変化とその状態を評価する手法を確認 事後学習(30分): 授業内容の復習、manabaレポート作成	岡本 絵里加
3	高齢者の身体機能評価と模擬演習	握力、筋力、30秒椅子立ち上がりテスト、TUG、FRT、開眼片足立ちテスト、他 事前学習(30分): 該当するテスト等を書籍等で確認 事後学習(30分): 授業内容の復習し、実施できる様に準備する、manabaレポート作成	岡本 絵里加
4	高齢者の認知機能、精神・心理機能の評価と模擬演習	認知症スクリーニングテスト、精神心理検査、他 事前学習(30分): 該当するテスト等を書籍等で確認 事後学習(30分): 授業内容の復習し、実施できる様に準備する、manabaレポート作成	岡本 絵里加
5	高齢者への集団プログラムの検討①	集団プログラムの立案の検討(グループ学習) 事前学習(15分): 第1～4回の学習内容を復習 事後学習(15分): 授業内容の復習、manabaレポート作成	岡本 絵里加
6	高齢者への集団プログラムの検討②	第5回の続き: 集団プログラムの立案の検討(グループ学習) 事前学習(30分): 該当するテスト等を教科書で確認 事後学習(30分): 授業内容の復習、manabaレポート作成	岡本 絵里加
7	検討した集団プログラムの発表	立案したプログラムの発表・ディスカッション 事前学習(30分): 発表準備(グループ別) 事後学習(30分): 授業内容の復習、manabaレポート作成	岡本 絵里加
8	振り返りとまとめ 「よりよく生きる・暮らすとは？」	第7回までの学びを通して気づいたことを中心テーマにディスカッション 事前学習(30分): 該当するテスト等を教科書で確認 事後学習(30分): 授業内容の復習、manabaレポート作成	岡本 絵里加

評価	レポート100%
課題に対する フィードバックの方法	受講者全体並びに個別に講評する。(manabaシステムを使ったフィードバック)
教科書	理学療法士・作業療法士のためのヘルスプロモーション(改訂第2版): 理論と実践 南江堂 2023 ISBN: 978-4524203512
参考図書など	授業の中で紹介・配布する。(他科目で使っている高齢者に関係する書籍・資料も持参し、活用してもらいたい)
アクティブ・ラーニング	高齢者への集団プログラムの検討や高齢者向けの各種検査の模擬演習等を通し、高齢期の対象者へのリハ職としての支援について検討・理解を深める。
実務経験のある 教員による授業	市町村の高齢者向け介護予防事業への参画、介護老人保健施設・介護老人福祉施設、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションへの従事経験を交えた実践事例報告を取り入れる予定。
留意事項	模擬演習の際は動きやすい服装で参加して下さい。 ペアワークやグループ学習を通し、自らの経験や気づき・考えを積極的に語り相互に学び合う機会となることを期待します。

IV 専門基礎科目  
専門科目

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
徒手療法 Techniques of Manual Therapy	選択	演習	1単位 (15時間)	3年後期	中村壽志、坂上 昇、下田栄次	○
ナンバリングコード	HPTE2	オフィスアワー	別途公開の一覧表を参照すること			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1) 看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2) 科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3) 相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。					
専門共通	DP4) 保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5) 幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6) 卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
授業概要	筋、関節、軟部組織に対する整形外科徒手療法の理論を理解し、基本的な評価法と治療手技を学習する。四肢の関節モビライゼーション、軟部組織に対する徒手療法の理論と技術を教授し、筋・骨格疾患患者の評価・治療法について説明する。					
到達目標	1) 疼痛、特に慢性疼痛と疼痛抑制について理解し、説明できる。 2) 肩甲骨・肩関節周囲の骨指標と筋肉を触診できる。 3) 肩甲骨・肩関節周囲筋に対する疼痛軽減の治療法を実施できる。 4) 大腿前面の骨指標と筋肉を触診できる。 5) 大腿前面の筋に対する疼痛軽減の治療法を実施できる。 6) 肩関節、足関節に対する関節モビライゼーションを実施できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）				担当教員
1	疼痛、疼痛抑制の基礎知識	疼痛と神経生理学的現象による痛みの抑制機序について教授する。 事前学習(30分)疼痛の種類について復習する。 事後学習(30分)講義内容・資料をまとめ、ノートを整理する。				坂上 昇
2	肩甲骨・肩関節周囲の触診	肩甲骨と肩関節後面の骨指標と筋肉の触診方法を教授する。肩甲骨については、その形状を体表上に描写できるようにする。【実技】 事前学習(30分)肩甲骨と肩関節後面の骨指標と筋肉を確認しておく。 事後学習(30分)授業で実施した触診箇所、触診方法を全体的に復習する。				中村壽志
3	腰背部・足部の触診	腰背部と足部の骨指標と筋肉の触診方法を教授する。【実技】 事前学習(30分)腰背部と足部の骨指標と筋肉を確認しておく。 事後学習(30分)授業で実施した触診箇所、触診方法を全体的に復習する。				中村壽志
4	肩甲骨・肩関節周囲筋に対するマイオチューニングアプローチによる治療	肩甲骨・肩関節周囲筋に対するマイオチューニングアプローチによる治療方法を教授する。【実技】 事前学習(30分)肩甲骨と肩関節後面の骨指標と筋肉を確認しておく。 事後学習(30分)授業で実施した治療方法を全体的に復習する。				中村壽志
5	腰背部筋に対するマイオチューニングアプローチによる治療	腰背部筋に対するマイオチューニングアプローチによる治療方法を教授する。【実技】 事前学習(30分)腰背部の骨指標と筋肉を確認しておく。 事後学習(30分)授業で実施した治療方法を全体的に復習する。				中村壽志
6	肩甲骨・肩関節周囲筋・大腿前面筋に対する徒手療法による治療	肩甲骨・肩関節周囲筋、腰背部筋に対する徒手療法による治療方法を教授する。【実技】 事前学習(30分)肩甲骨・肩関節周囲筋、腰背部筋の骨指標と筋肉を確認しておく。 事後学習(30分)授業で実施した治療方法を全体的に復習する。				坂上 昇
7	肩関節に対する関節モビライゼーションによる治療	肩関節に対する関節モビライゼーションによる治療方法を教授する。【実技】 事前学習(30分)肩関節周囲の骨指標を確認しておく。 事後学習(30分)授業で実施した治療方法を全体的に復習する。				下田栄次
8	足関節に対する関節モビライゼーションによる治療	足関節に対する関節モビライゼーションによる治療方法を教授する。【実技】 事前学習(30分)足関節の骨指標を確認しておく。 事後学習(30分)授業で実施した治療方法を全体的に復習する。				下田栄次
評価	定期試験(100%)で評価する。					
課題に対するフィードバックの方法	個人に対して定期試験の結果と不正解の箇所の説明を行う。また、必要な学習範囲の確認を行う。					
教科書	適宜資料を配付する。					
参考図書など	①松原貴子・他(2015):ペイン リハビリテーション、三輪書店 (ISBN: 978-4-89590-385-1) ②沖田実・他(2019):ペイン リハビリテーション入門、三輪書店 (ISBN: 978-4-89590-634-0) ③高田治美(2012):マイオチューニングアプローチ入門、協同医書 (ISBN: 978-4-7639-1055-4) ④林 典雄(2011):運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 改訂第2版、メジカルビュー社 (ISBN: 978-4-7583-1136-6) ⑤林 典雄(2011):運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹 改訂第2版、メジカルビュー社 (ISBN: 978-4-7583-1137-3) ⑥河上敬介、磯貝香(2015):骨格筋の形と触察法改訂第2版、大峰閣 (ISBN: 978-4-9980686-2-4) ⑦細田多穂、柳澤健・編集:理学療法ハンドブック改訂第3版、協同医書 (ISBN: 4-7639-1022-1) 他、適宜紹介する。					

アクティブ・ラーニング	実技が中心の授業であり、提示した課題に対して学習者が自身の進捗状況を確認しながら実技指導を進めていく。
実務経験のある 教員による授業	理学療法士としての豊富な臨床経験に基づき、適宜、症例も提示して理解を深める。
留意事項	初回の授業を除き、触診と治療手技の修得を目的とした実技を主体とした授業となる。そのため、該当箇所を露出することとなるので、それにふさわしい服装で授業に出席すること。その他は、初回の授業の時に伝える。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
ウーマンズヘルスケア Women's Health Care	選択	講義	1単位 (15時間)	3年後期	櫻井 好美	○
ナンバリングコード	HPTE2/HOTF1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、休休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1) 看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2) 科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。					
専門共通	DP4) 保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5) 幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。					
授業概要	思春期以降の女性のライフスタイル、身体の変化によって起こりうる機能不全(月経不全、リンパ浮腫、尿失禁、便秘等)について理解する。さらに女性特有の日常生活活動障害(更衣・整容等)への理学療法アプローチ、女性に多い整形外科疾患(変形性関節症、関節リウマチ、スポーツ障害等)の理学療法アプローチについて一部演習を交えて学習する					
到達目標	1) 女性のライフサイクルについて説明できる 2) 女性特有の機能不全と生活問題について説明できる 3) 理学療法士・作業療法士として、障害の性差にどのように対応できるか意見を述べられる					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習 (予習・復習・課題等)			担当教員	
1	リハビリテーションと性差 女性のライフサイクル	リハビリテーションの枠組みの中での性差 女性の年代別の特徴と障害 事前学習(30分): 人間発達学の教科書の児童期～老年期の箇所を読んでおく 事後学習(60分): 配布資料などで復習する			櫻井 好美	
2	月経周期と月経随伴症状	月経のメカニズム、月経随伴症状と月経異常 スポーツ障害と月経周期との関連 事前学習(30分): 解剖学・内科学の教科書で復習しておく 事後学習(60分): 配布資料などで復習する			櫻井 好美	
3	骨盤底の障害と評価	排尿・排便障害 事前学習(30分): 解剖学・内科学の教科書で復習しておく 事後学習(60分): 配布資料などで復習する			櫻井 好美	
4	骨盤底の障害と理学療法	【演習】骨盤底筋の機能障害に対する理学療法アプローチ 事前学習(30分): 解剖学・内科学の教科書で復習しておく 事後学習(60分): 配布資料などで復習する			櫻井 好美	
5	妊娠と出産	【演習】産前産後の身体の変化と理学療法アプローチ 事前学習(30分): 解剖学の教科書で復習しておく 事後学習(60分): 配布資料などで復習する			櫻井 好美	
6	女性のがん	女性特有のがんとリハビリテーションアプローチ リンパ浮腫に対する対応 事前学習(30分): 内科学の教科書で復習しておく 事後学習(60分): 配布資料などで復習する			櫻井 好美	
7	女性の栄養問題	現代女性の栄養摂取状況 やせ 肥満 事前学習(30分): 栄養学教科書で5大栄養素について復習する 事後学習(60分): 配布資料などで復習する			櫻井 好美	
8	更年期以降の代謝性疾患 ロコモティブシンドローム	変形関節症・骨粗鬆症の対応と予防 事前学習(30分): 整形外科の教科書で復習しておく 事後学習(60分): 配布資料などで復習する			櫻井 好美	
評価	レポート100%					
課題に対するフィードバックの方法	講評はmanabaで発表する					
教科書	指定しない 適宜資料を配布する					
参考図書など	ウィメンズヘルスリハビリテーション/ウィメンズヘルス理学療法研究会/メジカルビュー/ISBN:978-4-75831-493-0 ウィメンズヘルスと理学療法/石井美和子他編/三輪書店/ISBN:978-4-89590-553-4					
アクティブ・ラーニング	骨盤底筋機能の評価(視診・触診)の基礎的事項について演習を行う。また排尿機能障害の問診表の扱いについて演習を行う。					
実務経験のある教員による授業	講師は専門理学療法士(運動器)としての多くの臨床経験を有している。女性のマイナートラブルについて主に運動器理学療法の視点から問題解決に向けた介入方法の解説を行う。					
留意事項	男性も履修可能です。実技を取り入れながら行うため、スカート・ジーンズでの受講は不可					

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
スポーツ理学療法学 Sports Medicine Physical Therapy	選択	講義	1単位 (15時間)	3年後期	中尾 陽光	○
ナンバリングコード	HPTE2/HOTF1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。					
専門共通	DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					

**授業概要**  
各スポーツ特有の動作についての特徴と分析のポイントを理解する。各種スポーツ損傷(急性・慢性)の機序と病態を理解し、予防法・治療法・理学療法について学ぶ。具体的には、膝関節スポーツ障害、足関節スポーツ障害、投球障害(肩・肘)、テニス肘、腰痛等について講義する。さらに基礎的なテーピング技術について、演習を交えて講義する。

**到達目標**  
1)スポーツ外傷・障害を理解し、競技特性(動作)に合わせた理学療法を展開できる。  
2)外傷・障害の時期・程度に合わせた理学療法を展開できる。  
3)テーピングの特性を理解し、疾患に合わせたテーピングを実施できる。

回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)	担当教員
1	スポーツ理学療法 総論	スポーツ外傷・障害、スポーツ理学療法、メディカルリハビリテーション、アスレティックリハビリテーションについて説明を行い、その後グループワークにて実技を実施する。 事前学習(30分):スポーツによって生じる整形外科疾患について復習してくる。 事後学習(30分):配布資料及び授業内容について復習する。	中尾 陽光
2	スポーツ理学療法 各論1	スポーツにおける救急処置と急性期に対する考え方および下肢のスポーツ疾患に対する評価について説明を行い、その後グループワークにて実技を実施する。 事前学習(30分):骨・筋・関節等の触察法について復習してくる。 事後学習(30分):配布資料及び授業内容について復習する。	中尾 陽光
3	スポーツ理学療法 各論2	下肢のスポーツ疾患に対する評価について説明を行い、その後グループワークにて実技を実施する。 事前学習(30分):下肢の触察法および整形外科疾患について復習してくる。 事後学習(30分):配布資料及び授業内容について復習する。	中尾 陽光
4	スポーツ理学療法 各論3	下肢のスポーツ疾患に対するアスレティックリハビリテーションについて説明を行い、その後グループワークにて実技を実施する。 事前学習(30分):下肢の触察法および整形外科疾患について復習してくる。 事後学習(30分):配布資料及び授業内容について復習する。	中尾 陽光
5	スポーツ理学療法 各論4	上肢のスポーツ疾患に対する評価とメディカルリハビリテーションについて説明を行い、その後グループワークにて実技を実施する。 事前学習(30分):上肢の触察法および整形外科疾患について復習してくる。 事後学習(30分):配布資料及び授業内容について復習する。	中尾 陽光
6	スポーツ理学療法 各論5	上肢のスポーツ疾患に対する評価とメディカルリハビリテーションについて説明を行い、その後グループワークにて実技を実施する。 事前学習(30分):上肢の触察法および整形外科疾患について復習してくる。 事後学習(30分):配布資料及び授業内容について復習する。	中尾 陽光
7	テーピング技術論1	膝関節靭帯損傷、膝周囲に対するテーピングほかについて説明を行い、その後グループワークにて実施する。 事前学習(30分):膝関節の機能解剖および膝靭帯損傷について復習してくる。 事後学習(30分):配布資料及び授業内容について復習する。	中尾 陽光
8	テーピング技術論2	足関節靭帯損傷、足部に対するテーピングほかについて説明を行い、その後グループワークにて実施する。 事前学習(30分):足関節の機能解剖および膝靭帯損傷について復習してくる。 事後学習(30分):配布資料及び授業内容について復習する。	中尾 陽光

評価	筆記試験(持ち込みあり)70%、各授業で実施するリアクションペーパー30%
課題に対する フィードバックの方法	筆記試験結果については、結果発表後、個々に解説を行う。
教科書	細田多穂(監修):シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト 改訂第3版. 南江堂. (ISBN:9784524249831)
参考図書など	スポーツ医学検定機構(著):スポーツ医学検定公式テキスト2級・3級改訂版. 東洋館出版. (ISBN:9784491041193) 青木隆明(編):初めて携わるメディカルスタッフのための障害者スポーツ. メジカルビュー. (ISBN:9784758320337) 赤坂清和(編):スポーツ理学療法学:メジカルビュー. (ISBN:9784758114356) 鈴木仁人(編):スポーツリハビリテーションの臨床. メディカルサイエンス・インターナショナル. (ISBN:9784815701550) 鶴飼健志(編):セラピストのための機能解剖学的ストレッチング上肢. メジカルビュー. (ISBN:9784758317030) 鶴飼健志(編):セラピストのための機能解剖学的ストレッチング下肢・体幹. メジカルビュー. (ISBN:9784758317047)
アクティブ・ラーニング	実技を中心に、グループワークや演習形式を採用し、授業を展開していく。
実務経験のある 教員による授業	講師は、スポーツ認定理学療法士・アスレティックトレーナーの資格を有し、病院やクリニックおよびスポーツ現場においてスポーツ疾患患者を担当し治療していた。その専門分野専門を活かした実践的な授業を行う。
留意事項	運動(下肢はハーフパンツ着用のこと)のできる服装で出席のこと。 第4回講義(各論3)は体育館で実施します。体育館シューズ持参のこと。

IV  
専門基礎科目  
専門科目

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
地域理学療法学 Physical Therapy for Local Area	必修	講義	1単位 (30時間)	2年前期	小林 和彦	○
ナンバリングコード	HPTE2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
地域理学療法学						
授業概要	理学療法士としての実見経験を活かし、地域リハビリテーションにおける理学療法の活動内容を学び、他職種の役割、理学療法の役割を理解する。また、地域で生活するために必要な法制度を学ぶ。生活環境の評価方法と改善のための目標のたて方、改善計画などについて学ぶ。					
到達目標	1)国際生活機能分類(ICF)の生活機能モデルについて説明できる。 2)地域リハビリテーションの概念および基本的な考え方を説明できる。 3)地域理学療法の概念および基本的な考え方を説明できる。 4)地域理学療法の実践、実践について説明できる。 5)終末期におけるリハビリテーションについて説明できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習 (予習・復習・課題等)			担当教員	
1	国際障害分類初版(ICIDH)とは	リハビリテーション医学における障害、国際障害分類初版による障害のとらえ方 事前学習(30分):国際障害分類初版における既修得内容について復習しておく。 事後学習(60分):授業内容について復習し、理解を深めておく。			小林 和彦	
2	国際障害分類初版(ICIDH)から国際生活機能分類(ICF)へ	国際生活機能分類(ICF)の生活機能モデル、地域リハビリテーションへの応用 事前学習(30分):ICF、地域リハビリテーションへの応用について調べておく。 事後学習(60分):授業内容について復習し、理解を深めておく。			小林 和彦	
3	ビデオ教材を用いた地域リハビリテーションの概要説明	地域リハビリテーションの概要、地域リハビリテーションの考え方 事前学習(30分):ICFにおける既修得内容について復習しておく。 事後学習(60分):授業内容について復習し、理解を深めておく。			小林 和彦	
4	なぜ地域リハビリテーションなのか	地域とは何か、国際的動向、社会のニーズ 事前学習(30分):地域とは何か、国際的動向、地域リハのニーズ等について調べておく。 事後学習(60分):授業内容について復習し、理解を深めておく。			小林 和彦	
5	地域リハビリテーションとは	地域リハビリテーションの定義、目的、方法 事前学習(30分):地域リハビリテーションの定義、目的、方法を調べておく。 事後学習(60分):授業内容について復習し、理解を深めておく。			小林 和彦	
6	地域リハビリテーションの活動指針	地域リハビリテーションの活動指針、地域における連携・協同 事前学習(30分):地域リハの活動指針、地域における連携・協同の意義・目的を調べておく。 事後学習(60分):授業内容について復習し、理解を深めておく。			小林 和彦	
7	介護保険制度とは	介護保険制度の定義、介護保険制度導入の経緯・意義 事前学習(30分):介護保険制度の定義、制度導入の経緯・意義等について調べておく。 事後学習(60分):授業内容について復習し、理解を深めておく。			小林 和彦	
8	介護保険制度の概要	保険者と被保険者、要介護状態と状態像、介護保険サービス利用の流れ 事前学習(30分):保険者と被保険者、状態像、サービス利用の流れ等について調べておく。 事後学習(60分):授業内容について復習し、理解を深めておく。			小林 和彦	
9	要介護者に対する介護サービス	施設サービス、居宅サービス、地域密着型サービス、等 事前学習(30分):施設サービス、居宅サービス、地域密着型サービス等について調べておく。 事後学習(60分):授業内容について復習し、理解を深めておく。			小林 和彦	
10	要支援者に対する介護サービス	通所系サービス、訪問系サービス、地域密着型介護予防サービス、等 事前学習(30分):通所系、訪問系、地域密着型介護予防サービス等について調べておく。 事後学習(60分):授業内容について復習し、理解を深めておく。			小林 和彦	
11	地域理学療法とは	地域理学療法の定義、地域理学療法の歴史、地域理学療法の視点 事前学習(30分):地域理学療法の大枠について把握しておく。 事後学習(60分):授業内容について復習し、理解を深めておく。			小林 和彦	
12	在宅における地域理学療法	在宅ケア、在宅医療、ケアマネジメント 事前学習(30分):在宅での理学療法の必要性、意義等について調べておく。 事後学習(60分):授業内容について復習し、理解を深めておく。			小林 和彦	

13	訪問理学療法および通所理学療法	訪問および通所リハビリテーションの概要、理学療法士の役割 事前学習(30分): 訪問、通所リハの概要、理学療法士の役割について調べておく。 事後学習(60分): 授業内容について復習し、理解を深めておく。	小林 和彦
14	施設における地域理学療法	施設における理学療法の概念、理学療法の特徴、理学療法士の役割 事前学習(30分): 施設における理学療法の概念および特徴について調べておく。 事後学習(60分): 授業内容について復習し、理解を深めておく。	小林 和彦
15	終末期における地域理学療法	終末期における地域理学療法とは、終末期における理学療法士の役割 事前学習(30分): 終末期における地域理学療法の概要について調べておく。 事後学習(60分): 授業内容について復習し、理解を深めておく。	小林 和彦

評価	定期試験85%、小テスト15%として評価する。
課題に対するフィードバックの方法	小試験など、その後の授業において時間がとれる場合は、受講学生全員にフィードバックを行う。期末試験もしくはレポート等においては、希望者がいれば個別に対応する。
教科書	①浅川育世編集(2019):ピジュアルレクチャー 地域理学療法学(第3版)、南江堂(ISBN:978-4263218143)。 ②授業用資料を随時配布する。
参考図書など	①日高正巳編集(2022):理学療法アクティブ・ラーニング・テキスト 地域理学療法学(第1版)、文光堂(ISBN:9784830647031) ②重森健太編集(2019):地域リハビリテーション学(第2版)、羊土社(ISBN:978-4-7581-0238-4) ③浅川康吉編集(2019):Crosslink 理学療法学テキスト(第1版)、メディカルビュー社(ISBN:978-4-7583-2010-8)。
アクティブ・ラーニング	アクティブラーニングとして、授業内に適宜ディスカッションを取り入れる。
実務経験のある教員による授業	理学療法士の資格を有し病院・施設及び地域における臨床活動の経験から、理学療法士が実践する地域理学療法の基本的な内容について実践的な授業を行う。
留意事項	本授業で学習する内容は、「日常生活活動学及び実習」「臨床実習」「地域理学療法学実習」等に関連する。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
地域理学療法学演習 Seminar in Physical Therapy for Local Area	必修	演習	1単位 (30時間)	2年後期	小林 和彦、鶴見 隆正	○
ナンバリングコード	HPTE2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
地域理学療法学						
授業概要	理学療法士としての実見経験を活かし、高齢化社会の到来により、地域社会では理学療法士の重要性が増している。この授業では、実例(地域における要介護者の実態、地域で働いている理学療法士の紹介など)を通して地域社会で求められているニーズを把握していく。地域でも働ける理学療法士になるために、学んだ知識を統合して地域における役割・地域において必要となる知識・技術を整理して学んでいくことを目的とする。さらに、国際福祉機器展の見学を通して、最新の福祉機器等の知識を修得する。					
到達目標	1)地域包括ケアシステムについて説明できる。 2)健康づくりにおける地域理学療法について説明できる。 3)介護予防の基本的な考え方とアプローチ方法について説明できる。 4)介護予防の理学療法について説明できる。 5)地域理学療法における評価について説明できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)			担当教員	
1	地域包括ケアシステムとは	地域包括ケアシステムの定義、地域包括ケアシステム導入の経緯と意義、地域包括ケアシステムの姿 事前学習(30分):地域包括ケアシステムの大枠について把握しておく。 事後学習(60分):授業内容について復習し、理解を深めておく。			小林 和彦	
2	国際福祉機器展での見学実習(福祉機器とは何か)	国際福祉機器展、見学実習、福祉機器・福祉用具の考え方 事前学習(30分):福祉機器・福祉用具とはどのようなものかについて調べておく。 事後学習(60分):見学した福祉機器・福祉用具についてまとめておく。			小林 和彦	
3	国際福祉機器展での見学実習(福祉機器の種類と機能)	国際福祉機器展、見学実習、福祉機器・福祉用具の種類と機能 事前学習(30分):福祉機器・福祉用具の種類と機能について調べておく。 事後学習(60分):見学した福祉機器・福祉用具の種類と機能についてまとめておく。			小林 和彦	
4	国際福祉機器展での見学実習(各種福祉機器の使用法)	国際福祉機器展、見学実習、福祉機器・福祉用具の使用法および利用法 事前学習(30分):福祉機器・福祉用具の使用法、利用法について調べておく。 事後学習(60分):見学した福祉機器・福祉用具の使用法、利用法についてまとめておく。			小林 和彦	
5	地域包括ケアシステムの概要	地域包括ケアシステムの構成要素、地域包括ケアシステムにおける4つの支援 事前学習(30分):地域包括ケアシステムの構成要素、4つの支援について調べておく。 事後学習(60分):授業内容について復習し、理解を深めておく。			小林 和彦	
6	国際福祉機器展での見学実習発表会(前半3グループ)	国際福祉機器展からの学びを発表、福祉機器・福祉用具の種類と機能 事前学習(30分):発表会、レポート提出の準備を行う。 事後学習(60分):発表内容についての反省および補足学習を行う。			鶴見 隆正	
7	国際福祉機器展での見学実習発表会(後半3グループ)	国際福祉機器展からの学びを発表、福祉機器・福祉用具の使用法および利用法 事前学習(30分):発表会、レポート提出の準備を行う。 事後学習(60分):発表内容についての反省および補足学習を行う。			鶴見 隆正	
8	地域包括ケアシステムにおける地域理学療法	地域包括ケアシステムにおけるリハビリテーションの役割、地域包括ケアシステムにおける理学療法の役割、地域包括ケアシステムの今後と課題 事前学習(30分):地域包括ケアの中でのリハビリテーション、理学療法について把握しておく。 事後学習(60分):授業内容について復習し、理解を深めておく。			小林 和彦	
9	介護予防とは	3つの段階、導入の経緯、健康寿命と不健康期間、老年症候群の概要 事前学習(30分):3つの段階、経緯、健康寿命について調べておく。 事後学習(60分):授業内容について復習し、理解を深めておく。			小林 和彦	
10	主な老年症候群	フレイル、サルコペニア、転倒・骨折、関節痛 事前学習(30分):老年症候群の概要、フレイル、サルコペニアについて調べておく。 事後学習(60分):授業内容について復習し、理解を深めておく。			小林 和彦	
11	他の老年症候群と運動の効果	MCI、尿失禁、呼吸機能低下、オーラルフレイル、運動の効果 事前学習(30分):MCI、尿失禁、呼吸機能低下、オーラルフレイル、運動効果を調べておく。 事後学習(60分):授業内容について復習し、理解を深めておく。			小林 和彦	
12	介護予防におけるリハビリテーション	地域リハと予防リハの違い、地域でのリハ専門職の考え方 事前学習(30分):地域リハと予防リハの違い、地域でのリハ専門職の考え方を調べておく。 事後学習(60分):授業内容について復習し、理解を深めておく。			小林 和彦	

13	老年症候群を防ぐ地域づくり	高齢者の社会参加の意義と必要性、地域づくりによる介護予防、通いの場 事前学習(30分):高齢者の社会参加、地域づくりによる介護予防、通いの場を調べておく。 事後学習(60分):授業内容について復習し、理解を深めておく。	小林 和彦
14	介護予防活動の実際	ヘルスプロモーション、行動変容、集団に対する指導のポイント、介護予防の評価 事前学習(30分):ヘルスプロモーション、行動変容、介護予防の評価について調べておく。 事後学習(60分):授業内容について復習し、理解を深めておく。	小林 和彦
15	地域理学療法における評価	生活している地域の評価、ICFで構成する評価、“健康づくり”に関する評価、総合的な評価及びその他の評価 事前学習(30分):地域理学療法における評価の大枠について調べておく。 事後学習(60分):授業内容について復習し、理解を深めておく。	小林 和彦

評価	定期試験75%、小テスト15%、見学実習発表5%、見学実習レポート5%として評価する。
課題に対するフィードバックの方法	小試験など、その後の授業において時間がとれる場合は、受講学生全員にフィードバックを行う。期末試験もしくはレポート等においては、希望者がいれば個別に対応する。
教科書	①浅川育世編集(2019):ビジュアルレクチャー 地域理学療法学(第3版)、南江堂(ISBN:978-4263218143)。 ②授業用資料を随時配布する。
参考図書など	①日高正巳編集(2022):理学療法アクティブ・ラーニング・テキスト 地域理学療法学(第1版)、文光堂(ISBN:9784830647031) ②重森健太編集(2019):地域リハビリテーション学(第2版)、羊土社(ISBN:978-4-7581-0238-4) ③浅川康吉編集(2019):Crosslink 理学療法学テキスト(第1版)、メディカルビュー社(ISBN:978-4-7583-2010-8)。
アクティブ・ラーニング	アクティブラーニングとして、国際福祉機器展見学実習に基づく自己学習と学習成果の発表、およびレポートの作成を行う。他の、講義形式における授業においては、授業内に適宜ディスカッションを取り入れる。
実務経験のある教員による授業	理学療法士の資格を有し病院・施設及び地域における臨床活動の経験から、理学療法士が実践する地域理学療法および地域における介護予防の基本的な内容について実践的な授業を行う。
留意事項	本授業で学習する内容は、「日常生活活動学及び実習」「臨床実習」「地域理学療法学」等に関連する。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
バリアフリー Barrier free	選択	講義	1単位 (15時間)	3年前期	山田 拓実、下田 栄次	○
ナンバリングコード	HPTE2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。					
地域理学療法学						
授業概要	高齢者や障害者の生活環境に存在する様々な物理的環境バリアについて理解する。このような物理的環境の制約・障害を改善するために有効な福祉機器、住環境整備、地域の環境整備とそのための法制度や行政・企業との連携の実際について、一部演習を交えて学ぶ。また最新の福祉機器等の知識についても修得する。					
到達目標	1)バリアフリーの概念を理解する。 2)高齢者・障害者をとりまく生活環境の課題を理解する。 3)理学療法士として必要な住環境整備の手法と福祉用具の活用法を理解する。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習 (予習・復習・課題等)			担当教員	
1	バリアフリーの概念 (総論)	バリアフリーの概念をとらえる。 事前学習(30分):「バリアフリー」とは何か?資料等で確認しておく 事後学習(30分):配布資料等で確認する			山田 拓実	
2	住環境整備 1(総論) 福祉用具の活用	住環境整備と福祉用具の活用について、その基本的事項を学ぶ。 事前学習(30分):教科書等で住環境整備の基本を確認しておく 事後学習(30分):配布資料等で確認する			山田 拓実	
3	住環境整備 2(各論) 福祉用具の活用	障害者・高齢者の住環境整備について、その具体的事例を学ぶとともに、最新の福祉用具開発の現状および地域での実践例を学ぶ。(自分が暮らす家の住環境を把握する。) 事前学習(30分):教科書等で具体的対処法を確認しておく 事後学習(30分):配布資料等で確認する			山田 拓実	
4	ユニバーサルデザインとユニバーサルマナー	ユニバーサルデザインとユニバーサルマナーについて学ぶ。(身近にあるユニバーサルデザインの実例を探す。) 事前学習(30分):上記の用語について資料等で確認しておく 事後学習(30分):配布資料等で確認する			下田 栄次	
5	バリアフリーの街づくり フィールドワーク事前説明	バリアフリーの街づくりについて、法制度や行政の取り組みの現状を学ぶ。 事前学習(30分):事前学習:教科書等で法制度などについて確認しておく 事後学習(30分):配布資料等で確認する			下田 栄次	
6	バリアフリーの街づくり フィールドワーク 1	バリアフリーの街づくりについて、東戸塚駅周辺でバリアフリーの街づくりの現状を確認する。 事前学習(30分):事前学習:教科書等で法制度などについて確認しておく 事後学習(30分):配布資料等で確認する			山田 拓実 下田 栄次	
7	バリアフリーの街づくり フィールドワーク 2	バリアフリーの街づくりについて、東戸塚駅周辺でバリアフリーの街づくりの現状を確認する。 事前学習(30分):事前学習:教科書等で法制度などについて確認しておく 事後学習(30分):配布資料等で確認する			山田 拓実 下田 栄次	
8	バリアフリーの街づくり フィールドワーク 事例報告	フィールドワークを通して、バリアの具体的事例およびそのバリアを取り除く有効な環境作りについてディスカッションする。 事前学習(30分):周囲に存在するバリアについて列挙しておく 事後学習(30分):配布資料等で確認する			山田 拓実 下田 栄次	
評価	定期試験100%として評価する。					
課題に対する フィードバックの方法	レポートについてはコメントを付す。グループ発表については講評を付す。					
教科書	鶴見隆正、陸島研吾 編:標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学第6版. 医学書院. (ISBN:978-4-260-04751-7)					
参考図書など	シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ 生活環境学テキスト改訂第2版 編集:村田伸/岡本加奈子/北島栄二 (ISBN:978-4-524-22702-0) 生活環境学テキスト改訂第2版臼田滋 編:リハビリテーションテキスト 生活環境学. メジカルビュー. (ISBN:978-4-7583-2098-6 C3347)					
アクティブ・ラーニング	各講義のまとめとして、バリアフリーに関する施策などについて、グループワーク・演習を行う。また、バリアフリーの街づくりの現状を調査しグループごとに発表する。					
実務経験のある 教員による授業	理学療法士としての豊富な実務経験に加え、バリアフリーの街づくり、障害者・高齢者の住環境整備、福祉用具の活用と開発に関する経験をもとに、実践的な授業を行う。					
留意事項	特になし。					

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
リハビリテーション工学 Assistive Engineering	選択	講義	1単位 (15時間)	3年後期	石井 慎一郎	○
ナンバリングコード	HPTE2	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP2) 科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP4) 保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。					
地域理学療法学	DP5) 幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。					

授業概要	リハビリテーションにおける工学の役割について理解する。特に運動機能障害に対するリハビリテーション支援ロボットについてロボット研究の現状を学ぶ。また理学療法(士)の知識が活かされたロボット研究の実例、神奈川県「さがみロボット産業特区」における生活支援ロボットの実用化・普及を目指した産学連携の事例を通じて、この分野における理学療法士の役割と活躍の可能性について学ぶ。					
到達目標	1) 理学療法を行ううえで求められる工学的視点について理解する。 2) 基本動作の障害を工学的視点から捉えることができる。 3) 支援機器開発における理学療法士の役割を理解する。 4) 地域創生とリハビリテーション工学の関わりと理学療法士の役割を理解する。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習 (予習・復習・課題等)				担当教員
1	機器と人の接点	地域創生とリハビリテーション工学 Continuing Care At Homeと生活支援システム、サポート体制の構築特徴と障害 事前学習: 特になし 事後学習(60分): 配布資料で復習する				石井 慎一郎
2	機器と人の接点	地域創生とリハビリテーション工学 Continuing Care At Homeと生活支援システム、サポート体制の構築特徴と障害 事前学習: とくになし 事後学習(60分): 配布資料で復習する				石井 慎一郎
3	工学的視点から見た転倒予防	ヒトはなぜ転倒するのか、転倒を回避するためのメカニズム 転倒予防と工学 事前学習(30分): 教科書の歩行に関する項を読んで復習しておく 事後学習(60分): 配布資料で復習する				石井 慎一郎
4	工学的視点から見た転倒予防	ヒトはなぜ転倒するのか、転倒を回避するためのメカニズム 転倒予防と工学 事前学習(30分): 教科書の歩行に関する項を読んで復習しておく 事後学習(60分): 配布資料で復習する				石井 慎一郎
5	工学的視点から見た動作介助	工学的視点から見た動作介助 事前学習(30分): 寝返り・起き上がり・起立・着座について復習 事後学習(60分): 配布資料で復習する				石井 慎一郎
6	工学的視点から見た動作介助	工学的視点から見た動作介助 事前学習(30分): 寝返り・起き上がり・起立・着座について復習 事後学習(60分): 配布資料で復習する				石井 慎一郎
7	リハビリテーション工学における理学療法士の視点と役割	理学療法士の視点と工学的視点の融合 【グループディスカッション】 バリアを解決する福祉機器、社会システムのアイデア 事前学習(30分): 高齢者が地域で暮らし続けるために必要なシステムや援助技術について調べる 事後学習(60分): 配布資料で復習する				石井 慎一郎
8	リハビリテーション工学における理学療法士の視点と役割	理学療法士の視点と工学的視点の融合 【グループディスカッション】 バリアを解決する福祉機器、社会システムのアイデア 事前学習(30分): 高齢者が地域で暮らし続けるために必要なシステムや援助技術について調べる 事後学習(60分): 配布資料で復習する				石井 慎一郎

評価	レポート100%
課題に対する フィードバックの方法	講評はWeb掲示板で発表する
教科書	動作分析 臨床活用講座、石井慎一郎著、メジカルビュー、2013、ISBN: 978-47583-1474-9
参考図書など	臨床に役立つ歩行運動学、畠中泰彦著、運動と医学の出版社/ISBN: 978-4904862551 身体運動学 関節の制御機構と筋機能、市橋則明編、メジカルビュー社/ISBN: 978-4758317122
アクティブ・ラーニング	バイオメカニクスの視点にたった介助誘導方法について実技を行う。また、事例を提示し学生間の意見交換の時間を設ける。
実務経験のある 教員による授業	講師は理学療法士としての臨床経験ならびにバイオメカニクス研究実績が豊富である。理学療法実践における工学的視点の活用について教授する。
留意事項	必須ではないが、臨床運動学の単位を取得済みであることが望ましい。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
見学実習(理学療法) Clinical Early Exposure (Physical therapy)	必修	実験・実習	1単位 (40時間)	1年前期	坂上 昇・大森圭貢・小林和彦・鶴見隆正 森尾裕志・山田拓実・斉藤琴子・櫻井好美・中尾陽光 大村優慈・下田栄次・中村壽志・土田将之	○
ナンバリングコード	HPTF1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。					
臨床実習	DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
授業概要	学内で学んだ理学療法の基礎知識を基に、病院、施設での見学実習を通じてリハビリテーション・理学療法の位置づけや各医療スタッフの業務内容、連携、また理学療法士の具体的な業務を学習し、今後の授業に活用できるようにする。本実習を通じて、4年間の学習への動機づけとする。実習終了後には、学内にて反省会と報告会を実施する。					
到達目標	1)各施設の役割と機能、リハビリテーションの位置づけを説明できる。 2)理学療法・理学療法士の役割について説明できる。 3)チーム医療の意義について自身の考えを述べる事ができる。 4)理学療法士としての将来像をイメージする。 5)見学した内容と今後の課題を的確にまとめ、プレゼンテーションすることができる。					
授業の進め方	1)事前演習	1) 事前指導:実習施設の説明および諸注意 「見学実習要綱」に沿って、実習の目的、臨床現場での心構えや注意事項を確認する。				
	2)見学実習	2) 見学実習 配属先の施設にて以下の内容を学ぶ。 ・施設概要、施設の役割 ・理学療法部門の見学 ・関連部署(病棟など)の見学 ・他(多)職種との連携の実際				
	3)事後演習・実習報告会	3)事後演習・実習報告会 各学生が見学し理解した内容をまとめて提出する。 大学にてグループ討議と発表会を行う。				
評価	実習の可否ならびに成績の判定は実習報告書、実習指導報告書、発表プレゼンテーション、レポートを基に専任教員全員の総合的な判断で行う。					
課題に対する フィードバックの方法	成績評価についてフィードバックを希望する学生に対しては、教員が適宜、直接説明する。					
教科書	①網本和(監)、加藤宗規(編)(2018):PTスタートガイド 基礎理学療法概論、メジカルビュー社(ISBN:978-4-7583-1921-8) ②実習要綱					
参考図書など	①鶴見隆正、辻下守弘(2020):標準理学療法学 専門分野 理学療法 臨床実習とケーススタディ、医学書院(ISBN:978-4-260-04268-0) ②山口美和(2016):PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド 第2版、医学書院(ISBN:978-4-260-02787-8) ③公益社団法人 日本理学療法士協会 編(2020):臨床実習教育の手引き(第6版)、公益社団法人 日本理学療法士協会					
アクティブ・ラーニング	実習、グループ・ディスカッション、プレゼンテーション					
実務経験のある 教員による授業	理学療法士としての臨床経験を活かして、臨床実習において学んだ理学療法に関する基礎知識と基本的手技に関して統合を図る。					
留意事項	実習要綱を使って説明する。					

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
評価学実習 Clinical Education for Evaluation	必修	実験・実習	4単位 (160時間)	3年後期	坂上 昇・大森圭貢・小林和彦・鶴見隆正 森尾裕志・山田拓実・斎藤琴子・櫻井好美・中尾陽光 大村優慈・下田栄次・中村壽志・土田将之	○
ナンバリングコード	HPTF3	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。					
臨床実習	DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
授業概要	各施設における実習指導者の指導、監督の下、実際の症例に対して理学療法評価を行い、その結果の解釈、統合、さらに治療計画の立案までを体験するものとなる。学内においては、実習前にオリエンテーション、実習終了後に学内にて反省会と報告会を実施する。実習は同一の臨床実習施設において、4週間行われる。					
到達目標	1)医療職を目指す学生として適切な態度を身につける。 2)症例に即した情報収集や検査・測定項目の選択ができる。 3)リスク管理をしながら基本的な検査・測定が実施できる。 4)検査・測定結果を整理し、問題点の抽出ができる。 5)目標の設定、プログラムの立案について体験する。 6)症例の評価結果をレジュメにまとめ、発表できる。					
授業の進め方	1)事前演習	1)事前演習:実習施設の説明および諸注意 「臨床実習の手引き」に沿って、実習の目的、臨床現場での心構えや注意事項を確認する。				
	2)評価学実習	2)評価学実習 配属先の施設にて以下の内容を学ぶ。 ・処方箋から得られる患者情報の臨床的意義 ・理学療法を進めるにあたって収集すべき情報と優先順位 ・情報の収集と整理 ・評価項目の列挙と優先順位 ・評価の実施 ・問題点の抽出と優先順位  さらに可能であれば、以下の内容について学ぶ。 ・目標設定 ・プログラムの立案				
	3)事後演習・実習報告会	3)事後演習・実習報告会 学内にて、症例報告書(レジュメ)の作成と発表の準備を行う。 実習反省会ならびに症例報告会を実施する。				
評価	実習の可否ならびに成績の判定は実習報告書、実習指導報告書、ディリーノート、発表プレゼンテーションを基に専任教員全員の総合的な判断で行う。					
課題に対する フィードバックの方法	成績評価についてフィードバックを希望する学生に対しては、教員が適宜、直接説明する。					
教科書	①鶴見隆正、辻下守弘(2020):標準理学療法学 専門分野 理学療法 臨床実習とケーススタディ、医学書院(ISBN:978-4-260-04268-0) ②実習要綱					
参考図書など	①中山恭秀(2022):CrossLink 理学療法学テキスト 理学療法評価学、メジカルビュー(ISBN:978-4-7583-2000-9) ②Dale Avers, Marybeth Brown(2020):新・徒手筋力検査法原著第10版、協同医書(ISBN:978-4763900418) ③青木主税、飯田修平(2018):基礎から確認! PT臨床実習チェックリスト、メジカルビュー(ISBN:978-4-7583-1924-9) ④畠 昌史 他(2022):臨床評価ガイド、医学書院(ISBN:978-4-260-04295-6) ⑤聖マリアンナ医科大学病院リハビリテーション部 編(2018):疾患別リハビリテーション リスク管理マニュアル、ヒューマン・プレス(ISBN:978-4-908933-11-0)					
アクティブ・ラーニング	実習、グループ・ディスカッション、プレゼンテーション					
実務経験のある 教員による授業	理学療法士としての臨床経験を活かして、臨床実習において学んだ理学療法に関する基礎知識と基本的手技に関して統合を図る。					
留意事項	実習要綱を使って説明する。					

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
地域リハビリテーション実習(理学療法) Clinical Education for Community Rehabilitation (Physical therapy)	必修	実験・実習	1単位 (40時間)	3年後期	坂上 昇・大森圭貢・小林和彦・鶴見隆正 森尾裕志・山田拓実・斉藤琴子・櫻井好美・中尾陽光 大村優慈・下田栄次・中村壽志・土田将之	○
ナンバリングコード	HPTF3	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1) 看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2) 科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。					
臨床実習	DP3) 相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4) 保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5) 幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6) 卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
授業概要	通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションの現場を見学を主体として、地域在住の高齢者・障害者の生活支援や環境支援のあり方と制度的課題、地域リハビリテーションにおける理学療法・理学療法士の役割を学ぶ。					
到達目標	1) 各施設の役割と機能、リハビリテーションの位置づけ、地域リハビリテーションの意義、理学療法・理学療法士の役割について理解する。 2) 専門職としてのふさわしい態度、行動を実践する。 3) 地域リハビリテーションにおける理学療法士の現場を見学することで、その重要性を理解する。 4) 見学した内容と今後の課題を的確にまとめ、プレゼンテーションすることができる。					
授業の 進め方	1) 事前演習	1) 事前演習：実習施設の説明および諸注意 「地域リハビリテーション実習要綱」に沿って、実習の目的、臨床現場での心構えや注意事項を確認する。				
	2) 地域リハビリテーション実習	2) 地域リハビリテーション実習 配属先の施設にて以下の内容を学ぶ。 ・実習施設の概要 ・地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割 ・多職種との連携の実際について ・実際に見学した理学療法場面(症例の経過報告を含む)について ・今後の学習に向けた目標				
	3) 事後演習・実習報告会	3) 事後演習・実習報告会 ・学生は、実習課題を中心に実習施設の概要や実習した内容および体験した事柄(症例の経過報告等を含む)について要点をまとめて提出する。 ・大学にてグループ討議と発表会を行う。				
評価	実習の可否ならびに成績の判定は実習報告書、実習指導報告書、デイリーノート、発表プレゼンテーションを基に専任教員全員の総合的な判断で行う。					
課題に対する フィードバックの方法	成績評価についてフィードバックを希望する学生に対しては、教員が適宜、直接説明する。					
教科書	①鶴見隆正、辻下守弘(2020): 標準理学療法学 専門分野 理学療法 臨床実習とケーススタディ、医学書院 (ISBN: 978-4-260-04268-0) ②実習要綱					
参考図書など	①中山恭秀(2022): CrossLink 理学療法学テキスト 理学療法評価学、メジカルビュー (ISBN: 978-4-7583-2000-9) ②Dale Avers, Marybeth Brown (2020): 新・徒手筋力検査法原著第10版、協同医書 (ISBN: 978-4763900418) ③青木主税、飯田修平(2018): 基礎から確認! PT臨床実習チェックリスト、メジカルビュー (ISBN: 978-4-7583-1924-9) ④畠 昌史 他(2022): 臨床評価ガイド、医学書院 (ISBN: 978-4-260-04295-6) ⑤聖マリアンナ医科大学病院リハビリテーション部 編(2018): 疾患別リハビリテーション リスク管理マニュアル、ヒューマン・プレス (ISBN: 978-4-908933-11-0)					
アクティブ・ラーニング	実習、グループ・ディスカッション、プレゼンテーション					
実務経験のある 教員による授業	理学療法士としての臨床経験を活かして、臨床実習において学んだ理学療法に関する基礎知識と基本的手技に関して統合を図る。					
留意事項	実習要綱を使って説明する。					

授業科目の名称	必修・選択の別	授業形態	単位数(時間数)	配当年次	科目担当教員	実務経験のある教員による科目
総合臨床実習Ⅰ(理学療法) Clinical Education I	必修	実験・実習	7単位 (280時間)	4年前期	坂上 昇・大森圭貢・小林和彦・鶴見隆正 森尾裕志・山田拓実・斎藤琴子・櫻井好美・中尾陽光 大村優慈・下田栄次・中村壽志・土田将之	○
ナンバリングコード	HPTF3	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。					
臨床実習	DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
授業概要	3年次までの学内および学外学習を通じて得た知識、技術を駆使して、臨床実習指導者のもとで患者を担当し、評価、ゴール設定、プログラム立案、治療の実践までのプロセスを体験する。実習は7週間行い、本実習を通して理学療法士に求められる基礎的な知識、技術を習得する。また、実習終了後には、学内にて反省会と症例報告会を実施する。					
到達目標	1)検査・測定結果から、問題点を抽出し優先順位をつけることができる。 2)指導者の指導の下で、目標の設定、プログラムの立案ができる。 3)指導者の指導の下で、症例の病態に即した理学療法を実施することができる。 4)理学療法実施中に、患者の状況変化に対応することができる。 5)一連の流れを記録・報告することができる。					
授業の進め方	1)事前演習	1)事前演習:実習施設の説明および諸注意 「総合臨床実習要綱」に沿って、実習の目的、臨床現場での心構えや注意事項を確認する。				
	2)総合臨床実習	2)総合臨床実習 配属先の施設にて、実習指導者の指導・監督の下、治療に参加し以下の内容を体験する。 ・検査・測定結果から、問題点を抽出し、整理し、優先順位をつける。 ・症例に即したゴール設定を行う。 ・プログラム立案する。 ・治療実践のプロセスを体験する。 ・一連の内容を記録・報告する。				
	3)事後演習・実習報告会	3)事後演習:実習報告会 大学にて症例の評価結果をまとめ、それをもとに成果発表会を実施する。 成果発表会の発表内容は、以下の2つから選択する。 1)症例を継続的に評価できた場合 理学療法を模倣・体験した症例の中から1例を選び、症例のプロフィールから実施した理学療法の内容について発表する。 2)症例を継続的に評価できなかった場合 複数回理学療法を模倣・体験した症例の特徴や、興味関心のある内容に関して、理学療法の適応と効果について調べ学習を行い、発表する。				
評価	実習の可否ならびに成績の判定は実習報告書、実習指導報告書、成果発表会プレゼンテーション、成果発表会資料を基に専任教員全員の総合的な判断で行う。					
課題に対するフィードバックの方法	成績評価についてフィードバックを希望する学生に対しては、教員が適宜、直接説明する。					
教科書	①鶴見隆正、辻下守弘(2020):標準理学療法学 専門分野 理学療法 臨床実習とケーススタディ、医学書院 (ISBN:978-4-260-04268-0) ②実習要綱					
参考図書など	①中山恭秀(2022):CrossLink 理学療法学テキスト 理学療法評価学、メジカルビュー (ISBN:978-4-7583-2000-9) ②Dale Avers, Marybeth Brown(2020):新・徒手筋力検査法原著第10版、協同医書 (ISBN:978-4763900418) ③畠 昌史 他(2022):臨床評価ガイド、医学書院 (ISBN:978-4-260-04295-6) ④聖マリアナ医科大学病院リハビリテーション部 編(2018):疾患別リハビリテーション リスク管理マニュアル、ヒューマン・プレス (ISBN:978-4-908933-11-0) ⑤吉尾雅春、横田一彦(2017):標準理学療法学 専門分野 運動療法学 各論 第4版、医学書院 (ISBN:978-4-260-02791-5)					
アクティブ・ラーニング	実習、グループ・ディスカッション、プレゼンテーション					
実務経験のある教員による授業	理学療法士としての臨床経験を活かして、臨床実習において学んだ理学療法に関する基礎知識と基本的手技に関して統合を図る。					
留意事項	実習要綱を使って説明する。					

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
総合臨床実習Ⅱ(理学療法) Clinical Education II	必修	実験・実習	7単位 (280時間)	4年前期	坂上 昇・大森圭貢・小林和彦・鶴見隆正 森尾裕志・山田拓実・斉藤琴子・櫻井好美・中尾陽光 大村優慈・下田栄次・中村壽志・土田将之	○
ナンバリングコード	HPTF3	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。					
臨床実習	DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
授業概要	3年次までの学内および学外学習を通じて得た知識、技術を駆使して、臨床実習指導者のもとで患者を担当し、評価、ゴール設定、プログラム立案、治療の実践までのプロセスを体験する。実習は7週間行い、本実習を通して理学療法士に求められる基礎的な知識、技術を習得する。また、実習終了後には、学内にて反省会と症例報告会を実施する。					
到達目標	1)検査・測定結果から、問題点を抽出し優先順位をつけることができる。 2)指導者の指導の下で、目標の設定、プログラムの立案ができる。 3)指導者の指導の下で、症例の病態に即した理学療法を実施することができる。 4)理学療法実施中に、患者の状況変化に対応することができる。 5)再評価を行うことができる。 6)再評価の内容を整理し、プログラムの修正が行える。 7)一連の流れを記録・報告することができる。					
授業の 進め方	1)事前演習	1)事前演習:実習施設の説明および諸注意 「総合臨床実習要綱」に沿って、実習の目的、臨床現場での心構えや注意事項を確認する。				
	2)総合臨床実習	2)総合臨床実習 配属先の施設にて、実習指導者の指導・監督の下、治療に参加し以下の内容を体験する。 ・検査・測定結果から、問題点を抽出し、整理し、優先順位をつける。 ・症例に即したゴール設定を行う。 ・プログラム立案する。 ・治療実践のプロセスを体験する。 ・患者の状態の変化に合わせて再評価を行う。 ・再評価の内容を整理し、プログラムの修正を行う。 ・一連の内容を記録・報告する。				
	3)事後演習・実習報告会	3)事後演習:実習報告会 大学にて症例の評価結果をまとめ、それをもとに成果発表会を実施する。 成果発表会の発表内容は、以下の2つから選択する。 1)症例を継続的に評価できた場合 理学療法を模倣・体験した症例の中から1例を選び、症例のプロフィールから実施した理学療法の内容について発表する。 2)症例を継続的に評価できなかった場合 複数回理学療法を模倣・体験した症例の特徴や、興味関心のある内容に関して、理学療法の適応と効果について調べ学習を行い、発表する。				
評価	実習の可否ならびに成績の判定は実習報告書、実習指導報告書、成果発表会プレゼンテーション、成果発表会資料を基に専任教員全員の総合的な判断で行う。					
課題に対する フィードバックの方法	成績評価についてフィードバックを希望する学生に対しては、教員が適宜、直接説明する。					
教科書	①鶴見隆正、辻下守弘(2020):標準理学療法学 専門分野 理学療法 臨床実習とケーススタディ、医学書院(ISBN:978-4-260-04268-0) ②実習要綱					
参考図書など	①中山恭秀(2022):CrossLink 理学療法学テキスト 理学療法評価学、メジカルビュー(ISBN:978-4-7583-2000-9) ②Dale Avers, Marybeth Brown(2020):新・徒手筋力検査法原著第10版、協同医書(ISBN:978-4763900418) ③畠 昌史 他(2022):臨床評価ガイド、医学書院(ISBN:978-4-260-04295-6) ④聖マリアナ医科大学病院リハビリテーション部 編(2018):疾患別リハビリテーション リスク管理マニュアル、ヒューマン・プレス(ISBN:978-4-908933-11-0) ⑤吉尾雅春、横田一彦(2017):標準理学療法学 専門分野 運動療法学 各論 第4版、医学書院(ISBN:978-4-260-02791-5)					
アクティブ・ラーニング	実習、グループ・ディスカッション、プレゼンテーション					
実務経験のある 教員による授業	理学療法士としての臨床経験を活かして、臨床実習において学んだ理学療法に関する基礎知識と基本的手技に関して統合を図る。					
留意事項	実習要綱を使って説明する。					

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
運動学 I Kinesiology I	必修	講義	1単位 (30時間)	2年前期	作業療法学専攻教員	—
ナンバリングコード	HOTC1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門基礎科目	DPI)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。					
人体の構造と機能および心身の発達						

授業概要	人間の運動を力学的、解剖・生理学的面から総合的に理解するために、運動学の歴史、力学的基礎、人間の身体構造や生理機能について理解する。身体運動に関わる生体の構造や機能を力学的視点で捉え、重力や負荷に対して各関節の動きを、関与する筋がどのように働いて実現するかを理解し、日常生活での基本的姿勢や動作について考察できるようにする。					
到達目標	1) 身体運動の機構・原理を理解して運動学的思考に基づいた説明ができる。 2) 運動・作業に関与する筋群や支配神経経路との関係を理解して説明ができる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）				担当教員
1	総論・力学の基礎	運動学の定義と応用の事例(教科書第1章)、古典力学の基礎、生体力学の解法(教科書第2章) 事前学習(30分): 第2章を読んでおく。 事後学習(60分): 配布資料など、授業全体について復習する。				作業療法学 専攻教員
2	筋生理と関節運動	骨格筋の張力発生に関与する諸因子、人体関節の基本構造と生理(教科書第3章P67-87) 事前学習(30分): 生理学(骨格筋生理)の該当箇所を復習しておく。 事後学習(60分): 配布資料など、授業全体について復習する。				作業療法学 専攻教員
3	筋生理と関節運動	骨格筋の張力発生に関与する諸因子、人体関節の基本構造と生理(教科書第3章P67-87) 事前学習(30分): 生理学(骨格筋生理)の該当箇所を復習しておく。 事後学習(60分): 配布資料など、授業全体について復習する。				作業療法学 専攻教員
4	筋力について考える	筋力測定を計画する際の留意点、筋力の観点から人の動作を分析する際の基本的考え方 事前学習(30分): 教科書第2章P40-44「身体とてこ」を読んでおく。 事後学習(60分): 配布資料など、授業全体について復習する。				作業療法学 専攻教員
5	筋力について考える	具体的な筋力測定方法を計画し【発表】する。 事前学習(30分): 教科書第2章P40-44「身体とてこ」を読んでおく。 事後学習(60分): 配布資料など、授業全体について復習する。				作業療法学 専攻教員
6	上肢(肩関節)の運動	肩関節の構造、関節生理、運動方向と関与する筋(教科書第4章) 事前学習(30分): 教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分): 配布資料など、授業全体について復習する。				作業療法学 専攻教員
7	上肢(肩関節)の運動	肩関節の構造、関節生理、運動方向と関与する筋(教科書第4章) 事前学習(30分): 教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分): 配布資料など、授業全体について復習する。				作業療法学 専攻教員
8	上肢(肘・手関節)の運動	肘・手関節の構造、関節生理、運動方向と関与する筋(教科書第4章) 事前学習(30分): 教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分): 配布資料など、授業全体について復習する。				作業療法学 専攻教員
9	上肢(手指)の運動	手指の構造、関節生理、運動方向と関与する筋(教科書第4章) 事前学習(30分): 教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分): 配布資料など、授業全体について復習する。				作業療法学 専攻教員
10	上肢(手指)の運動	肘・手関節の構造、関節生理、運動方向と関与する筋(教科書第4章) 事前学習(30分): 教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分): 配布資料など、授業全体について復習する。				作業療法学 専攻教員
11	下肢(股関節)の運動	股関節の構造、関節生理、運動方向と関与する筋(教科書第4章) 事前学習(30分): 教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分): 配布資料など、授業全体について復習する。				作業療法学 専攻教員
12	下肢(股関節)の運動	股関節の構造、関節生理、運動方向と関与する筋(教科書第4章) 事前学習(30分): 教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分): 配布資料など、授業全体について復習する。				作業療法学 専攻教員

13	下肢(膝と足関節)の運動	膝関節・足関節の構造、関節生理、運動方向と関与する筋(教科書第4章) 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。	作業療法学 専攻教員
14	体幹・頭部の運動	体幹・頭部の運動方向と関与する筋(教科書第4章) 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。	作業療法学 専攻教員
15	歩行の運動	健常者の歩行周期と歩行中の関節運動と筋活動(教科書第8章) 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。	作業療法学 専攻教員

評価	筆記試験100%にて判定する。
課題に対する フィードバックの方法	試験結果の発表時に、「講評」を在学生ホームページもしくは学内掲示板に掲示する。もしくは、 再試験期間中に補講を行い、試験内容と結果についてのフィードバックを行う。
教科書	基礎運動学 第6版 中村隆一・齋藤宏・長崎浩著 医歯薬出版株式会社 2003 (ISBN:978-4-263-21153-3)
参考図書など	必要に応じて参考資料を別途配布する。
アクティブ・ラーニング	第5回目講義では第4回目講義で学習した内容を踏まえた上で、発表課題を事前に作成し、かつ当日は学生相互にディスカッションを行う。
実務経験のある 教員による授業	該当なし
留意事項	オフィスアワー以外にも、学習指導についてのアポイントメントは随時受け付ける。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
運動学Ⅱ Kinesiology Ⅱ	必修	講義	1単位 (30時間)	2年後期	増田雄亮 作業療法学専攻教員	○
ナンバリングコード	HOTC1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門基礎科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。					
人体の構造と機能および心身の発達						

授業概要	呼吸・循環、エネルギー代謝、運動処方などの運動生理学や、神経系による運動学習・運動制御機構について学習する。さらに、寝返り・起き上がり・立ち上がりなどの基本動作を含め、ひとの運動を発達敵側面からも捉えることを目指す。					
到達目標	(1)加齢に伴う運動能力の変化について、呼吸・循環・代謝など運動生理学の視点から理解できる。 (2)リハビリテーション臨床に必要な運動処方・運動学習について理解できる。 (3)姿勢反射/反応、運動発達、基本動作について理解し、分析できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）				担当教員
1	運動と循環	運動と循環の関係、リスク管理指標としてのバイタルサインについて学習する。 事前学習(45分):教科書の該当部分を予習しておくこと 事後学習(45分):授業で学んだことを復習すること				増田 雄亮
2	運動と呼吸	運動と呼吸の関係、リスク管理指標としてのバイタルサインについて学習する。 事前学習(45分):教科書の該当部分を予習しておくこと 事後学習(45分):授業で学んだことを復習すること				増田 雄亮
3	エネルギー代謝	糖・脂肪・タンパクの分解とエネルギー代謝の関連について学習する。 事前学習(45分):教科書の該当部分を予習しておくこと 事後学習(45分):授業で学んだことを復習すること				増田 雄亮
4	運動処方	運動処方の概要と日常生活における運動強度について学習する。 事前学習(45分):教科書の該当部分を予習しておくこと 事後学習(45分):授業で学んだことを復習すること				増田 雄亮
5	運動学習・運動制御	認知相から自動化相に至る運動学習の過程を理解し、これを促進するための戦略やセラピストの役割について学習する。 事前学習(45分):教科書の該当部分を予習しておくこと 事後学習(45分):授業で学んだことを復習すること				増田 雄亮
6	運動の中枢神経機構① (随意運動のメカニズム)	知覚・認知、運動の準備段階と脳内機構、運動出力など主に運動に関与する中枢神経機構について学習する。 事前学習(45分):教科書の該当部分を予習しておくこと 事後学習(45分):授業で学んだことを復習すること				増田 雄亮
7	運動の中枢神経機構② (知覚・認知と運動準備)	知覚・認知、運動の準備段階と脳内機構、運動出力など主に運動に関与する中枢神経機構について学習する。 事前学習(45分):教科書の該当部分を予習しておくこと 事後学習(45分):授業で学んだことを復習すること				増田 雄亮
8	姿勢・姿勢制御	姿勢と姿勢制御について、演習を行いながら学習する。 事前学習(45分):教科書の該当部分を予習しておくこと 事後学習(45分):授業で学んだことを復習すること				増田 雄亮
9	筋生理	筋収縮・筋力・筋疲労について学習する。 事前学習(45分):教科書の該当部分を予習しておくこと 事後学習(45分):授業で学んだことを復習すること				増田 雄亮
10	歩行	歩行時の関節運動・筋活動・関節モーメントなどについて具体的に学習する。 事前学習(45分):教科書の該当部分を予習しておくこと 事後学習(45分):授業で学んだことを復習すること				増田 雄亮
11	運動発達:18ヵ月頃まで	12ヵ月までの定型発達について理解できるようにする。グループワークを行い、学習を深める。 事前学習(45分):「イラストでわかる人間発達学」の79-151頁を読んでおく 事後学習(45分):授業で学んだことを復習する				作業療法学 専攻教員
12	運動発達:6歳頃まで	姿勢反射/反応、6歳までの発達を理解できるようにする。 事前学習(45分):「イラストでわかる人間発達学」の63-78頁、153-164頁を読んでおく 事後学習(45分):授業で学んだことを復習する				作業療法学 専攻教員

13	運動発達: 上肢機能の発達 基本動作の分析: 重心・歩行	上肢機能の発達について理解できるようにする。重心・歩行など基本動作や姿勢の分析のポイントを理解できるようにする。 事前学習(45分): 「イラストでわかる人間発達学」の165-177頁を読んでおく。 重心・歩行について復習しておく 事後学習(45分): 授業で学んだことを復習する	作業療法学 専攻教員
14	基本動作の分析: 起き上がり	起き上がりなどの基本的動作や姿勢についての分析ができるようにする。 事前学習(45分): 起き上がり動作について復習しておく 事後学習(45分): 授業で学んだことを復習する	作業療法学 専攻教員
15	基本動作の分析: 立ち上がり	立ち上がりなどの基本的動作や姿勢についての分析ができるようにする。 事前学習(45分): 立ち上がりについて復習しておく 事後学習(45分): 授業で学んだことを復習する	作業療法学 専攻教員

評価	定期試験90%、小テスト10%
課題に対する フィードバックの方法	定期試験の得点を公開する。
教科書	勝田茂(編): 入門運動生理学 第4版、杏林書院、2015、ISBN: 978-4764411593 上杉雅之(監修): イラストでわかる人間発達学、医歯薬出版、2015、ISBN: 978-4263219454
参考図書など	人間発達学 第2版 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野/奈良勲、鎌倉矩子 監修/医学書院/2017/ISBN: 978-4260032643
アクティブ・ラーニング	グループ演習、プレゼンテーションなどを実施する。
実務経験のある 教員による授業	リハビリテーション医療における作業療法実践の経験を活かし、運動生理学と神経系、運動発達と基本動作等の運動学に関する基本的な知識と考え方について講義する。
留意事項	講義内容は毎回変わるので欠席しないように健康に留意し、予習・復習を行うこと。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
運動学演習(応用) kinesiology exercises	必修	演習	1単位 (30時間)	3年前期	増田 雄亮	○
ナンバリングコード	HOTC2		オフィスアワー			
本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける						
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門基礎科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。					
人体の構造と機能および心身の発達						

授業概要	筋骨格系(四肢・体幹)と中枢神経系(脳・脊髄)の運動学を統合し、基本動作および日常生活活動における身体運動メカニズムと運動制御機構を学習する。また、脳卒中や脊髄損傷患者を想定して演習を行い、臨床運動学の視点を培う。					
到達目標	(1) 筋骨格系(四肢・体幹)の機能と構造について説明できる。 (2) 中枢神経系の運動制御機構について理解できる。 (3) 基本動作および日常生活上の各種応用的動作について、臨床運動学の視点から動作分析を遂行できる。 (4) 動作分析から得られた結果について、筋骨格系と中枢神経系を統合して解釈できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)				担当教員
1	生体力学の基礎①	身体にて、筋の張力、関節応力、関節モーメント、速度・加速度などについて、演習を通して生体力学の基礎を学習する。【グループ学習】 事前学習(20分):教科書の該当部分を読んでおくこと 事後学習(30分):学生同士で演習を行い、理解を深めること				増田 雄亮
2	生体力学の基礎②	水平運動、垂直運動、力・仕事・エネルギーなどについて、演習を通して生体力学の基礎を演習する。【グループ学習】 事前学習(20分):教科書の該当部分を読んでおくこと 事後学習(30分):学生同士で演習を行い、理解を深めること				増田 雄亮
3	生体力学の基礎③	生体力学の基礎について演習問題を解き、理解を深める。【グループ学習】 事前学習(20分):教科書の該当部分を読んでおくこと 事後学習(30分):学生同士で演習を行い、理解を深めること				増田 雄亮
4	筋骨格系の機能と構造① (上肢)	運動学Ⅰ/Ⅱで学んだ筋骨格系の機能と構造について、触診実技や各種演習を通して理解を深める。【グループ演習】【実技演習】 事前学習(20分):教科書の該当部分を読んでおくこと 事後学習(30分):学生同士で演習を行い、理解を深めること				増田 雄亮
5	筋骨格系の機能と構造② (体幹・下肢)	運動学Ⅰ/Ⅱで学んだ筋骨格系の機能と構造について、触診実技や各種演習を通して理解を深める。【グループ演習】【実技演習】 事前学習(20分):教科書の該当部分を読んでおくこと 事後学習(30分):学生同士で演習を行い、理解を深めること				増田 雄亮
6	筋骨格系の機能と構造③ (上肢・体幹・下肢)	筋骨格系の機能と構造について演習問題を解き、理解を深める。【グループ学習】 事前学習(20分):教科書の該当部分を読んでおくこと 事後学習(30分):学生同士で演習を行い、理解を深めること				増田 雄亮
7	中枢神経系の運動制御機構① (随意運動のメカニズム)	運動の選択・調整・実行に関連する運動制御機構と神経回路について学習する。 事前学習(20分):教科書の該当部分を読んでおくこと 事後学習(30分):教科書や授業時の配布プリントを復習すること				増田 雄亮
8	中枢神経系の運動制御機構② (認知と運動)	視覚・聴覚・体性感覚などの感覚モダリティを統合し、随意運動として出力されるまでの一連のプロセスについて学習する。 事前学習(20分):教科書の該当部分を読んでおくこと 事後学習(30分):教科書や授業時の配布プリントを復習すること				増田 雄亮
9	上肢リーチ・把握の動作分析① (グループ演習・レポート課題)	上肢リーチ・把握の動作分析を実施する。動作を4相に分けて関節運動を観察し、中枢神経～筋骨格系までの運動出力を考察する。【グループ演習】 事前学習(20分):教科書の該当部分を読んでおくこと 事後学習(30分):グループでレポートを作成し、プレゼンテーションの準備をすること				増田 雄亮
10	上肢リーチ・把握の動作分析② (グループ演習・レポート課題)	上肢リーチ・把握の動作分析を実施する。動作を4相に分けて関節運動を観察し、中枢神経～筋骨格系までの運動出力を考察する。【グループ演習】 事前学習(20分):グループでレポートを作成し、プレゼンテーションの準備をすること 事後学習(30分):動作分析を通して学んだ内容を復習しておくこと				増田 雄亮
11	巧緻・両手動作の動作分析① (グループ演習・レポート課題)	ペグボードを用いて、巧緻動作と両手動作の動作分析を実施する。関節運動を観察し、中枢神経系～筋骨格系までの運動出力を考察する。【グループ演習】 事前学習(20分):教科書の該当部分を読んでおくこと 事後学習(30分):グループでレポートを作成し、プレゼンテーションの準備をすること				増田 雄亮
12	巧緻・両手動作の動作分析② (グループ演習・レポート課題)	ペグボードを用いて、巧緻動作と両手動作の動作分析を実施する。関節運動を観察し、中枢神経系～筋骨格系までの運動出力を考察する。【グループ演習】 事前学習(20分):教科書の該当部分を読んでおくこと 事後学習(30分):グループでレポートを作成し、プレゼンテーションの準備をすること				増田 雄亮

13	起き上がりの動作分析① (グループ演習・レポート課題)	片麻痺・脊髄損傷患者のト起き上がりを想定し、健常成人との比較をしながら動作分析を実施する。【グループ演習】 事前学習(20分):教科書の該当部分を読んでおくこと 事後学習(30分):グループでレポートを作成し、プレゼンテーションの準備をすること	増田 雄亮
14	起き上がりの動作分析① (グループ演習・レポート課題)	片麻痺・脊髄損傷患者のト起き上がりを想定し、健常成人との比較をしながら動作分析を実施する。【グループ演習】 事前学習(20分):教科書の該当部分を読んでおくこと 事後学習(30分):グループでレポートを作成し、プレゼンテーションの準備をすること	増田 雄亮
15	まとめ	動作分析から得られた結果について、筋骨格系と中枢神経系を統合して解釈できるようになったかについて、レポート課題を振り返りながら理解度を確認する。 事前学習(20分):第1回～第14回までの内容を復習しておくこと 事後学習(30分):教科書や授業時の配布プリントを復習すること	増田 雄亮

評価	定期試験50%、レポート・プレゼンテーション30%、小テスト(生体力学・筋骨格系)20%
課題に対する フィードバックの方法	定期試験・レポート・小テストの得点を合わせて公開する。
教科書	石川朗(編)、種村留美(編)、小林麻衣(編)、小島悟(編集):臨床運動学(15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト)、中山書店、2015、ISBN:978-4521736655
参考図書など	石川朗(編)、種村留美(編)、小島悟(編)、小林麻衣(編):運動学実習(15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト)、中山書店、2016、ISBN:978-4521736662 Donald A. Neumann(著):筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版、医歯薬出版、2018、ISBN:978-4263265819 Anne Shumway-Cook(著)、Marjorie H. Woollacott(著):モーターコントロール 第5版 研究室から臨床実践へ、医歯薬出版、2020、ISBN:978-4263266182
アクティブ・ラーニング	グループ演習、ディスカッション、プレゼンテーションなどを実施する。
実務経験のある 教員による授業	リハビリテーション医療における作業療法実践の経験を活かし、神経系と筋骨格系を統合した運動学について講義・演習を行う。
留意事項	「運動学Ⅰ」「運動学Ⅱ」の学習内容をさらに深め、臨床運動学の視点を培う内容で構成している。これまでの学びを統合できるように、事前学習を行っておくこと。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
精神医学Ⅱ Psychiatry Ⅱ	必修	講義	1単位 (30時間)	2年後期	内田 信也	○
ナンバリングコード	HOTD2	オフィスアワー	別途公開の一覧表を参照すること。			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門基礎科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進						

授業概要	精神医学Ⅰに引き続き、各種の精神障害を概説すると共に、統合失調症・うつ病・認知症等の代表的な精神疾患を有する事例を通して、多様な発病過程と臨床経過の理解を促す。また、精神障害者の地域生活の実態を知り、地域精神保健活動のあるべき姿を理解する。さらに、精神障害者の処遇と医療の歴史、精神保健福祉法、障害者自立支援法に規定される保健医療福祉、精神障害者の就労支援施策等もあわせて学習する。					
到達目標	精神障害者の症状と立場を理解し、精神科リハビリテーションや心理療法の手法を援用できる。精神療法、薬物療法、精神保健を概括し、精神科医療チームの「共通言語」を獲得する。患者及び自身のメンタルヘルス保持を実践できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）				担当教員
1	精神保健① 精神保健の概要 自身の心の健康のために	精神保健(メンタルヘルス)とは何か。精神障害の考え方。 事前学習(30分):精神医学Ⅰのうち、特に精神医学の概要を理解しておく。 事後学習(60分):授業全体を復習する。				内田 信也
2	精神保健② わが国の精神障害者対策	精神障害者対策の制度面の変遷、精神障害の診断と評価について理解する。 事前学習(30分):精神医学Ⅰ・精神医学制度に関連する部分を確認しておく。 事後学習(60分):授業全体を復習する。				内田 信也
3	精神保健③ 統合失調症の精神病理と精神保健	統合失調症を病むとはいかなることかを理解し、関わり方を知る。 事前学習(30分):精神医学Ⅰ・統合失調症の関連部分を確認しておく。 事後学習(60分):授業全体を復習する。				内田 信也
4	精神保健④ アルコール関連問題、薬物乱用と依存症	アルコールや薬物への嗜癖(しへき)・依存の態様と支援のあり方を理解する。 事前学習(30分):精神医学Ⅰ・精神作用物質の関連部分を確認しておく。 事後学習(60分):授業全体を復習する。				内田 信也
5	精神保健⑤ ライフサイクル・児童青年期の精神保健	年代別の精神状態、その年代特有に生じる問題について概括する。 事前学習(30分):精神医学Ⅰ・年代別の行動、情緒障害について確認しておく。 事後学習(60分):授業全体を復習する。				内田 信也
6	精神保健⑥ 認知症の神経心理・精神病理と精神保健	認知症を中心に脳器質性精神障害の理解と対応を知る。 事前学習(30分):精神医学Ⅰ・認知症の関連部分を確認しておく。 事後学習(60分):授業全体を復習する。				内田 信也
7	精神保健⑦ 感情障害	双極性障害 うつ病 持続性気分障害について理解し関わり方を知る。 事前学習(30分):精神医学Ⅰ・感情障害に関連する部分を確認しておく。 事後学習(60分):授業全体を復習する。				内田 信也
8	精神保健⑧ 不安障害(神経症性障害)	不安障害とは何か。不安 恐怖 強迫 パニック障害 ストレス関連障害 解離性障害 身体表現性障害を知る。 事前学習(30分):精神医学Ⅰ・ストレス関連障害に関する部分を確認しておく。 事後学習(60分):授業全体を復習する。				内田 信也
9	精神保健⑨ パーソナリティ障害 行動障害 摂食障害	パーソナリティ障害を理解し関わり方を知る。その他の行動障害及び摂食障害について知る。 事前学習(30分):精神医学Ⅰ・生理的障害・パーソナリティ障害の関連部分を確認しておく。 事後学習(60分):授業全体を復習する。				内田 信也
10	精神保健⑩ てんかん及び精神科薬物療法	てんかんの種類とその理解、関わり方を知る。向精神薬の種類と作用機序、効果と副作用を学習する。 事前学習(30分):精神医学Ⅰ・てんかん関連と薬物療法の個所を確認しておく。 事後学習(60分):授業全体を復習する。				内田 信也
11	精神科リハビリテーション①	精神障害リハビリテーションの概要と種類 理念や技法の歴史と変遷。 事前学習:事前学習の必要はない。 事後学習(60分):授業全体を復習する。				内田 信也
12	精神科リハビリテーション②	精神科リハビリテーションの制度と法律の歴史。疾患別技法の復習。 事前学習(30分):前回講義分の流れと各疾患でのリハビリテーションを再確認しておく。 事後学習(60分):授業全体を復習する。				内田 信也

Ⅳ 専門基礎科目

13	精神療法の理論と種類 主な精神療法	精神分析、来談者中心療法、認知行動療法等の精神療法を概括する。 事前学習:事前学習の必要はない。 事後学習(60分):授業全体を復習する。	内田 信也
14	来談者中心療法 積極的傾聴の実際	支持的精神療法の根幹となる積極的傾聴について理解する。 事前学習(30分):前回講義内容から非指示的療法について再確認しておく。 事後学習(60分):授業全体を復習する。	内田 信也
15	認知行動療法 ~認知再構成法を中心に~	認知行動療法の一技法である認知再構成法の理論と方法を知る。 事前学習(30分):前々回講義内容から認知行動療法について再確認しておく。 事後学習(60分):授業全体を復習する。	内田 信也

評価	定期試験100%
課題に対するフィードバックの方法	実施予定なし。
教科書	授業毎にレジュメを配布する。
参考図書など	必要に応じて都度紹介する。
アクティブ・ラーニング	実施予定なし。
実務経験のある教員による授業	精神科医として長年診療に携わってきた経験から、典型的な精神障害をその考察を加味して各精神疾患について具体的理解の浸透に努める。 主要な精神療法に関して概説する。
留意事項	特になし。

		必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
作業療法基礎 I A Occupational therapy basics I A		必修	講義	1単位 (15時間)	1年前期	三川年正、岡本絵里加、 作業療法学専攻(専任)教員	—
ナンバリングコード	HOTA1	オフィスアワー		本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分		卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目		DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
基礎作業療法学							
授業概要	大学で学ぶために必要なスタディスキル、アカデミックスキルを習得する。大学生の現状や諸問題を取り上げ、求められる学力と学習方法について検討し、学習が円滑に進むようにする。						
到達目標	1) 大学という場とそこでの学びとはどういうものなのかを理解する。 2) 大学で学ぶためのスタディスキルを理解する。 3) 医療専門職に求められる素養を理解する。						
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習 (予習・復習・課題等)				担当教員	
1	オリエンテーション、大学での学びとは	オリエンテーション、大学での学び(履修登録・成績評価ほか) 事前学習:なし 事後学習(30分):講義資料と学修内容をノートにまとめる				三川年正 岡本絵里加	
2	学力とは	学力とは 事前学習:なし 事後学習(30分):講義資料と学修内容をノートにまとめる				三川年正 岡本絵里加	
3	医療専門職を目指す大学生の礼儀について	社会生活の基礎となる礼儀・礼節の意義と重要性について教授する 事前学習(30分):授業内容に関する資料の該当箇所を読み課題に取り組む 事後学習(30分):課題に取り組む復習する				三川年正 岡本絵里加	
4	SNSの利用とその注意点	SNSなどインターネット利用についてとその注意点、また、情報の伝達の仕方(ビジネスメールの書き方)について教授する 事前学習(30分):授業内容に関する資料の該当箇所を読み課題に取り組む 事後学習(30分):課題に取り組む復習する				三川年正 岡本絵里加	
5	講義や説明を理解するとは、テキスト・文献を理解するとは	授業の受け方、学習方法について、ノートの取り方について教授する。大学の学習において重要である本・文献の読み方について教授する 事前学習(30分):授業内容に関する資料の該当箇所を読み課題に取り組む 事後学習(30分):課題に取り組む復習する				三川年正 岡本絵里加	
6	図書館利用と文献活用	図書館をどう活用するか、目的別本の読み方・探し方、引用文献・参考文献の記載方法 事前学習(30分):授業内容に関する資料の該当箇所を読み課題に取り組む 事後学習(30分):課題に取り組む復習する				三川年正 岡本絵里加 図書館司書	
7	レポートの書き方①	基本的な文書の書き方やルール、レポートの形式について教授する 事前学習(30分):授業内容に関する資料の該当箇所を読み課題に取り組む 事後学習(30分):課題に取り組む復習する				三川年正 岡本絵里加	
8	レポートの書き方②	パソコン操作などの基本的学習などITリテラシーについて教授する 事前学習(30分):授業内容に関する資料の該当箇所を読み課題に取り組む 事後学習(30分):課題に取り組む復習する				三川年正 岡本絵里加	
評価	授業内課題100%						
課題に対するフィードバックの方法	レポートの場合:学生個々に講評を記載できる場合はそれを記載して、学生へ返却する。						
教科書	30時間アカデミック Office2021/杉本くみこ・大澤栄子/実教出版/ISBN:978-4-407-35943-5						
参考図書など	必要に応じて参考資料を別途配布および紹介する。						
アクティブ・ラーニング	ディスカッション・ディベート・グループワーク・プレゼンテーションを予定している。						
実務経験のある教員による授業	該当なし						
留意事項	持参物:学生便覧、シラバス						

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
作業療法基礎 I B Occupational therapy basics I B	必修	講義	1単位 (15時間)	1年前期	三川 年正、岡本 絵里加、作業療法学専攻(専任)教員	○
ナンバリングコード	HOTG1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
基礎作業療法学						
授業概要	臨床実習における事前演習を通して初年次に行われる見学実習(作業療法)の目的や概要、健康管理、身だしなみ、態度や倫理綱領、記録の仕方などを学ぶ。					
到達目標	1)社会人・専門職としての責任と品位・節度のある基本的態度を身につけることができる。 2)対象者らの立場を理解し、彼らと適切な距離を持った態度と行動を身につけるための経験ができる。 3)対象者らの生活機能と障害についての理解を深めることができる。 4)実習施設におけるリハビリテーション部門や作業療法部門の業務、役割・機能を知る。 5)実習施設の概要を把握すると共に、地域における当該施設や作業療法部門の役割・機能を知る。 6)セミナー発表会(説明会)での討議やグループワークに積極的に参加し、他者の経験を理解できる。 7)見学実習を通じた経験を元に、今後の自己の学習課題を具体的に示すことができる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)			担当教員	
1	オリエンテーション	臨床実習とは 臨床実習における見学実習の位置づけ 見学実習の目的・概要 事前学習:なし 事後学習(30分):課題に取り組み復習する			三川 年正 岡本 絵里加	
2	個人資料作成	見学実習の個人資料を作成 事前学習(30分):授業内容に関する資料の該当箇所を読み課題に取り組む 事後学習(30分):課題に取り組み復習する			三川 年正 岡本 絵里加	
3	事前演習 I (健康管理・身だしなみ)	実習中の健康管理 実習にむけての各種注意事項(身だしなみ確認など) 事前学習(30分):授業内容に関する資料の該当箇所を読み課題に取り組む 事後学習(30分):課題に取り組み復習する			三川 年正 岡本 絵里加	
4	事前演習 II (態度・倫理綱領)	実習中の態度 実習にむけての各種注意事項 事前学習(30分):授業内容に関する資料の該当箇所を読み課題に取り組む 事後学習(30分):課題に取り組み復習する			三川 年正 岡本 絵里加	
5	事前演習 III (記録の仕方・事故の防止)	デイリーノートとレポート課題の説明 事前学習(30分):授業内容に関する資料の該当箇所を読み課題に取り組む 事後学習(30分):課題に取り組み復習する			三川 年正 岡本 絵里加	
6	事前演習 IV (実習先の概要)	ふれあいグループの各施設の概要と役割 事前学習(30分):授業内容に関する資料の該当箇所を読み課題に取り組む 事後学習(30分):課題に取り組み復習する			三川 年正 岡本 絵里加	
7	事前演習 V (コミュニケーションスキル)	臨床実習におけるコミュニケーションスキルの向上を図る 事前学習(30分):授業内容に関する資料の該当箇所を読み課題に取り組む 事後学習(30分):課題に取り組み復習する			三川 年正 岡本 絵里加	
8	最終オリエンテーション、身だしなみ最終チェック	これまでの学習内容を振り返る 事前学習(30分):授業内容に関する資料の該当箇所を読み課題に取り組む 事後学習(30分):課題に取り組み復習する			三川 年正 岡本 絵里加	
評価	授業内課題100%					
課題に対する フィードバックの方法	レポートの場合:学生個々に講評を記載できる場合はそれを記載して、学生へ返却する。					
教科書	30時間アカデミック Office2021/杉本くみこ・大澤栄子/実教出版/ISBN:978-4-407-35943-5					
参考図書など	必要に応じて参考資料を別途配布および紹介する。					
アクティブ・ラーニング	ディスカッション・ディベート・グループワーク・プレゼンテーションを予定している。					
実務経験のある 教員による授業	作業療法士として実務にあたった経験を生かし、臨床家に求められる思考、行動などについて講義する。					
留意事項	臨床実習に関する基礎となる科目です。必ず専用のノートまたはファイルを作成してください。これまでの学習方法との共通点・相違点を意識しながら、自らの成長を実感しましょう。					

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
作業療法基礎ⅡA Occupational therapy basicsⅡA	選択	講義	1単位 (30時間)	1年前期	三川 年正、岡本 絵里加、作業療法学専攻(専任)教員	-
ナンバリングコード	HOTC1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
基礎作業療法学						
授業概要	評価実習や臨床実習、国家試験対策の基礎となる、解剖学・生理学の予習・復習となるように、知識の整理および知識を結びつけることにより、覚えるだけでなく臨床に活かした知識の習得を促す。また、これらの科目の重要性を理解できるよう、他の臨床医学とのつながりも示しつつ、自ら興味を持って学習するように授業展開する。					
到達目標	1) チューター活動やグループ活動などを通して、学習習慣を身につける。 2) 解剖学・生理学を独立した科目ではなく、作業療法の対象となる人の構造や機能であることを理解する。 3) 文字で覚えるだけでなく、体のどの部分のどのような働きなのか、図や絵で理解し、触診ができる。 4) 国家試験や模擬試験の過去問を解答することができる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)			担当教員	
1	オリエンテーション	学習の進め方、資料作成 事前学習(30分):教科書P122-P144を読んでおく。 事後学習(20分):配布資料など、授業全体について復習する。			三川 年正 岡本 絵里加 各チューター	
2	骨格筋①	骨(構造、骨化) 事前学習(30分):教科書P206-P213を読んでおく。 事後学習(20分):配布資料など、授業全体について復習する。			三川 年正 岡本 絵里加 各チューター	
3	骨格筋②	骨(構造、骨化) 事前学習(30分):教科書P206-P213を読んでおく。 事後学習(20分):配布資料など、授業全体について復習する。			三川 年正 岡本 絵里加 各チューター	
4	中枢神経系①	中枢神経系(解剖、機能局在、基底核、辺縁系、伝導路) 事前学習(30分):教科書P122-P144を読んでおく。 事後学習(20分):配布資料など、授業全体について復習する。			三川 年正 岡本 絵里加 各チューター	
5	中枢神経系②	末梢神経(神経線維、脳神経、自律神経、体性神経、伝達物質) 事前学習(30分):教科書P144-P168を読んでおく。 事後学習(20分):配布資料など、授業全体について復習する。			三川 年正 岡本 絵里加 各チューター	
6	末梢神経系①	末梢神経(神経線維、脳神経、自律神経、体性神経、伝達物質) 事前学習(30分):教科書P144-P168を読んでおく。 事後学習(20分):配布資料など、授業全体について復習する。			三川 年正 岡本 絵里加 各チューター	
7	末梢神経系②	末梢神経(神経線維、脳神経、自律神経、体性神経、伝達物質) 事前学習(30分):教科書P44-P168を読んでおく。 事後学習(20分):配布資料など、授業全体について復習する。			三川 年正 岡本 絵里加 各チューター	
8	関節①	関節の構造、関節円板 事前学習(30分):教科書P213-P217を読んでおく。 事後学習(20分):配布資料など、授業全体について復習する。			三川 年正 岡本 絵里加 各チューター	
9	関節②	関節の構造、関節円板 事前学習(30分):教科書P213-P217を読んでおく。 事後学習(20分):配布資料など、授業全体について復習する。			三川 年正 岡本 絵里加 各チューター	
10	上肢の筋①	上肢帯、肩関節、肘関節、手、指 事前学習(30分):教科書P217-P243を読んでおく。 事後学習(20分):配布資料など、授業全体について復習する。			三川 年正 岡本 絵里加 各チューター	
11	上肢の筋②	上肢帯、肩関節、肘関節、手、指 事前学習(30分):教科書P217-P243を読んでおく。 事後学習(20分):配布資料など、授業全体について復習する。			三川 年正 岡本 絵里加 各チューター	
12	下肢の筋①	股関節、膝関節、足、足趾 事前学習(30分):教科書P243-P273を読んでおく。 事後学習(20分):配布資料など、授業全体について復習する。			三川 年正 岡本 絵里加 各チューター	

13	下肢の筋②	股関節、膝関節、足、足趾 事前学習(30分):教科書P243-P273を読んでおく。 事後学習(20分):配布資料など、授業全体について復習する。	三川 年正 岡本 絵里加 各チューター
14	骨格筋①	構造、種類、運動単位、収縮、張力、伸張反射 事前学習(30分):教科書P168-P184を読んでおく。 事後学習(20分):配布資料など、授業全体について復習する。	三川 年正 岡本 絵里加 各チューター
15	骨格筋②	構造、種類、運動単位、収縮、張力、伸張反射 事前学習(30分):教科書P168-P184を読んでおく。 事後学習(20分):配布資料など、授業全体について復習する。	三川 年正 岡本 絵里加 各チューター

評価	授業内課題100%
課題に対する フィードバックの方法	チューター活動時、面接や面談時など必要に応じ随時実施する
教科書	理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 専門基礎分野 基礎医学2024 ISBN:978-4-263-27016-5
参考図書など	藤田恒太郎著「人体解剖学」改定第42版 南江堂 2003年 ISBN:978-4524222469 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野・生理学 /岡田隆夫、鈴木敦子、長岡正範/医学書院/第5版/ISBN:978-4260036443 カラー図解 人体の正常構造と機能【全10巻縮刷版】改訂第4版 ISBN:978-4-7849-3181-1
アクティブ・ラーニング	解剖学・生理学の授業進行に併せて、チューター活動を中心に、ディスカッションやグループワーク・プレゼンテーション、課題解決型の学習等を行う
実務経験のある 教員による授業	該当なし
留意事項	オフィスアワー以外にも、学習指導等のアPOINTメントは随時受け付ける

授業科目の名称		必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
作業療法基礎ⅡB Occupational therapy basicsⅡB		選択	講義	1単位 (30時間)	1年後期	三川 年正、岡本 絵里加、 作業療法学専攻(専任)教員	—
ナンバリングコード	HOTC1	オフィスアワー		本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分		卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目		DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
基礎作業療法学							
授業概要	評価実習や臨床実習、国家試験対策の基礎となる、解剖学・生理学の予習・復習として知識の整理および知識を結びつけることにより、覚えるだけでなく臨床に活かした知識の理解を促す。また、これらの科目の重要性を理解できるよう、他の臨床医学とのつながりも示しつつ、自ら学習するように授業展開する。また、触診や国家試験の過去問の解答作成など学生の学習力を上げる。						
到達目標	1) チューター活動やグループ活動などを通して、学習習慣を身につける。 2) 解剖学・生理学を独立した科目ではなく、作業療法の対象となる人の構造や機能であることを理解する。 3) 文字で覚えるだけでなく、体のどの部分のどのような動きなのか、図や絵で理解し、触診ができる。 4) リハビリテーションの対象となる疾患の特徴やアプローチ方法を概観できる。 5) 国家試験や模擬試験の過去問を解答することができる。						
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)				担当教員	
1	オリエンテーション	学習の進め方、資料作成 事前学習(30分):教科書P6-P39を呼んでおく。 事後学習(20分):配布資料など、授業全体について復習する。				三川 年正 岡本 絵里加 各チューター	
2	循環器系①	心臓、動脈、静脈、血液 事前学習(30分):教科書P6-P39を呼んでおく。 事後学習(20分):配布資料など、授業全体について復習する。				三川 年正 岡本 絵里加 各チューター	
3	循環器系②	心臓、動脈、静脈、血液 事前学習(30分):教科書P6-P39を呼んでおく。 事後学習(20分):配布資料など、授業全体について復習する。				三川 年正 岡本 絵里加 各チューター	
4	呼吸器①	呼吸生理、構造、呼吸運動 事前学習(30分):教科書P39-P55を呼んでおく。 事後学習(20分):配布資料など、授業全体について復習する。				三川 年正 岡本 絵里加 各チューター	
5	呼吸器②	呼吸生理、構造、呼吸運動 事前学習(30分):教科書P39-P55を呼んでおく。 事後学習(20分):配布資料など、授業全体について復習する。				三川 年正 岡本 絵里加 各チューター	
6	消化器系①	摂食嚥下、胃、膵臓、消化管、排便 事前学習(30分):教科書P56-P76を呼んでおく。 事後学習(20分):配布資料など、授業全体について復習する。				三川 年正 岡本 絵里加 各チューター	
7	消化器系②	摂食嚥下、胃、膵臓、消化管、排便 事前学習(30分):教科書P56-P76を呼んでおく。 事後学習(20分):配布資料など、授業全体について復習する。				三川 年正 岡本 絵里加 各チューター	
8	泌尿器系・生殖器系①	腎臓・排尿機構、生殖器の構造、妊娠・出産とホルモン 事前学習(30分):教科書P77-P94を呼んでおく。 事後学習(20分):配布資料など、授業全体について復習する。				三川 年正 岡本 絵里加 各チューター	
9	泌尿器系・生殖器系②	脊髄損傷の概要、障害評価、合併症、リハビリテーション 事前学習(30分):教科書P77-P94を呼んでおく。 事後学習(20分):配布資料など、授業全体について復習する。				三川 年正 岡本 絵里加 各チューター	
10	代謝①	代謝、糖代謝、代謝当量 事前学習(30分):教科書P95-P102を呼んでおく。 事後学習(20分):配布資料など、授業全体について復習する。				三川 年正 岡本 絵里加 各チューター	
11	代謝②	代謝、糖代謝、代謝当量 事前学習(30分):教科書P95-P102を呼んでおく。 事後学習(20分):配布資料など、授業全体について復習する。				三川 年正 岡本 絵里加 各チューター	

12	内分泌系①	下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎皮質、副腎髄質 事前学習(30分):教科書P105-P111を呼んでおく。 事後学習(20分):配布資料など、授業全体について復習する。	三川 年正 岡本 絵里加 各チューター
13	内分泌系②	下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎皮質、副腎髄質 事前学習(30分):教科書P105-P111を呼んでおく。 事後学習(20分):配布資料など、授業全体について復習する。	三川 年正 岡本 絵里加 各チューター
14	発生と組織①	細胞の構造、染色体、細胞膜電位、発生 事前学習(30分):教科書P112-P119を呼んでおく。 事後学習(20分):配布資料など、授業全体について復習する。	三川 年正 岡本 絵里加 各チューター
15	発生と組織②	細胞の構造、染色体、細胞膜電位、発生 事前学習(30分):教科書P112-P119を呼んでおく。 事後学習(20分):配布資料など、授業全体について復習する。	三川 年正 岡本 絵里加 各チューター

評価	授業内課題100%
課題に対する フィードバックの方法	チューター活動時、面接や面談時など必要に応じ随時実施する
教科書	理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 専門基礎分野 基礎医学2024 ISBN:978-4-263-27016-5
参考図書など	藤田恒太郎著「人体解剖学」改定第42版 南江堂 2003年 ISBN:978-4524222469 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野・生理学 /岡田隆夫、鈴木敦子、長岡正範/医学書院/第5版/ISBN:978-4260036443 カラー図解 人体の正常構造と機能【全10巻縮刷版】改訂第4版 ISBN:978-4-7849-3181-1
アクティブ・ラーニング	解剖学・生理学・リハビリテーション医学の授業進行に併せて、チューター活動を中心に、ディスカッションやグループワーク・プレゼンテーション、課題解決型の学習等を行う
実務経験のある 教員による授業	該当なし
留意事項	オフィスアワー以外にも、学習指導等のアPOINTメントは随時受け付ける

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
作業療法基礎ⅢA Occupational therapy basicsⅢA	必修	講義	1単位 (15時間)	3年前期	西野由希子、三川年正	○
ナンバリングコード	HOTD1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP2) 科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3) 相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4) 保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5) 幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6) 卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
基礎作業療法学						

授業概要	作業療法基礎ⅢAでは国家試験を題材にし、基礎医学の解剖学・生理学・運動学に加え、臨床医学の総復習を行う。内科学、整形外科学、神経学、病理学、リハビリテーション概論・リハビリテーション医学、精神医学、心理学について、各科目の知識を総合的に関係づけて活用できるようにする。		
到達目標	1) 解剖学・生理学・運動学等の基礎医学科目を理解できる。 2) 内科学、整形外科学、神経学等の臨床医学科目を理解できる。 3) 国家試験の過去問や模試の解答を作成することができる。		
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）	担当教員
1	国家試験対策の進め方① (オリエンテーション)	作業療法士国家試験対策の進め方についてオリエンテーションを行う。 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(30分):配布資料など、授業全体について復習する。	三川年正
2	国家試験対策の進め方② (方法論)	作業療法士国家試験対策の具体的な方法論について講義する。 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(30分):配布資料など、授業全体について復習する。	三川年正
3	解剖学・生理学・運動学① (筋骨格系)	骨系・筋系の構造および機能を学び、基本的な運動学の知識を学ぶ。 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(30分):配布資料など、授業全体について復習する。	西野由希子
4	解剖学・生理学・運動学② (神経系)	神経系の構造および機能を学ぶ。 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(30分):配布資料など、授業全体について復習する。	西野由希子
5	解剖学・生理学・運動学③ (内臓系)	内臓系の構造および機能を学ぶ。 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(30分):配布資料など、授業全体について復習する。	西野由希子
6	内科学・神経内科学・病理学	内科系の主要な疾患について学び、基本的な病理学の知識を学ぶ。 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(30分):配布資料など、授業全体について復習する。	西野由希子
7	臨床心理学・精神医学	心理・精神科系の主要な疾患について学ぶ。 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(30分):配布資料など、授業全体について復習する。	西野由希子
8	リハビリテーション概論 リハビリテーション医学 整形外科学	基本的なリハビリテーションの知識を学び、リハビリテーション医学と整形外科学の主要な疾患について学ぶ。 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(30分):配布資料など、授業全体について復習する。	西野由希子

評価	定期試験100%
課題に対する フィードバックの方法	レポートの場合:学生個々に講評を記載できる場合はそれを記載して、学生へ返却する
教科書	理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント専門基礎分野 基礎医学 2024 オンラインテスト付、医歯薬出版、2023、ISBN: 978-4-263-27016-5 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント専門基礎分野 臨床医学 2024 オンラインテスト付、医歯薬出版、2023、ISBN: 978-4-263-27017-2
参考図書など	なし
アクティブ・ラーニング	適宜ディスカッション・グループワーク・プレゼンテーションを予定している。
実務経験のある 教員による授業	リハビリテーションの医療・福祉分野での実務経験を活かし、作業療法士として必要な基礎医学・臨床医学の知識修得を目指した講義・演習を行う。
留意事項	1・2年生で学んだ基礎医学・臨床医学について復習をしておくこと。

IV  
専門基礎科目  
専門科目

授業科目の名称		必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
作業療法基礎ⅢB Occupational therapy basicsⅢB		必修	講義	1単位 (15時間)	3年前期	西野由希子、作業療法学専攻(専任)教員	○
ナンバリングコード	HOTF1	オフィスアワー		本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分		卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目		DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
基礎作業療法学							
授業概要	作業療法基礎ⅢBでは作業療法の専門科目について、各専門領域の知識を総合的に関係づけて活用できるようにする。						
到達目標	(1)身体障害作業療法評価学を理解できる。 (2)身体障害作業療法の検査・測定技法の一部を実施できる。 (3)地域リハビリテーション実習(作業療法)に向けて、実習生としてふさわしい態度を身につける。						
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)				担当教員	
1	身体障害作業療法評価学① (オリエンテーション) (上肢機能検査)	オリエンテーションの実施。 上肢機能検査(感覚・筋緊張・STEFなど)について講義・演習を行う。 事前学習(30分):教科書pp.275-290を読んでおく。 事後学習(30分):教科書・配布資料など授業全体について復習する。				西野由希子 作業療法教員	
2	身体障害作業療法評価学② (バイタルサインの測定)	バイタルサイン(血圧・脈拍・呼吸・意識状態など)について講義・演習を行う。 事前学習(30分):教科書pp.140-171を読んでおく。 事後学習(30分):教科書・配布資料など授業全体について復習する。				作業療法教員	
3	身体障害作業療法評価学③ (関節可動域検査・形態測定)	関節可動域検査・形態測定について講義・演習を行う。 事前学習(30分):教科書pp.172-193, pp.227-241を読んでおく。 事後学習(30分):教科書・配布資料など授業全体について復習する。				作業療法教員	
4	身体障害作業療法評価学④ (徒手筋力検査・握力・ピンチ力)	徒手筋力検査・握力・ピンチ力などについて講義・演習を行う。 事前学習(30分):教科書pp.194-226を読んでおく。 事後学習(30分):教科書・配布資料など授業全体について復習する。				作業療法教員	
5	身体障害作業療法評価学⑤ (脳神経検査・運動麻痺検査)	脳神経検査・運動麻痺検査などについて講義・演習を行う。 事前学習(30分):教科書pp.302-330を読んでおく。 事後学習(30分):教科書・配布資料など授業全体について復習する。				作業療法教員	
6	身体障害作業療法評価学⑥ (腱反射・病的反射)	腱反射・病的反射などについて講義・演習を行う。 事前学習(30分):教科書pp.291-301を読んでおく。 事後学習(30分):教科書・配布資料など授業全体について復習する。				作業療法教員	
7	身体障害作業療法評価学⑦ (運動失調検査・バランス検査) (検査・測定まとめ)	運動失調検査・バランス検査などについて講義・演習を行う。 事前学習(30分):教科書pp.356-381を読んでおく。 事後学習(30分):教科書・配布資料など授業全体について復習する。				作業療法教員	
8	地域リハビリテーション実習 (事前準備・服装チェック)	地域リハビリテーション実習(作業療法)に向けた事前準備を行う。実習生としてふさわしい態度面について講義・演習を行い、必要書類を準備する。 事前学習(30分):実習要項の該当箇所を読んでおく。 事後学習(30分):配布資料など、授業全体について復習する。				西野由希子 久保田清子	

評価	定期試験100%
課題に対する フィードバックの方法	実技演習では、学生個々に「現状と今後の課題」についてフィードバックを行う。
教科書	才藤栄一(監修), 金田嘉清(編集), 富田昌夫(編集), 他:PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版 [WEB動画付き], 2020, 金原出版, ISBN:978-4307750585. 丹羽敦・松田隆治(編). 実習の要点を網羅! 作業療法臨床実習のチェックポイント. メジカルビュー社.2020. ISB:978-4-7583-2024-5
参考図書など	なし
アクティブ・ラーニング	学生による主体的な実技演習を中心に実施する。
実務経験のある 教員による授業	リハビリテーションの医療・福祉分野での実務経験を活かし、作業療法士として必要な技能・態度面の修得を目指した講義・演習を行う。
留意事項	作業療法評価学(身体Ⅰ/Ⅱ)で学んだ内容をよく復習しておくこと。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
作業療法概論 Introduction of Occupational Therapy	必修	講義	1単位 (30時間)	1年前期	田邊 浩文	○
ナンバリングコード	HOTE1		オフィスアワー 本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP5) 幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6) 卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
基礎作業療法学						
授業概要	作業療法とは何か(定義)、作業療法の歴史の変遷、実践の目的、方法、社会の変化に対応した対象・領域、専門職としての役割について学ぶ。また、国際的な作業療法の潮流も学習し、より国際的な視点も育む。講義の中では視覚的メディアを介した具体的な作業療法の実践場面を示すと共に、対象者の捉え方の視点や障害を抱える方に対する職業人としての責任や倫理観の重要性を学習する。					
到達目標	1) 作業療法を説明することができる。 2) 作業療法と他の医療の専門職種との違いを説明できる。 3) 作業療法の各領域別に専門性を説明できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(分): (予習・復習・課題等)				担当教員
1	リハビリテーションと作業療法	医学とリハビリテーションにおける作業療法の位置づけを概観し、また他領域との違いを解説する。領域を学ぶ時にはグループワークを行う。 事前学習(30分): リハビリテーションとは 事後学習(30分): 作業療法とその領域				田邊 浩文
2	PT・OT法を含めた法規・制度	PT・OT法を含む法制度を学習する。 事前学習(30分): 法とは 事後学習(30分): PT・OT法				田邊 浩文
3	リハビリテーション・作業療法の歴史と変遷	リハビリテーション及び作業療法の歴史や変遷を、日本と世界の両面から解説し、そして学ぶ。 事前学習(30分): リハビリテーションの歴史 事後学習(30分): 作業療法の歴史				田邊 浩文
4	作業療法の原理・理論・障害	作業療法の基盤となる原理や理論を解説する。また障害を規定するICFを含め解説する。障害とICFについてはグループワークを行う。 事前学習(20分): 作業療法理論とICF 事後学習(20分): 障害を体験しICFと関連付けて理解する				田邊 浩文
5	障害とICF	障害とICFについてはグループワークを行う。またグループごとにICFを完成させ、プレゼンテーションを行う。 事前学習(30分): 障害とICF 事後学習(30分): 障害とICF				田邊 浩文
6	作業療法の流れ(評価・立案・治療)	作業療法の基本的流れである評価(テスト・バッテリー含む)、問題抽出、焦点化、立案、実施、再評価の流れを解説する。 事前学習(20分): 作業療法の流れ 事後学習(40分): 作業療法の流れ図を書く				田邊 浩文
7	精神障害領域における作業療法1	精神障害者への作業療法を概観する。人にとっての心を病むという意味を考え、疾患別、病期別、目標等について解説する。 事前学習(30分): 人が心を病むということ 事後学習(30分): 精神科作業療法とは				田邊 浩文
8	精神障害領域における作業療法2	精神障害者への作業療法を概観する。特に、病院(入院、外来、デイケア、訪問)、地域の社会復帰施設、保健所、市役所、刑務所等で実施される作業療法について解説する。 事前学習(20分): 精神科作業療法の実践の場とは 事後学習(40分): 精神科作業療法の実践の場と特性				田邊 浩文
9	身体障害領域における作業療法1	身体障害者への作業療法を概観する。人にとって体の障害を抱えるという意味を考え、同時に、疾患別、病期別、目標等について解説する。 事前学習(30分): 体に障害を抱えるということは 事後学習(30分): 身体障害領域における作業療法とは				田邊 浩文
10	身体障害領域における作業療法2	身体障害者への作業療法を概観する。特に、身体機能・障害、作業療法実施(処方、情報収集、評価、計画立案、実施、効果判定、報告と記録)を解説する。また身体障害作業療法の実践施設(急性期・回復期)等も学習する。 事前学習(20分): 身体障害作業療法の流れ 事後学習(40分): 身体障害作業療法の実践の場と特性				田邊 浩文
11	高齢・加齢領域における作業療法1	高齢及び高齢者への作業療法を概観する。特に、人にとっての加齢の意味を考え、同時に疾患別、病期別、目標等について解説する。 事前学習(30分): 人の老とは 事後学習(30分): 老年期作業療法とは				田邊 浩文

12	高齢・加齢領域における作業療法2	高齢及び加齢者への作業療法を概観する。特に、医療、施設、及び領域別に解説する。また、高齢及び加齢者への作業療法実施(処方、情報収集、評価、計画立案、実施、効果判定、報告と記録)を解説する。 事前学習(20分): 老年期作業療法の流れ 事後学習(40分): 老年期作業療法の実践の場と特性	田邊 浩文
13	小児・発達障害領域における作業療法	小児・発達障害領域における作業療法を概観する。医療、施設、地域で実施される作業療法について解説する。また、小児期の作業療法実施(処方、情報収集、評価、計画立案、実施、効果判定、報告と記録)を解説する。 事前学習(30分): 人の発達とは 事後学習(30分): 小児・発達障害作業療法とは	田邊 浩文
14	作業療法と職業倫理	医療職・専門職としての倫理を解説すると同時に、患者の重要な個人情報保護の観点、基盤となる法制度を解説する。グループワークで職業倫理を事例を通じて学ぶ。 事前学習(20分): 倫理とは 事後学習(40分): 作業療法士の倫理規定とは	田邊 浩文
15	作業療法と管理運営	作業療法部門の管理とその運営について、グループワークを交えながら学習する。 事前学習(30分): 管理とは 事後学習(30分): 管理運営とは	田邊 浩文

評価	定期試験100%
課題に対するフィードバックの方法	試験については、講評し、学生に公開する。また授業内での課題については、毎授業内で講評し、再学習を促す。
教科書	「作業療法概論」(改訂第3版 2011)日本作業療法士協会監修 協同医書出版 ISBN:978-4-7639-2118-5
参考図書など	「作業療法概論」標準シリーズ 標準作業療法学 医学書院
アクティブ・ラーニング	職業倫理、障害とICF、領域別、治療の流れの単元においてはグループワークを実施する。障害の規定であるICFではグループでのプレゼンテーションも実施する。
実務経験のある教員による授業	精神医療センター、就労支援、保護観察所において精神障害者のリハビリテーションに従事経験を生かし講義する。また厚生労働省・法務省勤務において障害者支援制度の構築の従事経験の立場からも講義する。
留意事項	グループワークを多く行うが、主体的、積極的に自己の意見を言うなど、参加する。 ICF学習時に障害体験を行うが、安全に留意すること。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
作業療法理論 Occupational Therapy Theory	必修	講義	1単位 (30時間)	3年前期	田島明子	○
ナンバリングコード	3-072	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。					
基礎作業療法学						
授業概要	作業療法に関わる理論を理解することは、臨床実践での治療の妥当性とその手引きとなる。これまでの様々な作業療法理論の歴史的変遷を探索し、作業療法実践での思考過程とその妥当性・再現性について理解する。いくつかの理論の成り立ちと根拠について、臨床実践との相互関係を検討しながら各種理論の関連性について総合的に学ぶ。作業療法の医学的根拠に基づいた新たな理論構築へ向け、基礎となる臨床研究法と統計学的分析過程についても理解する。					
到達目標	1)作業療法の歴史と作業療法理論の概要について理解する 2)主たる作業療法理論の概要について理解する 3)作業療法理論・モデルを用いた作業療法実践について理解する					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）				担当教員
1	理論とモデルの形態	理論とモデルの仕組みと捉え方について概説する。 事前学習(20分):教科書・配付資料等の該当箇所を事前に読む 事後学習(30分):配付資料等、授業全般について復習する				田島 明子
2	理論とモデルの形態	理論とモデルの仕組みと捉え方について概説する。 事前学習(20分):教科書・配付資料等の該当箇所を事前に読む 事後学習(30分):配付資料等、授業全般について復習する				田島 明子
3	欧米での作業療法理論の歴史	欧米の作業療法理論の歴史を概説する。 事前学習(20分):教科書・配付資料等の該当箇所を事前に読む 事後学習(30分):配付資料等、授業全般について復習する				田島 明子
4	欧米での作業療法理論の歴史	欧米の作業療法理論の歴史を概説する。 事前学習(20分):教科書・配付資料等の該当箇所を事前に読む 事後学習(30分):配付資料等、授業全般について復習する				田島 明子
5	概念的実践モデルと作業行動理論と感覚統合理論	作業療法実践モデルを概説する。 事前学習(20分):教科書・配付資料等の該当箇所を事前に読む 事後学習(30分):配付資料等、授業全般について復習する				田島 明子
6	概念的実践モデルと作業行動理論と感覚統合理論	作業療法実践モデルを概説する。 事前学習(20分):教科書・配付資料等の該当箇所を事前に読む 事後学習(30分):配付資料等、授業全般について復習する				田島 明子
7	作業療法の歴史と理論	日本の作業療法理論の歴史を概説する。 事前学習(20分):教科書・配付資料等の該当箇所を事前に読む 事後学習(30分):配付資料等、授業全般について復習する				田島 明子
8	作業療法の歴史と理論	日本の作業療法理論の歴史を概説する。 事前学習(20分):教科書・配付資料等の該当箇所を事前に読む 事後学習(30分):配付資料等、授業全般について復習する				田島 明子
9	ICF	ICFの概要と臨床実践の適用について概説する。 事前学習(20分):教科書・配付資料等の該当箇所を事前に読む 事後学習(30分):配付資料等、授業全般について復習する				田島 明子
10	ICF	ICFの概要と臨床実践の適用について概説する。 事前学習(20分):教科書・配付資料等の該当箇所を事前に読む 事後学習(30分):配付資料等、授業全般について復習する				田島 明子
11	ICF	ICFの概要と臨床実践の適用について概説する。 事前学習(20分):教科書・配付資料等の該当箇所を事前に読む 事後学習(30分):配付資料等、授業全般について復習する				田島 明子

12	カナダ作業遂行モデル、その他の理論とモデル	カナダ作業遂行モデル及び他の理論とモデルの概要と臨床実践の適用について概説する。 事前学習(20分):教科書・配付資料等の該当箇所を事前に読む 事後学習(30分):配付資料等,授業全般について復習する	田島 明子
13	カナダ作業遂行モデル、その他の理論とモデル	カナダ作業遂行モデル及び他の理論とモデルの概要と臨床実践の適用について概説する。 事前学習(20分):教科書・配付資料等の該当箇所を事前に読む 事後学習(30分):配付資料等,授業全般について復習する	田島 明子
14	人間作業モデル	人間作業モデルと臨床実践の適用について概説する。 事前学習(20分):教科書・配付資料等の該当箇所を事前に読む 事後学習(30分):配付資料等,授業全般について復習する	田島 明子
15	人間作業モデル	人間作業モデルと臨床実践の適用について概説する。 事前学習(20分):教科書・配付資料等の該当箇所を事前に読む 事後学習(30分):配付資料等,授業全般について復習する	田島 明子

評価	定期試験55%、レポート課題25%(5×5) 小テスト20%(4×5)
課題に対するフィードバックの方法	課題の取り組み状況について改善を要する点は翌週授業内でフィードバックする
教科書	1)Kielhofner,G.:作業療法実践の理論 原書第4版,医学書院,東京,2014. ISBN:978-4-260-01975-0
参考図書など	1)作業療法 実践のための6つの理論—理論の形成と発展,協同医書出版,東京,1995. 2)Kielhofner,G.:人間作業モデル 理論と応用 改訂第4版,協同医書出版,東京,2012. 3)日本における作業療法の現代史,生活書院,東京,2013.
アクティブ・ラーニング	授業内に小テスト、グループワーク・発表を適宜実施し、授業における主体的な学修状況、理解度・習熟度の確認をする
実務経験のある教員による授業	実務経験のある教員が授業を行っている
留意事項	将来、作業療法実践を行うために大切な授業です。授業に階層性があるので、各回を理解しながら学んでください

授業科目の名称	必修・選択の別	授業形態	単位数(時間数)	配当年次	科目担当教員	実務経験のある教員による科目
基礎作業学 Foundation of Occupations	必修	講義	1単位 (15時間)	1年前期	久保田 清子	○
ナンバリングコード	HOTE1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。					
基礎作業療法学						

授業概要	作業療法士が介入手段として用いている作業活動が、人の生活とどのような関わりと治療的意味をもつのか、また、どのように治療的利用が実践されていくのかを学習する。さらに、治療の実践に活かす作業活動の重要性を学習する。この授業を通して、作業療法の対象となる多種多様な背景をもった人々に対して、より適切かつ効果的な作業活動を提供するための基本的な視点や考え方を学ぶ。
------	--

到達目標	1) 作業の定義を説明できる 2) 作業を構成している要素と作業遂行との関連を説明できる 3) 作業の治療的効果を説明できる
------	--

回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)	担当教員
1	作業の定義	オリエンテーション 作業療法における作業の意味と位置づけ、多様な定義【ペアワークあり】 事前学習(30分):テキスト①第1章を読む 事後学習(30分):授業を振り返りながらOT概論p28-31, p131-137を読み、ポイントを確認する	久保田 清子
2	健康と作業	健康と作業との関係の検討【ペアワークあり】 事前学習(30分):テキスト①第2章を読む 事後学習(30分):授業を振り返りながらOT概論p47-50を読み、ポイントを確認する	久保田 清子
3	環境と作業	環境と作業との関係の検討【ペアワークあり】 事前学習(30分):環境の種類について考えてくる 事後学習(30分):授業を振り返りながらOT概論p50-52を読み、ポイントを確認する	久保田 清子
4	作業の力	作業の持つ力や強みの検討、動画視聴 事前学習(30分):テキスト①第3章を読む 事後学習(30分):授業を振り返りながらOT概論p50-52を読み、ポイントを確認する	久保田 清子
5	作業(活動)の利用と治療的意味	作業(活動)の治療的意味、治療的手段としての作業【ペアワークあり】 事前学習(30分):OT概論p31-37を読む 事後学習(30分):今までの学びを踏まえ、家族等に「作業」について説明する	久保田 清子
6	作業(活動)の分類	作業療法における作業の分類、作業遂行理論【ペアワークあり】 事前学習(30分):OT概論p37-41を読む 事後学習(30分):授業を振り返りながら学習ポイントを確認する	久保田 清子
7	ふり返りとまとめ	1～6回の要点の確認とまとめ【グループワークあり】 事前学習(30分):1～6回の学習ポイントを確認する 事後学習(30分):第8回の発表準備を行う	久保田 清子
8	学びの報告会	今までに学んだ内容を班ごとにまとめ、報告する【プレゼンテーション】 事前学習(90分):グループごとに報告の準備を行う 事後学習(30分):前半を総ざらいする	久保田 清子

評価	筆記試験70%、課題30%
課題に対するフィードバックの方法	課題は、提出後の授業で全体にフィードバックを行う。
教科書	①齋藤さわ子:作業療法士になろう! 青月社、2017. ISBN:978-4-7872-1053-1(第1、2、3、4、6、7、8) ②作業療法概論 改訂第3版 協同医学出版社、2010. ISBN:978-4-7639-2118-5(第1～8回)
参考図書など	鎌倉矩子:作業療法の世界 第2版 三輪書店、東京、2004. ISBN:978-4-8959-0205-2 吉川ひろみ:「作業」ってなんだろう 作業科学入門 第2版 医歯薬出版株式会社、2017. ISBN:978-4-263-21667-5 浅沼辰志編:作業学第3版、メジカルビュー社、2021. ISBN:978-4-7583-2042-9 石川齊・古川宏編:図解作業療法技術ガイド 第4版、文光堂、2021. ISBN:978-4-8306-4589-1 日本作業療法士協会HP:作業療法ってなんですか? <a href="https://www.jaot.or.jp/files/page/kankobutsu/pdf/21_pamphlet.pdf">https://www.jaot.or.jp/files/page/kankobutsu/pdf/21_pamphlet.pdf</a>
アクティブ・ラーニング	授業内容に応じて、グループワークやペアワークを行い意見交換しつつ主体的に思考し多様な考え方を理解する。
実務経験のある教員による授業	作業療法士としての実践経験も交え、実践基盤でもあり専門特性でもある「作業」の考え方を紹介する。
留意事項	グループワークやペアワークを行うため、遅刻・欠席しないように調整すること。 manabaで事前学習課題を提示するので、その内容に従って学習に取り組むこと。

授業科目の名称		必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
作業技術学 I (レクリエーション・革細工) Occupational Skills I (Recreation and Reather craf)		選択	演習	1単位 (30時間)	1年前期	三川 年正	○
ナンバリングコード	HOTE1	オフィサー		本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィサー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分		卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目		DP4) 保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5) 幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6) 卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
基礎作業療法学							
授業概要	作業活動として実践場面で活用されている革細工を安全に行うための一連の作業工程を実際に経験し、講義及び作品を通して技法の基本を学ぶ。また、集団で行うレクリエーションの企画・運営を行うことで、コミュニケーション、集団の働きや役割、他者との協働を経験し、その役割を学ぶ。						
到達目標	1) 課題レポート・課題作品、グループ発表を所定の期日に提出・実施できる。 2) 安全に配慮して、作品や物品(材料・道具・設備)の基本的な準備・使用・管理ができる。 3) 革細工の作品製作の経験を通して、作業工程(手順)と基本的な技法が説明できる。 4) 集団レクリエーションの企画立案・実施をグループワークを通じて経験する。 5) 他者との協働・役割や集団の働きについて、経験を通して理解する。						
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)				担当教員	
1	革細工(講義、リスク管理)	革細工の実施手順と必要な道具、各種技法と実施する際の安全管理、革細工の課題の選定と準備 事前学習(0分):特になし。 事後学習(30分):各種道具の名称、使用方法、作業工程を復習する。				三川 年正	
2	革細工(裁断、刻印)	革を裁断し、刻印で模様を打ち込む 事前学習(30分):関連資料を読み、各種道具の名称、作業工程等を理解する 事後学習(30分):次回から作品作りに取りかかれるように関連資料を確認する				三川 年正	
3	革細工(染色)	革に染色し、コーティングを行う。 事前学習(30分):関連資料を読み、各種道具の名称、作業工程等を復習する 事後学習(30分):次回に向け、手順や道具の確認・準備を行う				三川 年正	
4	革細工(レース編み)	染色が終わった作品にレース編みを行う。 事前学習(30分):作品を円滑に完成できるよう、工程等の復習をする 事後学習(30分):作品を円滑に完成できるよう、工程等の復習をする				三川 年正	
5	革細工(自由作品企画)	自由作品の企画を行う。 事前学習(30分):円滑に作業が行えるよう、工程の確認をする 事後学習(30分):作品を円滑に完成できるよう、工程等の復習をする				三川 年正	
6	革細工(自由作品作成)	自由作品の制作を行う。 事前学習(30分):円滑に作業が行えるよう、工程の確認をする 事後学習(30分):作品を円滑に完成できるよう、工程等の復習をする				三川 年正	
7	レクリエーション(遊び企画)	立って行う遊びを調べ、まとめる。 事前学習(30分):企画に必要な資料・情報を準備する 事後学習(30分):実施の練習をする。				三川 年正	
8	レクリエーション(遊び実施)	立って行う遊びを実施する。 事前学習(30分):実施の練習をする。 事後学習(30分):フィードバックでの意見を参考に修正する。				三川 年正	
9	レクリエーション(体操企画)	立って行う体操を調べ、まとめる。 事前学習(30分):企画に必要な資料・情報を準備する 事後学習(30分):実施の練習をする。				三川 年正	
10	レクリエーション(体操実施)	立って行う遊び体操を実施する。 事前学習(30分):実施の練習をする。 事後学習(30分):フィードバックでの意見を参考に修正する。				三川 年正	
11	レクリエーション(座位遊び企画)	座って行う遊びを調べ、まとめる。 事前学習(30分):企画に必要な資料・情報を準備する 事後学習(30分):実施の練習をする。				三川 年正	

12	レクリエーション(座位遊び実施)	座って行う遊びを実施する。 事前学習(30分):実施の練習をする。 事後学習(30分):フィードバックでの意見を参考に修正する。	三川 年正
13	レクリエーション(座位体操企画)	座って行う体操を調べ、まとめる。 事前学習(30分):企画に必要な資料・情報を準備する 事後学習(30分):実施の練習をする。	三川 年正
14	レクリエーション(座位体操実施)	座って行う体操を調べ、まとめる。 事前学習(30分):実施の練習をする。 事後学習(30分):フィードバックでの意見を参考に修正する。	三川 年正
15	総括	今までの内容を総括する。 事前学習(30分):今までの課題に目を通す。 事後学習(30分):総括から得られた学びを記録する。	三川 年正

評価	発表:30%、課題30%、作品:20%、小テスト20%
課題に対する フィードバックの方法	発表後とオフィスアワーを活用してフィードバックを行う。
教科書	「作業療法概論」(改訂第3版 2011)日本作業療法士協会監修 協同医書出版 ISBN:978-4-7639-2118-5
参考図書など	日本作業療法士協会:作業一その治療的応用 改訂第2版, 協同医書出版社2003年 ISBN:4-7639-2107-X その他、必要に応じて講義中に資料を配布する。参考書などは別途講義中に紹介する。
アクティブ・ラーニング	テーマに沿って、グループワークや討議を行う。
実務経験のある 教員による授業	作業療法士としての臨床経験と研究活動を活かして実践的な講義を行う。
留意事項	物品の取り扱いを含め、安全管理に努めること。 整理整頓に心がけ、望ましい作業環境の維持に努めること。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
作業技術学Ⅱ(陶芸・織物) Occupational SkillsⅡ(ceramic and textile)	必修	演習	1単位 (30時間)	1年後期	西野 由希子、武川 涼子、熊谷 龍太	○
ナンバリングコード	HOTE1		オフィスアワー			
本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける						
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。					
基礎作業療法学	DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					

**授業概要** 作業活動としての実践場面において頻繁に活用されている陶芸・織物の技法について一連の工程を実際に経験する。作業課題による治療的技法の基本(手順と道具の使用法・各種技法、安全管理等)を修得すると共に、対象者のスキルに則した作業活動の選択と治療的利用の仕方、基本的活動分析、指導方法を実技学習を通して学ぶ。また、異なる作業課題を経験することで、各種作業の共通性と相違性の理解を深め、より効果的な治療的利用に結びつけるための基礎知識を得る機会とする。

**到達目標**  
1) 種目ごとの知識を理解して、作業の特徴を説明できる。  
2) 実習を通して作業工程を体験し、対象者への適用、期待される効果、指導方法を理解する。  
3) 材料・道具の安全管理方法を理解して、実行できる。  
4) 基礎作業学の知識を用いて、基本的な活動分析を体験する。

回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)	担当教員
1	織物:基礎知識	講義:さをり織りの基礎知識(教科書) レポート課題発表 事前学習(30分):教科書の該当箇所を精読する。 事後学習(60分):レポート課題に取り組む。	武川涼子 西野由希子
2	織物:実習(手織り)	実習:手織り 事前学習(30分):教科書の該当箇所を精読する。レポート提出 事後学習(60分):レポート課題に継続して取り組み、次週までに提出する。	武川涼子 西野由希子
3	織物:実習(整経と成通し・経通し①)	実習:整経・成通し・経通し、手織り レポート提出 事前学習(30分):教科書の該当箇所を精読する。 事後学習(60分):作業工程について実習を振り返り、教科書を参照しながら復習する。	武川涼子 西野由希子
4	織物:実習(整経と成通し・経通し②)	実習:整経・成通し・経通し、手織り 事前学習(30分):教科書の該当箇所を精読する。 事後学習(60分):作業工程について実習を振り返り、教科書を参照しながら復習する。	武川涼子 西野由希子
5	織物:実習(手織り)	実習:手織り 事前学習(30分):教科書の該当箇所を精読する。 事後学習(60分):作業工程について実習を振り返り、教科書を参照しながら復習する。	武川涼子 西野由希子
6	織物:作品発表、講評、まとめ	作品の発表・講評、レポート返却 小テスト(その場で採点返却) 事前学習(60分):これまで実習で学んだことを振り返り、復習する。 事後学習(60分):講評、レポートの添削内容、テスト結果を反芻し、復習する。	武川涼子 西野由希子
7	陶芸:基礎知識、実習(たたら作り)	講義:陶芸作品のできるまで 実習:たたら作り:成型 箱を組み立てる、簡単な装飾(象嵌(ぞうがん)・印花 事前学習(30分):教科書の該当箇所を精読する。 事後学習(60分):作業工程について実習を振り返り、教科書を参照しながら復習する。	熊谷龍太 西野由希子
8	陶芸:実習(たたら作り)	実習:たたら作り:成型 箱を組み立てる、簡単な装飾(象嵌(ぞうがん)・印花 事前学習(30分):教科書の該当箇所を精読する。 事後学習(60分):作業工程について実習を振り返り、教科書を参照しながら復習する。	熊谷龍太 西野由希子
9	陶芸:実習(たま作り)	たま作り:手ろくろによる手びねり、成型~高台削り、釉薬がけ 湯呑み、茶碗、小鉢程度の作品を1点 事前学習(30分):教科書の該当箇所を精読する。 事後学習(60分):作業工程について実習を振り返り、教科書を参照しながら復習する。	熊谷龍太 西野由希子
10	陶芸:実習(たま作り)	たま作り:手ろくろによる手びねり、成型~高台削り、釉薬がけ 湯呑み、茶碗、小鉢程度の作品を1点 事前学習(30分):教科書の該当箇所を精読する。 事後学習(60分):作業工程について実習を振り返り、教科書を参照しながら復習する。	熊谷龍太 西野由希子
11	陶芸:実習(電動ろくろ、たたら作り)	実習:電動ろくろ成型(体験のみ作品制作はなし)。 たたら作り:成型、型おこし、釉薬がけ 事前学習(30分):教科書の該当箇所を精読する。 事後学習(60分):作業工程について実習を振り返り、教科書を参照しながら復習する。	熊谷龍太 西野由希子

12	陶芸:実習(電動ろくろ、たたら作り)	実習:電動ろくろ成型(体験のみ作品制作はなし)。 たたら作り:成型、型おこし、釉薬がけ 事前学習(30分):教科書の該当箇所を精読する。 事後学習(60分):作業工程について実習を振り返り、教科書を参照しながら復習する。	熊谷龍太 西野由希子
13	陶芸:実習(電動ろくろとランプシェード作り)	実習:電動ろくろ成型(体験のみ作品制作はなし)。 ランプシェードとクリスマスオーナメント作り:成型～釉薬がけ 事前学習(30分):教科書の該当箇所を精読する。 事後学習(60分):グループワーク課題について調べておく。	熊谷龍太 西野由希子
14	陶芸:実習(電動ろくろとランプシェード作り)	実習:電動ろくろ成型(体験のみ作品制作はなし)。 ランプシェードとクリスマスオーナメント作り:成型～釉薬がけ 事前学習(30分):教科書の該当箇所を精読する。 事後学習(60分):グループワーク課題について調べておく。	熊谷龍太 西野由希子
15	作業分析と治療的応用	これまで経験した作業活動の作業分析と治療適応の基礎を講義する 事前学習(30分):作業分析について教科書該当箇所を精読する。 事後学習(60分):グループ課題をまとめ、提出する。	西野 由希子

評価	作品評価50%、レポート40%、小テスト10%
課題に対するフィードバックの方法	作品の発表会で指導教員から教育的フィードバックを受ける。個人レポートに対して、指導教員から個別に指導を受ける。
教科書	城みさを・城英二:さをり織りー好きに好きに織る, ぶどう社, 2011年 ISBN:978-4892402111 つくる・あそぶを治療にいかす作業活動実習マニュアル第2版;古川宏監修 医歯薬出版株式会社, 2018年 ISBN:978-4263265802
参考図書など	日本作業療法士協会編集:作業ーその治療的応用 改訂第2版, 協同医書出版社, 2003年 ISBN:9784763921079 'ひとと作業・作業活動 作業の知をとき技を育む:山根寛 三輪書店, 2015年 ISBN:9784895905046 作業療法ルネッサンス5 ひとと生活障害 創る・楽しむことの障害とアプローチ:山根寛 三輪書店, 2007年 ISBN:9784895902786 作業療法マニュアル16 片手でできる楽しみ;日本作業療法士協会編集 ISBNなし 作業療法マニュアル21 作業活動アラカルト;日本作業療法士協会編集 ISBNなし
アクティブ・ラーニング	学生は、指導教員の模範的技法を見学し、技法を模倣、習得する。さらにその工程を把握する。
実務経験のある教員による授業	作業療法士としての臨床経験を活かして、作業技術の基本的な知識と支援技術について実践的な授業を行う。
留意事項	代表的な作業技術を実習形式で学び、対象者の疑似体験をすることにもなる。作業環境を整える視点での準備・後片付けを含む管理面、グループワークへの積極的な参加を期待する。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
作業技術学Ⅲ(手工芸) Occupational Skills Ⅲ (Handicraft)	選択	演習	1単位 (30時間)	2年前期	西野 由希子	○
ナンバリングコード	HOTE1		オフィスアワー 本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー 一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。					
基礎作業療法学						
授業概要	作業活動としての実践場面において頻繁に活用されている各種手工芸の技法について一連の工程を実際に経験する。作業課題による治療的技法の基本(手順と道具の使用方法・各種技法、安全管理等)を修得すると共に、対象者のスキルに則した作業活動の選択と治療的利用の仕方、基本的活動分析、指導方法を実技学習を通して学ぶ。また、異なる作業課題を経験することで、各種作業の共通性と相違性の理解を深め、より効果的な治療的利用に結びつけるための基礎知識を得る機会とする。科目担当者の臨床経験をもとに演習を行う。					
到達目標	1)各種作業活動の作業工程(手順)と基本的な技法が説明できる。 2)安全に配慮して、作品や物品(材料・道具・設備)の基本的な準備・使用・管理ができる。 3)作品製作の経験を通して、作業工程(手順)と基本的な技法が修得できる。 4)初歩的な作業活動の分析(作業活動が持つ特性や必要となる要素技能、段階付けなど)が説明できる。 5)初歩的な作業活動の治療的応用が説明できる。 6)課題レポートと課題作品を、所定の期日に提出できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)				担当教員
1	オリエンテーション 実習:マクラメ	オリエンテーション、【実習】道具の名称と使い方・作業工程の学習、作品製作 事前学習(30分):教科書の該当箇所を精読する。 事後学習(60分):使用する道具や材料、作業工程を振り返る。				西野 由希子
2	マクラメ	【実習】作品製作・準備・片づけ 治療的応用の概説 事前学習(30分):使用する道具や材料、作業工程に関する配布資料を読む。 事後学習(120分):作品を完成させる。レポート課題に取り組む。				西野 由希子
3	刺し子	【実習】道具の名称と使い方・作業工程の学習、作品製作 事前学習(30分):教科書の該当箇所を精読する。 事後学習(60分):使用する道具や材料、作業工程を振り返る。				西野 由希子
4	刺し子	【実習】作品製作・準備・片づけ 治療的応用の概説 事前学習(30分):使用する道具や材料、作業工程に関する配布資料を読む。 事後学習(120分):作品を完成させる。レポート課題に取り組む。				西野 由希子
5	組み紐またはリリアン	【実習】道具の名称と使い方・作業工程の学習、作品製作 事前学習(30分):教科書の該当箇所を精読する。 事後学習(60分):使用する道具や材料、作業工程を振り返る。				西野 由希子
6	組み紐またはリリアン	【実習】作品製作・準備・片づけ 治療的応用の概説 事前学習(30分):使用する道具や材料、作業工程に関する配布資料を読む。 事後学習(120分):作品を完成させる。レポート課題に取り組む。				西野 由希子
7	ストリングアート	【実習】道具の名称と使い方・作業工程の学習、作品製作 事前学習(30分):教科書の該当箇所を精読する。 事後学習(60分):使用する道具や材料、作業工程を振り返る。				西野 由希子
8	ストリングアート	【実習】道具の名称と使い方・作業工程の学習、作品製作 事前学習(30分):教科書の該当箇所を精読する。 事後学習(60分):使用する道具や材料、作業工程を振り返る。				西野 由希子
9	ストリングアート	【実習】作品製作・準備・片づけ 治療的応用の概説 事前学習(30分):使用する道具や材料、作業工程に関する配布資料を読む。 事後学習(120分):作品を完成させる。レポート課題に取り組む。				西野 由希子
10	エコクラフト	【実習】道具の名称と使い方・作業工程の学習、作品製作 事前学習(30分):教科書の該当箇所を精読する。 事後学習(60分):使用する道具や材料、作業工程を振り返る。				西野 由希子
11	エコクラフト	【実習】道具の名称と使い方・作業工程の学習、作品製作 事前学習(30分):教科書の該当箇所を精読する。 事後学習(60分):使用する道具や材料、作業工程を振り返る。				西野 由希子

12	エコクラフト	【実習】作品製作・準備・片づけ 治療的応用の概説 事前学習(30分):使用する道具や材料、作業工程に関する配布資料を読む。 事後学習(120分):作品を完成させる。レポート課題に取り組む。	西野 由希子
13	タイルモザイク	【実習】道具の名称と使い方・作業工程の学習、作品製作 事前学習(30分):教科書の該当箇所を精読する。 事後学習(60分):使用する道具や材料、作業工程を振り返る。	西野 由希子
14	タイルモザイク	【実習】道具の名称と使い方・作業工程の学習、作品製作 事前学習(30分):教科書の該当箇所を精読する。 事後学習(60分):使用する道具や材料、作業工程を振り返る。	西野 由希子
15	タイルモザイク	【実習】作品製作・準備・片づけ 治療的応用の概説 事前学習(30分):使用する道具や材料、作業工程に関する配布資料を読む。 事後学習(120分):作品を完成させる。レポート課題に取り組む。	西野 由希子

評価	レポート・作品課題提出100%
課題に対する フィードバックの方法	レポート課題は学生個々に講評を記載し、返却する。
教科書	つくる・あそぶを治療にいかす作業活動実習マニュアル第2版;古川宏監修 医歯薬出版株式会社 2018 ISBN:978-4263265802
参考図書など	ひとと作業・作業活動 作業の知をとき技を育む;山根寛 三輪書店 2015 ISBN:9784895905046 作業・その治療的応用 第2版;日本作業療法士協会編 協同医書出版社 2003 ISBN:9784763921079 作業療法ルネッサンス5 ひとと生活障害 創る・楽しむことの障害とアプローチ;山根寛 三輪書店 2007 ISBN:978-4-89590-278-6 作業療法マニュアル16 片手でできる楽しみ;日本作業療法士協会編集 作業療法マニュアル21 作業活動アラカルト;日本作業療法士協会編集 必要に応じて講義中に資料を配布する。参考書などは別途講義中に紹介する。
アクティブ・ラーニング	この科目では作業療法で活用される手工芸を実習して経験し、治療的応用についてレポートする。
実務経験のある 教員による授業	作業療法士としての臨床経験を活かして、作業技術の基本的な知識と治療的応用について実践的な授業を行う。
留意事項	道具や材料の取り扱いに注意し、作業環境の整備を意識して取り組むこと。準備・片づけを積極的に行うこと。 創造する過程そのものを楽しみつつ、どう治療に活用できるのかを意識しながら取り組んでほしい。 受講者少人数であった場合、学生と相談しながら技術内容を進めていく。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
作業分析学 Occupational analysis	必修	演習	1単位 (30時間)	3年前期	三川 年正、須鎌 康介	○
ナンバリングコード	HOTE1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1) 看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2) 科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3) 相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。					
基礎作業療法学						
授業概要	作業の仕方は、同じ作業活動を行う場合でも動作や行動が変化し、その変化が身体・運動学的に与える影響・効果と心理・精神的に与える影響・効果を分析し理解することで、どのような作業活動をどのように行っていかを設定することで、目的とする効果を確実に達成させる技術の基本を学習し理解し応用できるようになる。					
到達目標	作業の仕方は、同じ作業活動を行う場合でも動作や行動が変化し、その変化が身体・運動学的に与える影響・効果と心理・精神的に与える影響・効果を分析し理解する。どのような作業活動をどのように行っていかを設定することで、目的とする効果を確実に達成させる技術の基本を学習し理解し応用できるようになる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）				担当教員
1	精神科作業療法領域における作業分析の意義	精神科作業療法で用いられる作業について講義を行う。 事前学習(30分): 関連資料の検索 事後学習(30分): 配布した資料の熟読				三川 年正
2	作業を用いた評価(講義)	作業を用いた評価について講義を行う。 事前学習(30分): 初回講義の内容の復習 事後学習(30分): 次回の実習に向けて、今回の資料の復習				三川 年正
3	作業を用いた評価(実習)	前回の講義に沿った内容で、実際の場面を想定して評価を行う。 事前学習(30分): 前回の資料の確認 事後学習(30分): 提示された課題を作成する				三川 年正
4	作業を用いた治療(講義)	作業を用いた治療について講義を行う。 事前学習(30分): 初回講義の内容の復習 事後学習(30分): 次回の実習に向けて、今回の資料の復習				三川 年正
5	作業を用いた治療(実習)	前回の講義に沿った内容で、実際の場面を想定して治療を行う。 事前学習(30分): 前回の資料の確認 事後学習(30分): 提示された課題を作成する				三川 年正
6	精神科作業療法領域における作業療法と作業分析	作業療法における治療的な作業の意義について講義を行う。 事前学習(30分): 今までの総復習をする 事後学習(30分): 今回の資料の復習をする				三川 年正
7	国家試験対策(問題解説)	国家試験の問題の解説を通して、作業分析を学ぶ。 事前学習(30分): 国家試験の問題を検索する 事後学習(30分): 定期試験に向けて総復習する。				三川 年正
8	国家試験対策(問題解説)	国家試験の問題の解説を通して、作業分析を学ぶ。 事前学習(30分): 国家試験の問題を検索する 事後学習(30分): 定期試験に向けて総復習する。				三川 年正
9	身体障害・発達障害領域における作業分析の意義	身体障害・発達障害領域における作業分析の意義や目的について講義を行う。 事前学習(30分): 事前に提示した資料等を通読する。 事後学習(60分): 配布資料など、授業全体について復習する。				須鎌 康介
10	身体障害・発達障害領域における粗大運動をもとにした作業の分析	粗大運動をもとにした作業についてグループごとに分析する。 事前学習(30分): 事前に提示した資料等を通読する。 事後学習(60分): 分析内容を各自で検討し次回のグループごとの検討に備える。				須鎌 康介
11	身体障害・発達障害領域における粗大運動をもとにした作業の分析と検討	粗大運動をもとにした作業についてグループごとに分析したものを検討し発表資料にまとめる。 事前学習(30分): 分析内容を各自で検討し、グループごとの検討に備える。 事後学習(60分): 検討内容や発表資料を確認し次回の発表に備える。				須鎌 康介
12	身体障害・発達障害領域における粗大運動をもとにした作業の分析・検討結果の発表	粗大運動をもとにした作業についてグループごとに分析・検討したものを発表する。 事前学習(30分): 検討内容や発表資料を確認し発表に備える。 事後学習(60分): 他グループの発表内容を含め、粗大運動をもとにした作業における分析について復習する。				須鎌 康介

13	身体障害・発達障害領域における微細運動をもとにした作業の分析	微細運動をもとにした作業についてグループごとに分析する。 事前学習(30分): 事前に提示した資料等を通読する。 事後学習(60分): 分析内容を各自で検討し次回のグループごとの検討に備える。	須鎌 康介
14	身体障害・発達障害領域における微細運動をもとにした作業の分析と検討	微細運動をもとにした作業についてグループごとに分析したものを検討し発表資料にまとめる。 事前学習(30分): 分析内容を各自で検討し、グループごとの検討に備える。 事後学習(60分): 検討内容や発表資料を確認し次回の発表に備える。	須鎌 康介
15	身体障害・発達障害領域における微細運動をもとにした作業の分析・検討結果の発表	微細運動をもとにした作業についてグループごとに分析・検討したものを発表する。 事前学習(30分): 検討内容や発表資料を確認し発表に備える。 事後学習(60分): 他グループの発表内容を含め、微細運動をもとにした作業における分析について復習する。	須鎌 康介
評価	身体障害・発達障害領域 : 演習への取り組み(相互評価・客観的評価)25%、発表25% 精神障害領域 : 課題40%、講義への参加態度(発表、提出)10%		
課題に対するフィードバックの方法	身体障害・発達障害領域 : グループワーク中や発表内容について、随時フィードバックを行う。必要に応じて中間評価をもとにしたフィードバックを実施する。 精神障害領域 : 発表後とオフィスアワーを活用してフィードバックを行う。		
教科書	「作業療法概論」(改訂第3版 2011)日本作業療法士協会監修 協同医書出版 ISBN:978-4-7639-2118-5 イラストでわかる人間発達学/上杉雅之 監修/医歯薬出版株式会社/ISBN:978-4-263-21945-4 イラストでわかる発達障害の作業療法/上杉雅之 監修 辛島千恵子編集/第1版/医歯薬出版/2016/ISBN:978-4-263-21717-7		
参考図書など	図解作業療法技術ガイド第4版、石川齋・古川宏編、文光堂 ISBN:978-4-8306-4589-1 必要に応じて講義中に資料を配布する。参考書などは別途講義中に紹介する。		
アクティブ・ラーニング	【グループワーク・ディスカッション】: 具体的活動分析をグループで行い協議する。【フィールドワーク】: さまざまな作業や活動について実際の体験や観察を行い分析する。		
実務経験のある教員による授業	作業療法士としての臨床経験と研究活動を活かして実践的な講義を行う。		
留意事項	講義後にグループ演習を行うため、講義内容の予習復習は必須である。演習は熱心かつ積極的に参加する態度が望ましい。		

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
統計学 Statistics	必修	講義	1単位 (30時間)	1年後期	後藤 晶	—
ナンバリングコード	HOTB1	オフィスアワー	授業の前後及びメールで受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
基礎作業療法学						

授業概要	本講義では仮説をデータに基づいて統計的に検証したり、データ解析の結果から、新たな事実を発見したりするときに役立つ統計的手法を身に付ける。講義はデータの整理の仕方、平均、分散等を求める記述統計学より始め、確率、母集団、標本抽出、確率分布を学び、最終的に推定、検定といった推測統計学を解説、演習する。本講義は、理学療法学研究法、作業療法学研究法、卒業研究の基礎となる科目である。					
到達目標	1)各統計手法について、その目的と意義を説明することができる。 2)各統計手法について、各自で分析を実行できる。 3)分析結果について、適切に他者に説明できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）				担当教員
1	イントロダクション	この授業の概要について説明すると同時に、基本的な使用方法を紹介する 事前学習(90分):シラバスを確認し、疑問点等を整理する 事後学習(90分):配布資料を振り返り、内容を復習・理解する				後藤 晶
2	操作方法と記述統計量の算出①	基本的な操作方法を学ぶと同時に、記述統計量の意味を学ぶ 事前学習(90分):シラバスを確認し、疑問点等を整理する 事後学習(90分):配布資料を振り返り、内容を復習・理解する				後藤 晶
3	操作方法と記述統計量の算出②	分散および標準偏差の意義を学ぶとともに、実際の計算手順を学ぶ 事前学習(90分):事前配布資料を確認し、疑問点等を整理する 事後学習(90分):配布資料を振り返り、内容を復習・理解する				後藤 晶
4	操作方法と記述統計量の算出③	引き続き、分散および標準偏差の意義を学ぶとともに、実際の計算手順を学ぶ 事前学習(90分):事前配布資料を確認し、疑問点等を整理する 事後学習(90分):配布資料を振り返り、内容を復習・理解する				後藤 晶
5	相関関係と相関係数	共分散および相関係数の意義を学ぶとともに、実際の計算手順を学ぶ 事前学習(90分):事前配布資料を確認し、疑問点等を整理する 事後学習(90分):配布資料を振り返り、内容を復習・理解する				後藤 晶
6	データの可視化・実証分析の手続き	データを可視化および仮説立案から分析結果をまとめるまでの一連の手続きについて概観する 事前学習(90分):事前配布資料を確認し、疑問点等を整理する 事後学習(90分):配布資料を振り返り、内容を復習・理解する				後藤 晶
7	確率分布とシミュレーション	【グループワーク】シミュレーションを通じて、確率分布の考え方についてグループで学ぶ 事前学習(90分):事前配布資料を確認し、疑問点等を整理する 事後学習(90分):配布資料を振り返り、内容を復習・理解する				後藤 晶
8	カテゴリデータの分析①	カテゴリデータに関する分析について概説し、実際の分析手法について学ぶ 事前学習(90分):事前配布資料を確認し、疑問点等を整理する 事後学習(90分):配布資料を振り返り、内容を復習・理解する				後藤 晶
9	カテゴリデータの分析②	【グループワーク】カテゴリデータの分析をグループで行う 事前学習(90分):事前配布資料を確認し、疑問点等を整理する 事後学習(90分):配布資料を振り返り、内容を復習・理解する				後藤 晶
10	回帰分析・差の検定①	回帰分析・差の検定について概説し、実際の分析手法について学ぶ 事前学習(90分):事前配布資料を確認し、疑問点等を整理する 事後学習(90分):配布資料を振り返り、内容を復習・理解する				後藤 晶
11	回帰分析・差の検定②	【グループワーク】回帰分析・差の検定をグループで行う 事前学習(90分):事前配布資料を確認し、疑問点等を整理する 事後学習(90分):配布資料を振り返り、内容を復習・理解する				後藤 晶
12	1要因分散分析・2要因分散分析①	1要因分散分析・2要因分散分析について概説し、実際の分析手法について学ぶ 事前学習(90分):事前配布資料を確認し、疑問点等を整理する 事後学習(90分):配布資料を振り返り、内容を復習・理解する				後藤 晶

13	1要因分散分析・2要因分散分析 ②	【グループワーク】1要因分散分析・2要因分散分析をグループで行う 事前学習(90分):事前配布資料を確認し、疑問点等を整理する 事後学習(90分):配布資料を振り返り、内容を復習・理解する	後藤 晶
14	問題演習	講義の総まとめとして、最終問題演習を行う 事前学習(90分):事前配布資料を確認し、疑問点等を整理する 事後学習(90分):自身の回答を振り返る	後藤 晶
15	振り返り	問題演習の答え合わせを行った後に、授業全体を振り返る 事前学習(90分):事前配布資料を確認し、疑問点等を整理する 事後学習(90分):資料をもとに、講義全体を振り返る	後藤 晶

評価	平常点:20%、講義内の課題:50%、問題演習:30%
課題に対する フィードバックの方法	フィードバックとして、課題に対して全体的なコメントを返します。
教科書	必要な資料をオンラインで配布、紹介します。
参考図書など	適宜、授業内で紹介します。
アクティブ・ラーニング	グループワークを一部で行う予定である。
実務経験のある 教員による授業	該当なし。
留意事項	授業内容は履修者の状況に応じて、一部変更することがある。 Google Colaboratoryを使って、実践的に分析を進めながら統計学を学んでいきます。各自が講義内で紹介する参考図書等に目を通しながら、積極的に学ばれることを期待します。なお、講義の際にはGoogleアカウントを各自で用意してください。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
作業療法研究法 Occupational therapy research	必修	講義	1単位 (30時間)	3年前期	田邊 浩文	○
ナンバリングコード	HOTH1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。					
基礎作業療法学						
授業概要	研究の定義、研究の倫理・管理、研究の種類、基本的な流れとデータの処理・解釈の手法等、作業療法領域での研究法の基本を学ぶ。この科目を通して、科学的根拠や臨床的な裏づけの重要性を理解しつつ、実践現場での問題解決の手法として研究法を用いることができるよう、基本的な知識・技術を修得する。また、研究発表の種類や具体的な方法についても学び、研究発表会に向けて必要な知識・技術・コミュニケーション能力の向上を図る。					
到達目標	1)作業療法における研究の意義について理解し、説明することができる。 2)研究デザインを作成することができる。 3)さまざまな研究手法の概要を説明することができる。 4)研究の開始から論文作成に至る一連の過程を理解することができる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）			担当教員	
1	オリエンテーション	本講義の進捗について説明。研究とは誰が、何のためにするのか、研究の時代的背景について学習する。また研究倫理について講義する。 事前学習(30分):作業療法士が執筆した論文を1本以上通読しておくこと。 事後学習(30分):配布した資料を読んで復習しまとめを次回講義前に提出する。			田邊 浩文	
2	研究疑問と研究倫理	研究疑問とは何か、疑問の解決について、研究デザインの種類について、説明変数と基準変数について概念図を用いて講義する。 事前学習(30分):事前に配布された資料の「研究疑問と研究倫理」の項を通読しておく。 事後学習(30分):研究疑問の一つ掲げて次回講義前に紙媒体で提出する。			田邊 浩文	
3	研究に関わる基礎知識	量的研究及び質的研究に関する文献をグループ毎に抄読し、論文の構成、量的研究・質的研究についてまとめる。 事前学習(30分):配布資料の「研究の種類」の項を通読しておく。 事後学習(30分):原著論文の構成についてまとめ次回講義前に紙媒体で提出する。			田邊 浩文	
4	文献レビューと文献研究	研究の一連のプロセスと調査的研究、文献レビューと文献研究について講義する。 事前学習(30分):配布資料の「研究プロセス」項を通読しておく。 事後学習(30分):調査的研究論文を1本検索抽出し次回講義前に紙媒体で提出する。			田邊 浩文	
5	観察的研究	グループ毎に観察的研究に関する文献を抄読して、コホート研究、ケースコントロール研究、ケースシリーズ研究の方法論の利点と欠点について討議する。 事前学習(30分):配布資料の「観察的研究」項を通読しておく。 事後学習(30分):観察的研究論文を1本検索抽出し次回講義前に紙媒体で提出する。			田邊 浩文	
6	調査研究	作業療法における調査研究の報告紹介をする。郵送・電話による調査方法、データの処理、分析法など具体的な観察的研究手法について講義する。 事前学習(30分):配布資料の「調査研究」項を通読しておく。 事後学習(30分):統計手法のフローチャートを活用して課題を紙媒体で提出する。			田邊 浩文	
7	実験研究その1	実験的研究手法のうち、ランダム化比較試験および準ランダム化比較試験について講義する。 事前学習(30分):RCT研究論文を1本検索抽出して印刷し、講義に持参する。 事後学習(30分):RCTの条件に関する課題を行い紙媒体で提出する。			田邊 浩文	
8	実験研究その2	実験的研究手法のうち、クロスオーバー比較試験、前後比較試験について講義する。 事前学習(30分):クロスオーバーとABAB研究デザインの論文を印刷し、講義に持参する。 事後学習(30分):クロスオーバーと前後比較試験の具体研究例を書き、提出する。			田邊 浩文	
9	横断的研究と縦断的研究	グループワークにより文献抄読して横断的研究と縦断的研究の長所および短所について協議しまとめる。また、その特性に応じた具体的研究報告を検索する。 事前学習(30分):横断的または縦断的研究論文を1本抽出印刷して持参する。 事後学習(30分):レポート課題「横断的研究と縦断的研究の長所および短所」を行う。			田邊 浩文	
10	単一事例研究	作業療法における単一事例研究(シングルケースデザイン)について紹介する。 事前学習(30分):過去5年以内に発行された事例研究論文を1本抽出印刷して持参する。 事後学習(30分):レポート課題「シングルケース研究の重要性200字以内」を行い提出する。			田邊 浩文	
11	伝記研究と現象学的研究	作業療法における現象学的研究、伝記研究の論文をレビューしそれぞれの特性等についてグループで検討する。 事前学習(30分):現象学的研究、伝記研究論文を1本抽出印刷して持参する。 事後学習(30分):現象学的研究、伝記研究の特性を200字以内にまとめ、提出する。			田邊 浩文	
12	グラウンデッド・セオリーとエスノグラフィー	グラウンデッド・セオリーとエスノグラフィーの概要を説明し、文献について紹介する。 事前学習(30分):配布資料の「グラウンデッド・セオリーとエスノグラフィー」項を通読しておく。 事後学習(30分):配布する本講義に関連する4項目の課題を行い、提出する。			田邊 浩文	

13	研究計画書の作成	グループワークにより研究計画書を作成し、また体験的に簡単な概念図を作成する。 事前学習(30分): 研究疑問を1つ考え概念図を作成してくる。 事後学習(60分): 概念図を完成し研究計画書を作成する。	田邊 浩文
14	研究論文の発表と手続きについて	研究発表の種類や具体的な方法について、その研究実施に必要な知識、さらに論文執筆に必要な事項について講義する。 事前学習(30分): 配布資料の「研究発表の種類」の項を通読しておく。 事後学習(30分): 配布する本講義に関連する4項目の課題を行い、レポート提出する。	田邊 浩文
15	研究計画書発表および総括	学生が作成した計画書をグループ発表しディスカッションする。総括とまとめ 事前学習(120分): 簡単な研究計画書を手引きを見ながら作成する。 事後学習(30分): 他学生が発表した研究計画のデザインについてレポート提出する。	田邊 浩文

評価	授業内レポート40%定期試験時に実施する筆記試験60%により評価する。
課題に対する フィードバックの方法	提出された課題・レポートに評価とコメントを記入し返却する。
教科書	作業療法学全書改訂第3版第4巻作業治療学1身体障害/日本作業療法士協会 監修 菅原洋子 編集/協同医書出版/3版/ ISBN: 978-4-7639-2121
参考図書など	「作業療法士のための研究法入門」鎌倉他編三輪書店
アクティブ・ラーニング	各講義の課題に対してプレゼンテーションを求める。
実務経験のある 教員による授業	基礎研究から臨床研究まで幅広い研究経験を活かして、作業療法領域での研究法の基本的な知識と手法についての考え方について講義する。
留意事項	作業療法を科学的に捉えるための科目であり、研究法演習の基礎となる大切な科目です。講義前に作業療法に関する様々な論文を複数、通読しておくこと。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
作業療法研究法演習 Occupational therapy research practice	必修	演習	1単位 (30時間)	3年後期	田邊 浩文	○
ナンバリングコード	HOTH2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。					
基礎作業療法学	DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
授業概要	作業療法研究法での学びを基に、実際の研究がどのように計画され実行されていくか、その基本的な流れについて演習を通して学習する。具体的には、文献検索、研究テーマの整理、論文の読み方、研究疑問の設定、研究計画書の作成、介入研究に関連する倫理的配慮の重要性等を演習により学習する。一連の演習を通して、研究に必要な考え方や実施方法についての理解を深め、作業療法研究を円滑に進めるために必要な知識や技術を身につける。					
到達目標	1)作業療法研究に関する研究テーマを自ら考えて適切に設定できる。 2)文献検索エンジンを活用して作業療法研究に必要な文献レビューができる。 3)作業療法研究の具体例を基にした研究計画の立案ができる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）			担当教員	
1	オリエンテーション	教育の手順、単元の構成と目的、講義の進捗について説明をする。事前配布資料に基づいて単元ごとの事前学習について説明する。 事前学習(30分): 機関紙作業療法から論文を1本選んで通読しておくこと。 事後学習(30分): 研究の目的について200字以内にまとめ、次回講義前に提出する。			田邊 浩文	
2	文献検索の方法と文献レビュー	文献検索の意義と検索方法、図書と雑誌の違いについて、研究段階区分における文献の意義について講義する。また文献のレビューについて実際に体験しながら講義する。 事前学習(30分): 事前に配布された資料の「研究区分」項を通読しておく。 事後学習(30分): 機関紙作業療法から1本の論文を選びレビューし、提出する。			田邊 浩文	
3	研究テーマの選定と整理①	研究疑問、仮説の立案、調査対象と範囲の絞りこみについて、グループワークにより論文から抽出してまとめる。 事前学習(30分): 機関紙作業療法の中から各自1本論文を印刷して持参する。 事後学習(30分): グループ発表した内容を800字以内にまとめて紙媒体で提出する。			田邊 浩文	
4	研究テーマの選定と整理②	研究テーマの選定要領および整理方法について講義する。 事前学習(30分): 配布資料の「研究テーマの選定」項を通読しておく。 事後学習(30分): 授業中に配布された研究テーマ一覧を批評し、まとめ、提出する。			田邊 浩文	
5	文献検討①	作業療法関連文献をグループ毎に抄読し、概念枠組み、表現の適正と妥当性、わかりやすさなど批判的に抄読し適切な論文の書き方についてディスカッションし発表する。 事前学習(30分): 機関紙作業療法の中から各自1本の未読論文を印刷して持参する。 事後学習(30分): グループ発表した内容を800字以内にまとめて紙媒体で提出する。			田邊 浩文	
6	文献検討②	前単元につづいて作業療法に関する文献をグループ毎に抄読し、概念枠組み、表現の適正と妥当性、わかりやすさなど批判的に抄読し適切な論文の書き方についてディスカッションしてまとめ、発表する。 事前学習(30分): グループが取り組む課題作業を継続して行う。 事後学習(30分): グループ発表した内容を800字以内にまとめて紙媒体で提出する。			田邊 浩文	
7	研究テーマの選定と整理	研究疑問から仮説を立案しテーマを選定、整理する方法論について講義する。 事前学習(30分): 配布資料の「仮説」項を通読しておく。 事後学習(30分): 本講義内容をまとめ整理して提出する。			田邊 浩文	
8	文献検討③	グループ毎に研究テーマに関連する先行研究、関連研究の文献を抄読し、簡潔にまとめ発表する。 事前学習(30分): 事前配布する模擬研究テーマ一覧からテーマを1つ選んでおく。 事後学習(30分): 発表した内容を800字以内にまとめて紙媒体で提出する。			田邊 浩文	
9	文献検討④	グループ毎に研究テーマに関連する先行研究、関連研究の文献を抄読し、簡潔にまとめ発表する。 事前学習(30分): 事前配布する模擬研究テーマ一覧からテーマを1つ選んでおく。 事後学習(30分): 発表した内容を800字以内にまとめて紙媒体で提出する。			田邊 浩文	
10	研究計画書の作成	教員の指導の下、各自、研究計画書を作成する。 事前学習(30分): 事前に配布する「研究計画書の作成方法」を通読しておく。 事後学習(30分): 研究計画書を作成し概成する。			田邊 浩文	
11	研究計画書の作成	教員の指導の下、各自、研究計画書を作成する。 事前学習(60分): 研究計画書の作成作業を進めておく。 事後学習(60分): 研究計画書を作成し提出する。			田邊 浩文	
12	研究計画書発表①	各自が作成した研究計画書について発表する。 事前学習(30分): 作成した研究計画を発表できるように準備する。 事後学習(30分): 発表時のコメントや指摘事項についてまとめ、紙媒体で提出する。			田邊 浩文	

13	研究計画書発表②	各自が作成した研究計画書について発表する。 事前学習(30分):作成した研究計画を発表できるように準備する。 事後学習(30分):発表時のコメントや指摘事項についてまとめ、紙媒体で提出する。	田邊 浩文
14	研究計画書発表③	各自が作成した研究計画書について発表する。 事前学習(30分):作成した研究計画を発表できるように準備する。 事後学習(30分):発表時のコメントや指摘事項についてまとめ、紙媒体で提出する。	田邊 浩文
15	総括とまとめ	本講義で学んだ内容の総評とまとめ、卒論研究に向けた取り組みについて講義する。 事前学習(120分):卒業研究の大綱についてまとめておく。 事後学習(30分):卒業研究の大綱指導内容を修正し提出する。	田邊 浩文

評価	授業内レポート50%、発表内容50%により評価する。
課題に対する フィードバックの方法	提出された課題・レポートおよび発表のまとめに評価とコメントを記入し返却する。
教科書	作業療法学全書改訂第3版第4巻作業治療学1身体障害/日本作業療法士協会 監修 菅原洋子 編集/協同医書出版/3版/ ISBN:978-4-7639-2121
参考図書など	「作業療法士のための研究法入門」鎌倉他編三輪書店
アクティブ・ラーニング	各講義の課題に対してプレゼンテーションを求める
実務経験のある 教員による授業	基礎研究から臨床研究まで幅広い研究経験を活かして、作業療法領域での研究法の実践的な知識と手法についての考え方について講義する。
留意事項	作業療法を科学的に捉えるための科目であり、作業療法研究の基礎となる大切な科目です。講義前に作業療法に関する様々な論文を複数、通読しておくこと。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
作業療法管理・運営 I Occupational therapy management and operation I	必修	講義	1単位 (15時間)	3年後期	岡本 絵里加	○
ナンバリングコード	HOTE1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
作業療法管理学						

授業概要	作業療法技術の向上だけでなく、より質の高い作業療法を提供するため、保健、医療、福祉に関する制度の理解を深め活用できるようにする。この科目では、作業療法に関する、関連法規(医療保険、介護保険制度)など作業療法部門を管理運営するための基本的な知識とその活用を学習する。
------	--

到達目標	1)作業療法の関連法規・各種制度について説明できる。 2)作業療法士の職業人としての責任と倫理について説明できる。 3)職業人として基本的な視点となる組織論・安全管理・部門管理について説明できる。
------	--

回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)	担当教員
1	オリエンテーション OT臨床実習の理解	臨床実習の理解 事前学習(30分):第12章の予習 事後学習(30分):授業内容の復習	岡本 絵里加
2	医療安全・OT業務のマネジメント	医療におけるリスクマネジメントと医療事故 事前学習(30分):第5章の予習 事後学習(30分):授業内容の復習	岡本 絵里加
3	情報のマネジメント	情報のマネジメント, 診療記録, SOAPの記載方法について 事前学習(30分):第3章の予習 事後学習(30分):授業内容の復習	岡本 絵里加
4	OTの役割と職域, 職業倫理	作業療法の役割と職域, 職業倫理 事前学習(30分):第9・10章の予習 事後学習(30分):授業内容の復習	岡本 絵里加
5	OTをとりまく諸制度	作業療法をとりまく諸制度, 疾患別リハビリテーションの算定について 事前学習(30分):第11章の予習 事後学習(30分):授業内容の復習	岡本 絵里加
6	OT業務のマネジメント①	作業療法業務のマネジメント(急性期, 回復期, 生活期について), 医療連携の実際 事前学習(30分):配布資料の予習 事後学習(30分):授業内容の復習	岡本 絵里加
7	OT業務のマネジメント②	作業療法業務のマネジメント(訪問・通所, 介護保険施設について), 医療連携の実際 事前学習(30分):配布資料の予習 事後学習(30分):授業内容の復習	岡本 絵里加
8	まとめ	まちづくりと作業療法, これまでのまとめ 事前学習(30分):配布資料の予習 事後学習(30分):授業内容の復習	岡本 絵里加

評価	小テスト・ワークシート、50%、筆記試験50%
課題に対する フィードバックの方法	授業中に予習確認のための小テストと事後学習としてのワークシートを課し、授業中に課題に対する解説を行う。
教科書	作業療法管理学入門 第2版 大庭潤平編著 医歯薬出版 2021 ISBN:978-4-263-26642-7
参考図書など	「作業療法概論」(改訂第3版 2011)日本作業療法士協会監修 協同医書出版 ISBN:978-4-7639-2118-5
アクティブ・ラーニング	授業は、小グループに分かれてのグループディスカッション等を適宜実施する。
実務経験のある 教員による授業	大学病院(身体障害・精神障害・発達障害領域)OT5年、総合病院(身体障害領域)2年の臨床経験。
留意事項	作業療法士学生や新人作業療法士として働く基盤となるテーマや意識しておく内容を学びます。積極的に参加してください。

IV  
専門基礎科目

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
作業療法管理・運営Ⅱ Occupational therapy management and operation Ⅱ	必修	講義	1単位 (15時間)	4年後期	鈴木 雄介	○
ナンバリングコード	HOTE1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1) 看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2) 科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3) 相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4) 保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5) 幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6) 卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
作業療法管理学						
授業概要	作業療法士に求められる職業倫理について学習し、人事を含む作業療法等の組織運営に関するマネジメント能力を養うとともに学生・作業療法士の教育を含む職場管理についての理解を深める。					
到達目標	1) 作業療法士の職業人としての責任と倫理について説明できる。 2) 職業人として基本的な視点となる組織論・安全管理・部門管理について説明できる。 3) 人事を含む作業療法等の組織運営に関するマネジメントについて説明できる。 4) 作業療法士の教育を含む職場管理について説明できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）				担当教員
1	オリエンテーション 作業療法におけるマネジメント	作業療法とマネジメント、マネジメントとは、マネジメントプロセスの機能とPDCAサイクル、作業療法における目標管理 事前学習(30分): 教科書第1章の予習 事後学習(30分): 授業内容の復習				鈴木 雄介
2	組織の成り立ちとマネジメント	組織とは、組織と個人、病院組織の特徴と組織のなかでの作業療法士の役割、作業療法部門組織 事前学習(30分): 教科書第2章の予習 事後学習(30分): 授業内容の復習				鈴木 雄介
3	作業療法と医療サービス	サービスとは何か、サービスの基本的特性と構成、医療におけるサービスの特徴、作業療法におけるサービスのマネジメント 事前学習(30分): 教科書第4章の予習 事後学習(30分): 授業内容の復習				鈴木 雄介
4	人・物・経済性のマネジメント	新人教育と人材育成、環境整備と物品管理、経済性のマネジメント 事前学習(30分): 教科書第6章の予習 事後学習(30分): 授業内容の復習				鈴木 雄介
5	情報・時間・ストレスのマネジメント	情報のマネジメント、タイムマネジメントとストレスマネジメント 事前学習(30分): 教科書第7章の予習 事後学習(30分): 授業内容の復習				鈴木 雄介
6	実践からの学び①	作業療法部門の業務管理、人材育成のマネジメント、連携のマネジメント 事前学習(30分): 教科書第8章の予習 事後学習(30分): 授業内容の復習				鈴木 雄介
7	実践からの学び②	地域で活動する作業療法のマネジメント、行政機関で働く作業療法士の地域住民の生活を支えるマネジメント、災害時の作業療法士の役割 事前学習(30分): 教科書第8章の予習 事後学習(30分): 授業内容の復習				鈴木 雄介
8	作業療法士のキャリア開発	臨床と実践知と研究、作業療法士資格認定制度、大学院進学と国際貢献、学会・研修会、ワークライフバランス 事前学習(30分): 教科書第13章の予習 事後学習(30分): 授業内容の復習				鈴木 雄介
評価	レポート課題100%					
課題に対する フィードバックの方法	個別に講評を伝える					
教科書	30時間アカデミック Office2021/杉本くみこ・大澤栄子/実教出版/ISBN:978-4-407-35943-5					
参考図書など	「作業療法概論」(改訂第3版 2011) 日本作業療法士協会監修 協同医書出版 ISBN:978-4-7639-2118-5					
アクティブ・ラーニング	授業は小グループに分かれてのグループディスカッション等を適宜実施する					
実務経験のある 教員による授業	作業療法部門の開設や管理者、身体障害領域の作業療法臨床経験を活かして、作業療法部門の管理や運営に関する基本的な知識や考え方についての授業を行う。					
留意事項	作業療法管理・運営Ⅰでの学習内容を復習しておくこと					

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
作業療法評価学概論 Occupational Therapy Assessment Overview	必修	講義	1単位 (15時間)	1年後期	作業療法学専攻教員	○
ナンバリングコード	HOTF1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。					
作業療法評価学						

授業概要	作業療法における評価の目的や意義、評価の役割について理解するため、カルテなどからの医療情報収集(画像評価を含む)、観察、面接方法、検査測定の結果の読み方について講義する。		
到達目標	1)作業療法が対象とする評価と評価の種類について説明できる。 2)作業療法評価の目的と役割について説明できる。 3)作業療法評価の基本技術について概説できる。 4)作業療法評価の流れについて概説できる。 5)情報収集の方法について説明できる。 6)観察・面接の方法について説明できる。		
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)	担当教員
1	作業療法評価の流れ	作業療法における評価から治療までの一般的な流れについて講義する。 事前学習:特になし 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。	作業療法学 専攻教員
2	身体機能を知る評価①	身体の現状を知るためにどのような評価があるのかを講義する。 事前学習(30分):教科該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。	作業療法学 専攻教員
3	身体機能を知る評価②	実際に検査道具を使用して評価を体験する。 事前学習(30分):教科該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。	作業療法学 専攻教員
4	精神機能を知る評価	精神機能の評価について講義する。実際に評価を行う。 事前学習(30分):教科該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。	作業療法学 専攻教員
5	認知機能を知る評価	認知機能評価について講義する。実際に評価を行う。 事前学習(30分):教科該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。	作業療法学 専攻教員
6	生活を知る評価	日常生活活動、日常関連活動について講義する。 事前学習(30分):教科該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。	作業療法学 専攻教員
7	その人を知るための評価①	人間作業モデルに基づいた評価について講義する。実際に評価を行う。 事前学習(30分):教科該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。	作業療法学 専攻教員
8	その人を知るための評価②	前回行った評価結果を分析する。 事前学習(30分):教科該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。	作業療法学 専攻教員

評価	小テスト30%・筆記試験70%にて判定する。
課題に対する フィードバックの方法	試験結果の発表時に、「講評」を在学生ホームページもしくは学内掲示板に掲示する。もしくは、再試験期間中に補講を行い、試験内容と結果についてのフィードバックを行う。
教科書	30時間アカデミック Office2021/杉本くみこ・大澤栄子/実教出版/ISBN:978-4-407-35943-5
参考図書など	必要に応じて参考資料を別途配布する。
アクティブ・ラーニング	8回目には、実際の症例研究報告書を題材に、評価の目的、項目の選択、結果の解釈と考察のポイントなどについて、学生相互での討議をもとに理解を深めます。
実務経験のある 教員による授業	急性期病院、回復期病院、生活期身体障害領域での作業療法士として実務にあたった経験を生かし、作業療法評価に関連する基本的な考え方を講義する。
留意事項	質問は対面により回答する。本授業で作業療法の流れを視野に入れた評価の役割やあり方について理解して欲しい。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
作業療法評価学(身体Ⅰ) Occupational Therapy Assessment (Physical Disorder Ⅰ)	必修	演習	1単位 (30時間)	2年前期	作業療法学専攻教員	○
ナンバリングコード	HOTF2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。					
作業療法評価学						
授業概要	作業療法評価の中で、身体障害領域に関連した一般的な評価法について、評価目的と適用対象を明らかにして、実技演習を通した各種評価の手技を演習して学ぶ。学習対象とする評価手技には、バイタルサイン、循環・呼吸、関節可動域計測(ROM)、脳神経・脊髄反射、筋緊張等の他、身体障害領域で重要な身体各部位のX線、CT、MRIなど画像評価を含む評価技法を、想定される臨床の場で適切に実践・実施できるよう学習する。					
到達目標	1) 身体障害領域に係る一般的な評価法の評価目的や意義を説明できる。 2) バイタルサインの確認、ROM-T、各種神経学的所見の確認、脳卒中患者に対する標準的な評価手技が実施できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)			担当教員	
1	バイタルサインの確認	体温、血圧、脈拍、呼吸、意識レベル【講義と実習】 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。			作業療法学 専攻教員	
2	ROM-T 上肢①	日本リハビリテーション医学会による関節可動域測定法【講義と実習】 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。			作業療法学 専攻教員	
3	ROM-T 上肢②	日本リハビリテーション医学会による関節可動域測定法【講義と実習】 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。			作業療法学 専攻教員	
4	ROM-T 下肢①	日本リハビリテーション医学会による関節可動域測定法【講義と実習】 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。			作業療法学 専攻教員	
5	ROM-T 下肢②	日本リハビリテーション医学会による関節可動域測定法【講義と実習】 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。			作業療法学 専攻教員	
6	ROM-T 頸部・体幹	日本リハビリテーション医学会による関節可動域測定法【講義と実習】 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。			作業療法学 専攻教員	
7	感覚検査	表在感覚、深部感覚【講義と実習】 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。			作業療法学 専攻教員	
8	感覚検査	表在感覚、深部感覚【講義と実習】 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。			作業療法学 専攻教員	
9	反射検査	深部腱反射、筋緊張、病的反射【講義と実習】 事前学習:特になし 事後学習(60分):事後学習:配布資料など、授業全体について復習する。			作業療法学 専攻教員	
10	実技確認	ROM-T・感覚検査・反射の実技を確認する。 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。			作業療法学 専攻教員	
11	形態計測	形態計測の講義と実習 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。			作業療法学 専攻教員	
12	バランス検査	バランス検査の講義と実習 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。			作業療法学 専攻教員	

13	筋緊張検査	筋緊張検査の講義と実習 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。	作業療法学 専攻教員
14	実技確認	形態計測・バランス検査・筋緊張検査の実技を確認する。 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。	作業療法学 専攻教員
15	脳卒中機能評価/上肢機能評価	ブルーンストロームステージ、SIAS、FMA、バランス機能評価・STEFなど【講義と実習】 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。	作業療法学 専攻教員

評価	筆記試験50%・実技試験50%にて判定する。
課題に対する フィードバックの方法	試験結果の発表時に、「講評」を在学生ホームページもしくは学内掲示板に掲示する。もしくは、再試験期間中に補講を行い、試験内容と結果についてのフィードバックを行う。
教科書	才藤栄一監修 PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版 金原出版 2020/ ISBN:9784307750585 ベッドサイドの神経の診かた 第18版 :田崎義昭,南山堂 /ISBN:978-4-525-24798-0 能登真一,山口昇,玉垣努,新宮尚人,加藤寿宏,松房利憲【編】 標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学第3版 医学書院 /ISBN:978-4260030038
参考図書など	必要に応じて参考資料を別途配布する。
アクティブ・ラーニング	実技の習得のためには、授業以外の時間も積極的に活用し、学生同士で患者役とセラピスト役を模してのトレーニングを数多く行う必要があります。
実務経験のある 教員による授業	急性期病院身体障害領域での作業療法士として実務にあたった経験を生かし、様々な臨床症例を想定した評価実施上のポイントなども適宜紹介する。
留意事項	学生相互が理学所見を取りやすい服装で参加のこと

授業科目の名称		必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
作業療法評価学(身体Ⅱ) Occupational Therapy Assessment (Physical DisorderⅡ)		必修	演習	1単位 (30時間)	2年前期	作業療法学専攻教員	○
ナンバリングコード	HOTF2	オフィスアワー		本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分		卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目		DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。					
作業療法評価学							
授業概要	感覚、姿勢・バランス、協調性、上肢機能などに関する基本的な評価法について、その目的や適用対象、課題や目標への思考・判断過程を演習して学ぶ。さらに、姿勢や動作を観察・分析し、筋の活動や関節の運動を、脳脊髄を含む身体各部位のX線、CT、MRIなど画像評価と関連付けて推測する技術を学ぶ。						
到達目標	1) 作業療法評価学(身体Ⅰ)で学んだ評価法の中から、各種の症候や疾患に合わせて、必要とされる評価法を選択できる。 2) 評価結果を解釈し、問題となる点や追加で必要な検査・評価項目を挙げることができる。 3) 発達領域において一般的に実施されている運動発達検査や心理・社会的発達検査を列挙し、その目的を説明し、適切に実施できる。						
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)				担当教員	
1	心身機能の発達・1カ月前後まで	1カ月前後までの定型発達及び障害特性に応じた心身機能の発達に関する評価法について講義・演習する。 事前学習(60分):「人間発達学」「発達心理学」等の既習科目の該当項目を復習しておく。 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。				作業療法学 専攻教員	
2	心身機能の発達・3カ月前後まで	3カ月前後までの定型発達及び障害特性に応じた心身機能の発達に関する評価法について講義・演習する。 事前学習(60分):「人間発達学」「発達心理学」等の既習科目の該当項目を復習しておく。 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。				作業療法学 専攻教員	
3	心身機能の発達・5カ月前後まで	5カ月前後までの定型発達及び障害特性に応じた心身機能の発達に関する評価法について講義・演習する。 事前学習(60分):「人間発達学」「発達心理学」等の既習科目の該当項目を復習しておく。 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。				作業療法学 専攻教員	
4	心身機能の発達・7カ月前後まで	7カ月前後までの定型発達及び障害特性に応じた心身機能の発達に関する評価法について講義・演習する。 事前学習(60分):「人間発達学」「発達心理学」等の既習科目の該当項目を復習しておく。 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。				作業療法学 専攻教員	
5	心身機能の発達・8カ月前後まで	8カ月前後までの定型発達及び障害特性に応じた心身機能の発達に関する評価法について講義・演習する。 事前学習(60分):「人間発達学」「発達心理学」等の既習科目の該当項目を復習しておく。 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。				作業療法学 専攻教員	
6	心身機能の発達・10カ月前後まで	10カ月前後までの定型発達及び障害特性に応じた心身機能の発達に関する評価法について講義・演習する。 事前学習(60分):「人間発達学」「発達心理学」等の既習科目の該当項目を復習しておく。 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。				作業療法学 専攻教員	
7	心身機能の発達・12カ月前後まで	12カ月前後までの定型発達及び障害特性に応じた心身機能の発達に関する評価法について講義・演習する。 事前学習(60分):「人間発達学」「発達心理学」等の既習科目の該当項目を復習しておく。 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。				作業療法学 専攻教員	
8	頸部・体幹の筋力検査	徒手筋力検査【講義と実習】 事前学習(30分):教科該当箇所を読み、上肢の徒手筋力検査手技を事前トレーニングしておく。 事後学習(60分):実技について復習する。				作業療法学 専攻教員	
9	上肢の筋力検査	徒手筋力検査【講義と実習】 事前学習(30分):教科該当箇所を読み、上肢の徒手筋力検査手技を事前トレーニングしておく。 事後学習(60分):実技について復習する。				作業療法学 専攻教員	
10	上肢の筋力検査	徒手筋力検査【講義と実習】 事前学習(30分):教科該当箇所を読み、上肢の徒手筋力検査手技を事前トレーニングしておく。 事後学習(60分):実技について復習する。				作業療法学 専攻教員	
11	上肢の筋力検査	徒手筋力検査【講義と実習】 事前学習(30分):教科該当箇所を読み、上肢の徒手筋力検査手技を事前トレーニングしておく。 事後学習(60分):実技について復習する。				作業療法学 専攻教員	
12	下肢の筋力検査	徒手筋力検査【講義と実習】 事前学習(30分):教科該当箇所を読み、下肢の徒手筋力検査手技を事前トレーニングしておく。 事後学習(60分):実技について復習する。				作業療法学 専攻教員	

13	下肢の筋力検査	徒手筋力検査【講義と実習】 事前学習(30分):教科該当箇所を読み、上肢の徒手筋力検査手技を事前トレーニングしておく。 事後学習(60分):実技について復習する。	作業療法学 専攻教員
14	評価結果の考え方①	事例を通して評価結果を分析する【講義と実習】 事前学習(30分):教科該当箇所を読み、上肢の徒手筋力検査手技を事前トレーニングしておく。 事後学習(60分):実技について復習する。	作業療法学 専攻教員
15	評価結果の考え方②	分析結果から治療を考える(イメージする)【講義と実習】 事前学習(30分):教科該当箇所を読み、上肢の徒手筋力検査手技を事前トレーニングしておく。 事後学習(60分):実技について復習する。	作業療法学 専攻教員

評価	1～7実技試験50% 8～15実技試験40%・小テスト10%にて判定する
課題に対する フィードバックの方法	試験結果の発表時に、「講評」を在学生ホームページもしくは学内掲示板に掲示する。もしくは、 再試験期間中に補講を行い、試験内容と結果についてのフィードバックを行う。
教科書	臨床で役立つ徒手筋力検査法 MMTナビ/青木主税, 根本悟子, 大久保敦子/ラウンドフラット/ISBN:9784904613399 イラストでわかる人間発達学/上杉雅之 監修/医歯薬出版株式会社/ISBN:978-4-263-21945-4
参考図書など	近代ポバース概念による正常発達分析-脳性麻痺の治療示唆/紀伊克昌 監修/三輪書店/2022/ISBN:978-4-895590-750-7 必要に応じて参考資料を別途配布する。
アクティブ・ラーニング	実技の習得のためには、授業以外の時間も積極的に活用し、学生同士で患者役とセラピスト役を模してのトレーニングを数多く 行う必要があります。
実務経験のある 教員による授業	急性期・回復期病院身体障害領域での作業療法士として実務にあたった経験を生かし、様々な臨床症例を想定した徒手筋力検査 実施上のポイントなども適宜紹介する。 発達障害領域での作業療法経験を活かし、発達検査における基本的なポイントについての演習授業を行う。
留意事項	学生相互が理学所見を取りやすい服装で参加のこと

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
作業療法評価学(精神) Evaluation of Occupational Therapy(Psychiatry)	必修	講義	1単位 (30時間)	2年前期	作業療法学専攻教員	○
ナンバリングコード	HOTF2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。					
作業療法評価学						
授業概要	作業療法における精神面に焦点をあてた一般的評価について学ぶ。具体的には、自己概念・対人関係、社会的問題解決能力、感情・性格、コミュニケーション等の評価や、集団の評価、精神科疾患系の評価等が含まれる。また、評価技法としての面接・観察法を用いた評価演習を行い、その技能を身につける。さらに、日常生活技能評価、興味チェックリスト、投影法、交流分析、箱づくり法、職業関連評価、社会機能評価等についても学ぶ。					
到達目標	1)作業療法評価の目的や流れを説明することができる。 2)作業療法評価の各評価方法の違い、評価項目、対象、原則を説明できる。 3)作業療法の「参加観察」とコミュニケーション(言語的・非言語的)技法を意図的に利用し、面接評価を説明できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)			担当教員	
1	作業療法評価の概要1	作業療法評価の基本的流れである評価(テストバッテリー含む)、問題抽出、焦点化、立案、実施、再評価の流れを解説する。その上で、作業療法における評価とは何か、また精神科における評価の特性を解説する。 事前学習(30分):作業療法評価概論 事後学習(30分):精神科の評価の特徴			作業療法学 専攻教員	
2	作業療法評価の概要2	対象者の個性、特に主観的体験の理解(追体験)とその人らしさを理解することの重要性を解説する。 事前学習(20分):患者の主観的体験とは 事後学習(40分):追体験とは			作業療法学 専攻教員	
3	作業療法の情報収集と分析・観察法	対象者の作業療法担当を想定し、情報収集及びその情報の分析を具体的に演習する。観察法についても解説する。 事前学習(30分):情報収集の基本とは 事後学習(30分):評価後の情報の整理と観察方法			作業療法学 専攻教員	
4	面接とオリエンテーション	評価開始時の作業療法及び評価オリエンテーションと面接を解説する。治療と評価、面接時の質問方法について概説する。グループワーク学習を行う。 事前学習(20分):評価と治療の関係 事後学習(40分):面接時のインターク面接とオリエンテーション			作業療法学 専攻教員	
5	質問紙法による生活評価	生活形態の調査、作業興味と経験、社会資源利用調査、ISDA、SMSF、興味チェックリストなどを解説し、演習する。 事前学習(20分):質問紙法の種類 事後学習(40分):質問紙法の施行方法と特性			作業療法学 専攻教員	
6	作業面接と箱作りテスト	作業面接を解説し、箱作りテストを演習する。各グループにおいて、演習を行い、白板等を使用し発表する。 事前学習(20分):作業面接とは 事後学習(40分):箱作り法の手順と特性			作業療法学 専攻教員	
7	集団の行動観察・評価	観察法と観察すべき行動と場面を解説する。障害者フットサルの作業を用い、実際に集団行動・有酸素運動等の観察・評価の演習を行う。 事前学習(30分):集団とは、集団の種類 事後学習(30分):個別作業療法、集団作業療法			作業療法学 専攻教員	
8	性格検査とTEG	TEGを解説し、演習する。各グループにおいて、演習を行い、白板等を使用し発表する。グループ学習、二人一組になって学習する。 事前学習(20分):性格検査の種類 事後学習(40分):TEGの実施方法			作業療法学 専攻教員	
9	投影法とバウムテスト・HTP	投影法とバウムテスト・HTP 事前学習(30分):投影法とは 事後学習(30分):テストデータの分析方法			作業療法学 専攻教員	
10	精神症状評価(BPRS、PANNS)、GAF 精神障害者社会生活評価 LASMI、REHAB 多様な評価と演習・発表	精神症状評価(BPRS、PANNS)、GAF、精神障害者社会生活評価LASMI、REHABを解説し、各グループにおいて、演習を行い、白板等を使用し発表する。グループ学習、二人一組になって学習する。 事前学習(15分):多様な精神症状等の評価の種類 事後学習(45分):多様な精神症状等の評価の実施方法と特徴			作業療法学 専攻教員	
11	内田クレペリン検査、ロールシャッハテスト検査 多様な評価と演習・発表	内田クレペリン検査、ロールシャッハテスト検査、文章完成テストSCTを解説し、各グループにおいて、演習を行い、白板等を使用し発表する。グループ学習、二人一組になって学習する。 事前学習(20分):内田クレペリン・ロールシャッハ検査 事後学習(40分):内田クレペリン・ロールシャッハ検査の実施方法と特性			作業療法学 専攻教員	

12	職業興味検査VPI, 職業適性検査GATB 多様な評価と演習・発表	職業興味検査VPI, 職業適性検査GATBを解説し、各グループにおいて、演習を行い、白板等を使用し発表する。グループ学習、二人一組になって学習する 事前学習(20分): 職業関連評価の種類と特徴 事後学習(40分): 職業興味検査VPI, 職業適性検査GATB実施方法と特徴	作業療法学 専攻教員
13	ケアアセスメントとケアマネジメント	OT協会ケアアセスメント評価表を解説し、各グループにおいて、演習を行い、白板等を使用し発表する。 事前学習(20分): ケアマネジメントとは 事後学習(40分): ケアアセスメントの実施方法・特徴	作業療法学 専攻教員
14	焦点化と評価のまとめ	様々な評価から問題を抽出し、さらに優先すべき問題に焦点化し、治療計画をたてる過程を解説し、演習する。グループ学習、二人一組になって学習する。 事前学習(20分): 問題抽出方法 事後学習(40分): 問題抽出と焦点化	作業療法学 専攻教員
15	焦点化と計画立案 まとめ	焦点化と計画立案。グループワークを活用しながら作業療法評価のまとめを行い、要点を再確認する。 事前学習(10分): 精神科作業療法評価とは 事後学習(50分): 精神科作業療法評価の種類と特徴	作業療法学 専攻教員

評価	筆記試験100%
課題に対するフィードバックの方法	試験については、講評し、学生に公開する。また授業内での課題については、毎授業内で講評し、再学習を促す。
教科書	「精神障害と作業療法(新版, 2017)」山根寛著 三輪書店 ISBN: 978-4-89590-583-1
参考図書など	「作業療法評価学(改訂第3版, 2017)」日本作業療法協会監修 協同医書出版
アクティブ・ラーニング	作業療法評価の具体的テスト等は、グループワーク、2人一組を頻繁に行う。そして話し合ったことを発表する等、主体的に学習をする。
実務経験のある教員による授業	精神医療センター、就労支援、保護観察所において精神障害者のリハビリテーションに従事経験を生かし講義する。また厚生労働省・法務省勤務において障害者支援制度の構築の従事経験の立場からも講義する。
留意事項	作業療法において使用する評価方法を主に2人組で演習し学習するため、相手に迷惑をかけないように注意すること。また、演習上において知り得た個人情報の取り扱いには十分注意及び管理すること。重要な専門科目である。できるだけ関連図書を調べ、参考とすること。

授業科目の名称		必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
作業療法評価学総合演習 Occupational Therapy Evaluation Comprehensive		必修	演習	1単位 (15時間)	3年後期	西野由希子、作業療法学専攻(専任)教員	○
ナンバリングコード	HOTF2	オフィサー		本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィサー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分		卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目		DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
作業療法評価学							
授業概要	臨床実践で安全かつ効果的な臨床実習を行うため、臨床実習における対象者への接遇態度、安全管理・感染症対策等、臨床実践で求められる実習生としての基本的姿勢や基本的評価技術について総合的に修得する。この科目を通して、基本的姿勢や各種の観察、面接、検査・測定などについて、各々が習得状況を確認することで、臨床実習に備えて自らに必要な課題を明確にする機会とする。						
到達目標	1)対象者への接遇態度など、基本的姿勢を身につけることができる。 2)安全管理・感染症対策を実行できる。 3)面接・観察・検査測定などの各種評価技術を実施できる。						
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)				担当教員	
1	精神障害作業療法評価①	精神科作業療法の評価手法について講義・演習を行う。 事前学習(60分):臨床実習要綱を熟読し理解する。 事後学習(60分):配布資料も含め、授業内容全体について復習する。				三川年正	
2	精神障害作業療法評価②	精神科作業療法の評価手法について講義・演習を行う。 事前学習(60分):臨床実習要綱を熟読し理解する。 事後学習(60分):配布資料も含め、授業内容全体について復習する。				三川年正	
3	精神障害作業療法評価③	精神科作業療法の評価手法について講義・演習を行う。 事前学習(60分):臨床実習要綱を熟読し理解する。 事後学習(60分):配布資料も含め、授業内容全体について復習する。				三川年正	
4	身体障害作業療法評価① (面接評価)	実際の症例を想定しながら、作業療法理論に基づいた面接評価法を演習する。 事前学習(60分):教科書pp.35-43、pp.120-127を読んでおく。「作業療法理論」の関連知識を復習する。 事後学習(60分):教科書・配布資料など授業全体について復習する。				田島明子	
5	身体障害作業療法評価② (ADL・観察評価)	実際の症例を想定しながら、ADL・観察評価法を演習する。 事前学習(60分):「日常生活支援論」の関連知識を復習する。 事後学習(60分):教科書・配布資料など授業全体について復習する。				西野由希子	
6	身体障害作業療法評価③ (高次脳機能検査)	実際の症例を想定しながら、高次脳機能検査法を演習する。 事前学習(60分):教科書pp.128-139を読んでおく。「高次脳機能障害作業療法学」の関連知識を復習する。 事後学習(60分):教科書・配布資料など授業全体について復習する。				鈴木雄介	
7	身体障害作業療法評価④ (環境評価)	実際の症例を想定しながら、住環境を中心とする環境評価法を演習する。 事前学習(60分):住環境整備について復習しておく。 事後学習(60分):教科書・配布資料など授業全体について復習する。				久保田清子	
8	身体障害作業療法評価⑤ (作業療法評価のプロセス) (安全管理・感染対策) (OSCE説明)	実際の症例を想定しながら、評価結果の統合と解釈、目標設定、プログラム立案までの一連のプロセスについて演習を行う。また、安全管理と感染対策について講義・演習を行う。 事前学習(60分):教科書pp.16-34を読んでおく。 事後学習(60分):教科書・配布資料など授業全体について復習する。				西野由希子	

評価	実技試験(技能・態度評価)100%
課題に対する フィードバックの方法	実技試験後にその場で学生に対して講評を行う。
教科書	才藤栄一(監修), 金田嘉清(編集), 富田昌夫(編集), 他:PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版 [WEB動画付き], 金原出版, 2020, ISBN: 978-4307750585. 丹羽敦・松田隆治(編). 実習の要点を網羅! 作業療法臨床実習のチェックポイント. メジカルビュー社.2020. ISBN:978-4-7583-2024-5
参考図書など	適時紹介し、資料を配布する。
アクティブ・ラーニング	学生による主体的な実技演習を中心に実施する。
実務経験のある 教員による授業	リハビリテーションの医療・福祉分野での実務経験を活かし、作業療法士として必要な技能・態度面の修得を目指した講義・演習を行う。
留意事項	・本科目は、臨床実習「評価実習」を履修するために修得見込みである必要がある。 ・実習ユニフォーム着用し、授業に参加すること。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
身体障害作業療法学Ⅰ (総論・中枢神経系) Occupational Therapy for the Physically Handicapped I (General, Central Nervous System)	必修	講義	1単位  (30時間)	2年後期	田邊 浩文、鈴木 雄介	○
ナンバリングコード	HOTF1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DPI)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。					
作業治療学						
授業概要	作業療法の対象となる身体障害のある者の範囲、作業療法の役割、障害とその介入・治療方法の基本を理解する。その上で、代表的な作業療法の対象疾患である脳血管障害などの中枢神経系疾患や、複雑な病態や障害を示す頭部外傷を中心に、評価から介入への一連の作業療法実践過程の基本を学ぶ。また、医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進を円滑に進めるための呼吸や嚥下に伴うリスク管理としての喀痰等の吸引の技術等を理解する。					
到達目標	作業療法の対象となる身体障害のある者の範囲、作業療法の役割、障害とその介入・治療方法の基本を理解する。その上で、代表的な作業療法の対象疾患である脳血管障害などの中枢神経系疾患や、複雑な病態や障害を示す頭部外傷を中心に、評価から介入への一連の作業療法実践過程の基本を学ぶ。各種疾患への具体的な介入技能の基本が修得できるよう演習も積極的に行う。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）			担当教員	
1	身体障害作業療法の対象と役割	身体障害領域において作業療法士が対象とする疾患についてディスカッションする。また、対象者、当該領域における作業療法士の役割についてディスカッションする。 事前学習(30分):作業療法士協会の身体障害領域を紹介する動画を観ておく。 事後学習(30分):作業療法士が対象とする疾患についてまとめて整理する。			田邊 浩文	
2	身体障害作業療法の介入・治療方法	各種疾患に対する主な介入・治療方法について、リハビリテーションアプローチと神経発達学的アプローチの2グループに分かれてディベートを行う。 事前学習(30分):教科書「各種アプローチ」の項を通読しておく。 事後学習(30分):ディベートした内容を800字以内にまとめて提出する。			田邊 浩文	
3	身体障害領域における作業療法過程その①	中枢神経疾患に対する作業療法士の介入事例を複数紹介し、作業療法の一連の過程についてグループワークにより整理する。 事前学習(30分):事前に配布する「脳卒中後片麻痺ケースレポート」を通読しておく。 事後学習(30分):グループ協議内容を800字以内にまとめて提出する。			田邊 浩文	
4	身体障害領域における作業療法過程その②	脳血管疾患片麻痺の事例について作業療法士の介入すべきそれぞれの過程について講ずる。 事前学習(30分):教科書「OT介入の流れ」の項を通読しておく。 事後学習(30分):本講義内容をまとめて整理する。			田邊 浩文	
5	中枢神経疾患に対する治療理論とニューロリハビリテーション	中枢神経疾患に対するリハビリテーションについて各種アプローチまたは理論に分かれてディベートを行いながら有効な介入方法について議論し整理する。 事前学習(30分):教科書「作業療法アプローチ」の項を通読しておく。 事後学習(30分):ディベートした内容を800字以内にまとめて提出する。			田邊 浩文	
6	中枢神経疾患に対する治療理論とニューロリハビリテーション	中枢神経疾患に対する各種治療理論およびニューロリハビリテーションについて講義する。 事前学習(30分):教科書「各種アプローチ」の項を通読しておく。 事後学習(30分):ディベートした内容を800字以内にまとめて提出する。			田邊 浩文	
7	身体機能(筋力・関節可動域・平衡機能など)の回復に関する治療理論	筋力増強法・関節可動域訓練・平衡機能の回復訓練法など既存する身体機能の回復治療法について講義する。 事前学習(30分):自身の関節可動域を計測しておく。 事後学習(30分):本講義で紹介した機能回復介入の方法についてまとめ整理する。			田邊 浩文	
8	上肢の巧緻性を改善するための治療理論	麻痺による上肢操作能力低下や失調、筋力低下に伴う上肢・手指の巧緻性を改善する治療方法について講義する。 事前学習(30分):教科書「失調症」の項を通読しておく。 事後学習(30分):本講義で紹介した失調症に対する介入の方法についてまとめ整理する。			田邊 浩文	
9	摂食嚥下・構音機能回復に関する治療理論	脳血管疾患にみられる摂食嚥下機能障害についてグループワークにより実際の摂食動作を実習分析しまとめる。また、構音障害とその治療法について協議してまとめる。 事前学習(30分):接触嚥下機能について復習しておく。 事後学習(60分):協議した内容をまとめ整理し、提出する。			田邊 浩文	
10	頭部外傷	頭部外傷の病態、障害像について事例を交えて講義する。教科書第3章Ⅱ頭部外傷1.病態、2.障害像 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる(予習確認テスト実施) 事後学習(30分):授業中に配布する宿題をする			鈴木 雄介	

11	頭部外傷	頭部外傷の評価と目標設定、治療・訓練・指導・援助について事例を交えて講義する。教科書第3章Ⅱ頭部外傷 3.評価と目標設定、4.治療・訓練・指導・援助、映像(高次脳機能障害 社会復帰への道のり) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでもらう(予習確認テスト実施) 事後学習(30分):授業中に配布する宿題をする	鈴木 雄介
12	頭部外傷	頭部外傷患者の社会参加について事例を交えて講義する。教科書第3章Ⅱ頭部外傷 5.社会参加、6.事例 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでもらう(予習確認テスト実施) 事後学習(30分):授業中に配布する宿題をする	鈴木 雄介
13	脊髄損傷	脊髄損傷の病態、障害像について事例を交えて講義する。教科書第3章Ⅲ脊髄損傷 1.病態 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでもらう(予習確認テスト実施) 事後学習(30分):授業中に配布する宿題をする	鈴木 雄介
14	脊髄損傷	脊髄損傷の評価と目標設定、治療・訓練・指導・援助について事例を交えて講義する。教科書第3章Ⅲ脊髄損傷 2.障害像 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでもらう(予習確認テスト実施) 事後学習(30分):授業中に配布する宿題をする	鈴木 雄介
15	脊髄損傷	脊髄損傷の社会参加について事例を交えて講義する。教科書第3章Ⅲ脊髄損傷 3.評価と目標設定、4.作業療法実践 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでもらう(予習確認テスト実施) 事後学習(30分):授業中に配布する宿題をする	鈴木 雄介

評価	定期試験100%
課題に対するフィードバックの方法	(田邊)試験結果の講評を掲示して公開する。または、個別に講評を伝える。 (鈴木)授業中に予習確認のための小テストと事後学習としての宿題を課し、次回の授業中に課題に対する解説を行う。
教科書	作業療法学全書改訂第3版第4巻作業治療学1身体障害/日本作業療法士協会 監修 菅原洋子 編集/協同医書出版/3版/ISBN:978-4-7639-2121-5
参考図書など	身体障害の作業療法改訂第6版/Heidi McHugh Pendleton, Winifred Schultz-Krohn 編著 山口 昇, 宮前珠子 監訳/協同医書出版/6版/ISBN:978-4-7639-2137-6 作業処方(症例の分析と思考プロセス)/監修:武田淳史、編集:浅沼辰志/メジカルビュー/ISBN:978-4-7583-1475-6
アクティブ・ラーニング	【ディスカッション・実習とグループワーク】摂食障害について実習を通じてその要因について学ぶ。 【ディベート】対峙する治療理論を担当させ協議体験を通じて有効な介入法について理解する。
実務経験のある教員による授業	身体障害領域の作業療法臨床経験を活かして、身体障害領域、特に中枢神経系に対する作業療法の基本的な知識と手法についての考え方について講義する。
留意事項	臨床医学系の科目を復習しておくことが望ましい。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
身体障害作業療法Ⅱ (整形外科系・変性疾患) Occupational Therapy for Physical Disorders II (Orthopedic Surgery / Degenerative Diseases)	必修	講義	1単位 (30時間)	3年前期	鈴木 雄介、畑中 康志	○
ナンバリングコード	HOTF1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
作業治療学						
授業概要	これまでに学んだ身体障害領域の作業療法の基本をもとに、整形外科系疾患、脊髄損傷、呼吸器疾患、心疾患、神経変性疾患・がん(ターミナルを含む)等、評価から介入への一連の作業療法実践過程の基本を学ぶ。各種疾患への具体的な実践技能の基本が修得できるよう演習も積極的に行う。一連の経験を通し、整形外科系の各種疾患や変性疾患を対象とした具体的な訓練方法や種々の介入方法に関する理解を深める。					
到達目標	1)整形外科系疾患、脊髄損傷、呼吸器疾患、心疾患、神経変性疾患・がんの一連の作業療法実践過程が説明できる 2)整形外科系の各種疾患や変性疾患の具体的な訓練方法や介入方法について説明できる					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)			担当教員	
1	脊髄損傷	作業療法実践(治療・訓練・指導・援助)、事例検討(教科書第3章Ⅲ) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(30分):授業中に配布する宿題をする			鈴木 雄介	
2	関節リウマチ	1.関節リウマチとは、2.RAの基礎知識、3.実践、4.日常生活活動支援のテクニック、5.住環境整備支援、6.RA教育(教科書第3章Ⅶ) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(30分):授業中に配布する宿題をする			鈴木 雄介	
3	整形外科	骨折、変形性関節症、その他の整形外科疾患(教科書第3章Ⅴ) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(30分):授業中に配布する宿題をする			鈴木 雄介	
4	パーキンソン病	1.病態と障害像、2.評価と目標設定、3.治療・訓練・指導・援助、4.事例検討(教科書第3章Ⅷ) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(30分):授業中に配布する宿題をする			鈴木 雄介	
5	脊髄小脳変性症	1.病態と障害像、2.評価と目標設定、3.治療・訓練・指導・援助、4.事例検討(教科書第3章Ⅸ) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(30分):授業中に配布する宿題をする			鈴木 雄介	
6	神経筋疾患	神経筋疾患(i.ギランバレー症候群、ii.筋強直性ジストロフィー(教科書第3章Ⅹ) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(30分):授業中に配布する宿題をする			鈴木 雄介	
7	神経筋疾患	神経筋疾患(iii.多発性硬化症、iv.筋萎縮性側索硬化症、重症筋無力症、その他)(教科書第3章Ⅹ) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(30分):授業中に配布する宿題をする			鈴木 雄介	
8	腫瘍	腫瘍(i.乳がん、ii.終末期がん)(教科書第3章Ⅻ) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(30分):授業中に配布する宿題をする			鈴木 雄介	
9	上肢と手の外科 【総論】	1.病態と障害像、2.評価と目標設定、3.治療・訓練・指導・援助、4.事例検討 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(30分):授業中に配布した資料と教科書を用いて復習する			畑中 康志	
10	上肢と手の外科 【末梢神経障害】	1.病態と障害像、2.評価と目標設定、3.治療・訓練・指導・援助、4.事例検討 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(30分):授業中に配布した資料と教科書を用いて復習する			畑中 康志	
11	上肢と手の外科 【肩、肘の骨折・脱臼】	1.病態と障害像、2.評価と目標設定、3.治療・訓練・指導・援助、4.事例検討 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(30分):授業中に配布した資料と教科書を用いて復習する			畑中 康志	
12	上肢と手の外科 【手、手指の骨折・脱臼】	1.病態と障害像、2.評価と目標設定、3.治療・訓練・指導・援助、4.事例検討 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(30分):授業中に配布した資料と教科書を用いて復習する			畑中 康志	

13	上肢と手の外科 【腱損傷, 切断, 熱傷】	1.病態と障害像、2.評価と目標設定、3.治療・訓練・指導・援助、4.事例検討 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(30分): 授業中に配布した資料と教科書を用いて復習する	畑中 康志
14	内部障害 【心臓, 呼吸器疾患】	1.病態と障害像、2.評価と目標設定、3.治療・訓練・指導・援助、4.事例検討 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(30分): 授業中に配布した資料と教科書を用いて復習する	畑中 康志
15	内部障害 【腎疾患, 糖尿病】	1.病態と障害像、2.評価と目標設定、3.治療・訓練・指導・援助、4.事例検討 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(30分): 授業中に配布した資料と教科書を用いて復習する	畑中 康志

評価	定期試験100%
課題に対する フィードバックの方法	授業中に予習確認のための小テストと事後学習としての宿題を課し、次回の授業中に課題に対する解説を行う。
教科書	作業療法学全書改訂第3版第4巻作業治療学1身体障害／日本作業療法士協会 監修 菅原洋子 編集／協同医書出版／3版／ISBN:978-4-7639-2121-5
参考図書など	身体障害の作業療法改訂第6版／Heidi McHugh Pendleton, Winifred Schultz-Krohn 編著山口 昇, 宮前珠子 監訳／協同医書出版／6版／ISBN:978-4-7639-2137-6 作業処方(症例の分析と思考プロセス)／監修:武田淳史、編集:浅沼辰志／メジカルビュー／ISBN:978-4-7583-1475-6
アクティブ・ラーニング	本講義では特に設定していない
実務経験のある 教員による授業	身体障害領域の作業療法臨床経験を活かして、整形外科系・変性疾患に対する作業療法の基本的な知識と手法についての考え方について講義する。
留意事項	臨床医学系の科目を復習しておくことが望ましい。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
身体障害作業療法学Ⅲ(応用) Occupational therapy for physical handicapsⅢ	必修	演習	1単位 (30時間)	3年後期	増田 雄亮	○
ナンバリングコード	HOTF2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。					
作業治療学	DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
授業概要	主に中枢神経系に疾患や障害のある対象者への基本的な身体障害作業療法プログラムと、エビデンスに基づいたリハビリテーションの適用過程について、実践的に学習する。さらに、医学的リハビリテーションの立場からICFを解釈し、「活動と参加」の拡大を目指した目標(課題)指向型の作業療法戦略(基本方針・目標設定・プログラム)を立案・計画するための演習を行う。					
到達目標	(1) 作業に焦点を当てた実践とエビデンスに基づく実践について、その概念と具体的な実施方法を説明できる。 (2) ICFを解釈し、「活動と参加」の拡大を目指した目標(課題)指向型の作業療法プログラムを立案・計画できる。 (3) エビデンスの高い治療法について調べ、その内容の一部を説明できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)			担当教員	
1	作業に焦点を当てた実践 (Occupation-Based Practice: OBP)の概念理解	作業に焦点を当てた実践とは何か?作業療法とは何か?クライアントに作業療法を説明できるように演習を行う。 事前学習(20分):身体障害作業療法学Ⅰ/Ⅱで学んだ内容を復習しておくこと 事後学習(30分):第1回目の授業で学んだ内容について復習すること			増田 雄亮	
2	作業療法評価(面接)	作業療法の説明に始まり、クライアントの過去・現在・未来を捉える作業療法面接について、作業療法理論を踏まえた構造的・半構造的面接手法の演習を行う。【グループ学習】 事前学習(20分):身体障害作業療法学Ⅰ/Ⅱで学んだ内容を復習しておくこと 事後学習(30分):第2回目の授業で学んだ内容について復習すること			増田 雄亮	
3	作業療法評価(観察)	クライアントにとって重要な作業について、作業分析の視点をもって観察を行う手法を学習する。【グループ学習】 事前学習(20分):身体障害作業療法学Ⅰ/Ⅱで学んだ内容を復習しておくこと 事後学習(30分):第3回目の授業で学んだ内容について復習すること			増田 雄亮	
4	症例基盤型学習① (事例の読み込み)	中枢神経系に疾患や障害を有する事例の基本情報・面接・観察内容を読み込み、疑問を解決する。【グループ演習】 事前学習(20分):身体障害作業療法学Ⅰ/Ⅱで学んだ内容を復習しておくこと 事後学習(20分):第4回目の授業で学んだ内容について復習すること			増田 雄亮	
5	症例基盤型学習② (心身機能検査の列挙)	面接・観察結果から作業(活動と参加)を阻害する要因を考察し、クライアントにとって必要な心身機能に関する検査項目を理由を掲げながら列挙する。【グループ演習】 事前学習(20分):身体障害作業療法学Ⅰ/Ⅱで学んだ内容を復習しておくこと 事後学習(30分):第5回目の授業で学んだ内容について復習すること(30分)			増田 雄亮	
6	症例基盤型学習③ (検査結果の解釈)	心身機能検査の結果を解釈し、面接・観察・検査結果をICFで整理する。【グループ学習】 事前学習(20分):身体障害作業療法学Ⅰ/Ⅱで学んだ内容を復習しておくこと 事後学習(20分):第6回目の授業で学んだ内容について復習すること			増田 雄亮	
7	症例基盤型学習④ (課題点の抽出・統合と解釈)	作業療法で焦点化するべき課題の抽出と整理を行い、人・作業・環境の視点から作業遂行の阻害要因について統合と解釈を行う。【グループ学習】 事前学習(20分):身体障害作業療法学Ⅰ/Ⅱで学んだ内容を復習しておくこと 事後学習(20分):第7回目の授業で学んだ内容について復習すること			増田 雄亮	
8	症例基盤型学習⑤ (長期目標・短期目標の設定)	作業に焦点を当てた長期目標の設定とそれを具体的に達成するための短期目標を設定する。【グループ演習】 事前学習(20分):身体障害作業療法学Ⅰ/Ⅱで学んだ内容を復習しておくこと 事後学習(20分):第8回目の授業で学んだ内容について復習すること			増田 雄亮	
9	症例基盤型学習⑥ (ガイドラインの調べ学習) (プレゼンテーションの準備)	脳卒中治療ガイドライン・作業療法ガイドラインを参照しながら、様々な治療法に関するエビデンス、治療メカニズム、適用範囲などについて理解を深める。【グループ演習】 事前学習(20分):脳血管障害に対する作業療法について調べ学習を行うこと 事後学習(30分):教員指導の下で、プレゼンテーションの準備を行うこと			増田 雄亮	
10	症例基盤型学習⑦ (ガイドラインの調べ学習) (プレゼンテーションの準備)	脳卒中治療ガイドライン・作業療法ガイドラインを参照しながら、様々な治療法に関するエビデンス、治療メカニズム、適用範囲などについて理解を深める。【グループ演習】 事前学習(20分):脳血管障害に対する作業療法について調べ学習を行うこと 事後学習(30分):教員指導の下で、プレゼンテーションの準備を行うこと			増田 雄亮	
11	プレゼンテーション① (ガイドラインの理解)	脳卒中ガイドライン・作業療法ガイドラインに記載された治療法について、エビデンス、治療メカニズム、適用範囲など各グループが調べた内容を発表し合う。【プレゼンテーション】 事前学習(20分):第1回～第10回の授業内容を復習すること 事後学習(20分):第10回目の授業で学んだ内容について復習すること			増田 雄亮	

12	症例基盤型学習⑧ (作業療法プログラムの立案) (プレゼンテーション準備)	エビデンスを考慮しながら作業療法プログラムを立案する。【グループ演習】 事前学習(20分): 脳血管障害に対する作業療法について調べ学習を行うこと 事後学習(20分): 教員指導の下で、プレゼンテーションの準備を行うこと	増田 雄亮
13	症例基盤型学習⑨ (作業療法プログラムの立案) (プレゼンテーション準備)	エビデンスを考慮しながら作業療法プログラムを立案する。【グループ演習】 事前学習(20分): 脳血管障害に対する作業療法について調べ学習を行うこと 事後学習(20分): 教員指導の下で、プレゼンテーションの準備を行うこと	増田 雄亮
14	プレゼンテーション② (評価・治療計画)	中枢神経系に疾患や障害を有する事例に対し、ICFを解釈し、作業療法の基本方針・目標設定・プログラムを立案・計画した内容について、プレゼンテーションを行う。【プレゼンテーション】 事前学習(20分): 第1回～第13回の授業内容を復習すること 事後学習(20分): 第14回目の授業で学んだ内容について復習すること	増田 雄亮
15	まとめ Shared Disition Making(共有意思決定)の理解 11月24日(金)1限@評価実習室	クライアントとリハビリテーションの方針を共有するために、エビデンスや価値を含むShared Disition Making(共有意思決定)の概念について講義し、本科目のまとめとする。 事前学習(20分): 第14回までに学んだ内容を復習しておくこと 事後学習(30分): 第15回の授業で学んだ内容について復習すること	増田 雄亮

評価	個人・グループレポート70%、プレゼンテーション30%
課題に対するフィードバックの方法	レポート課題とプレゼンテーションの得点を合わせて公開する。
教科書	日本作業療法士協会(監修): 作業療法学全書改訂第3版 第4巻 作業治療学1 身体障害、協同医書出版社、2008、ISBN: 978-4-7639-2121-5
参考図書など	脳卒中治療ガイドライン、作業療法ガイドラインなどの診療ガイドラインを適宜紹介する。
アクティブ・ラーニング	実技演習、調べ学習、プレゼンテーションなどを実施する。
実務経験のある教員による授業	リハビリテーション医療における作業療法実践の経験を活かし、身体障害作業療法の基本的な治療プログラムに関する講義・演習と症例基盤型学習を実施する。
留意事項	これまでの各科目で学んだ内容を作業療法実践へ応用するために、統合的な演習を実施する。特に、「身体障害作業療法学Ⅰ/Ⅱ」「高次脳機能障害作業療法学」「運動学」「日常生活支援論」「作業分析学」「作業療法理論」「作業療法研究法」に関連する内容を取り扱う。事前学習と事後学習をしっかりと行い、これまでの学びを統合できるように努めること。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
精神障害作業療法学Ⅰ(総論) Psychiatric Occupational Therapy Ⅰ	必修	講義	1単位 (30時間)	2年後期	作業療法学専攻教員	○
ナンバリングコード	HPTE2/HOTF1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP2) 科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3) 相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4) 保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。					
作業治療学						
授業概要	精神障害に対する保健医療福祉の歴史の変遷や障害の捉え方、この領域におけるリハビリテーションの発展と作業療法が果たす機能・役割、治療構造などを踏まえた評価から治療・援助へ至る一連の作業療法の流れを体系的に学習する。また、代表的な理論・モデル・技法の基礎知識を修得すると共に、主たる対象疾患の臨床像を理解する。さらに各疾患における適切な作業療法の評価法や治療、指導、援助内容、実践領域や場について理解を深め、作業療法の役割を学ぶ。					
到達目標	1) 精神保健医療福祉の歴史と現在の課題について理解し、説明できる 2) 精神障害作業療法の基本的な視点・方法論を説明できる 3) 精神障害作業療法に関連する理論を理解し、説明できる 4) 精神障害作業療法の基本的実践論を理解し、説明できる					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)			担当教員	
1	精神障害作業療法の概要1	精神医療の歴史と作業療法を概説し、障害概念の変遷と作業療法の理念の変遷についても概説する。 事前学習(30分): 精神保健医療福祉と作業療法(歴史) 事後学習(30分): 精神医療と作業療法(歴史)			作業療法学 専攻教員	
2	精神障害作業療法の概要2	精神医療の治療と作業療法の基本的構造について概説し、同時に、精神保健医療福祉の流れと作業療法が求められている役割及び変遷について概説する。 事前学習(30分): グランドデザイン・障害者総合支援法 事後学習(30分): 地域移行・障害者の権利			作業療法学 専攻教員	
3	作業とライフサイクルとその生活課題・ニーズ	対象者のニーズ・課題をライフサイクル含め概説し、実践的に作業療法面接での方法を概説する。 事前学習(30分): 対象者のニーズとは 事後学習(30分): ライフサイクル論と自己実現			作業療法学 専攻教員	
4	作業療法の治療構造と実践形態	作業療法の治療構造を概説し、個別作業療法から集団作業療法の特性を概説する。患者・治療者間の治療関係を重視し、治療展開することを概説する。 事前学習(30分): 作業療法の構造とその要素 事後学習(30分): 個別・集団作業療法の特性			作業療法学 専攻教員	
5	回復時期に応じた作業療法急性期から維持期	時期別(回復状態)に応じた作業療法の展開を概説する。その他クリティカルパス、ケースカンファレンス、チーム連携を概説する。 事前学習(30分): 急性期・回復期・維持期とは 事後学習(30分): 時期別作業療法の目的			作業療法学 専攻教員	
6	回復時期に応じた作業療法地域と生活支援	時期別(回復状態)に応じた治療構造と実践の場を概説する。また同時に、個別作業療法・集団作業療法を解説する。 事前学習(10分): 維持期と再発予防 事後学習(10分): 地域での作業療法(訪問含む)・就労支援			作業療法学 専攻教員	
7	疾患・障害別作業療法	疾患・障害別作業療法を概説する。その上で統合失調症の障害像を概説すると同時に、統合失調症の作業療法を概説する。 事前学習(20分): 疾患別作業療法の特性 事後学習(40分): 統合失調症の特徴			作業療法学 専攻教員	
8	精神分析と作業療法	精神分析と精神療法について概説する。その上で、精神分析的作業療法について理解し、実習する。 事前学習(20分): 精神分析とは 事後学習(40分): 精神分析と作業療法			作業療法学 専攻教員	
9	認知行動療法と作業療法	認知行動療法を概説する。その上で、認知のゆがみや自動思考を理解し、コラム法を利用し行動変容へ導く方法を実習する。 事前学習(20分): 認知とは 事後学習(40分): 認知行動療法の実際			作業療法学 専攻教員	
10	社会生活技能訓練SSTと作業療法	社会生活技能訓練SSTを概説する。その上で、基本訓練モデル、問題解決技能訓練モデルを理解し、実習する。 事前学習(20分): 社会生活技能訓練とは 事後学習(40分): 基本訓練モデル、問題解決技能訓練モデル			作業療法学 専攻教員	
11	心理教育・家族支援と作業療法リカバリーモデル	作業療法と認知行動療法・SST・心理教育の構造について概説する。その上で、本人に対する心理教育、家族に対する心理教育について理解し、実習する。 事前学習(20分): 心理教育とは 事後学習(40分): 本人向け心理教育・家族向け心理教育			作業療法学 専攻教員	
12	森田療法と作業療法	神経症の治療として発展した森田療法とその経緯を概説する。森田療法と作業療法と概説する。 事前学習(20分): 森田療法とは 事後学習(40分): 森田療法と作業療法の特性			作業療法学 専攻教員	

13	芸術療法、園芸療法、動物療法と作業療法	芸術療法・園芸療法・動物療法を概説する。投影的自己表現の作業特性について概説する。治療展開について概説する。 事前学習(20分):芸術療法の種類 事後学習(40分):作業療法での治療的活用とその特性	作業療法学 専攻教員
14	医療観察制度の作業療法	心神喪失等医療観察制度における作業療法を概説する。また、リスク評価とストレス支援を概説する。 事前学習(20分):医療観察法とその経緯 事後学習(40分):リスク評価・ストレス支援	作業療法学 専攻教員
15	まとめと作業療法実践	グループワークを活用しながら作業療法治療と実践のまとめを行い、要点を再確認する。 事前学習(30分):精神科作業療法とは 事後学習(30分):治療構造・回復期別作業療法・種々の作業療法治療	作業療法学 専攻教員

評価	定期試験100%
課題に対するフィードバックの方法	課題や試験等については、そのポイント等も含め事前に公表し、開示する。また課題や試験の結果については開示し、説明、教授し、フィードバックを行う。
教科書	「作業治療学2 精神障害(改訂第3版, 2010)」日本作業療法協会監修 協同医書 ISBN:978-4-7639-2122-2
参考図書など	「生活を支援する精神障害作業療法(改訂第2版, 2014)」香山明美ほか編 医歯薬出版
アクティブ・ラーニング	授業ではグループワークを度々行いながら学習するので、積極的に取り組むこと。また、話し合ったことを主体的に発表すること。
実務経験のある教員による授業	精神医療センター、就労支援、保護観察所において精神障害者のリハビリテーションに従事経験を生かし講義する。また厚生労働省・法務省勤務において障害者支援制度の構築の従事経験の立場からも講義する。
留意事項	精神科作業療法治療の基礎となる科目である。心になんらか問題を抱える方への基本的なアプローチを学ぶことから、他障害領域でも必要となる知識であるため、復習をしっかりと実施し、学習をより深めること。

授業科目の名称		必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験 のある教員 による科目
精神障害作業療法学Ⅱ(各論) Study of psychiatric occupational therapy Ⅱ		必修	演習	1単位 (30時間)	3年前期	三川 年正	○
ナンバリングコード	HOTF1	オフィスアワー		本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分		卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目		DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
作業治療学							
授業概要	精神障害作業療法学Ⅰ(総論)で学んだ知識をもとに、対象者に対する疾患別・障害別の評価や治療技法について演習や実技を通して、その知識・技能を深める。評価では、情報収集や記録・報告、観察、面接、質問紙を用いた評価法の実践技能を修得する。治療技法については作業活動や集団療法、心理教育や家族支援、SST(生活技能訓練)等について、目的や方法を理解し治療プログラムの立案が出来るように学習をすすめる。						
到達目標	1)疾患別の作業療法評価について、理解できる。 2)疾患別の作業療法の治療について、理解できる。 3)評価結果から治療プログラムの立案までの流れを理解できる。						
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)				担当教員	
1	精神科作業療法的手段	作業・作業活動を介した回復支援、生活支援 事前学習(30分):教科書P87-P130の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分):参考図書、配布資料を基に授業全体について復習する。				三川 年正	
2	作業療法がおこなわれる場	作業療法の治療構造と実践の場、プロセス 事前学習(30分):教科書P87-P130の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分):参考図書、配布資料を基に授業全体について復習する。				三川 年正	
3	統合失調症に対する評価	統合失調症に対する作業療法評価の理解を深める。 事前学習(30分):教科書P131-P140の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分):参考図書、配布資料を基に授業全体について復習する。				三川 年正	
4	統合失調症に対する作業療法	統合失調症に対する作業療法の理解を深める。 事前学習(30分):教科書P131-P140の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分):参考図書、配布資料を基に授業全体について復習する。				三川 年正	
5	気分障害に対する評価	気分障害に対する作業療法を理解を深める。 事前学習(30分):教科書P141-P148の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分):参考図書、配布資料を基に授業全体について復習する。				三川 年正	
6	気分障害に対する作業療法	気分障害に対する作業療法を理解を深める。 事前学習(30分):教科書P141-P148の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分):参考図書、配布資料を基に授業全体について復習する。				三川 年正	
7	神経症圏に対する評価	神経症圏に対する作業療法を理解を深める。 事前学習(30分):教科書P149-P154の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分):参考図書、配布資料を基に授業全体について復習する。				三川 年正	
8	神経症圏に対する作業療法	神経症圏に対する作業療法を理解を深める。 事前学習(30分):教科書P149-P154の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分):参考図書、配布資料を基に授業全体について復習する。				三川 年正	
9	パーソナリティ障害に対する作業療法	パーソナリティ障害に対する作業療法を理解を深める。 事前学習(30分):教科書P161-P167の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分):参考図書、配布資料を基に授業全体について復習する。				三川 年正	
10	児童・思春期の障害に対する作業療法	児童・思春期の障害に対する作業療法を理解を深める。 事前学習(30分):教科書P168-P174の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分):参考図書、配布資料を基に授業全体について復習する。				三川 年正	
11	器質性精神障害に対する作業療法	器質性精神障害に対する作業療法を理解を深める。 事前学習(30分):教科書P174-P181の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分):参考図書、配布資料を基に授業全体について復習する。				三川 年正	

12	てんかんに対する作業療法	てんかんに対する作業療法を理解を深める。 事前学習(30分):教科書P188-P193の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分):参考図書、配布資料を基に授業全体について復習する。	三川 年正
13	アルコール・薬物依存に対する作業療法	アルコール・薬物依存に対する作業療法を理解を深める。 事前学習(30分):教科書P194-P197の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分):参考図書、配布資料を基に授業全体について復習する。	三川 年正
14	摂食障害に対する作業療法	知的障害・発達障害に対する作業療法を理解を深める。 事前学習(30分):教科書P154-P160の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分):参考図書、配布資料を基に授業全体について復習する。	三川 年正
15	疾患・障害別作業療法のまとめ	疾患・障害別作業療法の実際について理解を深める。 事前学習(30分):講義中に配布した資料に目を通す。 事後学習(30分):参考図書、配布資料を基に授業全体について復習する。	三川 年正

評価	期末試験70% 授業の参加態度30%
課題に対するフィードバックの方法	希望者を対象にオフィスアワーにてフィードバックを実施する。
教科書	精神障害と作業療法 新版 ISBN:978-4-89590-583-1
参考図書など	生活を支援する精神障害作業療法 急性期から地域実践まで ISBN:978-4-263-21933-1
アクティブ・ラーニング	ディスカッションやグループワークを行う
実務経験のある教員による授業	精神科作業療法士としての臨床経験と研究活動を活かして実践的な講義を行う。
留意事項	授業の参加態度とは、積極的な授業への参加を指す。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
発達障害作業療法学Ⅰ(総論) Occupational Therapy in the Developmental Disabilities - I -	必修	講義	1単位 (30時間)	3年前期	笹田 哲	○
ナンバリングコード	HOTF1		オフィスアワー 本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー 一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
作業治療学						
授業概要	発達障害における対象と障害像を理解し、作業療法士に求められる役割について学習する。対象者をより深く理解するために、発達理論、発達過程と発達課題、代表的な評価・検査法、運動・反射・反応の発達、学習の発達、などを学ぶ。また、ライフステージに沿った支援のあり方、遊びの発達を学習し、発達障害における遊びの役割について考え、治療に応用するための基本的知識を身につける。さらにプログラム立案から実施までの流れの理解や、子どもを対象とする上での治療的関わり方の基本を学習する。					
到達目標	1) 発達障害の基本的な概念を理解できる 2) 発達障害に対する作業療法評価に必要な知識(運動や認知、社会性、遊びなどの定型発達)を習得できる 3) 評価結果から作業療法介入までの基本的な方略について説明できる					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)				担当教員
1	発達障害児のリハビリテーションと作業療法	発達障害児の概念や歴史を理解し、作業療法の果たす役割や特徴を学習する また、次回の授業内確認テストについてグループワークで検討する 事前学習(60分):小児科学、人間発達学、発達心理学の当該内容を復習しておく 事後学習(60分):授業内容を振り返り、まとめる				笹田 哲
2	発達過程と評価・方法・プロセス	発達理論、発達過程と発達課題、評価方法を理解し、どのような作業療法過程を実施するのかを障害特性に応じて学習する また、次回の授業内確認テストについてグループワークで検討する 事前学習(60分):小児科学、人間発達学、発達心理学の当該内容を復習しておく 事後学習(60分):授業内容を振り返り、まとめる				笹田 哲
3	姿勢と運動:反射・反応とその評価	姿勢・運動・反射・反応の発達に伴う変化を理解し、それらの評価方法を学習する また、次回の授業内確認テストについてグループワークで検討する 事前学習(60分):運動学などで学習した動作分析の方法について確認しておく 事後学習(60分):授業内容を振り返り、まとめる				笹田 哲
4	姿勢と運動:発達に伴う変化と障害	姿勢・運動・反射・反応の発達に伴う変化と障害によって生じる問題について評価・分析する また、次回の授業内確認テストについてグループワークで検討する 事前学習(60分):前回の学習内容と使用した資料を用いて復習しておく 事後学習(60分):授業内容を振り返り、まとめる				笹田 哲
5	上肢機能の発達	上肢機能の発達に伴う変化を理解し、それらの評価方法を学習する また、次回の授業内確認テストについてグループワークで検討する 事前学習(60分):人間発達学や作業療法評価学などで上肢機能に関する内容を復習しておく 事後学習(60分):授業内容を振り返り、まとめる				笹田 哲
6	上肢機能の発達に伴う変化と障害	上肢機能の発達に伴う変化と障害によって生じる問題について評価・分析する また、次回の授業内確認テストについてグループワークで検討する 事前学習(60分):前回の学習内容と使用した資料を用いて復習しておく 事後学習(60分):授業内容を振り返り、まとめる				笹田 哲
7	知覚・認知機能の発達	知覚・認知機能の発達に伴う変化を理解し、それらの評価方法を学習する また、次回の授業内確認テストについてグループワークで検討する 事前学習(60分):人間発達学や作業療法評価学、発達心理学などの知覚・認知機能に関する内容を復習しておく 事後学習(60分):授業内容を振り返り、まとめる				笹田 哲
8	知覚・認知機能の発達に伴う変化と障害	知覚・認知機能の発達に伴う変化と障害によって生じる問題について評価・分析する また、次回の授業内確認テストについてグループワークで検討する 事前学習(60分):前回の学習内容と使用した資料を用いて復習しておく 事後学習(60分):授業内容を振り返り、まとめる				笹田 哲
9	言語発達と知能の発達	言語と知能の発達に伴う変化を理解し、それらの評価方法を学習する また、次回の授業内確認テストについてグループワークで検討する 事前学習(60分):人間発達学や作業療法評価学、発達心理学などの言語発達と知能に関する内容を復習しておく 事後学習(60分):授業内容を振り返り、まとめる				笹田 哲
10	言語発達と知能の発達に伴う変化と障害	言語と知能の発達に伴う変化と障害によって生じる問題について評価・分析する また、次回の授業内確認テストについてグループワークで検討する 事前学習(60分):前回の学習内容と使用した資料を用いて復習しておく 事後学習(60分):授業内容を振り返り、まとめる				笹田 哲
11	コミュニケーションと社会性	コミュニケーションと社会性の発達と障害によって生じる問題について評価方法を学習し、評価分析する また、次回の授業内確認テストについてグループワークで検討する 事前学習(60分):人間発達学や作業療法評価学、発達心理学などのコミュニケーションと社会性の発達に関する内容を復習しておく 事後学習(60分):授業内容を振り返り、まとめる				笹田 哲

12	生活技能の発達	基本的な生活技能の発達を理解し、それらの評価方法を学習する また、次回の授業内確認テストについてグループワークで検討する 事前学習(60分): 人間発達学や作業療法評価学、発達心理学などの生活技能の発達に関する内容を復習しておく 事後学習(60分): 授業内容を振り返り、まとめる	笹田 哲
13	基本的な生活技能の獲得	基本的な生活技能の獲得を支援する方法について学習する また、次回の授業内確認テストについてグループワークで検討する 事前学習(60分): 前回の学習内容と使用した資料を用いて復習しておく 事後学習(60分): 授業内容を振り返り、まとめる	笹田 哲
14	遊びの発達	遊びの発達と役割、その評価方法を学習し、作業療法と遊びの関係を理解する また、次回の授業内確認テストについてグループワークで検討する 事前学習(60分): 人間発達学や作業療法評価学、発達心理学などの遊びと発達に関する内容を復習しておく 事後学習(60分): 授業内容を振り返り、まとめる	笹田 哲
15	まとめ	本授業をまとめ、総括する。また、定期試験についてグループワークで検討する 事前学習(60分): これまでに学習した内容を確認しておく 事後学習(60分): 授業内容を振り返り、まとめる	笹田 哲

評価	定期試験60%、授業内確認テスト40%
課題に対する フィードバックの方法	定期試験は結果の講評の掲示及び個別に伝える 授業内確認テストは授業内で講評を伝える
教科書	イラストでわかる発達障害の作業療法/上杉雅之監修 辛島千恵子編集/第1版/医歯薬出版/2016/ISBN:978-4-263-21717-7 標準作業療法学 専門分野 発達過程作業療法学 第3版/加藤寿宏編集/医学書院/2020/ISBN:978-4-260-04082-2
参考図書など	作業療法全書改訂第3版 第6巻 作業治療学3 発達障害/日本作業療法士協会編/協同医学出版社/2010/ISBN:978-4-7639-2123-9 動画でわかる小児神経の診かた/藤井克則編/羊土社/2020/ISBN:978-4-7581-1871-2 [DVD]現代心理学 発達と支援 胎児期～幼児期/田島信元 監修/2011/サン・エデュケーション 随時紹介する
アクティブ・ラーニング	課題解決型の事前学習を元に授業内を進行する。また学習の振り返りを目的として授業内確認テスト、定期テストの設問の一部をグループワークを通して作成検討する
実務経験のある 教員による授業	発達障害領域での作業療法経験を活かし、発達障害の要因や支援の枠組み、評価について授業を実施する
留意事項	人間発達学、小児科学、発達心理学など既習科目の知識をもとに授業を行う

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
発達障害作業療法Ⅱ(各論) Occupational Therapy in the Developmental Disabilities - II -	必修	演習	1単位 (30時間)	3年後期	笹田 哲	○
ナンバリングコード	HOTF1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
作業治療学						
授業概要	発達障害の作業療法における治療理論と実際の支援方法について学習する。とくに遊びの療法的応用とその効果について理解を深め、代表的な疾患・障害(脳性麻痺、神経筋疾患、学習障害、注意欠陥多動性障害、汎汎性発達障害、知的障害等)について、その臨床像における療法的視点、治療計画の立案、介入の実際を学習し、治療の基本的技術について演習を通して修得する。また、発達段階とその段階における発達課題を理解し、玩具や遊具を用いた多角的な療法的介入の仕方について、実際の体験を通して理解を深める。					
到達目標	1) 発達障害作業療法における代表的な疾患について、発達課題の評価、治療理論、療法的介入、遊びの利用、支援機器や自助具の適応、療育についてなどを理解できる 2) 模擬症例を通して、評価の方法、解釈、治療計画立案の流れを理解できる					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習 (予習・復習・課題等)			担当教員	
1	神経・筋疾患	神経・筋疾患の障害構造の評価、治療原理、治療手技や療育体制を学習する また、次回の授業内確認テストについてグループワークで検討する 事前学習(60分): 既習科目の当該内容を復習、教科書の該当箇所を通読しておく 事後学習(60分): 授業内容を振り返り、まとめる			笹田 哲	
2	筋・骨格系障害、脊髄障害	筋・骨格系障害、脊髄障害の障害構造の評価、治療原理、治療手技や学習する また、次回の授業内確認テストについてグループワークで検討する 事前学習(60分): 既習科目の当該内容を復習、教科書の該当箇所を通読しておく 事後学習(60分): 授業内容を振り返り、まとめる			笹田 哲	
3	知的障害	知的障害の障害構造の評価、治療原理、治療手技や療育体制を学習する また、次回の授業内確認テストについてグループワークで検討する 事前学習(60分): 既習科目の当該内容を復習、教科書の該当箇所を通読しておく 事後学習(60分): 授業内容を振り返り、まとめる			笹田 哲	
4	脳性麻痺などの中枢神経疾患	脳性麻痺などの中枢神経疾患の障害構造の評価、治療原理、治療手技や療育体制を学習する また、次回の授業内確認テストについてグループワークで検討する 事前学習(60分): 既習科目の当該内容を復習、教科書の該当箇所を通読しておく 事後学習(60分): 授業内容を振り返り、まとめる			笹田 哲	
5	脳性麻痺などの中枢神経疾患	脳性麻痺などの中枢神経疾患の障害構造の評価、治療原理、治療手技や療育体制を学習する また、次回の授業内確認テストについてグループワークで検討する 事前学習(60分): 配付資料や前回の授業を用いて復習しておく 事後学習(60分): 授業内容を振り返り、まとめる			笹田 哲	
6	重症心身障害	重症心身障害の評価、治療原理、治療手技や療育体制を学習する また、次回の授業内確認テストについてグループワークで検討する 事前学習(60分): 既習科目の当該内容を復習、教科書の該当箇所を通読しておく 事後学習(60分): 授業内容を振り返り、まとめる			笹田 哲	
7	自閉症スペクトラム障害	自閉症スペクトラム障害の評価、治療原理、治療手技や療育体制を学習する また、次回の授業内確認テストについてグループワークで検討する 事前学習(60分): 既習科目の当該内容を復習、教科書の該当箇所を通読しておく 事後学習(60分): 授業内容を振り返り、まとめる			笹田 哲	
8	限局性学習障害、注意欠如・多動性障害	限局性学習障害、注意欠如・多動性障害の評価、治療原理、治療手技や療育体制を学習する また、次回の授業内確認テストについてグループワークで検討する 事前学習(60分): 既習科目の当該内容を復習、教科書の該当箇所を通読しておく 事後学習(60分): 授業内容を振り返り、まとめる			笹田 哲	
9	発達性協調運動障害	発達性協調運動障害の評価、治療原理、治療手技や療育体制を学習する また、次回の授業内確認テストについてグループワークで検討する 事前学習(60分): 配付資料や前回の授業を用いて復習しておく 事後学習(60分): 授業内容を振り返り、まとめる			笹田 哲	
10	発達障害を想定した支援機器	発達障害を想定した支援機器についてを学習する また、次回の授業内確認テストについてグループワークで検討する 事前学習(60分): 既習科目の当該内容を復習、教科書の該当箇所を通読しておく 事後学習(60分): 授業内容を振り返り、まとめる			笹田 哲	
11	模擬症例を用いた症例検討	模擬症例を用いて、評価とその解釈、治療の立案を行い、具体的な訓練プログラムを作成する また、次回の授業内確認テストについてグループワークで検討する 事前学習(60分): 配付資料を読み、模擬症例について理解しておく 事後学習(60分): 授業内容を振り返り、まとめる			笹田 哲	
12	模擬症例を用いた症例検討	模擬症例を用いて、評価とその解釈、治療の立案を行い、具体的な訓練プログラムを作成する また、次回の授業内確認テストについてグループワークで検討する 事前学習(60分): 配付資料を読み、模擬症例について理解しておく 事後学習(60分): 授業内容を振り返り、まとめる			笹田 哲	

13	模擬症例を用いた症例検討	模擬症例を用いて、評価とその解釈、治療の立案を行い、具体的な訓練プログラムを作成する また、次回の授業内確認テストについてグループワークで検討する 事前学習(60分): 配付資料を読み、模擬症例について理解しておく 事後学習(60分): 授業内容を振り返り、まとめる	笹田 哲
14	模擬症例を用いた症例検討	模擬症例を用いて、評価とその解釈、治療の立案を行い、具体的な訓練プログラムを作成する また、次回の授業内確認テストについてグループワークで検討する 事前学習(60分): 配付資料を読み、模擬症例について理解しておく 事後学習(60分): 授業内容を振り返り、まとめる	笹田 哲
15	まとめ	まとめ 事前学習(60分): 配付資料などを通読しておく 事後学習(60分): 配付資料など、授業全体について復習する	笹田 哲

評価	定期試験60%、授業内確認テスト40%
課題に対する フィードバックの方法	定期試験は結果の講評の掲示及び個別に伝える 授業内確認テストは授業内で講評を伝える
教科書	イラストでわかる発達障害の作業療法/上杉雅之監修 辛島千恵子編集/第1版/医歯薬出版/2016/ISBN:978-4-263-21717-7 標準作業療法学 専門分野 発達過程作業療法学 第3版/加藤寿宏編集/医学書院/2020/ISBN:978-4-260-04082-2
参考図書など	作業療法全書改訂第3版 第6巻 作業治療学3 発達障害/日本作業療法士協会編/協同医学出版社/2010/ISBN:978-4-7639-2123-9 作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学(第3版)/神作一実 編集/メジカルビュー社/2021/ISBN:978-4-7583-2047-4 新訂版 写真でわかる 重症心身障害児(者)のケアアドバンス/鈴木康之 監修/インターメディカ/2020/ISBN:978-4-89996-426-1 子どもの能力から考える 発達障害領域の作業療法アプローチ 改訂第2版/小西紀一 編集/メジカルビュー社/2018/ISBN:978-4-7583-1932-4 重症心身障害児・者医療ハンドブック/小川勝彦 著/三学出版/第3版/2021/ISBN:978-4-908877-38-4 近代ボース概念による正常発達分析-脳性麻痺の治療示唆/紀伊克昌 監修/三輪書店/2022/ISBN:978-4-895590-750-7 発達をうながすハンドリング-生活動作の介助ポイント/鴨下賢一 編著/三輪書店/2022/ISBN:978-895590-759-0 その他随時紹介する
アクティブ・ラーニング	課題解決型の事前学習を元に授業内を進行する。また学習の振り返りを目的として授業内確認テスト、定期テストの設問の一部をグループワークを通して作成検討する
実務経験のある 教員による授業	発達障害領域での作業療法経験を活かし、発達障害の要因や支援の枠組み、評価及び作業療法支援について授業を実施する
留意事項	発達障害作業療法学I(総論)、人間発達学、小児科学、発達心理学など既習科目の知識をもとに授業を行うとともに、同時期に開講する地域作業療法学IV(身体障害・発達障害)の発達障害分野の授業と密接に関連した内容と授業進行になります。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
老年期作業療法学Ⅰ(総論) Occupational Therapy for Senile Disorders I	必修	講義	1単位 (30時間)	3年前期	田島明子	○
ナンバリングコード	HOTF1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。					
作業治療学						

**授業概要**  
急速な高齢化への対応が、社会全体での重要な課題の一つとなっている。この講義では、老年期障害の対象者を理解するため、人生のまとめの段階としての老年期の捉え方や、急速な高齢化の進展と高齢者・諸制度や家族の状況、老年期に特徴的な疾患、評価法と治療過程・介入方法とその理論、リスク管理などを通して、老年期作業療法の臨床実践で用いられる基本的知識や技術を修得する

**到達目標**  
1) 高齢者の医療・福祉における現状を理解する  
2) 高齢者の身体的・精神的・社会的特徴を理解する  
3) 高齢者に対する作業療法の基盤を理解する  
4) 作業療法の対象となる認知症の概要を理解する

回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）	担当教員
1	老いについて考える	「老いる」ことについて概説する。 事前学習(20分):教科書・配付資料等の該当箇所を事前に読む 事後学習(30分):配付資料等、授業全般について復習する	田島 明子
2	高齢期の身体・精神・社会的特徴 ①	高齢者の身体・精神・社会的特徴について概説する。 事前学習(20分):教科書・配付資料等の該当箇所を事前に読む 事後学習(30分):配付資料等、授業全般について復習する	田島 明子
3	高齢期の身体・精神・社会的特徴 ②	高齢者の身体・精神・社会的特徴について概説する。 事前学習(20分):教科書・配付資料等の該当箇所を事前に読む 事後学習(30分):配付資料等、授業全般について復習する	田島 明子
4	高齢期の身体・精神・社会的特徴 ③	高齢者の身体・精神・社会的特徴について概説する。 事前学習(20分):教科書・配付資料等の該当箇所を事前に読む 事後学習(30分):配付資料等、授業全般について復習する	田島 明子
5	高齢期の身体・精神・社会的特徴 ④	高齢者の身体・精神・社会的特徴について概説する。 事前学習(20分):教科書・配付資料等の該当箇所を事前に読む 事後学習(30分):配付資料等、授業全般について復習する	田島 明子
6	高齢期の身体・精神・社会的特徴 ⑤	高齢者の身体・精神・社会的特徴について概説する。 事前学習(20分):教科書・配付資料等の該当箇所を事前に読む 事後学習(30分):配付資料等、授業全般について復習する	田島 明子
7	高齢期と家族①	高齢期を家族の側面から概説する。 事前学習(20分):教科書・配付資料等の該当箇所を事前に読む 事後学習(30分):配付資料等、授業全般について復習する	田島 明子
8	高齢期と家族②	高齢期を家族の側面から概説する。 事前学習(20分):教科書・配付資料等の該当箇所を事前に読む 事後学習(30分):配付資料等、授業全般について復習する	田島 明子
9	介護保険法と高齢期作業療法①	介護保険法のもとで実施される作業療法を中心に解説する。 事前学習(20分):教科書・配付資料等の該当箇所を事前に読む 事後学習(30分):配付資料等、授業全般について復習する	田島 明子
10	介護保険法と高齢期作業療法②	介護保険法のもとで実施される作業療法を中心に解説する。 事前学習(20分):教科書・配付資料等の該当箇所を事前に読む 事後学習(30分):配付資料等、授業全般について復習する	田島 明子
11	介護保険法と高齢期作業療法③	介護保険法のもとで実施される作業療法を中心に解説する。 事前学習(20分):教科書・配付資料等の該当箇所を事前に読む 事後学習(30分):配付資料等、授業全般について復習する	田島 明子
12	介護保険法と高齢期作業療法④	介護保険法のもとで実施される作業療法を中心に解説する。 事前学習(20分):教科書・配付資料等の該当箇所を事前に読む 事後学習(30分):配付資料等、授業全般について復習する	田島 明子

13	認知症の人の理解と作業療法①	認知症の人の理解と作業療法を中心に解説する。 事前学習(20分):教科書・配付資料等の該当箇所を事前に読む 事後学習(30分):配付資料等,授業全般について復習する	田島 明子
14	認知症の人の理解と作業療法②	認知症の人の理解と作業療法を中心に解説する。 事前学習(20分):教科書・配付資料等の該当箇所を事前に読む 事後学習(30分):配付資料等,授業全般について復習する	田島 明子
15	認知症の人の理解と作業療法③	認知症の人の理解と作業療法を中心に解説する。 事前学習(20分):教科書・配付資料等の該当箇所を事前に読む 事後学習(30分):配付資料等,授業全般について復習する	田島 明子

評価	試験55%,小テスト・レポート課題:45%(5点×9回=45点)
課題に対するフィードバックの方法	課題の取り組み状況について改善を要する点は翌週授業内でフィードバックする
教科書	作業療法学全書 改訂第3版 第7巻 作業治療学4 老年期,村田和香 編,協同医書出版,東京,2008。(ISBN:978-4763921246)
参考図書など	1)鳥羽研二:高齢者の生活機能の総合的評価,新興医学出版社,東京,2010。(ISBN:9784880027104) 2)山田孝監修:クリニカル作業療法シリーズ 高齢期領域の作業療法 第2版,中央法規,東京,2016。(ISBN:978-4805853204) 3)Kielhofner,G.:人間作業モデル 理論と応用 改訂第4版,協同医書出版,東京,2012。(ISBN:978-4763921444)
アクティブ・ラーニング	授業内に小テスト、グループワーク・発表を適宜実施し、授業における主体的な学修状況、理解度・習熟度の確認をする
実務経験のある教員による授業	実務経験のある教員によって行われる
留意事項	本科目で学ぶ高齢期領域における作業療法は、老年期作業療法学Ⅱ(各論)で実践事例への応用を考える際の重要な基本事項になります

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
老年期作業療法学Ⅱ(各論) Occupational Therapy for Senile Disorders Ⅱ	必修	講義	1単位 (30時間)	3年後期	田島明子	○
ナンバリングコード	HOTF1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。					
作業治療学						
授業概要	老年期障害の作業療法を対象別・病期別(高齢期に特徴的な疾患、認知症、うつ症状などの精神障害をもつ高齢者等)に学習する。特に認知症高齢者への効果的な支援方針に軸を置いた、障害構造・行動特性等を含めた具体的な作業療法の臨床実践を実症例情報を介して学ぶ。症例検討はグループ別で実施し、症例についての検討内容を共有して情報交換することで、老年期障害への作業療法の視点や考え方についての理解を深める					
到達目標	1)老年期障害への作業療法実践について、対象・病期別の特徴を理解する 2)老年期作業療法の実際について、領域別に事例を通して理解する 3)事例検討のグループワークにより、老年期作業療法における評価の視点と介入の流れを共有し、整理することで理解を深める					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)			担当教員	
1	認知症の人への作業療法	・認知症のタイプ別のシナリオの紹介をする。 ・グループワークの方法について確認をする。 事前学習(60分):老年期作業療法学Ⅰで学んだ基本事項を復習しておく。 事後学習(60分):講義内容をノートに整理する。			田島 明子	
2	事例検討1・2・3	・グループワークの方法について確認をする。 ・提示された事例について、評価、介入計画を立案する。 事前学習(60分):老年期作業療法学Ⅰで学んだ基本事項を復習しておく。 事後学習(60分):講義内容をノートに整理する。			田島 明子	
3	事例検討1・2・3	提示された事例について、評価、介入計画を立案する。グループワークにより個人の意見を共有し、グループの見解をまとめる。 事前学習(60分):老年期作業療法学Ⅰで学んだ基本事項を復習しておく。 事後学習(60分):講義内容をノートに整理する。			田島 明子	
4	事例検討1・2・3	提示された事例について、評価、介入計画を立案する。グループワークにより個人の意見を共有し、グループの見解をまとめる。 事前学習(60分):老年期作業療法学Ⅰで学んだ基本事項を復習しておく。 事後学習(60分):講義内容をノートに整理する。			田島 明子	
5	事例検討1・2・3	提示された事例について、評価、介入計画を立案する。グループワークにより個人の意見を共有し、グループの見解をまとめる。 事前学習(60分):老年期作業療法学Ⅰで学んだ基本事項を復習しておく。 事後学習(60分):講義内容をノートに整理する。			田島 明子	
6	発表・振り返り	事例検討の結果を発表し、各グループでの学びを参加者全員で共有し合う機会とする。 事前学習(60分):老年期作業療法学Ⅰで学んだ基本事項を復習しておく。 事後学習(60分):講義内容をノートに整理する。			田島 明子	
7	高齢期障害者への作業療法	高齢期に特徴的な疾患別のシナリオを紹介する。 事前学習(60分):医療領域の実践を復習しておく。 事後学習(60分):発表課題に向けてグループワークの結果を整理する。			田島 明子	
8	事例検討4・5・6	提示された事例について、評価、介入計画を立案する。グループワークにより個人の意見を共有し、グループの見解をまとめる。 事前学習(60分):介護保険領域の実践を復習しておく。 事後学習(60分):発表課題に向けてグループワークの結果を整理する。			田島 明子	
9	事例検討4・5・6	提示された事例について、評価、介入計画を立案する。グループワークにより個人の意見を共有し、グループの見解をまとめる。 事前学習(60分):老年期作業療法学Ⅰで学んだ基本事項を復習しておく。 事後学習(60分):講義内容をノートに整理する。			田島 明子	
10	事例検討4・5・6	提示された事例について、評価、介入計画を立案する。グループワークにより個人の意見を共有し、グループの見解をまとめる。 事前学習(60分):老年期作業療法学Ⅰで学んだ基本事項を復習しておく。 事後学習(60分):講義内容をノートに整理する。			田島 明子	
11	事例検討4・5・6	提示された事例について、評価、介入計画を立案する。グループワークにより個人の意見を共有し、グループの見解をまとめる。 事前学習(60分):老年期作業療法学Ⅰで学んだ基本事項を復習しておく。 事後学習(60分):講義内容をノートに整理する。			田島 明子	
12	発表・振り返り	事例検討の結果を発表し、各グループでの学びを参加者全員で共有し合う機会とする。 事前学習(60分):老年期作業療法学Ⅰで学んだ基本事項を復習しておく。 事後学習(60分)講義内容をノートに整理する。			田島 明子	

13	映画から認知症の人との関わり方を学ぶ	認知症の人へのケアを考える映像教材を視聴する。 事前学習(60分):配布資料の重点箇所を予習しておく。 事後学習(60分):講義内容をノートに整理する。	田島 明子
14	映画から認知症の人との関わり方を学ぶ	認知症の人へのケアを考える映像教材を視聴する。 事前学習(60分):配布資料の重点箇所を予習しておく。 事後学習(60分):講義内容をノートに整理する。	田島 明子
15	認知症の人の理解:パードンセントードケア、ユマニチュード他	認知症の人へのケアの倫理や関わり方を学ぶ。 事前学習(60分):配布資料の重点箇所を予習しておく。 事後学習(60分):講義内容をノートに整理する。	田島 明子

評価	レポート30%(2×15=30点)、発表30%(2×15=30点) ディスカッションへの参加状況40%(5×8=40点)
課題に対するフィードバックの方法	課題の取り組み状況について改善を要する点は翌週授業内でフィードバックする。
教科書	作業療法学全書 改訂第3版 第7巻 作業治療学4 老年期, 村田和香 編, 協同医書出版, 東京, 2008. (ISBN:978-4763921246)
参考図書など	1)山田孝・監修:クリニカル作業療法シリーズ 高齢期領域の作業療法 第2版. 中央法規, 2016年. 2)村田和香・編:老年期 作業治療学4, 作業療法学全書 改訂第3版. 協同医書出版社, 2008年. 3)宮口英樹監修:認知症をもつ人への作業療法アプローチ—視点・プロセス・理論—,MEDICALVIEW,2014年
アクティブ・ラーニング	PBLにて事例検討を行い、グループごとに担当した事例の発表をする。発表後に知識を補習するための講義をする。
実務経験のある教員による授業	実務経験のある教員が行う。
留意事項	演習への積極的な参加、レポート・発表の内容を重視します。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
高次脳機能障害作業療法学Ⅰ(総論) Higher Brain Dysfunction Occupational Therapy I (General)	必修	講義	1単位 (30時間)	3年前期	鈴木 雄介	○
ナンバリングコード	HOTF1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。					
作業治療学	DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
授業概要	脳血管障害や頭部外傷、認知症など、脳の病変や損傷によって引き起こされる認知障害は、さまざまな生活障害の原因となるため、作業療法目標の設定や治療計画立案時に考慮すべき重要な要素の一つである。作業療法士として臨床で必要な知識である高次脳機能障害の定義、症状と発現メカニズム、画像診断・症状・障害の見方とその評価、治療理論と具体的な治療方法等の基本を学ぶ。					
到達目標	1)大脳の局所機能と各高次脳機能障害の病態を関連づけて説明することができる 2)各高次脳機能障害の評価技術(観察、面接、検査、測定、解釈など)を身につける 3)評価結果を基に問題点の列挙と作業療法介入計画が立案できる					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)			担当教員	
1	高次脳機能障害とは	高次脳機能障害とはどのような障害なのか(教科書第1・6章) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる(予習確認テスト対策) 事後学習(30分):授業中に配布する宿題をする			鈴木 雄介	
2	大脳皮質の解剖と機能	大脳皮質の脳溝・脳回、機能について理解する 事前学習(20分):授業内容に関する予習をしてくる(予習確認テスト対策) 事後学習(30分):授業中に配布した資料を用いて復習する			鈴木 雄介	
3	大脳皮質の機能と脳画像の読み方	大脳皮質の機能と脳画像の読み方を理解する(教科書第3章) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる(予習確認テスト対策) 事後学習(30分):授業中に配布する宿題をする			鈴木 雄介	
4	注意障害の病態と評価	注意機能の各側面と評価方法について理解する(教科書第2章VI・IX、第5章IV) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる(予習確認テスト対策) 事後学習(30分):授業中に配布する宿題をする			鈴木 雄介	
5	言語障害の病態と評価	失語症とはどのような病態か、構音障害との違いはなにか(教科書第5章VI) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる(予習確認テスト対策) 事後学習(30分):授業中に配布する宿題をする			鈴木 雄介	
6	記憶障害の病態と評価	記憶の分類、記憶障害の評価について理解する(教科書第2章VIII、第5章V) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる(予習確認テスト対策) 事後学習(30分):授業中に配布する宿題をする			鈴木 雄介	
7	高次知覚に関する障害の病態と評価	各感覚様式の知覚について学習し失認症を理解する(教科書第2章IV、第5章I) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる(予習確認テスト対策) 事後学習(30分):授業中に配布する宿題をする			鈴木 雄介	
8	行為の障害の病態と評価	観念先行などの失行症の病態と評価について理解する(教科書第2章III、第5章II) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる(予習確認テスト対策) 事後学習(30分):授業中に配布する宿題をする			鈴木 雄介	
9	遂行機能障害の病態と評価	前頭葉機能を学習し遂行機能障害を理解する(教科書第2章X、第5章III) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(30分):授業中に配布する宿題をする			鈴木 雄介	
10	社会的行動障害の病態と評価	情動について学習し社会的行動障害を理解する(教科書第5章VII) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる(予習確認テスト対策) 事後学習(30分):授業中に配布する宿題をする			鈴木 雄介	
11	画像診断	CT、MRIの画像から病変部位を読み取り障害を予測する(教科書第3章) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(30分):授業中に配布する宿題をする			鈴木 雄介	
12	高次脳機能障害の治療と援助の基本	治療と援助の基本原則について理解する(教科書第4章) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(30分):授業中に配布した資料を復習する			鈴木 雄介	

13	高次脳機能障害の作業療法(Ⅰ)	特徴的な症状に対するアプローチを具体的に考え議論する 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(30分): 授業中に配布した資料を復習する	鈴木 雄介
14	高次脳機能障害の作業療法(Ⅱ)	特徴的な症状に対するアプローチを具体的に考え議論する 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(30分): 授業中に配布した資料を復習する	鈴木 雄介
15	症例検討	具体的な症例をもとに一連の作業療法介入をグループワークを中心に議論する 事前学習(20分): 授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(30分): 授業中に配布した資料を復習する	鈴木 雄介

評価	定期試験100%
課題に対するフィードバックの方法	授業中に予習確認のための小テストと事後学習としての宿題を課し、次回の授業中に課題に対する解説を行う。
教科書	作業療法学全書 改訂第3版 第8巻 作業治療学5 高次脳機能障害/日本作業療法士協会 監修 澁 雅子 編集/協同医書出版/3版/ISBN:978-4-7639-2125-3
参考図書など	高次脳機能障害マエストロシリーズ(3) リハビリテーション評価/鈴木孝治・早川裕子・種村留美/ 医歯薬出版ISBN: 978-4-263-21563-0
アクティブ・ラーニング	具体的な症例をもとに一連の作業療法介入をグループワークを中心に議論する。
実務経験のある教員による授業	身体障害領域の作業療法臨床経験を活かして、高次脳機能障害に関する基本的な知識とリハビリテーション手法についての考え方について講義する。
留意事項	「解剖学」、「生理学」、「脳神経外科学」、「神経内科学」、「リハビリテーション医学」、「老年医学概論」などの専門基礎科目での学習に関連する。必ず事前学習を行って授業に臨んでいただきたい。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
高次脳機能障害作業療法Ⅱ(各論) Higher brain dysfunction occupational therapy II	必修	演習	1単位 (15時間)	3年後期	鈴木 雄介	○
ナンバリングコード	HOTF1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。					
作業治療学	DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					

授業概要	臨床場面で実践できる高次脳機能障害に関わる各種検査の具体的方法を学ぶと共に、評価や結果の解釈とその思考の流れ等を学ぶ。具体的な高次脳機能障害の症例を題材に検討し、評価・介入方法の立案や実践についてまとめる。得られた結果を基に、グループごとに発表・討論を通して実用的な着眼点を明確にする。一連の学習を通して、高次脳機能障害のある人々への理解を深めると共に、効果的な介入に向けた作業療法士の役割について理解を深める。
------	--

到達目標	1)高次脳機能障害に対する各種神経心理学的検査を選択できる 2)神経心理学的検査の結果から障害を解釈できる 3)各高次脳機能障害に対する介入方法が立案できる
------	--

回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)	担当教員
1	1-1. 神経心理学的検査(概論) 1-2. 知的機能の評価	1-1. 神経心理学的検査の基本原則について理解する 1-2. WAIS-Ⅲ、コース立方体組み合わせテスト、レーブン色彩マトリックス検査の検査方法を理解する(演習)(教科書第1章) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(30分):授業中に配布した資料と教科書を用いて復習する	鈴木 雄介
2	2-1. 注意障害の評価 2-2. 前頭葉機能の評価	2-1. TMT、CAT、BITの検査方法を理解する(演習) 2-2. FABの検査方法を理解する(演習)(教科書第5・6章) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(30分):授業中に配布した資料と教科書を用いて復習する	鈴木 雄介
3	3. 記憶障害の評価①	WMS-R、三宅式記銘力検査の検査方法を理解する(演習)(教科書第6章) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(30分):授業中に配布した資料と教科書を用いて復習する	鈴木 雄介
4	4. 記憶障害の評価②	RBMT、BVRT、Rey複雑図形再生課題の検査方法を理解する(演習)(教科書第6章) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(30分):授業中に配布した資料と教科書を用いて復習する	鈴木 雄介
5	5. 失認症の評価	VPTAの検査方法を理解する(演習)(教科書第4章) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(30分):授業中に配布した資料と教科書を用いて復習する	鈴木 雄介
6	6. 失行症の評価	SPTA、WABの行為の下位検査の検査方法を理解する(演習)(教科書第2章) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(30分):授業中に配布した資料と教科書を用いて復習する	鈴木 雄介
7	7. 遂行機能の評価	BADSやWCST、ハノイの塔などの検査方法を理解する(演習)(教科書第6章) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(30分):授業中に配布した資料と教科書を用いて復習する	鈴木 雄介
8	8. 症例検討	症例をもとに必要な神経心理学検査ならびに作業療法介入を議論する(演習) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(30分):授業中に配布した資料を用いて復習する	鈴木 雄介

評価	プレゼンテーションおよび参加状況60%、レポート課題40%
課題に対する フィードバックの方法	グループ発表内容および課題に対して授業内に講評を行う
教科書	作業療法学全書 改訂第3版 第8巻 作業治療学5 高次脳機能障害/日本作業療法士協会 監修 澁 雅子 編集/協同医書出版/3版/ISBN:978-4-7639-2125-3
参考図書など	高次脳機能障害マエストロシリーズ(4)リハビリテーション介入/鈴木孝治・早川裕子・種村留美/医歯薬出版/ISBN:978-4-263-21564-7
アクティブ・ラーニング	グループワークで学習した神経心理学検査方法を学生同士でプレゼンテーションし議論する
実務経験のある 教員による授業	身体障害領域の作業療法臨床経験を活かして、高次脳機能障害に関する応用的な知識とリハビリテーション介入手法についての考え方について講義する
留意事項	「高次脳機能障害作業療法Ⅰ(総論)」での学習に関連するので必ず復習しておくこと

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
日常生活支援論Ⅰ(総論) Activities of Daily Living Support I (General)	必修	演習	1単位 (30時間)	2年前期	西野 由希子	○
ナンバリングコード	HOTF1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。					
作業治療学						
授業概要	日常生活活動(ADL)の基本的な概念と範囲、種々の動作と日常生活との関係、クライアントを取り巻く環境と日常生活との関係について学ぶ。また、身辺処理、家庭生活・生活関連活動、社会活動へと広がりをもった視点でクライアントの生活を捉えられるようその知識を習得する。さらに、各種のADL評価法や関連活動の評価法について学ぶ。また、起居動作について観察評価し、介助技法を習得する。科目担当者の臨床経験を活かした演習をする。					
到達目標	1)日常生活活動の基本的な概念と範囲、その中の作業療法の役割について説明できる。 2)各日常生活活動の障害について理解する。 3)各種日常生活活動の評価の目的と方法を理解し、実施できるようになる。 4)基本動作とその介助・支援の方法が説明でき、且つ実施できる。 5)日常生活活動における環境の影響とその支援方法について検討できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)			担当教員	
1	オリエンテーション 日常生活活動の概念と範囲 生活機能分類(ICF)と日常生活活動	日常生活活動の基本的な概念と範囲と、作業療法の役割について講義する。 共通言語としての生活機能分類(ICF)の概念と構造と、日常生活活動との関連を講義する。 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(30分):配布資料など授業全体について復習し、ADLの概念と範囲、OTの役割を再確認する。			西野 由希子	
2	行為を遂行するための心身機能と環境因子との関連①起居～移乗まで	【小テスト】 起居を遂行するための心身機能と影響因子との関連と、観察のポイントについて講義する。グループごとに【実習】し検討する。 事前学習(30分):普段行っている起居動作を工程分析しておく。 事後学習(60分):あらためて自身や同級生の起居動作についてポイントを押さえながら観察する。			西野 由希子	
3	動作介助(寝返り・起き上がり)	脳卒中片麻痺を想定した対象者への寝返り・起き上がりの動作介助法について【実技演習】する。 事前学習(30分):普段行っている起居動作を工程分析しておく。 事後学習(60分):あらためて移乗動作についてポイントを押さえながら観察する。			西野 由希子	
4	動作介助(立ち上がり・移乗)	脳卒中片麻痺を想定した対象者への立ち上がり・移乗の動作介助法について【実技演習】する。 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分):介助が実施できるよう演習内容について学生間で実技練習を行う。			西野 由希子	
5	動作介助(寝返り・起き上がり・立ち上がり・移乗)	脳卒中片麻痺を想定した対象者の起居移乗動作を一連の流れとして行う動作介助法について【実技演習】する。 事前学習(60分):第4回内容を復習しておく。 事後学習(60分):介助が実施できるよう演習内容について学生間で実技練習を行う。			西野 由希子	
6	動作介助(寝返り・起き上がり・立ち上がり・移乗)【実技テスト】	【実技テスト】 脳卒中片麻痺を想定した対象者の起居移乗動作を一連の流れとして行う動作介助法について【実技テスト】する。 事前学習(60分):第4・5回の介助法を習得しておく。 事後学習(60分):介助が実施できるよう演習内容について学生間で実技練習を行う。			西野 由希子	
7	作業療法における日常生活活動の自立と評価の視点	作業療法における日常生活活動の自立と評価の視点について、作業療法における評価のプロセスと、その中における日常生活活動の評価について講義する。 事前学習(60分):「自立」の概念について調べ、自分なりの意見を述べられるようにしておく。 事後学習(60分):評価のプロセスにおけるADL評価について確認する。			西野 由希子	
8	日常生活活動の評価①	【小テスト】 一般的な日常生活活動の評価表であるFIM・Barthel Index等について演習を交えて講義する。 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(30分):配布資料など授業全体について復習し、FIMマニュアルを参考に提示された事例のFIMを入力する。			西野 由希子	
9	日常生活活動の評価①	【小テスト】 一般的な日常生活活動の評価表であるFIM・Barthel Index等について演習を交えて講義する。 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(30分):配布資料など授業全体について復習し、FIMマニュアルを参考に提示された事例のFIMを入力する。			西野 由希子	

10	日常生活活動の評価②	【小テスト】 作業療法独自の日常生活活動に関連する評価法(COPM・AMPS・OQ等)について演習を交えて講義する。 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(120分):ADLに関連する作業療法の評価法について、あらためて整理し理解する。	西野 由希子
11	日常生活活動の評価③	【小テスト】 活動の観察評価である工程分析と活動分析について講義し、実習を中心に理解を深める。 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分):授業で取り扱わなかったADL動作についても工程分析・活動分析する。	西野 由希子
12	日常生活活動の評価④	【小テスト】 活動の観察評価である工程分析と活動分析について講義し、実習を中心に理解を深める。 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(60分):シーティングの評価と方法を復習、介助方法について確認する。	西野 由希子
13	車椅子の種類と構造、車椅子シーティング	【小テスト】 車椅子の種類と構造について講義する。事例を通して、車椅子シーティングの評価・適合について【グループワーク】を行う。 事前学習(30分):12回内容を振り返り、シーティング評価と適合方法について予習する。 事後学習(120分):グループ課題を提出する	西野 由希子
14	車椅子の操作方法と介助法	【小テスト】 車椅子の操作方法と介助方法について【実技演習】を行う。 事前学習(60分):教科書該当箇所を読んでおく。 事後学習(120分):グループ課題に取り組む。	西野 由希子
15	自助具と福祉機器	【小テスト】 日常生活活動における環境因子の影響とその支援方法(自助具や福祉機器の適応)について講義する。 事前学習(60分):グループ発表の準備 事後学習(60分):科目全体の復習を行う。実技練習を行う。	西野 由希子
評価	授業内の小テストと課題、実技試験によって行う。小テスト30%、課題20%、実技試験50%		
課題に対するフィードバックの方法	小テスト・レポート課題・実技試験ともに授業内で直接伝えるかもしくは学生個々に講評しフィードバックする。		
教科書	柴喜崇・下田信明編集:PT・OTビジュアルテキスト ADL 第2版 . 羊土社 ISBN:978-4-7581-0256-8		
参考図書など	日本作業療法士協会監修、酒井ひとみ編集:作業療法学全書改訂第3版第11巻 作業療法技術学3 日常生活活動. 協同医書出版社 ISBN:9784763921284 隈元庸夫著:症例動作分析—動画から学ぶ姿勢と動作【全症例web動画付き】. ヒューマンプレス ISBN:978-4-908933-09-7 中村恵子監修、山本康稔・佐々木良著:もっと!らくらく動作介助マニュアル 寝返りからトランスファーまで. 医学書院 ISBN:978-4-260-33402-0		
アクティブ・ラーニング	グループワーク、実技演習を行い、理解の促進と実技習得を図る。		
実務経験のある教員による授業	作業療法士としての臨床経験を活かして、ADLの基本的な知識と支援技術について実践的な授業を行う		
留意事項	作業療法士が生活支援を行うための基礎となる講義である。本科目の内容を基に後期の日常生活支援論Ⅱにつなげていくため、積極的に臨むこと。実習のある際には、動きやすい服装で臨むこと。		

授業科目の名称		必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験 のある教員 による科目
日常生活支援論Ⅱ(各論) Activities of Daily Living SupportⅡ (Details)		必修	演習	1単位 (30時間)	2年後期	西野 由希子 田邊 浩文	○
ナンバリングコード	HOTF1	オフィスアワー		本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分		卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目		DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
作業治療学							
授業概要	日常生活支援論Ⅰ(総論)やこれまでの履修してきた他科目で学んだ内容を踏まえ、担当教員としての臨床経験を活かし、様々な生活障害を抱えながら暮らす人々に応じた支援が検討できるよう、Problem based learningの方法で事例から問題解決に向けて検討することで実践的に知識・技術を習得する。また、摂食・嚥下の理解を深め、吸引・吸痰の技術を具体的に演習する。						
到達目標	1)吸引・喀痰に必要な知識と技術を習得できる。 2)事例に応じた日常生活の支援方法が検討できる。 日常生活活動の支援についての Team based LearningにおけるProblem based Learning に基づく学習を通して、以下の4点を学ぶ。 3)臨床現場には多様な問題がある。与えられた知識の記憶にとどまらず、日常生活活動の支援に必要な知識を自ら獲得する方法と習慣を身に付ける。 4)事例に基づいて学ぶことにより、これまでの基礎的知識・技術を応用し日常生活活動に関わる問題の解決方法を探究し、臨床に必要な基本的問題解決スキルと知識を習得する。 5)グループ学習を通じてコミュニケーション能力を身に付け、チーム医療の基本を学ぶ。 6)適切に客観的に自己評価することができる。何が得意で、何が不得意なのか、自分の特性を理解し、その特性を活用できる。						
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)				担当教員	
1	吸引・吸痰の技術その①	清潔区域と不潔区域について、吸引の対象疾患と目的についてグループワークにより討議・整理する。気管切開チューブの構造、吸引器の構造と諸元、吸引チューブの構造について講義する。 事前学習(120分):口腔・咽頭・気道の解剖学について復習しておくこと。また、嚥下反射を誘発する部位について調べてくること。 事後学習(60分):配布資料を参考に授業全体について復習をする。				田邊 浩文	
2	吸引・吸痰の技術その②	手洗い・手指消毒、ガウンテクニックと手袋の装着法について展示・実習を行う。 実習は、喀痰吸引(口腔内と鼻腔内)、気管カニューレ内部の喀痰吸引の方法について行う。 事前学習(60分):事前に配布する「吸引・喀痰技術」を通読しておく。 事後学習(60分):基本的な喀痰吸引技術を習得できるまで実際の吸引器及び必要物品を用いて反復練習する。				田邊 浩文	
3	オリエンテーション 各疾患による日常生活活動の障害	ADL概念や評価の復習、各疾患による日常生活活動における障害について講義する。演習の進め方についてオリエンテーションし、グループの基礎がためをする。 事前学習(60分):前期の日常生活支援論Ⅰの内容を復習しておく。 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。				西野 由希子	
4	PBL課題:ADL障害とその評価、 支援法 シナリオ1-1	提示されたシナリオ1をもとに、専門用語の確認や疾患の特性を調べ、障害像を把握する。 事前学習(60分):脳血管障害について復習しておく。 事後学習(120分):演習課題を進める。				西野 由希子	
5	PBL課題:ADL障害とその評価、 支援法 シナリオ1-2	提示されたシナリオ1をもとに、予測されるADL障害とその評価法、支援法について各グループごとにPBLで演習を進める。 事前学習(60分):シナリオ内のわからない単語を調べたり評価法の確認するなどPBLに備える。 事後学習(120分):演習課題を進める。				西野 由希子	
6	PBL課題:ADL障害とその評価、 支援法 シナリオ1-3	提示されたシナリオ1をもとに、予測されるADL障害とその評価法、支援法について各グループごとにPBLで演習を進める。 事前学習(60分):シナリオ内のわからない単語を調べたり評価法・支援技術の確認するなどPBLに備える。 事後学習(120分):演習課題を進める。				西野 由希子	
7	PBL課題:ADL障害とその評価、 支援法 シナリオ1-4	提示されたシナリオ1をもとに、予測されるADL障害とその評価法、支援法について各グループごとにPBLで演習を進める。 事前学習(60分):シナリオ内のわからない単語を調べたり評価法・支援技術の確認するなどPBLに備える。 事後学習(120分):演習課題を進める。				西野 由希子	
8	シナリオ1の発表	グループごとにシナリオ1で学んだことを発表し、ディスカッションする。 事前学習(120分):発表準備 事後学習(120分):他のグループ発表で学んだことを含めたシナリオ1の総復習をする				西野 由希子	

9	シナリオ1のまとめと講評	シナリオ1に関する補足とフィードバック、小テストの実施 事前学習(60分):シナリオ1で学んだことを復習し、小テストに備える。 事後学習(60分):シナリオ1を通して学んだことに関する個人課題に取り組む。	西野 由希子
10	PBL課題:ADL障害とその評価、支援法 シナリオ2-1	提示されたシナリオ2をもとに、専門用語の確認や疾患の特性を調べ、障害像を把握する。 事前学習(60分):神経筋疾患について復習しておく。 事後学習(120分):演習課題を進める。	西野 由希子
11	PBL課題:ADL障害とその評価、支援法 シナリオ2-2	提示されたシナリオ2をもとに、予測されるADL障害とその評価法、支援法について各グループごとにPBLで演習を進める。 事前学習(60分):シナリオ内のわからない単語を調べたり評価法の確認するなどPBLに備える。 事後学習(120分):演習課題を進める。	西野 由希子
12	PBL課題:ADL障害とその評価、支援法 シナリオ2-3	提示されたシナリオ2をもとに、予測されるADL障害とその評価法、支援法について各グループごとにPBLで演習を進める。 事前学習(60分):シナリオ内のわからない単語を調べたり評価法・支援技術の確認するなどPBLに備える。 事後学習(120分):演習課題を進める。	西野 由希子
13	PBL課題:ADL障害とその評価、支援法 シナリオ2-4	提示されたシナリオ2をもとに、予測されるADL障害とその評価法、支援法について各グループごとにPBLで演習を進める。 事前学習(60分):シナリオ内のわからない単語を調べたり評価法・支援技術の確認するなどPBLに備える。 事後学習(120分):演習課題を進める。	西野 由希子
14	シナリオ2の発表	グループごとにシナリオ2で学んだことを発表し、ディスカッションする。 事前学習(120分):発表準備 事後学習(120分):他のグループ発表で学んだことを含めたシナリオ1の総復習をする	西野 由希子
15	シナリオ2のまとめと講評	シナリオ1に関する補足とフィードバック、小テストの実施 事前学習(60分):シナリオ1で学んだことを復習し、小テストに備える。 事後学習(60分):シナリオ1を通して学んだことに関する個人課題に取り組む。	西野 由希子

評価	PBL課題(提出物・発表内容・小テスト等)60%、PBL自己評価・ピア評価40%
課題に対するフィードバックの方法	PBL課題、自己評価・ピア評価とも、授業内で講評する。
教科書	生田宗博:1・ADL 第3版—作業療法の戦略・戦術・技術. 三輪書店 ISBN:978-4-8959-0395-0
参考図書など	柴喜崇・下田信明編集:PT・OTビジュアルテキスト ADL 第2版 . 羊土社 ISBN:978-4-7581-0256-8 日本作業療法士協会監修、酒井ひとみ編集:作業療法学全書改訂第3版第11巻 作業療法技術学3 日常生活活動. 協同医学出版社 ISBN:9784763921284 日本作業療法士協会監修、木之瀬隆編集:作業療法学全書改訂第3版第10巻 作業療法技術学2 福祉用具の使い方、住環境整備. 協同医学出版社 ISBN:9784763921277 宮前珠子・新宮尚人編集:作業療法がわかるPBLテュートリアル Step by Step .医学書院 ISBN:978-4-260-01700-8 B.マジェンダ著:PBLのすすめ—「教えられる学習」から「自ら解決する学習」へ. 学研メディカル秀潤社 ISBN:978-4-05-152233-9
アクティブ・ラーニング	実技演習とTeam based LearningとProblem based Learningを組み合わせたアクティブラーニングの実施
実務経験のある教員による授業	作業療法士としての臨床経験を活かして、ADLの基本的な知識と支援技術について実践的な授業を行う
留意事項	ADL支援は患者や家族、生活環境等を含めて多様な状況に応じた柔軟な思考力と実践技術が求められる。臨床的思考力を育むためにもPBLに積極的に参与し、課題解決法を身につけて欲しい。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
義肢装具学 PROSTHESIS AND ORTHOSIS	必修	講義	1単位 (30時間)	3年後期	作業療法学専攻教員	○
ナンバリングコード	HOTF1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DPI)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。					
作業治療学						

授業概要	義肢装具の概念と作業療法士の役割、義肢に関する知識(評価を含む)、適用・訓練(上肢切断者への義手の適用・訓練)の基本を修得する。また、装具に関する知識(評価を含む)とその作成・適合技術の基本を修得する。さらに、各種補装具の支給に関わる諸制度について学ぶ。上肢の解剖・運動学的な基礎理論を確認しながら、具体的な手指・上肢の機能障害に対する装具治療学を学ぶ。総合して、義肢・装具の活用目的や導入の基本原則を理解し、装具の製作の実践症例を通して作製技術と装着確認法を理解する。					
到達目標	1)義肢の種類、構造、機能、材料、製作過程、適合判定を理解する。 2)各補装具の種類・構造・機能を理解する。 3)簡単な手用スプリントを作製できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)				担当教員
1	義肢総論	切断の疫学、切断高位別の残存機能と義肢の選択、切断術後のリハビリテーションの流れについて講義する。 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおくこと 事後学習(60分):事後学習:配布資料など、授業全体について復習する。				作業療法学 専攻教員
2	上肢義肢①	上肢義肢の種類、構造、機能、用い方について講義する。 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおくこと 事後学習(60分):事後学習:配布資料など、授業全体について復習する。				作業療法学 専攻教員
3	上肢義肢②	上肢義肢の適合判定方法について講義する。 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおくこと 事後学習(60分):事後学習:配布資料など、授業全体について復習する。				作業療法学 専攻教員
4	下肢装具	下肢義肢の種類、構造、機能、活用法について講義する。 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおくこと 事後学習(60分):事後学習:配布資料など、授業全体について復習する。				作業療法学 専攻教員
5	体幹・下肢装具	体幹・下肢の装具の種類、構造、機能、活用法について講義する。 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおくこと 事後学習(60分):事後学習:配布資料など、授業全体について復習する。				作業療法学 専攻教員
6	車いす・歩行補助具	車いすの基本構造、車いすの種類、歩行補助具の種類と適応について講義する。 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおくこと 事後学習(60分):事後学習:配布資料など、授業全体について復習する。				作業療法学 専攻教員
7	上肢装具	上肢装具の種類と活用法について講義する。 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおくこと 事後学習(60分):事後学習:配布資料など、授業全体について復習する。				作業療法学 専攻教員
8	手指の機能障害	各種疾患や障害に対する上肢装具の適用について講義する。 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおくこと 事後学習(60分):事後学習:配布資料など、授業全体について復習する。				作業療法学 専攻教員
9	手指の機能障害	手指の解剖、手指に起こる末梢神経麻痺、拘縮の特徴について講義する。 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおくこと 事後学習(60分):事後学習:配布資料など、授業全体について復習する。				作業療法学 専攻教員
10	スプリント作成の基礎知識	スプリントの力学的原理、スプリント材料と取扱いについて【実習】を通して講義する。 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおくこと 事後学習(60分):事後学習:配布資料など、授業全体について復習する。				作業療法学 専攻教員
11	スプリント作成(トレース)	スプリントの力学的原理、スプリント材料と取扱いについて【実習】を通して講義する。 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおくこと 事後学習(60分):事後学習:配布資料など、授業全体について復習する。				作業療法学 専攻教員
12	コックアップスプリント作製	背側型コックアップスプリントを実際に作製する【実習】 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおくこと 事後学習(60分):事後学習:配布資料など、授業全体について復習する。				作業療法学 専攻教員

13	コックアップスプリント作製	背側型コックアップスプリントを実際に作製する【実習】 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおくこと 事後学習(60分):事後学習:配布資料など、授業全体について復習する。	作業療法学 専攻教員
14	短対立スプリント作製	拇指短対立スプリントを実際に作製する【実習】 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおくこと 事後学習(60分):事後学習:配布資料など、授業全体について復習する。	作業療法学 専攻教員
15	短対立スプリント作製	拇指短対立スプリントを実際に作製する【実習】 事前学習(30分):教科書該当箇所を読んでおくこと 事後学習(60分):配布資料など、授業全体について復習する。	作業療法学 専攻教員

評価	筆記試験100%にて判定する
課題に対する フィードバックの方法	試験結果の発表時に、「講評」を在学生ホームページもしくは学内掲示板に掲示する。もしくは、再試験期間中に補講を行い、試験内容と結果についてのフィードバックを行う。
教科書	上杉雅之 監修: イラストでわかる装具療法 医歯薬出版株式会社/ ISBN:978-4-263-26646-5
参考図書など	必要に応じて参考資料を別途配布する。
アクティブ・ラーニング	第15回目講義の準備では、それまでの全講義を通じて学んだ知識を活用し、架空症例を立てた上で、その治療用装具を具体的にデザインしておくこと。
実務経験のある 教員による授業	急性期病院の作業療法士として主に整形外科疾患を中心とした症例に対する実務経験を生かし、様々な臨床症例を想定した装具処方のポイントなども適宜紹介する。手の外科領域で作製したスプリントについて紹介する。
留意事項	オフィスアワー以外にも、学習指導についてのアPOINTメントは随時受け付ける。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
クリニカルリーズニング Clinical Reasoning	必修	講義	1単位 (15時間)	3年後期	鈴木 雄介	○
ナンバリングコード	HOTF1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。					
作業治療学	DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					

授業概要	クリニカルリーズニングとは、対象者の臨床的な問題を明確にしてその問題を解決するために、情報を収集、評価・分析しこれを統合・解釈し、より安全で効果的な臨床実践の根拠、筋道を考える思考と意思決定の過程である。実践事例を通して作業療法の基本的な臨床推論の過程を学び、治療計画作成や症例検討のなかで、「なぜその問題に注目したか」、「なぜその治療方法を考えたのか」、「なぜ他の方法を選択せずその方法を使用したのか」、「その根拠はなにか」といった視点で、対象者に最も適した介入を決定していく一連の過程を思考する力を修得する。
------	--

到達目標	1)対象者の臨床的な問題点を明確にできる 2)より安全で効果的な臨床実践の根拠が説明できる 3)実践事例を通して作業療法の基本的な臨床推論の過程を学び、治療計画作成や症例検討ができる
------	---

回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）	担当教員
1	オリエンテーション・概論	講義の展開の概説、クリニカルリーズニングの概要 事前学習(20分):配布資料などの該当箇所を読む 事後学習(30分):配布資料など、授業全体について復習する	鈴木 雄介
2	作業療法の基本的な臨床推論の過程	評価項目の列挙、評価、評価のまとめ 事前学習(20分):実践事例のまとめ作業 事後学習(30分):実践事例と配布資料などを基に授業全体について復習	鈴木 雄介
3	作業療法の基本的な臨床推論の過程	評価結果の解釈、問題点の焦点化 事前学習(20分):実践事例のまとめ作業 事後学習(30分):実践事例と配布資料などを基に授業全体について復習	鈴木 雄介
4	実践事例を通じた作業療法の基本的な臨床推論の過程	小グループになり、臨床実習で経験した事例を通してディスカッションを行う 事前学習(20分):実践事例のまとめ作業 事後学習(30分):実践事例と配布資料などを基に授業全体について復習	鈴木 雄介
5	実践事例を通じた作業療法の基本的な臨床推論の過程	グループワーク、発表資料作成 事前学習(20分):小グループごとにプレゼンテーション資料の作成 事後学習(30分):小グループごとにプレゼンテーション後の振り返り	鈴木 雄介
6	各領域ごとにディスカッション内容をまとめたプレゼンテーションを行う	プレゼンテーション・グループワーク 事前学習(20分):小グループごとにプレゼンテーション資料の作成 事後学習(30分):小グループごとにプレゼンテーション後の振り返り	鈴木 雄介
7	各領域ごとにディスカッション内容をまとめたプレゼンテーションを行う	プレゼンテーション・グループワーク 事前学習(20分):小グループごとにプレゼンテーション資料の作成 事後学習(30分):小グループごとにプレゼンテーション後の振り返り	鈴木 雄介
8	実践事例を通じた作業療法の基本的な臨床推論の過程、総括	目標とプログラム立案、総括 事前学習(20分):小グループごとにプレゼンテーション資料の作成 事後学習(30分):小グループごとにプレゼンテーション後の振り返り	鈴木 雄介

評価	プレゼンテーションおよび参加状況70%、レポート課題30%
課題に対する フィードバックの方法	プレゼンテーションに対し授業中に講評を行う
教科書	「標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第3版」能登真一、山口昇、玉垣努、新宮尚人、加藤寿宏、松房利憲【編】医学書院 ISBN: 978-4260030038
参考図書など	作業療法のリーズニングの教科書/ISBN:978-4-7583-2056-6
アクティブ・ラーニング	グループワークで学習した事例を基に学生同士でプレゼンテーションし議論する
実務経験のある 教員による授業	身体障害領域の作業療法臨床経験を活かして、クリニカルリーズニングの基本的な知識と手法についての考え方について講義する。
留意事項	本科目は、3年後期科目「評価実習」の事後演習および4年前期科目「総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」の事前演習を補完する科目でもあり、受講学生の積極的な授業参加を求めます。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
作業療法特論Ⅰ(身体障害) Advanced Occupational Therapy I (Physical Disability)	選択	講義	1単位 (15時間)	4年後期	田邊 浩文	○
ナンバリングコード	HOTF2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
作業治療学						

**授業概要**  
身体障害領域の作業療法における最近の知見、実践上注目されている課題や治療・支援方法など、現状での作業療法実践が注目するテーマを紹介して知見を広げ、報告や検討の中で明らかとした課題について授業討論し、現実的な課題解決の方法について考察する。一連の学習を通して、現況に即応したより実践的な知識・技術を学ぶ機会とし、身体障害領域への効果的な作業療法実践への理解を深める。

**到達目標**  
1) 中枢神経疾患の機能回復メカニズムについて概要を説明できる。  
2) 中枢神経疾患等身体障害領域における各種の理論について理解する。  
3) 心身機能回復メカニズムを視野に入れた作業療法実践方法の選択や具体的課題設定ができる。

回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)	担当教員
1	1.総論・オリエンテーション	身体障害領域の各種疾患をとりまく現状と課題 事前学習(20分):作業療法白書「わが国の作業療法」を通読しておくこと。 事後学習(30分):本講義内容を簡潔にまとめる。	田邊 浩文
2	作業療法士が関わる各種理論	身体障害領域に関するリハビリテーションのトピックスⅠ:【ディベート】対峙する理論について肯定・否定各グループ討議を実施し、プレゼンテーションを行う。 事前学習(30分):作業療法ジャーナル55巻増刊号を通読しておくこと。 事後学習(60分):討議で扱った各種理論の内容を800字以内にまとめて提出する。	田邊 浩文
3	中枢神経疾患に関する各種理論とアプローチ(総論)	身体障害領域に関するリハビリテーションのトピックスⅡ【ディスカッションとプレゼンテーション】中枢神経疾患の各種介入方法についてディスカッションし発表する。 事前学習(30分):事前に配布した資料を通読しておくこと。 事後学習(60分):討議で扱った介入方法論の内容を800字以内にまとめて提出する。	田邊 浩文
4	中枢神経疾患に関する各種理論とアプローチの利点と欠点	中枢神経疾患に対する各種理論と実践および、その利点と欠点についてグループワークを行う。 事前学習(30分):作業療法ジャーナル脳卒中の作業療法 最前線を通読すること。 事後学習(60分):本講義で討議した内容を800字以内にまとめて提出する。	田邊 浩文
5	医学・工学・産学連携	医学・工学・産学連携によるリハビリテーション支援ロボット開発についてグループワークを行う。 事前学習(20分):医工連携に関する論文を通読しておく。 事後学習(60分):本講義で扱った工学とリハビリテーションの応用をまとめて提出する。	田邊 浩文
6	脳卒中片麻痺事例の介入その①(家庭復帰を目標とした事例)	自験例を基にしたケーススタディー 事前学習(30分):事前に配布した資料を通読しておく。 事後学習(60分):発表内容を簡潔にまとめておく。	田邊 浩文
7	脳卒中片麻痺事例の介入その②(復職を目標とする事例)	グループごとに自験例を基にしたケーススタディーレビューを行う。 事前学習(30分):事前に配布した資料を通読しておく。 事後学習(60分):発表内容を簡潔にまとめておく。	田邊 浩文
8	脳卒中片麻痺事例の介入その③(頭部外傷事例)	グループごとに自験例を基にしたケーススタディーレビューを行う。 事前学習(30分):事前に配布した資料を通読しておく。 事後学習(60分):レビューした内容を簡潔にまとめておく。	田邊 浩文

評価	講義終了時に実施する小テストの成績(100%)により行う。
課題に対するフィードバックの方法	試験結果の講評を掲示して公開する。または、個別に講評を伝える。
教科書	作業療法学全書改訂第3版第4巻作業治療学1身体障害/日本作業療法士協会 監修 菅原洋子 編集/協同医書出版/3版/ISBN:978-4-7639-2121
参考図書など	講義の都度、紹介する。事前学習として <a href="https://www.uab.edu/citherapy/">https://www.uab.edu/citherapy/</a> を通読しておくこと。
アクティブ・ラーニング	【ディスカッション・ディベート・グループワーク・プレゼンテーション】により主体的に学習させる。
実務経験のある教員による授業	中枢神経疾患に対する最先端リハビリテーション介入研究の臨床経験を活かして、身体障害作業療法の最新の知識や理論についての考え方について講義する。
留意事項	講義後にグループ演習を行うため、講義内容の予習復習は必須である。演習は熱心かつ積極的に参加する態度が望ましい。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
作業療法特論Ⅱ(精神障害) special lecture for psychiatric occupational therapy	選択	講義	1単位 (15時間)	4年後期	三川 年正	○
ナンバリングコード	HOTF2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。					
作業治療学	DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					

授業概要	精神疾患について、精神医学や評価から治療にかけての作業療法士に関わりについて復習を行う。また、作業療法における最近の知見、実践上注目されている課題や治療・支援方法等、現状での作業療法実践が注目するテーマを紹介して知見を広げる。一連の学習を通して、現況に即応したより実践的な知識・技術を学ぶ機会とし、精神障害領域への効果的な作業療法実践への理解を深める。					
到達目標	1)今までの知識が再確認できる。 2)精神障害及び周辺領域の最近の知見について理解できる。 3)精神科作業療法を効果的な実施の理解ができる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)			担当教員	
1	精神医学総論	精神医学Ⅰ・Ⅱの復習を中心に行う。 事前学習(60分):精神医学の資料に目を通す。 事後学習(60分):配布する国家試験の問題の解説を作成する。			三川 年正	
2	臨床心理学総論	臨床心理学の復習を中心に行う。 事前学習(60分):臨床心理学の資料に目を通す。 事後学習(60分):配布する国家試験の問題の解説を作成する。			三川 年正	
3	精神医学、臨床心理学	精神医学、臨床心理学の問題を通して、理解を深める。 事前学習(60分):1回目、2回目の講義資料を復習する。 事後学習(60分):配布する国家試験の問題の解説を作成する。			三川 年正	
4	精神科作業療法における検査	精神科作業療法における検査の一覧を理解する。 事前学習(60分):精神科作業療法の教科書から検査を調べる。 事後学習(60分):配布する国家試験の問題の解説を作成する。			三川 年正	
5	精神科作業療法における事例	精神科作業療法における事例問題を理解する。 事前学習(60分):精神科作業療法の教科書から事例報告に目を通す。 事後学習(60分):配布する国家試験の問題の解説を作成する。			三川 年正	
6	精神科作業療法における作業療法士の対応	精神科作業療法における作業療法士の対応について理解する。 事前学習(60分):精神科作業療法の教科書から対応方法に目を通す。 事後学習(60分):配布する国家試験の問題の解説を作成する。			三川 年正	
7	精神科作業療法における作業を用いた治療	精神科作業療法における作業を用いた治療について理解する。 事前学習(60分):参考図書②の精神医学に目を通す。 事後学習(60分):配布する国家試験の問題の解説を作成する。			三川 年正	
8	国家試験対策総復習	本講義の総復習を行う。 事前学習(60分):今まで作成した解説に目を通す。 事後学習(60分):配布する国家試験の問題の解説を作成する。			三川 年正	

評価	講義中に行う試験70%、講義中に実施する課題への取り組み30%。
課題に対する フィードバックの方法	講義後もしくはオフィスアワーにて行う。
教科書	「作業療法概論」(改訂第3版 2011)日本作業療法士協会監修 協同医書出版 ISBN:978-4-7639-2118-5
参考図書など	①PTOT国家試験必修ポイント 臨床医学ISBN:978-4-263-27017-2 ②PTOT国家試験必修ポイント 障害別OT治療学ISBN:978-4-263-27021-9
アクティブ・ラーニング	課題を提示し、グループディスカッションを通してのアクティブラーニングを実施。
実務経験のある 教員による授業	作業療法士としての臨床経験と研究活動を活かして実践的な講義を行う。
留意事項	成績判定は講義内の試験の割合が高いため、毎回の講義あわせの予習復習を行うこと。

Ⅳ  
専門基礎科目  
専門科目

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
作業療法特論Ⅲ(生涯発達) Advanced Occupational Therapy III (Lifelong developmental occupational therapy)	選択	講義	1単位 (15時間)	4年後期	作業療法学専攻教員、久保田 清子	○
ナンバリングコード	HOTF2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー 一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
作業治療学						
授業 概要	小児期から老年期までのライフステージを通じた作業療法実践で注目されている課題や治療、支援方法、作業療法の最新のテーマを紹介し知見を広げる。また、一連の学習を通して、現況に即応したより実践的な知識・技術を学ぶ機会とし、生涯を通じた効果的な作業療法実践への理解を深める。					
到達 目標	1)生涯発達の概念を説明できる 2)発達障害領域におけるICTなど支援技術などについて理解する 3)感覚処理障害などに対する感覚運動統合に着目した遊びや学習支援、生活支援に用いる支援機器の選択や作成・設定ができる 4)高齢期の作業療法実践で必要となる知識・技術・態度を理解する。さらに、最近注目されているテーマについて知る					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習 (予習・復習・課題等)			担当教員	
1	生涯発達について 感覚処理障害について	生涯発達の概念を理解する。 感覚処理障害の概念について理解し、支援方法について検討、体験する。 事前学習(60分):事前に配布する感覚処理障害について資料を通読する。 事後学習(60分):授業で扱った内容について整理しまとめる。			須鎌 康介	
2	発達障害作業療法とICT、支援機器、遊具	発達障害領域で使用されることが多いICTや支援機器、遊具、生活支援に応用可能な技術の実践例について紹介、検討、体験する。 事前学習(60分):事前に配布する感覚処理障害について資料を通読する。 事後学習(60分):授業で扱った内容について整理しまとめる。			須鎌 康介	
3	感覚運動統合と遊び、生活、学習 発表内容の検討	グループごとに模擬事例を設定し、感覚処理障害や感覚運動統合を考慮した遊びや生活支援、ICTや遊具の活用などについて検討・作成・調整などを行い発表内容の検討をする。 事前学習(60分):グループ活動に向けて関連情報の収集と整理。 事後学習(90分):発表に向けた準備を行う。			須鎌 康介	
4	感覚運動統合と遊び、生活、学習 発表準備	グループごとに模擬事例を設定し、感覚処理障害や感覚運動統合を考慮した遊びや生活支援、ICTやおもちゃの活用などについて検討・作成・調整などを行い発表準備をする。 事前学習(60分):発表に向けて関連情報の収集と整理。 事後学習(90分):発表に向けた準備を行う。			須鎌 康介	
5	感覚運動統合と遊び、生活、学習 発表	グループごとに模擬事例を設定し、感覚処理障害や感覚運動統合を考慮した遊びや生活支援、ICTやおもちゃの活用などについて検討・作成・調整などを行ったものを発表する。 事前学習(60分):発表に向けて関連情報の収集と整理。 事後学習(90分):発表に対する質問やアドバイスを参考に復習、レポートを作成する。			須鎌 康介	
6	高齢期、とくに認知症の評価	実践現場で用いられる代表的な評価方法について確認する 事前学習(45分):臨床実習で経験した評価法を中心に、具体的な評価について振り返る 事後学習(15分):授業内容の中でとくに重要なポイントがなにかを確認する			久保田清子	
7	事例の認知症症状・型別対応方法	実践現場で用いられる代表的な対応方法について確認する 事前学習(45分):臨床実習で学んだ支援を中心に振り返り、具体例が説明できる様に準備する 事後学習(15分):授業内容の中でとくに重要なポイントがなにかを確認する			久保田清子	
8	高齢期の作業療法の今	高齢期作業療法で注目されているテーマに関する知見を広げる・深める 事前学習(30分):過去1年程度の学術雑誌・専門誌からトピックスとなるテーマを探す 事後学習(30分):総ざらいし、ポイントを確認する			久保田清子	
評価	担当教員分:課題 80%、発表の相互評価 20% 久保田担当分:課題100%					
課題に対する フィードバックの方法	レポートや発表の結果は、授業内での講評や掲示及び個別に伝える。					
教科書	担当教員分: イラストでわかる発達障害の作業療法/上杉雅之監修 辛島千恵子編集/第1版/医歯薬出版/2016/ISBN:978-4-263-21717-7 標準作業療法学 専門分野 発達過程作業療法学 第3版/加藤寿宏編集/医学書院/2020/ISBN:978-4-260-04082-2					
参考図書など	担当教員分: ・今日何してあそぶ? 脳と体をそだてる感覚あそびカード 144/鴨下賢一/合同出版/ISBN:978-4-772-61386-6 ・感覚統合の発達と支援 子どもの隠れたつまずきを理解する/A・ジーン・エアーズ 著 岩永 竜一郎 監訳/金子書房/ISBN:978-4-7608-2431-1 ・発達をうながすハンドリングー生活動作の介助ポイント/鴨下賢一/三輪書店/ISBN:978-4-89590-759-0 ・その他随時紹介する。また、必要に応じて資料を配付する。					
アクティブ・ラーニング	担当教員分:支援方法についての検討、体験する際には、グループワークを行い、改善点や具体的な活用方法について検討し発表する。「今日何してあそぶ? 脳と体をそだてる感覚あそびカード 144」「発達をうながすハンドリングー生活動作の介助ポイント」記載のインターネット上の動画を視聴しながら進行する。 久保田担当分:提示されたテーマに関して、臨床実習経験を振り返りながらペア・集団でのディスカッションを行う。					

<p>実務経験のある 教員による授業</p>	<p>担当教員:発達障害領域での作業療法経験を活かし、感覚処理障害の要因や支援の枠組み、評価及び作業療法支援について授業を実施する。 久保田:高齢期の各種サービス(介護老人保健施設・介護老人福祉施設・通所リハ・訪問リハ・介護予防事業など)への従事経験も交えた内容を伝達予定である。</p>
<p>留意事項</p>	<p>人間発達学、小児科学、発達心理学、発達障害作業療法学など既習科目の知識をもとに授業を行う。</p>

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
作業療法特論Ⅳ(がん) Advanced Occupational TherapyⅣ	選択	講義	1単位 (15時間)	4年後期	鈴木 雄介	○
ナンバリングコード	HOTF2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。					
作業治療学	DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
授業概要	がん領域の作業療法における最近の知見、実践上注目されている課題や治療・支援方法等、現状での作業療法実践が注目するテーマを紹介して知見を広げ、報告や検討の中で明らかとした課題について授業討論し、現実的な課題解決の方法について考察する。一連の学習を通して、現況に即応したより実践的な知識・技術を学ぶ機会とし、がんのリハビリテーション領域への効果的な作業療法実践への理解を深める。					
到達目標	1)がんリハビリテーション領域の作業療法における最近の知見が理解できる 2)がんリハビリテーション領域のさまざまな支援内容を理解できる 3)がんリハビリテーション領域の作業療法の事例検討を通して現実的な課題解決の方法が選択できる					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習 (予習・復習・課題等)				担当教員
1	オリエンテーション・がんリハビリテーション総論①	がんの基礎知識、がん治療(教科書Ⅰ 総論 がんの基礎知識、がん治療) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(30分):教科書や授業中に配布した資料を復習する				鈴木 雄介
2	がんリハビリテーション総論②	がんリハビリテーション治療計画、練習中止を考慮する状態(教科書Ⅰ 総論 リハビリテーション治療計画、練習中止を考慮する状態) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(30分):教科書や授業中に配布した資料を復習する				鈴木 雄介
3	原発巣別各論①	肺がん、消化器がん、乳がん、前立腺がん、腎がん(教科書Ⅱ 原発巣別各論) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(30分):教科書や授業中に配布した資料を復習する				鈴木 雄介
4	原発巣別各論②	尿路上皮がん、婦人科がん、頭頸部がん、血液がん、脳腫瘍(教科書Ⅱ 原発巣別各論) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(30分):教科書や授業中に配布した資料を復習する				鈴木 雄介
5	リハビリテーション治療①	化学療法・放射線療法、造血幹細胞移植(教科書Ⅲ リハビリテーション治療) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(30分):教科書や授業中に配布した資料を復習する				鈴木 雄介
6	リハビリテーション治療②	リンパ浮腫、進行がん(教科書Ⅲ リハビリテーション治療) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(30分):教科書や授業中に配布した資料を復習する				鈴木 雄介
7	有害事象対策①	骨転移、がん関連血栓症、神経障害(教科書Ⅳ 有害事象対策) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(30分):教科書や授業中に配布した資料を復習する				鈴木 雄介
8	有害事象対策②	低栄養・サルコペニア、せん妄、疼痛(教科書Ⅳ 有害事象対策) 事前学習(20分):授業内容に関する教科書の該当箇所を読んでくる 事後学習(30分):教科書や授業中に配布した資料を復習する				鈴木 雄介
評価	定期試験100%					
課題に対する フィードバックの方法	次回の授業中に課題に対する解説を行う。					
教科書	作業療法学全書改訂第3版第4巻作業治療学1身体障害/日本作業療法士協会 監修 菅原洋子 編集/協同医書出版/3版/ISBN:978-4-7639-2121-5					
参考図書など	がんリハビリテーション実践マニュアル/宮腰浩一 編集/メジカルビュー社/ISBN:978-4-7583-2038-2					
アクティブ・ラーニング	具体的な症例をもとに一連の作業療法介入をグループワークを中心に議論する。					
実務経験のある 教員による授業	身体障害領域の作業療法臨床経験を活かして、がんに関する基本的な知識とリハビリテーション手法についての考え方について講義する。					
留意事項	特になし。					

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
作業療法特論Ⅴ(高次脳機能障害) Advanced Occupational TherapyⅤ (Cognitive Dysfunction)	選択	講義	1単位 (15時間)	4年後期	鈴木 雄介	○
ナンバリングコード	HOTF2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
作業治療学						

授業概要	高次脳機能障害領域の作業療法における最近の知見、実践上注目されている課題や治療・支援方法等、現状での作業療法実践が注目するテーマを紹介して知見を広げ、報告や検討の中で明らかとした課題について授業討論し、現実的な課題解決の方法について考察する。一連の学習を通して、現況に即応したより実践的な知識・技術を学ぶ機会とし、高次脳機能障害領域への効果的な作業療法実践への理解を深める。					
到達目標	1)高次脳機能障害領域の作業療法における最近の知見が理解できる 2)高次脳機能障害のさまざまな支援内容を理解できる 3)高次脳機能障害の作業療法の事例検討を通して現実的な課題解決の方法が選択できる					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）				担当教員
1	オリエンテーション・高次脳機能障害総論	高次脳機能障害をとりまく現状と課題 事前学習(20分): 新聞記事などで高次脳機能障害に関するトピックスを調べる 事後学習(30分): 授業中に配布する宿題をする				鈴木 雄介
2	高次脳機能障害各論①	高次脳機能障害リハビリテーションのトピックス 事前学習(20分): 新聞記事などで高次脳機能障害に関するトピックスを調べる 事後学習(30分): 授業中に配布する宿題をする				鈴木 雄介
3	高次脳機能障害各論②	高次脳機能障害リハビリテーションのトピックス 事前学習(20分): 新聞記事などで高次脳機能障害に関するトピックスを調べる 事後学習(30分): 授業中に配布する宿題をする				鈴木 雄介
4	高次脳機能障害各論③	高次脳機能障害患者の地域生活支援 事前学習(20分): 新聞記事などで高次脳機能障害に関するトピックスを調べる 事後学習(30分): 授業中に配布する宿題をする				鈴木 雄介
5	高次脳機能障害各論④	高次脳機能障害患者の地域生活支援 事前学習(20分): 新聞記事などで高次脳機能障害に関するトピックスを調べる 事後学習(30分): 授業中に配布する宿題をする				鈴木 雄介
6	事例検討①	自験例を基にしたケーススタディー 事前学習(20分): 新聞記事などで高次脳機能障害に関するトピックスを調べる 事後学習(30分): 授業中に配布する宿題をする				鈴木 雄介
7	事例検討②	自験例を基にしたケーススタディー 事前学習(20分): 新聞記事などで高次脳機能障害に関するトピックスを調べる 事後学習(30分): 授業中に配布する宿題をする				鈴木 雄介
8	事例検討③、まとめ	自験例を基にしたケーススタディー、まとめ 事前学習(20分): 新聞記事などで高次脳機能障害に関するトピックスを調べる 事後学習(30分): 授業中に配布する宿題をする				鈴木 雄介

評価	レポート60%、提出物30%、授業への参加状況10%
課題に対する フィードバックの方法	事前・事後学習としての宿題を課し、次回の授業中に課題に対する解説を行う。プレゼンテーションに対しては授業中に講評を行う
教科書	作業療法学全書 改訂第3版 第8巻 作業治療学5 高次脳機能障害 / 日本作業療法士協会 監修 澁 雅子 編集 / 協同医書出版 / 3版 / ISBN: 978-4-7639-2125-3
参考図書など	作業療法学全書改訂第3版第4巻作業治療学1身体障害 / 日本作業療法士協会 監修 菅原洋子 編集 / 協同医書出版 / 3版 / ISBN: 978-4-7639-2121-5
アクティブ・ラーニング	グループワークで学習した高次脳機能障害の最近の知見を学生同士でプレゼンテーションし議論する
実務経験のある 教員による授業	身体障害領域の作業療法臨床経験を活かして、高次脳機能障害に関する援助技法の専門的な考え方について講義する
留意事項	「高次脳機能障害作業療法学Ⅰ・Ⅱ」での学習に関連するので必ず復習しておくこと

Ⅳ 専門基礎科目  
専門科目

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
作業療法研究 OCCUPATIONAL THERAPY GRADUATION THESIS	選択	演習	4単位 (120時間)	4年通期	田島明子、作業療法学専攻(専任)教員	○
ナンバリングコード	HOTH2	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。					
作業治療学	DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
授業概要	3年次の作業療法研究法・演習を基に、倫理審査申請書の指導と作成、研究計画の指導と作成、手順に沿った研究実施を担当教員指導の下で実施する。各学生は研究課題をまとめ、報告する。 なお、ヒト介入研究では各担当教員の指導の下に倫理審査申請書を作成し、研究倫理審査委員会の承認を得た上で実施することとする。 一連の研究過程を作業療法学専攻の全専任教員より助言と指導を受けながら実施する。各専任教員あたり最大4名程度の学生を担当・実施する。					
到達目標	1) 研究論文を読み、内容を理解することができる 2) 作業療法の臨床における研究疑問を具現化することができる 3) 研究疑問を解決するための手法を理解し、実施することができる 4) 研究の成果を読者や聴衆に伝えるように文章にすることができる					
授業の進め方	◇各指導教員のもと、小グループないし1対1で、一連の研究過程を経験し学ぶ。 ◇研究手法は多岐に渡り、実験・社会的調査・心理学的研究・事例研究・実践報告・文献検討等、研究テーマに応じたものを用いる。 ◇研究成果は、専攻における発表や報告書としてまとめる。					
評価	論文60%、指導教員による個別指導への参加状況30%、研究発表10%					
課題に対する フィードバックの方法	個別指導中に適宜指導教員によるフィードバックが行われる。					
教科書	作業療法概論 改訂第3版 協同医書出版社 ISBN:978-4763921185 研究テーマに基づくこれまでに用いた教科書及び必要に応じた資料配布					
参考図書など	「作業療法士のための研究法入門」鎌倉他編、三輪書店、ISBN:978-4895900683 研究テーマに基づくこれまでに用いた教科書及び配布					
アクティブ・ラーニング	指導教員は研究テーマおよび計画の立案、実施に際しては学生の主体性を尊重し、適宜方向付けや必要なサポートを行う。					
実務経験のある 教員による授業	作業療法関連の研究経験を活かして、作業療法に関する研究を指導、実践させる。					
留意事項	授業開講の日時等は指導教員の指示に従うこと。					

授業科目の名称 作業療法学総合講義 COMPREHENSIVE LECTURE OF OCCUPATIONAL THERAPY	必修・ 選択の別 必修	授業 形態 講義	単位数 (時間数) 1単位 (15時間)	配当 年次 4年後期	科目担当教員 田邊浩文、三川年正、田島明子、 作業療法学専攻(専任)教員	実務経験の ある教員に よる科目 ○
ナンバリングコード HOTF2	オフィスアワー		本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー 一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
作業治療学						

授業概要	これまでの学習の総まとめとして作業療法およびリハビリテーションに関する知識と技術を整理し、統合的な能力を培う機会とする。医学系領域と作業療法学の専門領域を統合し、実践場面で活用できる知識及び技術として定着できるように、グループワークも交えて確実なものにしてゆく。一連の学習を通して、国家試験受験に向けた情報・知識の整理についての意識を高める。					
到達目標	1)将来、作業療法士として仕事をするために必要不可欠な知識と技術について整理し、説明することができる。 2)国家試験に必要な知識を理解、整理し、例示することができる					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)				担当教員
1	専門基礎分野の学習1	専門基礎分野の学習テーマを選定して自己学習し、発表して学生相互の質疑応答と教員による補助的関わりを通して総合的な知識の習得を図る。 事前学習(30分):専門基礎分野の学習テーマを選択しておく。 事後学習(30分):本講義で学習した専門基礎分野の内容をノートにまとめて整理する。				田邊浩文 三川年正 田島明子 OT専任教員
2	専門基礎分野の学習2	専門基礎分野の学習テーマを選定して自己学習し発表して学生相互の質疑応答と教員による補助的関わりを通して総合的な知識の習得を図る。 事前学習(30分):専門基礎分野の学習テーマを選択しておく。 事後学習(30分):本講義で学習した専門基礎分野の内容をノートにまとめて整理する。				田邊浩文 三川年正 田島明子 OT専任教員
3	基礎作業療法学分野の学習	作業療法概論と技法の学習テーマを選定して自己学習し、発表して学生相互の質疑応答と教員による補助的関わりを通して総合的な知識の習得を図る。 事前学習(30分):基礎作業療法学分野の学習テーマを選択しておく。 事後学習(30分):学習した基礎作業療法学分野の内容をノートにまとめて整理する。				田邊浩文 三川年正 田島明子 OT専任教員
4	作業療法評価学	作業療法評価法の学習テーマを選定して自己学習し、発表して学生相互の質疑応答と教員による補助的関わりを通して総合的な知識の習得を図る。 事前学習(30分):作業療法評価学の学習テーマを選択しておく。 事後学習(30分):学習した作業療法評価学分野の内容をノートにまとめて整理する。				田邊浩文 三川年正 田島明子 OT専任教員
5	作業療法学・身体障害領域の学習	身体障害領域の学習テーマを選定して自己学習し、発表して学生相互の質疑応答と教員による補助的関わりを通して総合的な知識の習得を図る。 事前学習(30分):身体障害領域の学習テーマを選択しておく。 事後学習(30分):学習した身体障害領域の内容をノートにまとめて整理する。				田邊浩文 三川年正 田島明子 OT専任教員
6	作業療法学・精神障害領域の学習	精神障害領域の学習テーマを選定して自己学習し、発表して学生相互の質疑応答と教員による補助的関わりを通して総合的な知識の習得を図る。 事前学習(30分):精神障害領域の学習テーマを選択しておく。 事後学習(30分):学習した精神障害領域の内容をノートにまとめて整理する。				田邊浩文 三川年正 田島明子 OT専任教員
7	作業療法学・発達障害領域の学習	発達障害領域の学習テーマを選定して、それを調べてまとめ発表し、学生相互の質疑応答と教員による補助的関わりを通して総合的な知識の習得を図る。 事前学習(30分):発達障害領域の学習テーマを選択しておく。 事後学習(30分):学習した発達障害領域の内容をノートにまとめて整理する。				田邊浩文 三川年正 田島明子 OT専任教員
8	総合的作業療法学習	これまで学んだすべての分野の学習理解を模擬試験の実践を通じて確認し、理解不十分な領域について再学習する。 事前学習(120分):模擬試験の範囲に関する事前学習をしておく。 事後学習(120分):模擬試験の採点をして不正解問題について再学習する。				田邊浩文 三川年正 田島明子 OT専任教員

評価	筆記試験にて判定する。模擬試験の結果も参考とする。
課題に対する フィードバックの方法	適宜、教員による補習講義を開講するので参加すること。また、国家試験に関連する業者模試およびオリジナル模試を定期的に実施するので必ず受験すること。模擬試験の結果をもとに自己学習の方法や方向性についてのアドバイスや指導を教員から行います。
教科書	理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 障害別OT治療学2024 医歯薬出版(未刊にてISBN未定) 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 基礎OT学2024 医歯薬出版(未刊にてISBN未定)
参考図書など	国家試験対策関連の各種参考書
アクティブ・ラーニング	【ディスカッションとグループワーク】各学修領域ごとに学生主体となり学ぶ。
実務経験のある 教員による授業	身体障害領域の作業療法臨床経験を活かして、作業療法の実地問題に関する基本的な知識と手法についての考え方について講義する。
留意事項	卒業に向けての最終授業です。主体的に参加してください。

IV 専門基礎科目

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
地域作業療法学Ⅰ(総論) Community based OT	必修	講義	1単位 (30時間)	3年前期	久保田 清子	○
ナンバリングコード	HOTF1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
地域作業療法学						
授業概要	地域の捉え方、地域におけるリハビリテーション及び作業療法と背景にある理念を学ぶ。また、地域作業療法に関わる社会保障制度の歴史的変遷と現行制度の概要、地域作業療法の対象と評価及び支援内容に関する入門的な内容を学ぶ。地域での実践にあたっては、多職種連携・協働が非常に重要であり、保健医療職に留まらず副指職と協働する他職種チームにおいて作業療法士に求められる役割を理解する。					
到達目標	1)地域とはなにか、検討した結果を説明できる。 2)地域生活継続のための要件が説明できる。 3)地域リハとその背景にある基本理念を自分のことばで表現できる。 4)地域作業療法の対象と地域での多職種連携における作業療法士の役割・機能が説明できる。 5)提出期限やルールを守ることができる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)				担当教員
1	オリエンテーション 地域・地域社会	地域の定義、圏域、地域社会の構成要素、地域生活を継続する要件(得た知識を踏まえ、自らを地域の構成員として見つめ直す) 事前学習(30分):「地域」とはなにか、自分なりの考えをまとめ、授業に臨む 事後学習(45分):学んだ内容をふり返り、学習ポイントを確認する。①の第1章に目を通す				久保田 清子
2	地域リハビリテーション (復習・確認を含む)	地域リハの定義や地域リハに関する基礎知識の確認 関連する理念の復習・確認(ノーマライゼーション、IL運動、エンパワメント、アドボケイト、インクルージョン、ケア・ケースマネジメント、チームマネジメント、介入プラン、地域包括ケアシステム) 事前学習(30分):隣接科目で学んだ地域リハと関連の深い用語とその意味を復習する 事後学習(45分):学んだ内容をふり返り、学習ポイントを確認する。①の第1章に目を通す				久保田 清子
3	社会保障制度:主に精神科領域 (復習・確認を含む)	各種制度の目的・対象・具体的な内容 (精神障害者・精神疾患を有する者への社会復帰施設対策、地域対策) 事前学習(30分):隣接科目で学んだ地域リハと関連の深い用語とその意味を復習する 事後学習(30分):②の障害者・児サービスの「しごと」の章に目を通し、施設・制度を復習する				久保田 清子
4	社会保障制度:主に高齢者 (復習・確認を含む)	各種制度の目的・対象・具体的な内容(高齢者への施策:介護保険制度・認知症施策、権利擁護制度) 事前学習(30分):隣接科目で学んだ地域リハと関連の深い用語とその意味を復習する 事後学習(30分):①の第2章「介護保険制度」、②の「介護保険」に対応する頁に目を通す				久保田 清子
5	社会保障制度:主に障害者 (復習・確認を含む)	各種制度の目的・対象・具体的な内容(障害者への施策:障害者総合支援法、障害者差別解消法) 事前学習(30分):隣接科目で学んだ地域リハと関連の深い用語とその意味を復習する 事後学習(45分):①の第2章「障害者総合支援法」、②の障害者総合支援法、障害者差別解消法、障害者虐待防止法の章に目を通す				久保田 清子
6	障害者の職業関連活動と就労支援	各種制度の目的・対象・具体的な内容(障害者への施策:障害者雇用率制度、就労支援施設・サービス、差別解消法・合理的配慮) 事前学習(30分):「障害者総合支援法」の内容を確認する 事後学習(30分):①の第6章「地域作業療法の実際。2 就労支援としての作業療法」に目を通す。 ②の障害者・児サービスの「しごと」の章に目を通し、施設・制度を復習する				久保田 清子
7	地域作業療法の基礎と実践 (訪問系:乳幼児期～高齢期)	訪問系作業療法の評価と介入 事前学習(30分):①の第6章「地域作業療法の実際。1 訪問系作業療法」に目を通す 事後学習(15分):②のこどもが利用するサービスの居宅訪問型児童発達支援の内容を確認する				久保田 清子
8	地域作業療法の基礎と実践 (通所系・学校:乳幼児期～学齢期)	特別支援教育、児童福祉法と児童虐待 事前学習(30分):①の第6章「地域作業療法の実際。3 学校および保育所等訪問支援における作業療法」に目を通す。 事後学習(30分):②の子どもが利用するサービスの児童発達支援、放課後等デイサービス等の内容を確認する				久保田 清子
9	地域作業療法の基礎と実践 (高齢期の介護予防)	介護予防・ヘルスプロモーション、フレイル・サルコペニアと転倒、認知症とその予防 事前学習(45分):新オレンジプランの概要を確認する 事後学習(30分):①の第7章に目を通す				久保田 清子

10	終末期の地域作業療法と ライフステージに応じた地域支援	終末期のリハとこれまでの内容の総ざらい 事前学習(60分):①の第6章「地域作業療法の実際。4 終末期における療法」に目を通す。 第1～9回の学習ポイントを確認する 事後学習(60分):理解が不十分な部分を把握し、補う	久保田 清子
11	地域の防災・災害支援	地域の防災と災害支援、障害者・高齢者の避難 事前学習(30分):①の第8・9章に目を通す 事後学習(180分):設定された課題に取り組む	久保田 清子
12	行政の療法士 国際リハビリテーション	行政における療法士の役割、国境を越えたりハ活動 事前学習(120分):他OTS向け解説資料の作成とプレゼンテーションの準備をする。 事後学習(30分):他OTSの報告内容を振り返る	久保田 清子
13	福祉用具	福祉用具の種別に応じた支援情報整理 事前学習(30分):テクノエイド協会HPの福祉用具の内容・種類を確認する。 事後学習(30分):オリジナル自助具について検討する。	久保田 清子
14	就労とキャリア形成・発達	働くということとキャリア形成・キャリア発達【ペア&グループ・ワーク】 事前学習(60分):配布資料を読み、キャリアアンカー・キャリアサバイバル等について考える 事後学習(30分)授業内容をふり返し、学習ポイントを確認する	久保田 清子
15	振り返りとまとめ	確認/総ざらい 事前学習(30分):復習する。 事後学習(30分):各種用具の特徴を復習する。	久保田 清子

評価	指定課題:25%、小テスト:25%、筆記試験:50%
課題に対する フィードバックの方法	授業時間内及び個別コメントにて伝達する。
教科書	①地域リハビリテーション学 第2版 羊土社 2019 ISBN:978-4-7581-0238-4 ②医療福祉総合ガイドブック2024年度版 医学書院
参考図書など	地域包括リハビリテーション実践マニュアル 羊土社 2018 ISBN:978-4-7581-0229-2 作業療法士プロフェッショナル・ガイド 文光堂 2013 ISBN:9784830643996
アクティブ・ラーニング	各授業の後半に、学生間での学習ポイントの確認・情報や意見交換を行う時間を設ける。 福祉用具に関するフィールドワークを行う。
実務経験のある 教員による授業	身体障害者に関する専門的相談・判定、補装具・自立支援医療(更生医療)に関する相談および要否・適合判定、介護保険における通所系・訪問系リハビリテーションサービスの提供、等の経験を活かした内容を提供する。
留意事項	オリエンテーションで詳細を伝達する。 国試対策に関連する内容は法制度中心の重く固い内容となるが、諦めず投げ出さずに取り組むことを期待する。 事前・事後学習の具体的な指示はmanabaで行うので、忘れず確認すること。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
地域作業療法学Ⅱ(老年期障害) Community based OT Ⅱ	必修	講義	1単位 (30時間)	3年前期	田島明子、久保田清子	○
ナンバリングコード	HOTF1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。					
地域作業療法学						
授業概要	高齢期の地域作業療法について具体的に学習する。高齢の方の地域生活自立を目指して、(一部健康高齢者含む)高齢障害者の地域支援のあり方やケア・ケースマネジメントのあり方について理解する。また、身近な地域に焦点をあてた特定テーマの演習に取り組み、地域生活者である学生自身の視点も交えて高齢期地域作業療法法の望ましい姿を考える。一連の検討の中で、医療職の立場から他職種協働でどのような課題があるかも検討する。さらに、在宅生活支援のための福祉機器の適用と関連法規、住環境整備を理解する。					
到達目標	1)わが国における高齢化の状況と、高齢者の法制度について理解する。 2)疾病や障害の予防的意義とリハビリテーション・作業療法の展開を理解できる。 3)地域包括システムのなかで作業療法士に期待される役割と実践を理解できる。 4)高齢期地域作業療法法の事例について作業療法の流れをグループワークを通して構築できる。 5)高齢期地域作業療法で用いられる様々な実践方法を理解し、活用できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)				担当教員
1	地域リハビリテーション・作業療法について	地域リハビリテーション・作業療法の概略を理解する。 事前学習(20分):教科書・配付資料等の該当箇所を事前に読む 事後学習(30分):配付資料等、授業全般について復習する				田島 明子
2	高齢期の法・制度と介護保険の仕組み	高齢期の法・制度と介護保険の仕組みを理解する。 事前学習(20分):教科書・配付資料等の該当箇所を事前に読む 事後学習(30分):配付資料等、授業全般について復習する				田島 明子
3	地域包括ケアシステムとリハビリテーション・作業療法	地域包括システムとそれに関連する高齢期のリハビリテーション・作業療法を理解する。 事前学習(20分):教科書・配付資料等の該当箇所を事前に読む 事後学習(30分):配付資料等、授業全般について復習する				田島 明子
4	疾病や障害の予防とリハビリテーション・作業療法	高齢期地域作業療法に関連して、健康生成論やヘルスプロモーションの視点を理解する。 事前学習(20分):教科書・配付資料等の該当箇所を事前に読む 事後学習(30分):配付資料等、授業全般について復習する				田島 明子
5	事例検討(1)	1~4回の授業を踏まえ、実際の事例についてグループ学習を通して主体的に学ぶ。 事前学習(20分):教科書・配付資料等の該当箇所を事前に読む 事後学習(30分):配付資料等、授業全般について復習する				田島 明子
6	高齢期の通所系・訪問系サービスとリハ(介護保険下の通所介護、通所リハ、訪問リハ)	介護保険下での各種リハサービスとそこでのリハ職の役割、他職種との連携、地域連携クリティカルパス) 事前学習(20分):介護保険の各種リハサービスについて、テキストの内容を確認する→小テスト 事後学習(15分):各種リハサービスの特徴やOTの役割・他職種との連携を復習する				久保田 清子
7	高齢期の通所・訪問系リハサービスの紹介(グループでの演習)	通所・訪問系リハでの高齢者への車いす・シーティングの検討【グループでの学内演習】 事前学習(20分):介護保険下でのリハについて、テキストの内容を確認する→小テスト 事後学習(15分):高齢者への車いす・シーティングについて復習する				久保田 清子
8	地域リハビリテーションと評価	地域リハビリテーションで用いられる評価法を学ぶ。 事前学習(20分):教科書・配付資料等の該当箇所を事前に読む 事後学習(30分):配付資料等、授業全般について復習する				田島 明子
9	地域リハビリテーションと評価	地域リハビリテーションで用いられる評価法を学ぶ。 事前学習(20分):教科書・配付資料等の該当箇所を事前に読む 事後学習(30分):配付資料等、授業全般について復習する				田島 明子
10	高齢者における予防と生活支援、住まいの支援と住環境整備	一次予防から三次予防と留意点、教育面(生涯学習含む)、職業・仕事面、地域・仲間関係、家庭・住居面、社会的側面・地域の環境面で考える 事前学習(60分):加齢に伴う多種多様な心身機能の変化と高齢期に多い疾患と症状の確認する 事後学習(30分):国家試験で出題された内容と適切な回答とその理由を確認する				久保田 清子
11	標準型車いすと住環境整備(グループでの演習)	標準型車いすに対応した住環境整備【グループでの学内演習】 事前学習(30分):標準型車いすのサイズや回転半径、傾斜等を調べる 事後学習(30分):事後学習国家試験で出題された内容と適切な回答とその理由を確認する				久保田 清子

12	高齢者の自動車運転	道路交通法と高齢障害者の自動車運転 事前学習(30分): 高齢者の自動車運転に関する道路交通法の内容確認、時事問題を確認する 事後学習(30分): 国家試験で出題された内容と適切な回答とその理由を確認する	久保田 清子
13	高齢期が利用できる住まいに関する各種制度・サービス 自助具	加齢に伴う心身機能の変化と住環境整備、住環境整備の流れ、福祉用具と各種社会保障制度 日常生活障害に対する自助具 事前学習(30分): 日常生活支援論で学んだ内容を確認する 事後学習(30分): 国家試験で出題された内容と適切な回答とその理由を確認する	久保田 清子
14	高齢者の地域活動、防災	住民参加型の地域づくり活動、防災と予防リハ、対象とリハ専門職の役割、留意点 事前学習(20分): 介護保険の訪問リハビリテーションについて、テキストの内容を確認する 事後学習(15分): 訪問リハの特徴やセラピストの役割をテキストで復習する	久保田 清子
15	地域生活支援 (グループディスカッション)	全体をふり返り、高齢者の地域生活支援における留意点の検討 事前学習(30分): 1~14回分の総ざらいをし、重要な点や留意点を確認する 事後学習(30分): 全体のふり返りを行う	久保田 清子

評価	田島分: 提出課題30%、筆記試験20% 久保田分: 筆記試験35%、課題15%
課題に対する フィードバックの方法	田島分: 講義中に課題の取り組み内容についてフィードバックする。 久保田分: 集団での課題は全体に向けて授業時間中及びmanabaで、個別課題は提出物等に直接、批評やコメント等を行う。
教科書	生活環境学テキスト 改定第2版 南江堂 2020 ISBN:978-4-524-22702-0(第7、11、13回) 地域リハビリテーション学 第2版 羊土社 2019 ISBN:978-4-7581-0238-4(第10、11、13、14回)
参考図書など	OT・PTのための住環境整備論 第3版 三輪書店 2021 ISBN:978-4-89590-731-6 ライフステージから学ぶ地域包括リハビリテーション実践マニュアル 羊土社 2018 ISBN:978-4-7581-0229-2(第6、10回) 地域作業療法学 改訂第2版 メジカルビュー社 2023 ISBN:978-4-7583-2049-8(第7、14回) 生活環境学 メジカルビュー社 2023 ISBN:978-4-7583-2098-6(第12回) 日本作業療法士協会HP『地域社会振興部地域事業支援課【運転と地域移動推進班】』 <a href="https://www.jaot.or.jp/seikatukankyou/driving-committee/">https://www.jaot.or.jp/seikatukankyou/driving-committee/</a> (第12回) 日本作業療法士協会HP『災害対策』 <a href="https://www.jaot.or.jp/disaster_prevention/saigai/">https://www.jaot.or.jp/disaster_prevention/saigai/</a> (第14回)
アクティブ・ラーニング	グループワークやディスカッション等に取り組むことで、学生同士コミュニケーションを構築し主体的に学ぶ。
実務経験のある 教員による授業	通所系と訪問系リハへの従事経験や、介護保険制度を使った住宅改修や福祉用具の活用の実践経験を活かした授業展開を行う。
留意事項	グループ学習に積極的に参加すること。他のメンバーに影響がでるため、遅刻や欠席をしないように心がけること。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
地域作業療法学Ⅲ(精神障害) Occupational Therapy for local Area Ⅲ (Psychiatric Disorder)	必修	演習	1単位 (30時間)	3年後期	三川 年正	○
ナンバリングコード	HOTF1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
地域作業療法学						
授業概要	精神科領域における地域リハビリテーションを学び、他職種との連携、作業療法の役割を理解する。 地域生活支援を行うにあたっての法制度や環境整備を理解し、作業療法士としての支援を学ぶ。					
到達目標	1)精神科領域の地域リハビリテーションの基本的な考え方を説明できる。 2)精神科領域の関連法規、社会資源を説明できる。 3)地域の社会資源について説明できる。 4)地域の精神障害を取り巻く状況について説明できる。 5)実際の地域における生活支援について説明できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)			担当教員	
1	精神科領域における地域生活支援の基礎	精神科領域の地域生活支援の基礎を理解する。 事前学習(30分): 参考図書①P201~P221の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 参考図書、配布資料を基に授業全体について復習する。			三川 年正	
2	精神科領域における地域生活支援の実践	精神科領域の地域生活支援の実際を理解する。 事前学習(30分): 参考図書①P217-P221の該当箇所を読んでくる。 事後学習(30分): 参考図書、配布資料を基に授業全体について復習する。			三川 年正	
3	自身の地域の精神科医療の調査	自身の地域の精神科医療について調査する。 事前学習(30分): 自分の住む街の精神科医療の調査をする。 事後学習(60分): 発表資料の作成、練習。			三川 年正	
4	自身の地域の制度の調査	自身の地域の制度について調査する。 事前学習(30分): 自分の住む街の精神科医療の調査をする。 事後学習(60分): 発表資料の作成、練習。			三川 年正	
5	自身の地域の社会資源の調査	自身の地域の社会資源について調査する。 事前学習(30分): 自分の住む街の精神科医療の調査をする。 事後学習(60分): 発表資料の作成、練習。			三川 年正	
6	自身の地域の精神障害者について調査	自身の地域の精神障害者について調査する。 事前学習(30分): 自分の住む街の精神障害者について調査をする。 事後学習(60分): 発表資料の作成、練習。			三川 年正	
7	就労支援について調査	自身の地域の就労支援について調査する。 事前学習(30分): 自分の住む街の就労支援について調査をする。 事後学習(60分): 発表資料の作成、練習。			三川 年正	
8	生活支援について調査	自身の地域の生活支援について調査する。 事前学習(30分): 自分の住む街の生活支援について調査をする。 事後学習(60分): 発表資料の作成、練習。			三川 年正	
9	自身の地域の精神科医療について、発表と聴講、質疑応答	自身の地域の精神科医療について、発表と聴講、質疑応答する。 事前学習(30分): 発表資料を作成する。 事後学習(60分): 発表後に資料の修正を行う。			三川 年正	
10	自身の地域の制度について、発表と聴講、質疑応答	自身の地域の制度について、発表と聴講、質疑応答する。 事前学習(30分): 発表資料を作成する。 事後学習(60分): 発表後に資料の修正を行う。			三川 年正	
11	自身の地域の社会資源について、発表と聴講、質疑応答	自身の地域の社会資源について、発表と聴講、質疑応答する。 事前学習(30分): 発表資料を作成する。 事後学習(60分): 発表後に資料の修正を行う。			三川 年正	

12	自身の地域の社会資源について、発表と聴講、質疑応答	自身の地域の社会資源について、発表と聴講、質疑応答する。 事前学習(30分): 発表資料を作成する。 事後学習(60分): 発表後に資料の修正を行う。	三川 年正
13	精神障害者数の就労支援について、発表と聴講、質疑応答	精神障害者の就労支援について、発表と聴講、質疑応答する。 事前学習(30分): 発表資料を作成する。 事後学習(60分): 発表後に資料の修正を行う。	三川 年正
14	精神障害者数の生活支援について、発表と聴講、質疑応答	精神障害者の生活支援について、発表と聴講、質疑応答する。 事前学習(30分): 発表資料を作成する。 事後学習(60分): 発表後に資料の修正を行う。	三川 年正
15	精神障害者の支援 総括	講義の課題について講評する。 事前学習(30分): 発表資料を作成する。 事後学習(60分): 資料の修正を行う。	三川 年正

評価	課題60%、発表20%、提出20%
課題に対するフィードバックの方法	発表後とオフィスアワーを活用してフィードバックを行う。
教科書	精神障害と作業療法 新版 ISBN:978-4-89590-583-1
参考図書など	「作業療法概論」(改訂第3版 2011)日本作業療法士協会監修 協同医書出版 ISBN:978-4-7639-2118-5
アクティブ・ラーニング	課題発表を通して、ディスカッションを行う。
実務経験のある教員による授業	精神科作業療法士としての臨床経験と研究活動を活かして実践的な講義を行う。
留意事項	課題の未提出、提出の遅延は大幅な減点となるので、留意すること。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
地域作業療法学Ⅳ(身体障害・発達障害) Community based OT Ⅳ (Physical Disability・Developmental Disability)	必修	演習	1単位 (30時間)	3年後期	久保田 清子、作業療法学専攻教員	○
ナンバリングコード	HOTF1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。					
地域作業療法学						
授業概要	小児期から成人期の身体障害と発達障害に対する、各病期・領域別の地域作業療法について学習する。ライフステージに応じた生活者としての当事者の立場を踏まえた地域支援のあり方、よりよい地域生活を送るために、他職種との協働についてマネジメントなどの視点や、どの様な課題があるかを演習を通して理解する。					
到達目標	各種身体障害に応じた福祉用具について理解できる。 建築に関する初歩的な知識を得る。 対象者に合わせた住環境整備と作業療法士の役割が説明できる。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習(予習・復習・課題等)			担当教員	
1	身体障害者に対する福祉用具① 【グループ学習】	国際福祉機器展に参加し、各種福祉用具を実際に見て触れて体験し士会を深める 事前学習(90分):テクノエイド協会のホームページ等で、事前知識を得る 事後学習(0分):なし			久保田 清子	
2	身体障害者に対する福祉用具② 【グループ学習】	国際福祉機器展に参加し、各種セミナーを聴講し、各種福祉用具について学ぶ 事前学習(0分):なし 事後学習(45分):グループ学習で持ち寄った知識を整理する			久保田 清子	
3	身体障害者に対する福祉用具③ 【グループ学習】	テーマごとに、班別に演習(国際福祉機器展で得た内容のまとめ、伝達資料作成) 事前学習(30分):提示された課題に取り組む 事後学習(60分):授業内容をふり返り、学習ポイントを他学生に伝達できるように確認・準備する			久保田 清子	
4	身体障害者に対する福祉用具④ 【グループ学習】	学習テーマの内容ごとに相互伝達(第3回の内容を他の班員に伝達し、各自が得た知識・情報を共有・理解する) 事前学習(60分):配布資料に目を通し、疑問点を整理しておく 事後学習(30分):グループ学習で持ち寄った知識を振り返り、理解を深める			久保田 清子	
5	身体障害領域における 住環境整備(建築の基礎知識) 場所別の住環境整備の基本と環境整備に関わる法制度	建築に関する超入門の基礎知識、段差・スペース・床材、手すり・建具に関する基礎知識と住環境整備の基本、生活環境整備に関連する諸制度、介護保険制度、障害者福祉施策と総合支援法 事前学習(60分):配布資料に目を通し、建築用語を理解する障害者総合支援法と介護保険等の福祉用具の種目・対象等を確認する 事後学習(30分):授業内容をふり返り、学習ポイントを確認する			久保田 清子	
6	疾患・障害別の住環境整備① 情報収集・整理【グループ学習】	疾患・障害別(脳血管障害、脊髄損傷、神経変性疾患等)の環境整備 事前学習(30分):担当疾患・障害に関するADL状況や代表的な環境整備について確認する 事後学習(30分):授業内容をふり返り、学習ポイントを確認する			久保田 清子	
7	疾患・障害別の住環境整備② 収集した情報のまとめと資料作成 【グループ学習】	担当の疾患・障害に関する環境整備についてまとめ、他学生に伝達するための資料を作成する 事前学習(30分):主な障害を確認する 事後学習(30分):授業内容をふり返り、学習ポイントを確認する			久保田 清子	
8	疾患・障害別の住環境整備③ 作成資料をもちいた伝達【グループ学習】	第7回で作成した資料を用い、得られた知識を他学生に伝達する 事前学習(60分):他学生が理解しやすい伝達内容・方法について考え準備する 事後学習(30分):授業内容をふり返り、学習ポイントを確認する			久保田 清子	
9	発達障害児・者の生活を支援する 作業療法:支援の枠組み	発達障害に関わる支援の制度設計について理解する 事前学習(30分):発達障害支援の制度設計について検索等を行う 事後学習(30分):授業で学んだことを復習する			作業療法学 専攻教員	
10	発達障害児・者の生活を支援する 作業療法:児童福祉	発達障害と児童福祉、作業療法の関係を理解する 事前学習(30分):児童福祉法の理念や法体系について検索等を行う 事後学習(30分):授業で学んだことを復習する			作業療法学 専攻教員	
11	発達障害児・者の生活を支援する 作業療法:特別支援教育	発達障害と特別支援教育、作業療法の関係を理解する 事前学習(30分):特別支援教育の制度設計について検索等を行う 事後学習(30分):授業で学んだことを復習する			作業療法学 専攻教員	

12	発達障害児・者の生活を支援する 作業療法:発達障害者支援法	発達障害者支援法と作業療法の関係を理解する 事前学習(30分):発達障害者支援法の理念や法体系について検索等を行う 事後学習(30分):授業で学んだことを復習する	作業療法学 専攻教員
13	発達障害児・者の生活を支援する 作業療法:ライフステージごとの支援	発達障害児・者の生活について、就学前から就学・就労などライフステージごとの支援について、理解する 事前学習(30分):就学や就労に関するライフステージごとの支援について検索等を行う 事後学習(30分):授業で学んだことを復習する	作業療法学 専攻教員
14	発達障害児・者の生活を支援する 作業療法:ライフステージごとの支援(グループワーク)	発達障害児・者の生活について、就学前から就学・就労などライフステージごとの支援について、模擬症例を用いてグループで検討する 事前学習(30分):グループワークで扱うテーマについて検討し基礎資料について検索等を行う 事後学習(60分):発表資料の準備を行う	作業療法学 専攻教員
15	発達障害児・者の生活を支援する 作業療法:ライフステージごとの支援(発表)	発達障害児・者の生活について、就学前から就学・就労などライフステージごとの支援について、グループで発表を行う 事前学習(60分):発表資料作成などの準備を行う 事後学習:発表内容等授業の復習を行う	作業療法学 専攻教員

評価	久保田分:演習課題20%、筆記試験30%、 担当教員分:演習課題及び発表(教員による評価30%、学生による相互評価20%)
課題に対する フィードバックの方法	久保田分:演習課題は実施後の授業中にコメントを交え、フィードバックを行う。 担当教員分:課題は授業内で講評を伝え、試験結果の講評は掲示等を行うほか必要に応じて個別にも伝える。
教科書	久保田分:生活環境学テキスト 改定第2版 南江堂 2020 ISBN:978-4-524-22702-0 (第1~8回) 医療福祉総合ガイドブック2024年度版(第1~8回) 担当教員分:イラストでわかる発達障害の作業療法/上杉雅之監修 辛島千恵子編集/第1版/医歯薬出版/2016/ISBN:978-4-263-21717-7 標準作業療法学 専門分野 発達過程作業療法学 第3版/加藤寿宏編集/医学書院/2020/ISBN:978-4-260-04082-2
参考図書など	久保田分:OT・PTのための住環境整備論 第3版 三輪書店 2021 ISBN:978-4-89590-731-6
アクティブ・ラーニング	福祉用具に関するフィールドワークを行う。 ペア&グループ・ワークを通して、主体的に課題に取り組む機会を持つ。
実務経験のある 教員による授業	久保田分:障害者の住宅改修・改造の実践経験を踏まえ、疾患・障害別、場所別の環境調整ポイントを伝える。身障者の(原職復帰、配置転換等の)復職支援や再就職に向けた支援の経験を踏まえ、事例を交えた授業を行う。 担当教員分:発達障害領域での作業療法経験を活かし、発達障害児・者が社会生活を営む上での困り事やそれらへの支援体制について授業を行う。
留意事項	グループ学習を行うため、他者に迷惑を掛けないように遅刻・欠席に注意しましょう。他科目で使った資料も持ち寄り、知識・情報の整理に活用しましょう。 発達障害領域に関しては、同時期に開講する発達障害作業療法学(各論)と密接に関連した内容と授業進行になります。

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
見学実習(作業療法) Tour Training	必修	実験・実習	1単位 (45時間)	1年後期	三川 年正、岡本 絵里加 作業療法学専攻教員	○
ナンバリングコード	HOTG1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。					
臨床実習	DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
授業概要	作業療法士の行う治療や支援の内容を理解するとともに、施設の概要、作業療法(士)と他職種との連携について理解する。実習前に記録の方法や接遇などのオリエンテーション、実習後には実習報告会を行い2年次の授業に活用できるようにする。実習期間中は、実習時間外に行う学修として、1時間程度の記録・準備を行う。					
到達目標	1)社会人・専門職としての責任と品位・節度のある基本的態度を身につけることができる。 2)対象者らの立場を理解し、彼らと適切な距離を持った態度と行動を身につけるための経験ができる。 3)対象者らの生活機能と障害についての理解を深めることができる。 4)実習施設におけるリハビリテーション部門や作業療法部門の業務、役割・機能を知る。 5)実習施設の概要を把握すると共に、地域における当該施設や作業療法部門の役割・機能を知る。 6)セミナー発表会(説明会)での討議やグループワークに積極的に参加し、他者の経験を理解できる。 7)見学実習を通じた経験を元に、今後の自己の学習課題を具体的に示すことができる。					
授業の 進め方	実習ガイダンス	「臨床実習 実習要綱」に沿って、臨床実習の目的や方法、実践現場に臨むための心構えや注意点などを確認する。				
	見学実習(1週間)	以下の内容を、各施設の状況に合わせて実践を通して学ぶ。 1. 施設オリエンテーション(施設概要説明リハビリテーション部門、OT部門、実習中のルール、他) 2. 実習施設の見学、リハ部門・OT部門の見学、関連部署・病棟等の見学・他職種との連携状況等の見学・講義、他 3. 実践現場における実習生としての基本的態度・行動の実践・修得				
	実習報告会	各学生が経験・理解した内容を持ち寄り、実習施設の概要や実習内容および経験についてグループ討議を通して要点をまとめ発表する。				
評価	全日程の4/5以上に出席することで単位認定の資格を得る。 実習の可否ならびに成績の判定は出席状況、実習課題、実習指導報告書、学内報告会などを基にして専任教員全員による総合的な判断で行う。 詳細は、「臨床実習 実習要綱」にて提示する。					
課題に対する フィードバックの方法	実習終了後は全体で行う実習報告会や個別指導時間の中で到達目標全般に沿ったフィードバックを教員から行う。					
教科書	「臨床実習 実習要綱」を配布する。 「作業療法概論」(改訂第3版 2011)日本作業療法士協会監修 協同医書出版 ISBN:978-4-7639-2118-5					
参考図書など	必要に応じて参考資料を別途配布する。					
アクティブ・ラーニング	実習終了後に学内にてディスカッション・グループワーク・プレゼンテーションを実施する。					
実務経験のある 教員による授業	作業療法士として実務にあたった経験を生かし、臨床家に求められる思考、行動などについて講義する。					
留意事項	「臨床実習 実習要綱」に沿って、段階的に伝達する。 感染症の流行等により臨床実習施設での実習が困難となった場合は、学内において代替実習を実施する。 実習前後に行う事前・事後演習に毎回必ず出席すること。					

授業科目の名称	必修・選択の別	授業形態	単位数(時間数)	配当年次	科目担当教員	実務経験のある教員による科目
地域リハビリテーション実習 (作業療法) early exposure program (CBR & CBOT)	必修	実験・実習	1単位 (45時間)	3年前期	西野由希子、作業療法学専攻教員	○
ナンバリングコード	HOTG1	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。					
臨床実習	DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。					

授業概要	通所や訪問リハビリテーション等の地域リハビリテーションの実践現場を見学することにより、地域在住の障害者・高齢者の生活支援や環境支援のあり方、制度的課題等について理解するとともに、地域リハビリテーションにおける作業療法(士)の役割を学ぶ。さらに、各施設における関連職種・部門との連携について、見学を通して学ぶ。					
到達目標	1) 医療専門職を目指す学生としての確に状況判断し、節度のある態度と行動が取れる。 2) 作業療法士が勤務する地域リハビリテーション施設の機能・概要を把握する。 3) 地域リハビリテーション部門や関連職種部門の役割、そこでの作業療法士が果たすべき役割を知る。 4) 地域リハビリテーションにおける多職種連携について知る。 5) 今後の学内学習と「評価実習」に向けた自身の課題を具体的に報告できる。					
授業の進め方	実習ガイダンス	「臨床実習 実習要綱」に沿って、目的や方法、実践現場に臨むための心構えや注意点などを確認する。				
	①学内実習 ②実習報告会	◇事前学習として、実習施設の概要の下調べを行う。 ◇通所や訪問リハ業務について、基礎知識を整理する。 ◇各学生が経験・理解した内容を持ち寄り、実習施設の概要や実習内容および経験についてグループ討議を通して要点をまとめ報告する。				
	地域リハの実践現場での実習	以下の内容を、各施設の状況に合わせて実践を通して学ぶ。 ◇施設概要、地域リハビリテーション部門の概要、OT部門の概要、実習中のルール、他 ◇実習施設見学、地域リハ部門・OT部門の見学、関連部署等の見学 ◇他職種との連携状況等の見学・講義、他 ◇実践現場における実習生としての基本的態度・行動の実践・修得 ◇具体的な地域リハビリテーションの実践状況の理解、その中での作業療法士の役割の理解、他				

評価	・全日程の4/5以上出席することで単位認定の資格を得る。 ・実習指導者は、実習指導報告書によって、実習到達度評価を行う。評価項目は、実習目標に対応したソーシャルスキルに関する項目、作業療法士の業務内容や実習施設の理解に関する項目、記録・報告等とする。実習到達度は判定基準に沿って5段階(優・良・可・不可・保留)で評価される。 ・実習の可否ならびに成績の判定は、出席状況、実習課題、実習指導報告書、学内実習及び学内報告会の評価などを基にして、別途提示する「臨床実習要綱」の基準に沿って専任教員全員でなされる。					
課題に対するフィードバックの方法	学内報告会やポートフォリオ等で、担当教員等から学生ごとにフィードバックを行う。					
教科書	「臨床実習 実習要綱」を配布する。 地域リハビリテーション学 第2版 羊土社 2019 ISBN:978-4-7581-0238-4 ライフステージから学ぶ地域包括リハビリテーション実践マニュアル 羊土社 2018 ISBN:978-4-7581-0229-2					
参考図書など	必要に応じて資料を配付する。					
アクティブ・ラーニング	学内では、ディスカッション・グループワーク・プレゼンテーションを行う。 実践現場では、現場スタッフの実践に臨み、経験を通して学ぶ。					
実務経験のある教員による授業	作業療法士の実務経験をもとに、助言等を行う。					
留意事項	「臨床実習 実習要綱」にそって、段階的に指導する。 ※内容の変更の可能性がある。その際には適宜変更内容を伝える。					

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
評価実習 Evaluation training	必修	実験・実習	4単位 (180時間)	3年後期	西野由希子、作業療法学専攻教員	○
ナンバリングコード	HOTG3	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。					
臨床実習	DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
授業概要	実習指導者の指導・監督の下、対象者に応じた情報の収集、評価法の選択、検査・測定の実施、結果の記録、統合と解釈、課題の抽出、初歩的な作業療法プログラムの作成までの一連の作業療法評価過程を体験する。 学生に対する実習前の評価は、実習生の技術等に関して実技試験などを行い、総合的知識及び基本的技能・態度を備えていることを確認する。実習後の評価は、経験した事例の報告を中心に、一連の作業療法評価過程の理解が得られたか確認する。 実習期間中は、実習時間外に行う学修として、1時間程度の記録・準備を行う。					
到達目標	1. 医療専門職を目指す学生としての的確に状況判断し、節度のある態度と行動が取れる。 2. 臨床実習指導者の助言・指導の下、対象者に応じた評価計画を立て、評価を一部実施する事ができる(必要な情報収集・面接・観察・検査測定を選択すると共にその理由を説明する)。 3. 臨床実習指導者の助言指導の下、得られた評価結果を解釈し、まとめる経験をする。 4. 臨床実習指導者の助言指導の下、初歩的な作業療法計画(長期・短期目標の設定、訓練・指導・援助の計画)の立案を経験し、評価から作業療法計画立案までの思考過程を理解する。 5. 作業療法の基本的な記録・報告をする。					
授業の進め方	実習ガイダンス	「臨床実習 実習要綱」に沿って、目的や方法、実践現場に臨むための心構えや注意点などを確認する。				
	①学内実習 ②実習報告会	①事前学習として、臨床医学、作業療法評価学、作業治療学で修得した知識を整理する。 ②各学生が経験・理解した内容を持ち寄り、実習内容および経験について特に特定の事例報告を中心に要点をまとめ共有し、他学生の発表やグループ討論を通して理解を深める。				
	評価実習の実践現場での実習	以下の内容を、臨床実習指導者の指導のもと、各施設の状況に合わせて一連の作業療法過程を経験を通して学ぶ。 ◇情報収集、面接、インフォームド・コンセント ◇対象者に応じた評価項目の選択 ◇評価に必要な物品・環境を準備し、必要な評価技術を確認 ◇対象者への実施内容の説明と評価の安全な実施 ◇評価結果の記録 ◇評価結果の整理(肯定的・否定的側面)・焦点化するべき課題の抽出 ◇目標設定(長期目標、短期目標) ◇プログラム立案(目標、方法・手段、頻度) ◇症例報告課題の作成				
評価	・全日程の4/5以上出席することで単位認定の資格を得る。 ・実習指導者は、実習指導報告書によって、実習到達度評価を行う。評価項目は、実習目標に対応したソーシャルスキルに関する項目、評価計画の立案、評価の実施、評価結果の統合と解釈、作業療法計画の立案等とする。実習到達度は判定基準に沿って5段階(優・良・可・不可・保留)で評価される。 ・実習の可否ならびに成績の判定は、出席状況、実習課題、実習指導報告書、学内実習及び学内報告会の評価などを基にして、別途提示する「臨床実習要綱」の基準に沿って専任教員全員でなされる。					
課題に対する フィードバックの方法	学内報告会等で、担当教員等から学生ごとにフィードバックを行う。					
教科書	「臨床実習 実習要綱」を配布する。 才藤栄一(監修)、金田嘉清(編集)、富田昌夫(編集)、他:PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版 [WEB動画付き]、金原出版、2020、ISBN: 978-4307750585 能登真一、山口昇、玉垣努、新宮尚人、加藤寿宏、松房利憲【編】 標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学第3版 医学書院 /ISBN: 978-4260030038 臨床で役立つ徒手筋力検査法 MMTナビ/青木主税、根本悟子、大久保敦子/ラウンドフラット/ISBN: 9784904613399 ベッドサイドの神経の診かた 第18版 : 田崎義昭、南山堂 /ISBN: 978-4-525-24798-0					
参考図書など	必要に応じて資料を配付する。					
アクティブ・ラーニング	学内では、ディスカッション・グループワーク・プレゼンテーションを行う。 実践現場では、現場スタッフの実践に臨み、経験を通して学ぶ。					
実務経験のある 教員による授業	作業療法士の実務経験をもとに、助言等を行う。					
留意事項	「臨床実習 実習要綱」に沿って、段階的に伝達する。 当該科目を履修するためには、3年前期までに配置された専門基礎科目と専門科目をすべて修得済みであり、「作業療法評価学総合演習」を修得見込みであることが必要。 ※内容の変更の可能性はある。その際には適宜変更内容を伝える。					

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
総合臨床実習Ⅰ(作業療法) CLINICAL EDUCATION I (OCCUPATIONAL THERAPY)	必修	実験・実習	8単位 (360時間)	4年前期	田島明子、作業療法学専攻教員	○
ナンバリングコード	HOTG3	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。					
臨床実習	DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
授業概要	3年次までの学びを通じて得た知識、技術、態度を用いて実習指導者の指導・監督の下、診療に参加し、対象者に応じた作業療法評価、目標設定、プログラム立案、治療・介入、効果判定といった一連の実践過程を体験する。この実習を通して、各種疾患の障害像や生活機能を理解するとともに背景因子を考慮した作業療法の実践力を養う。総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ(作業療法)のいずれかにおいて認知症事例への介入を経験し、我が国での包括ケアシステムの現状・課題を理解し、より積極的に認知症高齢者支援の展開ができるよう学習する。 実習前に学生の準備性を把握・確認する目的で、総合的知識及び基本的技能・態度についての実技試験を行う。実習後の評価は、経験した事例を中心に報告会を行い、一連の作業療法過程への理解が得られたかを確認し、総合臨床実習Ⅱでの学修につながる機会とする。 実習期間中は、実習時間外に行う学修として、1時間程度の記録・準備を行う。					
到達目標	1)医療専門職を目指す学生としての確に状況判断し、節度のある態度と行動が取れる 2)対象者の課題解決を図るための基本的な作業療法(評価から作業療法計画の立案、作業療法実施までの一連の過程)を総合的に経験する 3)特定の領域での作業療法の経験を通して、その領域の作業療法の特徴を理解する 4)学生として必要な記録と報告ができる 5)症例の作業療法サマリーの作成を経験する					
授業の進め方	実習前	実践現場で求められる総合的な知識、基本的と態度の習得状況を確認し、自らの課題を明確にすることで、目的意識や具体的な目標を持つ。臨床実習に臨む。				
	第1週～第8週	臨床実習指導者の指導・監督の下、遂行能力に応じ段階的に作業療法のすべての過程を経験し、いくつかの事例を通して総合的に作業療法実践を学ぶ。				
	実習報告会と事後の振り返り	実習で経験した特定の事例報告を中心に、一連の作業療法過程を報告し討議する。報告会で受けた指摘や助言を踏まえ、実習全般の振り返りを行う。そして総合臨床実習Ⅱに向けた自己の課題や学習目標を明確にする。				
評価	全日程の4/5以上に出席することで、単位認定の資格を得ることができる。 実習の可否ならびに成績の判定は、出席状況、実習指導報告書、提出課題などをもとに、専任教員全員による総合的な判断で行う。					
課題に対する フィードバックの方法	実習期間中に教員が実習施設に赴き、適宜必要な助言指導を行う。 実習終了後は全体で行う実習報告会や個別指導を通して個別にフィードバックを教員から行う。					
教科書	理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 専門基礎分野 基礎医学2023 医歯薬出版 9784263270103 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 専門基礎分野 臨床医学2023 医歯薬出版 9784263270110					
参考図書など	これまでに使用した書籍と配布資料等。					
アクティブ・ラーニング	実習指導者の指導援助のもと主体的に学ぶこと。					
実務経験のある 教員による授業	臨床実習指導者の助言・指導に加え、各教員の作業療法士としての実践経験を活かし、臨床実習前から実習後の事後演習まで、実習生の抱える課題に応じた助言や支援を行う。					
留意事項	「臨床実習の手引き」を参考に実習の流れをつかむようにしてください。 当該科目を履修するためには、3年次までのすべての専門基礎科目と専門科目を修得済みであることが必要です。					

授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
総合臨床実習Ⅱ(作業療法) CLINICAL EDUCATION II (OCCUPATIONAL THERAPY)	必修	実験・実習	8単位 (360時間)	4年前期	田島明子、作業療法学専攻教員	○
ナンバリングコード	HOTG3	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
専門科目	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP2)科学的根拠に基づき主体的に行動することにより問題解決に向けて実践することができる。					
臨床実習	DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。 DP5)幅広い教養と高い倫理観をもち、クライアント中心の医療を主体的に提供することにより地域社会に貢献することができる。 DP6)卒業後も自己研鑽に努め、生涯にわたり自らの専門領域を実践し続けることができる。					
授業概要	総合臨床実習Ⅰと異なる領域で、実習指導者の指導・監督の下、診療に参加し、対象者に応じた作業療法評価、目標設定、プログラム立案、治療・介入、効果判定といった一連の実践過程を体験する。この実習を通して、各種疾患の障害像や生活機能を理解するとともに背景因子を考慮した作業療法の実践力を養う。この実習を通して、専門職としての知識や技術をさらに高め、資質の向上を目指し、異なる領域での作業療法の共通性と相違性への理解を深める。 実習前に学生の準備性を把握・確認する目的で、総合的知識及び基本的技能・態度についての実技試験を行う。実習後の評価は、経験した事例を中心に報告会を行い、一連の作業療法過程への理解が得られたかを確認し、卒後につなげる機会とする。 実習期間中は、実習時間外に行う学修として、1時間程度の記録・準備を行う。					
到達目標	1)医療専門職を目指す学生としての確に状況判断し、節度のある態度と行動が取れる 2)対象者の課題解決を図るための基本的な作業療法(評価から作業療法計画の立案、作業療法実施までの一連の過程)を総合的に経験する 3)特定の領域での作業療法の経験を通して、その領域の作業療法の特徴を理解する 4)学生として必要な記録と報告ができる 5)症例の作業療法サマリーの作成を経験する					
授業の進め方	実習前	実践現場で求められる総合的な知識、基本的と態度の習得状況を確認し、自らの課題を明確にすることで、目的意識や具体的な目標を持つ。臨床実習に臨む。				
	第1週～第8週	臨床実習指導者の指導・監督の下、遂行能力に応じ段階的に作業療法のすべての過程を経験し、いくつかの事例を通して総合的に作業療法実践を学ぶ。				
	実習報告会と事後の振り返り	実習で経験した特定の事例報告を中心に、一連の作業療法過程を報告し討議する。報告会で受けた指摘や助言を踏まえ、実習全般の振り返りを行う。そして今後の自己の課題や学習目標を明確にする。				
評価	全日程の4/5以上に出席することで、単位認定の資格を得ることができる。 実習の可否ならびに成績の判定は、出席状況、実習指導報告書、提出課題などをもとに、専任教員全員による総合的な判断で行う。					
課題に対する フィードバックの方法	実習期間中に教員が実習施設に赴き、適宜必要な助言指導を行う。 実習終了後は全体で行う実習報告会や個別指導を通して個別にフィードバックを教員から行う。					
教科書	理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 専門基礎分野 基礎医学2023 医歯薬出版 9784263270103 理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 専門基礎分野 臨床医学2023 医歯薬出版 9784263270110					
参考図書など	これまでに使用した教科書、資料等。					
アクティブ・ラーニング	実習指導者の指導援助のもと主体的に学ぶこと。					
実務経験のある 教員による授業	臨床実習指導者の助言・指導に加え、各教員の作業療法士としての実践経験を活かし、臨床実習前から実習後の事後演習まで、実習生の抱える課題に応じた助言や支援を行う。					
留意事項	「臨床実習の手引き」を参考に実習の流れをつかむようにしてください。 当該科目を履修するためには、3年次までのすべての専門基礎科目と専門科目を修得済みである必要があります。					

## V. 自由科目



授業科目の名称	必修・ 選択の別	授業 形態	単位数 (時間数)	配当 年次	科目担当教員	実務経験の ある教員に よる科目
障がい者スポーツ概論 Introduction to Universal Sports for	—	講義	1単位 (15時間)	2年前期	中尾陽光、下田栄次、土田将之	○
ナンバリングコード	—	オフィスアワー	本科目に関する質問は、授業の前後、昼休み及び別途公開するオフィスアワー一覧表に記載されている時間帯に受け付ける			
授業科目区分	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
—	DP1)看護及びリハビリテーションの専門職として高度な知識と技術を身につけ、実践することができる。 DP3)相手を尊重し、他者とのコミュニケーションを通じて良好な関係を築いて発展させることができる。 DP4)保健・医療・福祉・教育・産業等各界の関連職種と連携し、人々の健康に寄与することができる。					
—						

授業概要	本講義は「初級障がい者スポーツ指導員」資格取得のための必須授業として実施する。 講義内容は障がい者がスポーツを行うことの意義や理念、指導者の資質および現在の我が国における障がい者スポーツへの取り組みや施策等について講義する。また障がい者のある人との交流として、外部での実習を行う。					
到達目標	障がい者にとってのスポーツの意義と理念を理解し、障がい者の指導者に求められる資質について理解する。 障がい者スポーツにおいて、我が国の取り組みや施策について理解する。 障害のある人との交流を通じ、障がい者にとってスポーツの必要性や価値について理解する。					
回	授業項目	授業内容 事前・事後学習（予習・復習・課題等）				担当教員
1	障がい者スポーツ推進の取り組み	地域の障がい者スポーツ振興の現状について学ぶ。 事前学習(30分):教科書の該当部分を予習する。 事後学習(60分):授業内容を振り返り、まとめる。				中尾 陽光
2	障がい者スポーツの意義と理念	障がい者にとってのスポーツの意義と理念を理解する。 事前学習(30分):教科書の該当部分を予習する。 事後学習(60分):授業内容を振り返り、まとめる。				下田 栄次
3	スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質	プレーヤーズファーストの視点からスポーツにおけるインテグリティを理解する。 事前学習(30分):教科書の該当部分を予習する。 事後学習(60分):授業内容を振り返り、まとめる。				下田 栄次
4	障がい者スポーツに関する諸施策	わが国の障害者福祉施策および障がい者スポーツに関する施策について学ぶ。 事前学習(30分):教科書の該当部分を予習する。 事後学習(60分):授業内容を振り返り、まとめる。				土田 将之
5	障がい者スポーツにおける安全管理	障がい者がスポーツを実施する際の安全管理の基本的な項目と内容を学ぶ。 事前学習(30分):教科書の該当部分を予習する。 事後学習(60分):授業内容を振り返り、まとめる。				土田 将之
6	全国障がい者スポーツ大会の概要	全国障がい者スポーツ大会の基本理念・概要や開催の目的・意義について学ぶ。 事前学習(30分):教科書の該当部分を予習する。 事後学習(60分):授業内容を振り返り、まとめる。				中尾 陽光
7	障がいのある人との交流1 (実習)	実習を通して障がい者にとってのスポーツの必要性・意義・価値を学ぶ。 事前学習(30分):実習に向けた準備を行う。 事後学習(60分):実習の感想をレポートにまとめる。				中尾 陽光 下田 栄次 土田 将之
8	障がいのある人との交流2 (実習)	実習を通して障がい者にとってのスポーツの必要性・意義・価値を学ぶ。 事前学習(30分):実習に向けた準備を行う。 事後学習(60分):実習の感想をレポートにまとめる。				中尾 陽光 下田 栄次 土田 将之

評価	授業レポート(100%)<第1～6回の各回最後にレポート提出および第7、8回の実習レポート>
課題に対する フィードバックの方法	授業内に適宜フィードバックをする。
教科書	(公財)日本パラスポーツ協会編(2023):改訂版 障がいのある人のスポーツ指導教本(初級・中級)2020年改訂カリキュラム対応、ぎょうせい。(ISBN:978-4-324-11250-2)
参考図書など	参考図書、参考WEBがあった際は、授業内にて説明をします。
アクティブ・ラーニング	障がいのある方との交流を通じ、障がい者がスポーツを行う意義について議論する。
実務経験のある 教員による授業	講師陣はその専門分野において活動経験が豊富である。
留意事項	障がいのある方との交流(第7、8回)では、学外での実習を行う。 1年次に「障害者スポーツ」および「コミュニケーション論」の単位を取得済みであることを履修条件とする。

